

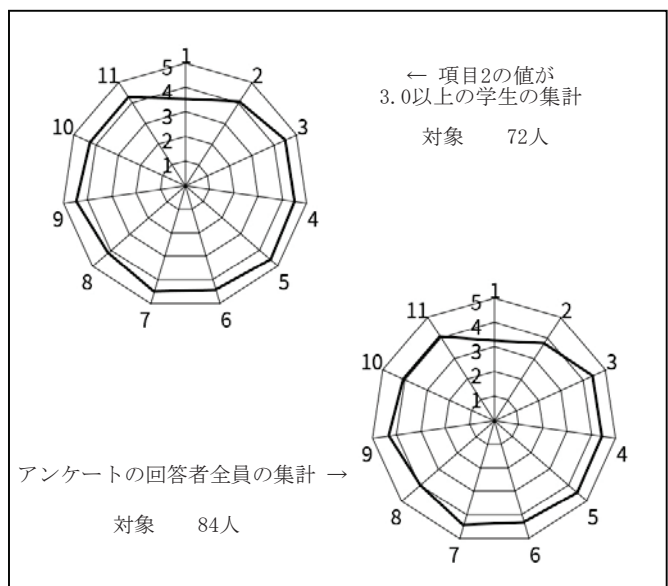
7. 自己点検・評価報告書

(第1クォーター～第4クォーター)

(1) 人文学部	(9) 法務研究科 法務専攻 (専門職学位課程)
(2) 外国語学部	(10) 教職センター
(3) 経済学部	(11) 国際センター
(4) 経営学部	(12) 外国語教育センター
(5) 法学部	(13) 体育教育センター
(6) 総合政策学部	(14) 研究所
(7) 理工学部	(15) 人間文化研究科
(8) 国際教養学部	(16) 共通教育

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[E・J]1
授業コード	10A51-008
教員名	SOUSA, Domingos
教員コード	100753
登録人数	150
回答数	84
回答率	56.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

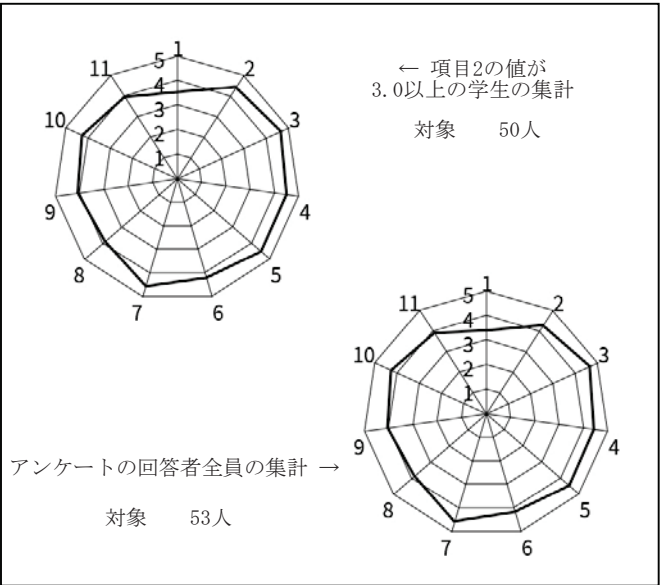
本講義では、キリスト教の原点であるイエス・キリストの人格と思想を学ぶとともに、その背後にある社会、文化、宗教などを解明することを目指している。パワーポイント利用で講義したが、学習の補助のため各項目の内容をまとめるプリント教材を配布し、ビデオ教材も活用した。

講義に対する学生の評価結果は、全体として良好な評価であると思われるが、設問1、8については、評価がやや低かった。自由記述には肯定的な評価として「毎回提出のリアクションペーパーに書かれた質問について答えていただいた」、「ビデオを通して知識を深められた事」、「授業の後半で映像を見て、理解が深まった」、「授業内容に沿って一本の映像資料を見ていくことで、映像資料についても、授業についても理解しやすくなったと感じた」などがあげられる。否定的な評価としては「授業中にうるさい人がいたので、もう少し注意してくれるとありがたかった」、「聖書の内容を説明する時の画面に表示された資料は文字が多くて少し分かりにくかった」というコメントがあった。

来年度には、講義の各項目についてより詳しい講義のレジュメを提供するとともに、関連文献を紹介することにより、主体的学習と学習意欲を向上させる工夫を試みたい。

2025年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[E・J]2
授業コード	10A51-009
教員名	KUCICKI, Janusz
教員コード	101877
登録人数	149
回答数	53
回答率	35.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

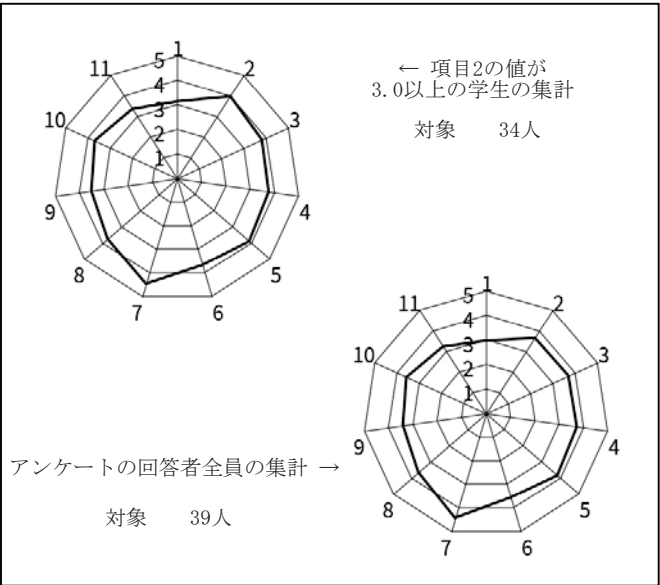
キリスト教入門
2025年 第1四半期

クラスを少人数制に変更したことで、キリスト教入門の授業は2024年に比べてはるかに楽になりました。約150人の生徒を管理することができました。生徒たちは非常に協力的で、不快な思いをすることはありませんでした。生徒たちは課題をきちんとこなしていました。中にはマルコによる福音書や有名なキリスト教徒について興味を持っている生徒もいました。彼らに教えることは本当に良い経験になりました。

レーダーを見ると、生徒たちは授業を肯定的に評価していることがわかります。

2025年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

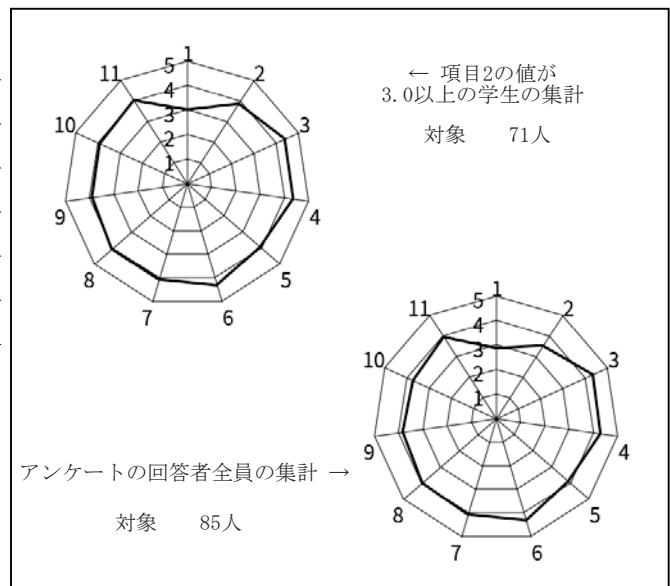
科目名	キリスト教概論[E・J]3
授業コード	10A51-010
教員名	SUSAI, Raj
教員コード	101347
登録人数	114
回答数	39
回答率	34.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[T]1
授業コード 10A51-017
教員名 三好 千春
教員コード 101173
登録人数 98
回答数 85
回答率 86.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

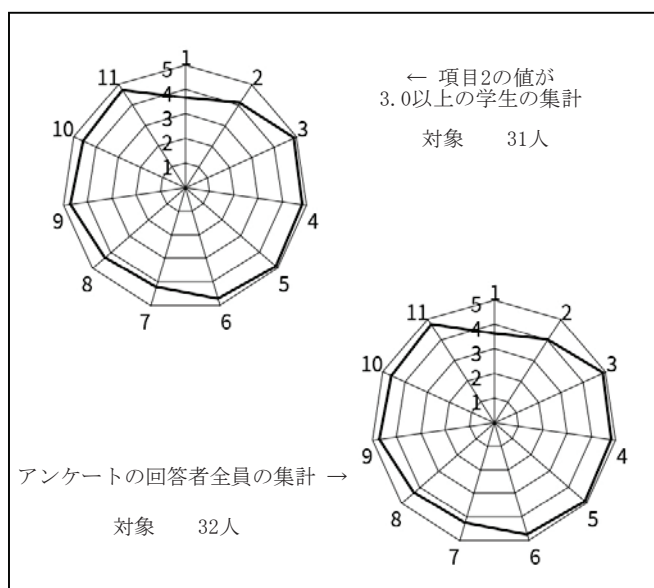
当初の目標として、「1 キリスト教の持つ世界観・人間観を理解できるようになる。2 キリスト教的価値観に基づき現代世界の諸問題を考察する基礎知識を身に着けることができるようになる。3 学習者が多様な宗教的価値観を尊重する姿勢を修得できるようになる。」の3点を掲げていたが、評価項目の「10 この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか。」の点数が最も低いことから、受講生にとっては、講義で取り扱っている内容が、この3つの目標とどう結びついているのか、よく伝わらなかったと思われ、そこが反省点である。

今後はもう少し、具体的な人物の活動なども取り上げながら、1や2の目標に向けて講義内容を練り直す必要があると思う。

自由記述には、講義内で毎回キリスト教音楽を使ったことに対する肯定的意見が多数見られたので、音楽を使うという方向性は維持しつつ、これをもっとキリスト教の価値観などの説明などに、よりつなげて活用するような工夫を行ない、講義内容を改善していこうと考えている。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[B]3
授業コード 10A51-021
教員名 袴田 渉
教員コード 104814
登録人数 43
回答数 32
回答率 74.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

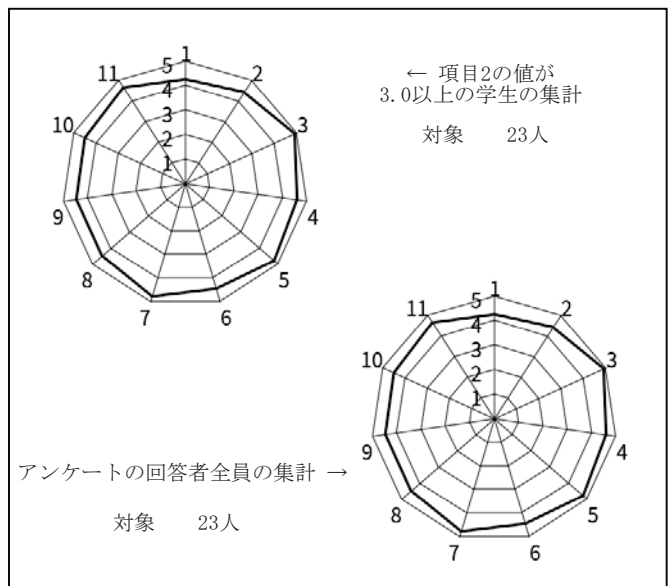


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初は、前年度に引き続き、授業の双方向性を確保し、学生の学習意欲を引き出す授業づくりを目標としていたが、関係する項目3から11について平均値4.67の評価を得ることができ、一応の目標に到達できたと考える。
- ②数値データに関しては、項目1から11の平均値が4.51と全体として高い評価を得、特に項目4（授業構成や進行速度）および6（学生の理解度に配慮した板書や授業資料、視聴覚資料の効果的活用）について高評を得たことが分かった。項目4についての自己評価としては、まず授業で扱う内容の全体像を示した上で、個別の内容に入っていく、授業テーマ全体の中で今どの問題を扱っているのかを把握しやすいよう心掛けた点や、スライド資料と板書のみならず、適切なタイミングで動画資料を視聴して、より深く内容を理解できるよう努めたことが功を奏したと思われる。加えて、自由記述に見られるように、毎回授業終りにリアクションペーパーを配布して学生たちからコメントや質問を集め、次の授業の始めに前回の質問に丁寧に答えるようにした点が評価されており、授業の進行に緩急をつけるこうした取り組みに対して一定の評価を得られたことが分かった。逆に、相対的に評価の低かった項目1（履修前の授業への興味）については、必修科目ということもあり一概には言えないが、シラバスの記載内容において、授業の魅力を十分に伝えられなかったことが一因として考えられる。
- ③次クォーター以降に向けて、改善の必要な上記の項目1については、履修前の学生たちが当該授業に対してより興味を持てるよう、シラバス記載内容に工夫を凝らしたい。また、今回評価された点については、今後も継続して行い、授業内容としてもさらに充実したものにしていけるよう努力を重ねていきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語I<全>2
授業コード 11J09-003
教員名 井上 淳
教員コード 100301
登録人数 39
回答数 23
回答率 59.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標には到達できた。学生からの評価はすべて4以上であり、特に評価が高かったのは、設問3の4.91、設問5と設問7の4.78、設問11の4.65である。ただらとした授業にならぬよう予め作成して講義資料DLサーバーにアップした説明文書に沿って（協道に逸れずに）説明し、練習問題や課題の回答時間を設け、自主学習の時間を多めに設定した点が良い評価を受けたようである。

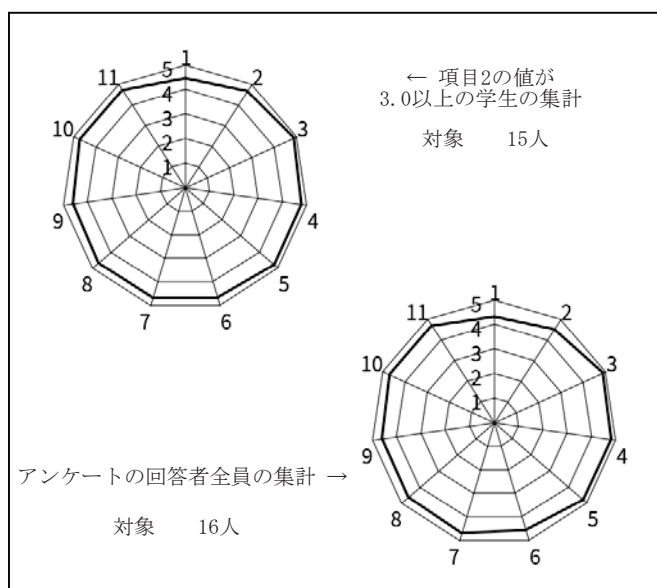
Q1において説明した主な文法事項は次のとおりである。

1. 名詞の5つの変化パターンと5つの格変化（単数と複数）
2. 形容詞の3つの変化パターン（er型を含む）と5つの格変化（男女中性、単数と複数）
3. 規則動詞の4つの変化パターン、現在3人称の単数形と複数形
4. 奪格支配の前置詞、および対格支配の前置詞
5. 属格支配の形容詞、および与格支配の形容詞
6. 名詞と形容詞の関係（性数格の一致）、形容詞の名詞化
7. 繫辞の意味を持つ動詞（A=Bの関係をつなぐ動詞）

今後もより良い授業ができるよう、やり方を模索していきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	基礎神学(啓示論)
授業コード	21C42-001
教員名	DANCAR, Aleksander
教員コード	104655
登録人数	24
回答数	16
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

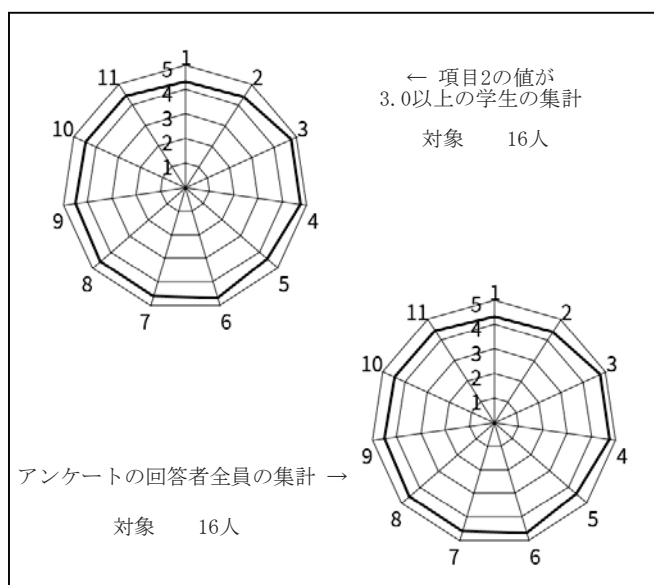


授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、この授業を受講してくださった学生の皆様に感謝申し上げます。
授業全体を通しての皆さんの積極的な参加に深く感謝いたします。
次に、最終レポートと学生による本授業評価に基づき、本授業の目的は概ね達成されたと確信しております。
また、「リアクションペーパー」を通じた対話は、学生にとって本授業の内容理解に非常に役立ったようです。
そのため、この「方法論」をさらに発展させていくよう努めてまいります。
最後に、今回の授業評価に基づき、啓示に関する様々な思想家の視点についても引き続き考察していきたいと思っております。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教倫理学(各論A)
授業コード 21C52-001
教員名 RAJCANI, Jakub
教員コード 103281
登録人数 37
回答数 16
回答率 43.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

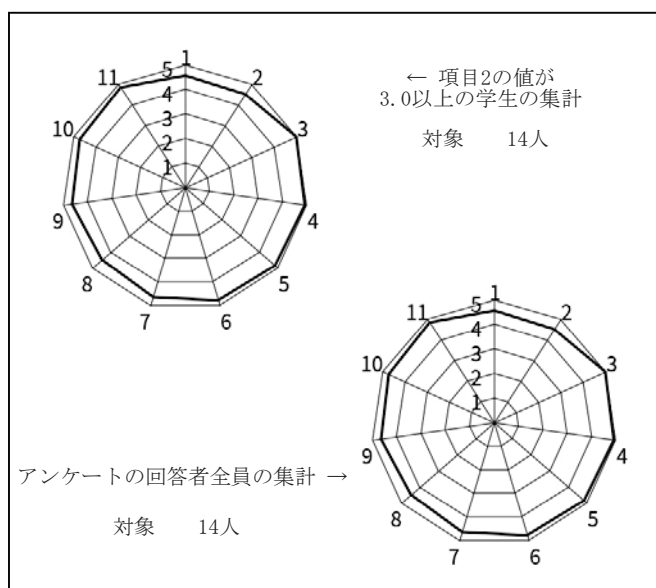


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度における当該授業の実施につきましては、関係各方面の多大なるご支援とご協力のもと、所期の教育目標に照らし合わせ、一定の成果を確認することができました。受講生に対する学修効果も、当初の計画に沿った形で概ね達成されたものと認識しております。多数の学生より前向きなコメントをいただき、教育活動を続ける上で大きな励みとなっております。他方、今後のさらなる教育の質的向上を実現するためには、依然として改善の余地が存在することも否めません。特に、授業運営に関する体制整備、教材内容の充実化、指導方法の多様化等が今後の課題として抽出されました。加えて、受講生の主体的参加を一層促進するための働きかけを強化するとともに、各スライドに十分な時間を割き、拙速に流れることのない進行を心がける必要性も認識しております。さらに、受講生から寄せられた肯定的なコメントや建設的な意見に対して深甚なる謝意を表するとともに、それらを教育改善のための重要な資源として位置づけ、次年度以降の施策に積極的に反映してまいり所存であります。次年度に向けましては、これらの諸課題を真摯に検討の上、継続的改善の観点から具体的施策を講じることにより、一層効果的かつ持続可能な教育実践を推進してまいり所存であります。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	宗教学
授業コード	21C55-001
教員名	KISALA, Robert
教員コード	018275
登録人数	23
回答数	14
回答率	60.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



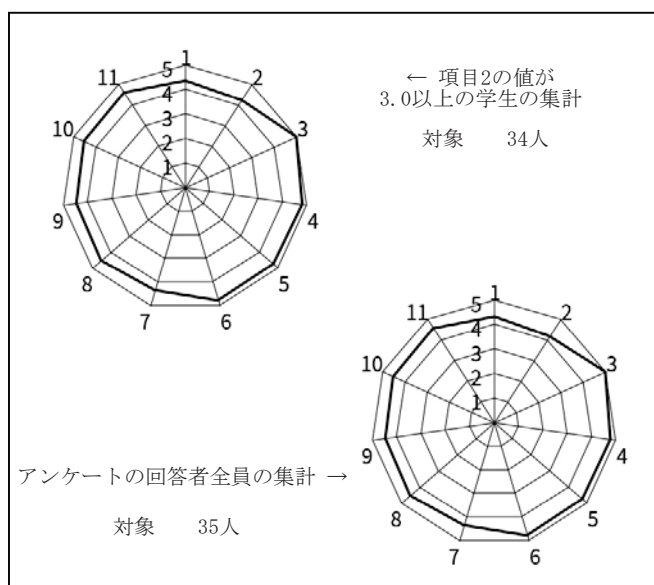
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標として「学問としての宗教学を理解する」と「現代宗教について考察する」という二つを初回授業で学生に提示した。学生評価の結果（設問番号4：平均値4.93；設問番号10：平均値4.71）から、学生らは到達目標を十分理解して授業に取り組んでいたことがうかがえる。講義の内容の丁寧な説明と毎回の講義の初めに前回の講義の内容を確認することが有効だったと思います。また、自由記述式設問の回答結果からは特に講義内容についての説明が分かりやすかったことが評価されました。毎回のディスカッションを通して講義の内容に関する自分の考えをより明確にして他の学生の理解・考えを確かめることができた、という点も積極的に評価されている。

本講義の改善点として、常に講義内容を見直し、学問の最近の発展・展開を紹介したいと思います。また、学生が到達目標を授業の内容と繋げられるように毎回到講義の到達目標を確認することを続けたいと思います。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教美術I
授業コード	21C78-001
教員名	清水 美佐
教員コード	152757
登録人数	52
回答数	35
回答率	67.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

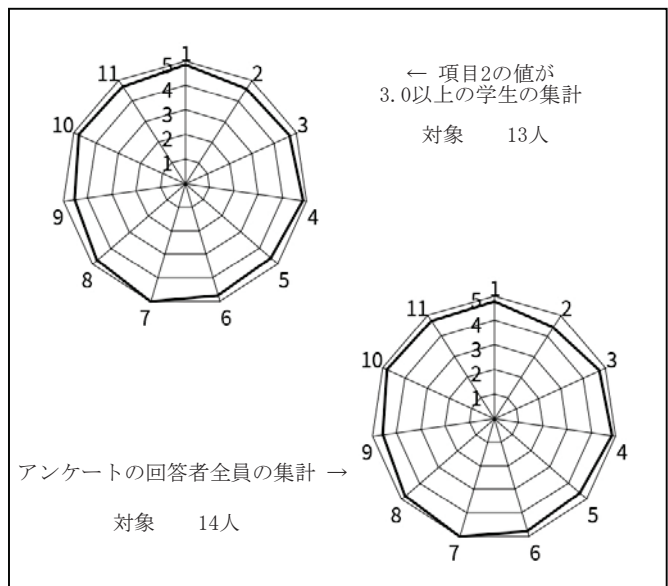


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①設定目標は「キリスト教主題の主要な図像について、内容を読み取り、説明することができる。図像の典拠となる資料（聖書や外典など）にふれ、描かれた主題内容の理解を深める」である。履修生は十分に目標に到達できていたと思われる。
- ②数値は全体的によい評価となった。例年相対的に低めであった「学生の学習意欲を引き出す適切な情報提供」については、今回数値が上がっていた。文献やウェブサイト、データベースなど、授業に関連付けて使える情報提供を意識的に増やしたことに効果があったと思われる。自由記述で評価が高かったのは、授業資料と、絵を見て要点を描きとる練習の部分であったので、これらは継続する。改善要望の中で、ある学生が他学生からTAと勘違いされていたことが分かった（本学生は出席の不正が許し難いようで、出席用紙を自分で配布したがった。言動に注意を要する学生で、本人のいる列のみ配布を任せたが、不要と断りを入れるべきであったかもしれない）。改善要望のうち、配布資料データをスライド全ページ大にすることは著作権やデータ容量の点から難しいが、そのことを学生に説明した上で別の部分で充実させたい。
- ③本科目はキリスト教学科科目ではあるが、実際の履修生は所属学科も学年も多様である。美術をきっかけに学生が自発的にキリスト教にふれようとする機会なので、キリスト教美術の面白さ、関連する聖書やキリスト教文学を読むことの楽しみも学生に伝えられるように話したい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 旧約聖書学(モーセ五書)
授業コード 21C83-001
教員名 加藤 久美子
教員コード 103475
登録人数 18
回答数 14
回答率 77.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



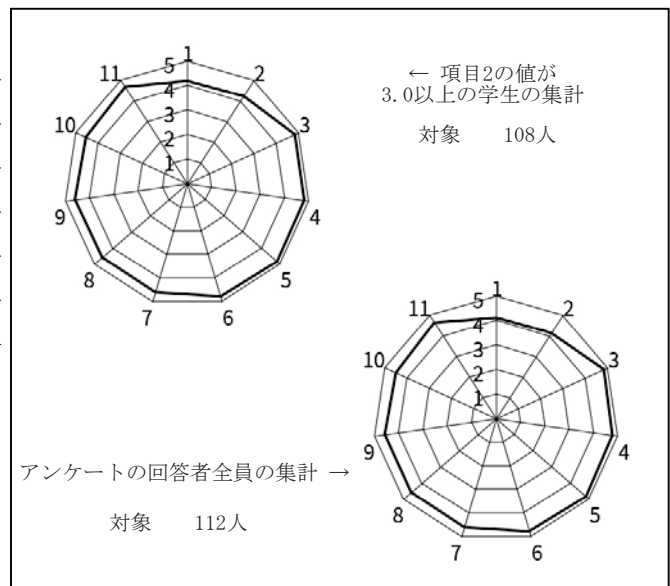
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、カリキュラム変更により2科目（「旧約聖書学（モーセ五書A）」「旧約聖書学（モーセ五書B）」）を1つに統合した新しい科目である。従来に対して授業時間が半分になったが、その時間内で、基礎知識を得て、聖書学のテクスト解釈を知り、さらに履修者自身がそれについて考え、自らの意見を述べることを目標とした。その達成のため、新しい授業資料の作成に重点を置き、また、成績評価の対象でもある毎授業のリアクションペーパー記述の時間の確保に努めた。その結果として、授業を聞き、リアクションを書いた履修者においては、到達目標はほとんど達成されたと考えられる。そのことは、数値データおよび自由記述においてよい評価が得られた点にも現れている。

今期は、学会主張で休講し、最終授業日5限に補講を行ったが、この時間は補講が重なりやすく、さらに翌日が期末試験初日であり、履修者の負担が重かった。今後は補講の設定に注意したい。また最終授業日の翌日に期末試験が開始するという厳しい日程のなかで、履修者が試験準備ができるように、授業全体の構成についても工夫を加えたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民族問題と人間の尊厳1
授業コード 10D08-001
教員名 宮脇 千絵
教員コード 152580
登録人数 187
回答数 112
回答率 59.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

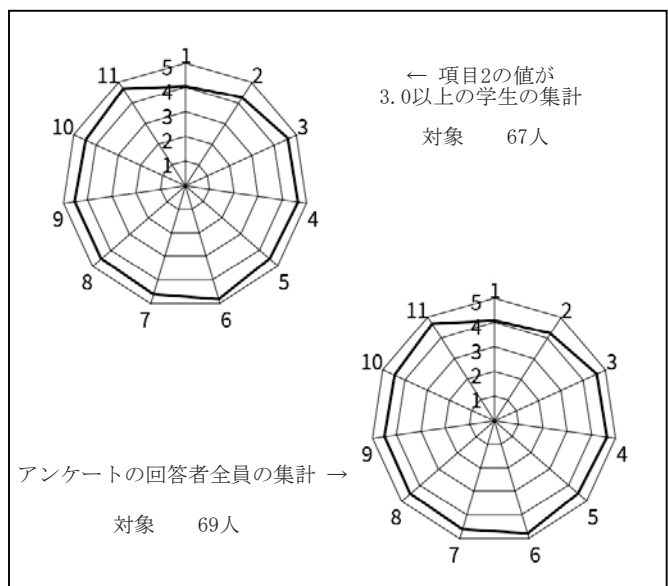


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業は、世界各地の装いをテーマに文化人類学的な視点から「当たり前」を問う姿勢や世界で起きている様々な事象について理解し、それを自分の言葉で述べられるようになることを目標としており、シラバス通りに授業を行った。毎回のリアクションペーパーや最終レポートの結果から概ね目標を達成できていると考える。
- ②「人間の尊厳」科目であるためか、毎回、質問1と2の数値が低い傾向にある。質問3、4、5、6の数値が高く、授業の運営には問題がないと考える。自由記述回答では、写真や映像が豊富であったこと、資料や説明の分かりやすさ、リアクションペーパーに対してフィードバックを行う点、現代の社会問題と絡めた内容で面白かったなどが評価されており、今後もこのように進めていきたい。
- ③大教室での講義であるため、評価はリアクションペーパーとレポートという提出物に頼らざるを得ないが、課題の出し方をブラッシュアップした結果、しっかりとした内容を記述するものが増えたように思う。基本的に真面目に課題に取り組む学生が多いが、一方でAI対応として、評価方法を大幅に変更するかどうか検討中でもある。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会い1
授業コード 13B01-001
教員名 藤川 美代子
教員コード 103115
登録人数 183
回答数 69
回答率 37.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

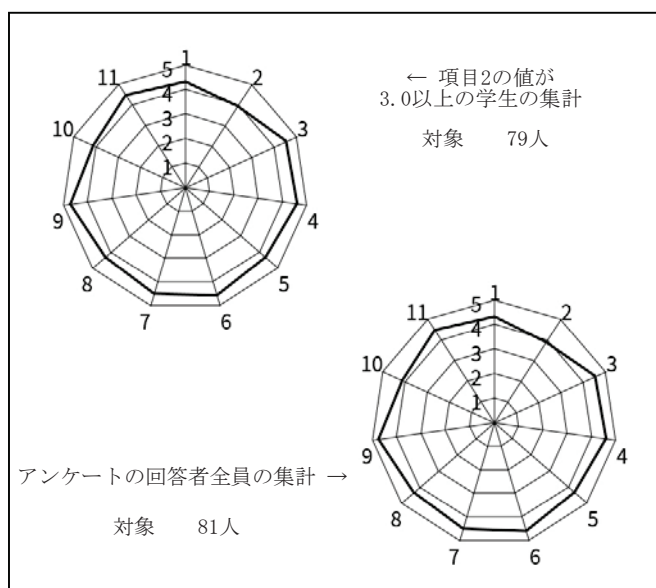


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初、自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作ること、日本の中にある異文化を理解することで、自らの文化や考え方を相対化する姿勢を身につけることという到達目標を設定した。これに対して作成したシラバスにしたがって授業を進めることができた。第12回、第14回に関しては時間が不足してしまったため講義の形では触れられなかった内容があり、それらについては詳細な解説付きの資料を配布することで対応したため、到達度に関連する学生からの評価は高いものになったと思われる。②学生からは、「当初関心をもっていなかった内容についても授業をとおして興味を抱くようになった」「取り上げられる事例について、映像を観ることで理解がより深まった」「新たな視点で物事を見ることができるようになった」といった意見が寄せられ、基本的な授業の進め方や内容は高い評価を得られているものと考えられる。③レポートでの参考文献の記載方法がわかりにくかった、毎回の設問に対する回答も成績に加味してほしいといった意見があげられており、次回以降改善を検討することとしたい。また、授業評価アンケートの回収率が芳しくなかったのも、次回以降回答の呼びかけをよりしっかりとしていきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 博物館概論
授業コード 15M07-001
教員名 黒澤 浩
教員コード 100758
登録人数 85
回答数 81
回答率 95.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



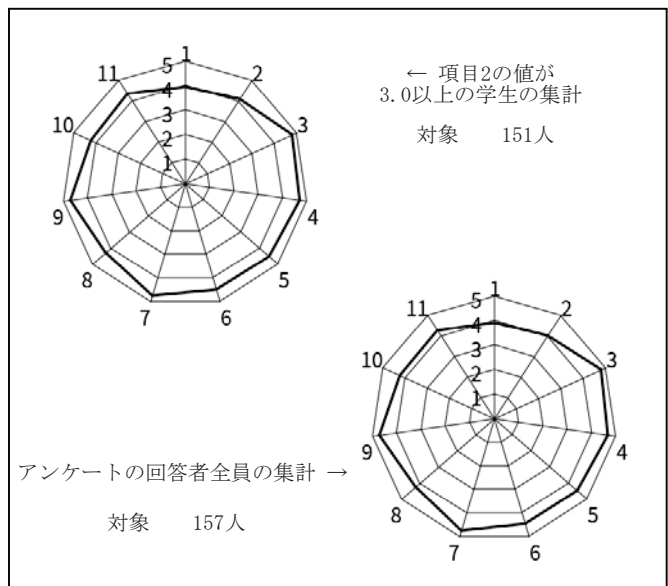
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体としては授業内容に対しては評価されているものと思われる。その中で、予習・復習に関する項目は相変わらず平均値がやや低いが、それ以外では到達目標に掲げられた力がついているかどうかについて、やや低いのが気になった。この点は、各單元ごとに理解すべきポイントを挙げておくなどの工夫が必要かもしれない。

また、質問については、授業の始めに紹介して答えるようにしている。それに対して評価する意見が多い一方で、時間を取り過ぎているといった意見もあった。これまでは対面で答えることによって学生の反応を見ることにしてきたが、確かに質問への回答で時間を取り過ぎているという感じがすることはあるため、今後、講義資料DLサーバーを使うなど工夫をしていきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学基礎論A
授業コード	22A05-001
教員名	吉田 竹也
教員コード	019158
登録人数	180
回答数	157
回答率	87.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

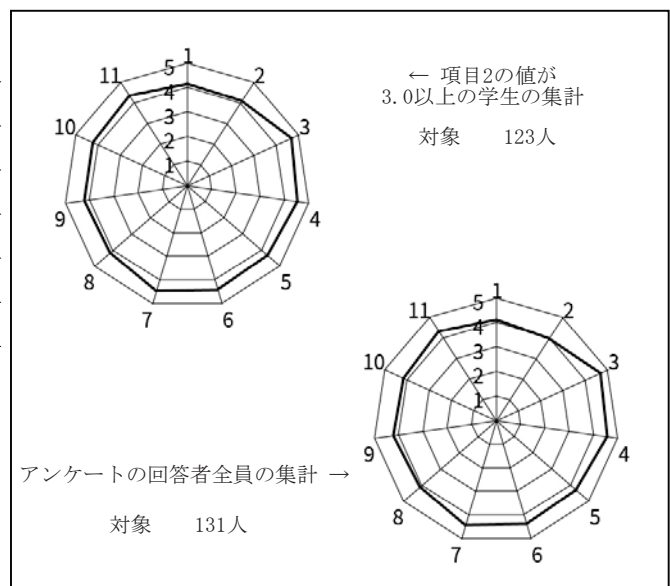
この授業は、人類文化学科1年生の必修科目であり、学科の学びの入門的な授業である。と同時に、人文学一般の入門的な内容にもなっている。今年度は、例年に比べて他学科の履修生がおおかった。

自由記述には、例年になくたくさんのコメントをいただいた。ひとつだけ取り上げる。「もともと関心のある分野だったので、講義を楽しみにしていましたが、想像以上に新たな気づきや知見が得られてとても充実していました。特に文化相対主義の講義が本当に面白かったです。学部は違いますが、人類文化学科の研究に興味を湧いたので、他の講義も受講したいです。」

数値データや自由記述を見ると、学生におおむね授業の趣旨は理解されていると考えている。ただし、自由記述を見ると、学生による捉え方の幅がおおきいこともわかる。たとえば、教科書に沿った説明を中心にし、ときに教科書にない事例や説明を加えたり補足したりする授業運営については、それをわかりやすいので適切であると考え満足する学生もいれば、もっと教科書の内容を離れた話をしてほしいとして改善を求める意見もある。そのあたりの案配を考えながら、また今後も試行錯誤していきたいと考える。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 文化人類学概論
授業コード 22B03-001
教員名 石原 美奈子
教員コード 100080
登録人数 230
回答数 131
回答率 57.0%
休講回数 1 回
補講回数 0 回

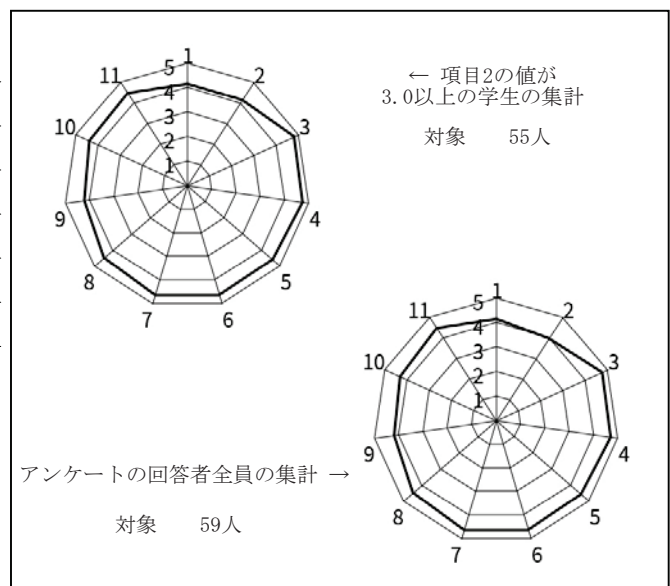


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業は、文化人類学がどのような学問なのかについて概説することを主旨とするものである。
- ②授業の内容はパワーポイントのスライドにまとめて、pdfを講義資料サイトに事前に掲載しておいた。その方法については高評価が得られた。また、内容の復習と定着を目的として小テストをwebclassに掲載して、1週間と期限を設けて取り組んでもらった。その方法についても概ね好評であった。
- ③ただ、パワーポイントの内容について、「字を詰め込みすぎ」などのコメントもあり、改善の余地があることを感じた。映画が好評だったので、もう少し動画を採り入れることも考えたい。また、講義形式の授業の場合、どうしても受け身的な姿勢に傾倒してしまうため、授業に取り組む意欲をもっと引き出すような工夫が必要と感じた。たとえば、毎回リアクションペーパーで意見や感想を求めたり、あるいは次回の授業までに取り組んでもらえるミニ・プロジェクトなどが考えられるが、今後の検討課題としたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 考古学入門
授業コード 22C02-001
教員名 上峯 篤史
教員コード 104108
登録人数 113
回答数 59
回答率 52.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義では考古学の研究法・発想法を伝授することを主眼に定め、批判的思考力と向学心の芽生えを到達目標に設定した。授業後には数名の受講生から、授業内容や回覧資料（石器や土器など）に対する質問が寄せられることもあった。授業評価アンケートや別途WebClassにおいて実施したアンケートでも好意的なものが多く、この目標は概ね達成されたと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

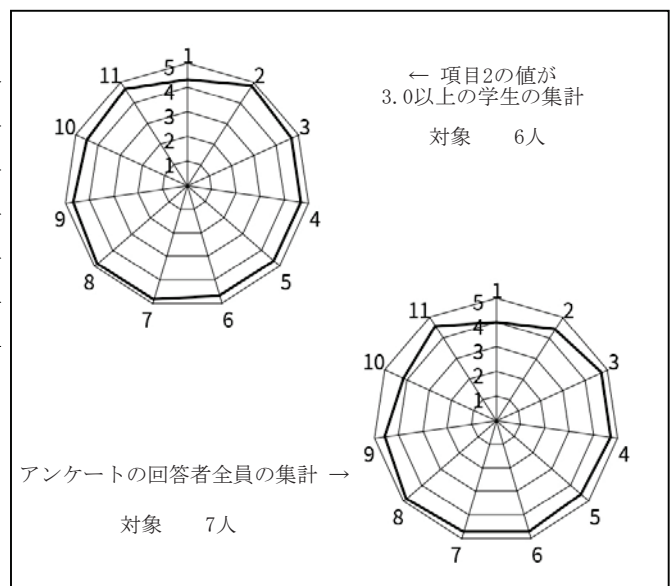
アンケートで集計されたほとんどの項目で、人類文化学科の開講科目平均値を上回る結果となった。課題と考えられるのは、設問2の予復習に対する取り組みである。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

実物資料の回覧や実演は準備や当日の後片付けなど苦労も多いが、毎年高評価なので次年度以降も継続したい。学生の予復習に対する取り組みを促進するために、何らかの課題を課すことを検討する。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 文化と進化
授業コード 22C32-001
教員名 中尾 央
教員コード 102505
登録人数 41
回答数 7
回答率 17.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

目標については以下を挙げた。

- ・文化進化学の基礎を理解できるようになる。
- ・文化情報の定量的扱いの初歩を理解できるようになる。

全体の数値は概ね4点台後半ではあり、この目標も概ね達成できたとは考えているが、「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか」という項目の評価が少し低めであったため、少し注意しておきたい。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

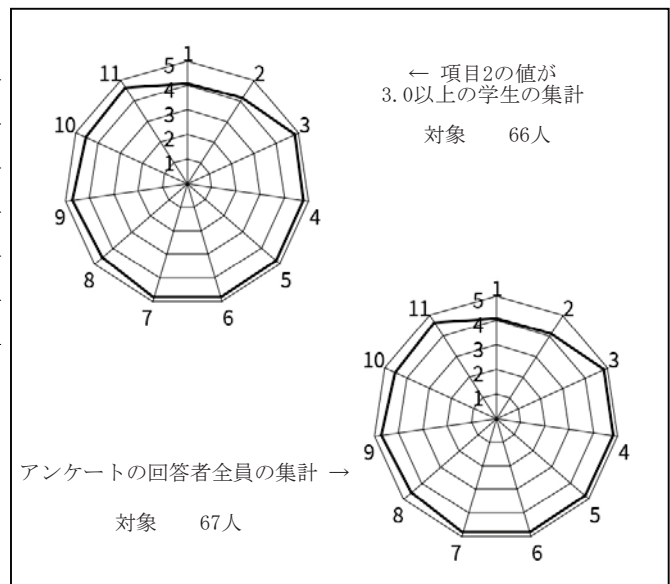
評価に関しては概ね問題がないかと考える。今年度から担当を始めた科目であり、内容も新たに作成したものであったため、その点でも少し安心はしている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

アンケート回答時間を一応設けてはいたのだが、演習の作業と時間が明確に分けられていなかったこともあり、回答数がかなり限られてしまった点を反省している。現状の回答数ではそこまで参考になる様な数値とも言い切れないため、今後はまずその点に注意したい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	東アジア考古学B
授業コード	22C39-001
教員名	石川 岳彦
教員コード	104800
登録人数	106
回答数	67
回答率	63.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①中間レポート（提出率91.5%）と期末レポート（提出率88.7%）の採点結果やアンケート結果をもとに、履修学生の授業内容理解度をみると、開講当初に設定していた目標は達成できたものと考えられる。

②1～11の全項目の平均値は4.61、3～11の項目の平均値は4.73で、大学全体、開講主体それぞれの平均値を上回った。各項目の平均値をみると、項目2以外のすべての値が大学全体の平均値以上だった。また、項目1の値を除く10項目の値すべてが開講主体の各平均値を上回っていた。毎度のことではあるが、授業前時点での興味関心度に関する質問である項目1の値がそのほかの項目に比べて低い。これは授業内容が当初の期待以上であったことを表しているとも言えなくもない。

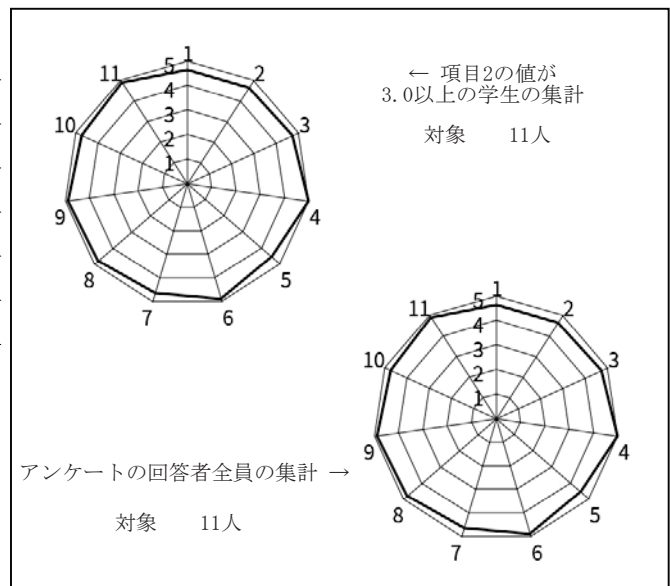
自由記述回答をみると、評価できる点として、今年度は授業時に映写するスライドや配布資料について大変にわかりやすかったという感想がとくに多かった。また、毎回の授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーにもとづいたフィードバックや振り返りを行ったことへの評価が目立った。このほか、今年度から実施した毎回の授業での小テストについては、到達目標に掲げられた力がついてきているかを問う項目10の平均値が、昨年度のこの授業のアンケートの同一質問項目の平均値から0.38ポイント上昇（昨年度4.13→今年度4.51）した点にその効果が表れており、導入は成功だったと言えるだろう。

③アンケートの結果を総合すると、授業の内容、方法ともにおおむね適切だったと言える。

改善点をあげるとすれば、主体的学習に関する項目2の値が大学全体の平均値より低かった点である。授業内容が授業内で完結してしまうことに原因があるのかもしれない。履修者自身に授業で扱った内容に関連することで授業時間外に調べさせるような課題を出すなど改善策を考えたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(構造と意味)
授業コード 22C63-001
教員名 青柳 宏
教員コード 017004
登録人数 18
回答数 11
回答率 61.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①到達目標について

今学期は以下の2つの目標を掲げた。

1. 多様な言語のデータの分析を通じて、言語間の対話、異なる分析どうしの対話を可能にする基礎的なコミュニケーション能力が身につく。
 2. 理論言語学における仮説の提案とその検証の方法が理解できる。
- 到達度を計測するための毎回の小テストおよび3回の項目別課題の成績の平均は、74.3/100であり。まずまずの達成度といえそうである。

②数値データおよび自由記述について

項目1～11の平均は4.77、項目3～11の平均は4.80であった。自由記述をみても、「学生の理解度を毎回確認してくれた」「わかりやすく何度でも説明してくれた」「学生に寄り添い、理解を深めようとしてくれた」などプラスの評価が多かった一方、クォーター制が原因としながらも、「授業が早すぎて理解が追いつかない」という指摘もあった。

③今後の改善点

今後とも双方向性の高い授業運営を続けて行きたい。

2025年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(英米哲学)
授業コード	22C66-001
教員名	和泉 悠
教員コード	103645
登録人数	21
回答数	3
回答率	14.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

1. 専門的議論の詳細を把握し、その内容と根拠を論理的に述べることができる。
2. 自分の意見を根拠をあげつつ論理的に述べることができる。

1について、提出された期末レポートの質を踏まえると、十分に到達できていたと言える。2についても同様に、提出された期末レポートの質を踏まえると、十分に到達できていたと言える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

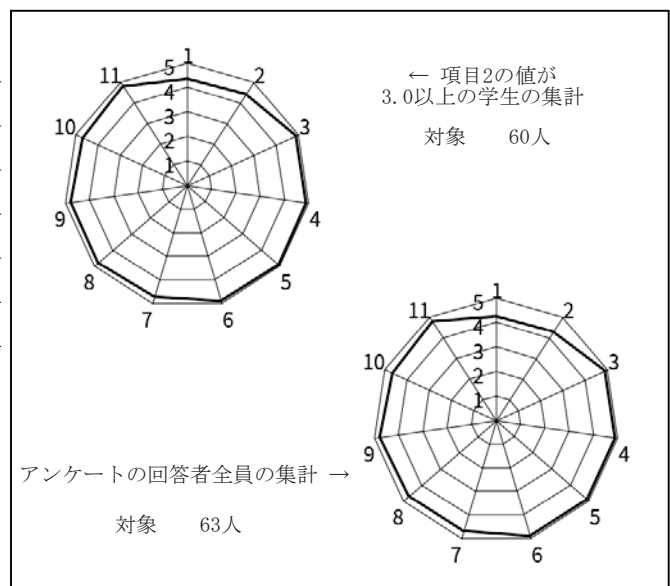
自由記述において肯定的な回答が見られた。また、できるだけ資料や進捗を電子的に共有する点、質問に答えて解説をするチュートリアル的時間を設けている構成なども肯定的にとらえられていると思われるため、今後もその要素は変えないようにする。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

3、4年生向けの特設講義であることを踏まえ、一定程度上級レベルのレポート執筆について指導ができたが、よりきめこまやかな指導をするためには、定員の設定なども視野に入れる必要がある。しかし定員設定は受講希望者に不利益かもしれないため、慎重になるべきでもある。

2025年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育・文化における人間の尊厳1
授業コード	10D07-001
教員名	西脇 良
教員コード	100623
登録人数	100
回答数	63
回答率	63.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、主として「児童期（学童期）」に焦点を当て、②学習者が人間の尊厳を尊重する力や人間の尊厳について自分の頭で考え、他者と対話する力を修得すること、②学童期の発達課題、教育上の問題、文化面での諸問題に関する基礎的知識を習得すること、③自身の生育経験との照合をおこなうことで、自他の尊厳について見解を深めること、を学修目標としました。スケジュール通りに講義を進めることができました。ミニ・レポート課題や定期試験レポートにおいても、自他の尊厳について深めている様子をうかがうことができました。

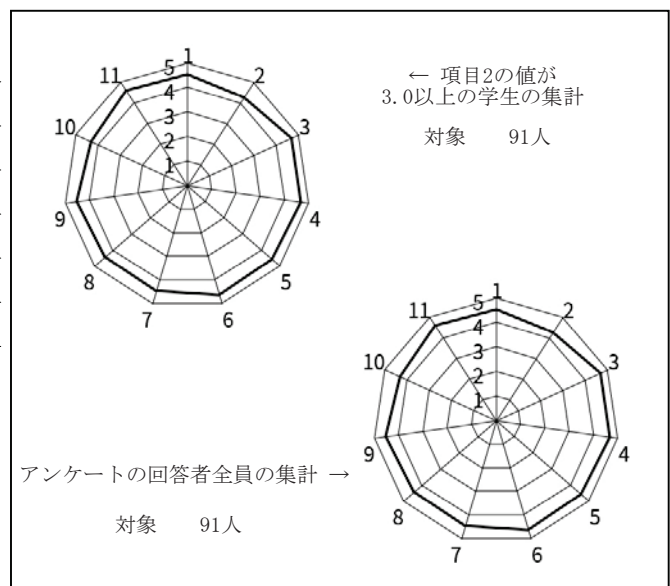
学生の皆さんからの評価ですが、全体としては「良し」との判断であったように思います（全設問の平均値＝4.71）。この値は、開講主体別の平均値（4.48）、および評価対象科目全体の平均値（4.45）を上回っていました。

自由記述についてですが、肯定的な意見として、「講義内容や課題についての丁寧な説明。資料の充実さ。」、「自分を振り返りながら児童について考えられた点」「教員自身の南山小学校での経験やエピソードを踏まえた講義であったため、内容の理解が進み、非常に興味深い授業であった。」「親しみやすい人柄で、授業が楽しかった。」等の評価を24件頂戴いたしました。改善すべき点への言及はありませんでした。

今後も、充実した資料、最新データを紹介しつつ、皆さんを知的に刺激できるような授業を追求して参りたいと思います。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	心理学A6
授業コード	12E03-006
教員名	伊東 留美
教員コード	063834
登録人数	198
回答数	91
回答率	46.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は共通教育（基盤）科目であり、全学部生を対象としている。本年度より、ディプロマポリシー（DP）をシラバスに提示している（共通教育DPI：人種、宗教、文化等、異なる背景を認識し、受容するための基礎となる教養、共通教育DPIII：多様性を前提とした人間の尊厳を尊重する力）。本講義の目標として認知心理学、学習心理学、発達心理学分野に関して「各分野の概要を理解している」「基礎的な事項について説明できる」「生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができる」の3項目を掲げている。そこで、上記の観点から本講義を評価してみたい。

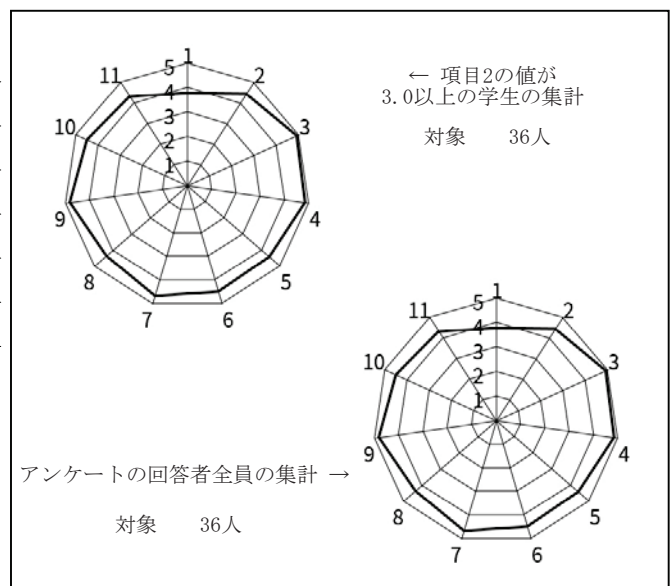
まず、目標達成（項目4）については、4.69と到達目標との関連については理解をしめしている。一方で、到達目標に向けた力がついた（項目10：4.31）と感じる学生は若干少なくなる。自由記述欄に「心理学の入門として学べる」というコメントがあったが、入門者にとってはわかりやすい内容であったが、そうではない学生には物足りないレベルである可能性がある。

また、DPIについて提示することで担当者も意識的に取り組むことができた。特に内容を変えたわけではないが、共通教育としての心理学がどのようにDPIに対して貢献できるのかを考えることができた。DPIについては異なる背景を認識し受容するための人間の心の動きについての理解の促進はできたかと捉える。また、DPIIIについては発達の多様性を紹介することで、個人差という伝え方を提示することができた。

課題としては、DPIに対する学生への意識付けを促すような取り組みをしていくことである。心理学に興味を持つ学生が多いことは自由記述欄からもうかがえる。心理学は様々な領域に応用できる。学生がDPを意識し学習への動機が高まるような内容も今後含めていけるよう検討したい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IIA
授業コード 23A08-002
教員名 楠本 和彦
教員コード 055780
登録人数 41
回答数 36
回答率 87.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当科目は、3クラス同じプログラムで実施しているacademic writingに関する心理人間学科の必修科目である。到達目標は以下のものである。

- ・ 論述的文章とはどのようなものかを知っている。
- ・ 論述的文章を自分の文章として書くことができる。
- ・ 文献を引用のルールにしたがい、自分のレポートに活用することができる。
- ・ テキストのテーマに即して、自分の視点から自分の言葉で文章を作成することができる。
- ・ 明快な文章の構成とはどのようなものであるかを理解し、自分と他者の文章を推敲することができる。

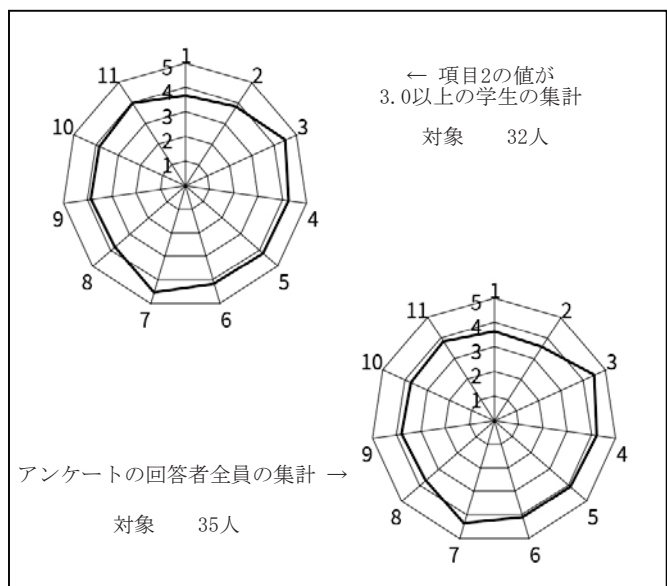
当クラスの平均が、全学平均を0.2以上、下回った設問は、1であり、学生が履修前には授業内容にあまり興味をもっていなかったことがわかる。

当クラスの平均が、全学平均を0.2ポイント以上高かった設問は、2、3、4、9であった。この授業では、一定程度の宿題を課したため、設問2が高くなったと考えられる。この授業がシラバスに沿って、到達目標に適切に関連づけられて実施されていたことが設問3、4の結果に示されている。また、授業運営において、質問や相談の機会、課題に対する事前・事後指導が十分であったことは設問9の結果に示されている。

授業の構成・進行速度や板書・視聴覚教材の使用に関しては課題も残っているため、共同担当教員と協議して、検討していきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	コミュニケーション論
授業コード	23C18-001
教員名	加藤 隆雄
教員コード	019349
登録人数	88
回答数	35
回答率	39.8%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

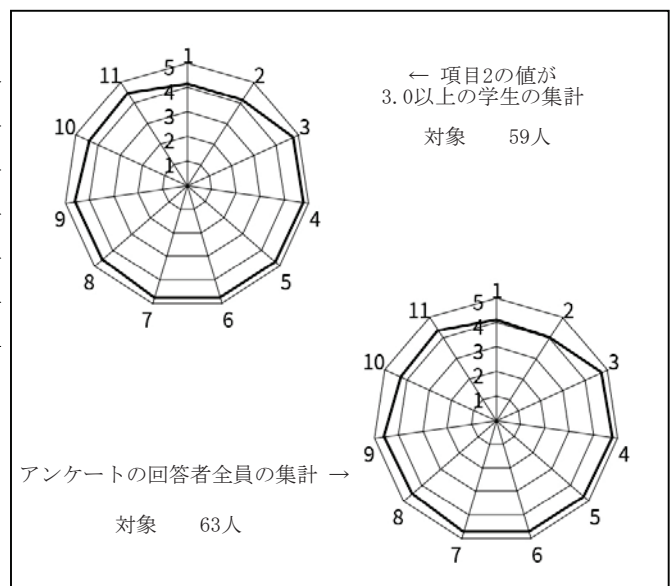


授業評価結果を踏まえた点検・評価

2024年にもこの科目でアンケートを行っていて、そのときよりも全体的に評価は全般的に少し低いが、おおむね4.0前後で当初の目標は一定以上達成したといえる。Q11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」の平均点が低いが、これは前回も低かったため今年度から講読推薦文献を示すことにしたものである。しかし、その甲斐はなかった。逆に、項目7「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていきましたか。」は、特に力を入れていたわけでもないのに高く、これらの回答の妥当性には疑問を感じている。また、自由記述は良かった点も改善すべき点もパワーポイント資料のあり方についてであり、講義内容にふれている回答がなく、受講生のレベルが落ちていると考えるべきなのか、ともあれこのことに関しても今回の評価そのものにほとんど意義を感じられなかった。とりあえず、指摘されたパワーポイントの色については検討したいと思う。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	知覚・認知心理学
授業コード	23C59-001
教員名	藤田 知加子
教員コード	100382
登録人数	102
回答数	63
回答率	61.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

学生の評価を見ると、「授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか。」の項目得点が4.78であったことから、設定していた目標は、正しく理解されておいたと考えています。さらに、「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか。」という自己評価は4.27であったことを踏まえると、学生自身の自己評価として、比較的十分な到達の程度であったと判断しています。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

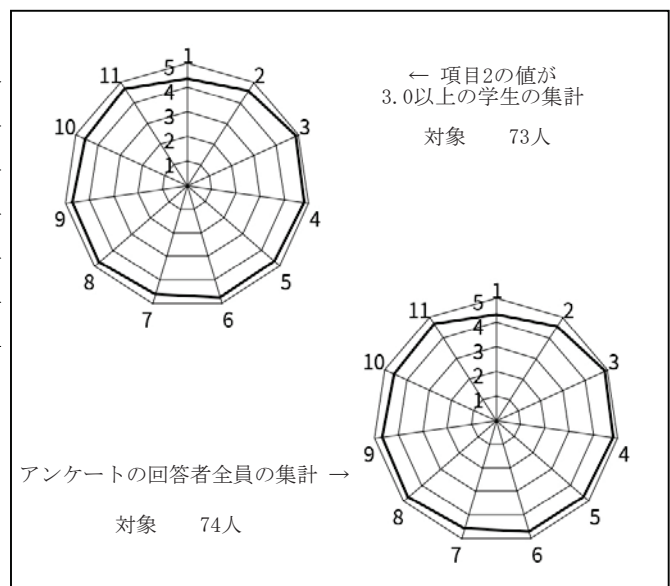
学生へ毎回求めているショートレポートへの教員からのフィードバックは、例年通り学生からの評価が高い傾向にあります。また、映像資料を使用することに対しても、学生の理解の助けになっていることが評価されています。教材構成の工夫が、ある程度効果的に働いていることに由来する評価だと考えています。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

シラバスの評価欄に関する記述を、より詳細なものに変更することを予定しています。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	教育・学校心理学
授業コード	23C66-001
教員名	解良 優基
教員コード	103910
登録人数	85
回答数	74
回答率	87.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか。」という項目への回答については、4.55と高い値が得られた。また、毎週課題が出る点でそれなりに負荷の高い授業であったと思われるが、授業の出席率や課題の提出率は高かった。学生は毎回の授業に真剣に取り組んでいた様子がみてとれ、その結果として本授業の目標は一定程度達成できたものと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価数値

データからは、全体的に学生は授業に対してポジティブに評価している様子が伺えた。

特に、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」という質問項目に対しては4.68と高い値が得られた。

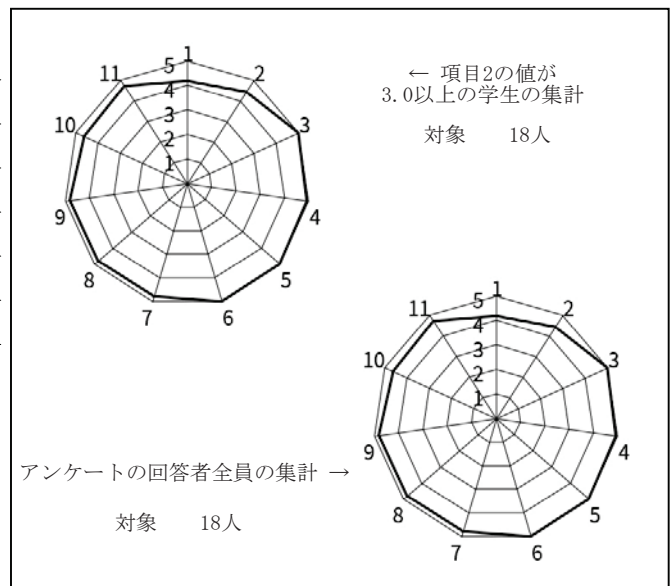
自由記述についても、主に授業の進め方や内容・教材について、ポジティブな内容が多くみられた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

ルーティンで課しているグループワークについての振り返りの課題については、毎回書く内容が重なってしまうという指摘がいくつかみられたため、発問の仕方に工夫が必要だと考えられた。

2025年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文化史B
授業コード 24C12-001
教員名 松田 京子
教員コード 100789
登録人数 68
回答数 18
回答率 26.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

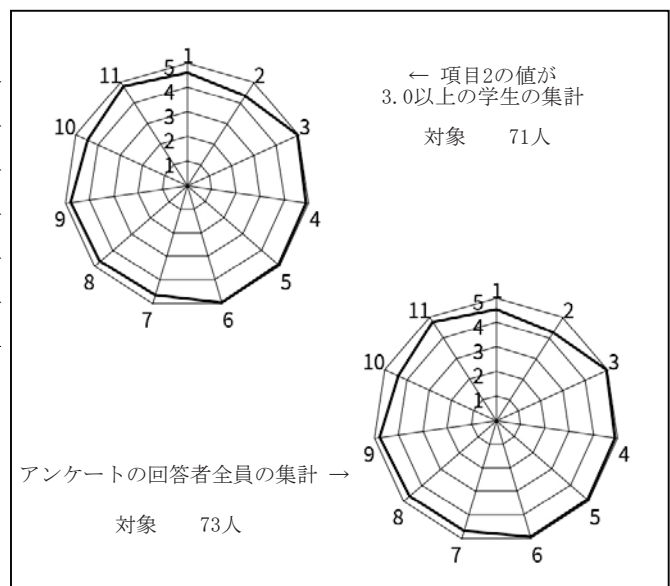
①この授業では、教員作成の配付プリントに基づく説明と捕捉的な板書を中心に、関連する映像資料の視聴を行いながら、歴史学的手法でテーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後をリアクションペーパー記述の時間にあて、テーマ（各回の授業の中心的なトピック）を指示し、それに関する感想や考察、映像を視聴した回では映像資料に関する感想や考察、その他、自由な観点からの授業に関する感想や質問等を受講生全員に書いてもらった。そして次回の授業の冒頭でその一部を紹介しながら復習を行うとともに適宜、質問に答えるなど双方向の授業展開を試みた。このような方法で授業を進め、シラバスに示した授業計画はほぼ予定通りに進行することができた。

②上記のような授業の構成や進度、方法、取り組む姿勢については、「学生による授業評価」集計の設問3の平均値5.00、設問4の4.94、設問5の5.00、設問6の5.00、設問9の4.83という非常に高い数値から、おおむね好評であったと思われる。その点は「学生による授業評価」の「自由記述欄」でも、映像資料を視聴することで理解が深まった、説明がわかりやすいなど好意的な意見を複数の学生が寄せてくれていたことからもうかがえる。ただし、履修者数68名に対してアンケート回答者数は18名と、回答率は低めであった。

③以上のように、今回の授業評価では設問3、設問5、設問6については平均値5.00と回答者全員が最高点を回答してくれており、大変励みとなった。この数字を維持することはやや難しい課題であるが、今後も受講生の理解が深まるよう授業の構成や、教材の工夫、より効果的な説明の方法や板書のあり方などの探究をさらに進めたい。また授業評価アンケートを実施する際、回答率が高まるよう、アンケートへの協力をさらに繰り返し呼びかけたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域文化論
授業コード 24C25-001
教員名 福本 拓
教員コード 104126
登録人数 97
回答数 73
回答率 75.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

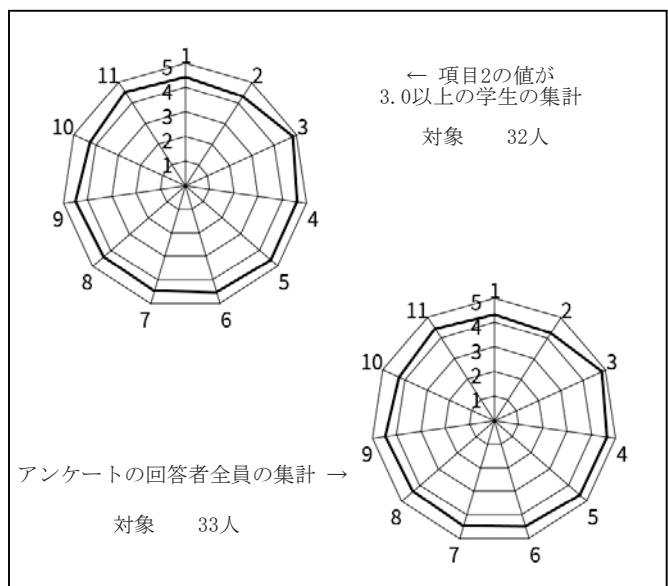
本講義の到達目標として、以下の3点を掲げた。「①「地域」と「文化」の関係についての基礎的理論について理解し、説明できる；②様々な課題を抱える地域における文化の形成過程や意義について関心を高めている；③「地域文化」を相対化しつつ、自らの関わりとの中からその内実を議論することができる。」Q4の「授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか」の設問の平均値は4.89と、内容と到達目標の連関性は十分認知されていたといえる。一方で、Q10「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか」の平均値は4.38と大きな隔たりがある。ただし日本文化学科科目の平均4.33との乖離は大きくない。

全体的な満足度（Q11）は4.78と、全体の平均4.45を上回っており、受講生が意義を感じられる講義にできたと考える。自由回答をみても、Mentimeterを用いた参加型の取り組みと、講義の目的に応じた多種の資料（図像・映像）の有用さを評価する意見が多くみられた。一方で、復習のしにくさに対する指摘もあり、講義の録画映像の活用をより積極的に呼びかけたい。

アンケート設問のすべての項目で平均を上回っており、これまでの改善の成果がみられたといえる。今後は、到達目標と学習成果の関連性をセルフチェックできる体制を整えていきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 物語・日記文学研究
授業コード 24C32-001
教員名 辻本 裕成
教員コード 019042
登録人数 58
回答数 33
回答率 56.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業についてシラバスに掲げた授業目標は以下の通りであった。

- 1 いくつかの古典作品をある切り口から並べて読んでみるとどのようなことが見えてくるか、考えることができる。
- 2 現代とはちがった時代に於ける人間の心性を考えることができる。
- 3 古典文学を専門にやろうという人は古典文学研究の入門として授業を受け、今後の専門的研究についての指針を得ている。専門にするつもりがない人は古典文学が面白いものであることをわかっている。

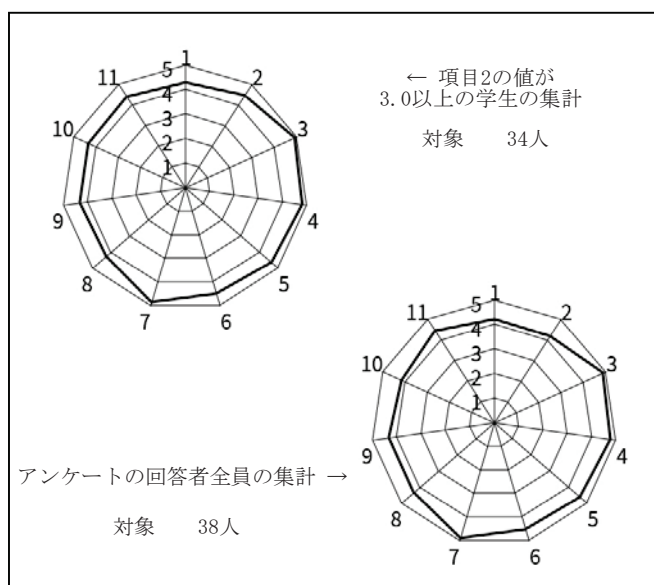
1, 2については、授業内容をこの目標に沿って設定した。各項目とも一定の評価を受けており、自由記述を見ても、この目標はある程度達成できたと思われる。

また、昨年、NHK大河ドラマで紫式部を取り上げており、視聴していた学生も多いようだったので、ドラマでの設定と史実の対比をするなど、その話題を混ぜることができたのもよかったのではないかなと思う。

設問8「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や授業時間外の自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」については4.39と、絶対値としてはそう低くはないが、他の項目に比べると若干低かった。これについては、参考文献・先行研究をより多く紹介する、実際に読んだり探させたり工夫をするなどの対策を考えるべきかもしれない。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	言語分析A
授業コード	24C50-001
教員名	靱山 洋介
教員コード	041806
登録人数	45
回答数	38
回答率	84.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

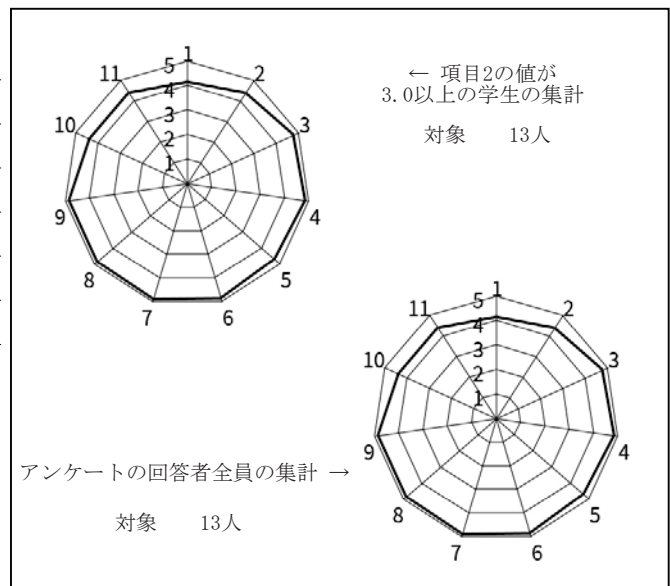


授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎週提出を求める「質問・コメントシート」の記述および「最終レポート」の内容から判断して、この授業の内容を十分に身に付けた（到達目標に十分に達した）受講者は約55%、相当程度身に付けた者は約30%、授業の内容の一部を身に付けた者は約15%であった。以下主に、自由記述の内容を検討する。まず、「リアクションペーパーに書いたことを、ほぼ全て次の授業時間に取り上げてくださって、解説もしてくださったので分かりやすかった」「教科書の内容と対応した補助資料が用意されていたため、理解が一層深まった」というコメントがあった、これらについては今後も続けていきたい。また、「自分たちで（補助資料の）文章を読んで分析する時間を設けていたところ」がよかったという意見もあった。一方で、「学生同士で話し合う、意見を交換する場があればいいと思った」という意見もあった。このような場を授業内の有意義な時間としてどのように組み込むことができるか検討したい。さらに「（他の授業と比べて）レポートの負担が大きすぎる」というコメントもあった。力作のレポートも相当数あり、レポートに熱心に取り組んでいる人が少なくないこともあり、現段階では、この授業は、熱心な受講者にとってやりがいのあるレポート課題がふさわしいと思っている。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語音韻論
授業コード 24C55-001
教員名 平子 達也
教員コード 104112
登録人数 20
回答数 13
回答率 65.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

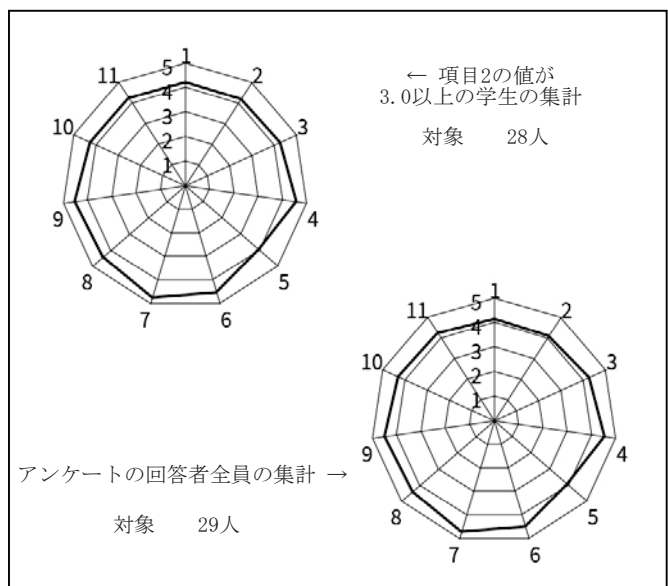
当初の目標は、〈1〉日本語諸方言のアクセントの研究のために必要な概念などを理解することと、〈2〉方言アクセントの音声を聞き取り、聞き取り結果に基づいて、アクセントの分析ができるようになることにあった。教科書の内容理解を通じて、〈1〉の目標達成を図ったが、予習の状況、授業中の発言内容などを見る限り、ある程度この点については達成できたものとする。〈2〉の目標についても、授業中の発言内容などを見る限り、概ね達成できていると考える。

数値データは、最終的に出席を続けた13名によるものであり、あまり参考にならないかもしれないが、毎回の予復習をちゃんとやり、担当教員のインストラクションに従って学習を続ければ、概ね上記の目標を達成可能であることは従来から分かっていたことで、本年度もそれが確認できたと思われる。

この授業で設計した「予習＋授業内でのディスカッション＋復習」という流れと、それを学生に促す教材作りは、今後の自身の授業にも活用・応用できるものである。特に、予習のための動画とそれを踏まえての予習課題を作成するのは、意欲のある学生のためにはプラスに働いたと自負している。ただ、これは制度的な問題で今すぐには解決が難しいが、クォーター制であるが故に、学生は毎回の授業の間に予習と復習をする時間が十分には取りにくいというのも問題だと考えている。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 第二言語習得研究
授業コード 24C59-001
教員名 岩崎 典子
教員コード 103983
登録人数 30
回答数 29
回答率 96.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

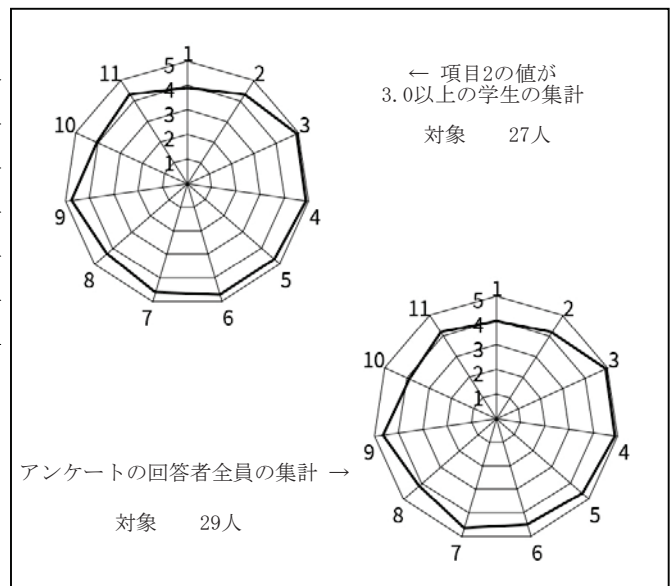


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①ほぼ目標は到達していたと思います。②今回、教育実習中の1名以外の履修学生の全員が回答してくれたようです。全体的にこれまでよりやや評価が低いのは、この科目が「日本語教員養成プログラム」の必須科目となったことで、特に授業内容に関心がなく履修する学生も含むようになったことに起因するのかもしれません。学生の毎回のリアクションに対してできるだけ回答したりコメントしたりすることで、一方向にならない授業になるよう努めていることは高く評価されているようですが、リアクションやMentimeterを使った学生の意見にコメントをすることに時間をとるため予定通りに授業が進まないことがあることは事実で、難しいところです。今後、シラバス作成時にもう少し余裕のある予定を立てたいと思います。自由記述にあった、近隣の教室の授業が定刻より10分ほど前に終わって教室から出て行く学生の声がうるさかったことは、私も大変気になりました。毎回ではなかったですが、かなりの頻度で定刻より早く終わっていました。一度、全学的に、できる限り時間通りに授業をすること、もし早く終わる場合は、静かに退出するよう学生に指示する必要があることなどを周知していただきたいと思います。この点は、教学企画課に連絡することにいたします。③今後日本語教員養成プログラムの必須科目であることも踏まえ、日本語教員養成の必須項目には十分に対応することには留意しながら、シラバスの調整をしたいと思います。

2025年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語学入門
授業コード 22C01-001
教員名 久米 啓介
教員コード 104805
登録人数 40
回答数 29
回答率 72.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度

本授業は、言語学の中でも特に統語論と言語習得研究に焦点を当てて、基礎的な概念・用語や研究法を理解することを目標としたが、最終課題の出来から判断すると、概ね目標は達成できていると思われる。

②総合的な自己点検・評価

良かった点は、これまでと同様に毎回リアクションペーパーで出た学生の質問や要望には可能な限りすべて答えるようにしたことや、授業資料を講義用のウェブサイトですべて見られるようにするなどしたこと、また授業中のペア・グループワークや小休憩の時間を設けたことで効果的に学習に取り組めたという声も多く、自由記述の内容からも、これらの工夫は効果的であったと考える。

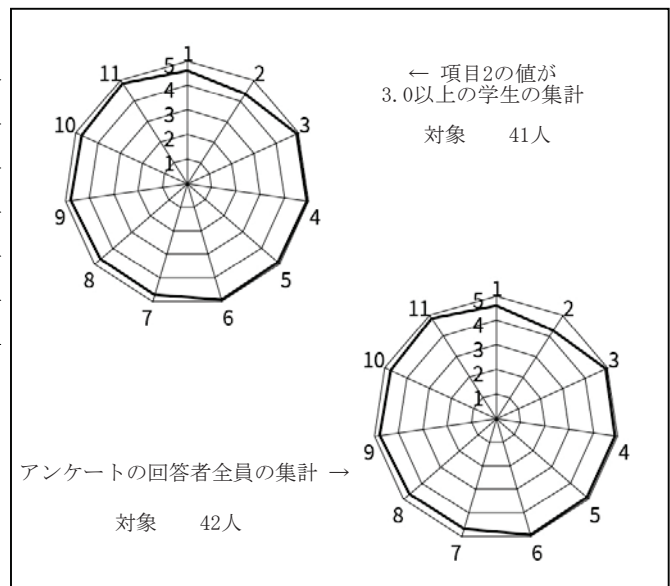
改善の余地がある点は、授業内容が「入門」にしてはやや難しすぎると感じている学生が少なからずいることである。このことは到達目標に掲げられた力がついてきているかに関わる設問(10)が他の設問に比べて評価が低いことに反映されていると思われる。

③今後に向けての改善点・抱負・方針

授業内容の難易度を下げることが容易ではないが、内容の説明をもう少し洗練するように努め、授業内容を再検討し、扱う内容をもう少し限定することで対応していきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 心理的アセスメント1
授業コード 23C62-001
教員名 井村 安之
教員コード 048439
登録人数 50
回答数 42
回答率 84.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

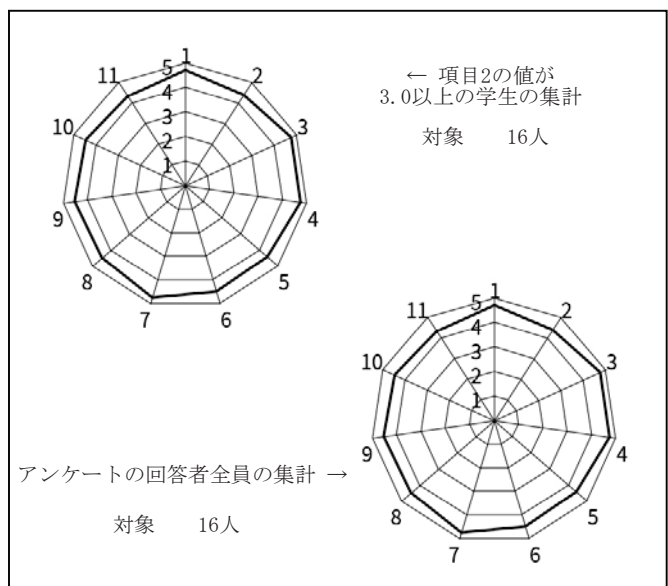


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標として、1. 心理的アセスメントについての基本的な考え方を理解している。2. 面接法、観察法について、その実施法の初歩を理解している。3. 代表的な心理検査について、その実施法および解釈法の初歩を習得している。4. 授業を通して、こころの問題についての理解を深めることができるの4つをあげた。3. についてはレポートを通して心理検査の初歩は習得されてることが確認できたので、目標は達成されているといえる。1. 2. 4. については客観的な評価は行っていないので、確かなことはわからないが、アンケート項目1が4.60であったのが、項目10は4.71、項目11は4.86と上昇していることから、受講生側としては、身についたものがあったと理解してよいと思う。しかし、客観的に見てどうなのかとなると試験等を実施することで習得度を確認する必要があるかもしれない。また、現場で働いている者の講義となると、とかく現場の話に偏りがちで、学問的でなくなってしまう可能性があるなので、そのあたりは常に注意しながら講義に臨んだ。しかし、自由記述から、臨床現場の生の話が役立ったといった意見をいただき、もう少しそういった話も取り入れていってもよいと感じた。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	和歌文学研究
授業コード	24C28-001
教員名	伊藤 伸江
教員コード	103266
登録人数	31
回答数	16
回答率	51.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度の「和歌文学研究」の授業は、新古今和歌集をテーマとし、著名歌人の歌風、技法と当時の歌壇のあり方の知識を交えながら、四季歌の詠みかたを理解した。例歌を示して、小さな質問を交えながらその読解を学生たちと共にしていく形を入れた講義をなし、学生それぞれが歌の作り方について腑に落ちることを目指した。あわせて、毎回のリアクションペーパーでも、学生たちがどう感じたか、理解したかを確認している。四季の風景と、歌の情景をリンクさせて考える小問に答えることで、歌語の選び方、歌枕の詠み入れ方などの、歌の約束事も意識できるように心がけている。当初は正しく答えねばならないと思い尻込みする学生が多かったようだが、次第に歌に向き合い積極的に考えられるようになってきたようである。学生たちは授業内容について「わかりやすかった」と感じたり、資料については、図版や地図が「歌がどのようなことを表現しているかの理解につながった」と評価しているが、反面、資料が白黒である点が、わかりにくいと感じており、これはカラー画像を映すプロジェクターを併用する形で改善している。また、資料は非常に詳しいが、その分説明との対応がわかりにくいとの声もあり、学生たちの理解度をより詳しく見ながら、適切な量の講義資料を用意していきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	日本語の音声教育
授業コード	24C69-001
教員名	金村 久美
教員コード	104428
登録人数	14
回答数	4
回答率	28.6%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

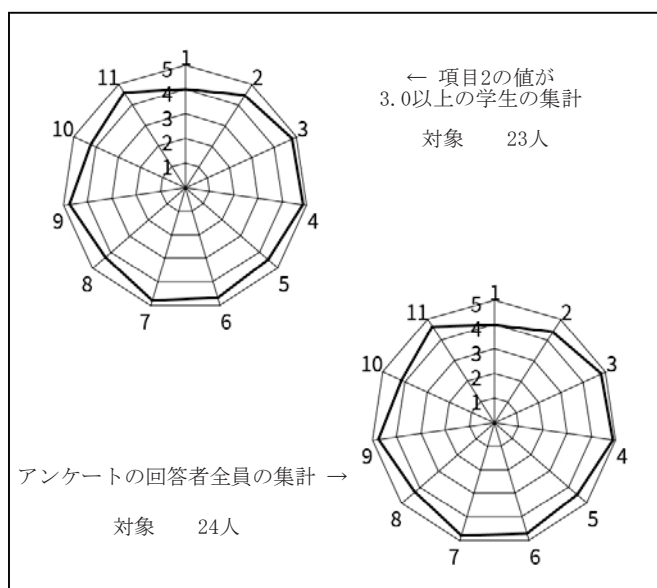
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標は、「多様な言語を母語とする日本語学習者にとって、日本語の音声はどう聞こえ、どう学ばれ（ようとす）るのか？」という視点を涵養する」というものであった。到達の程度は、学生によって背景知識の深さや理解度のばらつきはあるものの、視点・姿勢の涵養という点では概ね達成できたと考える。
- ②今回、受講者4名からアンケートの回答を得ており、各項目を平均して95%の評点を得た。この点から、履修生からの評価は概ね高かったものとする。設問1、7、8、11については100%であった。一方、設問5「5:毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」については85%とやや低く、特に講義後半は時間不足により説明が不十分になった点があったため、これを反映したものと推測する。
- ③次年度は、②の点を踏まえ、授業計画を改善したい。また、コメントに対するフィードバックがよかったというコメントを複数得ており、この点は今後も継続したい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語II<全>1
授業コード	11J10-002
教員名	松根 伸治
教員コード	101833
登録人数	31
回答数	24
回答率	77.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



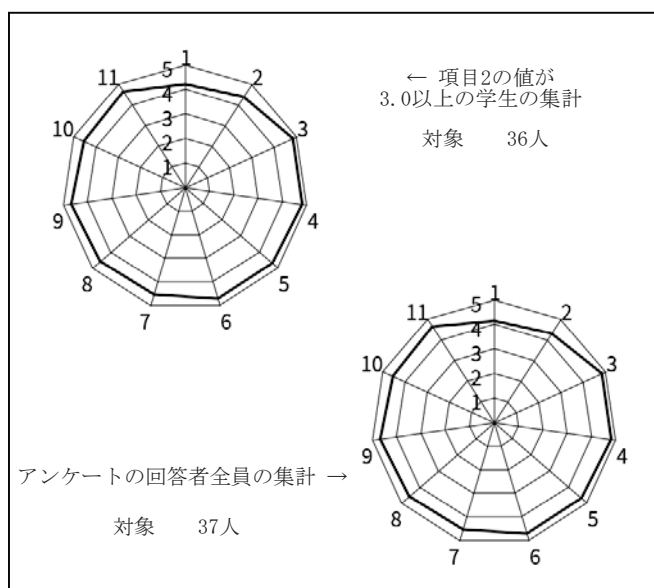
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問10で学生自身の自己評価は4.13と高くはないものの、シラバスの到達目標「ラテン語文法の骨格を身につけている」「ラテン語の文章を正確に音読することができる」について、授業でのやりとりや定期試験の結果なども総合して判断すると、それなりに達成できたと言ってよいだろう。抽選や時間割の関係で仕方なく履修する人も出るのはやむをえないとはいえ、設問1の履修前の興味が3.96なのは心配な点である。ただし、当初は興味をもてなかった受講者も含めて、本人の参加や努力（設問2）が4.38、全体的満足度（設問11）が4.63であることは、まずまずの数字だと思われる。

自由記述では、授業進度は丁寧でちょうどよいという感想が多いが、早すぎるといふ人と詳しく遅いといふ人もやはりいて、調整が難しいところである。数年前から教科書は使用せず自作教材を使っているが、プリントの内容がわかりやすいと評価する意見が複数見られたのはよかった。紙とデータにそれぞれ利点があるので当面は両方での教材配付を続けてみたい。Q1、Q2のあいだは基礎的文法の解説が中心で退屈な面もあったと思うが、秋以降にはラテン語に関する文化的情報や読み物などもまじえて、学習成果が楽しく実感できるよう工夫をしたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	聖書時代史
授業コード	21C02-001
教員名	HERA, Marianus Pale
教員コード	102689
登録人数	43
回答数	37
回答率	86.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



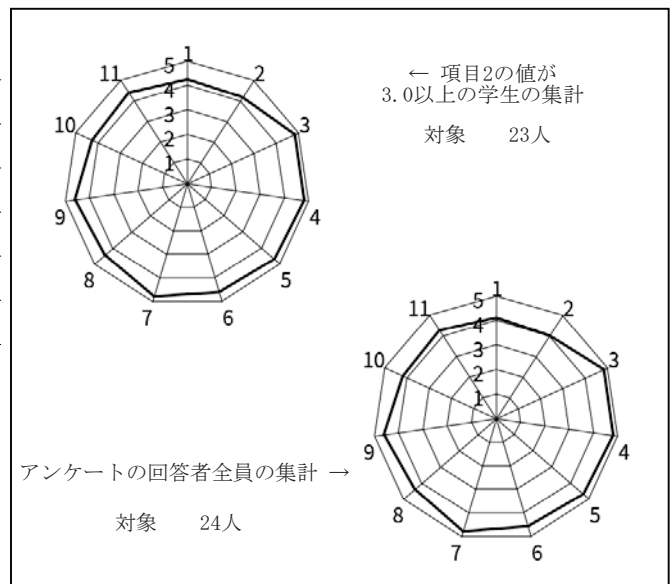
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はキリスト教学科の学科科目で、1年生が履修できる入門科目です。前年度から開講曜日をQ2に移動したことで、1年生がとりやすくなりました。その結果、前年度に続き、今年度もキリスト教学科の1年生のほとんどが受講することができました。また、今年度はキリスト教学科生以外に他学部・他学科生が半分以上占めています。これは、聖書に関する学生の関心の高さを示しています。ただ、他学部・他学科生が多くは旧約聖書をもっていないため、授業中に聖書テキストを読んでもらう時に、手元に聖書を持っていない学生は読んでもらうことが出来ませんでした。

14回の授業を振り返り、また学生の授業評価の結果をみると、この授業は全体として目標に達成できたと思います（項目1-11の平均：4.59。項目3-11の平均点：4.68）。学生の評価の良かったところには、「レジュメを配ってくれたこと」、「映像や写真などがあり、わかりやすかったこと」、「毎回授業のはじめに、前回の復習をしてくださるので、内容を思い出すことができた」、「事前に出される課題も適切で、授業を受ける際の助けとなったこと」など、授業の進め方や授業で用いる資料が学習効果を高めることが確認できました。ただ、学生の人数が例年よりはかなり増えたことで、学生の意見などを引き出す機会や一人一人の学生への配慮が不十分だと感じています。今後の課題にしたいと思います。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 初期キリスト教思想A
授業コード 21C30-001
教員名 岡寄 隆哲
教員コード 103614
登録人数 36
回答数 24
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

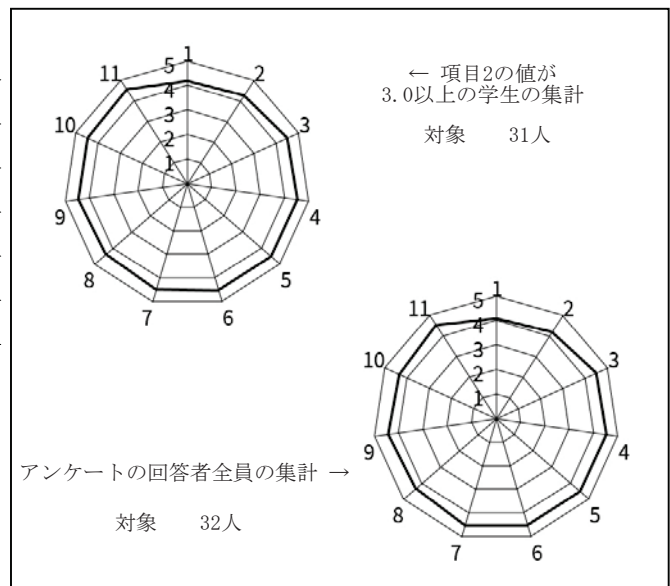


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 学期全体をとおりテーマ、目標としたのが、人類の精神史上、世界宗教としてのユダヤ教およびキリスト教がもたらした画期的な内容とその可能性について関心を向け、一定の理解に達してもらうことであった。古代宗教との対比において、古代イスラエルの預言者たちによって新しく拓かれた精神性とその成り立ちについて、またそれを受けたキリスト教をとおりもたらされた独自の可能性について、毎回のリアクション・ペーパーのコメントからして、あるていどの手ごたえはあったと思われる。「初期キリスト教思想」ということにかんして言えば、三位一体論、キリスト両性論などのキリスト教神学の基本教理について、もうすこし深く踏み込んだ内容の提示ができればよかったかとも思われる。
- ② 数値データにおいて、「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」の値が最も低いため、テーマや授業内容にかんしてもっと関心をもってもらい、主体的に取り組めるような工夫がだいじになるかと思われる。
- ③ 全体のテーマや授業計画における各項目について、教員側自身が考察をし継続している内容なので、できるだけこちらの関心も共有してはもらいつつ、話される内容が難しくならないようにつとめるようにしたいと考える。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教哲学B
授業コード	21C35-001
教員名	南 翔一朗
教員コード	104627
登録人数	71
回答数	32
回答率	45.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義「キリスト教哲学B」はドイツ学科科目「ドイツ思想研究」からの乗り入れを受け入れたため、回答が履修者全体の傾向を的確に反映しているか判然としない部分があるが、全体的には一定の到達度を得ることができたと考えている。しかし、上記の理由により履修者が増加したためか、当初設定していた目標に到達できない履修者も想定以上に多く出た。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

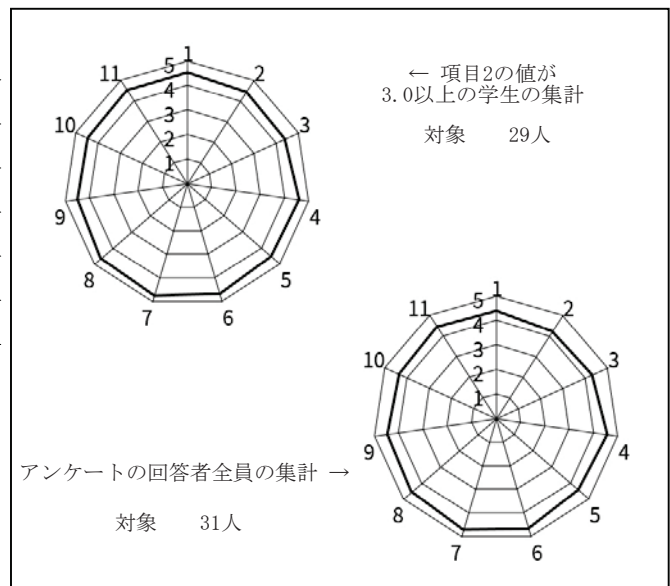
数値データや自由記述を見る限り、講義自体に大きな問題があるようには思われない。しかし、履修者が一定数を超えると、厳格に出席管理を行った場合、授業自体に興味はないが出席確認のためだけに参加する意欲の低い履修生も一定の割合でいるため、講義室の雰囲気は緩み、だらけたものとなってしまった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今年度は出席確認を厳格に行ったが、これについては一定の効果があったと考えている。しかし、出席はするが学習意欲が低く、単位を取るためだけに講義に来る学生が多くいたことは大きな誤算であった。カリキュラムの位置づけ上、比較的専門性の高い講義であり、必要な基礎知識などはなるべく履修者自身の努力で補完してもらう必要があるため、そうしたことを踏まえて、授業内容・評価方法・シラバスの書き方などを工夫していきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 基礎神学(教会論)
授業コード 21C43-001
教員名 寒野 康太
教員コード 104315
登録人数 36
回答数 31
回答率 86.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



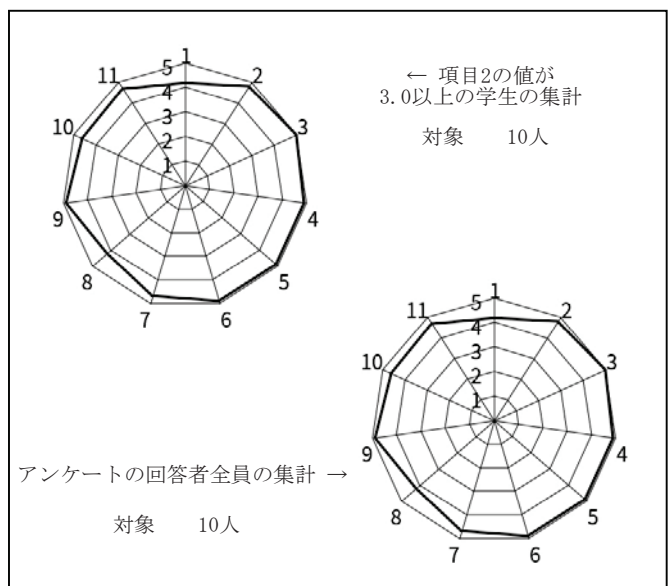
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 本科目は、人文学部DPにある、文化、歴史、社会、および人間のあり方に関する幅広い教養の修得させるということと、同時に、人文学を学ぶ者としての倫理を備え、人間の尊厳を尊重する態度を培うことを目指す科目である。こうした目的は、具体的には、キリスト教学に関する幅広い教養と専門的知識の修得と、キリスト教を中心とする思想的、文化的、歴史的、実践的分野にまたがる学問領域である教会論を講義することで、達成しようとするものである。このために、目標として、キリスト教の基本的な知識が身につけるということ、キリスト教における教会共同体についての考察が可能になっているということ、キリスト教の歴史と教会についての関係を把握しているということを掲げた。これらの目標に関して、概ね達成されたことがアンケートから読み取ることができる。(2) 数値データにおいては、概ね講義への参加する態度、また内容を把握し、表現するということに留意して、各履修生が参加していたことが読み取れる。自由記述に関しても同じような内容だったので、総合的にみて、今回、本科目の目的は一定程度達成されたものと思われる。

(3) もう少し、学生の参加を主体的なものにしていくために、今後も授業の中での発言、発表の機会、形式について改善をはかっていきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	組織神学(秘跡論A)
授業コード	21C44-001
教員名	VARGHESE, Rejimon
教員コード	100555
登録人数	15
回答数	10
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



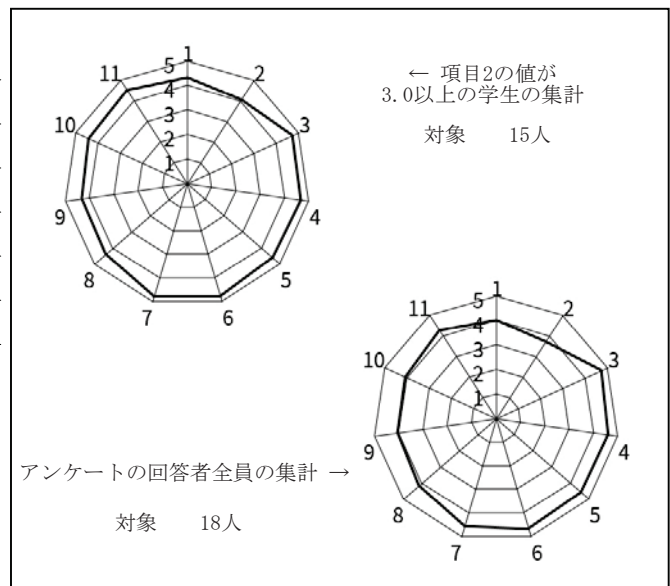
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目の担当教員として組織神学（秘跡論A）を自己評価させていただきます。

- ① この科目の受講生の評価からも、そして私自身もこの授業は開講当初に設定していた目標に到達したと思います。そこに挙げられた4点に受講生が到達したことは彼らの回答内容および論理的論述から把握することができます。
- ② この科目の受講生の自由記述によればこの科目の改善を促すような意見がありません。私は担当教員として十分に準備した上で教団に立ったと自信を持って言えます。受講生の皆さんに大量の講義録を配分したり、講義ごとの内容となる講義録の重要な部分を、パワーポイントを使用しながら講義したりしていました。何人かの受講生の自由記述によると遅刻者に対して厳しい対応を取った方がいいと挙げられているが、授業開始の際にもそれ以外の時にも授業に遅刻しないようにと注意したことがあります。それにもかかわらず遅刻していた学生がおったことは事実だが、それはその学生の授業に対する意欲又は取り込みのなさを示しているのではないかと思います。大学は大人の学生を扱っているという面もあるけれども・・・。
- ③既に 記述したように、今回の受講生は授業内容の改善を指摘していません。だから、次回も同じようにこの授業を行なっていきたいと思います。一つの改善点として考えられるのは、学生の学習意欲を引き出すこと、積極的な授業参加を今より促すことかなと思います。その反面、日本人の学生はあまり質問しないし、担当教員が学生に質問しても答えてもらえないことは事実なので、何か方法を考えてみたいと思います。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 宗教史I
授業コード 21C57-001
教員名 守屋 友江
教員コード 104474
登録人数 32
回答数 18
回答率 56.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

設定目標としては「近代日本宗教史を学び、現代の宗教がどういう経緯で今日の姿をとるに至ったのかを理解できるようになる、仏教、神道、キリスト教、神道、民間信仰など諸宗教の相互関係を、宗教的な多文化共生の視点から実証的に考察できるようになる」の2点であるが、毎回のリアクションペーパーを見る限り、受講生はおおむね内容をよく理解していた。教員としても、受講生のコメントに学ばせてもらう事も多く、感謝したい。到達の程度はかなり高いといえる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

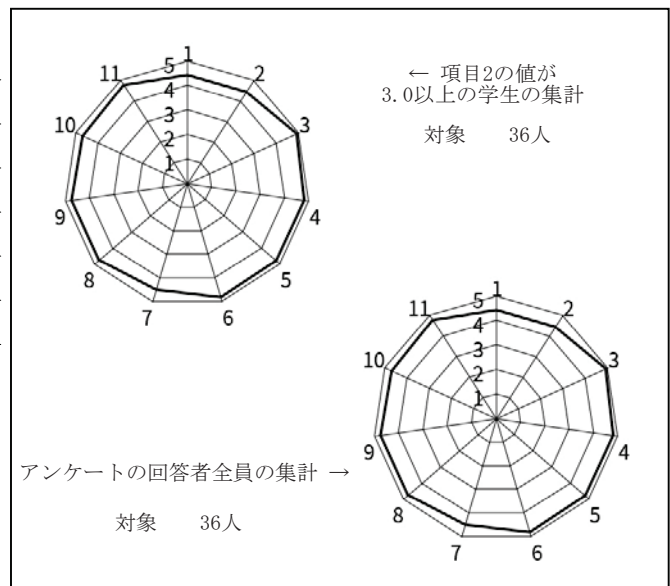
授業内容についての満足度が全般に高く、その点は受講生の理解度の高さと比例していると思われる。分かりやすい授業のために配付資料を工夫した点を評価してくれたのは、こちらとしても励みになった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

史料を読む時間が長い点、また話し方に癖がある点について指摘があったので、今後、改善するようにしたい。教室の空調については、設定の関係で授業中に何度か切れてしまうので、これは教学企画課に改善を申し出ることとしたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 生命と倫理問題1
授業コード 13A03-001
教員名 奥田 太郎
教員コード 100642
登録人数 45
回答数 36
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

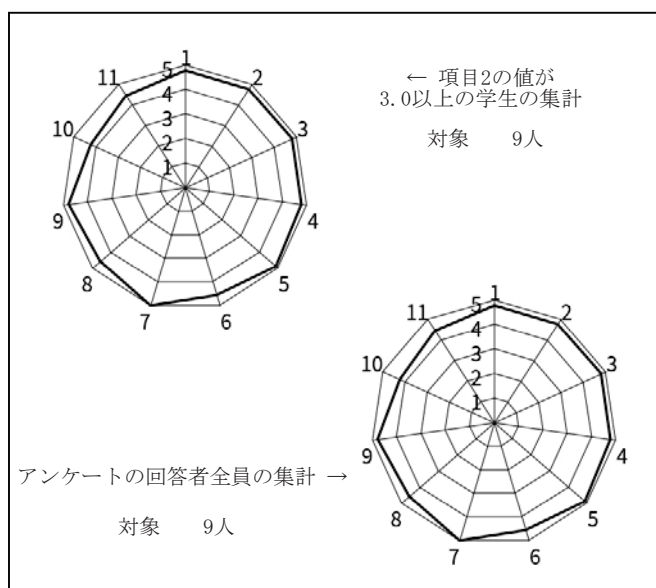
(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度：受講生が作成した提出課題の内容、および、自由記述欄でのいくつかの感想から、目標到達度は良好であったことが伺われる。

(2) 数値データと自由記述を踏まえた総合的な自己点検・評価：今回は、50名弱の受講者に対してアンケート回答者は36名と少ない回答率であったが、極めて高い評価であった。自由記述からも、受講者にとって極めて満足度の高いものであったことが窺われる。前年度と同様、授業内で受講者に求めるワークの意味を毎回なるべく丁寧に説明し、学修者自身が何のためにそのワークをしているのかをその都度自覚するプロセスを採用した結果だと思われる。今年度は授業の開始時にこの授業での学び方についてより丁寧に説明したことで、授業内容へのコミットメントの高い受講者が受講することになった。このことも高評価の要因かもしれない。

(3) 次学期以降に向けて：自由記述にあったコメントのなかで、休憩時間を15分しっかりとってほしい、との要望がいくつかあった。この授業は、2時限連続で実施している都合上、中間の休憩時間は少し短めにして授業全体を早めに終了する形をとっていたが、やはり休憩時間を十分にとることで受講者の集中力にもよい効果があると思われるため、次年度は休憩時間をしっかりとりたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解6<国際科目群>
授業コード 13C01-901
教員名 MCMULLEN, Matthew
教員コード 103838
登録人数 38
回答数 9
回答率 23.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



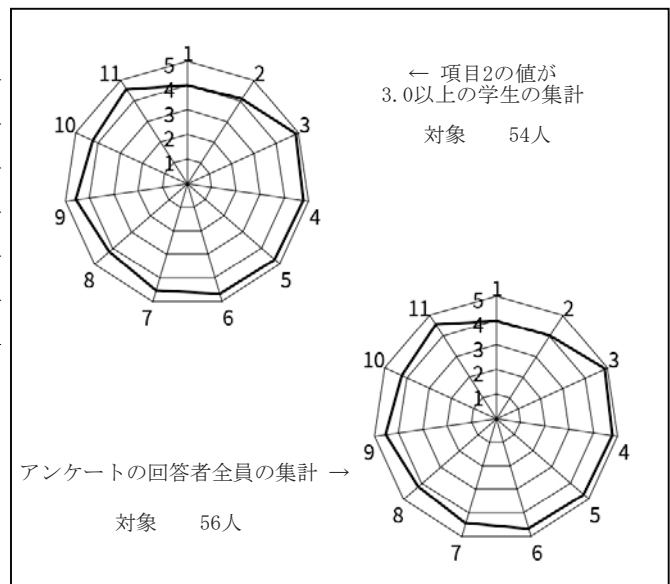
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is my least favorite course, mostly because the content has become rather boring to me. Also, there is overlap with another course, so I think many of the same students take both courses because and reuse their homework. I may change the topic next year. The course as good as I could have made it this year. This is the first time I taught it during the first period. As expected, fewer students were in attendance compared with afternoon classes. Probably about half of the students had taken my other courses.

As always, the survey results are not helpful for considering improvements for the course. One student suggested that the course requires a high level of English and that I should make this explicit during the first class. However, I am very clear in the syllabus and during the orientation that the course requires students to write and speak in English. I do not know how I can make this point more clearly. Also, as a 国際科目群, the fact that English is required is obvious.

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 情報サービス論
授業コード 15P03-001
教員名 浅石 卓真
教員コード 103263
登録人数 67
回答数 56
回答率 83.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講当初の目標は「1. 図書館における主な情報サービスの概要を理解できるようになる」「2. 情報サービスで使われる情報源（参考図書、データベース）について理解できるようになる」「3. 二次資料を作成・評価できるようになる」であった。授業内試験及びレポートを見る限り、FまたはX評価の学生は1割以下であり、概ね達成できたと考えている

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

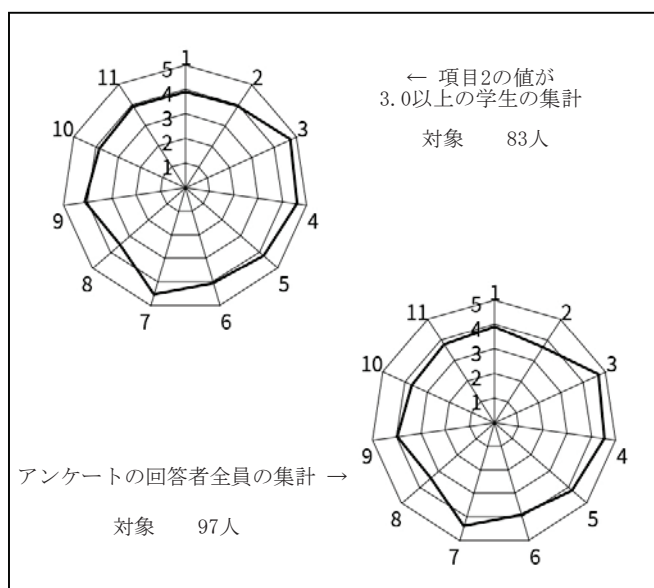
数値データについては、全体平均および科目登録者数別の平均とほとんど変わらず、大きな問題点は見出されない。自由記述については、良かった点や評価できる点は動画や詳細な資料が挙げられていること、改善点として「特になし」が多いことから、全体としては一定の水準に達していると評価できる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

自由記述については、配布資料以外の追加資料もWebClassで閲覧できるようにしてほしいという意見が複数見られたため、次年度以降はその要望を取り入れる予定である。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	哲学概論
授業コード	22B02-001
教員名	谷口 佳津宏
教員コード	016550
登録人数	129
回答数	97
回答率	75.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

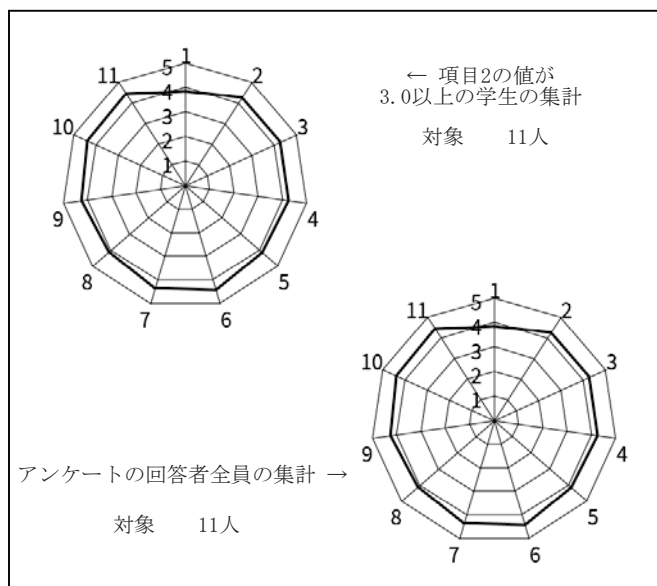


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目的は「1. 「哲学とは何か」と人から尋ねられたとき、下を向かずに堂々と答えることができるようになる。2. 哲学と隣接諸学問の共通点並びに違いを理解できるようになる。3. 代表的な哲学者の名前を挙げることができるようになる。4. 日本で哲学を学ぶということの意味を知っているようになる。」の四つであるが、最終試験の成績から判断するかぎりでは達成率（合格者数の割合）は約60%であった。受験者総数129名中、A+が30名、Fが35名であり、明らかに二極化の傾向がみられるが、この傾向は前回（2022年）のアンケートのときと変わっていない。他の科目ではこうした傾向はみられないので、これは本科目が学科選択必修科目であること（動機づけの比較的低い登録者の割合が他の科目に較べて高くなる傾向にあるということ）にひとつの要因があるのではないかと考えられる。設問11の総合的評価で評価1の者が7名いたこともこれと関係していると考えられる。自由記述欄からは「スライドが多くてわかりやすい」という意見もあれば、一方では「スライドが理解しにくいと感じた」という意見もあり、また「配布資料が見やすい」という意見もあれば「講義資料がわかりにくい」という意見もありというように、ここでも、二極化の傾向がみられた。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	応用哲学B
授業コード	22C20-001
教員名	坂下 浩司
教員コード	100471
登録人数	14
回答数	11
回答率	78.6%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

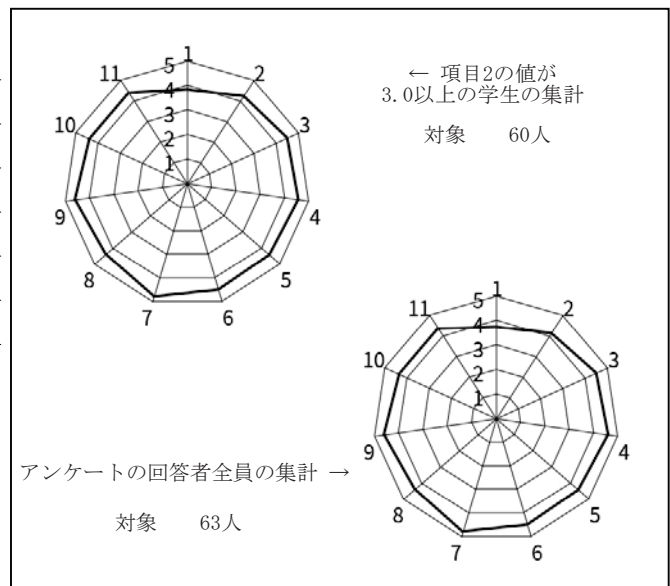


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は、「歴史哲学の基本問題やそれに対する様々な立場とか考え方とかが分かっている」であった。昨年度のこの授業では、カーの『歴史とは何か』の最も基本的な第1章をやったあとは、日本の歴史学者や外国の哲学者など別著者の歴史論をいくつも読み、「様々な立場とか考え方」を学ぶこと、幅広くに力点を置いたが、今回の授業では、カーの第1章、第3章、第4章と進み、「歴史哲学の基本問題」を主眼にして、専門的にカーの歴史哲学に詳しくなることをねらった。昨年度よりも難易度は高めになったが、「項目2：内容を理解する主体的参加・努力」が「4.27」であることから分かるように、参加者のマニアックな熱心さにも支えられて、「項目1：履修前の興味」が「3.82」であったのに対し、「項目10：到達目標の力」が「4.36」、「項目11：全体的満足」が「4.45」になったので、目標は到達された。自由記述では、「学生が主体的に著書について話し合った」、「演習形式で自分で意見を言える授業はあまりなかったので新鮮だった」、「平和な雰囲気発言しやすかった」、「分からない箇所について先生からのフォローが手厚かった」とあり、今後も心がけたい。反省点は、「古代ローマにカエサルという人がいたことを知らなかった」と言う人がおり、私があまりのことに唖然としたら出てこなくなった人がいたことで、今後はその場でみなで調べるようにしたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(東南アジア)
授業コード 22C43-001
教員名 宮沢 千尋
教員コード 019562
登録人数 97
回答数 63
回答率 64.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

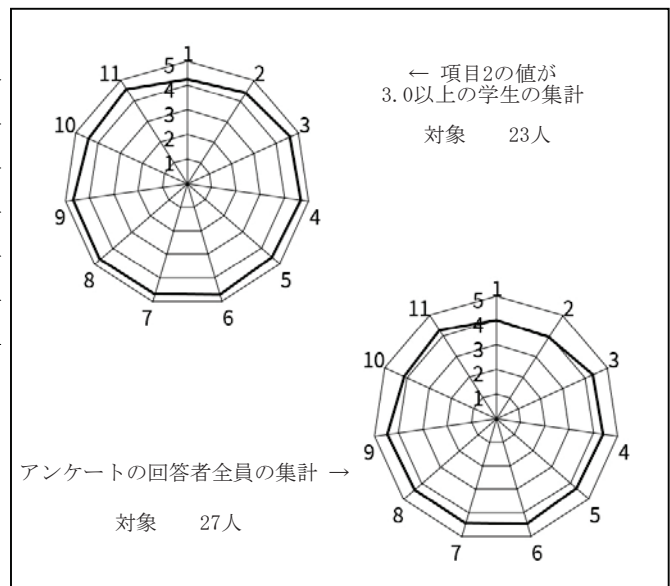
①項目1以外の各項目、項目1から11の平均、項目3から11の平均が4点台であり、自由記述からも開講当初に設定していた目標が達成されたのではないかとされたのではないかと考える

②自由記述で複数の履修者から評価された点は「説明がわかりやすいこと」、「毎回レジメを用意したこと」、「映像や資料を用意して説明したこと」、「リアクションペーパーを課し、その解説をしたことで理解が深まったこと」、「授業時間中に質問の時間を設けたこと」などである。反面、自由記述では以上の肯定的評価とは正反対の記述もあった。すなわち「授業を聞き、レジメを読んでも内容が理解しづらかった」「スライドの情報が少なく、理解しづらい。メモが追いつかない」「独自で深めたい部分があったので参考文献を教えてほしかった」「板書の字が読みづらい部分があった」などである。しかし、これらの授業に対する注文に対しては、もちろん教える側が配慮、改善しなければならないと思うが、大半は質問すれば解決したことだとも考える。授業の途中で休憩兼webclassを用いての質問を受け付ける時間を毎回必ず取っている。質問するという労力を惜しむ姿勢は、学修者として適切なのか？

③履修者に学力、理解力の差が大きいことを意識して、わかりやすい授業を心がけたい。MB2教室のピンマイクを手で持つとノイズが出ることについて多くの指摘を受けた。使いかたに留意したい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義（弥生・古墳時代論）
授業コード	22C78-001
教員名	原田 昌浩
教員コード	104974
登録人数	70
回答数	27
回答率	38.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義では、特殊講義という講義の特性を踏まえて

1. 考古学的な思考方法によって物事をとらえられるようになる
2. 古墳時代の古代国家形成過程を考古学的にとらえられるようになる
3. 研究の手法を修得し、論理展開のしかたができるようになる

という目標を立てて講義をおこなった。

シラバスにも記載したとおり、考古学的な基礎知識などがついていることを前提として専門的な講義をおこなった。そのため、一部の学生からは、基礎を学びたかったというような声もあったが、毎授業で質問を記述する時間と、それに対応する時間を設けたことで、一定程度の要望には応えられたと思え、その点を評価する声もあった。目標2. 3. については、全体の42%がA以上の成績を収めていることもあり、達成できたものと考えられる。

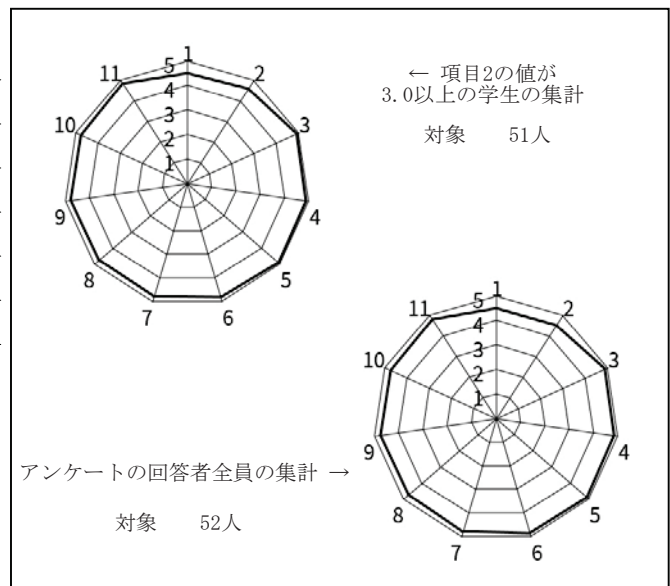
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

ほとんどの学生が4以上の評価をしており、問題はないものと考えられるが、まったく興味を持っていない学生からはすべて1などといった極端な回答も見られた。興味を持っていない学生向けに図録等を回覧するなど工夫をおこなっていたが、ほとんどの学生からは好意的であったため、興味関心をもつ学生のために継続したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など特に問題ない評価であったが、これに慢心することなく、継続したい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 こころとは1
授業コード 13E01-001
教員名 中村 和彦
教員コード 055731
登録人数 59
回答数 52
回答率 88.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

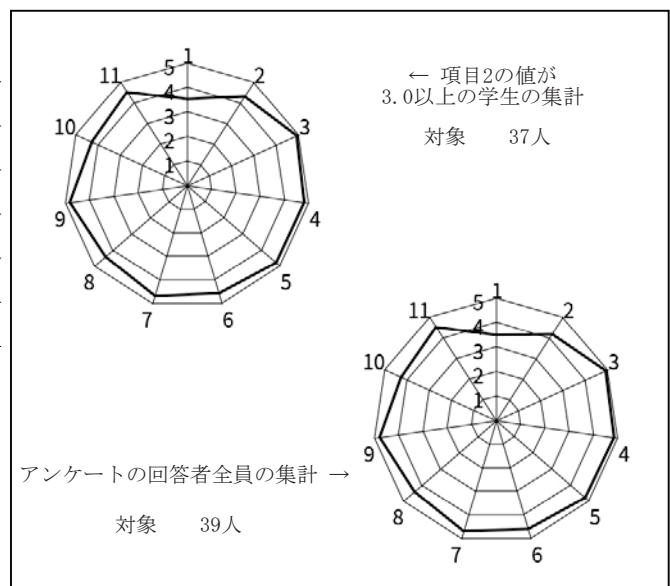


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標として、(1)他者と関わる際に、自分自身のこころの中で何が起きているかに目を向けることができる、(2)他者のこころの中で起きていることや、お互いの関係の中で起きている心理に目を向けることができる、(3)授業の中で扱われた心理学の基礎知識を理解している、の3点を設定していた。毎回の授業終了時に提出してもらう「体験小レポート（気づきや学び、授業に対するフィードバックを記入する用紙）」から、(1)と(2)について充分目が向けられていたと考えられる。また、設問10の平均が4.73であり、受講生もこの授業を通して到達目標に掲げられた力が身に付いてきたと捉えていることが伺える。設問3から設問11の平均値はすべて4.70を超えており、この授業に対する学生の評価が高く、この授業を担当するのは今年度が初めてであったが、学生の学びにつながる授業が展開できたと考えられる。自由記述では、他学部や他学年の学生との交流、体験学習が多かったこと、知らない人とのグルーピングが工夫されていたことなどがよかった点として挙げられていた。来年度以降も、「体験小レポート」で授業に対するフィードバックをもらいながら、学生が生き生きと学ぶことができる授業を展開していきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IB
授業コード 23A05-001
教員名 土屋 耕治
教員コード 102287
登録人数 42
回答数 39
回答率 92.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、心理人間学科の必修科目として開講されている。3クラスが同じ教材を用い行われ、論述文・論文を読み解けるようになることが目標とされていた。

①目標と到達の程度

本科目は論文を批判的に読み、要約・意見をまとめる力の習得を目標とした。到達度を問う項目10の平均は4.26、授業運営関連の項目3～5は4.82～4.92と高得点で、シラバスに沿った授業が目標達成に寄与したと判断できる。

②総合的自己点検・評価

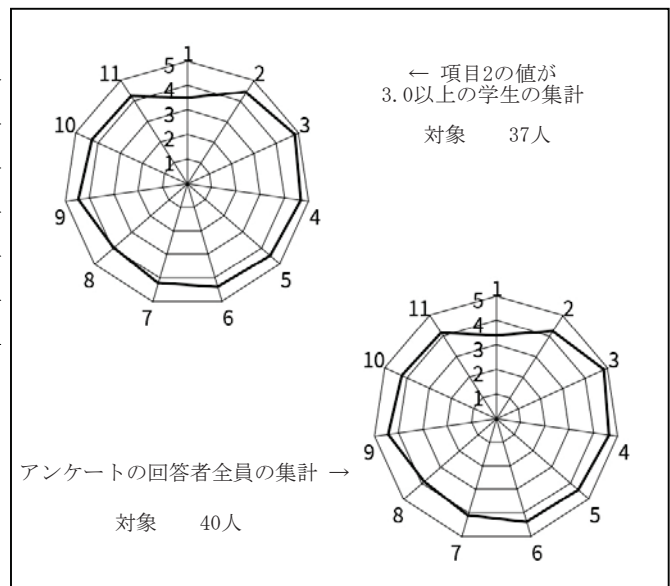
満足度（項目11）は4.51で良好であった。自由記述では「優れたレポート例の共有」「活発なグループ討議」「資料のオンライン提供」が高く評価された。一方、「クリティークの視点が不明瞭」「統計知識不足で論文理解に苦労」といった課題も挙げた。授業前の興味（項目1）が3.49と低めだったが、主体的活動を通じ学習意欲を高められた点は成果であると言えるだろう。

③改善点・今後の方針

次年度は（1）クリティークの評価基準を具体例で提示し段階的フィードバックを行う、（2）統計・図表読解の基礎ガイダンスを序盤に実施する、（3）教科書使用日を明示し資料フォントを拡大する、（4）空調・座席配置を調整し議論しやすい環境を整える、といった改善により到達度と満足度のさらなる向上を図る。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IB
授業コード 23A05-002
教員名 高橋 亜希子
教員コード 103582
登録人数 44
回答数 40
回答率 90.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

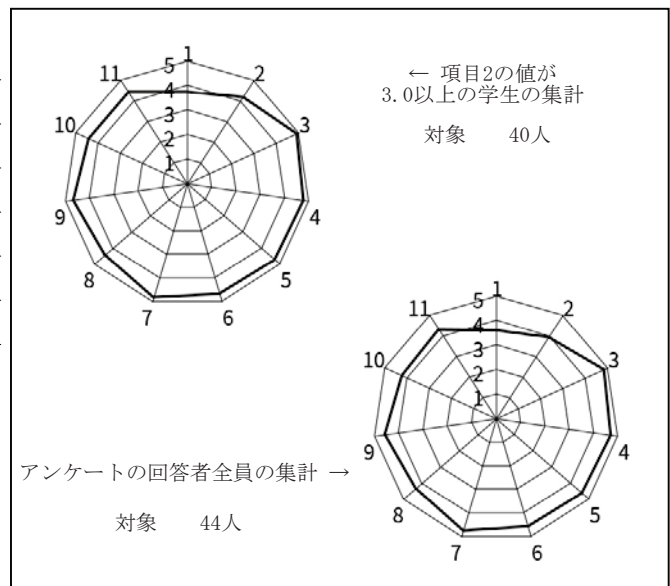


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業は、1年生に対して、ゼミでの指導や卒論作成に必要とされる、学術論文の読み方、レジュメの作り方、の方法を知ることが目的としていた。「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか」の回答が4.20、「与えられた課題をこなすことで、しっかりと実力がついていった。授業設計や指導方略が適切であると思う」「論文を読む力、そして内容を分析する力が身についた」という自由記述の回答もあり、設定した目標にはある程度到達したと考えられる。②本授業は作成したレジュメ等をグループで読み会い、グループで質問を出し、それについて授業者が回答する形式で進めた。「クリティークのところを先生が解説してくださったり、グループ活動を重視してくださったり分からないところも理解できた」など、授業形式や解説は学生に理解を促すものになったと思う。また、グループの組み替えを一度行ったが「班だけでなくほかの班と入れ替えたメンバーで、話し合ったりする時間が設けられていたので、わからないところをわからないままにすることがなく文献に取り組めた」とあり、グループの組み替えも意味があったと思われる。③一方で、解説の時間が長かった、レジュメの締め切りを1日延ばしてほしい、グループの組み替えをもっと行ってほしいという意見があり、この点については、次年度修正していきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 近代教育と子ども
授業コード 23C41-001
教員名 林 雅代
教員コード 018796
登録人数 89
回答数 44
回答率 49.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

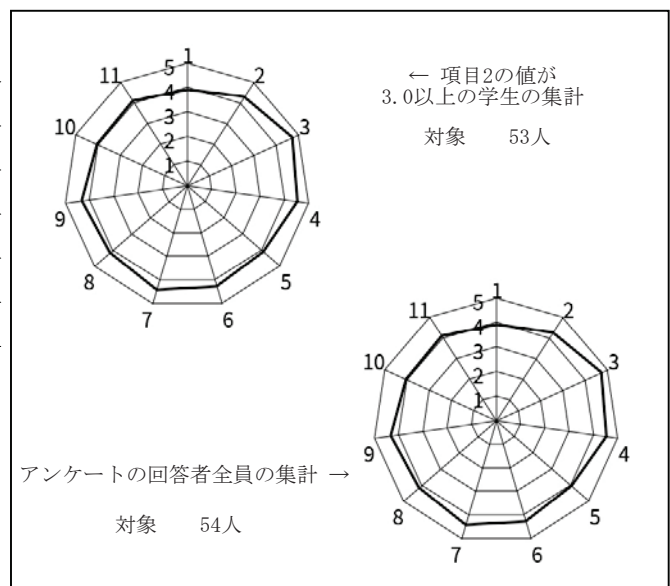


授業評価結果を踏まえた点検・評価

心理人間学科の3年次選択科目であるが、他学科や他学部生も1割超受講しているため、受講生の興味関心や前提知識がどのようなものかを推し量ることが難しかった。授業の内容がアメリカの大学の時事的トピックに関わるころが多々あり、時事問題を示しながらそれとリンクする背景として、アメリカの大学史や社会史に関する各回の授業内容を説明するということを意識した。評価項目3～11がすべて4以上という結果となっていることや、自由記述の項目12の記述でも、授業資料や授業内容の理解度という点で、おおむね適切であったと考えられる。ただし、授業評価の回答者は、登録者の半分程度であり、毎回の授業出席者が受講者の3分の2程度であったということを考慮しても、授業評価の回答者が普段から出席して真面目に受講する学生が中心であったという可能性は高い。実際、評価項目1や2の回答は4に近く、授業内容に関心を持ち、また毎回の授業の前後の学習にも熱心に取り組む学生が多かったと思われる。授業担当者としてはそういう学生に全体として良い評価を得られたことは、やりがいを感じられる結果であった。その一方で、中間試験や期末試験の解答から、授業を通じた全体的なねらい、全体として理解して欲しいと考えていることが、必ずしも理解されていないとも感じたので、授業全体を通じたねらいを意識的に伝えていく必要があると思われる。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	心理調査法II
授業コード	23C48-001
教員名	藤岡 慧
教員コード	105130
登録人数	58
回答数	54
回答率	93.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

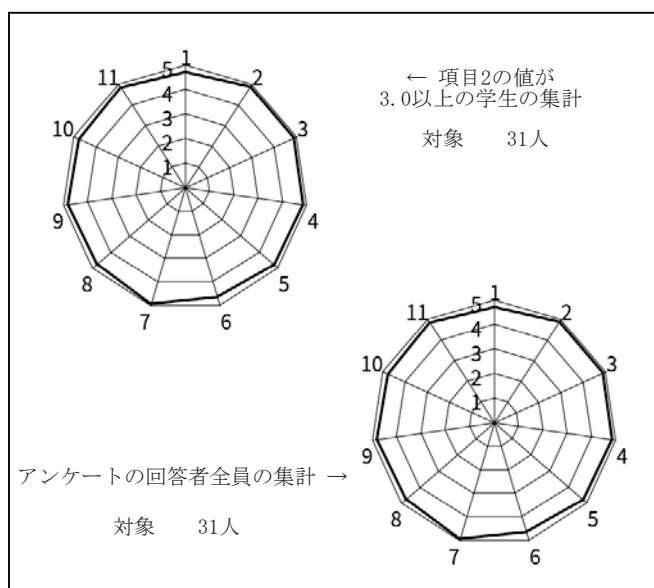


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、Q1に開講していた心理調査法Ⅰの続きにあたる授業であり、連続で受講することで「問い」の設定，調査計画の立案，調査の実施，データ分析，論文執筆を一貫して体験してもらうことが目的であった。評価の結果および課題としていたレポートを確認した限りでは，ある程度は目的を達成できたと思われる。ただし，自由記述回答にもあったように，授業中の作業時間はかなり短かったというのはこちらも認識しており，シラバス中に明記したり，授業中に授業外で活動することを指示したりするだけでは不十分であることを痛感した。資料に関しても授業中に提示したもの，授業中には触れていないがWebClassで共有したものと様々であるが，学生はあまり確認していないようである。個人的には学生の自発的な学習を期待したいが，それで学習目標を達成できないのであれば，評価に組み込むなど，学生が学習せざるを得ない仕組みを考えることも必要になってくるかもしれない。PCの充電に関しては，こちらも充電した上で毎回もってくることを指示しているため，充電されておらず授業中に使用できなかったとしても学生の自己責任だと考えている。教室の広さに関しては，Q1の教室が広がったのに比べ，Q2ではかなり狭くなってしまったため，暑い時期には辛そうであった。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	質的研究法I
授業コード	23C49-001
教員名	川浦 佐知子
教員コード	055855
登録人数	38
回答数	31
回答率	81.6%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

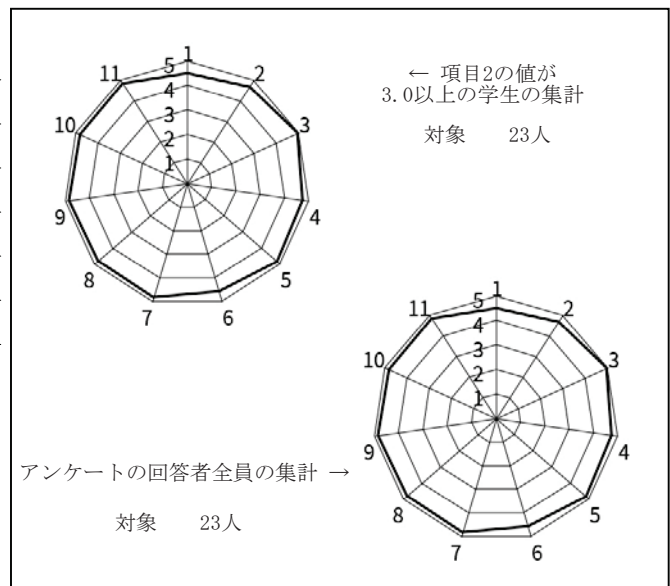


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業到達目標は、1) 質的研究の特徴及び理念の理解、2) 質的研究の手法の理解、3) 質的研究論文の特徴の理解、4) 研究実施に関わる倫理的側面の理解であった。データ収集と分析について理解するため、受講生はロールプレイでインタビュー調査の進め方について学び、サンプルデータを用いてのGTA実習で分析の手順を経験した。これらの実習を通して、仮説生成型である質的研究の特徴を、具体的に理解できるよう心がけた。学生は毎週課題に取り組み、提出週の授業において他の学生とペアになって互いにフィードバックを交わした後、教員に課題を提出。教員は課題にコメントを付して翌週返却し、授業内でいくつかの提出課題をケースとして取り上げ、優れた点、改善点などを示した。設問1の平均は4.71で昨年の4.47と比して高くなっており、以前より明確な意図を持って受講している学生が多いことが伺える。設問2の予習・復習に関しても4.90となっており、課題に取り組む中で予習復習が習慣づけられたと考えられる。設問10の到達目標に掲げられる力の習得についても4.74となっており、データ分析に対する自信を深め、質的な研究を遂行する力を得ていると受講生が感じていると思われる。学生の理解度に応じた授業進行を問うと設問6が4.65となっているので、次年度以降は細やかに学生の理解度を把握しながら授業を進めたい。学生からは、「長年教えてきた先生の分かりやすい説明で、質的調査のことがよくわかった。ゼミでは量的研究を行う人が多く、質的研究を行うなら自分で授業を受けて、独学でやるしかないと思っていた。この授業を受けて、卒論を質的調査でできるかもしれないという自信が湧いてきた」、「先生の教え方が丁寧で、難しい内容でも、順を追って丁寧に理解することができた」、「学生の考えを尊重してくれていて、かつ研究のための発想の手助けを常にしてくれた」、「課題は難易度が高いものだったが、他の受講生と話し合いながら進めることができて理解が深まった。先生が巡回してくれたので、質問しやすかった」、などといったコメントが寄せられた。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学文献講読A
授業コード 23C53-001
教員名 池田 満
教員コード 103141
登録人数 32
回答数 23
回答率 71.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【①開講当初に設定していた目標と到達の程度について】本授業では、学生が社会問題に対し多角的な視点から考察し、主体的に議論に参加することで、深い理解と批判的思考力を養うことを目標としていた。学生からの自由記述では、教員による適切な補助のもとで自発的に学ぶ機会が提供されたこと、ジェンダーについての理解が深まったこと、そして当事者意識の重要性を知ったことなどが挙げられており、設定した目標に対する高い到達度を示すものと考えられる。

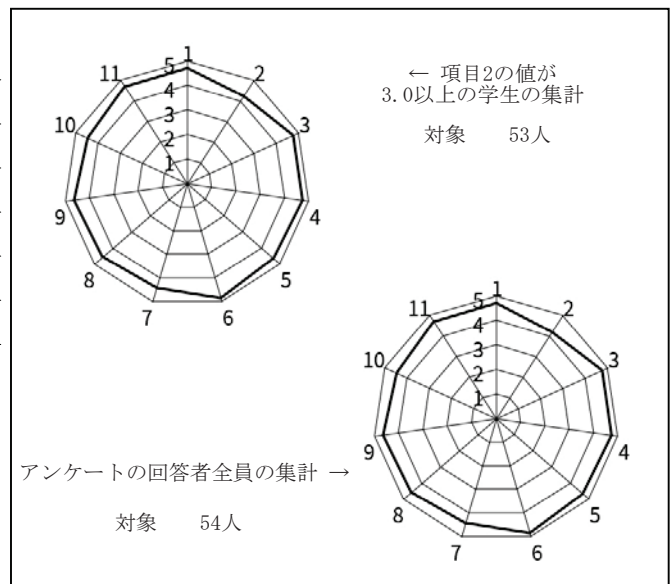
【②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】アンケート結果の数値データでは、項目3「シラバスへの準拠」（4.96点）が最も高く、授業計画が適切に実行されたことを示している。また、項目11「全体的な満足度」（4.87点）も非常に高く、学生が授業内容と進進に満足していたことがうかがえる。項目2「主体的な参加」（4.70点）と項目10「到達目標の達成感」（4.78点）も高い評価であり、学生が積極的に授業に参加し、学習成果を実感できたことが評価できる。

自由記述においても、学生は授業の良かった点、評価できる点として、「先生の適切な補助」、「グループ発表における自発的な学び」、「英語論文を読む機会」、「LGBTの観点での平等性の話の面白さ」、「ジェンダー理解の深化」、「生徒の考える力の尊重」、そして「論文に基づくディスカッションを通じた多角的な思考と意見交換の機会」を挙げている。これらの意見は、数値データが示す高評価を裏付けるものであり、学生主体の学習と多様な視点からの学びが効果的に機能したことを強く示唆している。

【③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など】今回の評価から、学生の主体的な学習意欲を引き出し、議論を通じて深い学びを提供できたという点で、本授業は非常に成功したと評価できる。次クォーター以降もこの良好な点を維持・発展させることを基本方針とする。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	臨床心理学(臨床心理学概論)
授業コード	23C67-001
教員名	中西 美和
教員コード	104813
登録人数	113
回答数	54
回答率	47.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

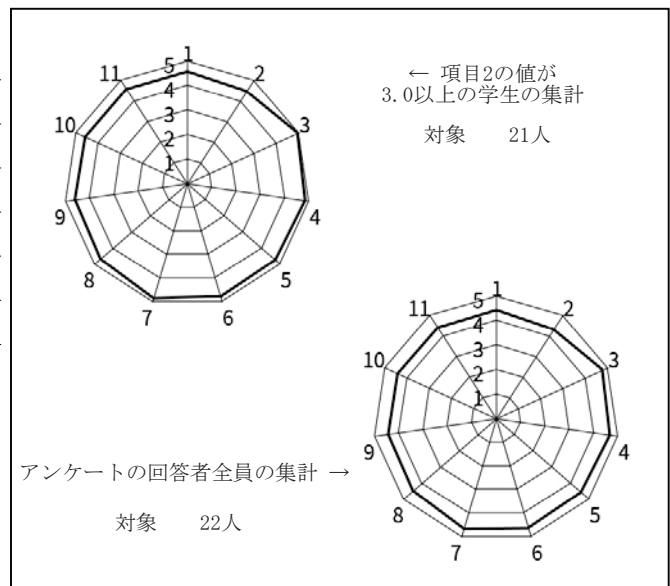


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問項目1のすべての設問項目において、学生の評価平均が4以上であった。これより、到達目標である「1. 臨床心理学の成り立ちについての基礎的事項を理解できるようになる。」「2. 臨床心理学の代表的な理論についての基礎的事項を理解できるようになる。」「3. 臨床心理学的援助を行う上での基礎的な姿勢を身につけることができるようになる。」「4. 自己理解を促進することができるようになる。」は、概ね達成でき、設定していた目標と到達の程度も適切であったと思われる。設問項目1および、自由記述のコメントに基づく次年度に向けての改善点、抱負と方針は以下の通りである。①引き続き、受講学生たちの学ぶ意欲を高められるような小グループでのシェアリングの実施、②予習、復習課題の提示、③空調の管理をすること。上記3点を試みる。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本文化史C
授業コード 24C13-001
教員名 坂井 博美
教員コード 102981
登録人数 82
回答数 22
回答率 26.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

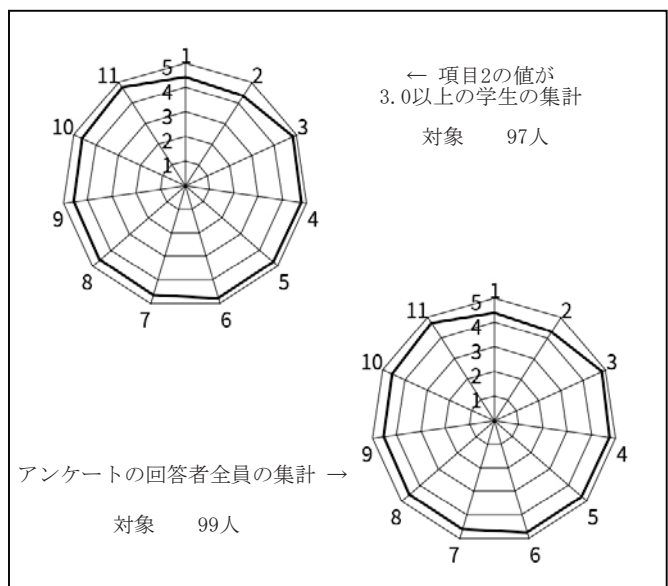


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は概ね達成、到達の程度も良好だったと考える。受講生の受講姿勢も協力的なものであった。アンケートの数値データをみると、回答者において、今回、授業開始前に授業内容への関心は高めであり、その他の質問項目の平均値も概ね良好と思われる。自由記述については、史料が多く紹介されていたことへの評価と、小課題の内容について授業の理解が深まるものだったとの意見などがみられた。小課題については、近年、史料や表を読んでもらって取り組むタイプの課題を増やしている。このタイプの課題の目的は、授業の事前知識や授業を聞く上での視点を提供することを意図したものであるが、この点に一定の意味があることを示す回答があったことはよかった。一方、改善すべき点についての記述はなかったが、これは回答者が少なかったことも影響しているかもしれない。一回あたりの授業での時間配分が計画通りに必ずしも進行できなかったことがあり、その点、次年度は見直しを行いたいと考える。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 近現代文学研究
授業コード 24C35-001
教員名 岸川 俊太郎
教員コード 103907
登録人数 207
回答数 99
回答率 47.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q2の開講科目「近現代文学研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

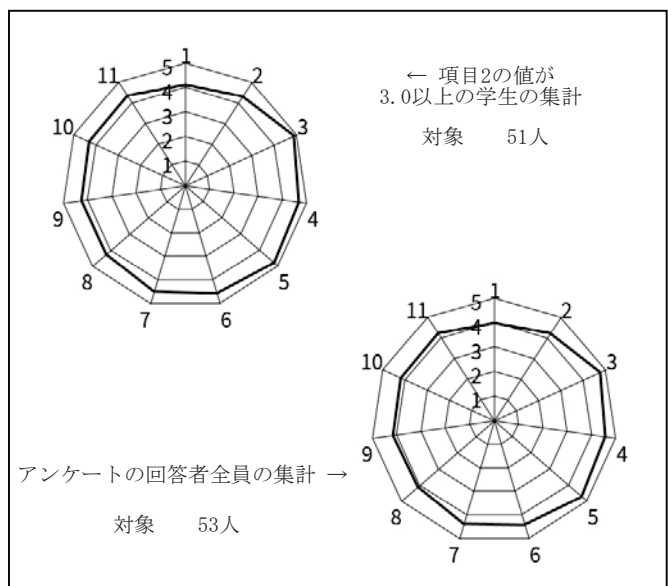
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については「学生による授業評価」の項目3で4.81、項目4で4.76という評価を得たことから確かめられる。

次に、②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では項目1-11の平均値（全体）を上回った。また、全体的な評価となる項目11では4.71という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。項目2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」）については、他の項目より評価がやや低かったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。具体的には、予習に関しては適切な事前課題を課し、復習に関してはリアクションペーパー等の内容を次の授業でフィードバックすることで、学生の主体的な学びの充実を図りたい。また、授業で配布するレジュメについても学生の理解がより深まるように内容の改善に努めたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	古典資料講読
授業コード	24C40-001
教員名	森田 貴之
教員コード	102286
登録人数	99
回答数	53
回答率	53.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



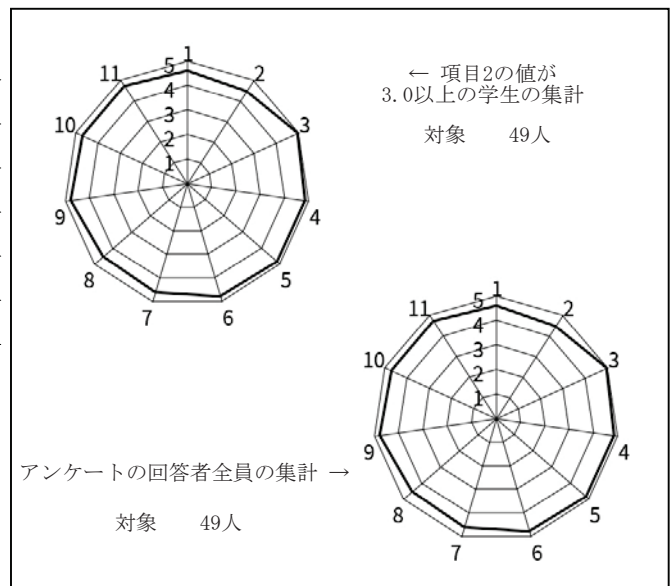
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1の授業開始前の興味が3.98であったのに対して、設問10の到達目標に掲げられた力がついてきていると感じるか、が4.17、設問11の満足度が4.23であり、当初の講義目標はおおむね達成されたものと考えている。必ずしも当初から高い関心を持っている学生だけが受講していたわけではないと思われるが、様々な関心の程度の学生に応えられるよう、またより強い関心を持って講義を選択してもらえるようシラバス等を工夫するようにしたい。

調査対象科目は、日本文化学科の学科科目のうち、「講読」を科目名とする、日本古典文学の専門性の非常に高い知識も求められる内容であった。そのためできるかぎり、日常において、日本文学や古典文学を扱う経験のないであろう学生にも配慮し、できるかぎり現在のメディア・文化の在り方考えるきっかけになるように、また、具体的な関心を高められるように努めたつもりである。その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものがあり、その意図はある程度は伝わっていたと感じる。一部、リアクションペーパーの提出期限に対する不満もあった。授業後の素直な感想・考えをそのまま記述してもらいという意図によるものであったが、その意図が十分でなかった。授業内で丁寧に伝達することを心がけたい。また多様な事情を抱えた学生全体への配慮も心がけたい。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。なお、授業内で回答を呼びかけ、十分な時間をとったが、回答数が半数程度であった。回答の求め方などについて改善を期したい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	漢文学
授業コード	24C44-001
教員名	西岡 淳
教員コード	019315
登録人数	80
回答数	49
回答率	61.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

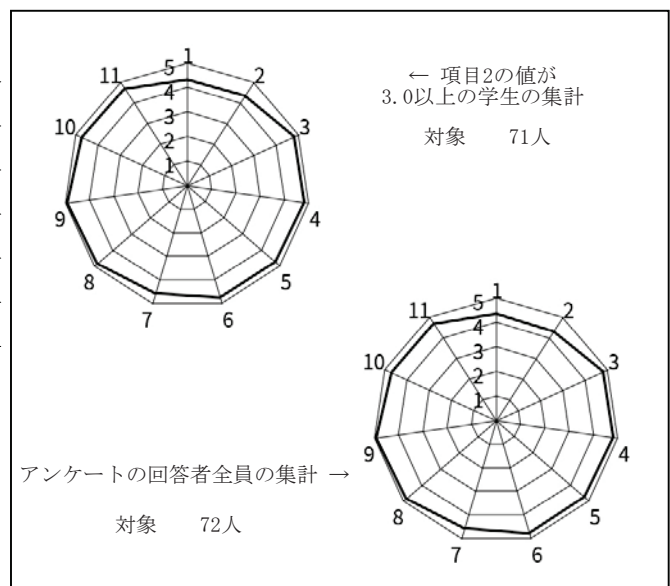


授業評価結果を踏まえた点検・評価

漢和辞典を引いて、返り点を施した漢詩を読めるようになることがこの授業の目標である。受講者は辞書を準備し、漢詩を印刷した教材の日本語訳（余裕があれば書き下し文も）を授業時間内に作成する。授業の後半に担当者が読解・解説し、各受講者が自分で添削した答案を毎回提出、これを担当者が閲覧し必要な部分に修正を加え、次回までに返却する形式である。授業評価では全評価項目の平均値は4.72で、どの項目も4.50以上の平均値が得られた。また実際に提出物の出来具合からも、受講生は授業を経て漢詩が着実に読めるようになっており、授業目標はほぼ達成されたと考えられる。改善すべき点としては、自由記述の中に「声が聞き取りにくい」「和訳を口頭で言う場合、何か音がすると聞き逃すことがある」との意見が見られたことから、繰り返し丁寧に説明するよう注意したい。評価できる点としては、「解説が丁寧に分かりやすい」「これといった事前知識や予習をとりわけ必要とせず、毎度毎度の講義で全て完結させていた点」、「漢詩特有の訳す際に注意すべきポイントだけでなく、作者情報や文学史の情報を踏まえた解説をしてくれる」「添削をしてくれること。コメントが書いてあるときはさらに嬉しくてモチベーションに繋がった」等の記述があった。授業環境についての意見は特になかった。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語教授法
授業コード 24C58-001
教員名 上田 崇仁
教員コード 103619
登録人数 92
回答数 72
回答率 78.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



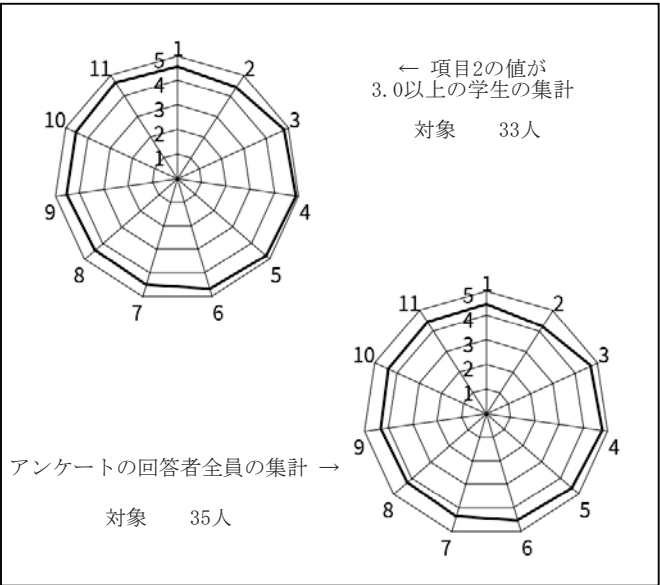
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①今回、初めて「日本語教育の参照枠」を取り扱うにあたり、担当教員自身が研修に参加した結果を反映させるため、当初のシラバスと実施回との変更がありました。しかしながら、開講当初に設定していた目標と到達の程度については、おおむね想定通りかと考えます。
- ②学生相互でのディスカッションや作業についてはおおむね高評価を受けていると判断します。要望としてパワーポイントのスライドの共有ということが挙げられていましたが、欠席者の対応と復習という観点から、スライドそのものの共有ではない形での資料提供を検討したいと考えます。文化庁から提供されている日本語教員養成のための動画資料の活用が順調に行えたと思う一方で、毎時間、30分の時間を捻出することが難しい側面もあり、それが、スライドの進行が速かったという評価につながっているようにも考えます。この点は、授業の構成について再検討したいと考えているところです。
- ③別の授業からもスライドの共有という要望がありました。スライドそのものの共有は、欠席者が解説を聞くことなくスライドに示されていることだけで理解したと考えることを避けたいので、今後も実施する予定はありませんが、復習したいという要望には前向きに答えたいと考えていますので、復習資料の作成（活用するかどうかは学生に任せる）を検討します。

そのほか、空調についての要望は、大教室の場合、対応が非常に困難です。

2025年度Q 2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

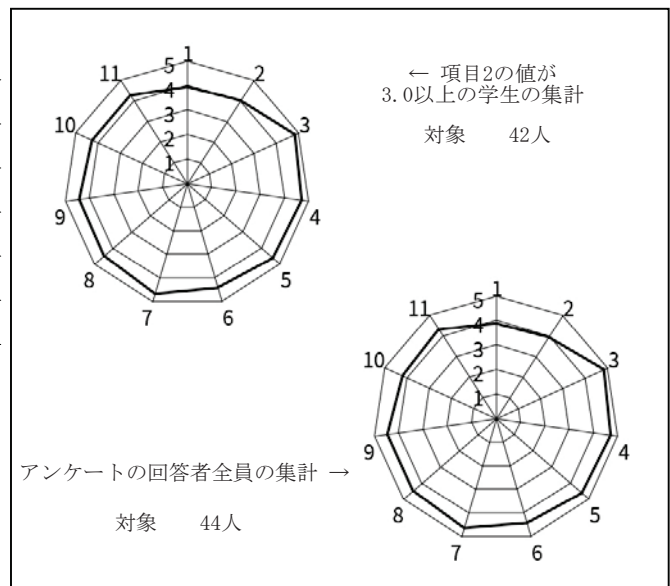
科目名	現代の考古学
授業コード	22C12-001
教員名	木村 有作
教員コード	104607
登録人数	96
回答数	35
回答率	36.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 東アジア考古学C
授業コード 22C40-001
教員名 伊藤 正人
教員コード 104262
登録人数 80
回答数 44
回答率 55.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

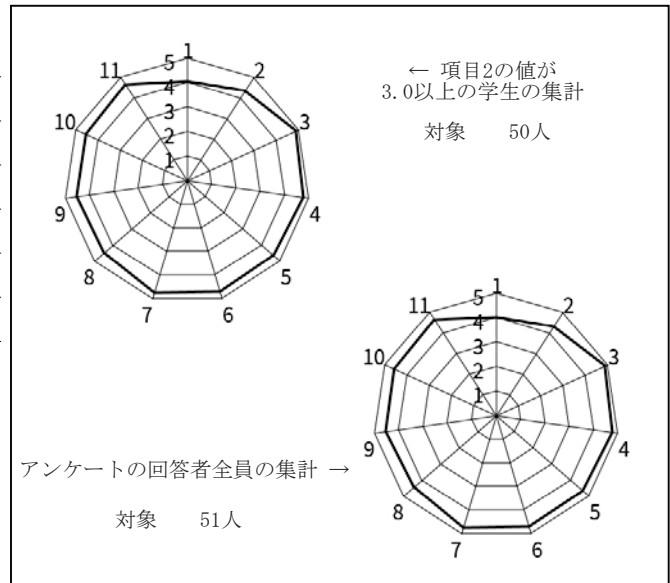


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①縄文時代・縄文文化に関する基礎的な知識を確認し、関連する諸科学の情報も合わせて、その内容を現在の社会・生活と対比することで各自が興味を深めて欲しいと考えている。人類文化学科の学生が多いが、考古学の専攻生は一部と推定され、他学部・学科生が3割以上を占めたことから、考古学の基礎的・一般的情報も混えるよう努めた。表題（縄文土器・土偶論）が掲げる専門的情報とのバランスの取り方に難しい面はあるが、一律な達成度・具体的目標を設定してはいないので、各自の問題意識のあり方を最終課題の記述意識・内容によって評価した。
- ②アンケートの回答者が受講者の6割強であるが、未入力者は批判的意見を抱く傾向が強いと推定する。設問1・2の直接的向上は難しいが、設問3・4の数値によれば、基本的方向性の修正は必要ないと思う。考古学の基礎知識を持たない受講生に対する話題と、専攻生の期待に応える話題が関連するように構成していきたい。
- ③スライドとレジュメを用いる形は継続する予定である。レジュメの構成がプリント配布を想定している点は改善すべきと思う。考古学の基礎知識や、最新の成果をわかりやすく伝えることを基本として、それらが実社会や実生活にどのように関わるのかも示していきたい。受講生からの質問・疑問のメールには、講義中で回答を示すなどしたが、知識や理解の程度を把握するように努めたい。考古学や関連諸科学と実生活との関わりをわかりやすく盛り込むことで、各自に受講の意義を伝えたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義（アジア・日本の人類学）
授業コード	22C76-002
教員名	菅沼 文乃
教員コード	150333
登録人数	89
回答数	51
回答率	57.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講当初に設定していた到達目標は、(1)沖縄の文化・歴史的様相とその特徴、(2)現在の沖縄社会が直面する諸問題に人類学が果たす役割、について受講生の関心を深めさせることであった。このために、講義内容を要点をふまえ振り返る時間を都度設けること、講義で使用したスライド資料の配布、(2)についてとくに人類文化学科以外の学生にむけて文化人類学に関する知識の解説を盛り込むこと、により学生の理解を促しある程度達成することができた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

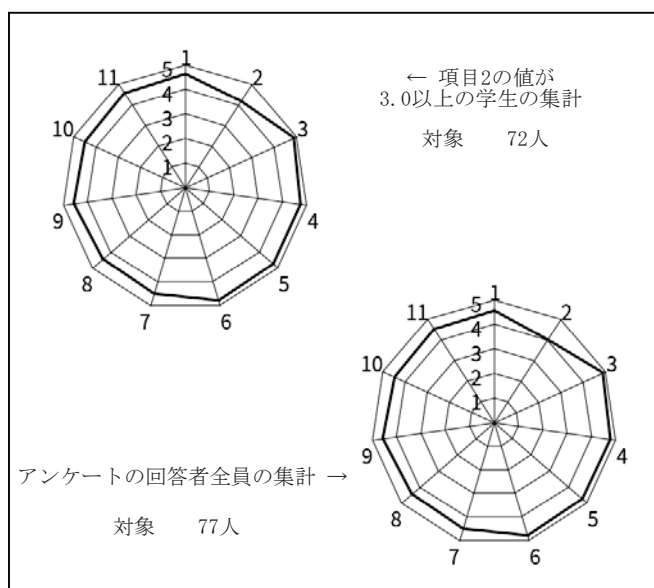
学生の学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や予習や復習を含め授業時間外の自主的な学習を促すための指導や情報提供、課題設定について、引き続き改善の余地がある（アンケート設問項目(2)(8)）。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。

講義時間やWebclass等を有効に用いて、講義内容について気軽に質問できる環境づくりを心がける。リアクションペーパーの反応等をふまえて、学生が関心を持つテーマ・話題を積極的に講義に取り入れ、興味心を高める。以上を通して、それぞれの関心・目的に応じて積極的に参加できるような講義の組み立てをめざす。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 障害者・障害児心理学
授業コード 23C70-001
教員名 谷口 まち子
教員コード 104476
登録人数 124
回答数 77
回答率 62.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

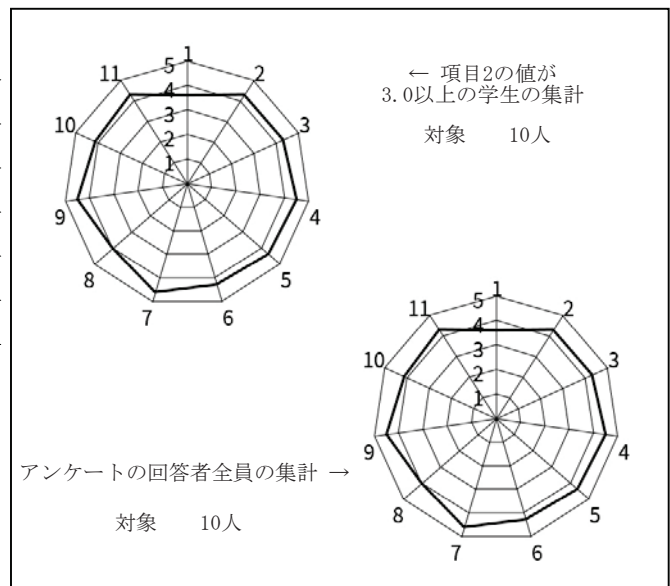


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①昨年度より、授業の内容と到達目標とのつながりについて授業内で繰り返し伝えるようにしており、項目4、10共に全ての平均より高かったことから、学生が到達目標に応じた力を身に着けるといふ点はある程度達成されていると感じた。②予習復習主体性に関する項目2以外、全体、登録者数別の平均より高い数値になっており、全体としては比較的満足いく結果だったと考えている。項目1の値が高いことからわかるように、元々授業内容に興味と意欲をもって望んだ学生が多かったこともその一因のように思える。全体を通して「実務経験のある教員等による科目」かつ「公認心理師対応科目」でもあったため、いかに障害を身近に感じてもらい、実践のために役にたててもらおうかという点を重視していた。そのため、自由記述内に、映像資料やワーク等を含めたことで学んだ内容と現実を具体的に結び付けて考えることができたという旨の記述が多く、項目6の値が特に高かったことは成果であり、次年度以降も続けていきたいと考えている。③問題点としては、授業の予習復習に関して繰り返しアナウンスはしているものの、例年通り、2は全ての平均値を下回っていたことがあげられる。これまで主体性にまかせてきたものの、来年度は小テストをはさむなどして、予習復習をうながすことも検討したい。また、教室が暑かったという自由記述が非常に多かったことから、今後は早めに施設課に相談したいと思った。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 公認心理師関係行政論(関係行政論)
授業コード 23C80-001
教員名 相馬 信子
教員コード 104432
登録人数 13
回答数 10
回答率 76.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

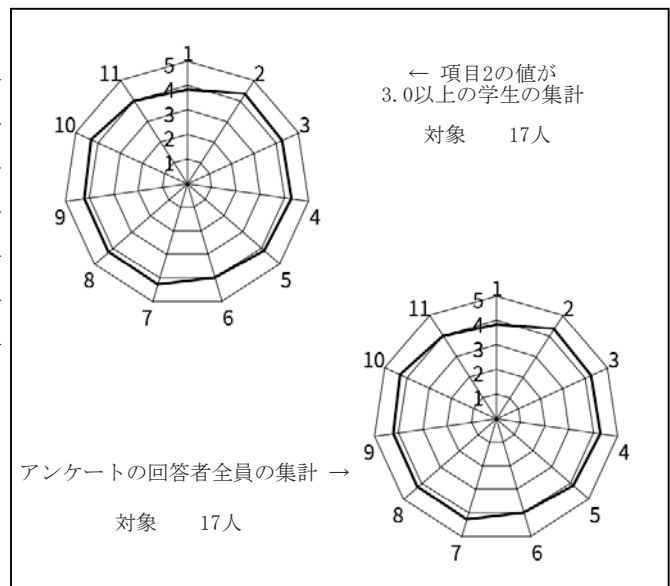


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①シラバス記載の学修範囲については、講義として網羅することができた。学生の理解もある程度得られたが、知識の精度に課題が残っていると感じている。
- ②馴染みのない分野の学修であるにもかかわらず、学生が興味を持って講義に臨めたことは評価できると考える。
もっとも、講義内容が理論や知識に偏ってしまい、現実での制度利用や問題点など実践的な理解に課題が残った。また、講義内で学生が積極的に考える時間を持ちにくい内容となってしまった点も改善すべきであると考えている。
- ③定期的に小テストを行い、学習内容の定着を図っているところ、知識の確認だけでなく復習も講義内に組み込むことで、理解の精度を上げていきたい。また、今学習していることが実践でどのように生かされるのか、実際の制度の概要や利用等についても紹介していきたいと考える。
さらに、講義内で学生自ら考え、発表する機会を設けられるよう講義内容を工夫することが必要と考えている。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 からだとことばII
授業コード 24C07-001
教員名 土谷 薫
教員コード 064352
登録人数 39
回答数 17
回答率 43.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

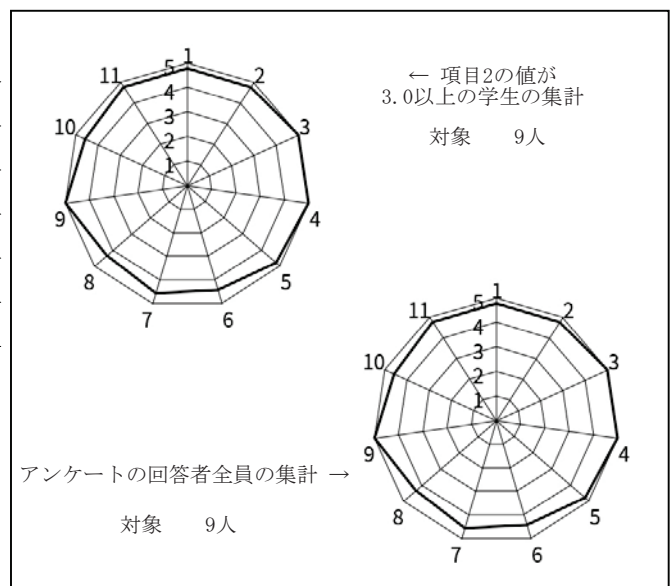


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①今回は、学生数が多く当初は不安があったが、授業が進むにつれ学生のモチベーションの高さに私自身もそれに応えるべく必死であった。結果、学生の深い気づきや学びに繋がったと思われる。
- ②学生の自由記述を読み、つくづくこの授業の難しさを痛感した。同じ授業を受けている学生たちであるが、感想は多様である。（授業内容に）抵抗を感じたこと、抽象的でわかりにくかったことなど書かれたものがあつた。知識を習得して点数化する授業ではないため、このような感想を書いた学生にとっては、この授業は、何も得るものはなく無駄な時間であつたのか・・・（ペーパーテストにすれば0点ということか・・・）しかし、私はその学生の最後の一行「本当に難しい授業でした」に救われた気がした。ITの時代に「人が人と向き合うこと」「からだから発することば」など時代にそぐわないと感じられるかもしれない。しかし、今年度の授業で今だからこそ必要なものであると強く感じることができた。感じ方は様々とは言ってもやはりできれば多くを学び取って欲しい。そのために、事前のオリエンテーションを丁寧に行う必要があると思う。まずは、興味を持ち自分から学びたいと思うところを出発点にしたい。
- ③オリエンテーションを丁寧に行うこと

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 文章表現法2
授業コード 24C08-002
教員名 北田 雄一
教員コード 104314
登録人数 46
回答数 9
回答率 19.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

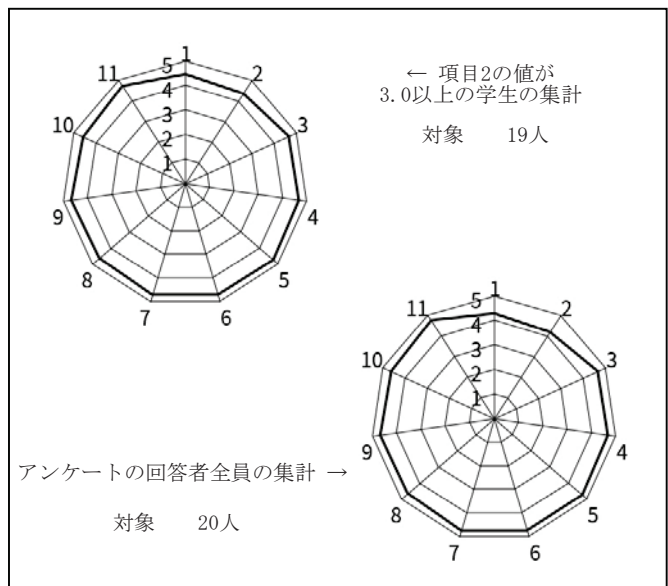


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標には多くの学生が到達していた。本講義では新聞記事を「課題文」として用いており、「課題文」に即した課題を課しているがその点に関しては学生から苦情やクレームはなかった。引き続き新聞記事を「課題文」として用いて課題を課したい。次年度は「共生」に関する新聞記事を「課題文」として取り上げたい。ただ、課題を記した文章を正確に読み込めていない学生が散見されたことは問題である。もはや文章だけでは正確に伝わらないので、課題の補足質疑応答の時間を設けたい。次期クォーターに向けての抱負は受講生の出席比率を上げることである。本講義は課題100%で評価しているため、極端なことを言えば一度も出席せずに課題だけ出しておけばいいということになる。しかし、文章の書き方に関する講義や課題の補足等を聞く機会がないので、一部不適切な課題を提出する学生もいた。受講生が適切な課題を提出するためにも講義への出席は有益なので、次期クォーターでは課題100%で評価することに変更はないが講義に出席するように促したい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	日本美術史
授業コード	24C27-001
教員名	四辻 秀紀
教員コード	100351
登録人数	94
回答数	20
回答率	21.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

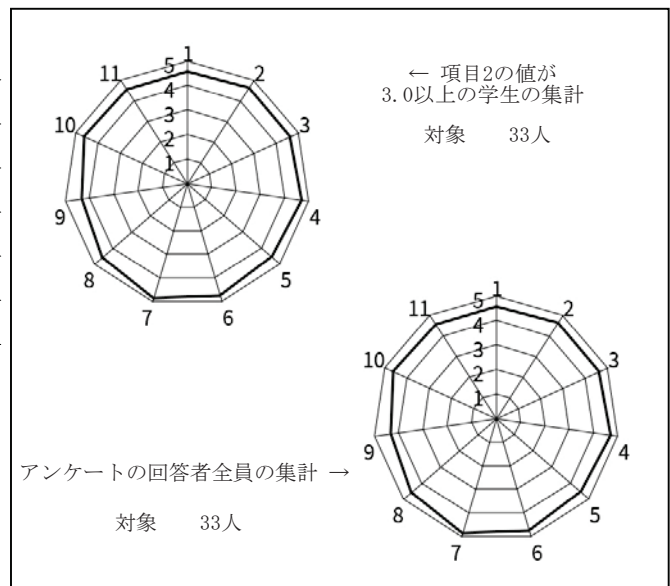
当初の目標はおおむね達成できたと考える。特に今期は学生の聴講に対する姿勢・取り組みも良く、円滑に授業運営することができた。但し時間の制約があり、もう少し幅広い広い分野の話、特に博物館学芸員資格の取得を目指している学生の皆さんに対しては、当方の経験を生かした話が少ししかできず残念に思っている。

受講生のコメントに「画像の資料が多く、普段は展示されていない作品の画像も見ることができて説明をよく理解することができた」「初めて見る作品も多く知識が増やせたことが良かった」また「美術館に行こうと思うきっかけになった」などの意見が寄せられ、今後も日本の美術や文化に関心を持ってもらうきっかけとなったら幸いである。

40年近きにわたって南山大学の非常勤を務めさせていただき、今期が最後の授業でした。ありがとうございました。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 女性と近現代文学
授業コード 24C38-001
教員名 酒井 敏
教員コード 101869
登録人数 57
回答数 33
回答率 57.9%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

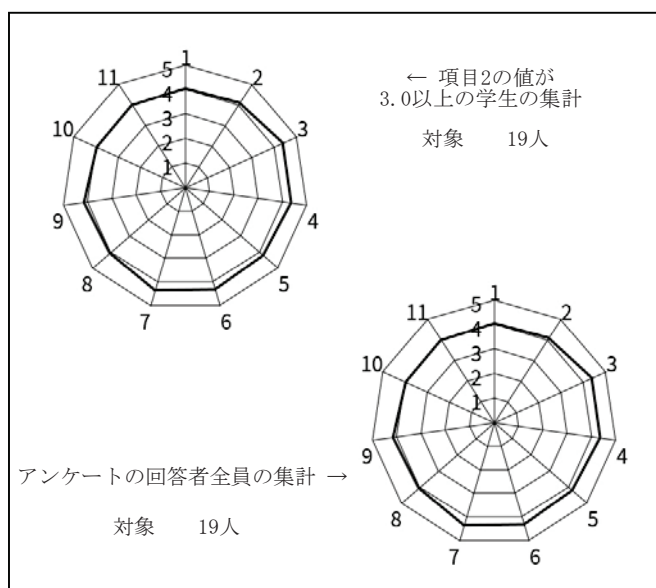
今回は第2クオーターの開講日程を誤認するというミスを行ってしまった。まず、その点をお詫びしたい。

その一方、初回授業の際にスマホからほとんど顔を挙げない受講生が複数存在するのに驚かされた。こんなことは初めてで、2回目・3回目の授業の際に、やや厳しい語調で注意したが、自由記述を見ると、その後も何人か同様の振舞をしていたらしく、私の対応を評価するコメントがある一方で、不満とするコメントやパソコンでノートが取りづらくなったとするコメントもあった。自分以外の学籍番号・氏名も出席用紙に記す代理出席が（特定の学生間で）目についたことも含め、初めて貴学に出講して以来、最も授業がしづらかった、というのが率直な感想である。熱心な受講生との差が大きく、真面目に授業に臨んでいる人達に気の毒であった。項番9の評価が低かったり、「質問しづらかった」というコメントがあったりするのも、内職や代理出席に神経を尖らせていたせいかもしれない。

授業内容について好意的なコメントが多い一方で、授業の進め方やシラバスの記述について工夫を求めるコメントも複数あった。すぐに反映できるものは活かし、全体として、より対話的に受講生と関わってゆく授業展開を工夫したい。大学で授業をするようになって37年になるが、教員として学ばされることの多いクオーターであった。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語史I
授業コード 24C47-001
教員名 金 銀珠
教員コード 101036
登録人数 36
回答数 19
回答率 52.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

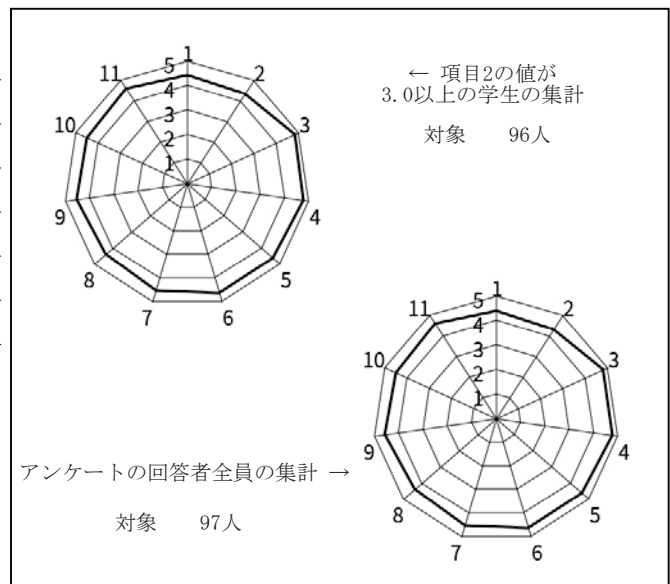


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標は、項目1～11の平均が4.18、項目3～11の平均が4.20で、おおむね達成できたと言える。練習問題やコーパス資料などを通して、実践的に学ぶ方法が効果を発揮したと考えられる。
- ②自由記述では、授業後の課題内容が授業内容に沿っていた点、毎回の授業で小テストの振り返りがあった点などが評価されており、次年度も実践的な授業法と理解度を問う小テストを継続していきたい。
- ③一方で、項目10の「到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか。」は3.95と比較的低く、学習者が自らの成長を実感しにくい面があることが示唆された。今後は、授業の節目ごとに学習到達度を明示的に確認できる機会を設けるなど、学習成果の「見える化」を工夫し、自己評価との乖離を縮めていく必要がある。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	言語分析B
授業コード	24C51-001
教員名	有菌 智美
教員コード	104603
登録人数	122
回答数	97
回答率	79.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

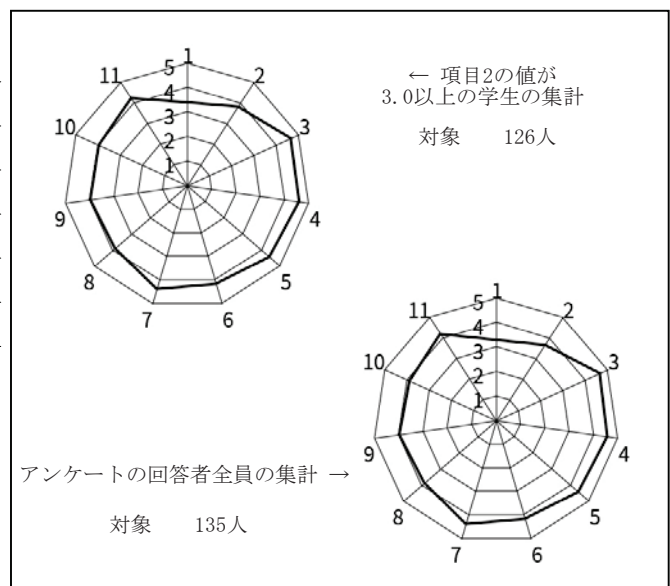


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、「異なる言語間の普遍性と相対性に関心を持っている」、「授業を通して得た知識に基づき日本語と英語の言語現象を考察できる」、「日本語を客観的に観察し、英語と比較してそれらの背後にある話者の捉え方の特徴を説明できる」の三点である。これらの目標達成のため、毎時の講義後、学習内容に基づき分析を行うタスクを課し、その翌週に良い回答と不備がある回答を取り上げフィードバックを行い、受講生が分析のプロセスを振り返り次に生かせるよう授業を進めた。また、コメント・質問も全体に共有して回答することで、受講生の理解を深め知識の定着を図った。これらが効果的であったことは、「4. 到達目標への関連づけ」の4.78、「6. 学生の理解度への配慮」の4.66に現れており、自由記述ではこの授業構成やフィードバックに関するプラス評価が多くみられた。一方、ポイントが低かったのは「2. 予習・復習」が4.31、「積極的な授業参加や自主学習を促すための指導や情報提供」が4.40であった。これについては、授業で得た知識を発展的に応用する例などを示すことによって、自学自習を促していく。また、自由記述での改善点では、授業担当者都合の補講対応に関する記述が複数あった。補講を録画し、欠席者には後日受講できるようにし、さらに就活や他の授業、学内イベントなどに関しては証明書類の提示で補講回の課題への加点对応をしたが、アルバイトや私用では（動画受講は認めたものの）加点对応はしなかったため、不満が生じたようである。対応自体の問題というよりも、説明不足があった可能性があるため、今後は補講発生時には丁寧な説明を心がけたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[B]2
授業コード	10A01-010
教員名	VARGHESE, Rejimon
教員コード	100555
登録人数	170
回答数	135
回答率	79.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q3に宗教論[B]2の授業を行いました。この授業は大きな教室で行い、170名の受講生がいました。本授業は宗教理解への入門として、三つの啓示主教（一神教）を取り上げ、それらの宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係をシラバスに上げた授業計画に沿って教えました。要するに、この三つの宗教から世界史をみたわけでした。

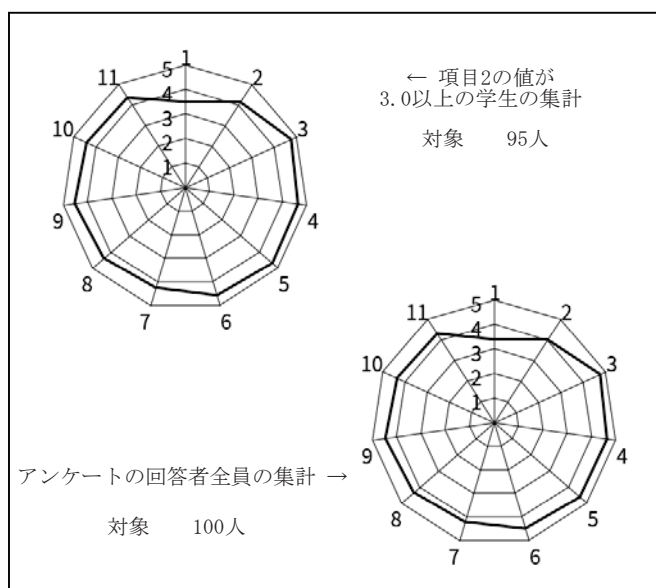
① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について受講生は5点のうち4・57点と評価したことは、本授業はその目標に達したしるしだと思っています。私自身もその目標に達するように講義に取り込んでいました。

② 全体的にもう少し注意すべき点があるかと思います。これは次回の課題です。この授業の良かった点、評価的る点、授業を受けて改善した方よいと感じた点、授業環境について受講生からは高く評価をいただいています。特に授業資料を配布したこと、スライドを利用したこと、ゆっくりと皆に聞こえる声で講義したことはとても良かったと評価されています。

③ 授業は宗教論なので、宗教に対する学生の意欲を引きだすことは容易ではないが、次回彼らを積極的に授業に参加させることに少し力を入れたいと思います。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[T]2
授業コード	10A01-016
教員名	KISALA, Robert
教員コード	018275
登録人数	150
回答数	100
回答率	66.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



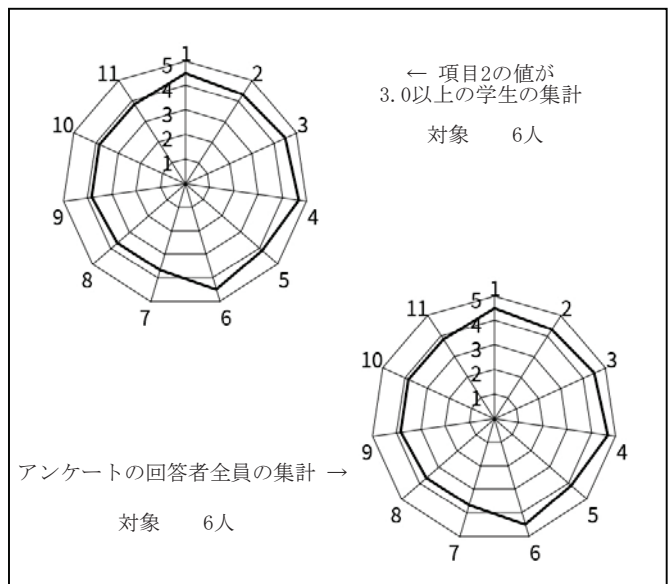
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標として「宗教についての理解を深めている」と「現代社会における宗教の位置・役割を考察することができるようになっていく」という二つを初回授業で学生に提示した。学生評価の結果（設問番号3：平均値4.74；設問番号4：平均値4.65；設問番号11：4.30）から、学生らは到達目標を理解し、ある程度授業に満足したとは言えるであろうが、更なる改善に努め続く。一方、自由記述式設問の回答結果からは特にパワーポイントと映像資料の使用、参考文献の紹介、または小人数グループディスカッションが積極的に評価されていると言える。また、説明及び資料が分かりやすかったことが指摘されている。

本講義の改善点として、学生が講義の到達目標を意識させるためにさらなる工夫を考えている。学生が到達目標を授業の内容と繋げられるような説明も取り入れながら毎回の講義の初めに前回の講義の内容を確認し、今回の講義の到達目標を明確にすることを続ける。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[HC]
授業コード 10A51-001
教員名 RAJCANI, Jakub
教員コード 103281
登録人数 18
回答数 6
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

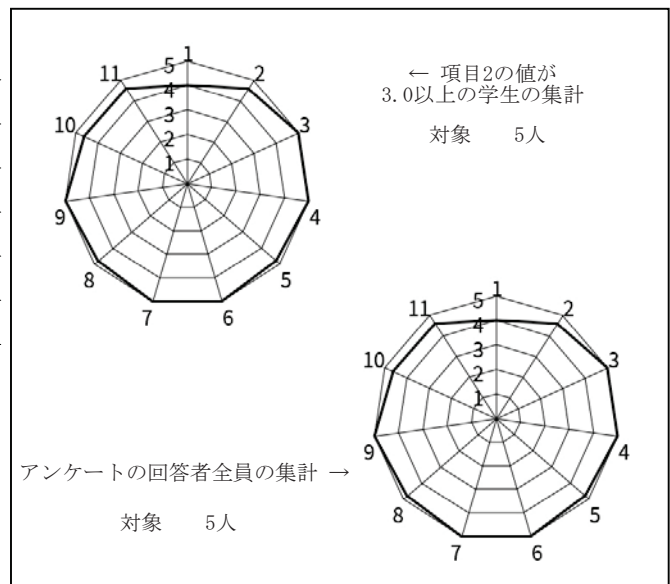


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) 本授業では、キリスト教の基本的理解を体系的に修得させるとともに、それに関連する芸術的・学術的論争を歴史的文脈の中で考察できる力を養うことを目標とした。授業評価において、内容の体系性や説明の明瞭さ、視覚資料の活用が理解促進に資したとの指摘があったことから、基礎的理解の提示という目標は概ね達成されたと考える。
- (2) 数値評価は全体として良好であり、自由記述でも講義内容そのものに対する肯定的評価が多く見られた。一方で、配布プリントについては要点の焦点化や構成の明確さに課題があるとの指摘があった。もっとも、回答者は20名中6名であり、全体傾向を断定することはできない。しかし、資料構成に改善の余地がある点は認識している。なお、大学教育における講義は、視覚的に完成された資料の提供を主目的とするものではなく、受講者が自らノートを取り、論点を抽出する力を養う場である。本授業でもその趣旨を明示しており、重要点を逐一強調することを必須とはしていない。この点は今後も基本方針として維持する。
- (3) 次学期に向けては、各回の配布資料の冒頭に授業目的および到達目標を明示し、論理的構成をより段階的に整理する。また、補足的情報については本文と区別した欄を設け、資料全体の見通しを改善する。講義形式の特性を維持しつつ、受講者が主体的に思考を深められる環境を整備することを今後の課題とする。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 思想史に学ぶ人間の尊厳5
授業コード 10D03-005
教員名 FONGARO, Enrico
教員コード 104671
登録人数 12
回答数 5
回答率 41.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

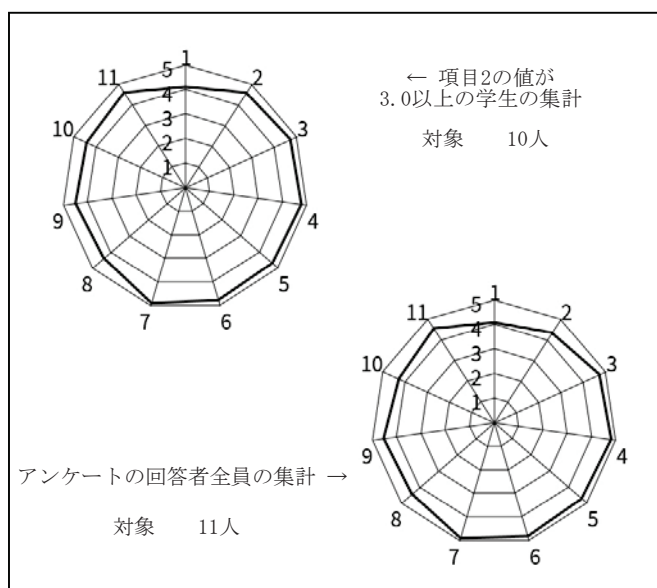


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：予定通り進めることができた。学生からの評価も高かった。一部、学生にとって難しい部分は補助資料を提示するなどして、目標の到達をすることができた。歴史的観点からの授業計画は学生にとってわかりやすかったこともアンケートから伺うことができた。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：授業で行った工夫、教室変更（研究所で開催）などが効果的だったことが伺えた。人数が少ない場合にはこのようにゼミ形式で行うことが有効であることがわかった。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針：引き続き、人数やニーズに合わせて授業を運営したい。より密な学生とのインタラクションを促すように配慮を行う。対面で、お互いが顔を見ながら座る配置は、学生にとってもモチベーションの向上に繋がることがわかった。今後もこのような座席配置などの工夫を行いたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語III<全>1
授業コード 11J11-002
教員名 松根 伸治
教員コード 101833
登録人数 25
回答数 11
回答率 44.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

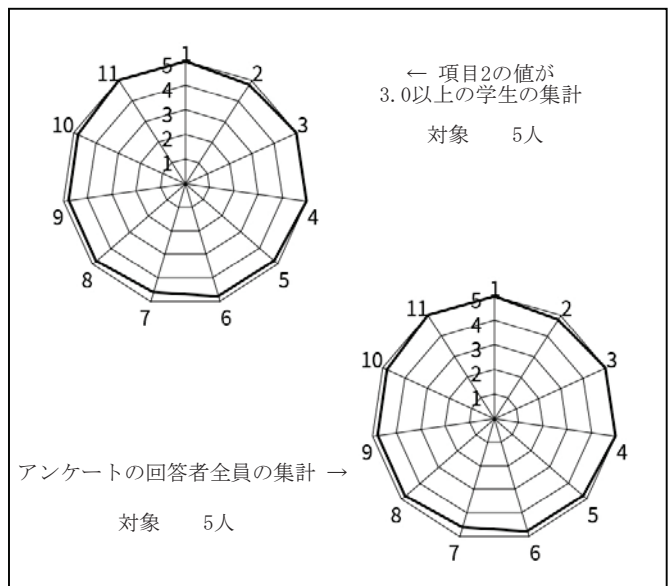


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問10（目標達成）の4.27、設問11（満足度）の4.55という結果から、全体的に授業は順調に進んだと判断してよいだろう。ただし、今期の外国語科目全体では、設問10が4.43、設問11が4.54と比較的高い数値なので、外国語のカテゴリーの中ではごく平均的であり、それほど楽観はできないとも言える。むしろ、單元ごとの到達目標をより細分化して明示するなどの工夫が必要かもしれない。シラバスに掲げてあった到達目標は、「ラテン語の文章読解の基本的手順を理解している」、「辞書を的確に引くことができる」の二点である。文構造を把握する手順を繰り返し説明するとともに、授業内で辞書を引いて語義や用例をくわしく観察する時間を多めにとった。小テスト、提出課題、授業での応答から判断して、クラス全体として満足いく成果が出たと思うが、外国語学習の基本姿勢の点で個人差が大きくなっている印象が強い。自分なりの予習復習の仕方や辞書を丁寧に読む習慣などが、高校までの英語学習でよく身につけている人と、そういうタイプの勉強になじみがなさそうな人との差が激しいのが気がかりである。授業内では容易に解決しがたいが、この点にはいっそう配慮が必要だと思われる。自由記述では、教材が紙とデータの両方で提供されることや、英語と関連する話題について肯定的意見があった。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語VII<全>
授業コード 11J15-001
教員名 岡寄 隆哲
教員コード 103614
登録人数 6
回答数 5
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

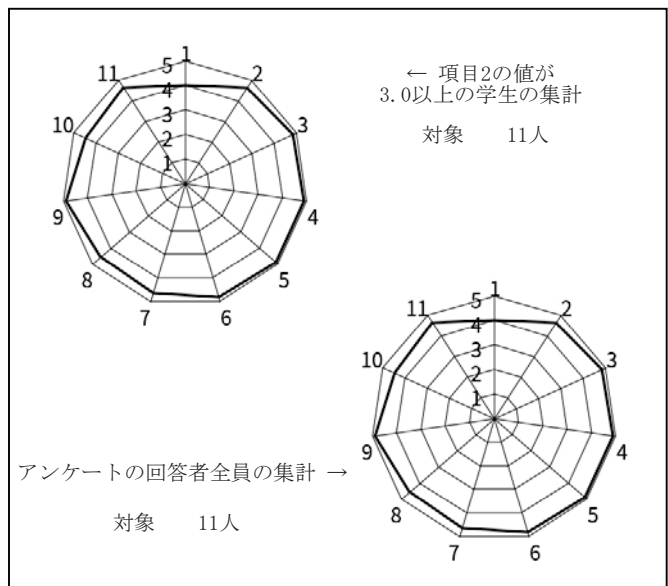


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本授業（「ラテン語Ⅶ<全>」）は、「ラテン語Ⅴ，Ⅵ」に引き続き、初級から中級レベルのラテン語の文献に親しみ、中級レベルまでの文法内容、語彙を確実に身につける、また初級レベルのラテン語文献の内容を読みとる力を習得するということを目標としていた。それにたいし受講者は、毎授業時、指定のReadingテキスト箇所の予習、暗唱課題（名詞、形容詞、代名詞、動詞の変化表）の暗唱をこなし、数回おきで実施するVocabularyのチェックを中心とした小テストにも備えて参加した。その結果、受講者6名のうち一人は講読、文法理解においてほぼパーフェクトな習得を達成し、他の受講者も（バラつきはあるが）一定程度の習得段階に達した。
- ② アンケートでは、どの項目についても概ね高い点数が示されていると思われる。
- ③ 毎回の予習の分量の多さ、およびテキスト内容の難度のゆえに、ついて行くのが難しいと感じる受講者も中にはいるであろうと思われる。ただし、年間をとおし一定のラテン語力を身に着けてもらうために必要なことを実施しており、困難を感じるとしても何とか脱落してもらわないやり方を工夫し、心がけたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ギリシャ語III<全>
授業コード 11K07-001
教員名 袴田 渉
教員コード 104814
登録人数 22
回答数 11
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

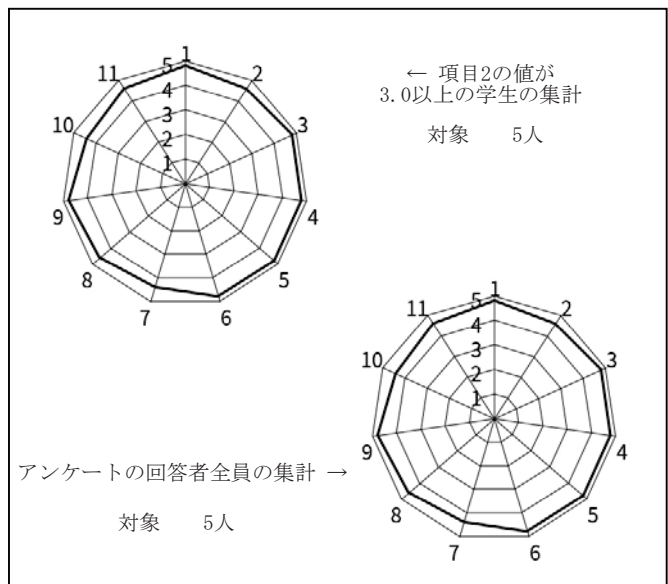


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初は、本授業が他学科の先生にご担当いただいたギリシャ語Ⅰ・Ⅱを引き継ぐ内容になっているため、まずは先行するギリシャ語Ⅰ・Ⅱの授業形式に沿った授業運営を行うことを心掛け、また、限られた時間の中で古典ギリシャ語の基礎を教えるため、効率良く授業課程を進めること、そして何より、文法や語彙の中に息づいているギリシャの文化やその精神に迫ろうと試み、ある程度の達成をみることができたと思われる。
- ②具体的な数値データに関しては、項目3から11の平均値が4.74と比較的高い評価を得られ、特に項目4、5、9について高評を得たことが分かった。項目4の自己評価としては、毎回の宿題を履修生全員に課すのではなく、担当者を決めて、当てられた学生のみが次回に担当箇所の問題に答え、他の学生が宿題を行うことは任意とすることで、学生たちの宿題に対する物理的、精神的な負担を軽減することができ、かつ各担当者が割り当ての宿題をしっかりとこなしてくれることで、授業を予定通りスムーズに進められることにも繋がったと考える。また、項目9に関して、授業課程がある程度進んだ段階で、学生たちの理解し切れていない文法箇所についての質問をリアクションペーパーに書いてもらい、一つひとつの質問に対して教員が答える時間を授業内で設けることで、ギリシャ語に対するより良い理解を促すことができたと思われる。
- ③次クォーター以降に向けての改善点・抱負としては、自由記述回答でも指摘された通り、ギリシャ語の発音に不安をもつ学生が一定数いるため、各学生がギリシャ語の正確な発音を確認できる機会を増やすことである。具体的には、例文の朗読を全員で一斉に行うのではなく、一人ひとつの学生に朗読させて発音をチェックする機会を頻繁に設けるなど、今後学生たちと相談しながら、様々な工夫を試みたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	宗教思想B
授業コード	21C60-001
教員名	SOUSA, Domingos
教員コード	100753
登録人数	20
回答数	5
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



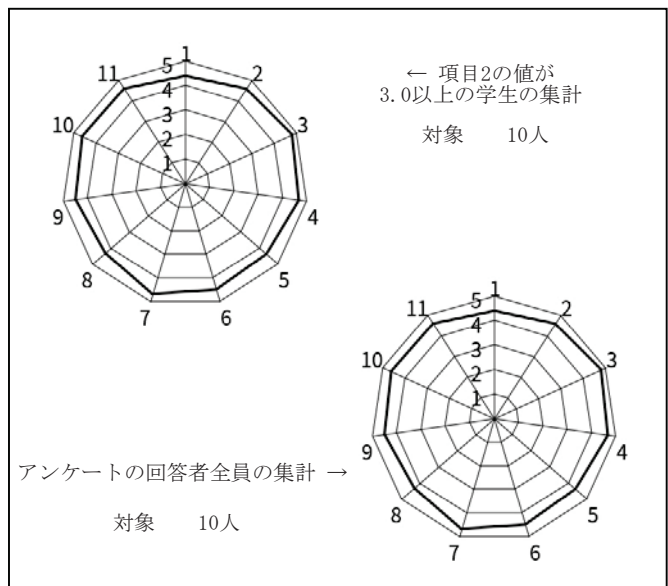
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は、極めて多様な価値観が存在する現代において、相互理解や対話が、どのような根拠の上に立って成立するのかを追究するとともに、思想の比較を通して自分たちの文化と他国の文化についての理解を深めながら、グローバルな視座で現代世界の動向を考えることを目指している。パワーポイント利用で講義したが、学習の補助のため各項目の内容をまとめるプリント教材も配布した。

講義に対する学生の評価結果は、全体として比較的高いと思われるが、授業評価の実施期間内にアンケートを実施できなかったのも、回答率は非常に低かった。結果として自由記述欄で学生が授業に対して、どのような要望・意見・感想を持っているかという書き込みもなかった。今後の改善に向けてアンケートの実施期限を厳守するとともに、講義の各項目についてより分かりやすいレジメを提供し、関連文献を紹介することにより、主体的な学習と学習意欲を向上させる工夫をしたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 旧約聖書学(預言者)
授業コード 21C85-001
教員名 加藤 久美子
教員コード 103475
登録人数 12
回答数 10
回答率 83.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



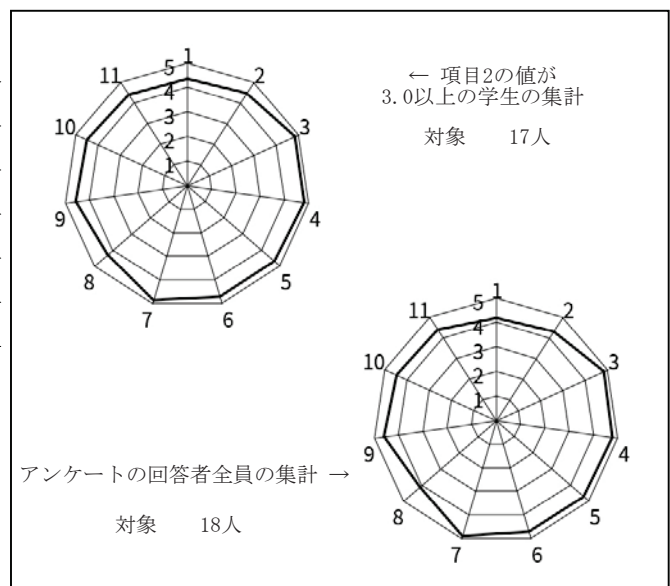
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は旧約聖書の預言者文学を主題とするものである。このジャンルは、理解するために歴史的背景および文学的詩的技法に関するかなり多くの知識を必要とするため、詳細な授業資料と簡潔なパワーポイントを組み合わせる授業を行う方針を立て、それに即した資料を作成した。その結果として、授業を聞き、リアクションを書いた履修者においては到達目標はかなりよく達成されたと考えられ、そのことは期末テストに見てとれただけでなく、数値データにも現れていると思われる。また授業資料については自由記述回答でもいくつかの肯定的コメントが寄せられた。

反省点としては、今期の授業では時間的都合で通常よりも前回の授業に対するリアクションペーパーの紹介や質問への回答を減らしたが、これには積極的な授業参加を促すすぐれた効果があるため、来期は時間確保の工夫を考えたい。また自由記述回答で指摘があった履修者がリアクションペーパーを書く時間の確保についても改善したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳1
授業コード 10D06-001
教員名 中尾 央
教員コード 102505
登録人数 52
回答数 18
回答率 34.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

シラバスには以下を挙げた。

- ・（ヒトを含む）動物行動の進化の概要について理解をできるようになる。
- ・進化生物学がわれわれの人間理解に対してどのような含意をもたらさうか考察できるようになる。

数値データを見ている限りは概ね到達できているように思われる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

数値データは特に大きな問題はなさそうだが、自由記述で以下があった。

「スライドも文字が小さくとても見にくかったし、声も1作ボソボソして聞いてにくかった。」

→文字が小さいというのは初めて指摘されたので現状判断できない（これ以上大きくするとスライドに掲載できる内容がほとんどなくなってしまう）。声が小さいというのもこの10年で初めての指摘であり、正直わからない。次年度も同様の指摘が続くようなら改善したい。

「レジュメの掲載時間が短すぎる。授業が終わってすぐ上げて、その日の23:59まで決まった時間にちゃんとあげて欲しい。ずっと待機していても見れないことがあった。」

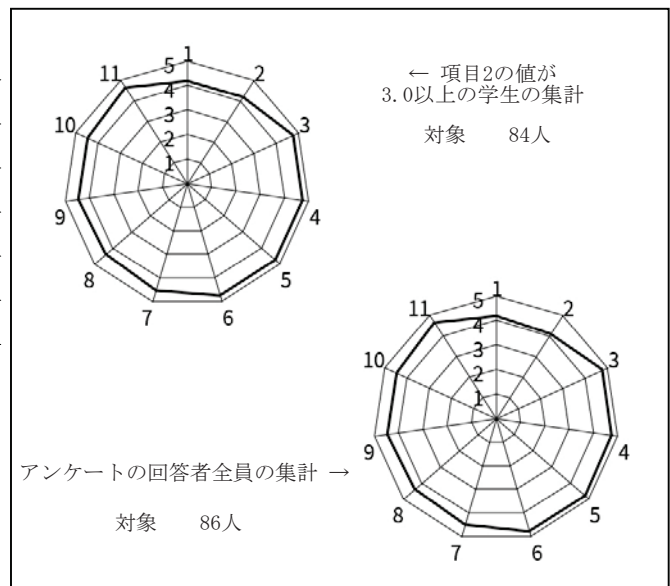
→これは当方の責任であり、改善したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今年はどの授業も私語がひどく、対応に苦慮している。本授業は一度注意をしたところ改善されたが、最後の授業では私語を繰り返す学生がやはり出てしまった。今後、私語がひどい場合は座席指定を行なうなどして対応しようと考えている。ただその場合、受講生数の制限になるかとは思いますが、仕方ないのだろう。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	民族問題と人間の尊厳2
授業コード	10D08-002
教員名	宮脇 千絵
教員コード	152580
登録人数	169
回答数	86
回答率	50.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

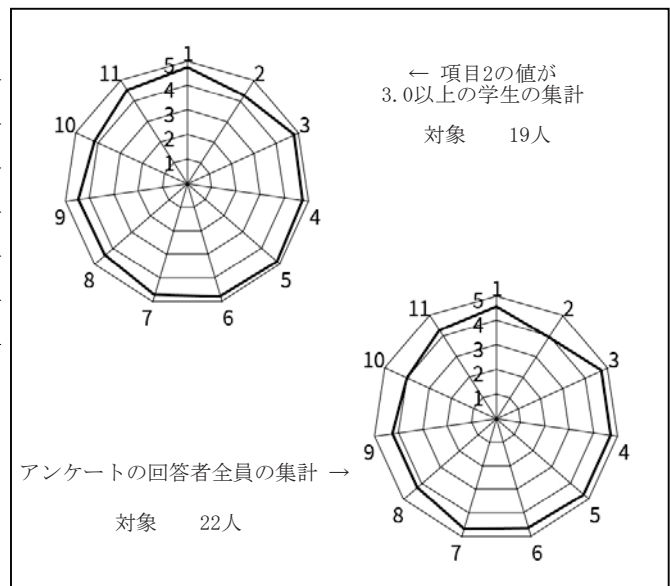


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業は、世界各地の装いをテーマに文化人類学的な視点から「当たり前」を問う姿勢や世界で起きている様々な事象について理解し、それを自分の言葉で述べられるようになることを目標としており、シラバス通りに授業を行った。毎回のリアクションペーパーや最終レポートの結果から概ね目標を達成できていると考える。
- ②「人間の尊厳」科目であるためか、毎回、質問1と2の数値が低い傾向にある。質問3、4、5、6の数値は割と高く、授業の運営には問題がないと考える。自由記述回答では、資料の見やすさ、写真や映像が多いこと、私自身の海外調査の話、リアクションペーパーによって考えが深まったことなどが良かった点として評価された。
- ③授業の構成や進め方については基本的には継続させていきたいが、事前に配布する資料やレポート課題の出し方については、AI対策も兼ねてブラッシュアップする必要があると考えている。大教室の授業なので、どうしても個々人に目が届きにくくなる点を引き続きリアクションペーパーで補っていきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 考古学A
授業コード 12B01-001
教員名 上峯 篤史
教員コード 104108
登録人数 82
回答数 22
回答率 26.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

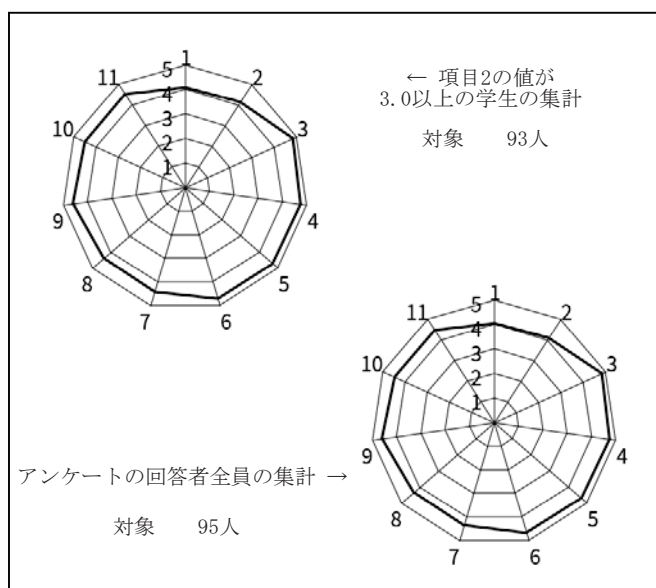
開講当初に設定していた目標は、① 人類の進化・拡散史の大枠を説明できるようになる、② 「日本人」や「日本文化」の由来について、人類の進化・拡散史との関わりから説明できるようになる、③ 人類史の研究を通じて何かを探究する楽しさを知り、大学での学習を楽しめるようになるの三つである。アンケートのデータを見る限り、これらの目標は十分に達成されていると考える。

一方で、アンケートの数値データにおいては、いくつかの項目で開講主体別平均値を下回っている。該当の項目は予復習や時間外での学習に関するものである。これらは関連の博物館の訪問を促すなど工夫可能であるので、次年度以降は検討したい。

加えて、現状で好評である点（動画を使った解説、たとえ話を使った説明、教員自身の知見）は引き続き続けておきたい。研究の進展が早く、授業内容のアップデートが頻繁に必要な授業であるが、学術的内容に加え、教材になりそうなコンテンツにも注意を向けておきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 考古学B
授業コード 12B02-001
教員名 渡部 森哉
教員コード 101237
登録人数 164
回答数 95
回答率 57.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

登録者164名中95名から回答があった。

シラバス通りに授業を進めた。リトルワールドでの学外授業を1回行った。

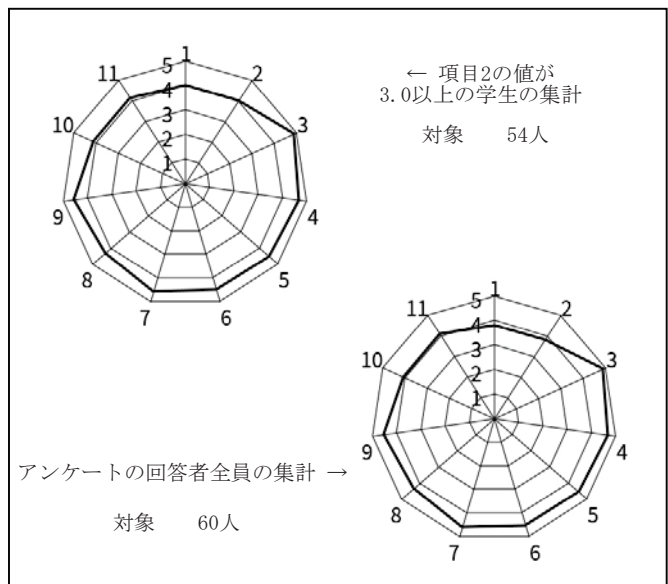
評価結果を見ると概ね目標は達成できたと思われる。項目2の数値がやや低い
いが、レポートの課題と予習復習が結びつけられていないためと思われる。

35名が自由記述の項目12に記述をしており、好意的な評価が書き込まれている。
5名からの意見はリトルワールドでの学外授業についてであった。

一方で、項目13にも9名が記述している。「スライドが若干暗く、見にくい
ところがあった」という点は今後改善していきたい。「質問したことがもう少し
答えてもらえるか、ウェブクラスなどで提示してもらえるとうよかった」とい
う記述もあったので、質問への回答をもう少し詳細に行うように心がけたい。
学外授業の費用を受講生が負担することについて2名から意見があった。シラ
バスに明記しているが不満であったようである。受益者負担が原則であることを
をより明確に説明していきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本史A2
授業コード 12B03-002
教員名 原田 昌浩
教員コード 104974
登録人数 105
回答数 60
回答率 57.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に「1. 日本原始・古代、特に古墳時代についての基本的知識を習得し、その背景となる文化などを理解できるようになる。2. 一つの歴史的事実に対して複数の見方があることを理解し、多面的な思考ができるようになる。」という目標を設定し講義を行った。その到達度をはかるため定期試験を実施し、さらに二度の課題提出を求めた。その結果、72%の学生が目標を達成している。
- ②アンケートの結果を見ると、当初はあまり興味を持っていなかった学生が比較的多くいたが、最終的には、上記の割合の学生が目標を達成していることもあり、授業内容についても適切であったという回答が多く見られるため、必要十分な内容の授業を展開できたものと考えられる。特に、人類学博物館に足を運び、実物をもとに授業を展開した回を設けたが、その回は大変好評であった。
- ③次クォーター・学期以降も、博物館での実物を前にした授業を展開することを計画しており、引き続き高い目標達成率を継続させたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	思想・文化をめぐって4<国際科目群>
授業コード	13A06-901
教員名	MCMULLEN, Matthew
教員コード	103838
登録人数	6
回答数	1
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

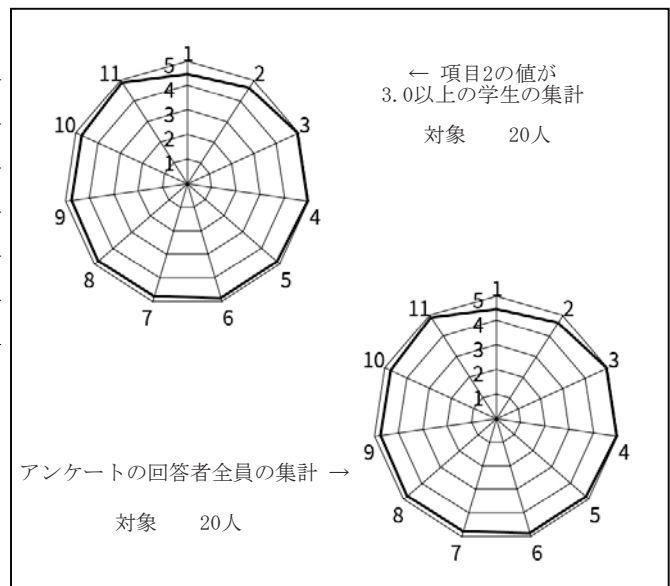
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was the first year I taught this course in back to back periods, so enrollment was low. I had to cut much of my lecture content to allow for the new schedule. However, this was an improvement, since the course tends to include too much information.

Next year, I may include an in-class writing component, as it was apparent that the students did not spend much time preparing for the class in advance.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 情報サービス演習I2
授業コード 15P12-002
教員名 浅石 卓真
教員コード 103263
登録人数 23
回答数 20
回答率 87.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

当初の目標は「1. OPACや参考図書を利用してレファレンス質問に回答できるようになる」「2. 情報検索のための各種データベースを使いこなすことができるようになる」「3. デジタルレファレンスサービスの体制をウェブ上で構築できるようになる」であった。提出されたレポートを見る限り、概ね目標は達成されたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

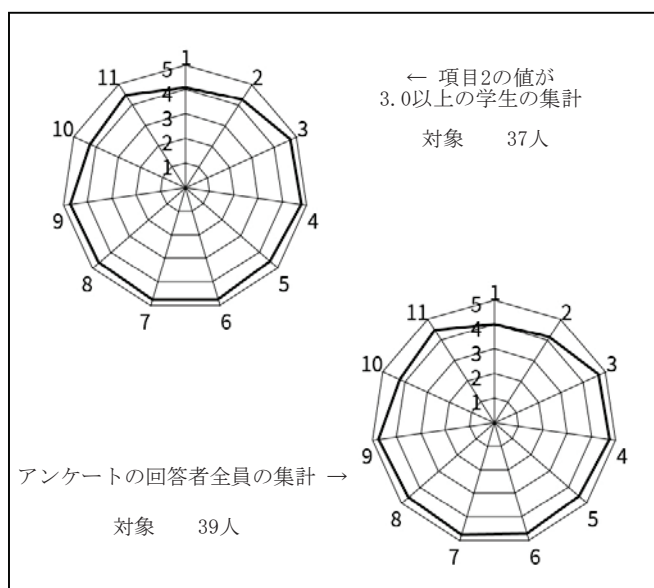
数値データについては、ほぼすべての設問で開講主体別平均を上回っており、特に「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」については4.90と非常に高い数値であった。自由記述では資料や解説の分かりやすさが評価されており、概ね良い評価であったと考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

自由記述の中で「もう少し課題の量が少なくなしてほしい」という意見が複数見られたので、これを次年度に向けた改善としたい。具体的には、課題のヒントを出して、時間内に終わるように誘導することなどが考えられる。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	現代の倫理学
授業コード	22C11-001
教員名	奥田 太郎
教員コード	100642
登録人数	111
回答数	39
回答率	35.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

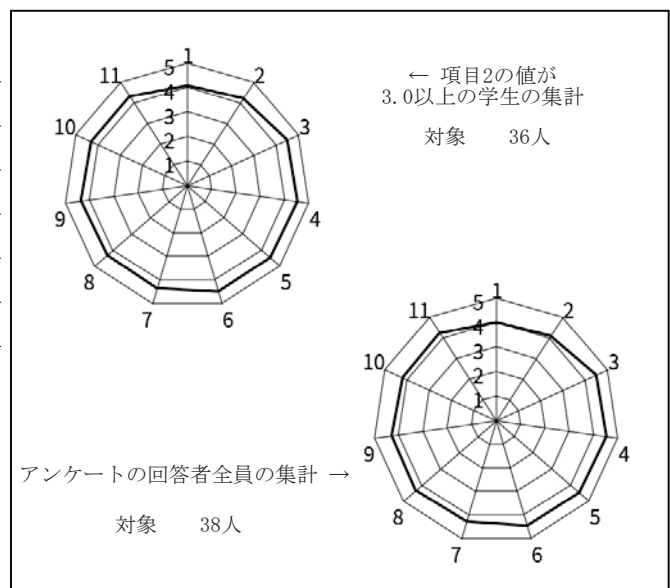
（１）設定した3つの到達目標について、論述課題の出来具合からは、十分に達成できたと考えられる。

（２）同系統科目の平均値に対して、ほんの少し数値が下回る項目が少なからずあったが、大きく下回ることはなく、概ね良好な数値であった。今回の授業内容はあえて難度を上げて、倫理学のエッセンスを受け取ってもらえるように挑戦的に臨んだため、苦勞をした受講者も多かったようだが、自由記述を見る限り、必死で食らいついて思考を磨くことに面白さを覚えた受講生も少なくなかったことがわかり、本学の学生の水準の高さを感じることができた。

（３）今回は少し難しい方向に振りすぎたこともあり、自由記述においても授業構成にもう少し工夫がほしかったと述べる受講者もいた。次年度は、より多くの受講生が「厳しい知的訓練」の面白さを味わえるような工夫を施した授業にしていきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	古代哲学史I
授業コード	22C25-001
教員名	坂下 浩司
教員コード	100471
登録人数	72
回答数	38
回答率	52.8%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

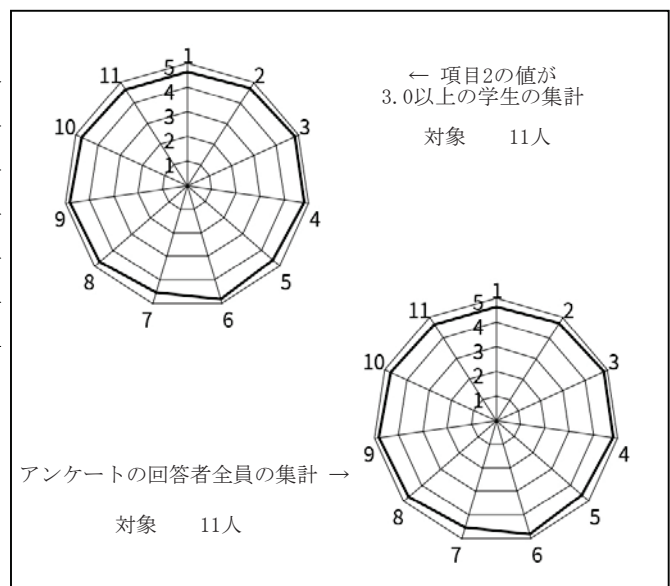


授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）開講当初設定目標と到達程度：「講義形式（輪読を含む）。2000年以上前の単純だが力強い思想の力や古代ギリシア文学や歴史に触れる。通常後ろへ回されがちなアリストテレスに最初から触れる」であった。項目1－11の点はどれも「4」以上であったので開講当初設定目標はほぼ達せられ到達の程度も高かったと判断できる。（２）数値データと自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検評価：数値データはどれも「4」以上であった。自由記述で好意的なものとしては「自分で考える時間があったこと」「みんなで音読して理解を深めようとしたこと」「授業ごとに自作の新しい資料が配布され、必要に応じて古代ギリシャに関連する書籍も紹介されるため古代史に興味を持つ人にとって非常に充実した環境となっていた。また授業中には生徒に質問をさせる機会も多く設けられ受講者が注意を逸らさないよう工夫が施されていた点も印象的」とあり講義の意図は達せられたと思われる。（３）次Q学期に向けての改善点や今後の抱負方針：好意的な自由記述がある一方で、『哲学史なのにギリシア語の説明をするのはおかしい』等の記述もあり、次回の改善点としては、古代哲学史はギリシア哲学史でありギリシア語の説明抜きには不可能である旨最初に改めて説明し初歩的にギリシア文字に触れる時間を最初に設ける。またもともとは学科科目なのでそれなりの専門性はあると説明する。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 文献資料講読(中国)
授業コード 22C58-001
教員名 石川 岳彦
教員コード 104800
登録人数 14
回答数 11
回答率 78.6%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①期末レポート（提出率92.9%）の採点結果やアンケート結果をもとに、履修学生の授業内容理解度をみると、開講当初に設定していた目標は達成できたものと考えられる。

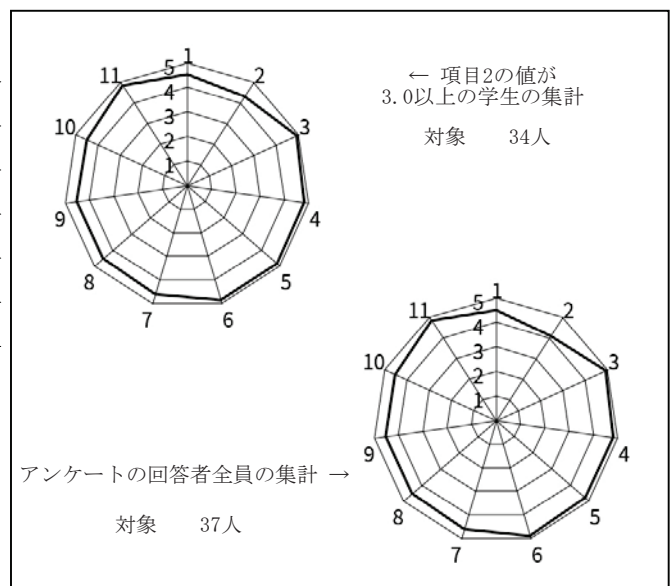
②アンケートの各評価項目の数値は全てが4.55以上、全体の平均値も4.72で、大学全体、開講主体それぞれの平均値を大きく上回った。また、履修者数が14名と少人数の授業であったが、各評価項目の数値に偏りがほとんどみられないことから、ほぼ全ての履修者にとって十分に満足度の高い授業であったことがうかがえる。

授業は演習形式で、中国語の文献を読むことに慣れることを主眼に行ない、履修者は中国語母語の留学生から中国語初心者までが集まった。このため、講読する文献や授業内で行う解説の難易度のレベルをどの程度に設定すべきか難しかったが、自由記述回答をみるとどのレベルの学生にもおおむね満足してもらえる内容、難易度であったと考えられる。また、講読文献の内容をもとに、母語が中国語の留学生と日本語の学生との間で中国語と日本語の表現のニュアンスの違いや背景となる文化の違いについてのディスカッションを毎回授業内に実施した。このことに関しては「中国の文化について詳しく知ることができ、日本と異なる部分を比較しながら文献を読んでいくのが興味深かった」との回答もあり、成功であったといえる。

③この授業は少人数授業で、履修する学生の中国語のレベルや、興味関心のある分野も年ごとに異なるため、毎年の授業内容を固定できないことが非常に難しい点ではあるが、来年度以降も柔軟な授業運営を行っていきたいと考えている。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育・文化における人間の尊厳6
授業コード	10D07-006
教員名	西脇 良
教員コード	100623
登録人数	100
回答数	37
回答率	37.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、主として児童期（学童期）に焦点を当て、①学習者が人間の尊厳を尊重する力や人間の尊厳について自分の頭で考え、他者と対話できる力を修得すること、②学童期の発達課題、教育上の問題、文化面での諸問題に関する基礎的知識を習得すること、③自身の生育経験との照合をおこなうことで自他の尊厳について見解を深めること、を到達目標としました。

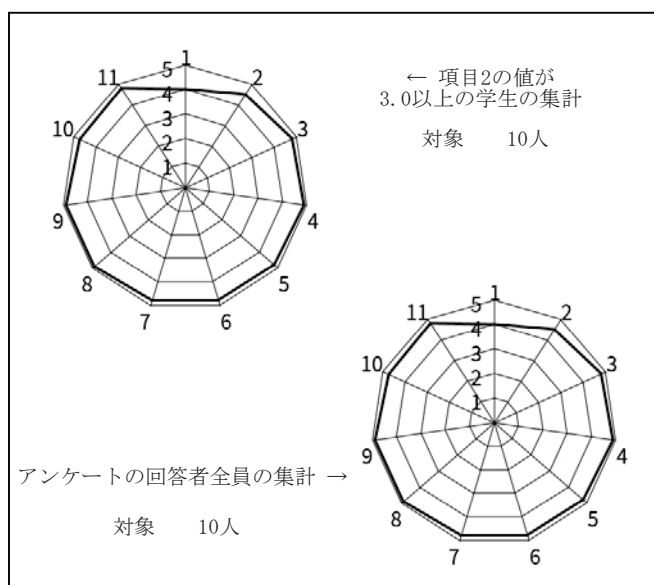
学生の皆さんからの評価ですが、全体としては「まあ良し」との判断であったように思います（全設問の平均値＝4.65）。この値は、開講主体別の平均値（4.43）、および評価対象科目全体の平均値（4.45）を上回っていました。

自由記述については、肯定的な意見として、「受講生の体験談を匿名で読めるようになっていて授業内容に関する理解が深まりました。」「毎回、国内外の児童に関するビデオを視聴でき、児童期を世界レベルで学ぶことができた。」「先生が優しくて、包み込むような力があること。」等の評価を9件頂戴いたしました。改善すべき点への言及はありませんでした。

今後も、充実した資料、最新データを紹介しつつ、皆さんを知的に刺激できるような授業を追求して参りたいと思います。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	美術A3
授業コード	12A05-003
教員名	伊東 留美
教員コード	063834
登録人数	49
回答数	10
回答率	20.4%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「美術A3」は、共通教育科目（基盤）に該当し、日本美術史の江戸末期から昭和時代の近代・現代美術を主に扱っており、全学部（全学年）を対象としている。本講義はこれまで第4クォーターに開催していたが、今年度より日本語別科の留学生の履修対象科目にするため、時期と時間を変更（Q3、火・金4時限目）した。そのことも原因なのか、これまで100名以上の履修者数であったが、今回は50名程度にとどまった。

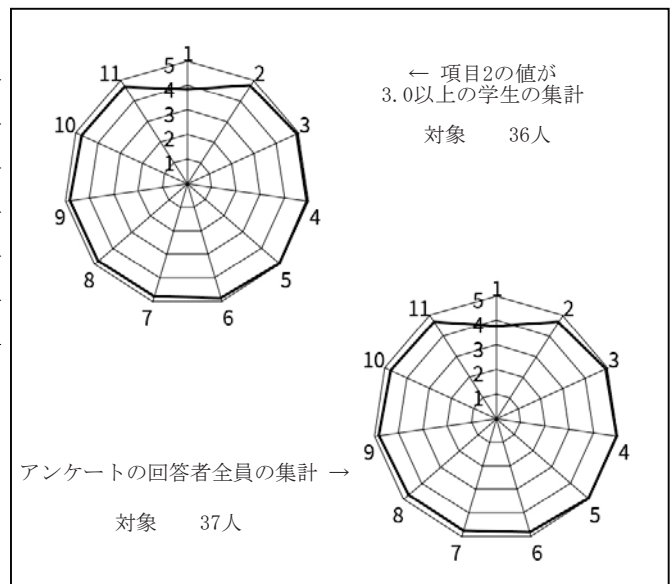
今回の評価で興味深い点として、「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」（設問1）に対しての平均が4.0であったことである。一方で、「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか」（問10）については、4.7の評価平均であった。10名の学生であるため、一般化は難しいが、関心がありなかったところから日本美術についての理解が深まったと感じたということを示しているのではないかと捉える。

「美術A」の授業評価を2023年度に行った際、コロナ禍でのオンライン授業から体面に切り替わって間もなかったこともあり、「今後は学生間での話し合いも含めたいと考え、時間配分をもう少し考える必要がある」と述べている。2024年度より対話をする時間を増やし、作品鑑賞を少人数で行うようにした。さらに、今年度より日本語別科生が履修できるようになり、日本人学生と一緒に外国人留学生对話型鑑賞を体験した。自由記述欄には、相互に意見交換をする時間が持てたことが評価され、次のような意見があった：「作品を見て他の人たちと話し合うことができたこと」「各々の課題を留学生と鑑賞できたこと」「美術作品と向き合う時間が確保できた」。

最後に、本授業評価実施については履修生全体（49名）の内10名の回答となり、回答率がおおよそ5分の1であった。授業時間外に実施するよう促したことが原因であると考え、この点は、改善する必要がある。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IC
授業コード	23A06-003
教員名	中西 美和
教員コード	104813
登録人数	45
回答数	37
回答率	82.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

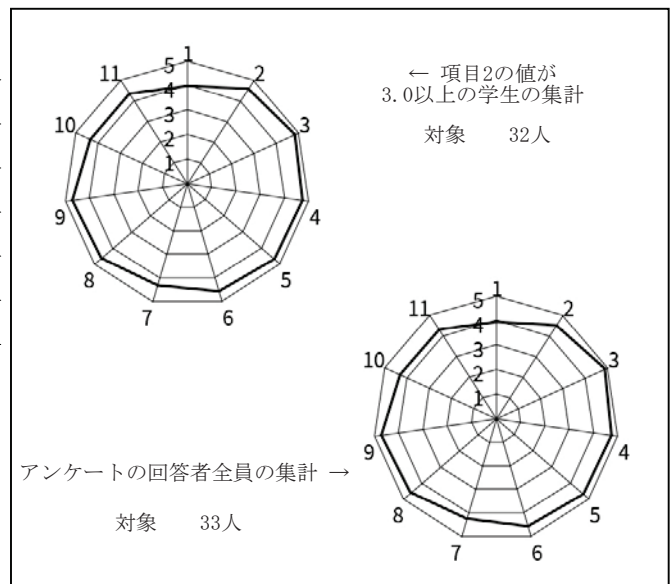


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問項目1の「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」以外の、すべての設問項目において、学生の評価平均が4.5以上であった。これより、到達目標である「統計の必要性を理解する。」「新聞等に掲載されるアンケート結果を的確に読み取るための知識を身につける。」「表計算ソフト（Excel）を用いて簡単な統計処理ができる。」「記述統計についての基礎知識を習得する。」については、概ね達成でき、設定していた目標と到達の程度も適切であったと思われる。本科目は、アクティブラーニングを取り入れており、予習、復習、グループでの学び合いが重要である。受講学生たちの意識や取り組みが、アクティブラーニングを機能するの寄与したと思われる。次年度に向けての改善点、抱負と方針は以下の通りである。①引き続き、受講学生たちの学ぶ意欲を高められるようなファシリテーションを考え実行していくこと、②グループワークで疑問が解消されない学生のフォローの仕方を考え必要な解説を行うこと、③空調の管理をすること、④課題の締切時間についての要望については、担当教員と共有の上、対応を検討していく。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IIB
授業コード 23A09-003
教員名 中村 和彦
教員コード 055731
登録人数 42
回答数 33
回答率 78.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

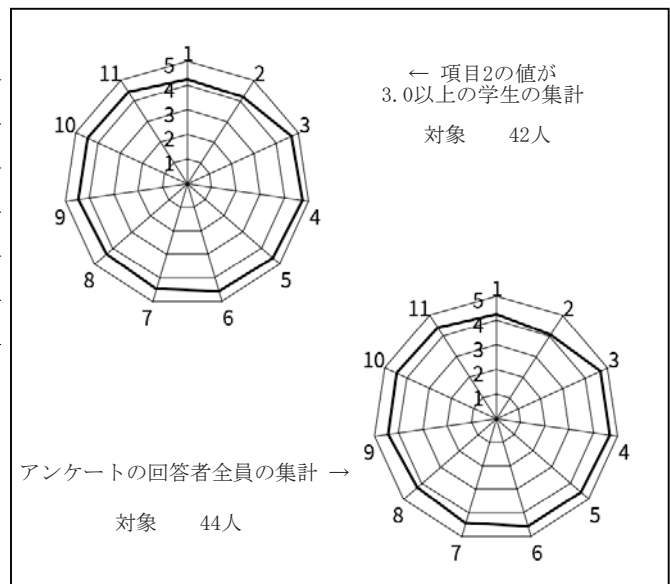


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業は、心理人間学科2年生が3クラスに分かれ、各クラスにおいて同じ内容で授業が行われている基礎演習である。これまでの基礎演習で修得した知識や技法を活用して、各自の研究テーマを設定し、必要な資料を収集・整理し、卒業論文につながる研究目的を設定することを到達目標としている。
- ②到達目標に向けて力が付いてきているかを尋ねる項目6の平均値は4.30であり、のびしろがあるものも、ある程度の力を身に付けたと学生が自己評価していると考えられる。自由記述では「卒業論文執筆のイメージが掴めた」「学生同士でフィードバックしあうことで、自分の研究テーマをさらに深めることができた」など、卒業論文に向けた研究テーマの設定に向けてグループで支援する形態を評価する声が挙がっていた。一方で、課題量の多さや調べる時間が少なかったという改善点が指摘されており、来年度以降に改善していく必要がある。
- ③この授業では以前はグループ研究を行っていたが、今年度から見直しを行い、2025年度からは個人研究をグループで支援する内容に変更した。この変更の影響について今後、学科で検討しく予定をしている。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文化と情報2
授業コード	13E09-002
教員名	坂井 博美
教員コード	102981
登録人数	199
回答数	44
回答率	22.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

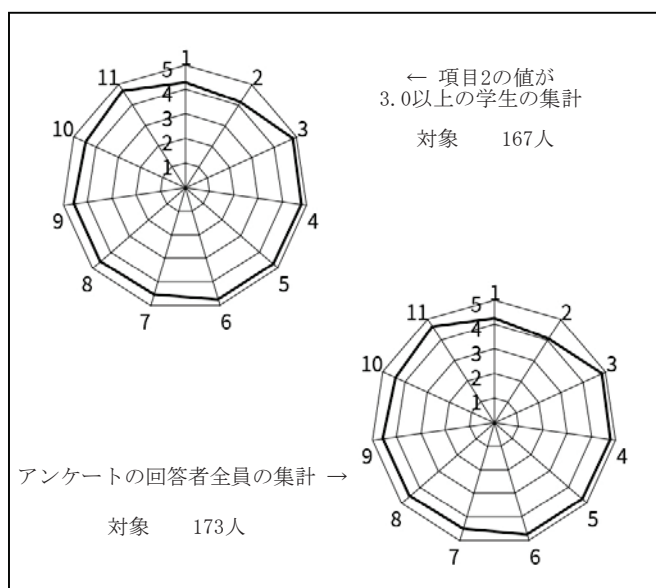


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、「現代社会のジェンダーをめぐる状況についての知識を得ることができるようになる。」と「現代社会の様々な事象をジェンダーの視点から検討する方法を身につけることができるようになる。」の2点であった。これに関連して、アンケートにおいて「授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか。」という問いと「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか。」という問いの平均値は比較的高めであった。また、自由記述においては、「毎授業後にリアクションペーパーの提出があるので授業の内容の理解がその日のうちに深まった。」など小課題について肯定的に捉えるコメントが複数あった。また、「詳細な説明によって、ジェンダーという概念を深く知ることができた。」などジェンダー問題について向き合う機会となったことについて言及する回答が見られ、設定していた目標は概ね達成できたと考える。一方、改善すべき点としては「もう少しグループや周りの人とディスカッションをするなど授業に参加できるような環境づくりがあるといいかなと思いました。」というコメントがみられ、その点については、授業の中で双方向でコミュニケーションをとることなどにおいて今後も工夫を重ねたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本文化学入門
授業コード 24C01-001
教員名 福本 拓
教員コード 104126
登録人数 206
回答数 173
回答率 84.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【①開講当初に設定していた目標と到達の程度について】

「授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか」は4.78点、「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」は4.76点と高い評点が得られた。試験および毎回の課題についての回答から判断しても、4つ設定した目標はいずれも十分な水準で達成されたものとする。

【②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

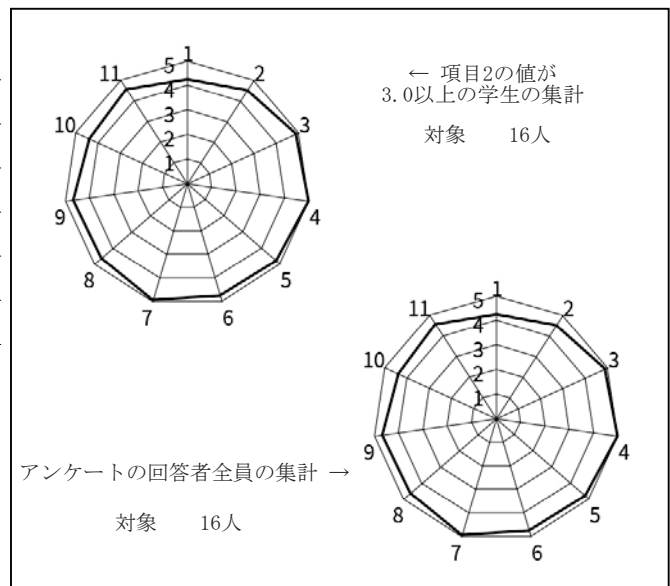
いずれの設問についても、平均を上回る、または平均と同等であり、受講人数の多さを勘案すれば、良好な評価を得たと判断して差し支えないと考える。ただし、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」については4.66で、昨年よりも低下している。アンケート調査項目の変化等の影響も考えられるが、授業内容の精査とより分かりやすい構成に努める必要がある。なお、Mentimeterを利用した双方向型の取り組みは、自由回答でも高く評価されている。

【③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など】

毎回の受講生のリアクションを把握する中で、理解が十分でなかったり、興味関心の惹起に課題を残した回もあった。これらについて、内容の再構成に取り組む。また、アンケート以外での授業評価（毎回の内容への理解度など）も検討したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本文化史A
授業コード 24C11-001
教員名 松田 京子
教員コード 100789
登録人数 34
回答数 16
回答率 47.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

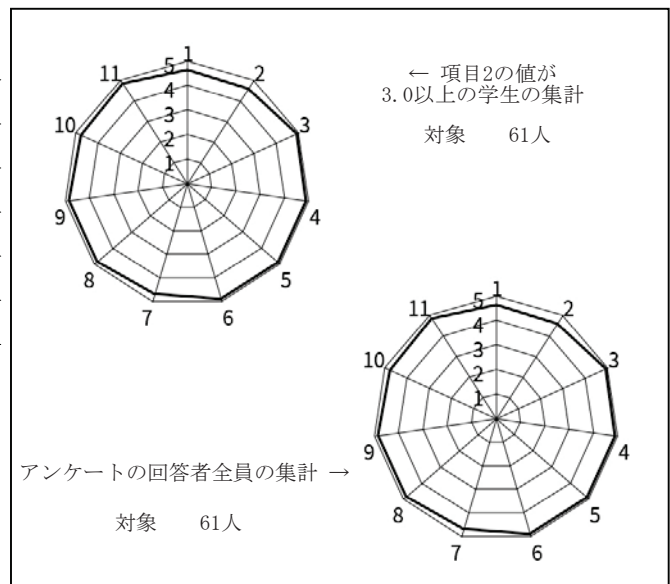
①この授業では、博覧会という具体的な出来事を切り口として、近代日本の社会・文化および思想状況を考察するという全体テーマのもと、講義形式で授業を行った。主な教材としては、教員作成の配布プリントを中心に、適宜、写真や地図、映像資料等を提示しながら、それへの解説と補足の板書を中心に歴史的な手法でテーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後をリアクションペーパー記述の時間にあて、各回の授業で扱った内容をテーマとして、考えた点や感想、質問などを書いてもらい、webclassからの提出を求めた。そして次の授業の冒頭で、前回の復習も兼ねて、そこに書かれた感想等をいくつか紹介し、質問に答えることで双方向の授業展開を目指した。このような方法で授業を進め、開講当初に示した授業計画は、ほぼ予定通り進行することができた。

②上記のような授業の構成や進度、方法などについては、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問3の平均値4.88、設問4の5.00、設問5の4.81、設問6の4.75、設問7の4.94という比較的高い数値や、「自由記述欄」で、映像資料をはじめとした多様な観点からの資料の活用や授業の進め方について、複数の学生が好意的な意見を寄せてくれたことから、おおむね好評であったと思われる。

③以上のように、今回の授業評価では設問4については平均値5.00と回答者全員が最高点を回答してくれており、大変励みとなった。反面、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問10の平均値4.38、設問11の平均値4.56と大学全体の平均値は上回っているものの、開講主体（学科）の平均値をやや下回っているため、受講生の理解がさらに深まるよう、より効果的な説明の方法や板書のあり方などの探究を引き続き進めたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本文学史C
授業コード 24C31-001
教員名 岸川 俊太郎
教員コード 103907
登録人数 146
回答数 61
回答率 41.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q3の開講科目「日本文学史C」について自己点検・評価報告を以下に行う。

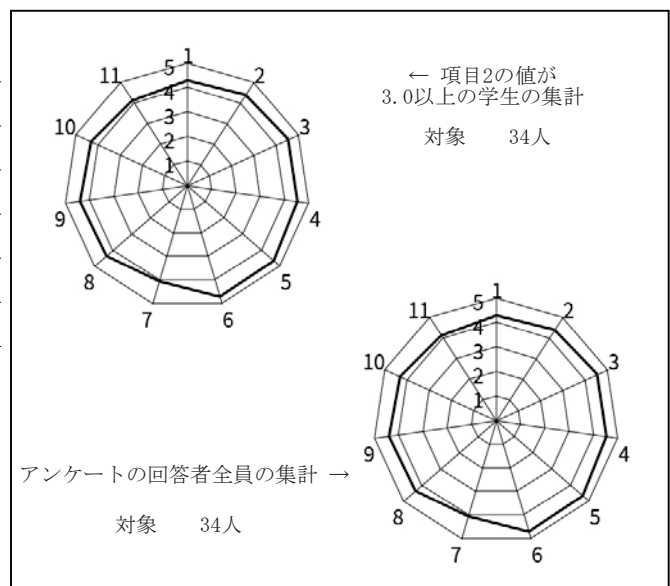
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の項目3で4.92、項目4で4.90という評価を得たことから確かめられる。

次に、②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、項目1-11の平均値（全体）を上回った。また、全体的な評価となる項目11では、4.87という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。項目2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」）については、他の項目より評価がやや低かったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。具体的には、予習と復習に関する適切な課題を課したい。また、その際は適切な準備期間を設けたい。リアクションペーパー等の内容を次の授業でフィードバックし、学生の主体的な学びの充実を図るとともに、授業で配布するレジュメについても学生の理解がより深まるように内容の改善に努めたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語史II
授業コード 24C48-001
教員名 平子 達也
教員コード 104112
登録人数 48
回答数 34
回答率 70.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

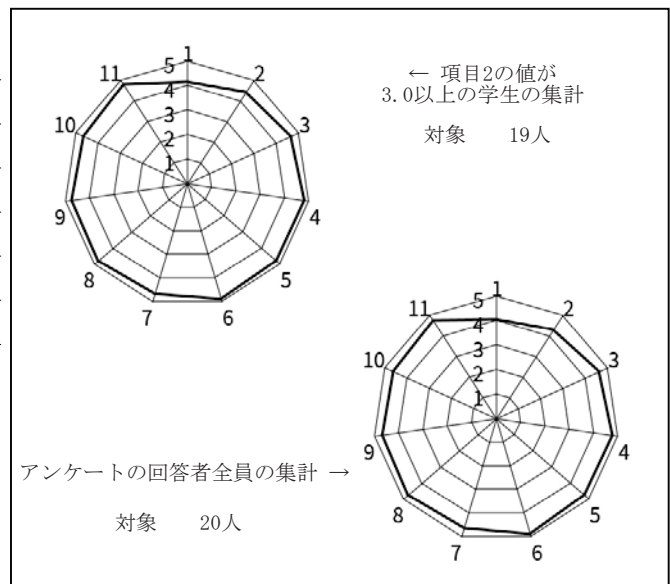


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目的は「日本語音韻史研究の資料と方法およびその限界について理解している」であった。試験や授業内の課題の出来栄からは、概ねその目標を達成できたと考えている。11月7日の授業において、私語をしていた学生に立腹し、注意をし、授業を放棄したことについての非難が自由記述欄に複数あった。私自身の過失によるもので、到底許されるものではない。中には、私が大きな声をあげたことで動転し、その後の授業に影響が出たという意見もあり、大変申し訳なく思う。なお、授業内でそれまで私語に対する注意がなかったということだが、私は直接の注意は基本的にはせず、こちらが喋るのを中断することで、注意を促してきたつもりであった。それでそれまでは私語が止んでいたため、今回も同様に対処したが、それでも止まず、大きな声で注意し、それで授業をやめてしまった。他の大勢の学生には関係ないのに不当である、ありえない、という声が複数あった。言い訳のしようもないことである。その分の授業の補いについては、動画を資料DLサーバに掲示したが、不十分であったとの指摘もあった。授業最終回に受講者には謝罪をしたが、改めて謝意をここに表すとともに、学生が納得のいく何らかの処罰が自身に降ることを願うものである。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	地誌概説
授業コード	22C07-001
教員名	岡本 耕平
教員コード	049502
登録人数	79
回答数	20
回答率	25.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は履修者数79、レポート提出者数72、期末テスト受験者数76、授業評価回答者数20人であった。

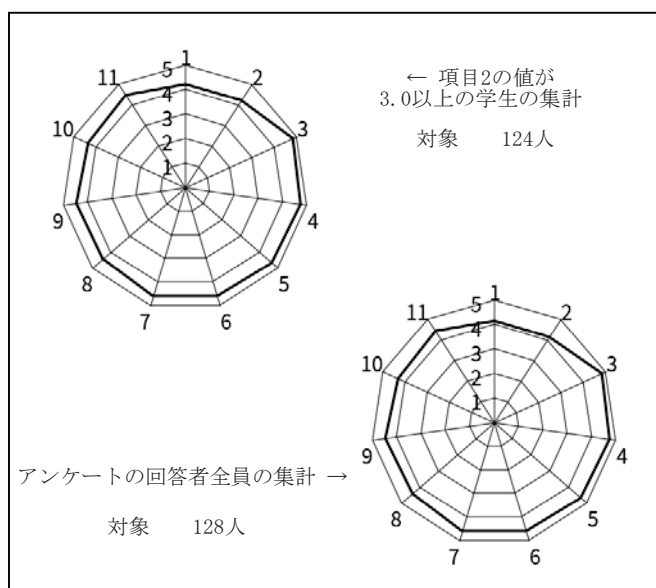
①項目4「授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか。」の平均値は4.80、項目6「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」の平均点は4.90、項目10「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか。」の平均評価値は4.75であり、いずれの設問も全授業平均点を上回り、3以下を回答した学生はいなかった。以上より「開講当初に設定していた目標と到達の程度について」は、達成できたと考える。

②項目11「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」の平均評価値は4.75で全授業の4.44を上回り、3以下を回答した学生はいなかった。項目12「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に対しては、「授業後の質問に、丁寧に回答してくれた点」「身近な話なのでおもしろかった」など8人から肯定的な意見があった。一方、項目13「授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったことがあればできるだけ具体的に書いてください。」に対しては、「授業後のDLサーバーへのアップではなく、レジュメを各々のパソコンで授業中に見られたら、より理解が深められると感じた。」「予備知識が多めでテストでどこが出るのかが読み取りづらかった」「プリントのコピーが薄く、見にくいと感じたときがあった。」の3名からのコメントがあった。プリントの印刷が薄かったのは、私が前もって教務にプリントを頼むのが間に合わず、教員控室そばの輪転機で私が印刷したためであり、申し訳なく思う。

③私は今年度で非常勤定年であり、次年度の授業はない。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 現代の文化人類学
授業コード 22C10-002
教員名 野澤 暁子
教員コード 105106
登録人数 268
回答数 128
回答率 47.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①シラバス記載の目標の到達程度については十分満足な結果になったと思います。特に映像を多用したことと、インドネシアの竹楽器アングルンのワークショップを実施したことが高評価を得たことを嬉しく思います。
- ②数値データについても、全て4以上だったため、特に問題ないと思います。
- ③改善点について：最も指摘があった「途中退席の際に挙手をする」というお願いのは、初回～2回目頃にバタバタと出たり入ったり、また出席コードだけ見てすぐ帰るという学生が目立ち、他の履修生から不満の声を受けて行った対応です。実際に途中退席や私語の予防策を評価する声も多く、どちらを優先するか難しいところですが、今回の意見をふまえて来年度は挙手なしで途中退席を最小限にする工夫をしてみます。また、席をひとつ空けて私語を抑えるというルールについては、肯定的な意見の方が多かったため、私語と飛沫感染を防止するためにも来年度も引き続き取り入れていきたいと考えています。また、ドアの外で出席コードを聴いてスマホから入力し、友人にも送信してそのまま帰る履修生がいたというコメントに驚きました。抜け穴を完全に防ぐことは難しいですが、真面目に取り組む多くの履修生との間に公正性を保つためにも、この予防策も次年度に向けて検討したい所存です。
- 以上を総合的に判断し、いくつかの改善点は見慣れますが、講義での実感や履修生のレポートから充実した授業を実施することができたと考えております。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	統語論
授業コード	22C13-001
教員名	横越 梓
教員コード	101712
登録人数	14
回答数	2
回答率	14.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

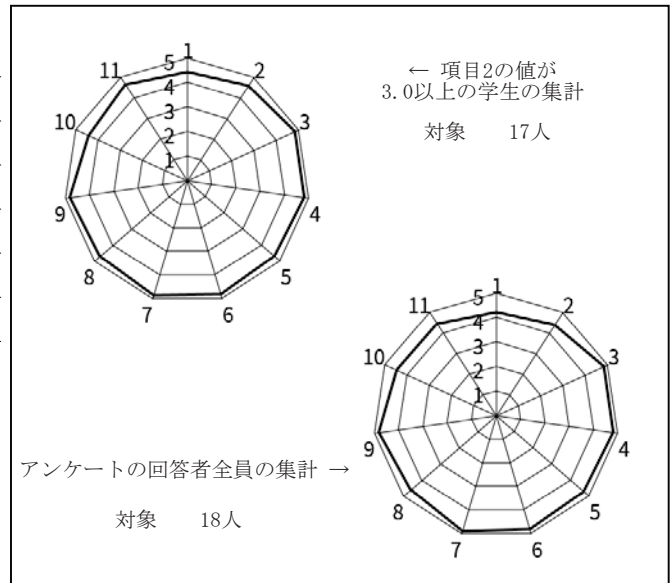
本科目では、統語論の基本的な考え方や分析方法を理解し、樹形図を用いた構文分析の基礎を身につけることを目標として授業を行った。授業はおおむね当初に計画したシラバスに沿って進めることができた。講義資料は毎回配布し、ディスプレイで提示しながら解説するとともに、必要に応じて樹形図や例文を板書して説明した。各回の最後には演習問題を課し、授業内容についての意見や質問を書いて提出させることで、理解の確認に努めた。学期末試験の結果はおおむね良好であり、受講生は一定程度、統語論の基礎的知識を身につけることができたと考えている。

一方で、受講生のあいだには既有知識に差があり、基本的知識を有する学生と初学者が混在していたため、授業では補足説明を加えながら進めたものの、理解度にはばらつきが見られた。統語論では概念や理論に関する抽象的な説明が多く、学生にとって理解しにくい部分があったと思われる。英語や日本語の具体例を取り上げながら説明したが、抽象的内容をよりわかりやすく伝えることには課題が残った。また、WebClassの運用に十分習熟できず、学生の要望に遅れることがあったり十分対応できなかったりした点も反省している。

今後は、理論的説明と具体例との結びつきをより明確にし、初学者にも理解しやすい授業構成を工夫したい。また、演習や授業後コメントを活用して理解状況をより丁寧に把握し、授業改善につなげていきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 文献資料講読(日本)
授業コード 22C84-001
教員名 青山 幹哉
教員コード 019323
登録人数 24
回答数 18
回答率 75.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

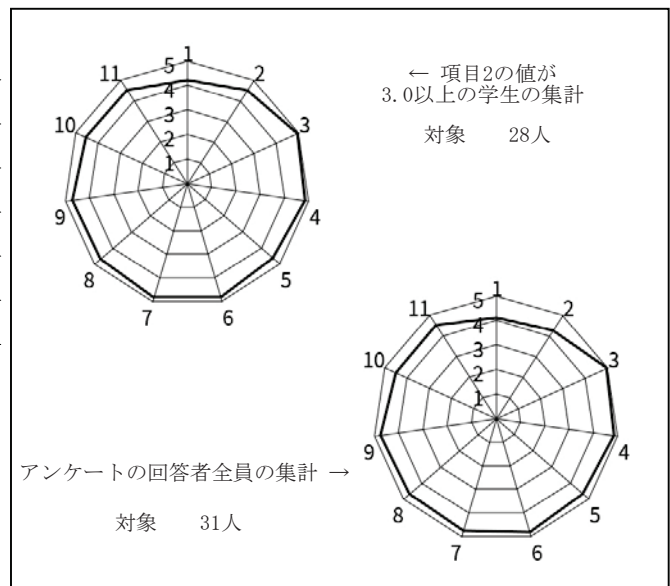


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 設定した到達目標は、(1)日本中世史料解読に関する基本的知識を習得できる (2)『吾妻鏡』の史料性格が理解できる (3)鎌倉幕府の歴史的特性が理解できる、の3点であった。期末試験の受験者のうち、成績がB以上の者の割合は65%であったことからすると、到達の程度はさほど十分なものではなかった。
- ② この科目は人類文化学科の学科科目であるので、同学科科目の1～11の項目平均値と比較すると、設問11以外の設問で本科目の平均値は学科科目平均値を上回った（設問11は同値）。しかしながら、設問1・2の平均値は4.4を下回り、実際、やる気がないのか、予習を怠ったまま授業に参加した学生も若干名、見られた。学期半ばで、簡単なテストを行い、学習の遅れが目立つ学生には警告したが、効果は無かった。むろん多くの学生は真面目であり、自由記述欄を見ると「資料に沿って、丁寧に進められていた」「マニュアル的な授業ではなく、経験や分析、独自の考え、雑談を交えた面白いと感じられるところ」等、好評価のものが多かった。実際、設問3～11の平均値は、昨年度同科目の項目3～14の平均値と同じ4.72であった。
- ③ WebClassに挙げた漢文テキストをダウンロードして印刷せず、スマホのままで読もうとした学生がいた。紙に印刷して配付する方法に戻すべきかも知れない。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 神経・生理心理学
授業コード 23C69-001
教員名 米山 薫
教員コード 104086
登録人数 51
回答数 31
回答率 60.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

今年度の試験結果は良好であり、開講当初に設定していた目標に到達した学生が多かったと考えています。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての総合的な自己点検・評価

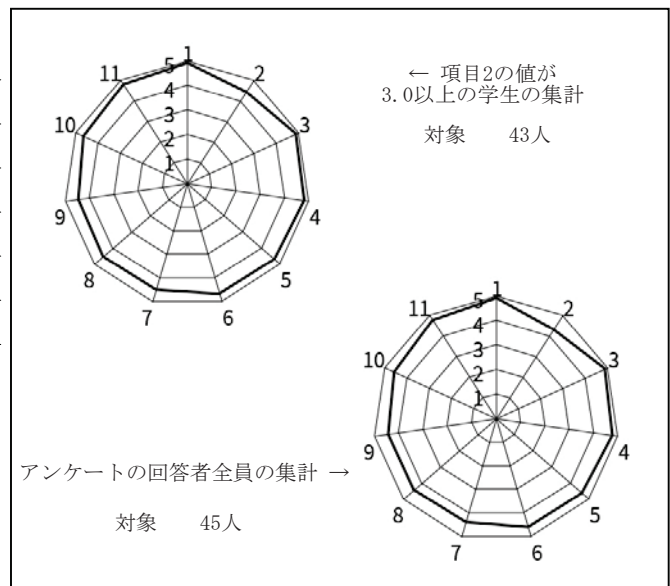
各設問項目のレーダーチャートを確認すると、相対的に点数が低い項目は①（平均値4.13）であり、履修前の学生の興味に関する項目でした。こちらは授業内容以外の要因も関係するため、改善が難しい部分であると考えています。一方で、項目⑪の講義に対する最終的な満足度は平均4.52と比較的高く、全体として学生に良い授業であったと受け取ってもらえたのではないかと思います。自由記述では、「難しい内容だったが説明が分かりやすかった。チェック課題が適度な難しさで、次回のフィードバックも有益だった」といった肯定的なコメントをいただきました。講義内容自体は昨年度から大きな変更はありませんが、今年度は意欲的に学ぶ学生が多く、こうした評価につながったのだと感じています。私自身も、講義に真剣に向き合う学生が多いと感じており、良い関係性のもと授業を進めることができたと思います。改善点としては、「穴埋め資料を埋めないままWebClassに掲載すると、欠席時に内容が分かりにくいので控えてほしい」旨の指摘がありました。この点は今後の改善課題として対応していきたいと考えています。ただし、欠席した回の資料を自分なりに補い、その上で質問に来る学生もあり、こうした主体的な姿勢も大切であると感じています。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負・方針

次年度は、資料提供の方法を改善するとともに、講義内のフィードバックや課題設定の工夫を進めていきたいと考えています。今年度の学生の積極的な姿勢を大切にしつつ、引き続き理解しやすさと学習意欲を高める授業づくりを目指して取り組んでいきます。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 司法・犯罪心理学
授業コード 23C72-001
教員名 山脇 望美
教員コード 104477
登録人数 105
回答数 45
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

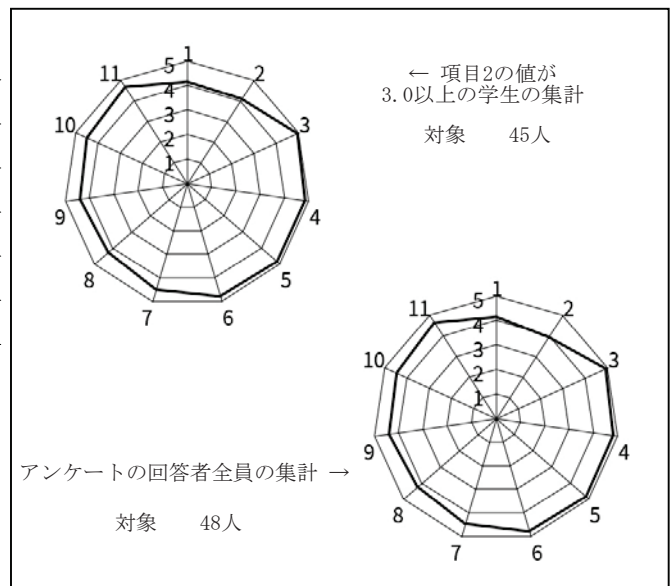
授業アンケートにご回答いただきありがとうございました。

開講当初に設定した目標と到達の程度は、1：非行・犯罪についての基本的な知識や理論，法律など基本的知識の習得について理解できるようになる，2：非行や犯罪の加害者や被害者の心理アセスメントの理解と取り組みについて理解できるようになる，3：非行や犯罪の動機や背景を理解し，加害者臨床の関連機関である少年鑑別所，少年院などについても説明できるようになるなどでした。

授業アンケートの結果から，多くの学生の皆様に面白く将来役に立つ授業だとの評価をいただきましたので，今後も学生の皆様の授業となるように努めていきたいと思ひます。ただし，授業のスピードが早く感じたとの意見も一部の学生の皆様からございましたので，ペース配分に気をつけたいと思ひます。また，教室の環境として，マイクの音の質が悪かった，履修人数と比較して教室が狭かったとの意見がございましたので，今後は教務課の方と相談しながら皆様が快適に授業を受講できるように努めたいと思ひます。犯罪心理学の基礎的な科目となりますが，公認心理師・臨床心理師の資格取得においても重要な授業となりますので，今後も丁寧に指導していきたいと思ひます。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 医学概説(人体の構造と機能及び疾病)
授業コード 23C77-001
教員名 丹羽 統子
教員コード 104280
登録人数 84
回答数 48
回答率 57.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

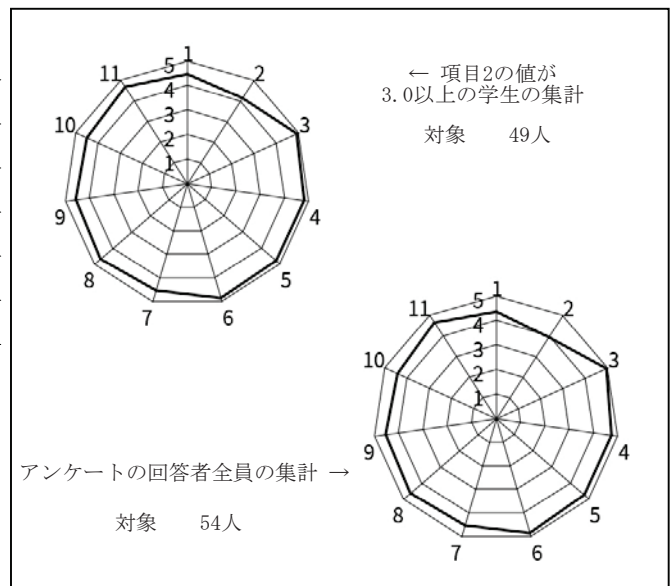


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①設定目標と到達の程度： 講義内容は難解なため今までは受講脱落者が多かった。よって学生の出席率を8.5割以上維持する事と講義内容が理解できる学生が増えることを目標にしていた。昨年度から9割以上の出席率が維持できるようになり、今年度は95%であった。また学生の評価の上でも昨年度より「理解できた」学生が増えており目標は達成された。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：学生において「予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力」の項目の点数が低い。この科目において予習は非現実的だが、自主的に参加し理解を求める課題が設定できると良いと思われる
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：学生が理解できるように、又内容に興味をもてるように講義で取り上げる項目を絞って簡易かつ実用性のある内容に改善していきたい。自主的に参加し理解を求める課題を検討する。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本芸能史
授業コード 24C16-001
教員名 早川 由美
教員コード 101167
登録人数 73
回答数 54
回答率 74.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

日本古典芸能について、興味関心を持ってもらい、知識を身につけてほしいという目標については、満足できる結果であったと考える。

授業内容については、動画やスライドなどの視覚教材の使用について、わかりやすかった、興味を持てたという回答が多かった。

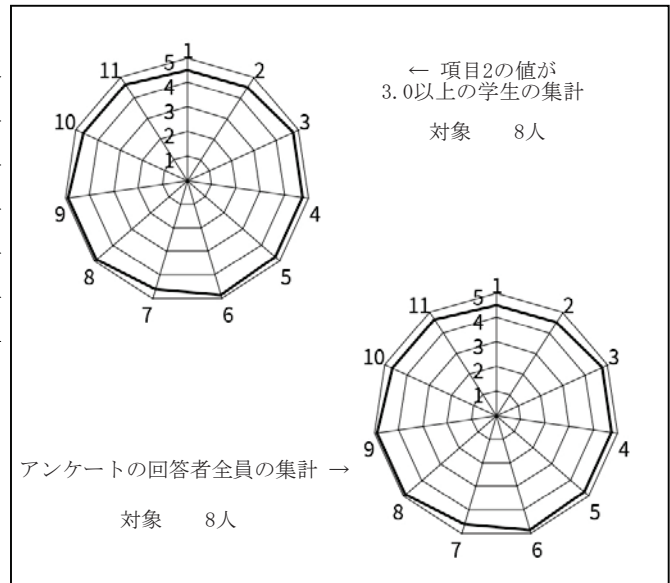
教室の大きさも適度であり、映像資料も見やすかったのではないかと思います。

授業内の小テストが理解度の確認に役立ったという評価も書き込まれていたが、やや難しかったという記述もあった。授業終わりには、質問を受け付ける時間を設けていたがここで質問に来る学生はほとんどいなかった。メールでの質問も随時受け付けていたが、授業時間内にテスト以外に理解度を確認してほしいという書き込みもあったので、表だって質問など出来ないという学生の気質に対してもう少し配慮を考える必要があるかもしれない。

また、2コマ連続であるため、風邪などで一日欠席すると授業についていけないという意見もあった。次年度からは週2日の1コマに変更予定であるので、こうした不満には対応できると考える。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 王朝文学研究
授業コード 24C34-001
教員名 大井田 晴彦
教員コード 101186
登録人数 17
回答数 8
回答率 47.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

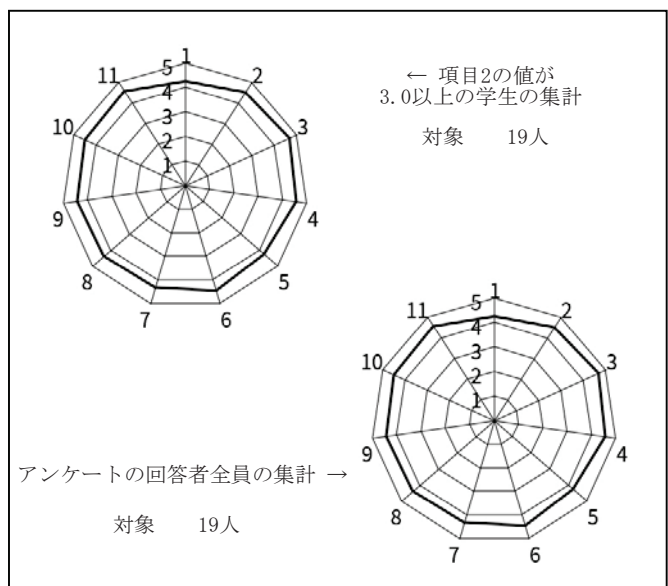


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、シラバス通り、ほぼ到達した。今学期中に
取り上げる予定だった事項は、ほぼすべて講義することができた。受講生も、
内容をほぼ理解できていたように思われる。②基本的に学生の授業に対する態
度は良好である。遅刻や欠席が目立つ学生もなく、講義もスムーズに進行する
ことができた。授業中の課題にも真摯に取り組んでいた。一方通行にならない
よう、学生の理解度や反応を見ながら、対話を心掛けた。熱心に質問する学生
も少なくなかった。授業の進行のペース、難易度はほぼ妥当であったと思われ
る。比較的受講者が少ないため、授業に参加しやすい利点があったと推察され
る。概して、一定の成果は得られたと評価できる。③次のクォーター・学期に
ついては、基本的に今回の授業を踏襲しつつ、授業の質・量を維持・向上させ
ることを心がけたい。ただクォーター制度による授業は、わずか二か月の短期
で授業が終わってしまうので、詰込みによる消化不良を起こす危惧もあり、そ
の点に留意する必要があると考える。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育教材研究
授業コード 24C62-001
教員名 伊藤 恵美子
教員コード 102909
登録人数 22
回答数 19
回答率 86.4%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

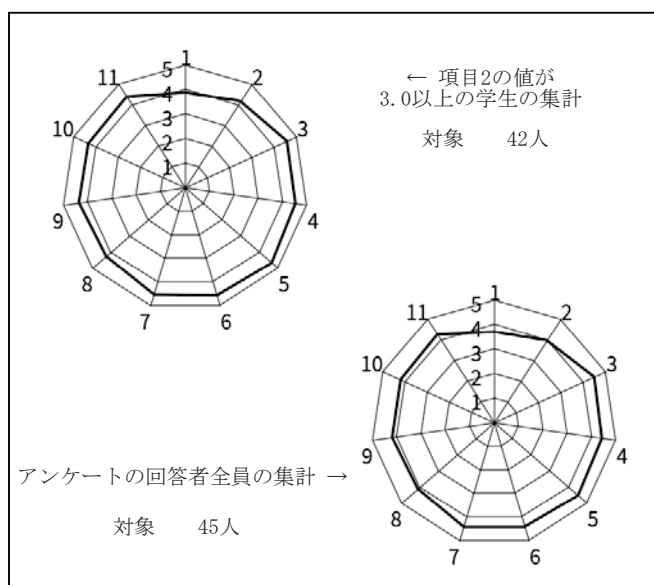


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた授業の到達目標は、日本語教育教材のレベル別特徴を知っている、日本語教育教材のスキル別特徴を知っている、日本語学習者のニーズに合う教材が作成できるようになる、の3点である。項目10「この授業で到達目標に掲げられた力がついてきていると感じる」の平均値は4.47、項目11「授業の満足度」の平均値は4.58と高いので、目標は達成したと考える。なお、この平均値は全体平均を上回る値である。自由記述は「一方的に学ばされる、というのではなく、学び得た内容を元にグループワークを通してアウトプットさせていた」「実際に話し合っ構成を決め、その構成をもとに発表資料を作成できたことが何よりもためになった」「発表後に学生や先生から意見をもらえたことが新たな気づきに繋がったため、良い授業だった」「少人数だからこそ、学生と一緒に授業に取り組むことができるということを身にしみて感じることができた」「生徒同士で改善点や感想を言い合うことでより深めることができてよかった」と高評価であった。今年度は体調不良のため初日2回の授業（2時限連続で週1日開講）を休講したので、受講生の意向を尊重（受講生1名のみ時間割が重複）して4週後の水曜日に補講を行った。この1名に対しては言うまでもなく、私用で補講を欠席した学生に対しても不利益は一切ないことを説明し、そのように成績評価を行った。次クォーターもこのように受講生と話し合い、より良い授業運営を行っていきたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[E]1
授業コード 10A01-007
教員名 清水 美佐
教員コード 152757
登録人数 96
回答数 45
回答率 46.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

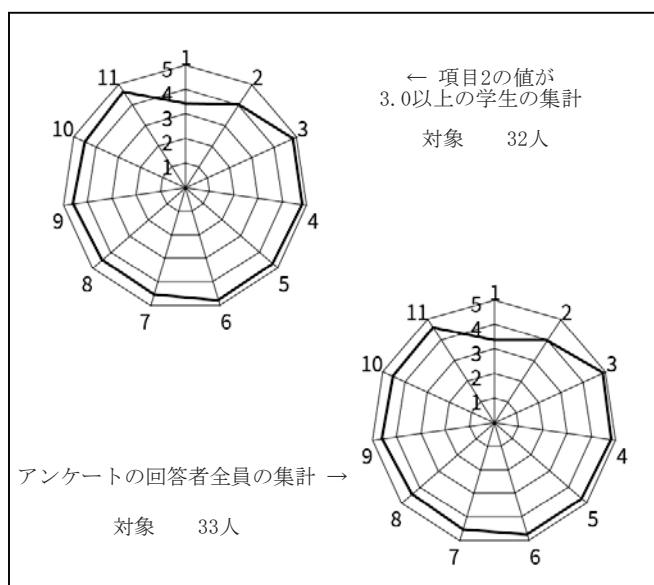


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①当初の目標はシラバスに記載の通りである。このうち「世界や日本の諸宗教について、基本的な知識を得ている」は筆記試験(参照物不可)によって到達度が判断できた。例年よりも点数が全体に低く、勉強不足の学生が目立った。一方で期末レポートは大変に良く書けている学生がほとんどだったが、これは本人が書いたものかどうか判別がつかない。
- ②学生による授業評価では、毎回アンケートの目的、次年度以降に後輩達が受ける授業を自分たちが協働してより良くしていく等の意義を丁寧に説明してから実施している。しかしながら、今回がこれまでで最も回答率が低く、評価値も明らかに事実と異なるような1をつける学生もあり、経験したことのない数値だった。この状態で他の宗教科目の平均数値よりましであるということは、必修の宗教科目全体について、学ぶ意欲をもたない学生に評価をさせること自体があまり適切ではないように思われた。本授業は初回から履修生全体が大教室の後ろ半分に隙間なく固まっており、「授業を聞く気はないが出席のために来ている」という態度のあからさまなクラスだった。授業回数を経るごとに、前の方に座ってきちんと聴く学生が少しずつ増えていったことが幸いだったが、見たところ8割の学生は他の事をしており、こちらの心身が大きく削られるものだった。
- ③次年度は宗教論を担当しないが、再来年度にまた担当する予定である。この間に勉強し授業資料を充実させていきたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[E]2
授業コード 10A01-008
教員名 南 翔一朗
教員コード 104627
登録人数 64
回答数 33
回答率 51.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本年度の講義においても、開講当初に設定した学習目標および到達目標の設計は適切であったと判断する。学期末の評価全体を俯瞰すると、受講生の理解度は概ね想定した水準に達しており、目標に対する到達度も総じて良好である。提示した理論や知識の枠組みを、学生が自身の思考に落とし込むプロセスが一定程度機能したものと評価している。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

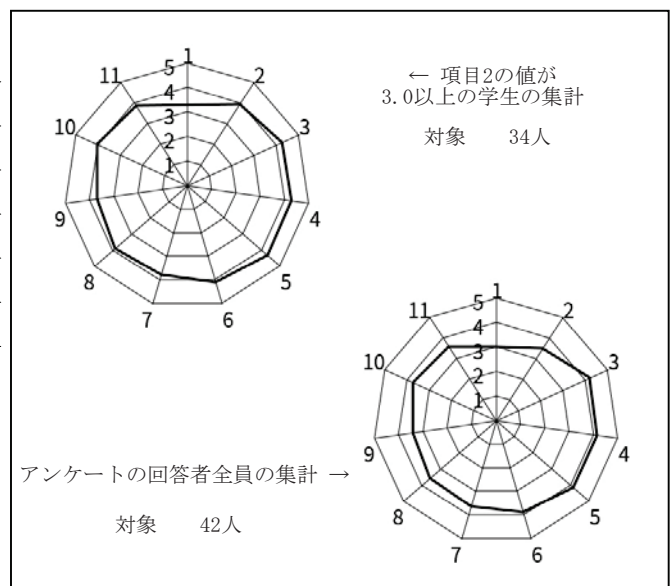
数値データおよび自由記述の結果を統合すると、例年通り、一定の教育的成果を挙げられた講義であったと言える。安定した評価を得ており、特段の大きな問題点は見られなかった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今後は、向学心の高い受講生の知的欲求にも応え得るよう、講義内容およびレジュメの質をさらに高め、学術的な充実を図る。また、次年度より評価方法を「試験100%（出席確認は毎時実施）」へと変更するため、この変革が受講生の学習習慣や理解度に及ぼす影響、および評価の妥当性について慎重に経過を注視したい。厳格な評価制度の下で、より質の高い知的な緊張感を持った学習環境の構築を目指す。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[J]1
授業コード 10A01-011
教員名 DANCAR, Aleksander
教員コード 104655
登録人数 149
回答数 42
回答率 28.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

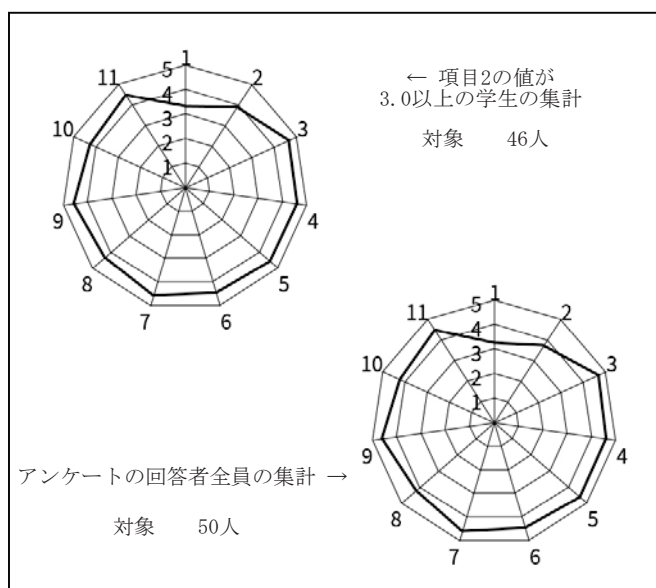
学生たちの最終 レポートを読むと、講義に出席し、積極的に聴講した学生たちは、概ね講義内容と主要な目的を理解してくれると思います。それが彼らの具体的な経験から書かれたのか、それとも良い成績を取るため、そして私を喜ばせるためだけに書かれたのかは別の問題ですが、ほぼ全員が、宗教と人間の関係についての考え方が変わったと書いていただきました。学生の評価に基づくと、日本語、他宗教に関する議論、簡潔で分かりやすい教材の作成など、まだ改善の余地がたくさんあることを認めざるを得ないことだと思います。嘘をつく学生も少なくないと思います。授業を欠席し、出席している友人に出席簿に「出席」と書いてもらう学生もいます。

あるいは、授業を欠席し、出席している友人にパワーポイントのスクリーンショットを撮って送ってもらい、それを元に感想文を書く学生もいます。偽の病欠届を出す学生もいます。問い詰められると、彼らは「授業に出席する気力がない」と言ってしまう。そんな状態で授業に臨むと、理解づらいでしょう。私にとって、これは宗教と彼らの人生との関係について、彼らと対話を続ける機会となりました。彼らの態度は、宗教者、教師として、どのように学び、研究し続けるべきかという、私自身への挑戦でもあります。

今年度は、出席状況を非常に注意深く記録してきました。目的は、出席状況を監視することではなく、この授業に対する彼らの心からの態度を測ることでした。授業に出席する人が本当に講義に集中しているという100%の保証はないと思います。また、熱心に聞いている人でさえ、授業内容を完全に理解していないかもしれません。しかし、「出会い」は「宗教」と呼ばれるものの根本的な側面です。宗教とは「結びつく」という関係性を意味します。その結びつきは出会いを通して築かれるでしょう。その出会いの中で、対話と呼ばれるものが、人間の人生に知的にも精神的にも変革をもたらすことができるのだと思いますから、出席や欠席の確認を厳密にとりました。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[J]2
授業コード	10A01-012
教員名	寒野 康太
教員コード	104315
登録人数	72
回答数	50
回答率	69.4%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

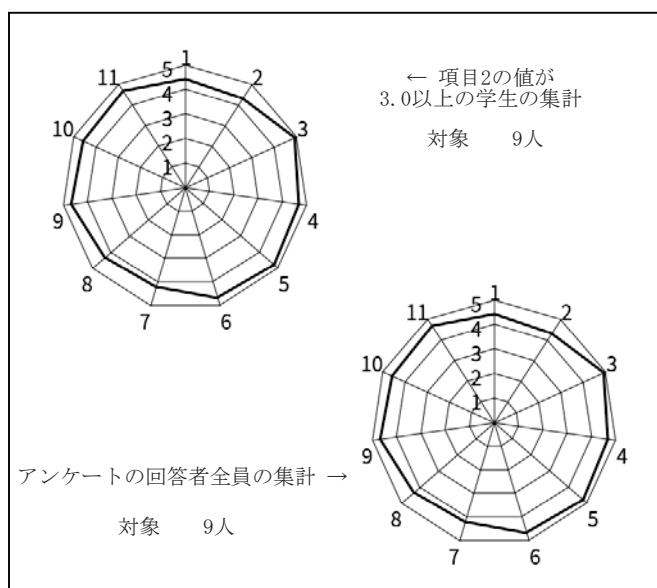


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、共通教育DPIII（多様性を前提とした人間の尊厳を尊重する力）の修得に特に関連し、共通教育DPI（人種、宗教、文化等、異なる背景を認識し、受容するための基礎となる教養）の修得に関連する科目である。しかしながら、通常、興味をもたれることの少ない科目であることも周知のことであり、授業には困難が伴うが、この点、それなりに興味が進展したように思うので、大変安堵している。到達目標としては、1 宗教のもつ意義、そして歴史上見られた弊害について、諸宗教の具体的な例の理解をふまえて各自の宗教観を表明できるようになっている。2 宗教学の基礎的な概念を理解し、それらの人文学上の意義に関して意見を表明できるようになっている。3 いくつかの宗教の基本理念を説明できるようになっている。4 学修者が多様な宗教的価値観を尊重する姿勢を修得できるようになっている。この四つを挙げたが、それぞれ理解し、習熟していった過程を見て取ることができた。登録受講生の多くが一年生であるということで、レポート作成が慣れていないようだが、それなりの成果を上げていたことを評価したい。今後も図書館をよく活用して、人文学の様々な書物に触れ、疑問を持ちながら、読み進めるという作業を自分の生活の一部としていくような学修姿勢の進展を念願している。今後も、教室の状況に気をつけるようにし、わかりやすい授業を心がけることとしたい。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語IV[HC]
授業コード	11J12-001
教員名	井上 淳
教員コード	100301
登録人数	16
回答数	9
回答率	56.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

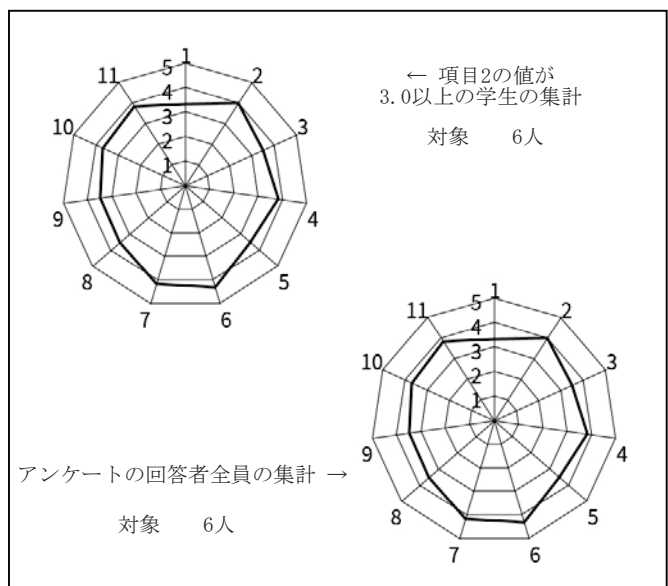


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標には到達できた。授業評価も4以上であり、よい評価が得られたと思う。特によかったのは設問3の4.89、設問5の4.78、設問4、設問6、設問9、設問11の4.67である。設問11は「全体としてあなたはこの授業に満足しましたか」なので、これに良い評価を受けたことはうれしい。最終レポートのラテン語原典解読には『黄金伝説』から「アシジのフランシスコ」の部分を選んだ。内容は次のとおり。「フランシスクス（フランシスコ）はアシジという町に生まれた。鳩のような純真さ（マタイ10.16）に満ちたフランシスクスは、あらゆる被造物たちに、創造主への愛を熱心に勧めていた。彼は鳥たちに説教をし、鳥たちに傾聴され、鳥たちは「逃げずに」彼に触られ、「彼の」許しがなければ離れなかった。彼が説教している時にツバメたちがペチヤクチャ喋っていたが、彼が命じると、すぐに黙って静かになった。ポルティウクラ小聖堂の近くの彼の小部屋の傍らで、イチジクの木にとまっている一匹のセミがしきりに鳴いていた。神の人は手を伸ばしながら、そのセミにこう言って話しかけた。「私の妹であるセミよ、私の方へおいで。」するとそのセミは直ちに従って、彼の手の上に乗った。そのセミに彼は言った。「歌いなさい、妹であるセミよ。そしてあなたの主をほめたたえなさい。」するとすぐにセミは歌いはじめ、「彼の」許しがなければ、離れなかった。」ラテン語により興味をもってもらえるような授業を目指したい。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	神学入門
授業コード	21C01-001
教員名	SUSAI, Raj
教員コード	101347
登録人数	29
回答数	6
回答率	20.7%
休講回数	3 回
補講回数	0 回



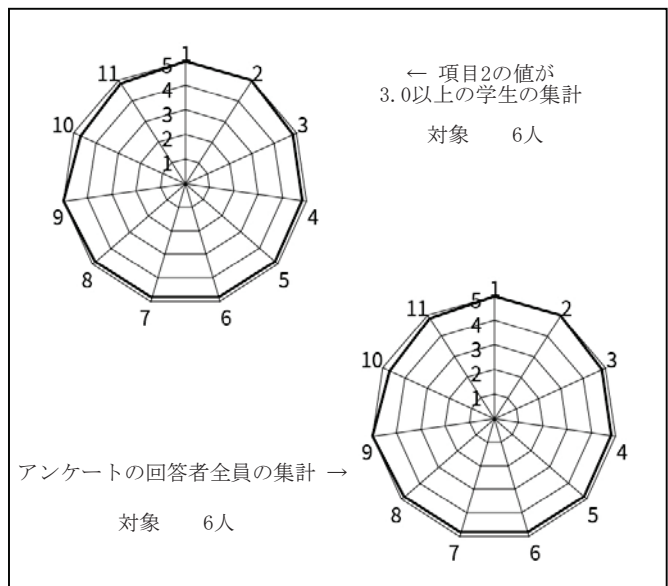
授業評価結果を踏まえた点検・評価

第4Qに行われた神学入門の授業は予定通りに行われた。シラバスに従って進められたがキリスト教学科生以外の学生が多くいたため内容の変化があった。授業の到達目標は達成されたと思われるが、学生の理解力が望ましくらいではなかった。学生の積極的な授業参加はほとんどなかったため授業担当者一人で講義を進めることになった。ビデオなどを見せながら授業を進めたがお昼ご飯のあとだったので居眠りする学生が目立った。

休講のかわりに課題が出され学生課題を積極的に取り組んだ。今回の経験を活かし次回からはキリスト教学科生などをも配慮して授業内容や進行もう少し変更してもいいのではないかとおもわれる。さらに、キリスト教学科の学生中心設定されているシラバスの変更も考え直す必要はあるかもしれません。今後の課題として以下の事柄がおこなわれるの必要とおもわれる。ひとつめはキリスト教学科生ではない学生への特別な配慮。二つ目は学生の積極的な授業参加を促すこと。三つ目にはグループディスカッションを行われることだと思う。全体的に今回の経験を活かし次回の授業に取り組んでいくこと。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 新約聖書学(書簡A)
授業コード 21C26-001
教員名 KUCICKI, Janusz
教員コード 101877
登録人数 14
回答数 6
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



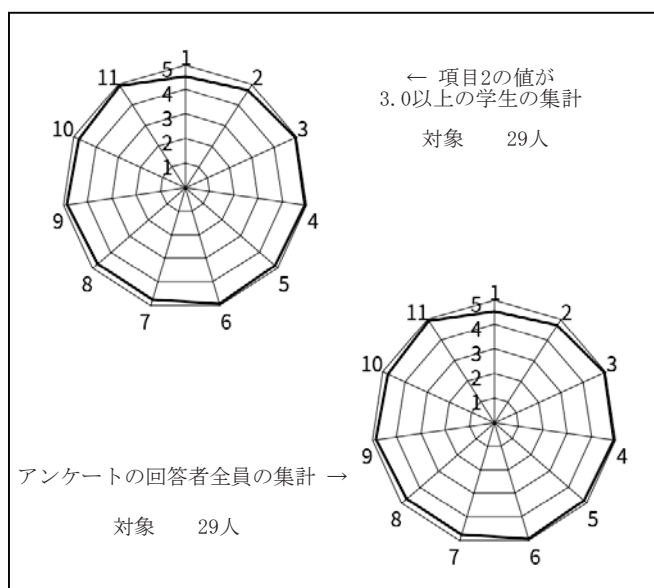
授業評価結果を踏まえた点検・評価

レーダー調査によると、「新約聖書研究：書簡集（A）」は学生に非常に好評でした。

私としては、学生がこの授業を非常に真剣に、そして専門的に受講し、それがパウロ書簡の理解を深めることに貢献したことを認めざるを得ません。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	新約聖書学(書簡B)
授業コード	21C27-001
教員名	HERA, Marianus Pale
教員コード	102689
登録人数	33
回答数	29
回答率	87.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



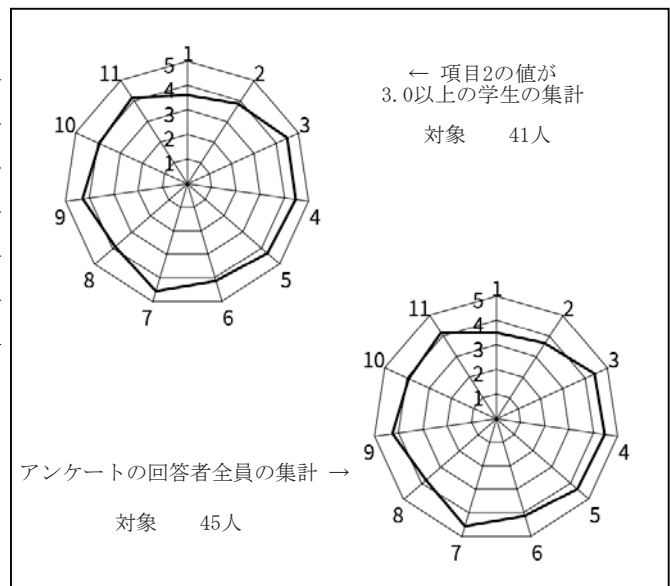
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、パウロ書簡以外の新約聖書の書簡（ヘブライ人への手紙、公同書簡、黙示録）を学ぶ授業でした。多くの学生にとって、黙示録以外はほとんど触れたことがない書物ということもあり、学生に興味を持たせるための工夫が必要だということを授業の初めから意識しました。そこで、学生には毎回特定の聖書箇所を読み、そこから理解できたことや思っている疑問や質問を書くという課題を与えました。授業で学生の疑問などにコメントし、更にやりとりをしていく中で話を深めていきました。今回は、多くの学生は真剣に取り組んでくれた。今後も学生が扱う書物の内容の理解を深めることができるように更なる工夫をしていきたいと考えています。

学生の授業評価の結果を見ると、この授業は全体として目標に達成できたと思います。この授業に対する学生の満足度が4.93という数字で表れています。評価の自由記述には、「内容が濃く、わかりやすかった」、「自分で聖書を読むための基礎が理解できた」、「資料が見やすい点と、補足説明（時代背景や旧約との比較）が豊富にあった。実際に該当する聖書箇所を読むので、講義中に内容も理解しやすかった」などの学生の声から、学生参加型授業や学生の理解度に配慮するという点も良かったと思います。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	哲学・倫理学における人間の尊厳2
授業コード	10D02-002
教員名	谷口 佳津宏
教員コード	016550
登録人数	73
回答数	45
回答率	61.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

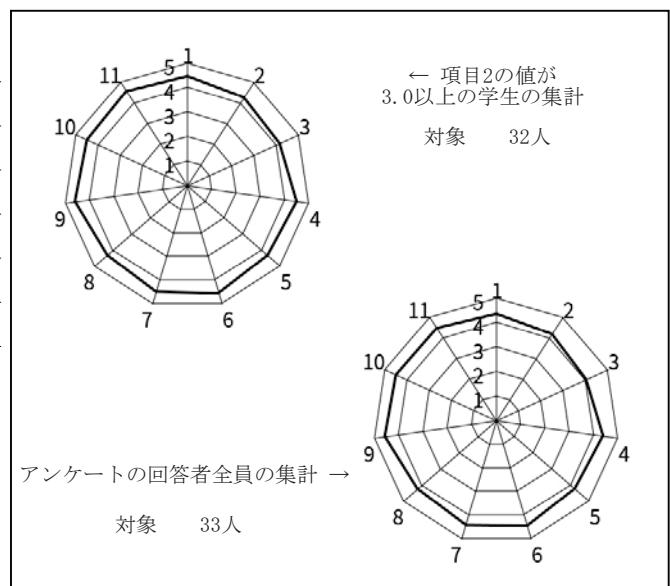


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目的は「1. 南山大学の理念を第三者に説明することができるようになる。2. ニーチェの思想の概要を理解できるようになる。3. サルトルの思想の概要を理解できるようになる。4. 哲学書のある程度読みこなすことができるようになる。」の四つである。定期試験に代わるレポートとして、ニーチェまたはサルトル（あるいは、実存主義）について書かれた本を一冊読んで、その内容を報告するという課題を課したが、登録者数73名中、S評価の者を除く50名中、ニーチェについてのレポートが29名、サルトルについてのレポートが12名、実存主義やハイデガー、ヤスパースについてのレポートが6名、ニーチェ（『ツァラトウストラ』）やカミュ（『異邦人』）のテキストそのものについてのレポート(!)が各1名、カント、生命倫理など課題から外れるレポートが2名であった。この科目は選択必修科目であるうえ、哲学という一般にはあまり人気のない内容でもあるためか、設問1の数値がある程度低くなることはやむをえないと思われる。良かった点としては「紹介された哲学者の思想だけでなく人生などについても詳しく話されていたり、思想についてもわかりやすく説明されていたのでより内容に興味を持てた。」などの意見があった一方で、改善したほうがよいと感じた点や困ったこととしては「こちらが考える機会だったり自ら調べるようなことはなく、完全にレクチャースタイルだったので少しだけ授業に飽き集中できないこともあった。」といった意見が寄せられた。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触3
授業コード 13A02-003
教員名 藤川 美代子
教員コード 103115
登録人数 192
回答数 33
回答率 17.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

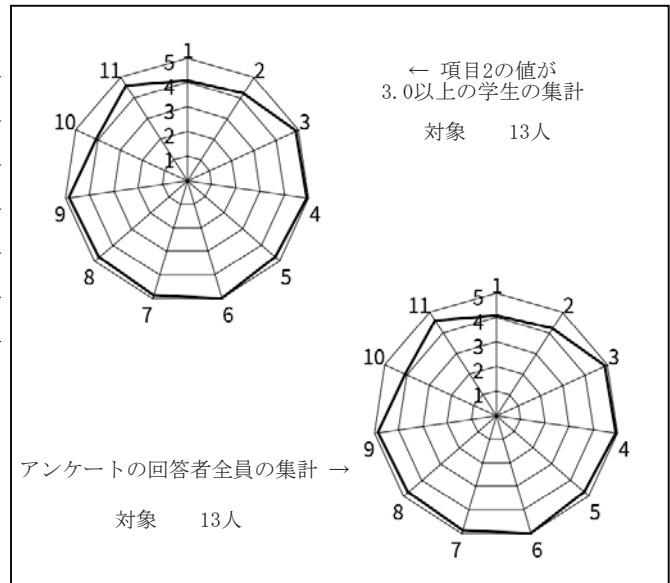


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作る、マイノリティの人々の生活世界を捉えるために必要な視座を獲得する、台湾に存在する社会的・文化的問題について、自分なりの意見を持てるようになる、異文化の理解を通して、自らの文化を相対化する姿勢を身につけるという目標を設定したが、毎回の設問に対する回答や期末レポートの内容から、これらの目標は概ね達成できたものと考えられる。②進捗に滞りが出たため授業時間内でシラバスの内容をすべて終えることはできなかったものの、一部は資料を配布する形で補うこととした。全体として、講義に集中できる環境が保てており、シラバスに沿った内容を提供できたほか、Webclassにおいて毎回質問や意見提出ができる場を設けたことですべてには応えられないものの受講生の意見を取り入れる工夫ができた。また、講義担当者自身の研究の内容や調査中の経験を紹介したり、映画等の映像を用いたりすることで、異文化を身近なものとして理解してもらえ環境を整えることができた。とりわけ近年は、台湾と日本との関係性は国際政治を理解する上でも重要な要素となっており、この授業は政治を真正面から扱うものではないものの、受講生にとっては時事問題の背景を理解する一助となったのではないかと考えられる。③授業評価アンケートの回答率が低かったため、来年度以降は向上させられるよう周知を徹底したい。また、シラバスに挙げた内容を過不足なく提供できるような授業運営に心掛けたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	意味論
授業コード	22C15-001
教員名	和泉 悠
教員コード	103645
登録人数	35
回答数	13
回答率	37.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

1. 形式意味論と語用論における基礎的な概念と道具立てを理解する。
2. 自然言語の意味にまつわる現象を、理論的に説明していく方針を自分で考えることができる。

到達目標 1、2 それぞれについて、授業内課題の解答、期末テストの結果を踏まえるに、合格者は十分に到達できたと考える。

前回とは違う問題であるため直接比較はできないが、テストの平均点が上昇した。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

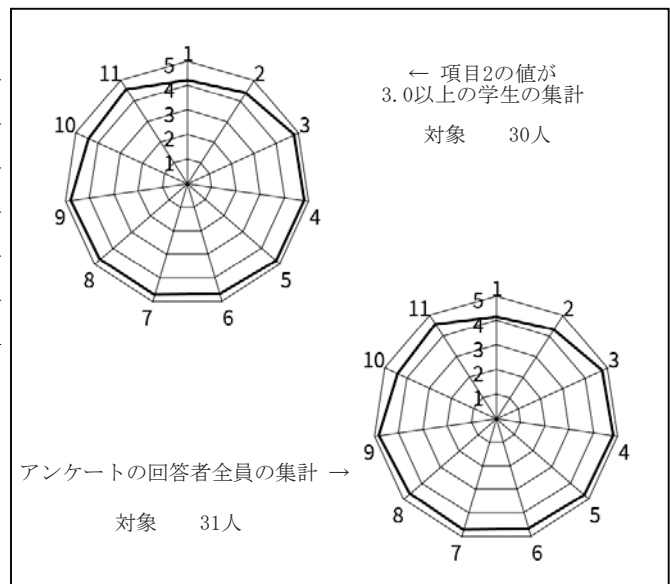
数値は平均を超えており、また自由記述も肯定的な回答が多いようにうかがえる。できるだけ資料や進捗を電子的に共有する点、授業内で課題を全体で行う時間を使い、質問に答えて解説をするチュートリアル的時間を設けている構成なども肯定的にとらえられていると思われるため、今後もその要素は変えないようにする。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

昨年度は「テストではなく、レポートに設定してほしかった」というコメントがあったが、今回はそれが見られなかった。生成AIの登場を踏まえると、期末テストを活用する方針を続けることにする。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 文化理論
授業コード 22C36-001
教員名 吉田 竹也
教員コード 019158
登録人数 43
回答数 31
回答率 72.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

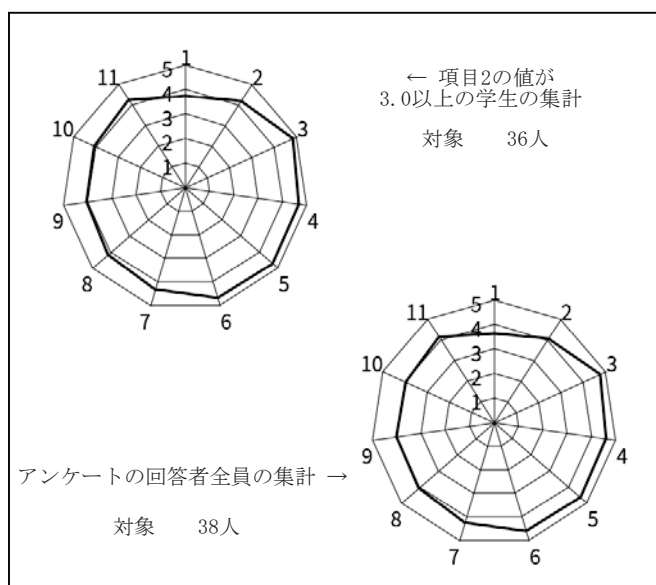
この授業は、講義形式と演習形式とを組み合わせ、文化理論に関する認識・知識の深化をはかることを目標に設定した授業である。

数値データや自由記述を参照する限り、こうした意図はおおくの履修生に伝わったと考えている。自由記述では、「学生がテキストをまとめ、先生が適宜論点を補うという授業スタイルが、より深い学びにつながりよかった」「取り上げられるテキストが興味深かった。自身が作成したレジュメにコメントもいただけたため、新たな視点を持つことができた」「文化理論の内容が丁寧に説明され、分かりやすかった」「演習レジュメを通して文章を読み、批評する力がついた」「現代の諸問題について、多様な角度からの視点及びそこから議論の発展において、教授自身の経験も交えた形式での授業だったので、非常に興味関心を寄せることが出来た」といったコメントがあった。期末レポートでも、学びの成果に言及するコメントが複数からあった。

年度ごとに演習回で取り上げるテキストを選択しており、今後も、こうした受講生の声を聞きながら、微修正を行って、講義半分・演習半分というスタイルで、講義で説明した内容を踏まえてテキストを批判的に読み、多角的な視点から理論と現実の理解を往復する学びを提供していきたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 人間と環境1
授業コード 13D02-001
教員名 林 雅代
教員コード 018796
登録人数 63
回答数 38
回答率 60.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

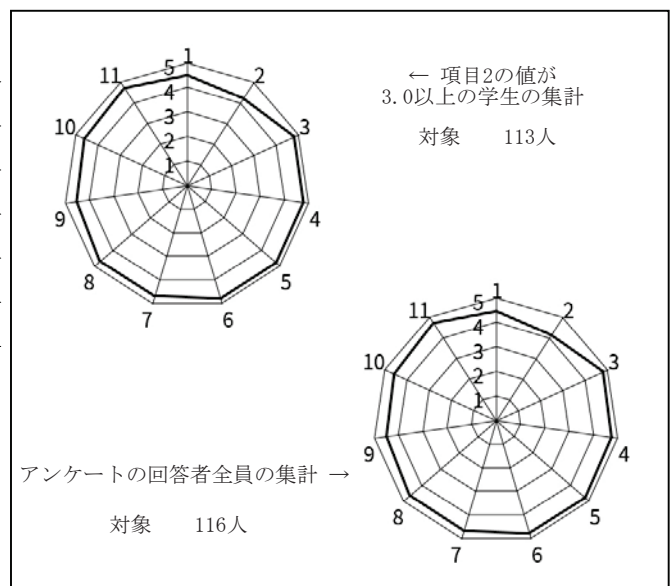


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価報告書の提出を失念しており、提出が遅れて申し訳ありません。この授業は64名登録、1名が履修中止、52名が学期末試験受験（未受験11名）という状況であった。普段の授業も45名前後が出席であったため、授業評価回答者の多くが普段から授業に出席していた学生であったと考えられる。評価項目としては、シラバスに沿った内容、授業の進め方、授業で扱われた教材や課題といった項目では高い評価が得られており、授業実践は概ね受講者に評価されていると思われる。自由記述をみると、授業ノート用のwordファイルの提供を含む配布資料の充実や、中間試験の実施などが具体的に評価されている様子である。ただし、中間・期末試験の解答をみると、授業内容の理解度には課題があるように感じられ、もう一つ何か工夫が必要ではないかと考えられる。また、上記の通り、共通教育科目ということで仕方がないのかもしれないが、登録したものの一度も出席しない・期末試験を受験しないという学生が2割近くに上るという状況は良いのか、という問題意識も感じざるをえない。共通教育科目の位置づけを意識的に伝えることを、今後考えていきたいと思う。

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 こころとは2
授業コード 13E01-002
教員名 解良 優基
教員コード 103910
登録人数 197
回答数 116
回答率 58.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、以下の2点だった。

- ・ 習得した心理学の基礎知識について説明することができる。
- ・ 学習した知識や心理学的視点から、日常的な問題について考えることができる。

小レポートや最終レポートといった成果物の評価より、上記の目標は概ね達成できたと考えられる。

学生の主観評価においても、「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか」という項目への評価平均は4.56という結果であった。

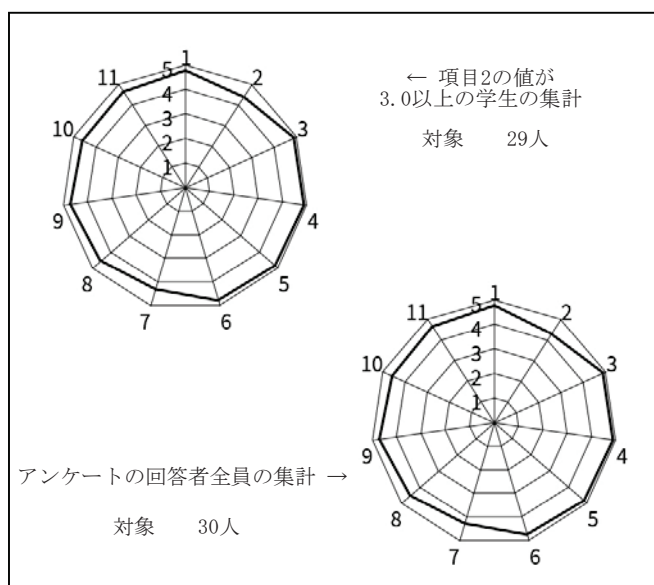
また、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」という項目への評価平均も4.71であり、その他の授業評価アンケートの結果も、概ねポジティブであった。

自由記述では、扱う内容が身近であることや、動画などの教材を適宜用いていた点を評価する記述が散見された。

大人数の講義形式の授業であることから、扱う内容のレベルやペース配分は難しいものの、熱心で意欲のある学生がさらに自身の関心を深められるような情報提供を工夫していく必要がある。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	知識の探求4
授業コード	13E03-004
教員名	川浦 佐知子
教員コード	055855
登録人数	46
回答数	30
回答率	65.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

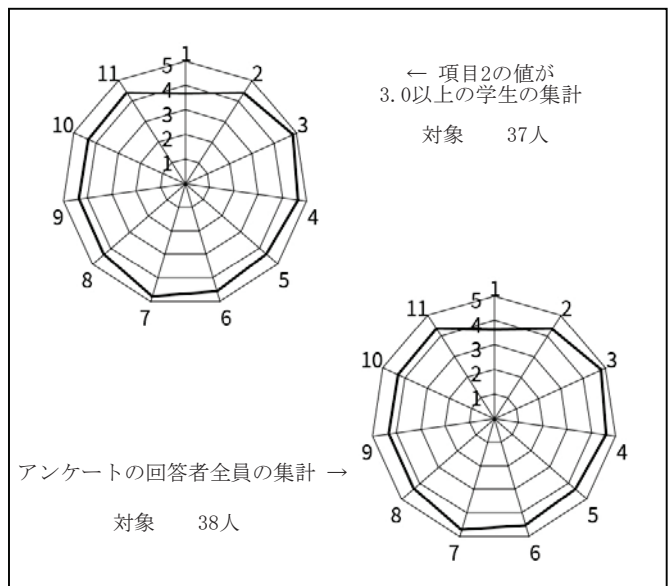
宇宙・惑星系・生命の歴史を、科学的知見に基づいて理解することを目標として、「進化」をテーマとした物語として講義した。学生の「科学」に対する心理的ハードルを下げるため、映像資料や科学番組のクリップ、学術機関のHPなどを用いてわかりやすい説明に努めた。授業では冒頭、前回授業で収集した学生からのコメントや疑問に応え、その後新しい事柄を紹介するようにした。

設問1「授業の内容について興味を持っていたか」という問いについての回答平均値は4.77であり、宇宙について理解を深めたいという明確な動機を持った受講生が履修していたことが窺える。設問3、4、5の回答は、4.87、4.90、4.83であり、授業内容および授業進行は学生の期待に沿ったものであったと思われる。設問6の平均値は4.77であり、各種資料を用い、学生の理解度に応じた授業であったと考える。比して、授業の満足度を問う設問11の回答平均値は4.63となっており、学生の期待に応えきれていない要素があるように思われる。次年度以降、学期半ばの時点で学生とやり取りをし、学生の期待している内容が盛り込まれているかどうか確認をし、改善に努めたい。

自由記述欄には；「内容がとにかくすごく面白かった」、「板書と動画や資料が活用されていて、わかりやすく解説されていた」、「先生の話し方が穏やかでわかりやすく、毎回楽しく受けることができた。映像資料も豊富で理解が深まった」、「相対性理論などといった、やや難しいことも理解することができた」といったコメントが寄せられた。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習ID
授業コード	23A07-001
教員名	藤岡 慧
教員コード	105130
登録人数	45
回答数	38
回答率	84.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

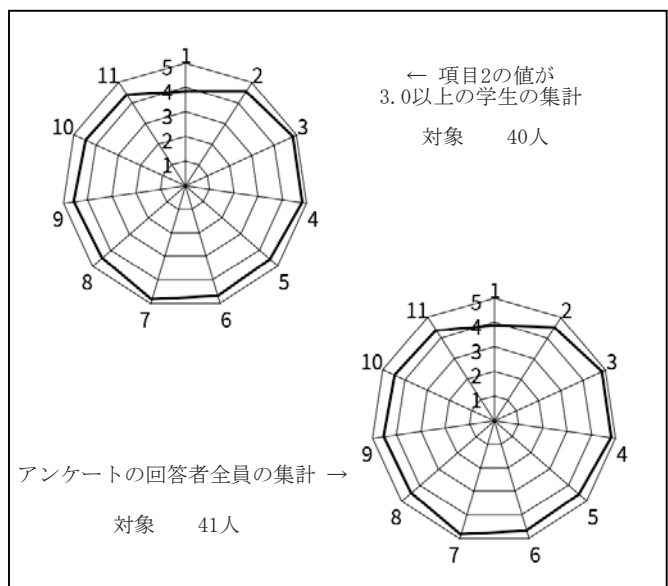


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の目標である、推測統計の考え方を理解する、表計算ソフト（エクセル）を用いて簡単な統計処理ができる、推定および検定についての基礎知識を習得するについては、欠席過多の者、課題を提出していない者を除き、単位を取得できる見込みであるため、達成できたと考えられる。レーダーチャートからは、受講生は当初、本講義への興味は低かったようだが、それは、前提科目である1Cにおける課題が多かったこと、統計を学ぶ科目であるためだと考えられる。しかし、質問の機会を設けることで、最終的には、ほとんどの学生が目標を達成した。一方で、本科目は複数教員で担当しているため、情報の差が生まれてしまったことは課題である。私自身が初年度ということもあり、一部の学生には不安な思いをさせていた可能性はある。しかし、成績が不利になるような情報の差はなかったと考えられる。来年度は、私が本科目のコーディネーターを務める等、担当する教員が一部交代するため、クラス間で情報格差が生まれないように善処したい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習ID
授業コード 23A07-002
教員名 藤田 知加子
教員コード 100382
登録人数 46
回答数 41
回答率 89.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

- ・ 推測統計の考え方を理解する。
- ・ 表計算ソフト（エクセル）を用いて簡単な統計処理ができる。
- ・ 推定および検定についての基礎知識を習得する。

上記3点を本科目の目標としていた。学生評定の平均値は4.44と力がついてきていると感じている学生が多い様子から、概ね達成できたと考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

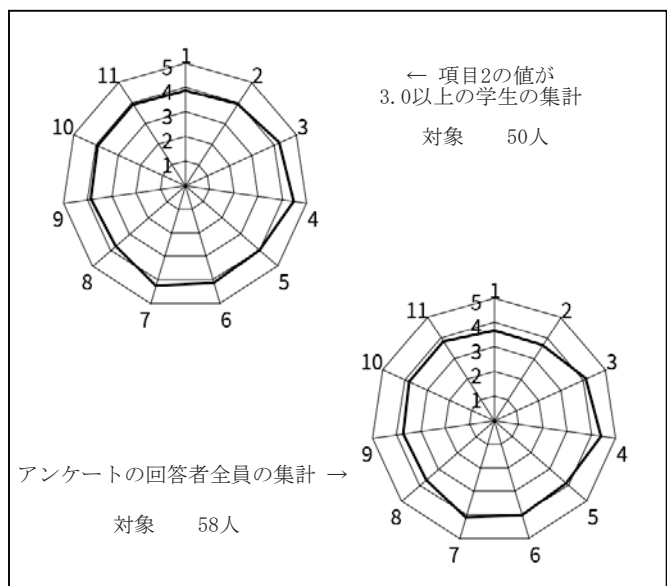
自由記述では、「用語や理屈を丁寧に説明してくれた。分かりやすく理解を深めるための工夫が多くなされていた。」、「丁寧に、上辺だけの理解ではなく、式や用語そのものの根底にある意味を分かりやすく説明してくださった。」、「予習や復習は大変だったけどためになった。」などポジティブな感想が多く書かれており、取り組みの工夫は効果的に学生に伝わったと感じている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

「次回の課題の範囲を、授業後ではなく、もう少し事前から提示しておいて頂けると予習しやすいと思いました。」など、より意欲的に事前学習に取り組もうとする学生の意見も踏まえ、やや早めの資料公開を検討してもよいかもしれない。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	社会学概説
授業コード	23C01-001
教員名	加藤 隆雄
教員コード	019349
登録人数	92
回答数	58
回答率	63.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

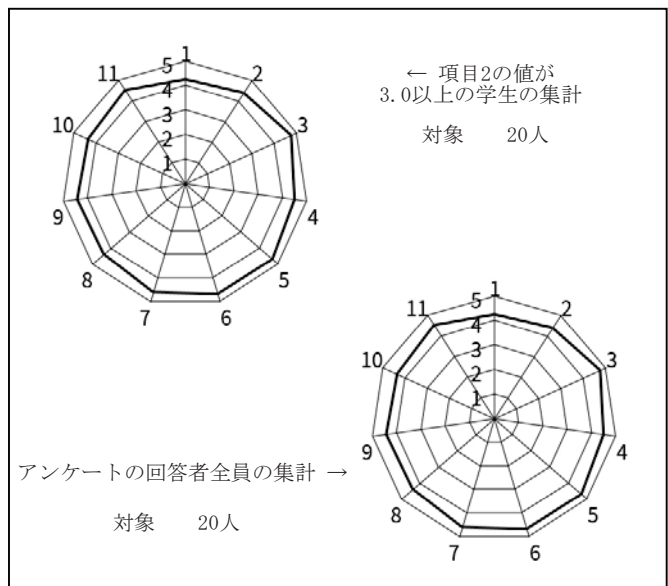


授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生は1年生から4年生なので、知識や関心、理解度のレベルの定位が難しい授業である。授業の冒頭で予告したのだが情報量が多いので、「内容が細かいのに進度が速い」「情報量が多すぎる」「重要な点がわからなかった」などの声が少数あったがやむを得ない。平均点は4.0前後でそれほどのものではないが、むしろ回答者が通例以上に多く「授業内容が詳しくて分かりやすかった」「スライドが充実していた」「資料が分かりやすい」「スライドにわかりやすくまとめられていたので、話が入ってきやすかった」「講義資料が授業の前には配布されていて、その資料を基に予習を行なうことができるという点が良い」といった肯定的な意見が多数あり、前回の評価（2023Q3）から改善が加えられたと考える。「教養として、主要なことを要約している」「社会学に対する学者のそれぞれの見解を聞くことが出来てとても貴重な機会を貰ったと感じている」といった記述もあり、受講者のレベルも上がったように感じている。次年度も内容は落とさずに講義を行いたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	教育課程論
授業コード	23C16-001
教員名	高橋 亜希子
教員コード	103582
登録人数	39
回答数	20
回答率	51.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

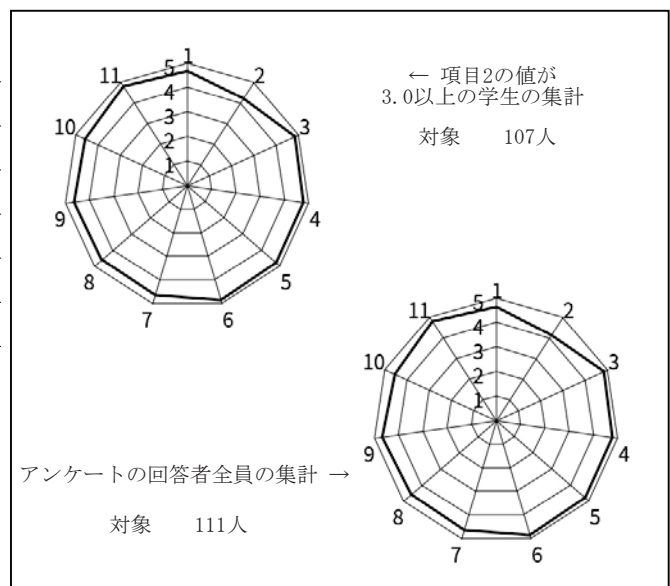


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業は前半を講義形式で行い、後半にグループで最近の教育課題に関するテーマを設定しは発表する形式で行った。、前半を小テスト、後半のグループ発表については発表と個別レポートという形で評価を行った。「グループワークと小テストがあるため、授業内容が頭に残りやすい。」という学生の意見を鑑みるとその形式で適切だったと考えられる。②数値データおよび自由記述等を踏まえて：「グループワークが多く、人と話す機会が多かったため、自分の中だけに意見を留めず他の人と共有できるという点が良いと思った。」等、おおむね肯定的な評価が多く、グループワークに対する肯定的な意見が多かった。とりわけ、グループでの調査学習について「グループで調べ学習をしたので自分の興味のある内容について深く知ることができた。」「発表があり幅広い内容に触れることができた点良かったと感じる」と好意的な意見が聞かれた。③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：講義とともにグループワークがあることが意味を持ったため、今後もこの形を続けていきたい

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会心理学(社会・集団・家族心理学)
授業コード	23C60-001
教員名	土屋 耕治
教員コード	102287
登録人数	248
回答数	111
回答率	44.8%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、2年次以上を対象とした講義科目である。主に、心理人間学科の学生を中心に約250名が受講した。

(1) 目標と到達

本授業では、心理学の視点からの人間理解、ならびに、科学的に現象を考察することを目標としていた。到達目標を振り返る項目（項目6）は、4.85と比較的高いと言え、一定の目標を達成していたとすることができよう。また、全体に関する満足度に関する項目（項目11）は、4.79と比較的高い水準にあることから全体としても、評価を得ていたと考えられる。

(2) 総合的な自己点検・評価

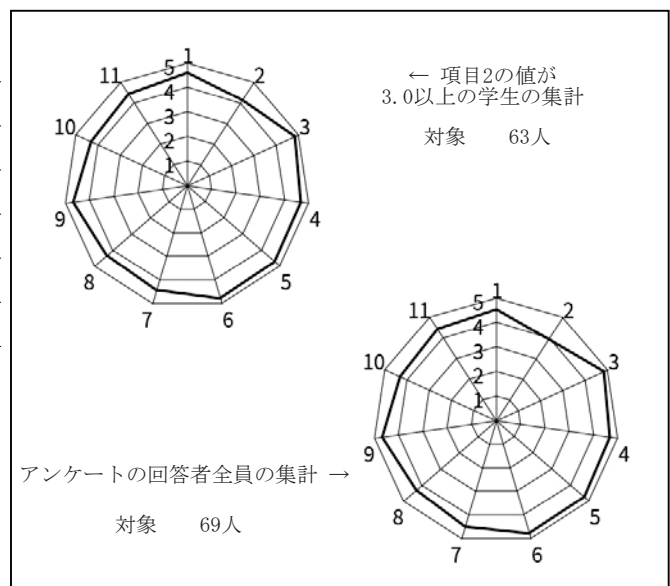
WebClassを授業中に活用し、相互に意見や考えを見る機会を設け、VTRを多く活用し、実際に実験のデモを行った。また、WebClassのアンケート機能を用いて、毎回の授業後の記録（ジャーナル）を記入してもらい、書かれた内容は、匿名状態にして、受講生全員が相互に見られるようにした。担当者への質問も授業前半だけではなく、すべてに対して回答を行うよう改善した。とくに、映像を多く用いたことについては自由記述でも複数言及されており、学習に効果的であったと言える。

(3) 改善点

授業教材についても、最近話題になっていることも積極的に取り入れていることを評価している声もあったことから、引き続き、事例を収集し、それを教材に折り込んで使用することで、わかりやすい授業にしていきたいと考えている。

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理療法論(心理学的支援法)
授業コード 23C61-001
教員名 楠本 和彦
教員コード 055780
登録人数 114
回答数 69
回答率 60.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は次の目標であった。以下の心理療法(心理学的支援法)の基本的概念について理解している。

- ① 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
- ② 訪問による支援や地域支援の意義
- ③ 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
- ④ プライバシーへの配慮
- ⑤ 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援
- ⑥ 心の健康教育

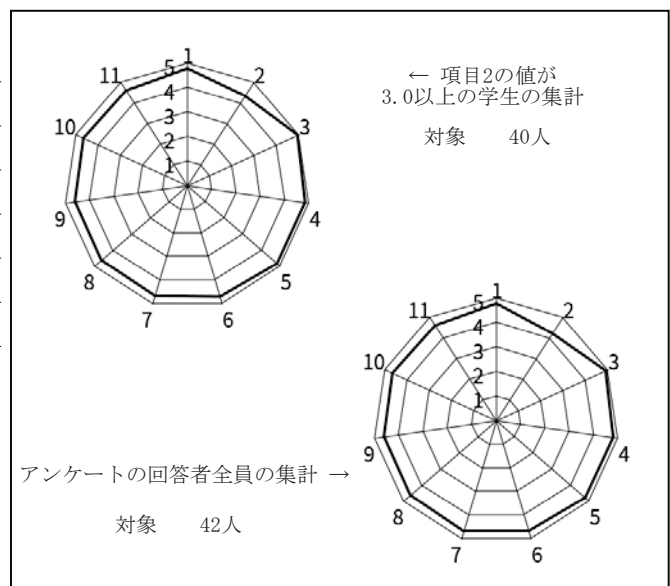
本授業の評価結果と大学全体の評価平均を比較した場合、本授業の結果が下回る場合があった。項目2は、大学全体平均よりも0.1ポイント低くなっている。予習が必要な授業課題に関して、予習の行うことの必要性を説明しているが、予習を行った学生がやや少なかったことが反映していると推測される。この点について、今後、さらに意識して授業運営を行いたい。

大学全体平均よりも0.1ポイント以上、上回っている設問は1、3、5、6、9であった。これらの項目は、学生の授業への興味、授業内容のシラバスとの整合性、構成や進行速度の適切さ、授業運営(理解度への配慮や教材等の効果的使用、質問の機会の確保)に関することであり、それらが、学生から一定の評価を得ていることを示している。

今後も、授業内容や運営に関して改善・工夫し、学生が関心を高め、学生の今後の研究、学習に繋がっていく授業展開を模索したい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	精神医学概説(精神疾患とその治療)
授業コード	23C78-001
教員名	中野 有美
教員コード	103995
登録人数	93
回答数	42
回答率	45.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

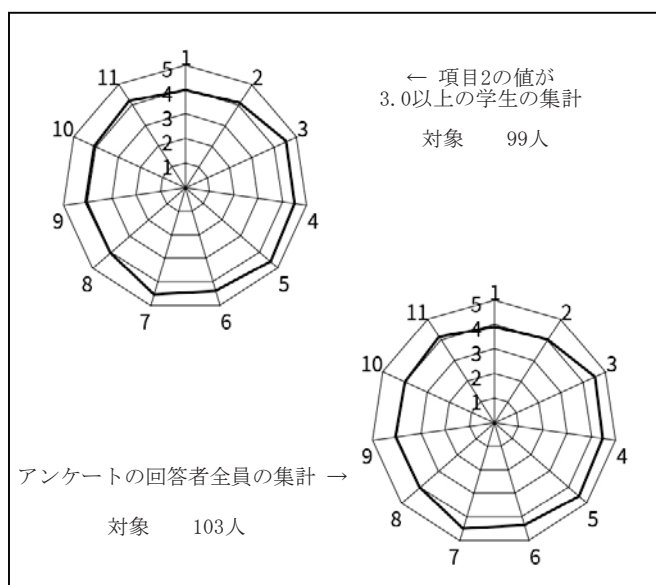


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は、履修者が、1. 各疾患の歴史、危険因子、診断基準、症状、治療、予後についての知識を持つことができる、2. 最新の正しい知識を持つことにより精神障害への偏見をより小さくできる、3. 症状の予防、改善、再発予防に役立つ心理社会的支援のあり方についての知識を持つことができる、4. 自身のメンタルヘルスをモニターでき、マネジメントの技術を身に着けること、であった。講義では代表的な精神疾患を網羅的に扱い、1～4のいずれも、講義の中に積極的に盛り込んだ。学生からの評価（履修登録人数の半数弱）をみると、学生に目標としたことが伝わっていることが分かる。2025年度に行った方法や内容で、2026年度も引き続き行っていく所存である。映像資料を使った疾患の症状と治療法の紹介、ならびに外来講師の講義の評判がよいことから2026年度も引き続き取り入れていくこととした。また、評価はレポートにより行っている。昨今はAIが発展しており、賢く活用するならよいが頼りすぎて自分で思考しないということでは意味がないと考えるので、2026年度からはレポートに、根拠資料の明記を求めることにする予定である。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 文学B
授業コード 12A04-001
教員名 辻本 裕成
教員コード 019042
登録人数 214
回答数 103
回答率 48.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに記載した到達目標は以下の通りであった。

- 1 古典文学を専攻する予定の学生については、古典文学研究の諸問題に関する入門的な知見を得ている。
- 2 古典文学を専門に学ぶ予定のない学生については、教養、趣味としての古典文学の面白さに気付いている。
- 3 人間の想像力の豊かさ、面白さに気付いている。
- 4 古典和歌の豊かな表現性や、歌人達の数奇な人生に興味を持っている。
- 5 文学作品の享受を通じて、時代による思考様式の移り変わりに気付いている。

いずれもやや抽象的な目標なので、受講生には到達目標に到達したかどうか、実感にくいものであったかもしれない。

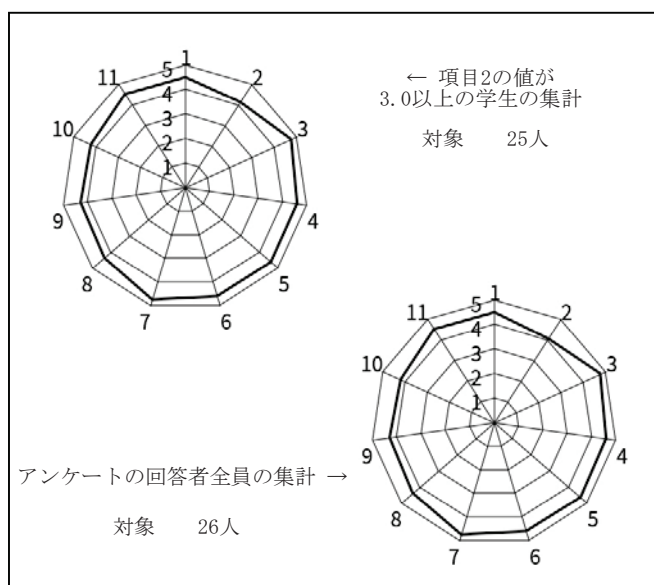
リアクションペーパーを見ると、熱心な学生にはある程度この目標に到達できていたように思われるが、全ての受講生がこの目標に到達できたかは心もとない。

数値データはまずまずの結果で、自由記述は好意的なものが多かったが、授業に満足しなかった受講生は積極的に授業評価に加わらないだろうから、割り引いて考えておく必要があるだろう。

リアクションペーパー・答案を見ていると、残念だが学生の平均的な教養レベルは年々落ちてきているように見受けられる。それは嘆いていても始まらないことなので、それに対応して、レジュメなどを改訂していく必要があるように思われる。また、受講生が当然知っているという前提で話していたことも、説明を加えていく必要もあるのだろう。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは4
授業コード 13E02-004
教員名 靱山 洋介
教員コード 041806
登録人数 30
回答数 26
回答率 86.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

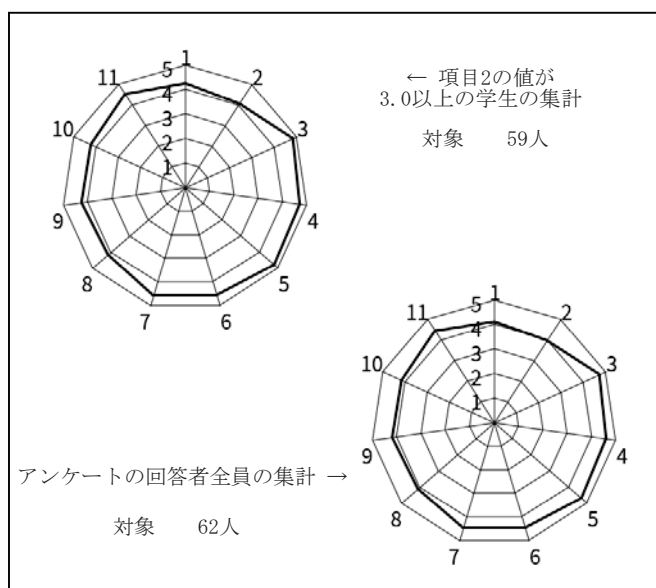


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業に熱心に取り組んだ学生が多く、小課題、筆記テストの結果、授業での発言・やりとりから判断して、90%近くの受講者が、授業の到達目標に（十分に）達した。自由記述として、「身近な例をたくさん取り上げていたため、わかりやすかった」「身の回りの様々な言葉の使い方についての具体例を出しながら進められていたので、分かりやすく、楽しかった」というコメントがあった。今後も学生が興味を持ち、理解を促す例の提示に努めたい。また、「毎授業、学生を何人か指名して質問していたのが、他の学生の考えを知ることのできる場となっていて良かった」という意見もあった。授業を活性化する受講者とのやりとりの仕方について、一層工夫していきたい。さらに、「言語学について、基本的な体系を提示してくれた」「この授業を経て、日常のささいな言葉にも疑問を抱くようになった」というコメントもあり、言語学の基礎を学びたい学生の希望にある程度応えることができ、また、言葉に対する問題意識を高めることの一助にもなったと思われる。なお、講義資料は、紙媒体で配布したが、「ウェブクラス上に講義資料をアップロードして欲しい」という意見があった。今後、検討したい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本思想史
授業コード 24C24-001
教員名 森田 貴之
教員コード 102286
登録人数 106
回答数 62
回答率 58.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1の授業開始前の興味が4.13であったのに対して、設問10の到達目標に掲げられた力がついてきていると感じるか、が4.16、設問11の満足度が4.44であった。到達目標の達成を十分に感じさせることができていなかった点が反省点である。必ずしも当初から高い関心を持っている学生だけが受講していたわけではないと思われるが、様々な関心の程度の学生に応え、明確にその達成感が得られるように、シラバス等を工夫するようにしたい。

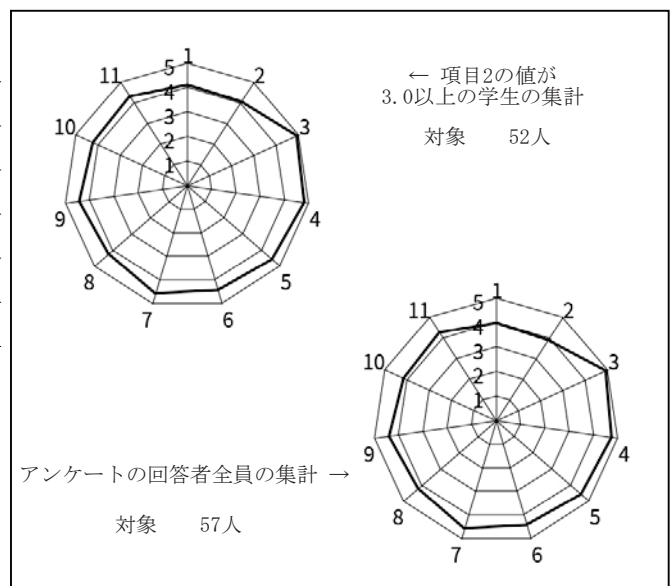
調査対象科目は、日本文化学科の学科科目であると同時に、人文学部の共通科目B群の科目であり、日本古典文学の専門性の高い知識も求められる内容でありながら、日常において、日本文学や古典文学を扱う経験のないであろう受講生も多い科目である。そこでできるかぎり現在のメディア・文化の在り方考えるきっかけになるように、また、具体的な関心を高められるように努めたつもりである。その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものがあり、その意図はある程度は伝わっていたと感じる。

一部、リアクションペーパーの提出期限に対する不満もあった。授業後の素直な感想・考えをそのまま記述してもらいという意図によるものであったが、その意図が十分でなかった。授業内で丁寧に伝達することを心がけ、多様な事情を抱えた学生全体への配慮も心がけたい。

また、冗談のつもりがそれが伝わっていない受講生がいることが回答によって判明した。そのことを反省し、今後は冗談や雑談を極力排して講義をする。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。なお、授業内で回答を呼びかけ、十分な時間をとったが、回答数が十分でなかった改善を期したい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中国古典研究
授業コード	24C41-001
教員名	西岡 淳
教員コード	019315
登録人数	87
回答数	57
回答率	65.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

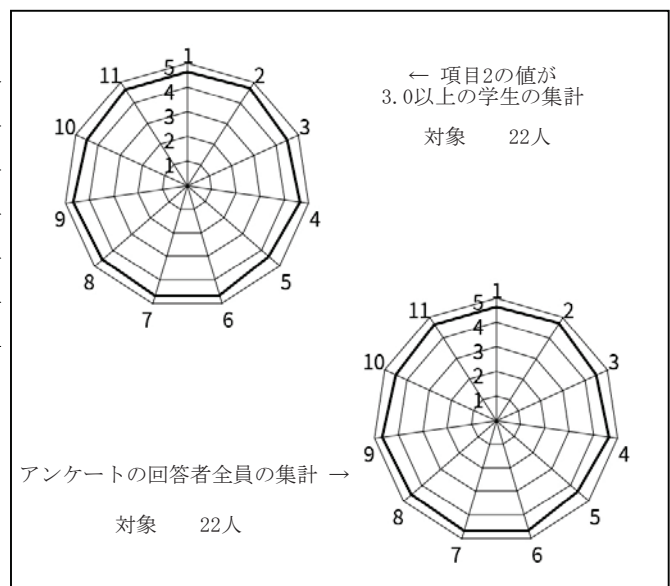


授業評価結果を踏まえた点検・評価

中国の古典詩に関する講義形式の授業で、近体詩の成立、および北宋の主な詩人について講じた。授業の目標は、中国古典詩の形式について音韻的な面も含めて理解できること、時代背景を知り、その上で個々の詩人たちについて知識を得ていることなど。成績評価は、記述問題と読解問題を内容とする定期試験によった。答案には受講者個々の意見がよく述べられ、読解の出来もまずまずで、授業目標はほぼ達成されたと考える。評価項目の平均値は4.37（除1・2：4.47）であった。評価項目の中では、設問1と2以外では、10の「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると思いますか」が平均値4.14と最も低い。講義形式を取ったために受講者に自覚がないのかもしれないが、授業での資料読解を通して受講者が確かに能力を獲得していることは、試験結果からも明らかである。自由記述にも、「作品の解説に加え詩人や時代、地理など付帯的な解説が多く、理解しやすかった」「非常に詳しい説明があり、より興味を持てるような授業内容だった。歴史的な内容や人物の説明などが面白かった」等の回答があり、受講生の理解度は深まったと思う。評価されなかった点としては、「聞き取りにくいことがあった」「進み方が早く、書き下しや訳を把握しきれないことがあった」「1番後ろの席の人の私語が気になる 때가多々あった」等の記述があり、改善すべき課題と考えている。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語の会話教育
授業コード 24C63-001
教員名 岩崎 典子
教員コード 103983
登録人数 30
回答数 22
回答率 73.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

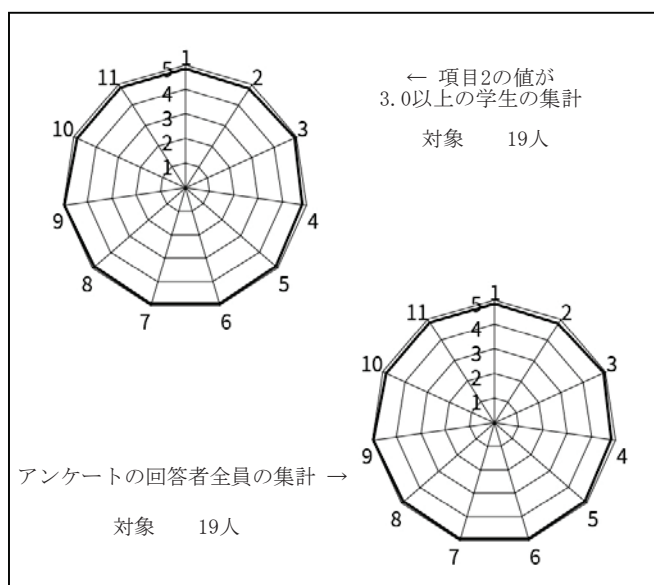


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①：開講当初に設定していた目標は概ね達成したと思われるが、「接触場面のコミュニケーション」理解のためのCOILに予定以上に時間を割くことになったため、会話教育の具体的方法については、十分に深められなかった点が悔やまれる。
- ②および③：最も評価が低いのが、「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」(4.41)で、これは、比較的評価の高い項目の一つである「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」(4.68)とのために時間調整が困難であったことを反映しているようである。自由記述においても、「質問やリアクションにとっても丁寧に答えていた点。」など質問や進捗に対するサポートに時間をかけたことが評価されていた。今後、WebClassなどを活用して能率よく質問などに対応する方法を今後考える必要はあるが、対面の指導が最も有効であるという印象があるので、バランスが難しい。
- ③ヨーロッパの大学とのCOILは、時期的にクォーター制との折り合いが悪く、1週間目の授業登録変更可能期間のグループ再編成などに時間も要することから、時間をとるのが難しく、また、先方の大学の学生であるパートナーとの時間調整や協力によってグループ間の活動の時間や参加度が異なり、実施には様々な困難を伴う。その一方、学生はCOIL活動による学びを非常に高く評価しているので、今後も実施を検討したい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育文法(中級)
授業コード 24C66-001
教員名 上田 崇仁
教員コード 103619
登録人数 20
回答数 19
回答率 95.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

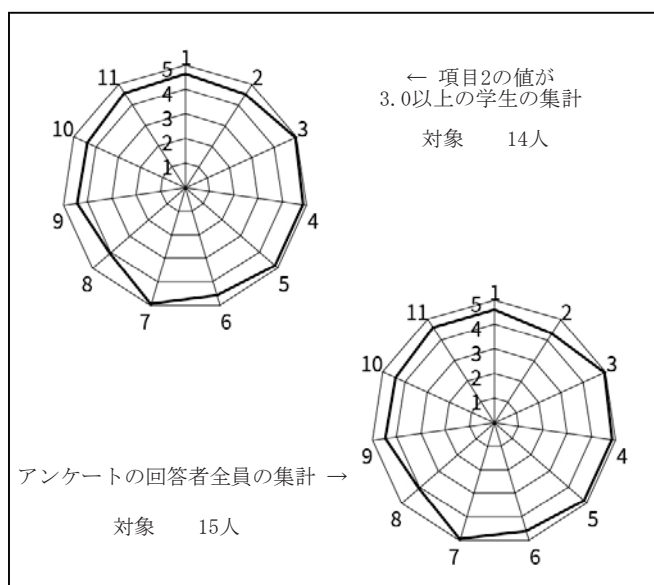


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① おおむね達成できていると考える。
- ② おおむね高い評価であった。自由記述に見られた質問担当者以外の質問という意見は今後の授業の中で取り入れたい。質問担当者を設定していることについての批判は見られなかったが、その場の発表を聞いての質問は表層的になりがちであり、事前に発表資料を共有する仕組みを作っておきたいと考えた。この場合、発表担当者の負担のこともあり、次回の受講生と相談しつつ考えたい。また、担当者以外の質問に対する評価も積極的に取り入れたいと考える。
- ③ この授業では、実際に学習者に接した経験のある学生が少ないことが課題となっている。留学生別科や地域の日本語学校での会話ボランティア募集の案内の共有、地域日本語教室のボランティア活動など、機会の紹介はしているものの、それらの参加を強制ができないことが実際の学習者の状況把握の困難さにつながっており、例年、改善策を模索しているところである。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 応用哲学A
授業コード 22C19-001
教員名 竹下 至
教員コード 103135
登録人数 35
回答数 15
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① について

開講当初に設定していた到達目標は、（１）生と死にまつわる哲学的議論を知る、（２）生と死についての理解を深める、というものだった。アンケートの記述や、小テストおよび試験の結果から判断すると、目標は概ね達成できたように思われる。

② について

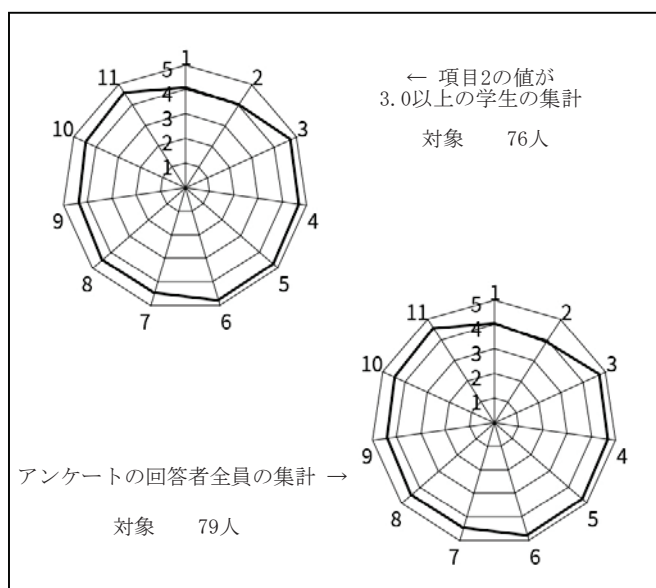
数値データや自由記述等から判断して、授業は概ね満足のゆく仕方で進行できたと考えている。ただ、学生の自主的な学習を促すという点については取り組みが不十分だったようである。

③ について

改善点として、学生の自主的な学習をより促すようにしていきたい。そのためには学生に興味・関心を持ってもらうことが第一だと思うので、講義の内容や進行の仕方を検討し、学生の知的好奇心を刺激するような授業になるよう改善していこうと考えている。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(アフリカ)
授業コード 22C47-001
教員名 菅野 淑
教員コード 105105
登録人数 167
回答数 79
回答率 47.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

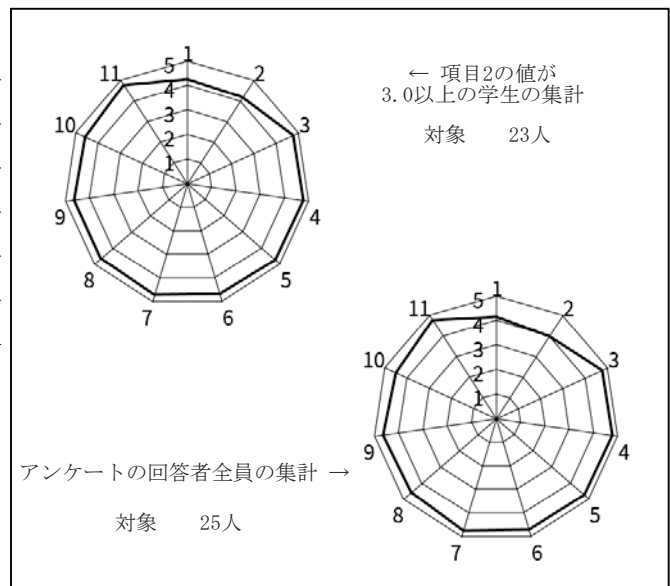


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①広大なアフリカ地域を多角的な視点から理解できるよう目標を立てたが、全体としてはほぼ目標通りに進んだと考えている。
- ②一定程度評価をもらえたことはよかった。また、私自身の体験を語ったり、撮影してきた映像などを使用したことによって、よりリアルなアフリカを伝えることができた点はよかった。しかし、指摘にあるように誤字脱字、配布資料の文字数など、改善すべき点が多くあった。このことは私自身反省していた点であるため、改めて意識しなおしていきたい。また、授業の形式上、どうしても概論的な部分が多くなってしまったので、適宜よりミクロな内容も盛り込んでいくべきだったと感じている。
- ③今回初めて南山大学で講義を担当したこともあり、手探りで進めていった部分がある。そのため、②にも記したように、不足部分が生まれてしまった。来年度は、より丁寧で見やすいスライドづくりをおこないたい。また、今年度好評だった点は、継続するとともに、より分かりやすく伝わる授業を心掛けていきたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(西アジア)
授業コード 22C48-001
教員名 門脇 誠二
教員コード 102240
登録人数 48
回答数 25
回答率 52.1%
休講回数 2 回
補講回数 1 回

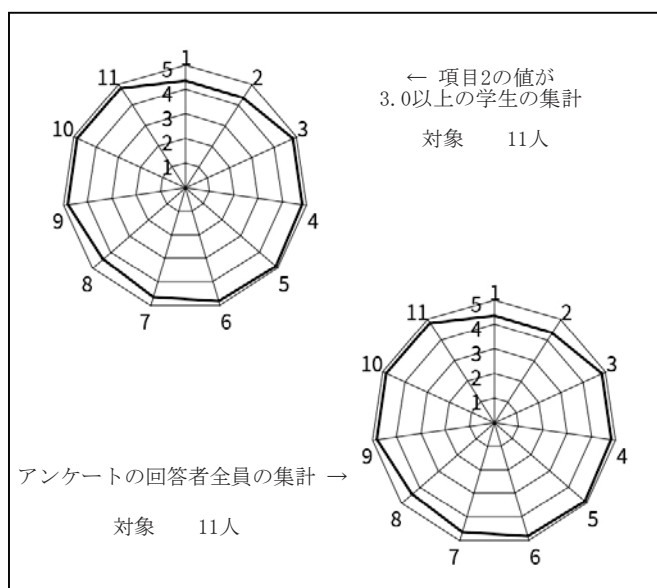


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 2つの目標を掲げていた。1つは「多様な自然や文化が交錯する西アジアの地理的特徴とそれに起因した西アジア特有の文化と歴史について知識を有している。」2つ目は、「2. 西アジアの歴史と文化に関する研究は、人類全体に共通する課題でもあることを理解している。」これらの目標を達成するために、ほぼ予定通りに講義内容を行うことができた。パワーポイントのスライドを印刷し、学生のノート作成の補助を行った。目標達成ができたかどうかについては、学生のレポートと期末試験を見る限り、良好な結果と思われる。
- ② アンケートの数値を見る限り、授業に対する評価はおおむね平均以上だった。対面で講義を行ったため、できるだけ毎回、講義に関する実物資料（考古遺物やそのレプリカ、関連文献）を回覧してみてもらうようにした。その点に関して良かったとの感想がアンケート記述回答にあった。また、動画の利用を増やし、興味と理解を上げる工夫を行った。
- ③ 100分授業で2時限続けての授業であったため、単調だと学生にとっても集中力が欠けると思う。そのため、配布資料のキーワードを穴埋めにして、注意力が少しでも持続するようにした。今後も実物資料を見せるなどアクセントをつけたり、途中でミニクイズなど学生が主体的に行う活動を組み入れて、受講者の集中力が続くような工夫をしたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会言語学
授業コード 24C53-001
教員名 安井 永子
教員コード 102889
登録人数 37
回答数 11
回答率 29.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

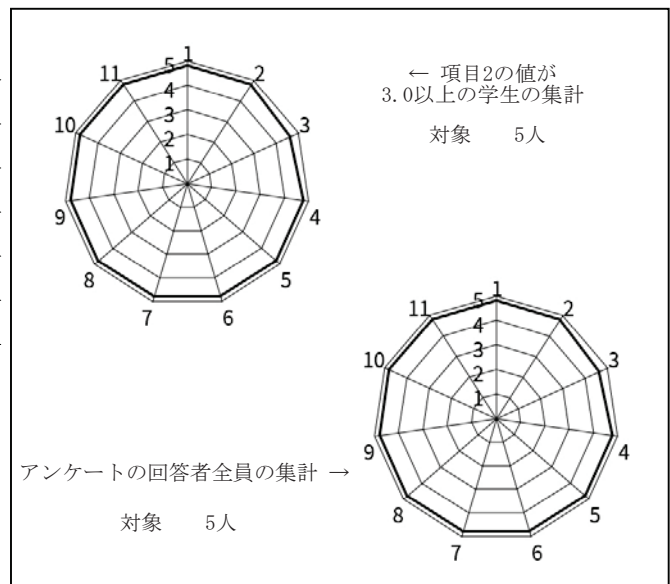


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①学生評価によると、「授業内容は到達目標に適切に関連づけられていた」という項目の回答の平均値が4.82、毎回の授業の構成や進行速度に関する項目の平均値が4.91と、いずれも高く、授業内容の設定や進行速度は適切であったことが確認できた。また、項目10の回答の平均値も4.82であったことから、授業の目標に到達できたことを実感した学生が多かったと見られる。よって、開講当初に設定していた目標はほぼ到達できたと考えられる。
- ②授業への満足度に関しては高い評価を得ることができており（4.82）、自由記述でも、興味を持って取り組める内容であったことを示す回答が見られたことから、授業内容と学生への対応には大きな問題はなかったものと考えられる。一方で、「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や授業時間外の自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」について問う項目の平均値が少し低かったことから（4.45）、授業外でも学生が積極的に授業内容を発展できる工夫が必要であったことも確認できた。
- ③以上により、来年度は、授業内容や進行速度は今年度のものを引き継ぎつつも、授業外で取り組める課題を増やしたり、参考資料を授業中に提示し、学生が自主的に知見を広げることのできる情報提供を行うことで、学生の興味を持続させ、応用力を高めることにつなげたいと考えている。

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域開発と人間関係II
授業コード 23C33-001
教員名 稲葉 久之
教員コード 150839
登録人数 10
回答数 5
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講時に設定した目標については十分に達成できたと考える。受講者数は多くなかったが、心理人間学科に限らず人類学や総合政策などの他学部の学生の参加、2年生から4年生まで学年の異なる学生の参加があり、多様性もある程度は確保できたと考える。そのなかで、個々の意見の違いや立場・視点の違いについて十分に意見を交わしながら講義の目標に沿った演習・議論ができたと考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

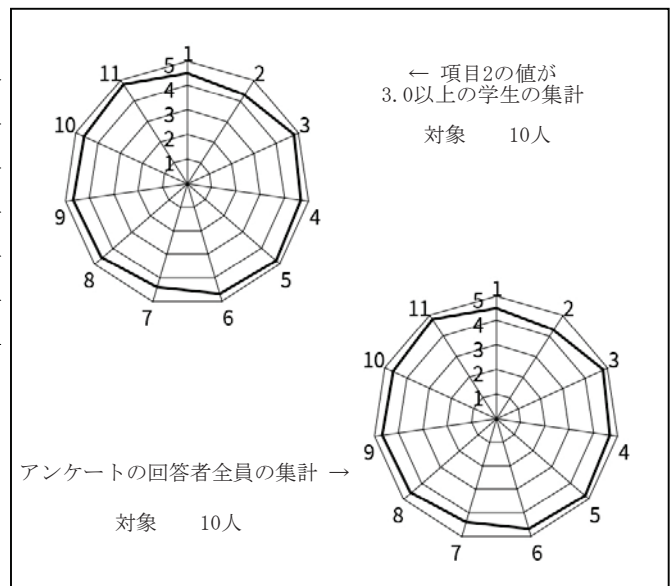
設問3（シラバスに沿って行われたか）に4を評価する学生が2名（回答者5名中）おり、シラバスを丁寧に読み込まれていることが確認できた。受講者数が少なく出席者数によって講義内容の順番の変更や内容の一部変更があったためと考える。講義の進め方や内容については講義目標に沿いつつも学生と確認をしながら進めたが、結果として自由記述欄にあるように学生の学びに貢献できたと考える。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
本講義はカリキュラム変更で今年度で終了となるので、改善等はなし。

授業環境については、昨年度もコメントをしたように記憶しているが、プロジェクターの光度が非常に低く、教室を暗くしても光が弱く見えにくい。特に大教室のため、より光度の高いプロジェクターを備品として用意する、もしくは（おそらく定期的になされているとは思いますが）プロジェクターの電球を定期的に交換し、新しいものを使用するなどの対応を期待したい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 心理的アセスメント2
授業コード 23C62-002
教員名 井村 安之
教員コード 048439
登録人数 14
回答数 10
回答率 71.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

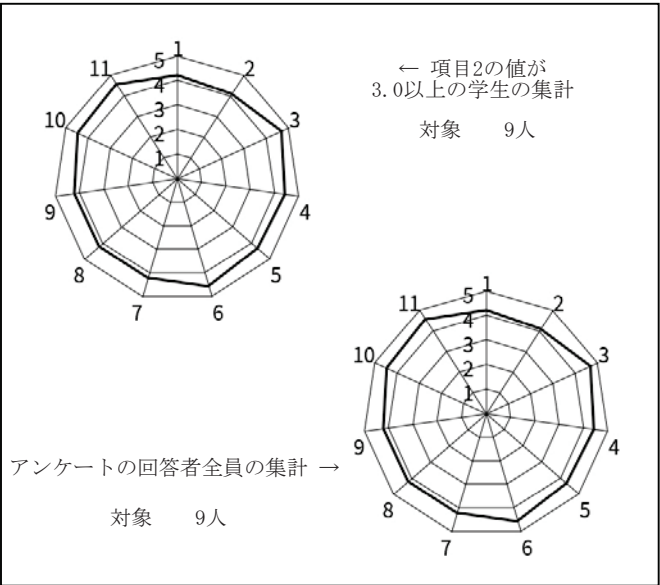


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、基礎理論の理解に加え、事例を通して自ら考察し応用できる力の獲得を到達目標として設定した。授業評価では、到達目標との関連4.70、到達感4.60、全体満足度4.80と高い評価を得ており、概ね目標は達成できたと考える。特に授業構成や進行（4.80）、シラバスに沿った展開（4.80）が評価されたことから、段階的理解を意識した設計は有効であった。一方、授業妨害行為への対応（4.40）は相対的に低く、学習環境づくりに課題が残った。また自由記述では、内容の充実を評価する声と同時に情報量の多さを指摘する意見もみられた。今後は各回の到達目標をより明確に示し、要点整理の時間を確保するとともに、事例検討や小グループディスカッションを充実させ、主体的学習をさらに促進する。あわせて授業規律の共有を徹底し、専門性と分かりやすさの両立を図っていききたい。最後に、今回の授業は他の授業と時間割的な兼ね合いもあってか、受講生が大幅に少なく、いつになく少人数であった。少人数であるからそれを生かそうと思いながらもうまく対応できなかったのが悔やまれる。今後は、そういった事態が生じたときの対応もあらかじめ想定しておき、臨機応変に対応していきたい。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

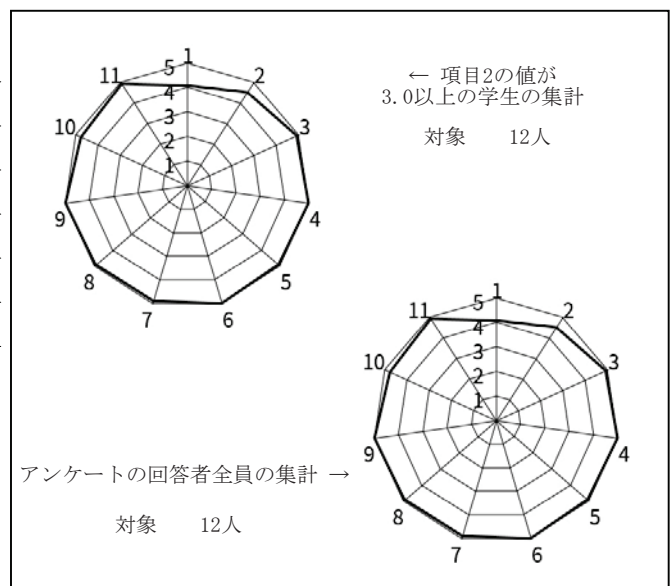
科目名	近世文学研究
授業コード	24C36-001
教員名	李 澤珍
教員コード	105096
登録人数	49
回答数	9
回答率	18.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 コンピュータと言語学
授業コード 24C56-001
教員名 古泉 隆
教員コード 101035
登録人数 17
回答数 12
回答率 70.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として、①テキストエディタの検索・置換・Grep等を利用してテキスト処理ができる、②テキスト処理に必要な正規表現を理解している、③単語頻度表およびn-gram頻度表の作成過程を理解する、④正規表現およびエクセルの機能・関数等を用いて単語頻度表およびn-gram頻度表を作成できる、⑤プログラミング言語を用いて単語頻度表・n-gram頻度表を作成するための基礎事項を理解する、⑥最長単語、単語の平均文字数、TTRなどを処理・算出することができることを設定した。

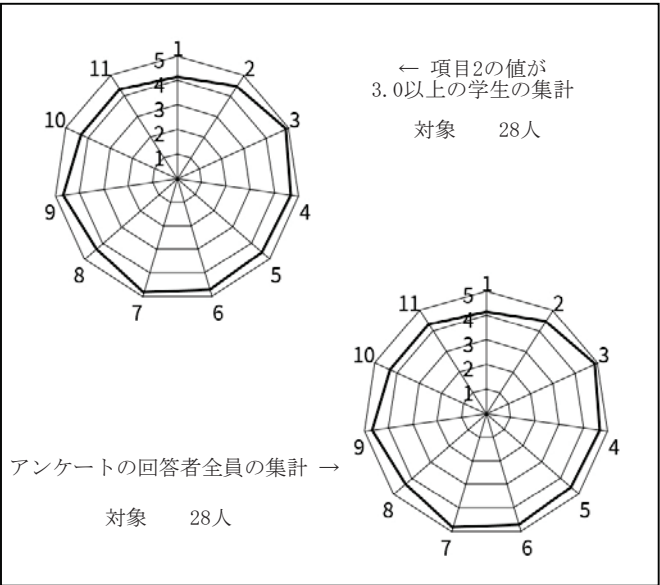
普段の授業では演習・課題・小テストを行い、学期末レポートでは、学んだデータ処理の知識・技術を活かして、各自で興味のある言語分析課題に取り組んでもらった。演習・課題小テストの解答状況およびレポートの内容を踏まえると、受講者の多くは本授業を通じて概ね到達目標に達したと考えられる。

次に、アンケート結果を踏まえた考察であるが、各項目で4以上であったことから、概ね学生の学習を支援・促進し期待に応える授業であったと言える。

授業では、ミニ調査を取り入れて「研究でテキスト処理がどう使われるのか」を具体的に捉えられるようにした。また発展的内容として、Pythonによる言語処理を実際にコードを実行しながら体験してもらい、理解と関心の向上を促した。今後も、基礎的スキルの定着を図りつつ、この分野の研究への関心をさらに高められる授業づくりを心がけたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Academic English A I6
授業コード	31A01-006
教員名	HASTINGS, Christopher Robert
教員コード	103137
登録人数	29
回答数	28
回答率	96.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① The course initially aimed to enhance students' speaking, writing, and overall communicative abilities in English, focusing particularly on clear writing structures and effective speaking through peer interactions and group activities. The survey results indicate these objectives were substantially met, with students providing high numerical ratings averaging between 4.1 and 4.9 out of 5, reflecting strong achievement across all key course goals.
- ② Overall, student feedback was highly positive, notably highlighting the engaging and disciplined class environment, clear and thorough instruction, and beneficial interactive activities. Students appreciated structured lesson plans, detailed explanations, consistent use of English, peer review activities, and well-managed group work, which effectively supported their learning. Specific praise was noted for improved writing skills and enhanced speaking confidence through English-only pair discussions.
- ③ Moving forward, to further improve the course, it would be beneficial to reinforce clearer links between theoretical frameworks and practical tasks. Additionally, further developing structured activities that encourage detailed self and peer evaluation can enhance students' self-reflection and learning autonomy. I also aim to continue fostering a disciplined yet interactive classroom environment to maintain high levels of student engagement and learning efficacy.

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language A1<国際科目群> (英米学科生以外用)
授業コード	31C11-902
教員名	今井 隆夫
教員コード	104239
登録人数	29
回答数	3
回答率	10.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は、教室でアンケートを実施してもらうのを失念しており、気づいたときには、回答期限を過ぎており、回答が27名中4件と結果で、数値データとしては、意味がないものとなってしまいました。これまでは、教室で実施時間を確保していたので、90%以上の回答率でしたら、今回は、たったの4件という悲惨な結果でした。今後は、授業計画ノートに記載して、早めに実施するようにします。

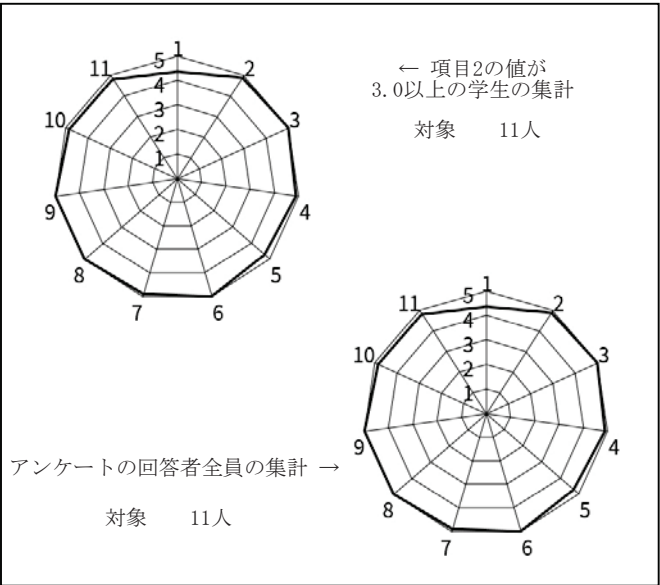
①質的には、目標はほぼ達成できましたが、学生の反応に合わせて、内容を調整しているので、予定していた項目すべてを扱えなかったことが反省点です。次回は、内容を精査します。

②初めに書きましたが、今回は、十分な回答数が得られませんでしたので、この項目は記載が不可能ですが、この科目はこれまでの4.8以上のポイントを得てきた科目で、成功しています。

③14回で扱える内容を精査することが課題ですので、今回、実際に扱った内容を元に考えます。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language D1
授業コード	31C14-001
教員名	CRIPPS, Anthony
教員コード	102357
登録人数	25
回答数	11
回答率	44.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course proceeded as planned and I think the positive score and feedback reflect the success of the course.

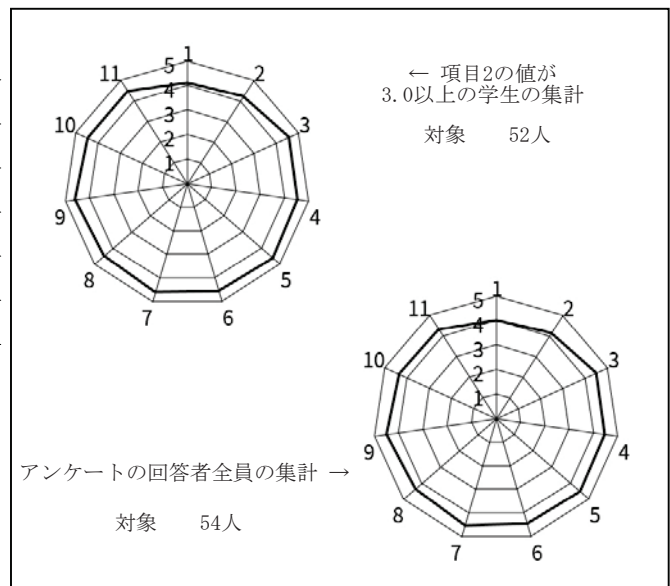
This was quite an experimental course and I decided to give my students plenty of freedom and time to explore the topics and tap into their creativity. This resulted in some exceptional presentations, creative projects, and individual creative portfolios.

The feedback I received was very positive. However, I will work harder to ensure that all group members work hard in the group projects and help them to take equal responsibility.

I will endeavour to design more classes which tap into my students' creativity and furnish them with opportunities to demonstrate their creativity.

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	アメリカの文学1
授業コード	31E04-001
教員名	戸田 由紀子
教員コード	105000
登録人数	85
回答数	54
回答率	63.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

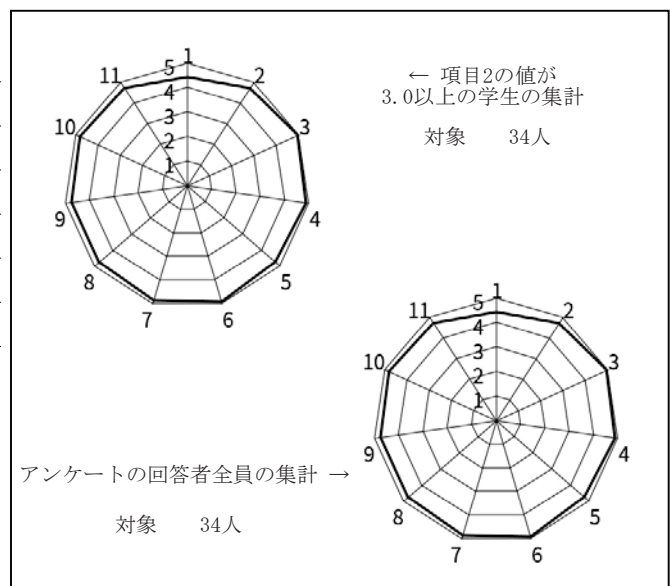
本授業では、アメリカ文学作品の読解を通じて、学生が作品の背景にある歴史的・文化的文脈を理解し、自らの視点から解釈を深めることを目標として設定した。あわせて、映像資料との比較を通じて、多面的な鑑賞力を育成することも意図していた。

自由記述からは、「文学作品を読むだけでなく、映画と比較することで理解が深まった」「アメリカ文化について知ることができた」といった声が多く寄せられ、目標は概ね達成されたと考えられる。また、「先生の説明が丁寧で分かりやすかった」「感想を共有する時間が良かった」といった積極的な評価も多く、映像教材の活用や学生の意見の取り上げ方が授業への関心を高めたことがうかがえる。

一方で、資料が分かりにくい、英文の参照箇所が不明確で戸惑ったという意見もあり、改善の余地があると感じた。次回以降は、スライドや配布資料の構成を工夫し、口頭説明との連携をより明確にする。また、英文テキストの参照箇所については、毎回ページ数を明示することで混乱を防ぎたい。さらに、毎回の授業の終わりに要点を簡潔にまとめる時間を設け、学習内容の定着を促進したい。今後も、文学と映像を組み合わせたアプローチを継続し、学生の批判的思考と表現力を育む授業を目指していきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際関係特殊研究B
授業コード 31E33-001
教員名 手塚 沙織
教員コード 103911
登録人数 58
回答数 34
回答率 58.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

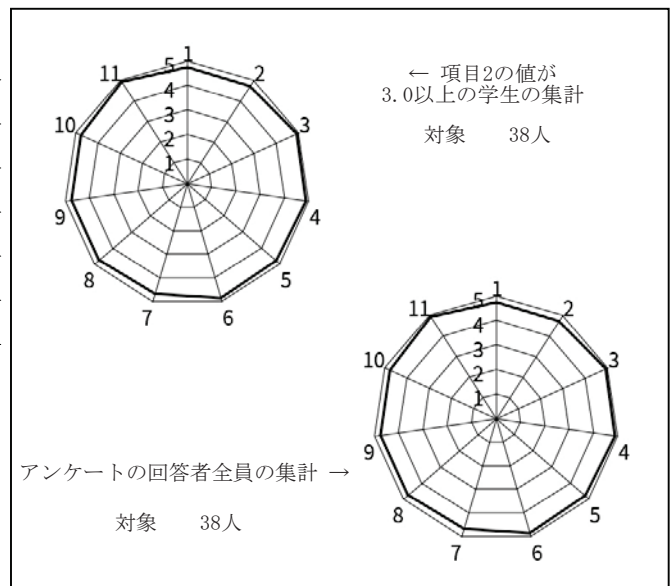


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は講義形式とアクティブ・ラーニングで実施され、人の国際移動を軸にし、人の国際移動に関する主要な理論や概念を理解するとともに、受入国と送出国の政治経済、現代社会における国際関係に関しても取り上げた。本授業の目標は、以下の三つを設定する。第一に、国際関係の基礎が身につく、第二に、経済と政治の関係を把握できる、そして第三に、ある事象に対する多角的な見方を養える、である。本授業のアンケート評価を見ると、学生は概ね、到達目標を達成していると考ええる。本授業では、学生が到達目標を達成できるため、授業の中で、様々な工夫をしているが、それが活かしていると考ええる。授業では、専門知識への深い理解、その関連動画の視聴によりフィールドワーク調査をしたような現地への理解、リアペを通じ理解度を試し他者への説明ができる分析と説明能力の向上を図った。1講義は100分であるため、学生にとって受動的講義だけでなく、リアペを書く、議論する、地図を書くといった作業を通じた能動的作業も含め、メリハリの効いた授業を意識した。また、授業の導入部分では、国際情勢に関する雑談をいれ、学生からの関心を引く形で始めている。今後も同様に頑張っていきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IC1
授業コード 32A14-001
教員名 松井 さなえ
教員コード 104963
登録人数 44
回答数 38
回答率 86.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

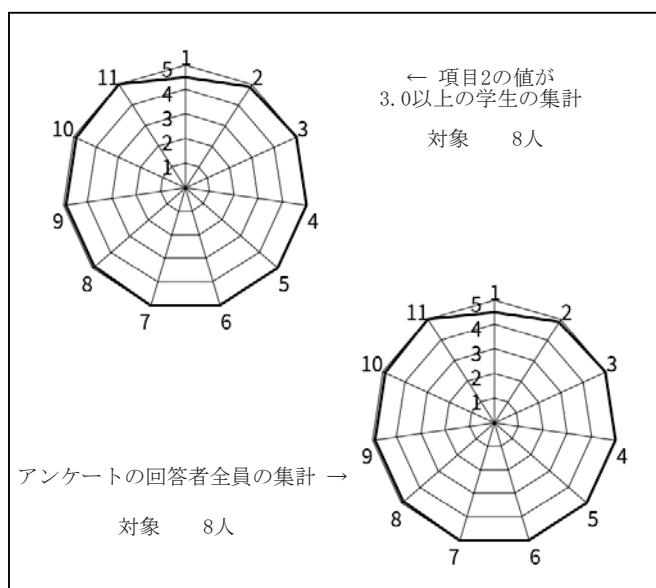


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標は、過去時制や命令形、接続法の用法の基礎的な知識を身につけることであった。期末試験の結果やアンケートの結果を踏まえると、基本的な事柄については身につけることができ、本講義がそれに寄与することができていたと考えている。
 - ②数値データを踏まえると、全体としての評価は高かったと考えている。自由記述を踏まえると、(1)今年度から使用するテキストを新たに作成し詳しく解説されているテキストを使用し始めたこと、(2)説明が要点を掴んでいることや解説の濃度が評価されていた。
 - ③(1)動詞の活用などは口頭で説明するだけでなくスライドなどを用いてテキストで提示すること、(2)次の問題に移るのが早すぎないようにすることの2点が、次クォーターからの改善点である。
- 昨年度の授業を踏まえ、これまでとは異なるテキストを作成し、授業内で問題を解くことはせず解説に焦点を当てるように授業方法を変更したが、その方針は評価されたと考えている。引き続きテキストの改良に努め、改善点は改善していきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語圏異文化コミュニケーション論B
授業コード	32D15-001
教員名	ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue
教員コード	103464
登録人数	11
回答数	8
回答率	72.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

異文化コミュニケーション論の授業を通じては、学生の理解度を確認しながら、目標に到達することができました。

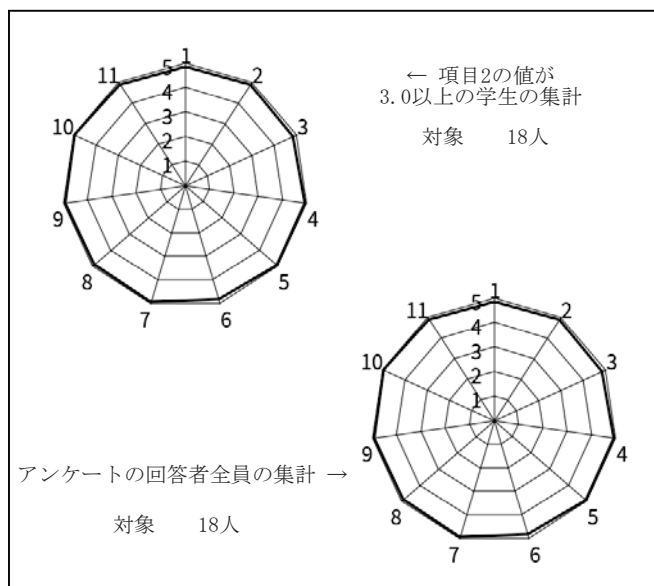
特に、学生からいただいた数値データや自由記述の内容から、今学期に私が意識して取り組んでいた点が、学生にも十分に伝わっていたことがうかがえました。

これを踏まえ、来年度は授業内容をさらにブラッシュアップし、映像資料などをより多く取り入れることで、より活発で参加型の授業を目指していきたいと考えています。また、会話力の育成にとどまらず、書く力も伸ばすことを目的として、リアクションペーパーの活用も積極的に取り入れていく予定です。今回は、授業内でプレゼンテーションを2回実施しましたが、来年度は1回に絞る予定です。

その分の時間を活用し、異文化コミュニケーションに関する「概念」や「定義」について、学生がより深く理解を深められるよう工夫していきたいと考えています。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	フランス語コミュニケーションの基礎 I3
授業コード	33A01-003
教員名	COURRON, David
教員コード	019026
登録人数	22
回答数	18
回答率	81.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students practice French reading through both oral and written exercises, with a particular attention given to spelling, pronunciation, intonation and acquisition of phonological patterns.

2. Degree of achievement of initial course objectives

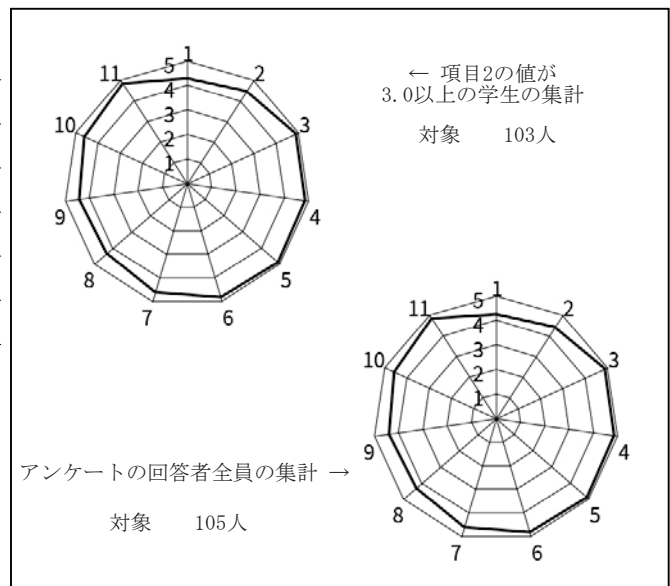
This quarter, despite any previous knowledge of French by any, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above, so that most of them acquired the basics necessary to read French. Many valued the fair balance between explanations and practical activities which led to learn also about what was not in the textbook and the many chances they were granted to study over and over through homework.

3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I think I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will therefore do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated my precise checking of their homework as well as the fact that I gave them extra materials such as songs to practice.

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 フランスの文化
授業コード 33A06-001
教員名 真野 倫平
教員コード 100083
登録人数 200
回答数 105
回答率 52.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

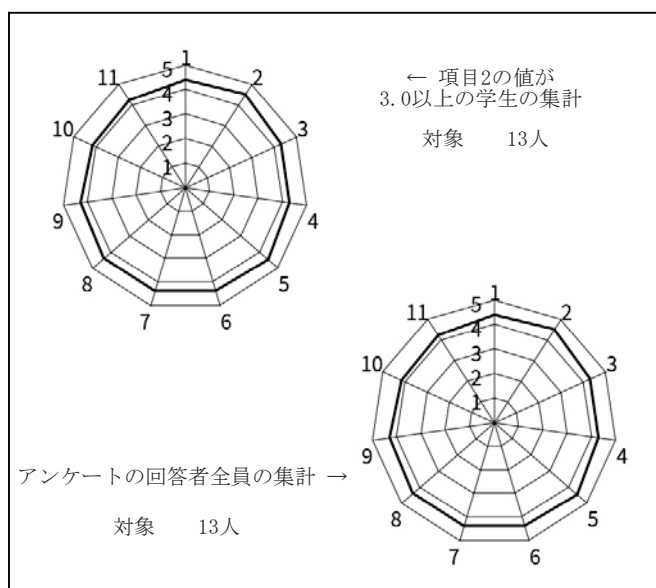


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義はフランス学科1年次生を対象とする学科科目であり、外国語学部
全学科に開かれた学部共通科目でもある。文学・芸術・音楽・映画・歴史等多
様なジャンルの作品の紹介を通じて、フランス文化に関する基礎知識を幅広く
修得することを目的とする。到達目標は、①フランスの文化についての基礎知
識を身につけること、②文化に関するさまざまな理論を修得することである。
毎回の授業においては、授業プラン・参考資料を示したpdf資料、ならびに映
像資料を提示するパワーポイントを使用し、さらに授業時間内にwebclass上で
いくつかの設問に回答させ、成績は毎回の提出課題によって評価した。①目標
と到達の程度については、提出物から判断する限り、多くの学生がフランス
の文化に対する知識を広げ、関心を深めてくれたように思う。②総合的な自己
点検・評価については、設問3～14の平均4.68は大学の全体平均4.52を上回っ
ており、学生の評価はまずまずであることがうかがわれる。設問9（質問や相
談の機会）がやや低かったが、これは履修者数の多さ（200名）が一因である
ように思われる。③今後の改善点については、自由記述欄において視覚資料・
映像資料に対する評価が高かったので、今後はさらに資料を工夫して改善して
ゆきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IB1
授業コード 33A14-001
教員名 REBOLLAR, Patrick
教員コード 100084
登録人数 23
回答数 13
回答率 56.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This French language course makes it possible to study themes of French society and culture while working differently different grammar points and learning an adapted vocabulary. This set corresponds firstly to the qualities of the book "Inspire 2" that we use; I add an important pronunciation activity.

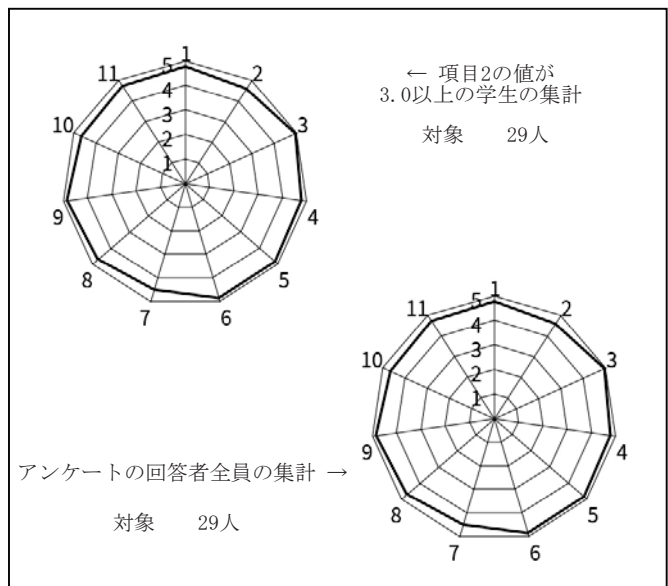
Our active learning method involves all students in each course and avoid distraction or deconcentration that can happen during sessions of twice a hundred minutes.

Students have understood that home work allows both to prepare the following course and set the knowledge of the morning course. The weekly conjugation and dictation tests have been well prepared by the students. However, most of them have medium or good notes, but not excellent, with a few exceptions. This means that students fail to organize their work at home.

In the future, I will better explain to them the importance of the preparation and memorization of vocabulary, for example. It is possible to use modern tools to facilitate language learning and communication, but they must also learn and understand the basics of the language.

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語文法I2
授業コード	33A17-002
教員名	茂木 良治
教員コード	102698
登録人数	32
回答数	29
回答率	90.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

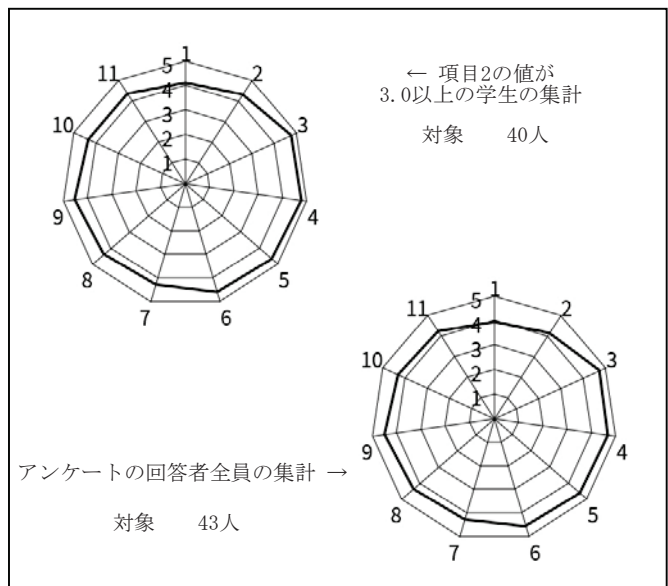


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Pilote2という教科書を使用し、予定していた1課～7課を終わらせ、当初設定していた授業目標は達成できたが、講義前半で復習のために多くの時間を費やし過ぎてしまったため、後半は少し駆け足で進むことになってしまった。この点について改善をしていきたい。授業進度については、設問4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」で4.79点、設問6「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」で4.86点と高い数値を得られていた。また、設問11「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」で4.72点だったことから授業全体で満足度の高い適切な授業運営だったことがうかがえる。自由記述欄の良かった点として、「文法事項がわかりやすくまとめられている。」「補助プリントがあつてとても分かりやすかった。」とあるように、解説の内容および手法について肯定的な記述が見られた。一方で、否定的な意見として「私語が多いので注意をしてほしいです。」やフランス語のカリキュラム全体の見直しを求める声も一部あったため、より学生が積極的にかかわれる活動を積極的に取り入れて、引き続き授業改善に努めたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 フランスの思想
授業コード 33A22-001
教員名 平田 周
教員コード 103583
登録人数 98
回答数 43
回答率 43.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

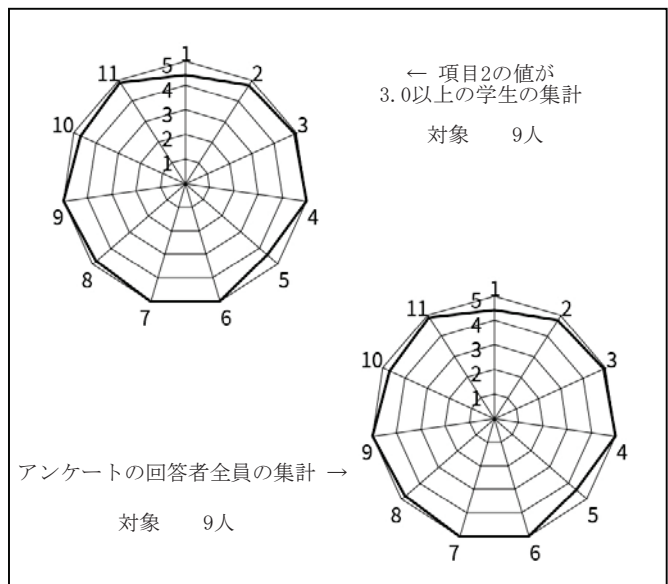


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初は、より多くのテーマを扱うことを想定していたが、初回時に哲学に関する受講者のアンケートをとったところ、知識、関心、意欲にばらつきがあることがわかり、こちらで用意していた内容をより易しくするように心がけた。
- ②それでも自由記述等（設問13）にあるように「難しい」と感じる一方、項目12などには、ほぼ毎回課した講義後の簡単なアンケートに対する学生の回答の多くは、授業内容に関する十分な理解力が見られ、またこちらも考えさせられ、学ばせられるものもあった。
- ③哲学や思想の入門講義はいかにテキストを自主的に読むことができる学生を増やせるかが大事な目標であるように思われる。レジュメで示した引用箇所を確認するレベルから始めて、学生自身が、翻訳で構わないので、著作の一節、一章、最終的には一冊読む経験が積めるよう努力したい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 アカデミックフランス語I1
授業コード 33A27-001
教員名 小林 純子
教員コード 102488
登録人数 18
回答数 9
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



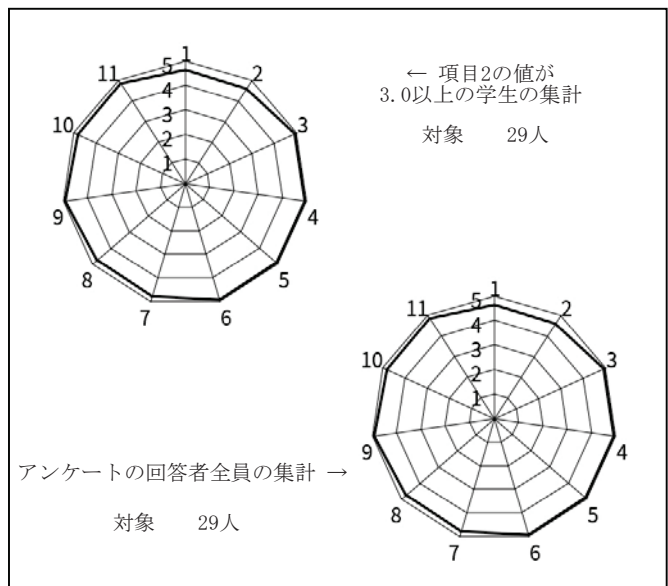
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はフランス社会に関するさまざまなデータや統計資料の読解を行い、他のヨーロッパ諸国や日本の現状との比較を念頭においてディスカッションを行うことを目的としている。到達の程度として「資料のフランス語が示す内容を正確に読みとることができる」、「その内容をカイヤ説できる」、③「その内容に対する自らの見解をフランス語で簡潔に述べることができる」の3つを設定した。

数値データおよび自由記述を踏まえると、受講生がフランス語の運用能力の向上や新しい知識の獲得を実感できたことがわかる。いっぽうで「受講生が授業を履修する前の興味関心の度合い」や「毎回の授業の構成や進行速度の適切さ」に課題を残していることがわかる。次クォーター以降は授業の構成を工夫することで、一回の授業で予定していた内容を完結するよう心がけたい。また、授業時間外の自主的な学習を促すための指導や情報提供に注力することで、受講生が授業への関心を高めるようつとめる。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 アカデミックフランス語I2
授業コード 33A27-002
教員名 吉澤 英樹
教員コード 103584
登録人数 38
回答数 29
回答率 76.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

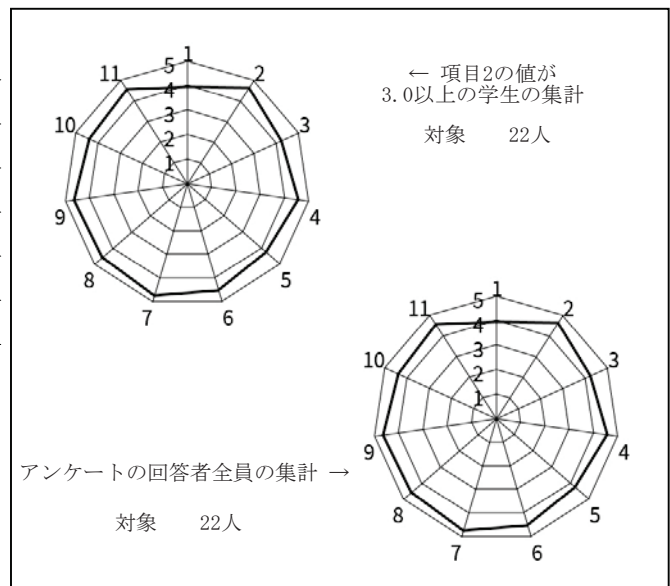


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標は例年通りだが、今年は少しペースを落としたため分量的にはあまり進むことはできなかった。
- ②必修科目のため、あらかじめの関心についてポイントがやや少なめなのは仕方がないが、文化専攻の学生の関心を引くような内容にしたため、概ね学生も満足しているように思える。また目標を達成するために授業ペースを落とし、グループワークを通してじっくりと課題に取り組ませ、学生へのフィードバックも授業内でウェブクラスを使用しながら小まめに返しながら内容を共有した。上級フランス語としては物足りない部分もあったが、授業内容としては満足のいくものとなったと思う。
- ③次クォーター・学期以降に向けての目標としては、辞書を持たず生成AIなどに頼る学生が増えてきている状況下で、外国語講読を成立させるさまざまな工夫を編み出すことである。授業内の課題などを工夫して、読解力や考える力を養成する方法を引き続き模索していきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級講読A
授業コード 34C01-001
教員名 中屋 宏隆
教員コード 102885
登録人数 23
回答数 22
回答率 95.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

シラバス通りテキストの5章分を進めることができ、その他レシテーションや動画課題なども導入でき、充実した授業内容となった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

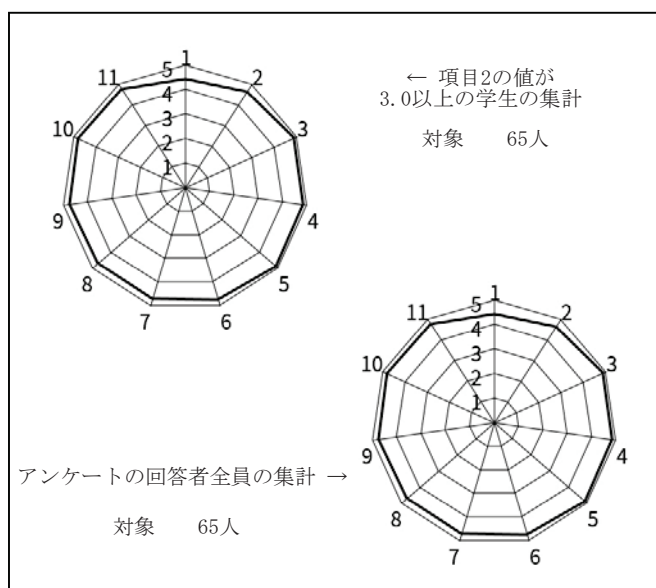
設問3/5/10は他項目に比べて数値が低い。設問3の「この授業はシラバス（講義概要）に沿って行われましたか。」であるが、シラバス通りに進めたので、学生がシラバスをよく読んでいない可能性が高い。設問5の「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」は確かに2年次生には少しレベルが高かったかもしれない。しかし、成績評価は2年次生はどの学生も高かったので、彼ら／彼女らにとっては良かったのではないかと感じる。設問10の「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか。」は教える側の手応えと学生側の到達意識に少し乖離があるようにも思った。この辺りが来年度以降の課題としたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

シラバスの微調整や進度調整はすぐに出来るので、来年度以降調整したい。その他は履修者の学年バランスなどにも注意しながら、授業構成を考えていきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語表現法
授業コード 34D04-001
教員名 畑野 小百合
教員コード 104422
登録人数 79
回答数 65
回答率 82.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス記載の通り、この授業では以下の4点を到達目標に掲げていました。

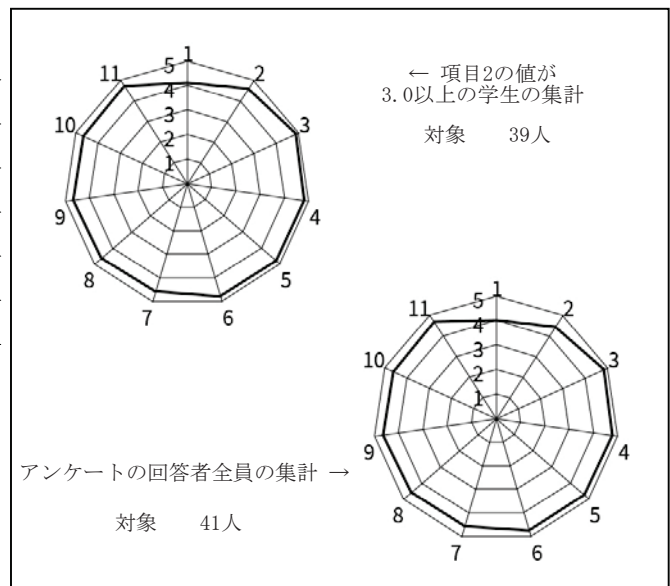
- ・ドイツ語で歌うことができる。
- ・歌唱ドイツ語の特性と、表現のさまざまな可能性を理解している。
- ・授業で扱う基本的なレパートリーについて、歴史的・文化的背景を踏まえて説明することができる。
- ・歌詞と音楽の関係について論理的に考え、表現に活かすことができる。

今年は履修者が上限に定めた80名と大変多く、特に入学後間もない一年生がその半数程度を占めたため、授業開始当初は授業の方法や適切な楽曲の選択に悩みましたが、ドイツ語学習経験者と未経験者からなるグループワークを積極的に取り入れ、発音や歌詞の内容について共に学びあう機会を多く設けるという手法をとりました。また、第13回の授業の中では、学習内容を発表する場も設けました。その結果、全員が上記の目標を達成できたことは、明らかであったように思います。

皆さんのアンケート回答や自由記述からは、この授業の経験が有益だったと感じ、授業内容に満足したことが感じられ、安堵しています。今後も履修者の実態に即した授業展開を工夫し、皆さんが多様なドイツ語圏の音楽に触れられる機会を作っていきたいと考えています。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中国語学研究
授業コード 35C12-001
教員名 鈴木 史己
教員コード 103651
登録人数 48
回答数 41
回答率 85.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本科目の目標は、現代中国語の文字・音韻・語彙・文法・方言に関する基礎知識を身につけ、あわせて中国語の古代から現代に至る歴史的な変化や日本人・日本語との関わりについて初歩的な知識を身につけることである。毎回の授業中に練習問題を設けるとともに、講義で扱った中国語の分析方法を使用したグループワーク・発表会を行ったことで、ある程度実践的な知識を紹介できたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

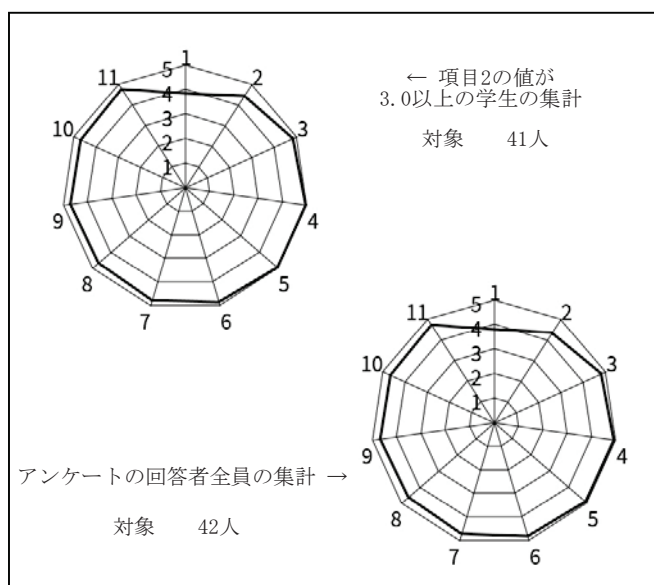
設問1の評価から少なくとも受講前に関心が高くない分野であることがうかがえるが、設問10・11では比較的高い評価が得られているため、受講生にとっても意義のある授業を提供できたのではないかと考える。自由記述では、授業内のタスクやグループワークの取り組みを評価する意見が見られる一方で、遅刻者への対応に関する意見も見られた。受講生の興味を引き付けられるよう、より一層努力するとともに、遅刻・欠席については厳正に対処するよう注意したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。

練習問題やグループワークは、授業の内容をよりよく理解してもらえるように整理していきたい。また、上述のとおり、受講生の興味を引き付けられるよう、来年度に向けて授業内容と資料を見直していきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中国文学研究
授業コード	35C13-001
教員名	中 裕史
教員コード	017830
登録人数	57
回答数	42
回答率	73.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

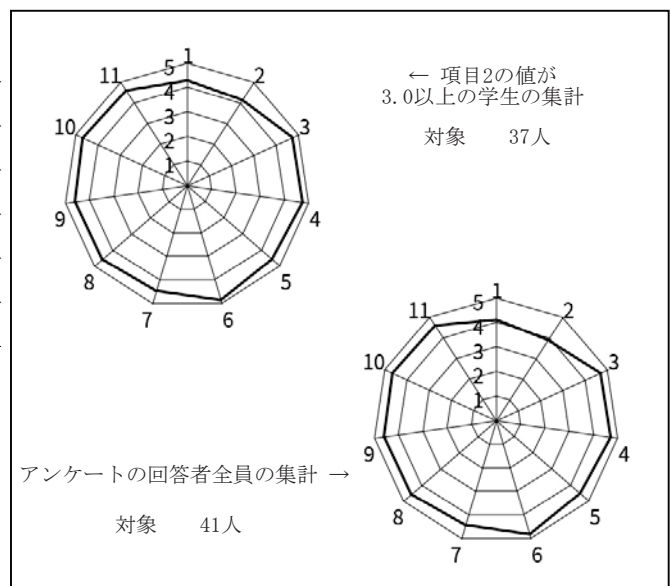
シラバスに示した本講義の到達目標は以下のとおりである。(1)中国文学の流れを把握することができるようになる。(2)詩文それぞれについて主要な作者と作品について認識することができるようになる。(3)中国文学の特長について理解することができるようになる。(4)アジア学科のディプロマポリシーにある、東アジア地域で共有されてきた文化、東アジア地域の歴史や社会などに関する専門知識、ならびに日本や欧米諸国と東アジア地域との関係性を視野に入れて複眼的に東アジア地域を理解する力を身につけることができるようになる。本講義は、古代の詩、古代の小説、および現代の小説と3つのサイクルに分けて行い、各サイクルの終了後にレポートの提出を求めたが、これらのレポートと授業内に提出を求めたミニレポートの内容から判断して、上記到達目標はおおむね達成できたと考えている。

数値データからは、項目1の受講前の関心が3.79であったのに対し、項目10の到達目標に掲げた力がついてきているのは4.62と数字を上げることができた。また、自由記述では、事前レポートの形式で予習を課したことや、講義内容についての理解を深めるためおよび受講生の集中力が散漫に陥るのを防ぐために行った授業内ミニレポートに対して好意的な反応が示されていた。フィードバックの一環として前回に課した授業内ミニレポートをいくつか紹介したことを歓迎する声もあった。

ただ、講義資料サーバに掲出した資料の内容を説明する際にメモをする時間が足りないという意見もみられたので、次年度からは資料説明の時間をすこし長めにとることを心がけながら、受講生に頭と手を動かしてもらう現在の形を継続していきたいと思う。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中国社会研究
授業コード	35C15-001
教員名	江口 伸吾
教員コード	104423
登録人数	69
回答数	41
回答率	59.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

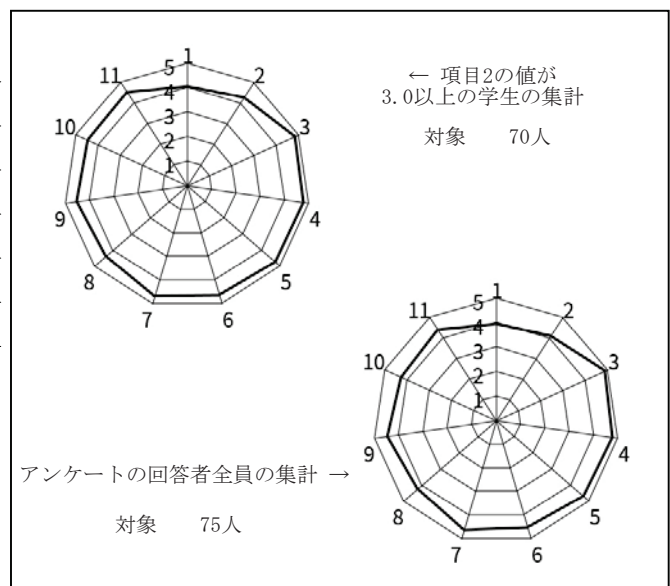
(1) 本授業は、①中国理解の前提としての日中関係の推移を理解することができる、②中国の政治社会を多角的、複眼的、構造的に考察することができる、③等身大の中国社会を観察することができることを掲げた。本授業を通して、開講当初の目標は、おおむね達成できたのではないかと判断している。

(2) 数値データ、および自由記述をみる限り、本授業での受講生の理解度はおおむね良好であった。とくに授業では中国社会の多面的な特徴を考察することに加えて、新聞資料を参考資料として配布し、現代中国の新しい変化に目を向けさせると共に、リアクションペーパーを通して受講生の意見を講義に反映させ、受講生の現代中国への関心を高めるよう心がけた。この結果、授業の良い点として「毎回細かい説明がありわかりやすかった」「多くの画像を用いており覚えやすかった」「映像を見る機会があり内容により興味をもてた」「新聞や時評が毎回紹介され良かった」「中国のことをさらに知れた」といった意見が寄せられた。今後も、学生が現代の中国社会の動向に関心を持つように、現在起こっている問題を積極的に紹介していきたい。

(3) 改善が必要な点として「遅刻者に適切な対応がされていなかった」といった意見が寄せられた。受講生が多い講義形式の授業のため、講義中の確認が難しかったことが理由としてあげられる。今後はさらに注意を払って対応したい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 華人社会研究
授業コード 35C20-001
教員名 張 玉玲
教員コード 101049
登録人数 148
回答数 75
回答率 50.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

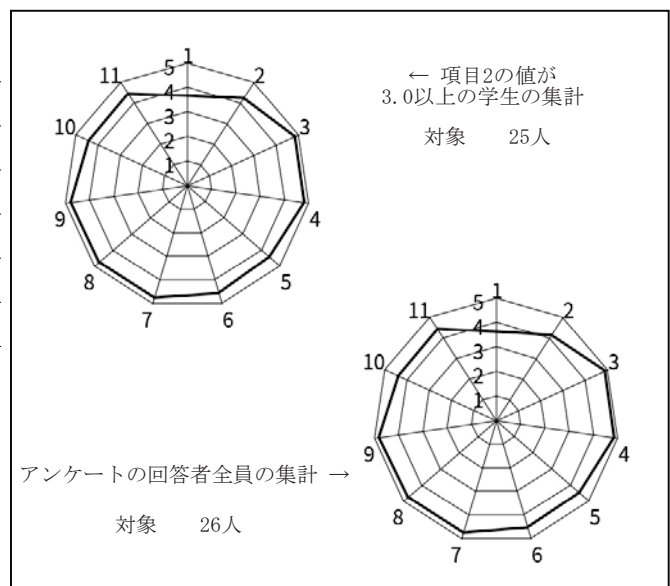


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①当該授業が開講当初設定した目標と到達度は以下の3点である。すなわち1. 華人の移住要因について、送り出し側と受け入れ側の両方から理解することができること、2. 華人社会の形成・構造・変容について、華人を取り巻く国際情勢など多角的に分析できること、3. ある国・地域の華人社会に焦点を当て、問題を発見し、自分の見解を加えながら考察できることである。
- ②数値データおよび自由記述を見る限り、上記の目標がおおむね達成できたように思われる。数値と記述から、履修前にそれほど興味を持っていなかった学生も関心を高め、授業内容のみでなく関連する事象について自ら考え分析する力を身に着けることができたことがうかがわれる。
- ③授業中、教員の一方的な講義だけでなく、質問などを通じての受講生とのインターアクションがよかったというコメントがあったように、受講生の主体性を引き出し、よりアクティブな授業を工夫することが今後の課題としたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語の構造
授業コード	31E15-001
教員名	北尾 泰幸
教員コード	105100
登録人数	31
回答数	26
回答率	83.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

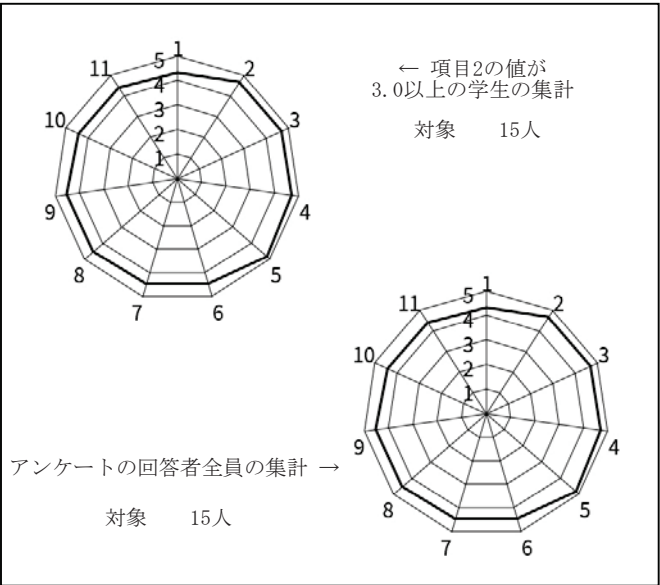


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度初めて南山大学で授業を担当したことから、クォーター制の授業を受け持つのも初めてであった。1限・2限と100分2コマ連続の授業形式であったことから、1限目には理論の説明をし、2限にその理論をもとに応用問題を解いてもらうアクティブラーニング形式で授業を行ったが、この授業の運営方式が、受講生の授業内容の理解に寄与していたことがアンケートの回答結果から分かり、嬉しく思っている。学生の反応を見ながら授業を実施したため、授業項目について、シラバス記載の回と多少異なることはあったが、シラバスに記載していた内容に関して、すべて順序通り授業を実施した。授業の構成や進行速度および授業内容について問題がなかったことが、受講生のアンケート結果から読み取ることができ、概ね学生が求める授業を提供できたのではないかと感じている。授業終了後に質問をしてくれる学生も多く、Eメールでも質問を受け付けたが、自由回答欄に「非常勤講師のため授業外で質問にいけない」という記述があった。Eメールだけでなく、実際に担当教員と話をすることで疑問点を解消したいという思いを持っているものと思われる。Eメールに加えて、Teams/Zoomなどで質問に回答する機会を設けるなど、今後検討したい。今後も、学生の興味をより高められるような授業を提供できるように、自己研鑽を積んでいきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語VI<H (Q2海外プログラム参加者用)・F>
授業コード	11D06-004
教員名	GUTIERREZ CERVANTES, Lenin Emman
教員コード	104703
登録人数	36
回答数	15
回答率	41.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

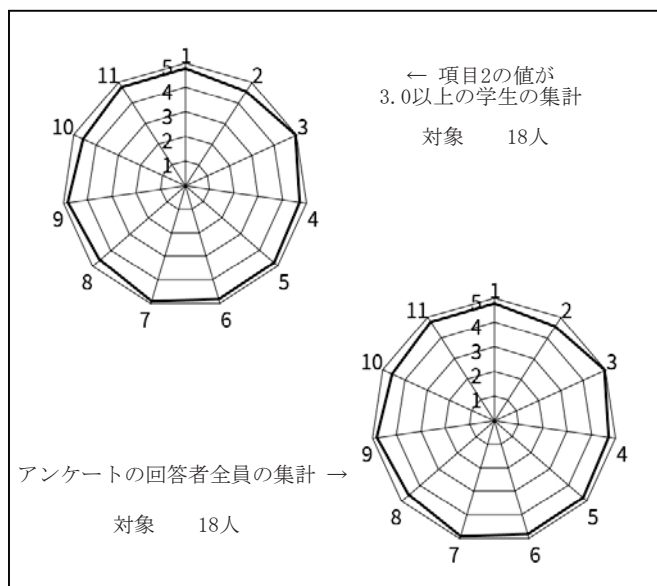


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The recent student survey results were very encouraging. Responses indicate that students found the course clear, supportive, and engaging, and that the class environment helped them feel comfortable participating. I'm pleased that the instructional approach and materials were well received and that students felt they made meaningful progress. I'll continue building on these strengths while looking for opportunities to further improve the course experience.

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IA3
授業コード 33A11-003
教員名 NISHINO, Aurelie
教員コード 103640
登録人数 22
回答数 18
回答率 81.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

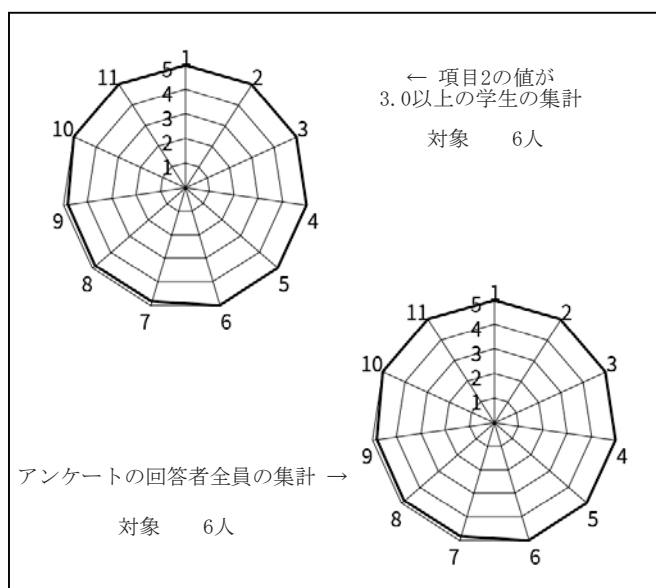


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals at the beginning of the quarter were to bring the students towards an intermediate level in French through the method and our active lessons. The method was not easy but the students were really involved in the lesson and did their best to achieve the different goals of each lessons.
2. Following the results of the enquête, I will try next year to provide more efficiently the answers of the textbook, even if the students have the answers also. I think that the class did very well for the first quarter. The quality of their work was good and they enjoy studying.
3. For the next year, I will try my best in order to motivate the students on their journey on learning French. I will use this past year experience and re-use it to make it beneficial for the students and myself.

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IB2
授業コード 33A14-002
教員名 HERGOTT, Florian
教員コード 101725
登録人数 22
回答数 6
回答率 27.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

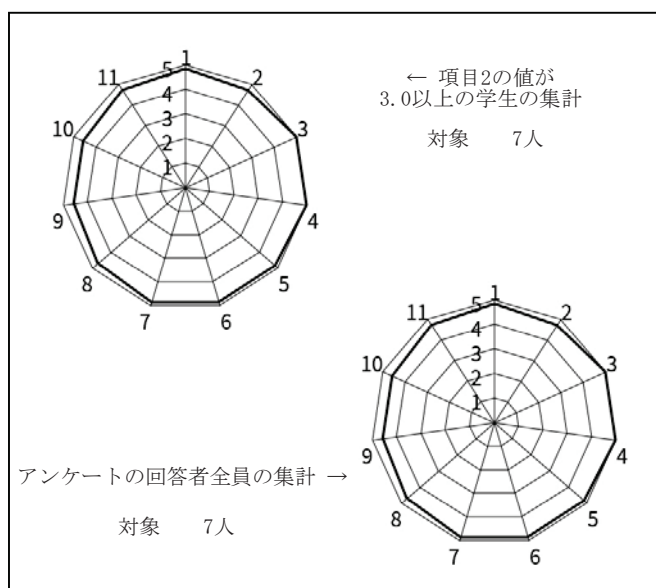
本授業の目標は、学生がフランス語の基礎的な運用能力を養い、特に「聞く・話す」活動を通して実践的なコミュニケーション力を高めることでした。アンケート結果において、授業の構成や進行、到達目標との関連性など、ほぼすべての項目で満点に近い評価を得られたことから、当初設定した目標は概ね達成できたと考えています。また、学生が積極的に授業に参加し、理解度に応じた適切な支援を行えた点も肯定的に評価できると考えます。

一方で、授業中の活動がやや受動的になりがちな場面も見られました。今後はより一層、学生同士がフランス語で発話する機会を増やし、主体的に学びを深められるよう工夫していく必要があります。具体的には、ペアワークやロールプレイを拡充し、実際のコミュニケーションに近い場面を想定した活動を導入する予定です。また、ICTやデジタル教材を活用し、発音練習やリスニング強化に役立つツールを取り入れることで、学習効果を高めたいと考えています。

次学期以降は、今回の成果と課題を踏まえ、口頭表現活動と新しい技術の活用をさらに充実させ、学生がより自信を持ってフランス語を使える授業運営を目指してまいります。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 フランス語実践演習B
授業コード 33C06-001
教員名 VURPILLLOT, Xavier
教員コード 104503
登録人数 16
回答数 7
回答率 43.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

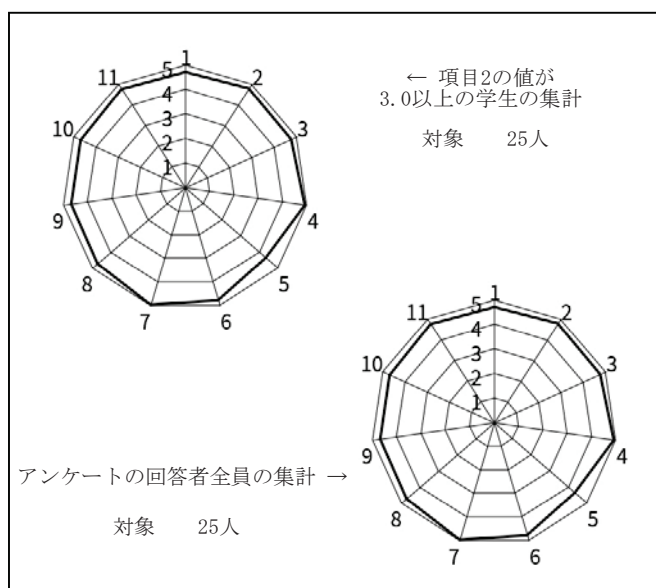


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course prepared students for the DELF B1 and B2 exams through exam-style practice in reading, listening, writing, and speaking. The quarter was divided into B1 and B2 phases, but after realizing that B2 was too challenging, we shifted focus toward B1 while still introducing selected B2 tasks to show students the next level. Student feedback (n=7) was excellent, with all averages $\geq 4.57/5.00$ and perfect scores for syllabus alignment and learning objectives. High ratings for structure, pacing, materials, and class management (avg. 4.86) indicate effective teaching and strong student engagement. Overall satisfaction was 4.71/5.00. Slightly lower scores for Q&A opportunities and confidence in learning progress suggest offering more time for questions and formative feedback. Next year, I plan to focus on B1 from the start and leave more time at the end of each class for student questions.

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A II3
授業コード 31A02-003
教員名 HOWE, Bradley Guy
教員コード 105148
登録人数 29
回答数 25
回答率 86.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

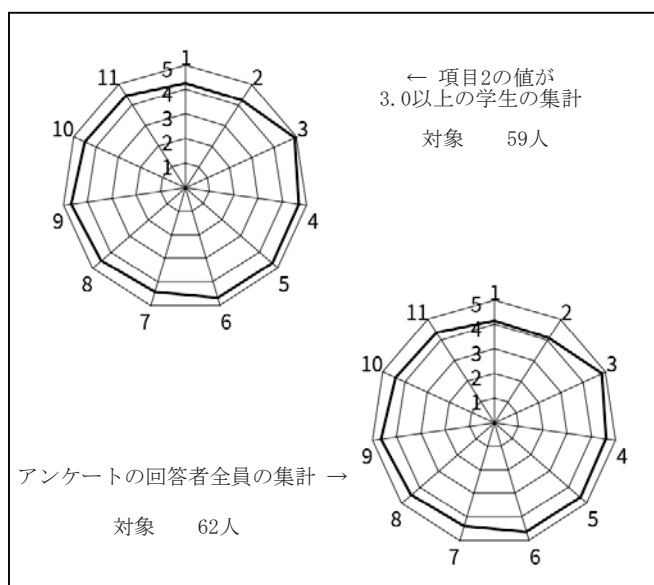
Evaluation Report

The goals set at the beginning of the course were to continue working on listening and reading for gist and detail in written and spoken English texts, participation in informal discussions, acquisition of academic vocabulary, exercising critical thinking, brainstorming and planning skills, note-taking skills, academic writing organizational skills, creating a video and writing an explanatory paragraph. I believe the majority of students were able to achieve these goals with a high degree of success. I was particularly pleased with the class atmosphere we were able to create and the students' attitudes towards classes, willingness to communicate and ask questions. I believe the students were able to achieve challenging goals in a relatively short period of time.

Moving forward, I would like to work on making expectations of progress on class projects and submission deadlines clearer and easier to understand for the class members. The recommended self-study time was 120 minutes outside of class. In some cases, the content of the self-study was to be determined by individual students. As some students opted out of this self-study and completed only tasks specifically set by the instructor, some students felt there was an uneven study load. I will work on making self-study policies clearer in future classes.

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A1
授業コード	31B04-001
教員名	鈴木 達也
教員コード	017871
登録人数	79
回答数	62
回答率	78.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

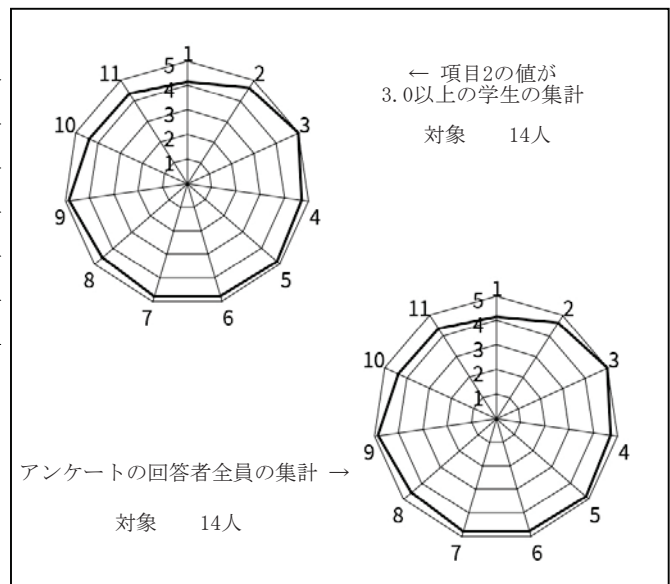


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、国際研究に関する基本的な概念と最近の問題について理解することである。すべての項目で4.11以上の評価を受けており、到達目標に向かって力がついてきていると感じている学生も多いが（4.42）、全体の満足度は、昨年度の4.44から4.35に僅かに下がってしまった。学習意欲の引き出しのための指導や、質問の機会や課題に対する事前・事後指導については、それぞれ4.48、4.65という高評価である一方、予習、復習や主体的な授業への参加をして内容を理解しようとする努力をしたかについては、最低評価の4.11にとどまっている。履修前にこの授業に興味があったかどうかについての評価も4.15と比較的低く、加えて、79名の受講生（アンケート回答者は62名）に対して英語で授業を行っているため、この項目で高評価を得ることは経験を重ねてもなかなか困難である。とはいえ、自由記述で好意的に受け止められているWebClassを活用した授業内容確認・復習のための小テストと解答に添えた解説を継続していけば、少しずつ評価も上がってくるのではないかと感じている。人権問題や差別といった内容的にかなり深く、簡単には正解を見出せないテーマも扱っており、2年生にとってはやや難しい点もあると思うが、今後も工夫を凝らして改善していきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society A1
授業コード	31C01-001
教員名	金 慧昇
教員コード	104504
登録人数	20
回答数	14
回答率	70.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

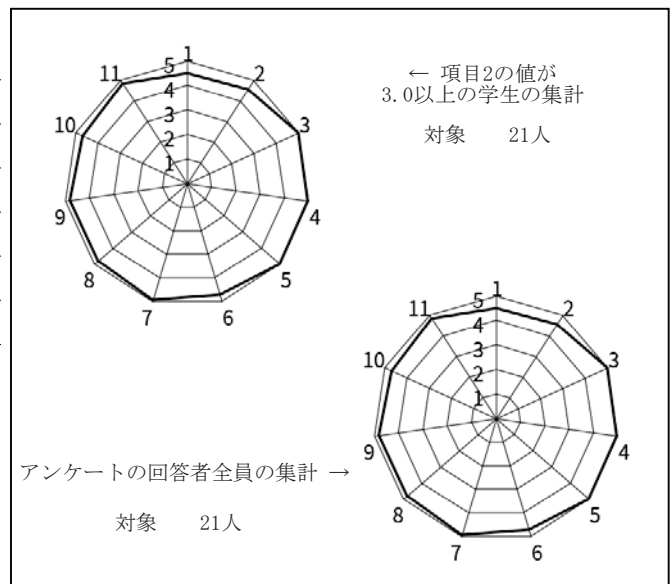


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、日常生活史の観点から19世紀のイギリス社会について理解し、現代社会との比較を通じて過去からの連続性と変化について考えることでした。そのために、毎回の授業の前半ではイギリス社会についてテーマごとに講義を行い、後半では講義の内容に基づいて過去と現在を関連付けて議論する時間を設けました。本授業を通じて、多くの学生が19世紀イギリスの歴史を学び、自ら様々なテーマについて考える機会が得られたことができたと思われます。最初は本授業の内容について興味を持っていなかった学生もいたようですが、毎回討論を準備するための事前学習を通じて全体的にある程度は内容について理解が深まったように思われます。ただし、時々ディスカッションにあまり参加できない学生たちがいたため、今後はより積極的な参加を促すために司会者の役割を担当していただくなどの方法を導入する必要があるようです。学生たちが毎回討論のための質問を考えてくるのも役に立つ、討論の準備をより具体的に求めるのもできると思われます。また、難しい用語や固有名詞については、予習を求めたり、追加の説明を加えたりする工夫も必要であると感じられました。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture A<国際科目群>2 (英米学科生用)
授業コード	31C06-903
教員名	今井 達也
教員コード	102469
登録人数	25
回答数	21
回答率	84.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

この授業の目的は、全て英語を使って、異文化適応に関する理論的かつ実践的な内容を理解し、自己表現できること、であったが授業評価をみる限りある程度達成されたようである。最終的なグループプレゼンテーションも非情に良い出来で、学生は学びを深めたことが確認できた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

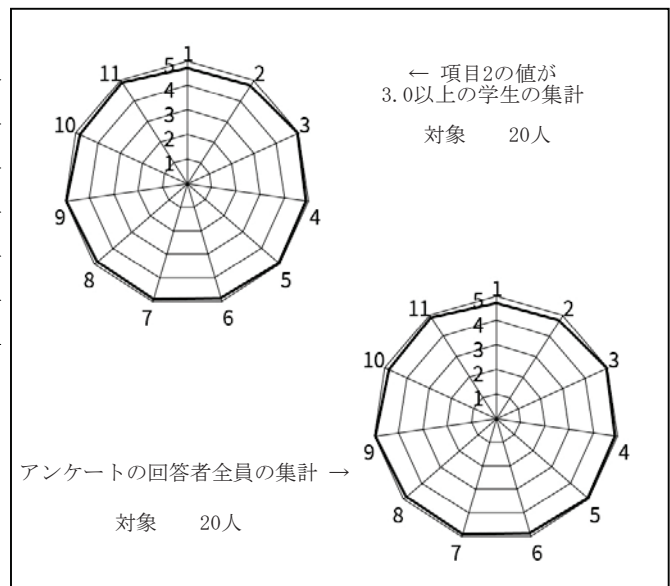
教室が良い環境ではなかったとコメントが複数あったため、適切な教室を選択することが大切である。到達目標を授業の最初に数回確認することが必要だと感じる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今のところ、良い評価をもらっているようであるが、授業内容をもう少し高度なものにしても良いかも知れない。全て英語なので、学生のレベルがバラバラであるので難しいが、その都度学生から意見をもらい、授業を柔軟に良いものにしていきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Contemporary Japan A<国際科目群> (英米学科生用)
授業コード	31C21-901
教員名	SAKAMOTO, Fern
教員コード	103615
登録人数	37
回答数	20
回答率	54.1%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

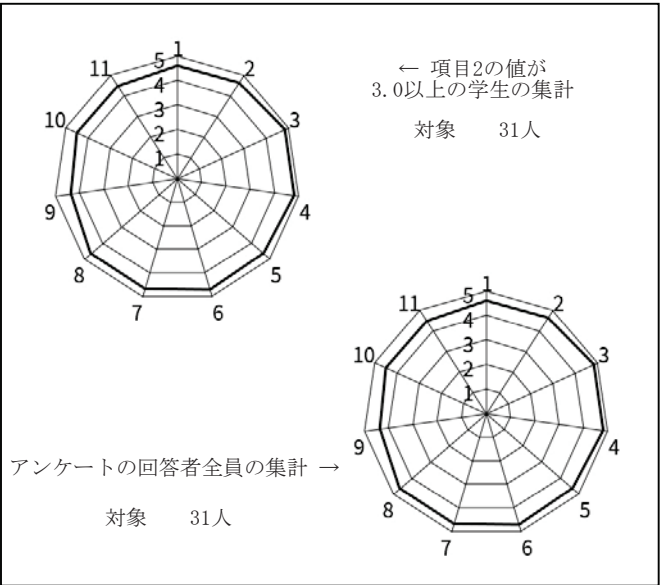


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) The goals were related to deepening students' own intercultural awareness and competence rather than acquiring specific knowledge, so measurement is a little difficult. However, through reading students' reflections after each class I was able to see widespread development. In the evaluation, students appeared to feel that the course lead to the stipulated learning outcomes.
- (2) Many students commented that they appreciated the extensive discussion opportunities in the class to deepen understanding and use their English skills. The participation of CJS students was a great bonus here too. Students reported an overall satisfaction level of 4.90.
- (3) I plan to offer a similar course next year and hope that a similar number of CJS students join the course. I would like to speak with the international center to see if there is any way (e.g. by scheduling at a specific time) to ensure CJS participation in the course. I am also interested in opening a similar style course in Q3 next year, but this is dependent on my department being able to reassign some of my current classes.

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	外国語教育の基礎
授業コード	31D03-001
教員名	RYAN, Anthony
教員コード	104650
登録人数	100
回答数	31
回答率	31.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

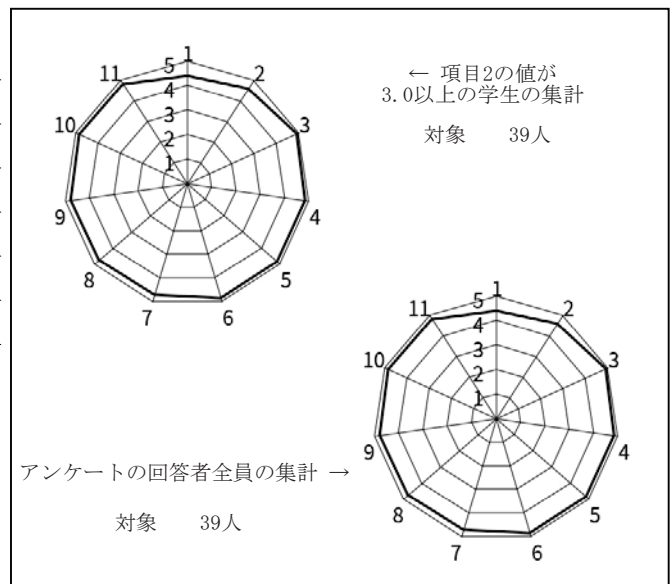


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am satisfied with the efforts of the students in the Foundations of English Language teaching course, and, in particular, how seriously they approached not only the study of the course content, but also their involvement and interaction with their peers in the lessons. Two 100-minute periods in a row for 7 weeks is quite tough going for the instructor and the students to keep engaged and motivated and I am pleased that we managed to work together well enough that the students enjoyed the lessons and the activities. I was very happy that the majority stayed the course and completed the quizzes and activities with passing grades.

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 歴史研究の基礎（アメリカ）
授業コード 31D09-001
教員名 森山 貴仁
教員コード 104589
登録人数 125
回答数 39
回答率 31.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

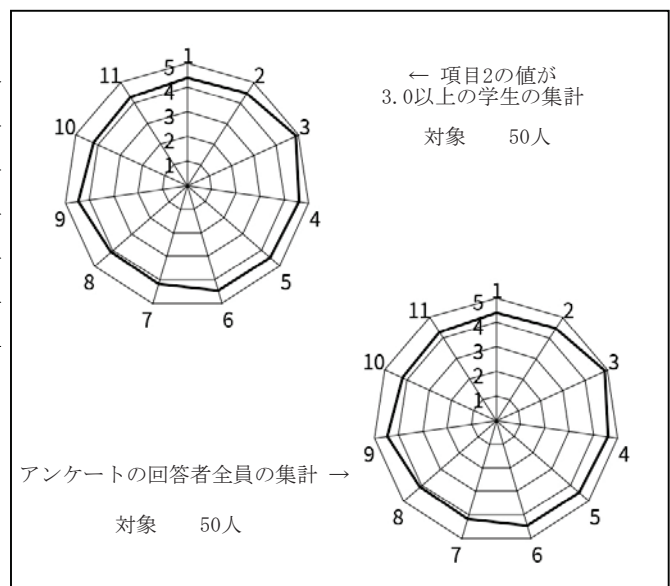
この「歴史研究の基礎（アメリカ）」では、アメリカ史、特に1960年代以降の現代アメリカ政治史を知る上で重要なテーマについて論じることを目的とする。具体的には大統領制や連邦制度などの基礎的な知識に加えて、人種、移民、ジェンダー／セクシュアリティ、リベラル・保守の党派対立に焦点を当てた。毎回100分の授業時間のうち、前半60分ほどを講義に、後半はグループディスカッションに使った。後半には5人程度の小グループに分かれてもらい、学生同士で当日の講義内容にもとづく課題について議論させた。こうすることで学んだ知識を定着させ、知識を時事問題に応用して批判性を高めることを狙った。

学生からの評価を見ると、グループディスカッションに好意的な声が多かった。本授業には外国語学部や国際教養学部、人文学部、経済学部など様々な学部から受講者がおり、学年も異なる学生がランダムに分かれて話し合う機会は楽しめたようである。その一方、合理的配慮の必要な学生もいたため、無理にグループワークに参加させないよう配慮もした。

今回のクォーターでは、他の授業が評価対象かと勘違いして学生に評価を促さなかったのが、回答数が少なかった。次回からはより多くの評価をもとにして、授業の改善に取り組みたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	歴史研究の基礎（イギリス）
授業コード	31D10-001
教員名	原田 健二郎
教員コード	104468
登録人数	180
回答数	50
回答率	27.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、スライド資料や動画資料を用いながらイギリスの歴史と社会を概観するものであり、イギリス研究にとっての基礎を身につけてもらうことを目的としている。

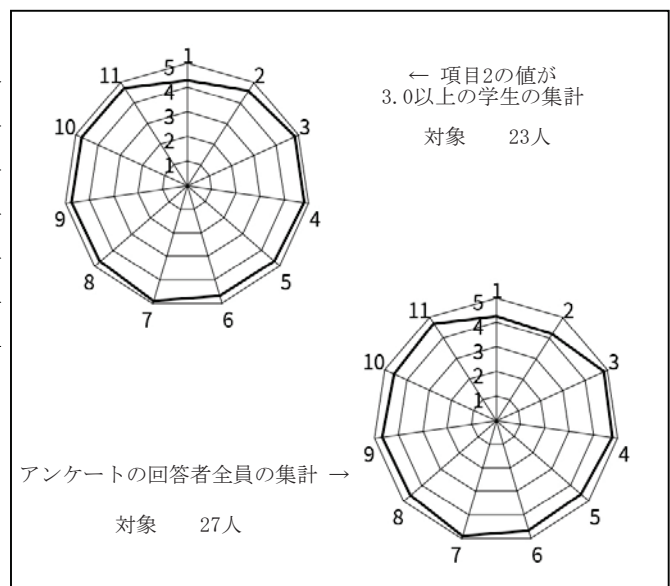
平均数値は4.41～4.40となり、履修者数が同程度の科目の平均値とほぼ同一であった。自由回答欄には「イギリスに関する興味深い内容をわかりやすく学ぶことができた」といった記述も多く見られ、授業目標はある程度達成できたと考えているが、昨年度の同一科目より各項目の数値は0.1～0.2程度下落した。今後の改善点としては、①学生に話し合ってもらふ時間をより多めにとること、②課題内容と成績評価方法を再検討すること、の2点がある。①については、単に考えたり話し合ったりしてもらふのではなく、その内容をリアクションペーパーに成果として書いてもらふ形式に戻したいと考えている。②については、AI技術の進展により、レポート執筆が昨今はるかに「容易」になっている。学生が自ら調べ、文章にまとめる力をつけさせるための方法を日々模索する必要がある。

個人的には、学生の質が変わってきていると感じる場面が今年度は多くあった。それにより、学生間の意識や態度の差が広がってきていることを実感する。

自由記述欄では、私語への対処や出欠席の確認、小テストの実施方法などに関していくつか意見があった。これらを踏まえ、より公正な教室環境が形成されるよう意を用いていきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 アメリカの社会2
授業コード 31E02-002
教員名 大井 由紀
教員コード 101888
登録人数 45
回答数 27
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、下記の3目標のもと進めました。

- 1.) 移民研究の基礎知識を学習する
- 2.) 移民が国民国家や社会にもたらしている変化を理解する
- 3.) 移民を分析する視角・方法を学習する

通常の講義に加え、毎回のディスカッションやワークショップを通し、多角的な視野から移民や移動について考える機会がありました。

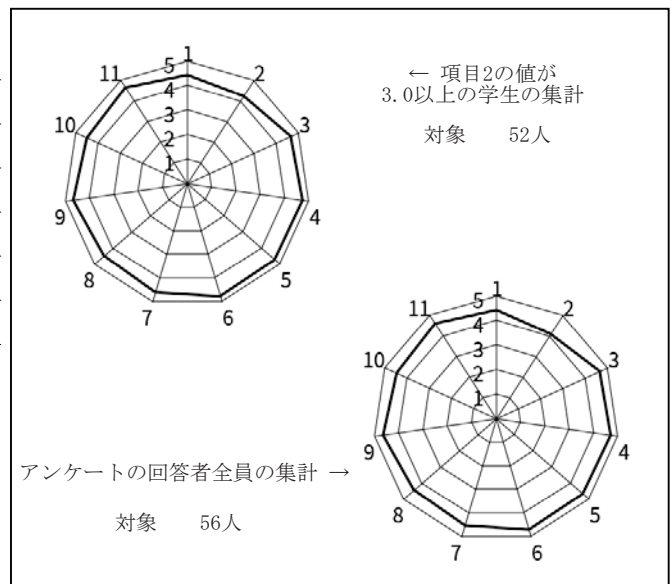
積極的なグループ内でのディスカッションや発表から、視野を広げながらさまざまな 이슈について考察できたと思います。

空調についてご意見をいただきましたが、これについては折に触れて調整が必要かきくと同時に、講義中でもコントローラーで調整していただいて構わないと伝えています。大学生でしたら、「黙ってるけど察してほしい」ではなく、自分の要望を適宜伝える姿勢を身につけてほしいと思います。

また、予習復習については強制すれば(例えば小テストを毎回実施するなど)実施する人は増えると思いますが、予復習こそ自主的にやるものだと思っています。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	メディアとコミュニケーション
授業コード	31E12-001
教員名	花木 亨
教員コード	101269
登録人数	148
回答数	56
回答率	37.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、各種メディアの特徴を理解すること、アメリカ合衆国や日本のような民主主義社会におけるメディアの役割を理解すること、メディアリテラシーを高めることを目標とした。

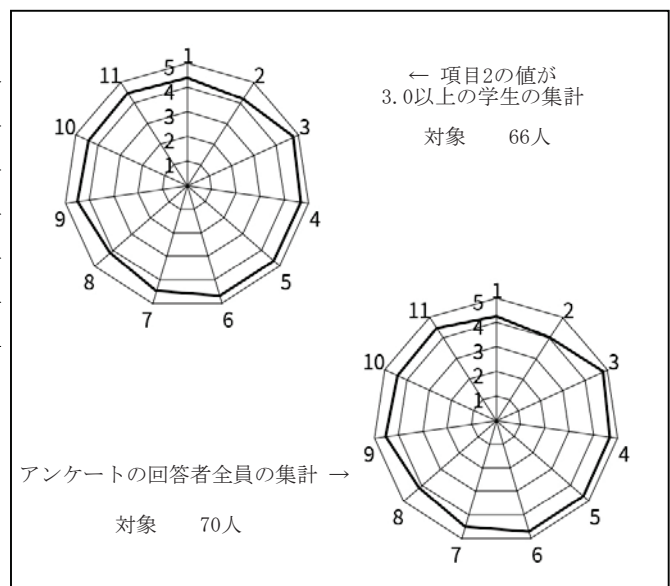
項目3から11の平均値は4.61だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.42を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるように努力したい。

自由記述欄を読むと、説明がわかりやすかったこと、スライドがわかりやすかったこと、視聴覚資料を使ったこと、リアクションペーパーをとおして学生たちの意見に耳を傾けたこと、リアクションペーパーに書かれた意見を匿名で紹介したこと、それらの意見に丁寧に応答したことなどが好意的に評価されたようだ。その一方で、遅刻者や欠席者への対応、アクティヴな授業参加の促進、リアクションペーパーを書く時間の確保などについて、改善を求める意見もあった。これらの意見を踏まえつつ、さらに多くの学生たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が比較的多い授業だったが、リアクションペーパーに書かれた意見を紹介したり、それらの意見に応答したりすることによって、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生たちの主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 スペインの文化と社会B
授業コード 32C07-001
教員名 永田 智成
教員コード 103900
登録人数 143
回答数 70
回答率 49.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

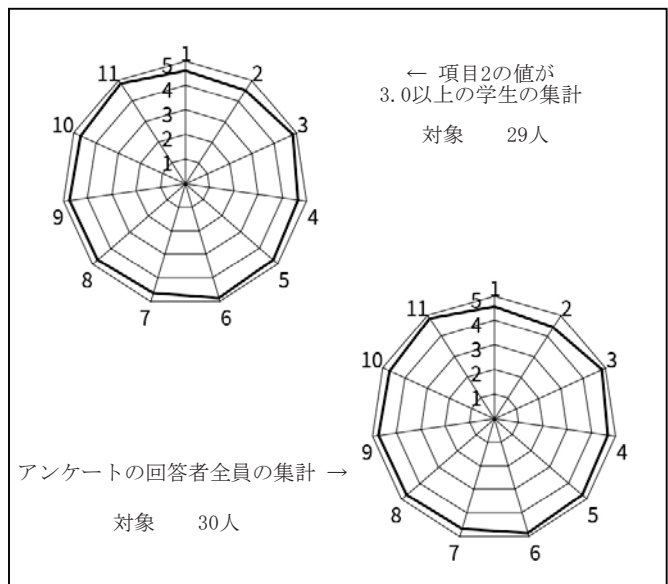
開講当初に設定した目標は達成できたと考えている。実際、自由回答欄にもシラバス通りに授業が進行したと書いてあった。スペインの世界遺産にまつわる歴史や文化を紹介し、スペインの魅力を説くという目標は十分達成されたと考えている。

数値データにおいても概ね高評価を得ている。自由回答欄において、授業の終了時刻が延びることがあったと書いてあるが、それは事実誤認である。4限の授業であったので、動画観賞は17時までに必ず終えており、小テストの提出時間を考えても、授業終了時刻である17:10に教室に、授業のために残っている学生は一人もいなかったと認識している。開始時刻の遅刻に関しては申し訳ないと思うが、3限も授業があり、教室移動を含めると、なかなか定刻にたどり着けない。授業が始まってから準備するなという厳しい意見も頂いたが、終了時刻さえ守っていれば、特段学生への不利益はないと考える。定刻に始めて、もっと早く終われというのは暴論である。

大部分の評価がレポートの授業についての運営方法が難しいと考える。どうしても学生側の集中力がない。すぐには解決策が思いつかないが、引き続き検討していきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 スペイン文学特殊研究A
授業コード 32C14-001
教員名 小阪 知弘
教員コード 103689
登録人数 42
回答数 30
回答率 71.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

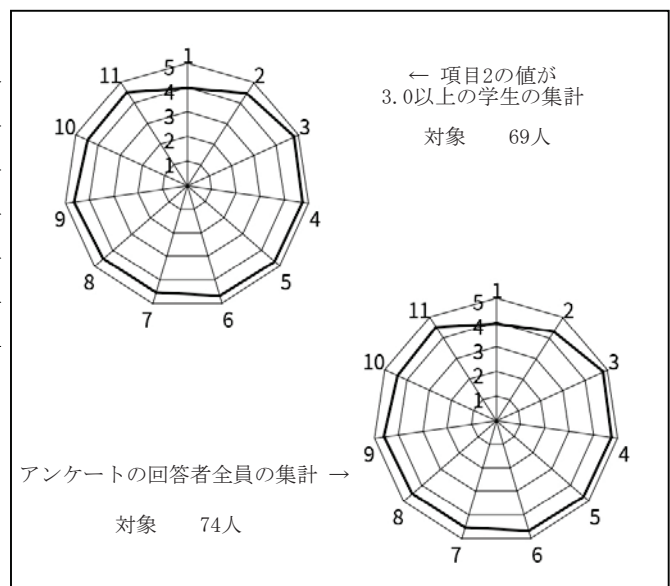


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度についてであるが、目標としていたシラバスに記載した題材を全て講義時間内に扱うことができた点と、小論文形式の試験を読了した結果、スペイン文学特殊研究で主題としていたドン・キホーテの文学的世界観について受講者が深く理解できていたことを確認できたので、到達の程度も達成できたと判断している。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、数値データの最低点が4.57で、最高点は4.83であったことから、数値データに関する自己点検・評価は概ね高く評価されたと判断している。自由記述に関しても、「原作がさまざまなものに再解釈されている過程が理解できた。それをミュージカルや映画などわかりやすい教材で利用したため、興味深く、充実していた」という意見に代表されるように、肯定的な意見が多くよせられていたことから、高く評価されたと捉えている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針についてであるが、さらに講義内容を深化させ、セルバンテスと同時代のシェイクスピアとの文学的類似点なども世界文学の観点に立脚しながら、扱うことができたかと考えている。さらなる研鑽を積み、より良い講義を展開させていく所存である。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの文化と社会B
授業コード 32C24-001
教員名 額田 有美
教員コード 104774
登録人数 161
回答数 74
回答率 46.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度から授業内容を大幅に変更したものの、開講当初に設定していた目標（①）は、概ね達成できたと感じる。最終課題として提出を求めた期末レポートの内容を踏まえても、多くの受講生が目標に概ね到達できたと考える。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価（②）としては、特に意識的に取り組んだアクティブラーニングの主旨に沿うかたちでの毎回の授業ができた。項目8-9の回答状況や自由記述の学生のコメントからもこの点が評価されており、一定程度の成果が出たことを確認することができた。

次クォーター・学期以降に向けての改善点および今後の抱負、方針（③）としては、今年度の姿勢を維持しつつ、毎回の授業課題の提出方法をよりわかりやすい方式へ変更する等の改善に努めたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語文章表現特殊研究I
授業コード	32D03-001
教員名	ESCANDON, Arturo
教員コード	102090
登録人数	10
回答数	4
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course had as goal to have students connecting with the essay tradition, so that they can appreciate it, and at the same time produce commentary. Overall, the goals were met. Students accessed olden texts from Ancient Greece and Rome to modern sources, and composed commentary using the essay genre.

Scores and student commentary were positive. Classroom discussions and feedback also reflected student deep understanding and learning.

Although I drew on a textbook and several firsthand sources, the readings given to students could be improved in the future. This is an aspect the course could be improved.

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語圏異文化コミュニケーション論A
授業コード	32D14-001
教員名	LOPEZ RODRIGUEZ, Francisco Javier
教員コード	103453
登録人数	9
回答数	1
回答率	11.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

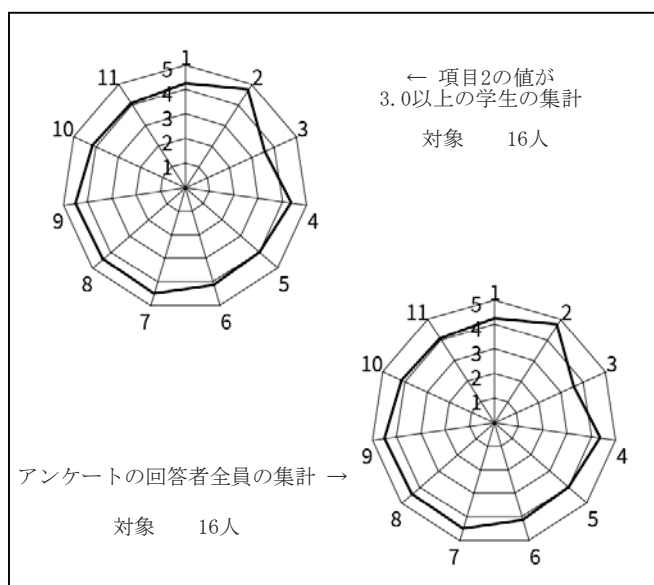
The goals of the class “Intercultural Communication in the Spanish-Speaking World (A)” were achieved. The classes were delivered in Spanish and the students participated in discussions and made presentations using this language, so they had many opportunities to improve their communication skills. The contents of this class were acquired through practical activities and the students collaborated in an enthusiastic way.

I was satisfied with the performance of the students and some of them expressed that they enjoyed reflecting on and discussing about social issues in class. However, the replies to the class evaluation were very few and I did not get an evaluation report.

In the following years, I will emphasize more the need to reply to the class evaluation survey. I also plan to change the task of writing an essay. I will ask them to write about a topic that they may choose between a selection that I will establish. In the future I would like to include more tasks and discussions related to Japan’s social reality, because I noticed that the students are more engaged when they can connect academic theories and concepts to their everyday lives and what they see on the news.

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語圏を知る
授業コード 34B02-001
教員名 SCHILLING, Anette
教員コード 105073
登録人数 38
回答数 16
回答率 42.1%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The two main objectives of this course were to impart knowledge about the culture and society of German-speaking countries and to train students to acquire knowledge independently. Students were to work in groups and present their results and skills in final presentations in class. The big challenge was that the course was taught in a mixture of German and Japanese, as the students' level was not yet sufficient for purely German-language instruction. This was also the reason why I changed from the initially planned reports to tests for final assessment.

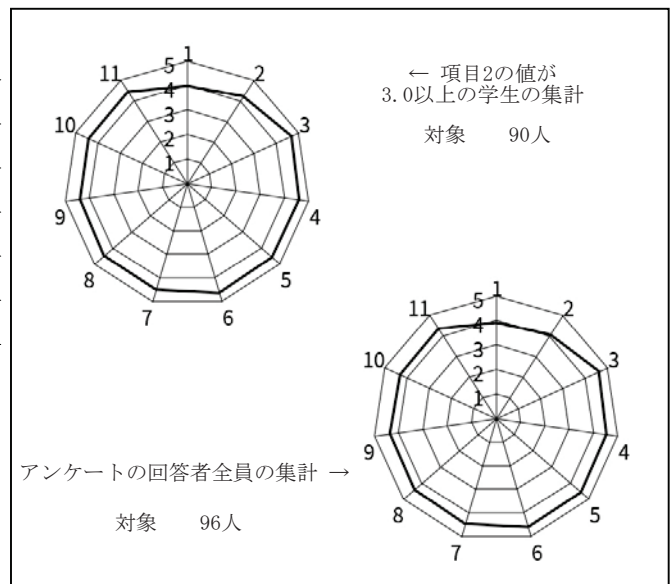
From my perspective, the course objectives were achieved to my complete satisfaction. I particularly appreciate the students' broad interest in a wide range of social and political topics. All groups worked independently and conscientiously and gave informative presentations, also partly delivered in German. It was particularly important to me that the German parts were at a level that was understandable for all participants.

In future similar courses, I would like to improve my teaching regarding the following points:

1. Advance counseling for students regarding the sources they use and the objective presentation of their information, as students still lack critical judgment skills.
2. Improvement of specific presentation skills (speaking speed, eye contact with the audience, quality of presentation slides, etc.).
3. I would also like to provide more training in the conscious use of AI-driven computer tools in the future.

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ文学史
授業コード 34D05-001
教員名 麻生 陽子
教員コード 104628
登録人数 133
回答数 96
回答率 72.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

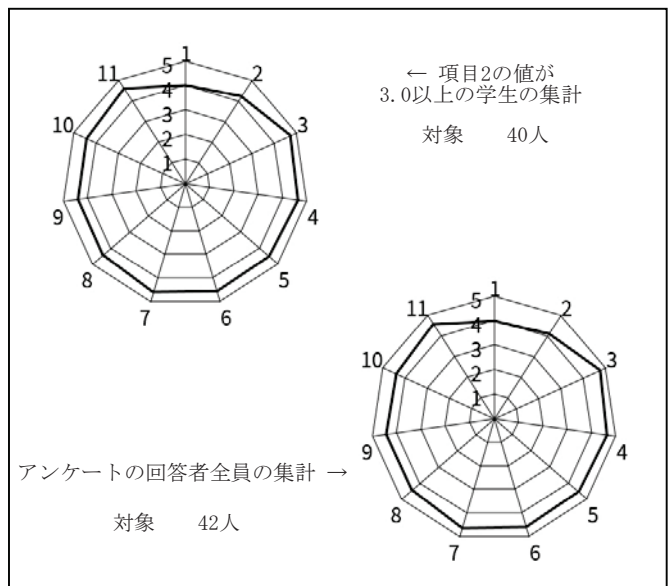


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① おおむねシラバス通りに授業をすることはできた。ドイツ文学史全体をカバーするには、授業時間が足りないが、個々の作品に丁寧に向き合いながら講義をすることができたという点で、当初の目標にはおおむね到達できたと思われる。
 - ② 全体平均4.48より0.01ポイント下回ったが、設問3以降の平均が4.47という評価であった。自由記述を見る限り、授業のスピード、授業資料の配布、授業内容について、受講生にはおおむね満足してもらえているという実感を得た。
 - ③ 本科目は、就職等に直接結びつく科目ではない。受講生の中には、単位取得の関係で、文学に興味を持っていなくても受講しているという学生も一定数いたことが、事前アンケートからはわかっていた。多様な関心やニーズを持つ学生が集う大規模講義において、学生に学問的な刺激を与え続け、彼らの集中力を切らさないような授業をすることは、大変に困難である。来年度に向けて、限られた授業時間数のなかで、より広範囲の作品紹介を行うために、今後、引用箇所などを厳選していきたい。
- 本科目では体育科目やキャリア科目と異なり、学生自身が実用的テクニックや即効性を実感することは難しい。しかしながら、人が生涯学び続けるうえで大事な読書の機会、さらには読書の面白さに、学生自身がいつか気づいてもらえることを願いながら、今後もしかり上げる作品を工夫しながら講義をしたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ歴史研究
授業コード 34D10-001
教員名 齋藤 敬之
教員コード 104487
登録人数 59
回答数 42
回答率 71.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



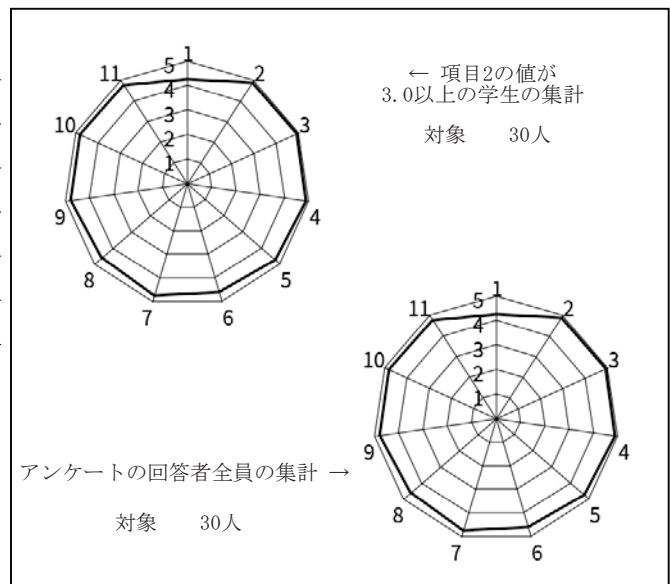
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は「ドイツ史の知識の整理と拡充」や「歴史研究の方法や動向に関する知見を深めること」を目標に掲げた。しかし、ドイツの歴史に関する知識が豊富でない履修者も見受けられたこともあり、学生の関心と教員の目標設定や授業内容との間に隔たりがあったようで、この点が授業内容や到達目標に関する設問項目の評価がやや伸びなかった一因と考えられる（設問1・設問2・設問10）。初回の授業などで授業内容を丁寧に導入し、学生の履修意欲を高める工夫をしたい。

本科目では、画像資料を多数扱う都合上パワーポイント形式のスライドを用いるとともに、授業内容を書き留められるよう配布資料（レジュメ）も用意した。履修者の理解度の向上を意図したものであったが、実際に設問12で「資料がわかりやすく復習に役立った」といった回答を複数得ることができ、手応えを感じている。また、授業中に資料などを考察する課題を出すとともに、その課題の回答をWebClassのチャット機能を利用して共有する試みを実施した。講義の中にもアクティヴな要素を盛り込みつつ履修者同士の考察結果の比較を行うことを目的としたものだったが、設問6・設問12での高い値に鑑みて、よい取り組みになったと自負している。このような実践は今後も継続したいと考えている。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 アジア文献講読A
授業コード 35C19-001
教員名 宮原 佳昭
教員コード 102232
登録人数 37
回答数 30
回答率 81.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

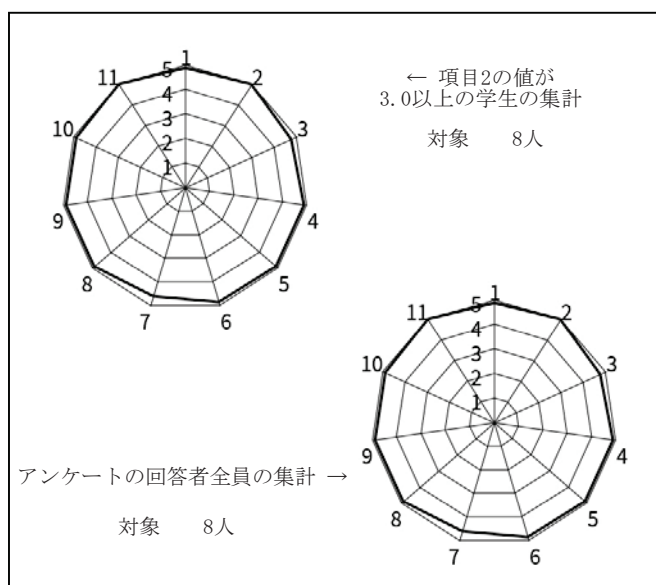
本授業の到達目標は次の3点である。①卒業論文で分析対象とするレベルの中国語資料を読解できるようになる。②中国語資料の文章を、一字一句の意味をおろそかにせず、全て日本語訳できるようになる。③中国語資料にあらわれるキーワードとその意味を、辞書やインターネットを駆使して把握できるようになる。

上記の目標を達成するために授業中の指導で工夫したことは、次の3点である。①オンライン中国語辞書や百度百科など、中国語読解に有益なツールを学生に示した。②授業中は学生全員を1回ずつ指名して日本語訳させ、一字一句の意味を辞書で調べたかを細かく確認した。③学生の日本語訳に誤りがあった場合も、それを頭ごなしに否定することなく、それがどのような点で誤っているのか、どのようにすれば適切な訳を導き出せるのかを具体的に示した。これらは学生の自由記述欄を見る限りは好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

反省点は、授業の予習範囲の示し方である。教員は中国語原文のうち予習すべき部分を抜粋し、その部分にマーカーをひいたWordファイルをWebclassに掲示した。ところが、そのWordファイルをダウンロードせずにWebClassで閲覧すると、マーカーが消えて中国語原文のみが表示されるため、すべての文章を予習しなければならないと思い込み、多量の文章を予習した学生が少なからずいた。次回はWordファイルではなくPDFファイルを掲示するなど、工夫したい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 上級インドネシア語会話A
授業コード 35D05-001
教員名 MANGGA, Stephanus
教員コード 103578
登録人数 11
回答数 8
回答率 72.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本授業の目標は学生が状況に応じて適切にコミュニケーションをとることができるようになります。それに、学生が状況に応じた適切なスピーチを聞き、それを言い換えることができるようになります。この目標は達成できたと思います。これは学生の評価（質問4、平均値4.88）からも明らかです。

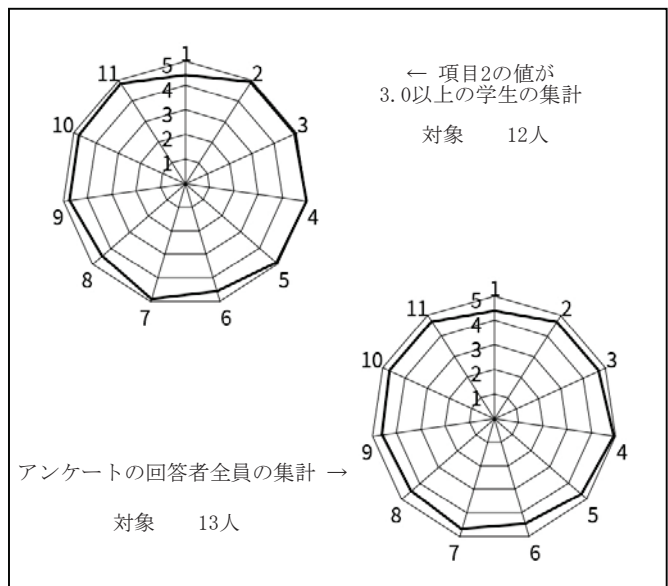
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

本授業は上級クラスなので、常にインドネシア語を使っています。それでも学生たちは授業に熱心に取り組んでおり、同士でも常にインドネシア語でコミュニケーションを取ろうとしています。これはアンケートの質問12に対する回答からも分かります。「アクティブラーニングが取り入れられていて、楽しく授業に取り組めたこと。」、「マンガ先生を中心に積極的にインドネシア語で意思疎通を行おうと一生懸命に取り組んでいた。」、「上級というだけあって今まで行ってきたインドネシア語の授業より充実したもので、自分のインドネシア語力が伸びたように感じた。」

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生の評価にあるように、「映像などを通して、聴く力を身につけることや、テーマに対して調べてプレゼンすることなど、広範な技術を高められた。」、「次回も今回のやりかたを生かして、より良い授業にしたいと思います。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	インドネシア社会研究
授業コード	35D11-001
教員名	間瀬 朋子
教員コード	103607
登録人数	20
回答数	13
回答率	65.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

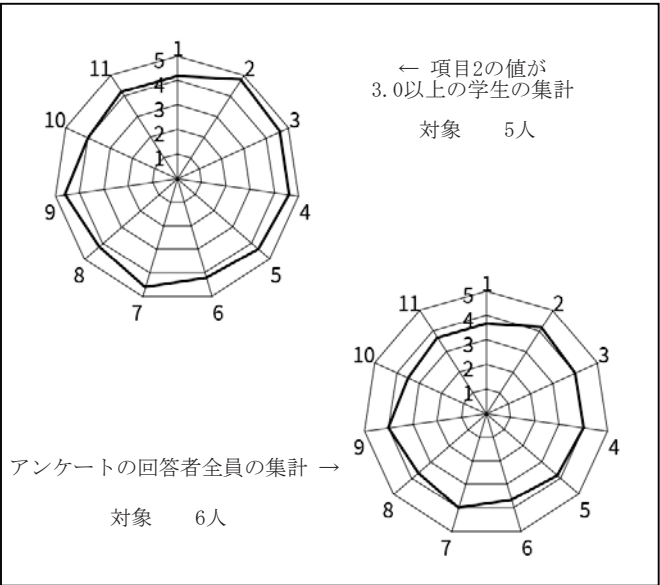
シラバスに掲げた本科目の到達目標は、ジャワ社会に対する基礎的理解がある、ジャワ社会への考察を通じて、インドネシアにおける開発の諸相を理解している、の2つである。アンケートの項目④および⑩にみるように、この到達目標をめざして授業が進行され、目標に達成できたほとんどの学生が実感していることは、担当教員としてたいへん喜ばしい。論文の輪読（受講生の主体的な精読と発表）をつうじて数多く・深く知識が身についた、教員とのやりとりで正確な知識を得られた、授業が楽しかったという学生たちによる自由記述の回答にも、その目標達成感がいきいきとあらわれた。

アンケート数値データの捉え方はひじょうに難しい。特定の受講生が大多数の受講生と違った評価をする原因や、アンケート全体で一貫性のない評価をする原因を丁寧に考察し、当該受講生の不満を受け止める努力を怠らないようにしたい

今回もっとも数値のよくなかったアンケートの項目⑥「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」をめぐり、本科目に不足している要素を慎重に分析し、次年度以降のよりよい授業づくりにつなげていくつもりである。講義と演習（輪読・発表・討論）の併用という運営形式のバランスを探ることに、その解決の鍵がありそうだと感じている。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society C2
授業コード	31C03-002
教員名	ROBINS, Anthony
教員コード	104759
登録人数	23
回答数	6
回答率	26.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

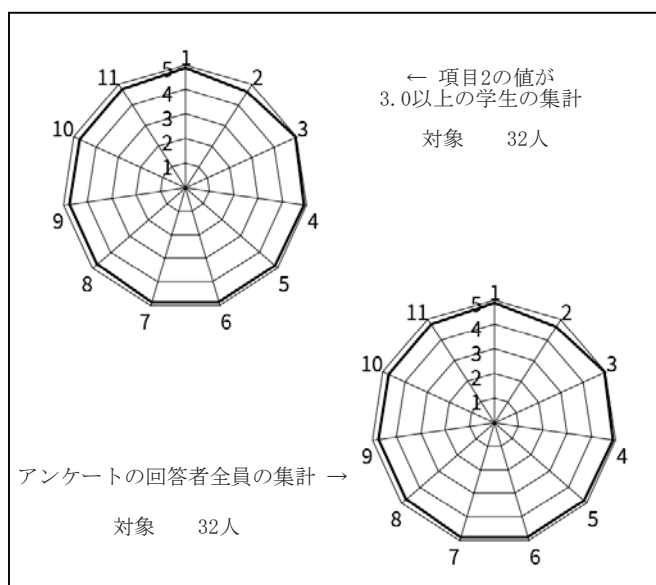


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I feel that the goals I set in the syllabus at the beginning of the course were achieved although the amount of time available at times was a bit tight, I was certainly interested to see the feedback from students, although I am sorry that there were not more responses. I was glad to see that the key questions about the course in general (3-5) had a rate of 83.33% answering with 4 or 5. For questions about classroom management (6-9) I note a mixture of rates of 66.66% and 83.33% and will particularly focus on reacting to the responses to the questions (6 and 8) with the lower score in the future. Similarly, I will focus on the responses to 10 and 11, with a rate of 50% and 66.66% answering with 4 or 5. However, more detailed feedback (e.g. in 13) on reasons for these responses is needed to help reflection. I was especially glad to see a response to 12 about interaction, as I want to achieve 'Active Learning'. Similar responses came to my own questionnaire at the end of the course. To help my understanding of students' attitudes and to avoid the issue stated in the response to 13, which I apologise for and will rectify. I intend to have a mid-quarter questionnaire in the future.

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語音声学
授業コード	31E17-001
教員名	中郷 慶
教員コード	104472
登録人数	36
回答数	32
回答率	88.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業当初に設定していた目標と到達の程度」については、当初の予定通りに到達できたと考えています。

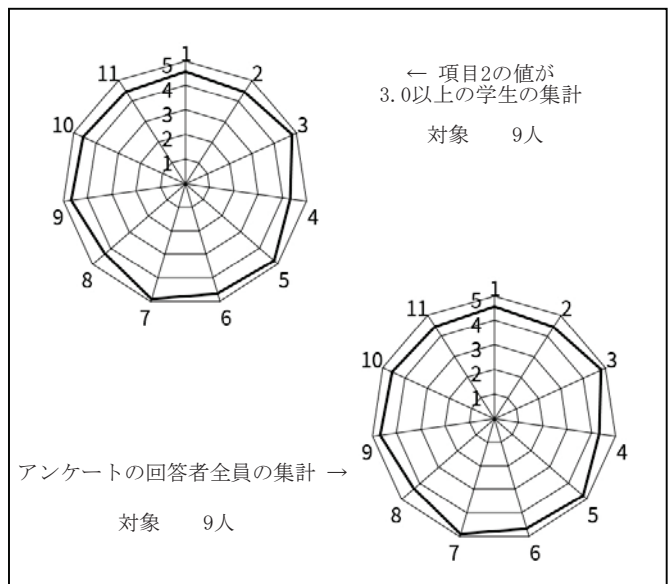
設問1から設問11への回答の平均値は4.81で、特に大きな問題なく授業を運営できたと認識しています。

設問3から11のうち、平均値が最小の4.72となったのは設問10（この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか）でした。授業の受講のみによって、発音に関するスキルが完全に身に付くものではありませんので、この授業をきっかけとして、今後、発音への意識を向上していただければと思います。

自由記述では、改善した方がよいと感じた点として、間違っただけの学生に対して教員が強く言い過ぎている、教員が高圧的で質問がしたくてもなかなかできない、などのご意見がありました。このようなコメントについては、いつも注意を払っており、今年度は特に気を付けたのですが、今後、いっそう気を付けたいと思います。発音が改善された場合にリアクションがほしいというコメントは、初めて受けたコメントです。自分自身は、何らかの反応をしているつもりではあるのですが、そのように見えていない学生がいるということ、参考になりました。良かった点としては、英語の発音への理解が深まった、実践的な練習の機会が多かった、説明がわかりやすかったなどのコメントがありました。この授業の意図や目標を学生みなさんにご理解いただき、授業を進める上で、わたくし自身が行っているさまざまな工夫がみなさんに肯定的に受け入れられたのは、良かったと思います。多くの貴重なご意見、ありがとうございました。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際経済学
授業コード 31E21-001
教員名 栗原 裕
教員コード 104294
登録人数 18
回答数 9
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

到達目標は以下でした。

- (1) 国際経済学、金融の基礎的な理論と知識を身につけ、それらについて分析や考察ができるようになる。
- (2) 上記に関わる国際経済や国内経済の諸問題が理論的に説明できるようになる。

いずれの点も、おおむね達成できたのではないかと思います。4年次生だけでなく3年次生の就職活動が早くも始まりました。欠席者向けの教材を作成していたのですが、丁寧なもの、詳細に亘るものであるべきだったのかもしれない。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や授業時間外の自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」が、相対的にやや低いようです。グループワークや議論の時間を増やすべきかと思われます。一方、授業期間中、「トランプ関税」に振り回されたような印象もあります。時事的なトピックスからときに距離を置くのも必要だったのかもしれない。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

授業はおおむね予定通り進行することができました。受講生の皆さんの理解力、考察力もすばらしいものがありました。意欲の高い学生の皆さんに対してより期待に応えることができるような内容、授業方法を考えたいと思います。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	<u>スペイン語III[FS]1</u>
授業コード	<u>11D03-005</u>
教員名	<u>HOPKINS Mariella</u>
教員コード	<u>103653</u>
登録人数	<u>14</u>
回答数	<u>3</u>
回答率	<u>21.4%</u>
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1)

The objectives established in the syllabus for this quarter were fully achieved. It is important to mention that the syllabus was modified in order to adapt to the use of a new textbook. In addition, the Webclass platform used as a tool for students to homework, and group projects, but also as a support resource for class presentations.

(2)

According to the survey results, students value having access to the course plan and the objectives through Webclass. However, it also became evident that students need further guidance to fully understand the objectives of each lesson and their connection to the overall goals of the course. Therefore, preparing a complementary guide to help students clearly understand the objectives of each class is considered necessary.

(3)

For the next term, greater emphasis will be placed on ensuring that students recognize that the objectives of the textbook units and of each class are clearly described in both the syllabus and Webclass. A closer follow-up and guidance will also be provided so that students can engage more actively with the platform, make better use of its resources, and strengthen their autonomy in the learning process.

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	上級スペイン語IIB3
授業コード	32A21-003
教員名	YANEZ ROSADO, Juan Antonio
教員コード	104624
登録人数	17
回答数	4
回答率	23.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生のQ2の評価を見ると、次のじょこ評価を報告します。

①授業の目的に関して、基本的に万足で、シラバスの目的を達成したと言えよう。しかし、文法項目が間違えた子もいるし、語彙が足りない状態もあったため、今後にショートテスト等の対策したいと思います。そうすると、発表やテスト日までに文法の細かい点をより上手に磨けるようになると思います。

②データが少ないですけど、自分に対しての評価がやや良かったです。しかし、先生として、まだ習うことが多いと思います。自己評価は70点です。その理由は、まだ改善するところがあり、授業の時間もより合理的に使えると思います。それを考えて、これから次の対策を行いたいと思います。

あ) 作った教材を再チェック (Q2に使った教材にはたまに間違いがありました)。

い) ベテランの先生に相談する。

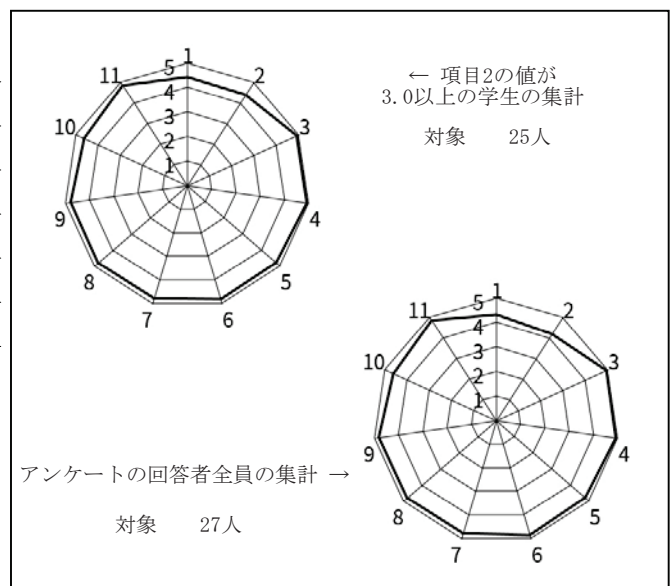
う) 黒板をより上手に使う。

③最後に、次のクォーターに向けて、改善することは、1) 授業に使う教材、2) 黒板の使い方、3) ワークシートや宿題の管理です。

その3つの点を改善したら、より良い授業を言えると思います。

2025年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語圏思想特殊研究A
授業コード 32C39-001
教員名 安藤 真次郎
教員コード 104611
登録人数 47
回答数 27
回答率 57.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

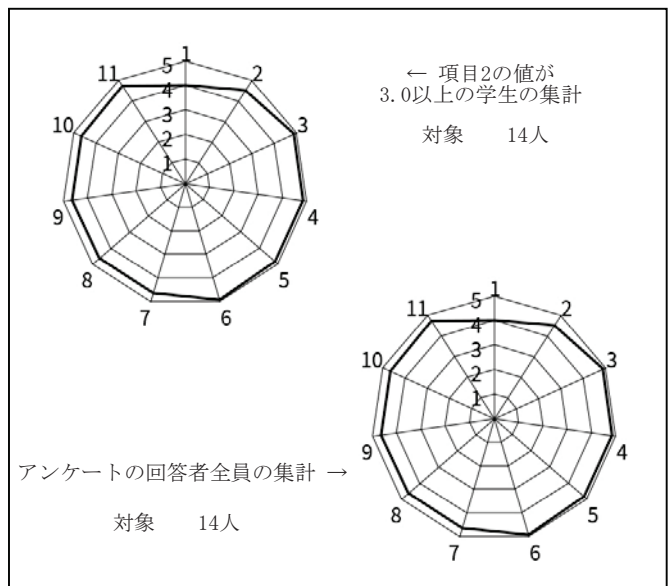


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①概ねシラバス通りに講義を進めることができた。4つのテーマを到達目標として掲げたが、毎回の授業時に実施した「理解度確認シート」と「最終レポート」で確認したところ、出席していたすべての学生が到達目標に達していることが確認できた。
- ②アンケートの設定項目とレーダーチャートを確認したところ、項目1～11の平均点が4.72、項目3～11の平均点が4.82であったことから、学生からの授業評価は概ねよかったと考えている。自由記述の項目12では、「映像資料や写真などを使われていて、わかりやすかったです」「毎時間復習プリントが配られて、前回の授業の内容を思い出せた」「スペイン語の音楽やスペインの牛追い祭りなど、スペイン語やスペイン文化を扱っていた点」などの声が複数あり、用意した資料（レジュメ、写真・映像・音声資料）が授業の理解に役立ったと考えている。
- ③「スペイン語圏思想特殊研究」というやや難しい印象を与える科目であるので、できるだけ学生たちが関心を持つようなシラバスを作成するようにしたい。また講義においてもパワーポイントや画像・映像資料を利用しながら、各時代の思潮や重要事項をわかりやすく説明し、代表的な知識人や思想家について理解してもらえるように努めていきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 フランスの政治
授業コード 33A08-001
教員名 長谷川 一年
教員コード 103576
登録人数 39
回答数 14
回答率 35.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

おおむねシラバスに記載のとおり、フランス革命以降の政治史を辿り直しつつ、現在の移民問題・極右の台頭などの重要なトピックに触れることができた。学生の受講態度にも問題はなく、コメントペーパーの内容を見るかぎり、内容理解も正確であるように思われる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

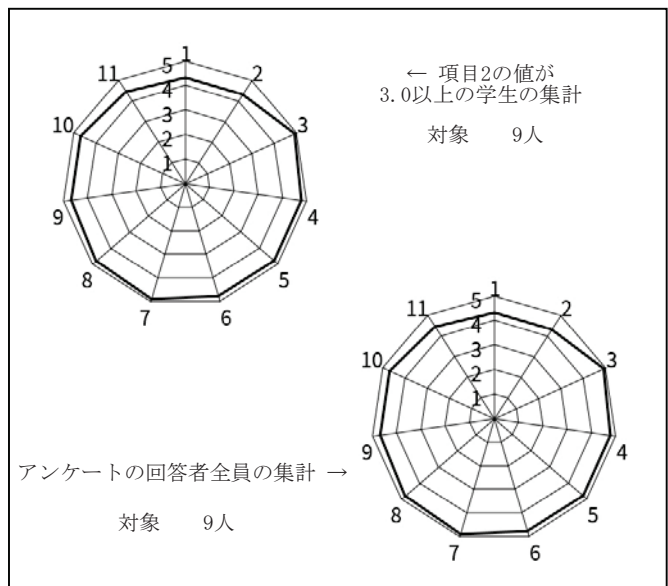
だいたいにおいて良好な数値データであると理解している。自由記述のなかに、2コマ目に集中力が切れるとの意見があった。100分授業が2コマ連続なのでどうしても疲れてくるが、適宜休憩を挟みながら集中力が途切れないように工夫したい。

③次クォータ・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

来年度も、授業の内容と形式については、今学期とおおむね同様の方針で臨みたいと考えている。上記②で触れた2コマ目の疲労については、改善したいと考えている。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中国語と日本2
授業コード	35B08-002
教員名	趙 晴
教員コード	100960
登録人数	27
回答数	9
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標はほぼ達成したと思います。最初は発表文の構成や会話の表現など問題点は多かったですが、受講して徐々に慣れていて、表現もだいぶよくなり、相手によく伝わる発表になってきました。ほとんどの学生は真面目に楽しく学びました。「ネイティブの表現を学べてよかった」と学生たちのコメントがありました。教えたことをすぐ吸収してくれて、上達になってくれて、私も嬉しく思います。

ChatGTPなどに頼らず、学生の皆さんはできるだけ自分で調べた情報や自分の言葉で、伝えたいことを表現しようと努力していました。この点はとても良かったです。自分の考えをしっかりと持つことはたいへん大事なことです。

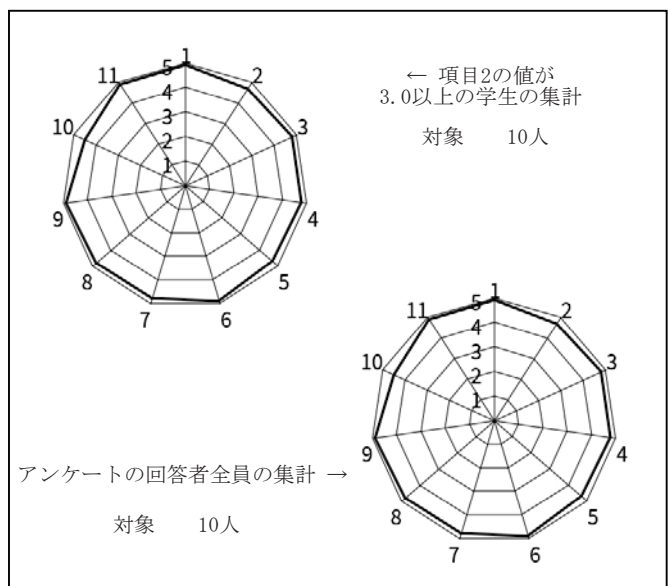
明るいクラスで、個性豊か、そして素直な学生たちにもありがたいと言いたいです。

今後も学生ひとりひとりを見て、彼或いは彼女らしい表現をもっとできるように指導していきたいと思います。

同学们进步很快，发表也越来越好！要继续努力啊！谢谢！

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語III会話
授業コード 35C05-001
教員名 張 静萱
教員コード 048047
登録人数 15
回答数 10
回答率 66.7%
休講回数 3 回
補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

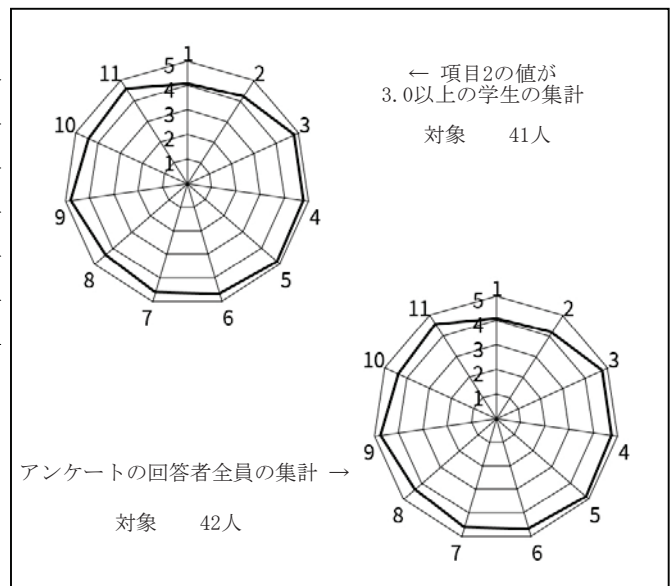
この授業はアジア学科の3・4年生を対象とした中国語会話の授業で、言語の背後にある中国の文化やまた「異文化間の対話と相互理解に資するコミュニケーション能力の修得」と上達を念頭に授業を進めてきました。

学生諸君の「授業評価集計」の結果を見れば、授業はおおむね開講当初の目標は達成できたと思われます。授業は「教科書だけではなく、先生が用意した映像資料などが豊富であった。」、「中国語でクラスメートと会話できるのが、とても楽しくて力になると感じました。また、中国語が上手な生徒と一緒に喋ることでモチベーションも上がりました。」、「本文の読解を中心に、丁寧に行われていた。」

これら学生のみなさんから評価されたところを今後も引き続き努力し、また学生諸君の学習意欲を引き出すようにさらに工夫し続けていきたいと思えます。それと同時に授業内容をさらに充実にし、受講者全員が満足度の高い授業運営を続けて努力していきます。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 政治学A3
授業コード 12C04-003
教員名 原田 健二郎
教員コード 104468
登録人数 141
回答数 42
回答率 29.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

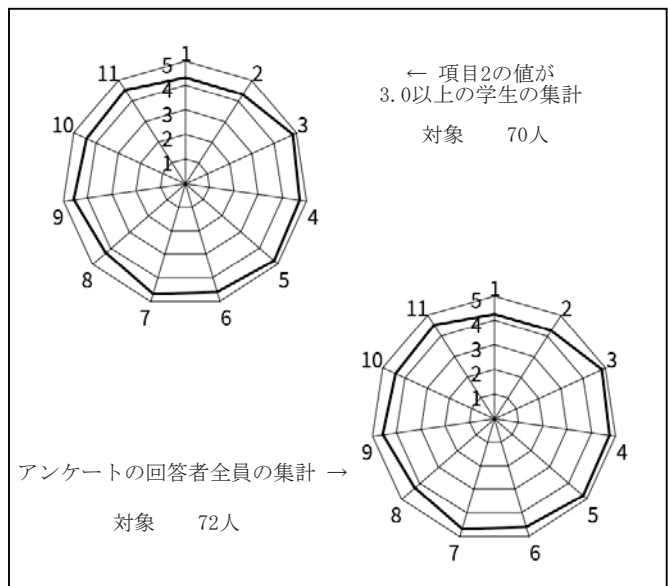
この授業は、政治と宗教の関係という観点から現代世界を理解することを目指し、世界の様々な地域の宗教紛争を取り上げた。期末試験を含めた成績評価の結果を踏まえると、授業に熱心に取り組んだ学生のほとんどは到達目標を達成したと言える。

項目1から11の平均値は4.54、項目3から11の平均値4.63となり、学生からの反応もおおむね肯定的であったと考える。自由記述回答を見る限り、スライド資料の枚数をある程度抑え、高校世界史などで身につけた知識との接続を意識したこと、授業内容に関連する直近のニュースを頻繁に取り上げた点などは、学生にとって有益だったのではないかと考える。ほぼ毎回の授業で課したコメントペーパーは極めて熱心に書かれたものが多く、授業に真剣に取り組む様子が強くうかがえた。

改善点としては、世界の諸地域を「薄く広く」扱う構成としたため、各地域についてやや消化不良の感が残った点がある。扱う地域やトピックの数を思い切って減らした上で、直近の出来事を素材に問題解決を提案してもらうような回を複数回設けたいと考えている。ただし履修者数の関係で、学生が口頭で発表する時間をどれだけ持てるかは不透明である。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ヨーロッパとの出会い4
授業コード 13B04-004
教員名 金 慧昇
教員コード 104504
登録人数 137
回答数 72
回答率 52.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

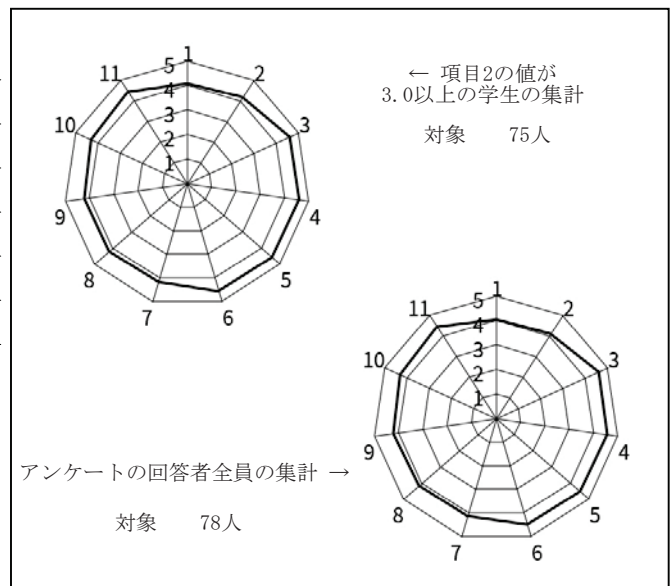


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、主に19世紀以降のヨーロッパにおけるジェンダー問題について検討し、その問題が現代社会のあり方とどのようにつながっているのかを考えることでした。そのために、授業ではヨーロッパ各国の状況を説明しながら、内容と関連する写真や動画の資料を活用して学生たちの理解度を高めました。また、毎回の最後に授業の内容と今日の社会をつなげて考えることができるリアクションペーパーを書かせていただきました。リアクションペーパーについては、次回の冒頭にコメントをすることで授業内容の連続性を図り、主体的な思考力や積極的な参加を促しました。特に、大人数の授業のため他の学生への影響を考慮し私語を禁じたことや、Webclassにリアクションペーパーを提出していただき出欠を厳格に確認したことで、学生たちの学習に良い影響を与えたかと思われます。ただし、話の速度や抑揚という点を改善し、説明がより伝わりやすくする工夫が必要になると思われます。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	南北アメリカとの出会い1
授業コード	13B05-001
教員名	戸田 由紀子
教員コード	105000
登録人数	123
回答数	78
回答率	63.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

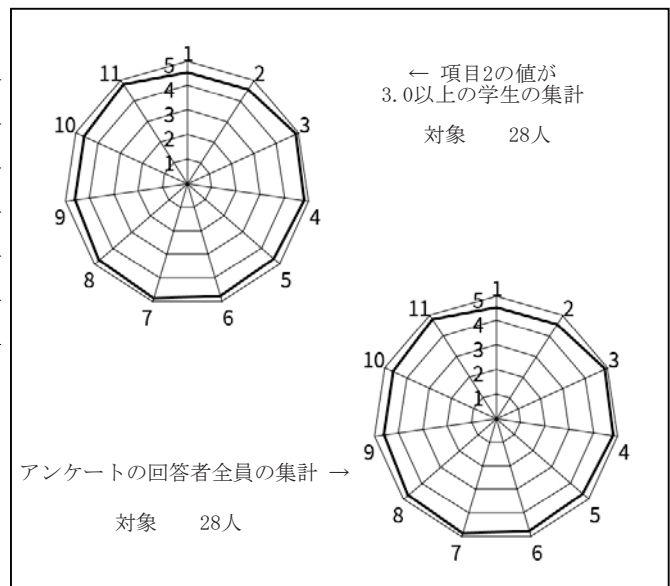


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、文学作品と映像作品を併用し、南北アメリカの歴史・文化・社会的背景を多角的に理解すること、また原作と映像の比較を通して解釈の多様性や表現媒体の違いを考察する力を養うことを目標としていた。アンケートの自由記述には、「原作と映像を比較しながら背景を学べた」「映画を通して登場人物の心情や時代背景を深く考えられた」といった意見が多く見られ、設定した到達目標は概ね達成できたと考えている。数値評価においても、シラバスとの整合性や授業構成に関する項目はいずれも高く、授業設計自体は学生に肯定的に受け止められていた。一方で、授業内クイズの提示方法や解説不足、説明が抽象的で要点が分かりにくい場面があったこと、私語や教室環境により集中しづらい場面があったことなど、改善点も指摘された。今後は、設問や指示をより明確に示し、理解確認の機会を充実させるとともに、要点整理を意識した説明を行いたい。映像と文学を組み合わせた本授業の強みを生かしつつ、より学修成果を実感できる授業運営をはかりたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相9
授業コード 13C06-009
教員名 手塚 沙織
教員コード 103911
登録人数 35
回答数 28
回答率 80.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

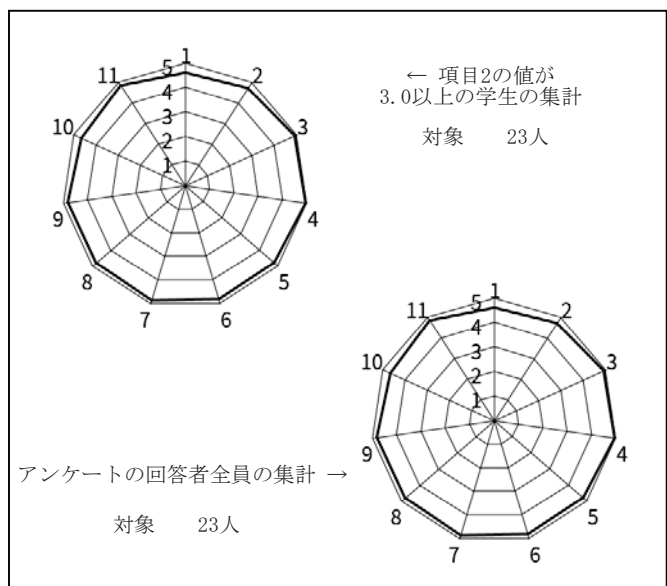


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は、①政治と経済に関する基礎的な知識を理解できるようになる、②政治と経済の関係を把握できるようになる、③ある事象に対して、多角的に学び、議論ができるようになる、の3つである。履修生が経済学・政治学に苦手意識がある、またはそれらの背景知識がないことも多く、授業内にて海外の通貨の現物を見せたり、現代の経済・政治に関するドキュメンタリーを見せたり、また、リアクションペーパーでは学生に親しみのある内容を盛り込んだ質問を出したり、と学生が履修後も経済や政治に興味を持てるように、例年工夫を重ねている。学生からの自由回答から、映像も交えた授業は学生にとっても、経済や政治への理解を深める上で、効果的であったと考える。他方、学生の中には、映像の長さが適切だと思えば、長いという学生もいるため、この辺りの調整を含め、授業構成を考え直したいと思う。到達目標の3つは、学生の期末試験の平均点やリアクションペーパーの出来からすると達成できていると考えている。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A III2
授業コード 31A03-002
教員名 SAKAMOTO, Fern
教員コード 103615
登録人数 25
回答数 23
回答率 92.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

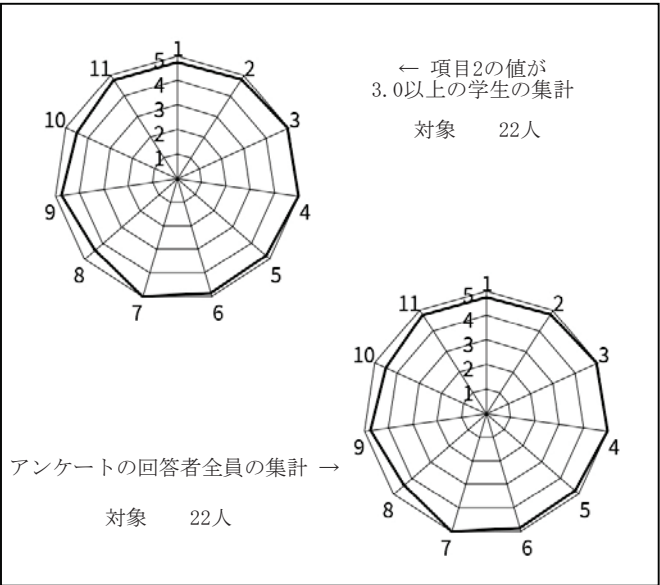


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course followed the syllabus closely (4.91) and students felt that the course content was well-aligned with the objectives (4.96). Most students found the structure and speed of classes to be appropriate (4.78) and thought the activities and assignments were appropriate to their level (4.83). No problems arose regarding classroom management (4.87) and students felt they had adequate opportunity to confirm understanding (4.83) and were motivated to apply themselves (4.78). All students thought they had been successful to some degree (4 or 5, average 4.65) in achieving the course goals. This quarter I made an effort to use the syllabus each class so students could follow our progress. This appears to have connected to greater student awareness of the course goals and purpose of the various activities and assignments. I plan to continue doing this and will suggest this to other instructors in the course. Students appear happy with the new in-house materials, so I will update and continue using those across all sections of the course.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Academic English A III5
授業コード	31A03-005
教員名	HASTINGS, Christopher Robert
教員コード	103137
登録人数	25
回答数	22
回答率	88.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

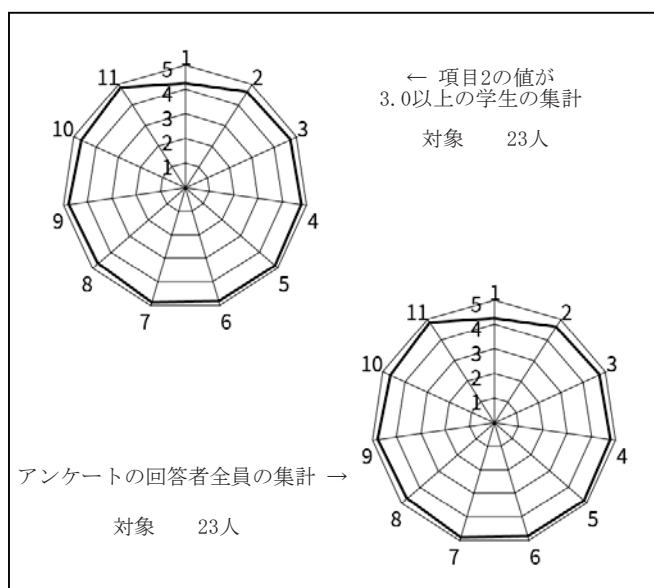
The course goals at the start of the quarter were for students to: (1) understand the main message in written and spoken English texts, (2) participate in informal and formal discussions about education, (3) think critically about issues related to education, (4) acquire academic vocabulary, (5) conduct research using library facilities, and (6) write an expository essay in APA7 format. Based on classroom performance and the survey results, students made clear progress across these areas, especially in discussion skills and understanding academic writing conventions.

The numerical data show consistently high averages (around 4.7- 5.0), indicating strong student satisfaction with clarity of instruction, organisation of lessons, and opportunities for active engagement. The written comments also highlight positive aspects such as frequent English discussion, a supportive class atmosphere, and the usefulness of group work for generating ideas. Several students noted that they felt comfortable asking questions and that understanding the writing format improved their confidence. Slightly lower scores on some items suggest that task difficulty and pacing may be refined.

Overall, I assess the course as effective in promoting academic English skills and active participation. For the next year, I plan to offer more scaffolded examples for APA-style writing and to provide clearer guidance before discussions. I aim to further balance challenge and accessibility so students can participate even more confidently.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies B2
授業コード	31B05-002
教員名	今井 祥子
教員コード	105209
登録人数	25
回答数	23
回答率	92.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

First, I would like to thank the students who participated in the course evaluation survey.

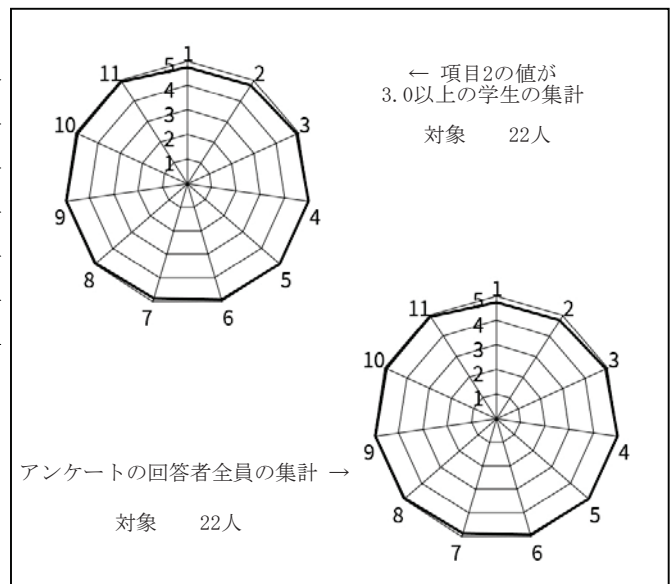
The course, titled "Cultural Geography and American Studies: New York City's Twin Towers," was offered as part of "Special Topics in English: International Studies." The course focused on the World Trade Center buildings in New York City to explore American society and culture. The seminar format involved examining various texts in English and applying American studies and cultural geography methodologies to study specific phenomena. I adjusted the pace based on student feedback, and I feel the learning objectives were mostly achieved.

The students took class participation very seriously. I tried to create an environment where it was easy to give presentations and make comments, and I was relieved to see this reflected in their written feedback.

For future improvement, I learned that students desire more presentation and group discussion opportunities, so I intend to provide more of these. Thank you very much.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture E1
授業コード	31C10-001
教員名	今井 隆夫
教員コード	104239
登録人数	28
回答数	22
回答率	78.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

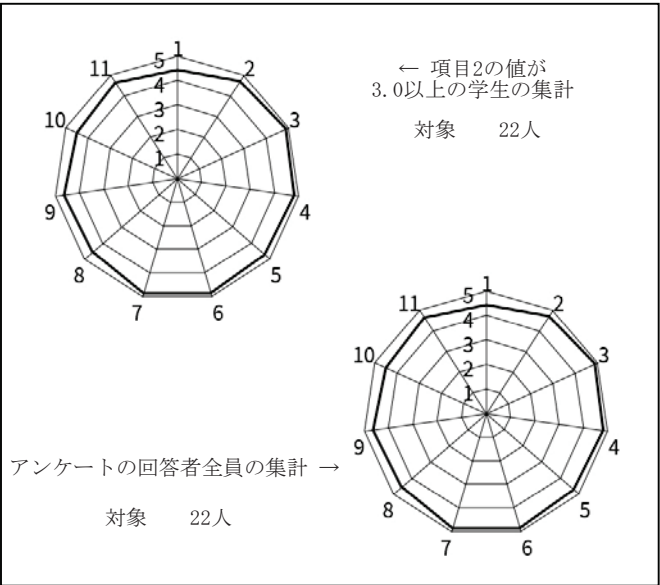


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業は、高校までの英語教育では学ぶ機会が十分とは言えないBICS(Basic Interpersonal Communication Skills) にフォーカスし、アメリカのESLドラマ教材を用い、母語話者が使用する英語表現を学ぶこと、それらの表現を感覚英文法と認知言語学の視点から考察する授業を体験することで、実際の英語の教え方も学ぶという目的で行った。学生のアンケート結果と実際に授業を行った感触から、開講当初に設定していた目標と到達の程度については、十分に達成できたと考えられる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。各アンケート項目の数値データは、4.73～5.00の範囲にあり大変高く、全体としても満足度も4.95であった。自由記述からも、①の目標が十分達成できたことがわかる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについては、現状を維持し、部分的には、さらに充実した内容に改良を重ねていきたいと思います。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language B2<国際科目群> (英米学科生用)
授業コード	31C12-903
教員名	RYAN, Anthony
教員コード	104650
登録人数	24
回答数	22
回答率	91.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

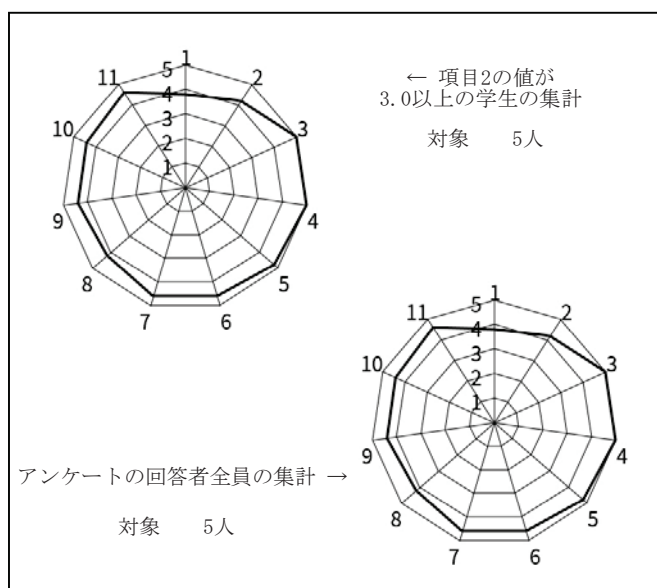


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) At the outset of the course, six learning goals were established, focusing on students' understanding of transactional and interactional dialogue, recognition of casual conversation as a genre, identification of its Generic Structure Potential (GSP), and the ability to analyze and compare their own BEFORE and AFTER conversations. Based on classroom performance, submitted analyses, and final reflections, these goals were largely achieved. Students demonstrated increasing accuracy in distinguishing transactional and interactional discourse and were able to apply discourse and genre frameworks to their own spoken data. The comparative analysis task, in particular, revealed measurable growth in structural awareness and critical reflection. (2) The numerical survey data (N=22) indicate a highly positive evaluation of the course. Scores were consistently high across all items (4.41- 4.86/5.0). Students reported strong engagement (Q2 = 4.73), clear alignment with the syllabus (Q3 = 4.86; Q4 = 4.82), appropriate pacing (Q5 = 4.73), and effective instructional design (Q6 = 4.86). The score for perceived achievement of course objectives (Q10 = 4.50) suggests substantial, though not complete, confidence in skill attainment. Overall satisfaction was high (Q11 = 4.64). (3) Moving forward, I aim to further scaffold the self-analysis component to strengthen students' confidence in achieving the stated objectives. I will provide additional modeling of analytical procedures and structured reflection prompts. I also intend to increase guided consultation opportunities to enhance perceived support and maximize learning gains in the next semester.

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies C1<国際科目群> (英米学科生用)
授業コード	31C18-901
教員名	森山 貴仁
教員コード	104589
登録人数	20
回答数	5
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

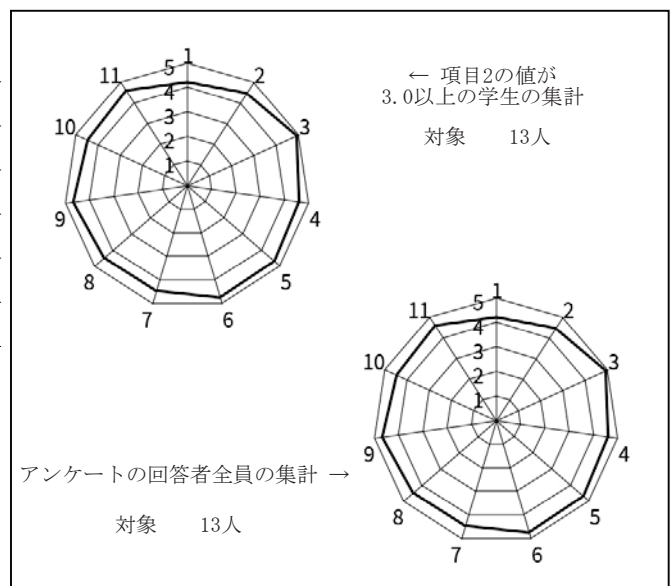
このSpecial Topics in English: Interdisciplinary Studies C1では、アメリカ社会を知る上で重要なテーマを設定して、それらを扱う映像作品を鑑賞したのち、学生と教員の間で議論をするという方法をとった。これによってオーラルコミュニケーションの向上を目指したが、約20人の受講生のうち、ほぼ全員が毎週必ず自主的に発言しており、クォーター全体にわたって活発な参加が見られた。英語を母語としない場合、言語能力が十分にあっても人前での発言には躊躇してしまう日本人学生は少なくないが、この授業をとおして英語のオーラルコミュニケーションに積極的な姿勢を持てるようになった点については、かなり満足のいく結果だったといえる。全体としての学生の満足度も高いようで何よりである。

特に、教員に対して学生が答えるのではなく、学生同士のやりとりが活発だった。議論のなかで学生が問題提起をし、それに対して他の学生が自発的に答えることがあり、教員の介在が少ないディスカッションが自然な形で展開された。

ただし、ディスカッションにうまく参加できないという学生も散見された。そうした学生をうまく巻き込む工夫を今後も考えて、授業の質を高めたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies D3<国際科目群> (英米学科生用)
授業コード	31C19-905
教員名	大井 由紀
教員コード	101888
登録人数	21
回答数	13
回答率	61.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は

By the end of the course, you will:

- 1.) understand important migration issues in the United States.
- 2.) be able to compare migration issues and policies of the United States with other countries.

の2点でした。

毎回議論と発表を行うことで、両者について理解を深められたと思います。しかし、期末テストの結果へそれが反映されていたかという点、落差がありました。

質問項目1と2は、学生さんの「自己評価」に類するものであり、「授業評価」に分類されることに違和感を感じます。

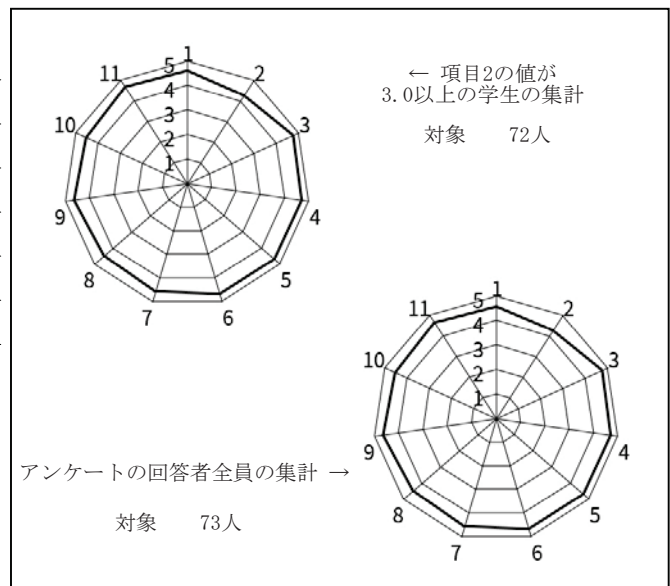
また、学生さんがどれくらい予習復習をしたのか、を今後の講義改善にどのように役立てていくの正直かわかりかねております。

予習・復習は予習・復習は、学生さんの自主性と判断に委ねられるべきことであり、もしその時間を増やすよう教員は促さなければならないということであれば、管理教育になってしまうと思います。

大学として、どのような意図でこの質問を設定されているのていしまうのではないかと思います。またなぜこうした質問が「授業評価」に分類されるのか、ご教示いただきたくお願い致します。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	異文化コミュニケーション
授業コード	31E11-001
教員名	花木 亨
教員コード	101269
登録人数	149
回答数	73
回答率	49.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、日常生活の中で自分が経験している異文化コミュニケーション現象を認識できるようになること、自分が経験した異文化コミュニケーション現象を分析できるようになること、異文化コミュニケーションについての知的関心と思考を深めることを目標とした。

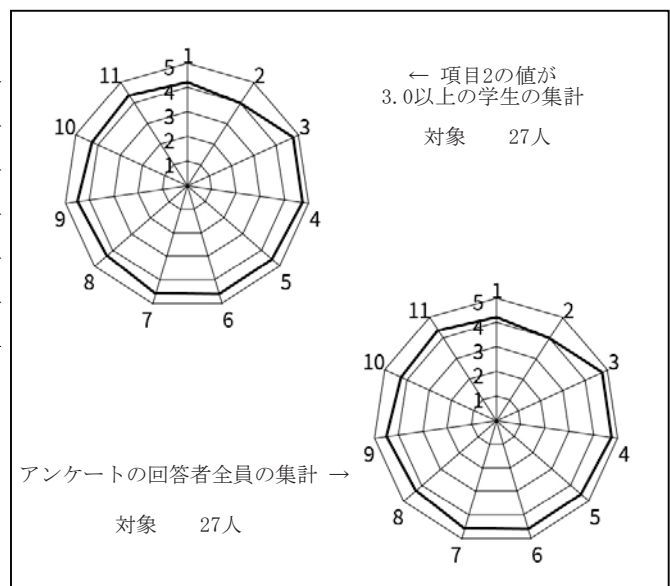
項目3から11の平均値は4.64だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.46を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるように努力したい。

自由記述欄を読むと、説明がわかりやすかったこと、スライドがわかりやすかったこと、リアクションペーパーをとおして学生たちの意見に耳を傾けたこと、リアクションペーパーに書かれた意見を匿名で紹介したこと、それらの意見に丁寧に応答したことなどが好意的に評価されたようだ。その一方で、学生たちの意見を紹介する時間が長すぎるという意見もあった。これらの意見を踏まえつつ、さらに多くの学生たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が比較的多い授業だったが、リアクションペーパーに書かれた意見を紹介したり、それらの意見に応答したりすることによって、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生たちの主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英文法論
授業コード	31E16-001
教員名	鈴木 達也
教員コード	017871
登録人数	34
回答数	27
回答率	79.4%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



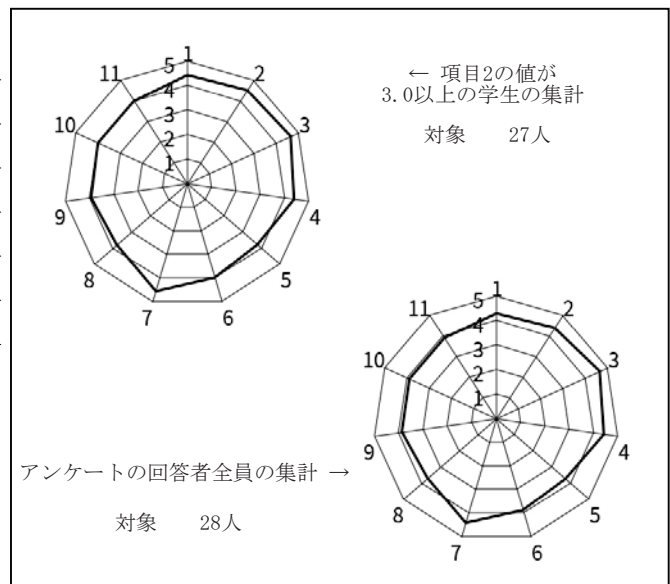
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、これまで継続していた国際科目群の指定を外し、初めて日本語で授業を行った。理由は二つあり、授業内容の難しさから、過去の授業評価において日本語での講義を望む声が上がっていたことと、ここ数年間の期末試験の結果が物足りない状況が続いており、到達目標の達成度の観点から言語を日本語に切り替えることによって授業の理解度が高まるのではないかと考えたからであった。授業評価の数字を見る限り、すべての項目で4.0を超えており、授業の満足後も4.37となっていることから授業としてはまずまずの出来であると考えているが、日本語に切り替えたことで質の向上が見られたかどうかという点については、必ずしもはっきりしていない。期末試験の結果を見ても、平均点は僅かではあるがむしろ下がっている。果たして言語による障壁があるのかどうかについては、もう少し様子を見る必要があると考える。

本講義では復習のために授業内容に則した自習用の小テストをWebClassで提供しており、簡単な解説も付けているのであるが、実行状況を見ると、残念ながら実行者数は期末試験直前までかなり少数となっている。今回の評価の中で、予習・復習を含めて主体的に授業に参加したかどうかを問う項目2が最も低い評価（4.0）となっていたことから、次年度に向けての課題は、如何に受講生に予習・復習の習慣をつけてもらい、授業の理解度を高めるかということになるかと考えている。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VI[FS]1
授業コード 11D06-001
教員名 松井 さなえ
教員コード 104963
登録人数 34
回答数 28
回答率 82.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講当初の目標は、スペイン語の文法の基礎である点過去、線過去、未来形などの動詞の活用を身につけること、基本的な文を自分の力で作る能力を身につけることであった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

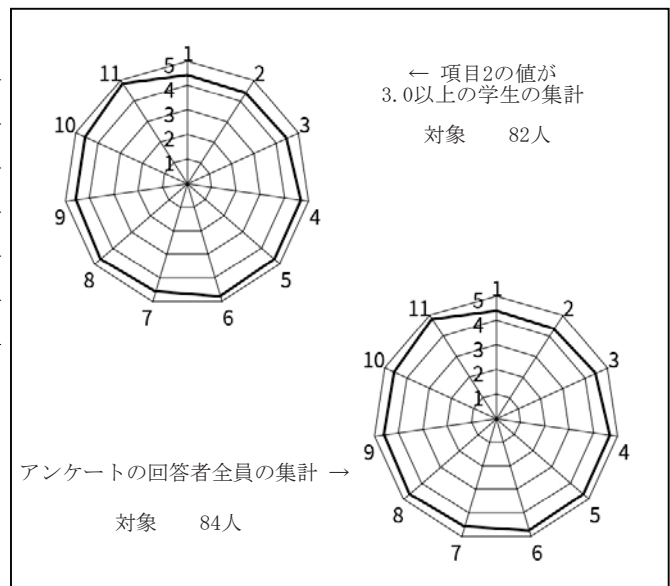
授業内では多くの動詞の活用を覚えることが求められるため、評価対象であった第3クォーターでは、授業内に教員が問題を出題し何度も練習するという方法をとった。この方法では使用している教科書の活用を復習することができるが、受講生が自発的にスペイン語で発言をする機会を設けた方が実際には定着がしやすいように感じた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

②の自己評価を踏まえ、第4クォーターからは受講生が自発的にスペイン語で発信をする機会を大幅に増やした。それにより、受講生のモチベーションや興味関心が上がり、期末試験等の結果もそれが反映されたと考えている。今後もこの方針を継続したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ヨーロッパとの出会い7
授業コード 13B04-007
教員名 小阪 知弘
教員コード 103689
登録人数 150
回答数 84
回答率 56.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度についてであるが、設定していた講義内容を全て扱い、90%の学生が最後まで熱心に出席してくれたことを考慮すれば、目標と到達の程度は双方とも達成できたと判断している。②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価に関しては、最高点が4.82点、最低点が4.35点と全ての評価が4.0以上を獲得していることを踏まえて、総合的にうまく講義運営をおこなうことができたと見做している。自由記述については、「言葉による説明に加え映像を見せてくださったので内容をより理解する手助けとなった」という記述に代表されるように、概ね、好意的な記述が多かった。出席に関しては、口頭で全員の名前を読むスタイルで統一しているため、今後も全員の名前を読んで、出欠の確認をおこなう予定である。③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などに関してであるが、黒板の記述が見にくかったという指摘があったため、この指摘を深く受け止め、来年度からは、思考の流れを重視した、わかりやすい板書きを試み、研鑽を積んでいく所存である。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	上級スペイン語IC1
授業コード	32A22-001
教員名	ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue
教員コード	103464
登録人数	20
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

当初に設定していた目標は概ね達成できたと考えている。学生はスペイン語を通してスペイン語圏の社会事情を理解することができただけでなく、卒業論文のテーマや課題の設定につながる視点を得ることができた講義であったと評価している。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえた担当科目に関する総合的な自己点検・評価

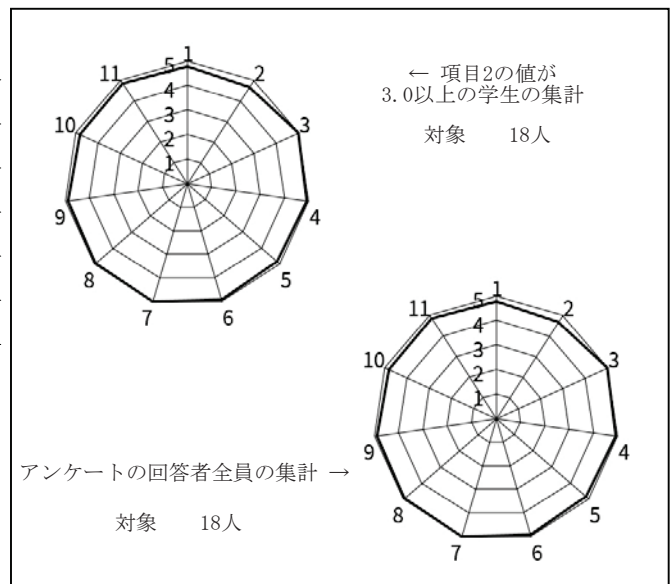
自己点検および評価としては、今後も学生とのコミュニケーションを最優先とし、講義の進度や難易度を適切に調整しながら授業を進めていきたいと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負・方針など

上記でも述べたとおり、学生との意見交換を重視し、フィードバックの在り方について改めて検討していきたい。今後も学生とのコミュニケーションを大切にした授業運営を行っていきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカ史A
授業コード 32C20-001
教員名 牛田 千鶴
教員コード 100657
登録人数 28
回答数 18
回答率 64.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「ラテンアメリカ史A」開講にあたり、シラバスに掲げた到達目標は、以下の2点であった。

1. ラテンアメリカ史の概要が理解できている。
2. 歴史を学ぶことを通じ、今日のラテンアメリカの政治・経済状況や社会的特色、国際関係の下での課題等についての的確に認識できている。

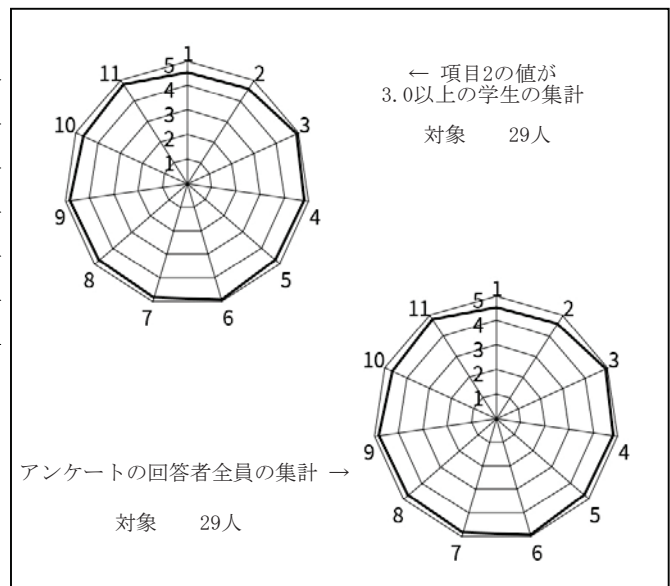
前半の授業では、古代文明に始まり、植民地時代・独立期を経て今日に至るまでの歴史を、その時々国際情勢を踏まえながら紐解いていった。1950～80年代を扱った回においては、「冷戦と南北問題」、「国連開発の10年」、「近代化論と従属論」、「解放の神学」等の解説を加えつつ、当時のラテンアメリカにおける変革のうねりに関する理解を深める一助とした。

ラテンアメリカ史の概要が把握できたところで、後半の授業では、2～3名のグループで1～2カ国を担当し、「各国史」を中心とする発表の機会とした。学生たちが準備してきた資料のクォリティの高さにも驚かされたが、互いに刺激を与え合いながら学びを深化させていく様子は、まさに前半の授業で紹介したパウロ・フレイレの教育理論の実践であるとも感じられた。

授業評価結果を見る限り、学生たちの満足度も高かったことが窺われ、喜ばしく感じている。自由記載欄にも、アクティブラーニングに関する積極的な評価が散見され、主体的な学びを学生たち自身が楽しんでいることが伝わってきた。最後に、毎回の授業が担当者自身にとっても、なんとも充実したひと時であったことを申し添え、学生たちに改めて感謝する次第である。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	フランス語V[FF]1
授業コード	11B05-003
教員名	茂木 良治
教員コード	102698
登録人数	32
回答数	29
回答率	90.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

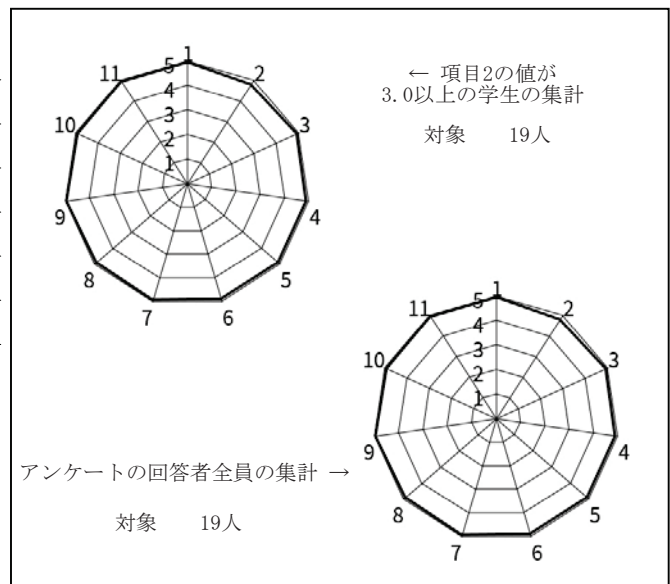


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Pilote1という教科書を使用して、予定していた25課～33課を終わらせ、当初設定していた授業目標は達成できたと考える。学生たちはフランス語初級文法を学習し、この授業を通して基礎的な力の定着を特に図った。授業進捗については、設問6「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」で4.93点と高い数値を得られていた。また、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」で4.79点であり、授業全体で満足度が高いといえる。設問3～11の平均点が4.80点と高得点であることから、適切な授業運営だったことがうかがえる。自由記述欄の良かった点として、「小テストが毎回あるのとその小テストが応用なのでより勉強頑張ろうと思えた。また、動詞活用 of オーラルでわからないところがあったら先生が教えてくれた。いつも盛り上がる授業で、私たちを楽しませてくれて毎回の授業が楽しみでした！！」「フランス語の文法についてたくさん学んで、いろんな表現ができるようになった点。先生の説明がとてもわかりやすかった点」とあるように、解説の内容および手法について肯定的な記述が多数見られた。否定的な意見は見られなかったが、グループワークの実施などより学生間の活動を積極的に取り入れて、引き続き授業改善に努めたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	フランス語コミュニケーションの基礎 III1
授業コード	33A02-001
教員名	COURRON, David
教員コード	019026
登録人数	21
回答数	19
回答率	90.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students practice French reading through both oral and written exercises, with a particular attention given to spelling, pronunciation, intonation and acquisition of phonological patterns.

2. Degree of achievement of initial course objectives

This quarter, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above, so that most of them acquired a real autonomy in reading French. Many valued the fair balance between explanations and practical activities which led to learn also what was not in the textbook and the frequent chances they were granted to study repeatedly through homework.

3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I think I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will therefore do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated my openness to answer questions, the pace of each lesson as well as the strengthening of their vocabulary knowledge. The content of each class was carefully mentioned on my website allowing the students to prepare in advance alongside extra learning materials (French songs links on YouTube and their lyrics) which contributed to raise the overall interest into this course topic and goals.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語IIB2
授業コード	33A15-002
教員名	REBOLLAR, Patrick
教員コード	100084
登録人数	20
回答数	4
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is linked to the other courses in the second-year program and the lessons in the textbook. At the beginning of the third Quarter, it permits a review of previous lessons, previously studied with another teacher.

Thanks to this guidance, if well understood by the students, their work consists of understanding the texts and audio materials in order to express themselves on the topics covered in the lessons. The use of current online resources further demonstrates the possibilities for verification and reuse.

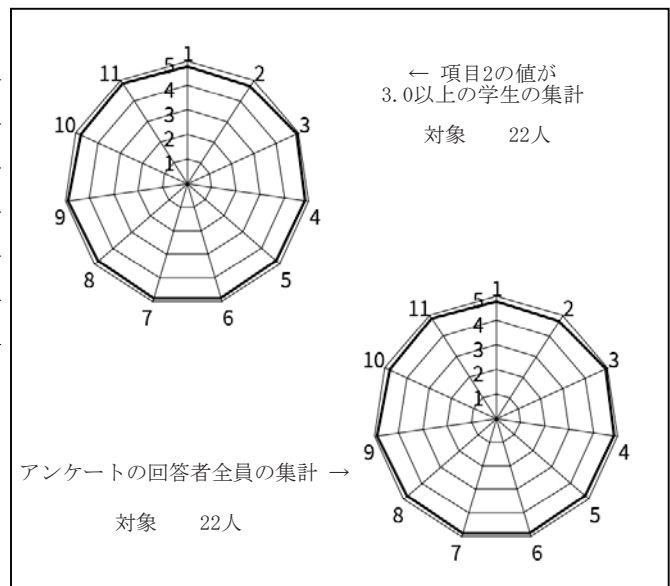
However, I maintain high standards for grammar, and especially for its phonetic aspects. I emphasize vocabulary, conjugations, and pronunciation every week. Weekly dictations provide a specific learning objective. They also reinforce the importance of listening to the preparatory materials.

After completing the exercises at home, students must answer the questions individually at the beginning of each class. They must also learn to conduct research in French, whether in a dictionary or on the web.

They understood that the assessment system is not punitive but motivating. Indeed, it was necessary to show them that mistakes made are not personal failures, but rather help them better retain the answers. Given the importance placed on written work throughout the courses, I always strive to give students more confidence in their own listening and oral expression.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語文法II2
授業コード	33A18-002
教員名	小林 純子
教員コード	102488
登録人数	29
回答数	22
回答率	75.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

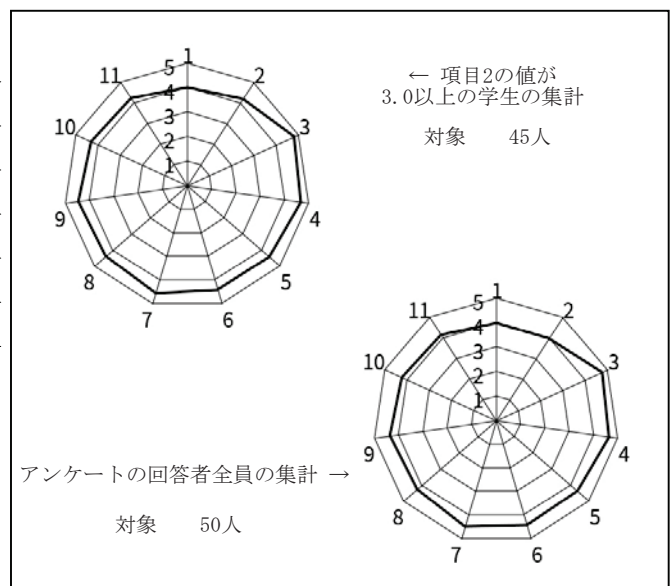
この授業は目標と到達の程度として、「フランス語文法の用法を理解している」、「平易なフランス語の会話を聞き取ることができる」、「平易なフランス語の表現を文脈に応じて適切に使うことができる」の3つを設定した。

数値データをみると目標をおおむね達成できたと考えられる。自由記述をみると、話すことに重点をおいた活動の内容、さまざまな活動の区切り方、そのバランス、教材や説明のわかりやすさが評価されていることがわかる。いっぽう、授業の構成、進行速度の適切さや、理解度への配慮には改善の余地を残していると考えられる。またロールプレイを利用した練習では、その方法や時間配分に工夫が必要であることがわかった。

以上をふまえた次クォーター以降の抱負として、既存のアクティビティの内容、教材、説明の方法を維持しつつ、時間配分と実施方法の確認、理解度のチェックや質問の機会をさらに増やして進行速度を調整するよう心がけたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ研究の基礎（歴史・社会）
授業コード 34A08-001
教員名 中屋 宏隆
教員コード 102885
登録人数 52
回答数 50
回答率 96.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

講義では、ドイツ社会・文化についての基本的なテーマについて解説し、学生の基礎知識の定着を図った。一部の学生には難解に感じる点もあったようだが、学生の満足度は比較的高かったことから、ある程度こちらの意図している到達目標には達したといえる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

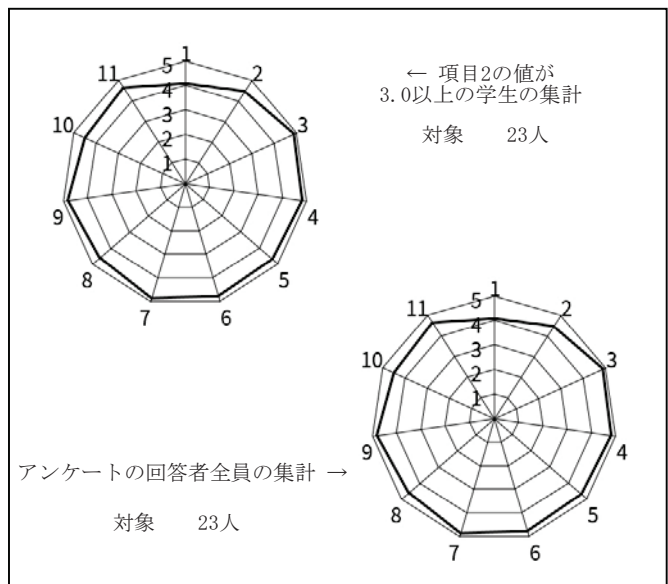
アンケート数値が最も低い3.98が二項目あった。その項目が「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」であるが、前者に関しては改善方法は見当たらないが、後者に関しては主体性を促す方法などを使い改善の余地はある。来年度の課題としたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

②以外の点では、課題が多く負担が大きかったと感じた学生もいたようなので、その点は少し負担軽減策などは検討していきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語翻訳法
授業コード 34A21-001
教員名 齋藤 敬之
教員コード 104487
登録人数 28
回答数 23
回答率 82.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



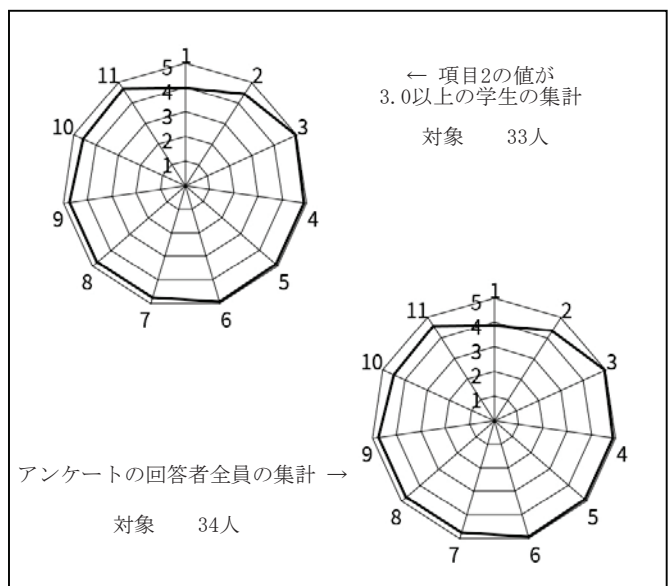
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目が称する「翻訳法」について、授業内容は「ドイツ語から日本語への翻訳」を中心に構成したが、シラバスではそれを明示していなかった。また、「機械翻訳も適宜取り入れる」とは説明していたものの、その方法を学生はイメージをしづらかった可能性がある。こうした理由から授業内容への興味に関する設問の評価が伸びなかったと考えられる（設問1）。以上の点はシラバスや初回授業の導入でより明確に提示するよう改善したい。

また本科目では、3年次以上の学生が履修することに鑑みて難易度の高い教材を用いた分、ポイントや注意点の説明に時間を割いたり補足となる課題を出すよう心がけた。こうした取り組みもあり、授業の進捗や内容についてはおおむね好意的な評価が得られた（設問5・設問6・設問8・設問9）。全体として教員の姿勢や授業運営について好意的な評価を得られたと思われる（設問12）。本科目で実践した取り組みは学生の理解度やモチベーションの向上を意図したものであったが、今回の評価に鑑みてこちらの意図が実現できたと判断しているため、今後も継続したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語圏の文化・芸術
授業コード 34A28-001
教員名 畑野 小百合
教員コード 104422
登録人数 57
回答数 34
回答率 59.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス記載の通り、この授業は

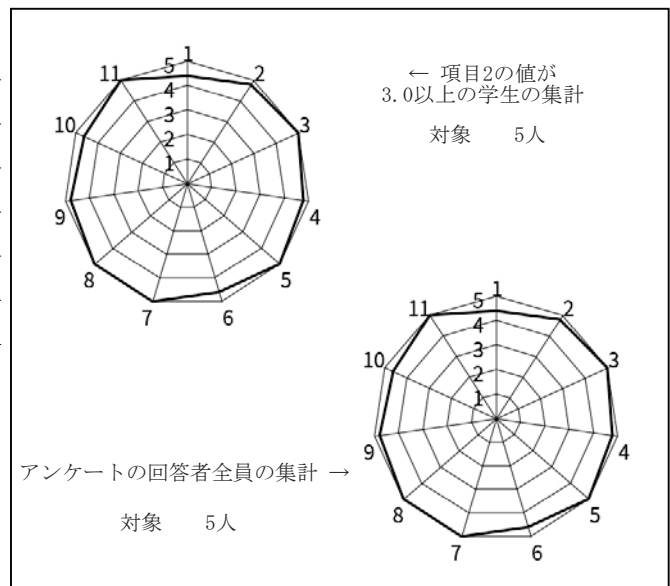
- ・音楽史的文脈の中で、あるいはそれぞれのジャンル史の枠組みの中で、作品を評価することができる。
- ・19世紀後半のドイツ語圏の音楽生活について具体的なイメージをもっている。
- ・音楽（史）研究が、それが生み出された社会の状況や書き手が継承する伝統や文化を反映していることを理解している。

の3点を目標としていました。授業ではブラームスのさまざまな作品を扱うことができ、19世紀の後半のドイツ語圏の音楽をめぐる状況や彼を評価する視点についても様々な側面からお話できたので、上記の目的は概ね達成されたかと思います。また、実演に触れてもらう機会を設けられたことも良かったと考えています。

アンケートの数値および自由記述から、授業を通して履修者の皆さんのドイツ芸術に対する関心が高まったこと、授業内容に概ね満足していただけたことが感じられ、安堵しています。ブラームス作品を歌う合唱の授業や、他のドイツ語圏の作曲家の音楽を紹介できる科目との連携をより充実させて、学生の皆さんがドイツ語圏の文化・芸術への理解を深められる機会を増やしていきたいと考えています。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語通訳法
授業コード 34D08-001
教員名 太田 達也
教員コード 101967
登録人数 5
回答数 5
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

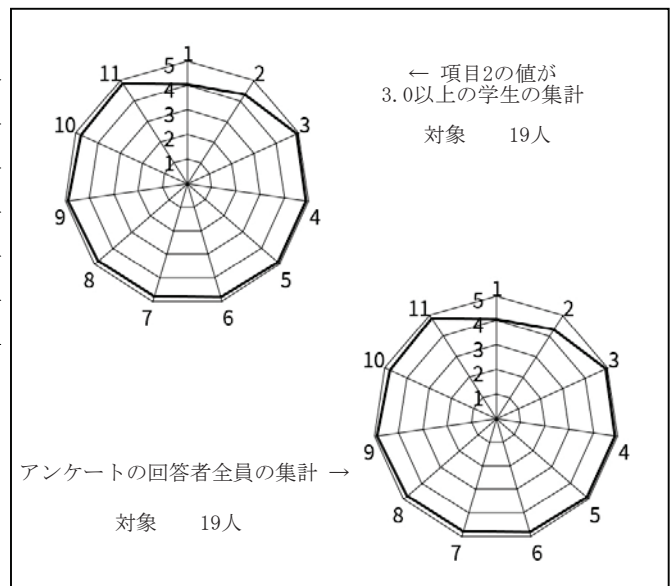


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、ドイツ語から日本語、および日本語からドイツ語への簡単な逐次通訳ができるようになるためのトレーニングを行う内容で、B1合格相当のドイツ語力を持っていることを前提としていたが、実際の受講者の言語レベルにはかなりの幅があったため、どの受講者もモチベーションを持って取り組めるよう配慮しつつ授業を行った。設問3, 5, 7, 8, 11において5.00という高評価が得られたことから、全体として高い満足度を感じられたようだ。学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すことに重きを置いたが、これらの設問における評価が高かったことを見ると、概ね意図は実現されたようである。また、設問2, 4, 9でも4.80という評価が得られ、受講者自身も主体的に授業に参加することができたようで、その点も喜ばしく思う。最も評価の低かった設問10でも4.60であり、これについてもある程度はうまくいったのではないと思う。自由回答には、「ドイツ語で自分の意見を考えて発話する機会が得られたこと。」「たくさんコミュニケーションが取れた。授業内で考える時間がたくさんあり、自分の成長を感じられる瞬間がたくさんあった。」といった回答が寄せられた。当初設定した目標の実現と到達の程度については、良好であったと考えてよいだろう。今後も学生が意欲的・主体的に参加できるような授業を工夫して作り上げていきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 歴史の諸相1
授業コード 13B06-001
教員名 宮原 佳昭
教員コード 102232
登録人数 28
回答数 19
回答率 67.9%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は次の3点である。①儒教の教義、およびその変遷を理解している。②東アジアにおける儒教の社会的位置づけ、およびその変遷を理解している。③儒教の世界観、儒教の歴史的意義および現代的意義について、各人がイメージを形成している。

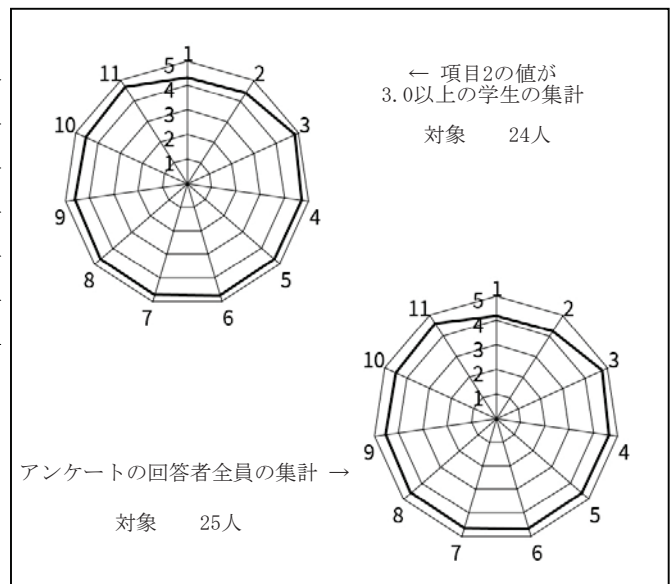
上記の目標を達成するため授業において工夫したことは、次の4点である。

①授業内容に関する文献資料および映像資料を活用して、学生のイメージ形成を促したこと。②過去の日本・中国について説明する際、現代の日本・中国の話題を例に挙げて、学生が親近感を持って理解できるようにしたこと。③WebClassに匿名の掲示板を設け、授業に関する質問をいつでも自由に書き込めるようにし、教員・学生の双方向の交流ができるようにしたこと。④毎回の授業の後半部に自由時間を設け、学生が授業の要点をまとめたり、教員に質問をしたりできるようにしたこと。以上4点は学生の自由記述欄でも好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

学生からの不満は自由記述欄には一つも寄せられていなかったが、教員自身が反省する点としては、学生に分かりやすく伝えようとする余り、適切ではない知識を話してしまい、次の授業で訂正する（＝授業では「後世には孔子・孟子が聖人視された」と話したが、孟子は聖人ではなく「亜聖」）という出来事が1件あったことである。授業全体の信頼性に関わるため、今後は気をつけた

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中国語II発音・聴力2
授業コード	35A02-002
教員名	鈴木 史己
教員コード	103651
登録人数	29
回答数	25
回答率	86.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本科目の目標は、日常生活で常用される中国語表現について聴いて話す練習を繰り返すことで、各シーンに即したコミュニケーションができる能力を養成することである。教員による説明は最小限にとどめ、受講生同士で中国語表現を確認しあったり、その表現を実際に使って情報交換をしたりするなど、受講生中心の授業構成になるよう心がけた。基本表現を何度も繰り返したことで定着度が高まり、中国語のみでのコミュニケーションを体験してもらうことができたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

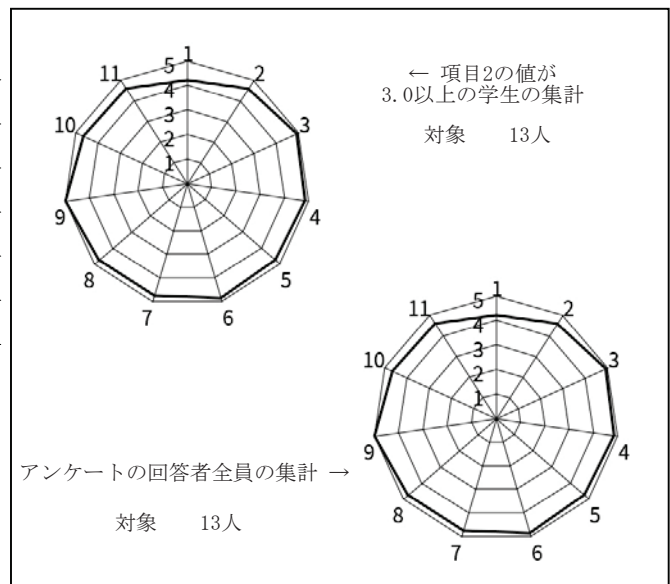
数値データはおおむね高い評価が得られ、自由記述でも肯定的なコメントが多い一方で、設問2・10が低めの評価になっている。このことから、受講生が自分のやるべきことを意識しつつも、それに時間をかけることができず、想定していたほどの実力がつかなかったと自己評価していることがうかがえる。授業中の活動と予習・復習のサイクルを、よりスムーズに連携させる補助が必要だと考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

引き続き、受講生主体の授業のあり方を模索したい。また、予習・授業・復習のサイクルをしっかりこなすことができるよう、課題のあり方や授業の進め方を改善したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II会話1
授業コード 35A12-001
教員名 張 玉玲
教員コード 101049
登録人数 15
回答数 13
回答率 86.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

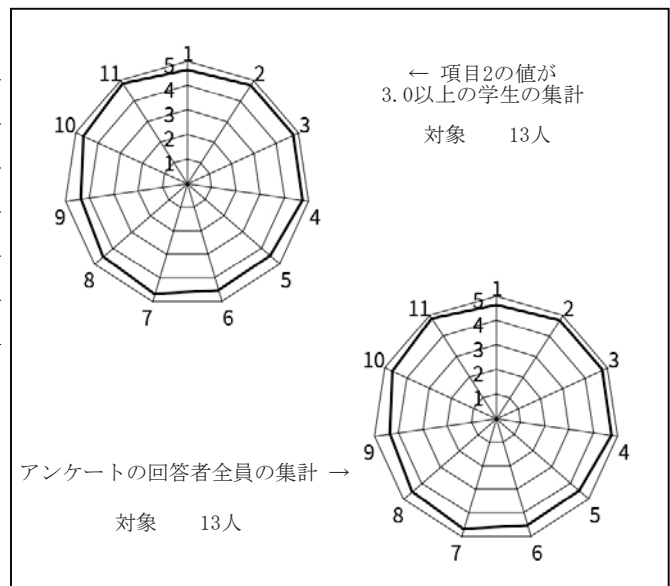


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業では、異文化間の対話や相互理解に資するコミュニケーション能力の習得、とりわけ中国語による情報収集や発信するための諸能力を身につけることを狙いとしており、口語表現を繰り返し練習することを通して会話の正確さと速度のいっそうの向上を目標としている。
- ②授業アンケートの数値データの自由記述を見る限り、開講当初の授業目標はおおむね達成しているように思われる。可能な限り中国語による授業運営を続け、受講生に中国語による会話をさせる機会を多く作ることで、コミュニケーション能力の向上を図ってきた取り組みが一定の成果を上げたと思われる。少人数ゆえに受講生一人ひとりの学習状況を把握し、それに合わせた指導方法を施すことがとても重要だと再確認できた。
- ③今後、受講生が自主的に学習する意欲をより一層高めるために、SNSなどのメディアの活用や、中華圏からの留学生や中国にルーツを持つ学生と日本語話者の受講生との交流を促進させるなど、さまざまな工夫を凝らしていくことを考えている。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中国語時事B
授業コード	35C09-001
教員名	江口 伸吾
教員コード	104423
登録人数	23
回答数	13
回答率	56.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

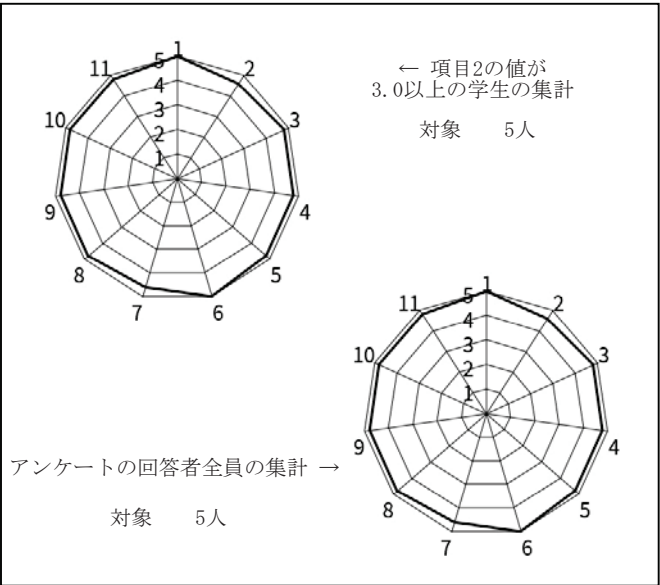
（１）本授業は、中国語の新聞記事をテキストとして、さまざまな形式の文章を精読することにより、①中国経済、中国社会、文化・生活などの各領域に関する語彙を増やし、読解力を高め、②現代中国の動向に関する理解を深めることができるようになることを目標とした。本授業を通して、開講当初の目標は、おおむね達成できたのではないかと判断している。

（２）数値データ、および自由記述をみる限り、本授業での受講生の理解度はおおむね良好であった。とくに授業では、現在の中国に関する中国国内外の中国語の新聞記事を取り上げることにより、中国語の読解力を高めると共に、中国経済、社会、文化、生活に関する知識の修得に尽力した。この結果、授業の良い点として、「中国語力を高められると共に、中国の経済や社会を知ることができ、とても力になった」「時事を学ぶので中国と世界の情勢を知ることができる非常に面白い授業であった」「先生の解説がわかりやすいので普段学ぶことがない領域でも自分の中で理解しやすい」といった意見が寄せられた。今後も、学生が現代の中国社会の動向に関心を持つように、現在起っている問題を積極的に紹介していきたい。

（３）改善が必要な点として、「予習の量が少し多いと感じた」といった意見も寄せられた。今後、新聞記事の読解の際、記事の内容についてより深い読解を進めることにより、予習の量を調整してまいりたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	上級インドネシア語会話B
授業コード	35D06-001
教員名	MANGGA, Stephanus
教員コード	103578
登録人数	6
回答数	5
回答率	83.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

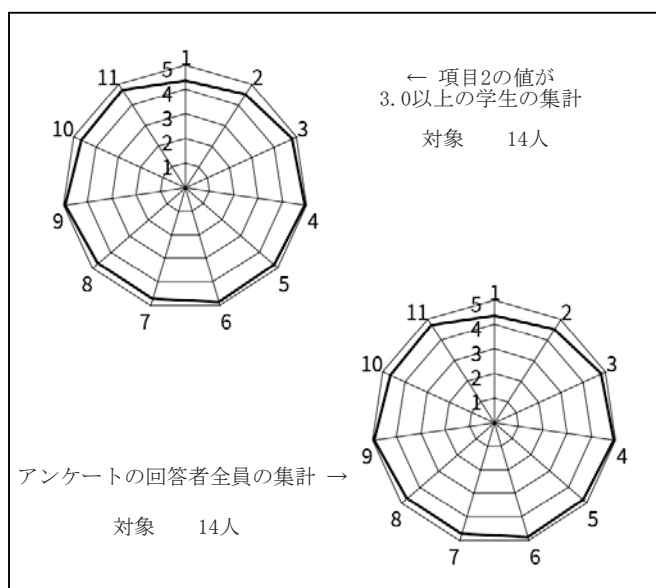


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業で達成すべき目標は「生徒は状況に応じて適切にコミュニケーションできるようになります」です。さらに、達成すべきもう一つの目標は「生徒は文脈に関連した物語を聞いて、それを再び語るできるようになります」です。学生の評価データと私自身の観察から、これらの目標は授業の過程で達成されました。これは、質問「授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか。」のスコア 4.80 からわかります。生徒数は少なかったものの、生徒たちは授業に積極的に参加し、プレゼンテーションの準備や質問への回答にも積極的に取り組んでいました。生徒たちは言語そのものを学ぶだけでなく、提供された教材を通してインドネシアの文化も学んでいると感じています。学生のアンケート回答からは、学習の向上を実感したことがわかります。「課題に対するフィードバックが提供され、自分の取り組みを振り返り、確認することができました」という学生の回答からもそれが明らかです。来年も同じ方法を適用しますが、もちろん生徒の状況と能力に合わせて修正を加えます。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 インドネシア言語研究
授業コード 35D13-001
教員名 稲垣 和也
教員コード 103887
登録人数 14
回答数 14
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初設定の目標と到達程度

(1) マレー／インドネシア語を分析することができる、(2) そのための方法論を身につけている、(3) 言語現象を問題化することができる、のいずれの設定目標についても部分的に到達した。

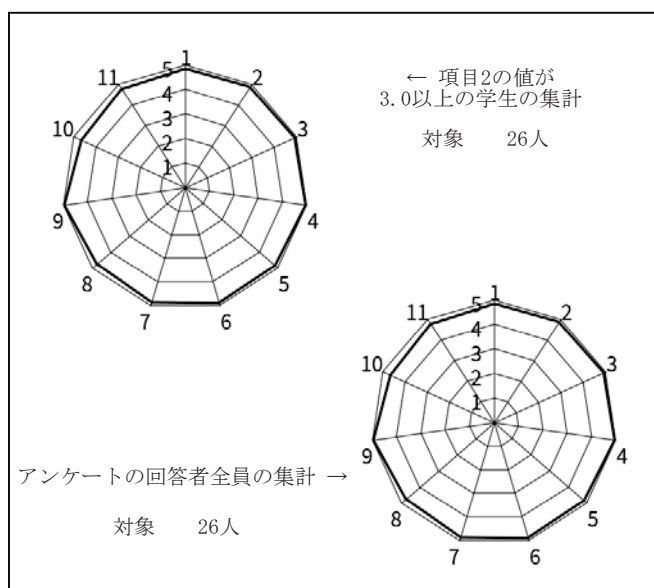
②数値データおよび自由記述等を踏まえた担当科目の総合的自己点検・評価
回答数／実質受講者数は14／14 (←2024年度6／8) だった。前節①の評価は、おおむね第10・11項の到達目標・満足度のスコア (各々4.64と4.71) に基づく。ただし、授業内容の専門性の高さからか、第1・2項を除くと第10項 (「力がついてきている」) が諸項目内で最低スコアとなった。2023・2024年度と比べると、項目1 (「興味をもっていた」) が4.36 (←2.67←3.37) と、ここ数年でもっとも高く、ともなって、項目2 (「理解する努力」) も4.50 (←3.83←4.21) と高い数値だった。2025年度の受講生の学習意欲の高さがうかがわれる。また、自由記述は、項目9の質問・相談機会に関連したものが4件あり、2024年度と同じく教員－学生間のやり取りに着目していることがうかがえる。項目13のおよび14における改善を要求する等の自由記述は無かった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

昨年度と同様、到達目標 (3) の、より主体的に現象を問題化できるよう、さらなる明解な解説を目指す。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A III7
授業コード 31A03-007
教員名 今井 理子
教員コード 105212
登録人数 26
回答数 26
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①今回の授業目標は、分かりやすく丁寧な指導、学生が英語で自信を持ってコミュニケーションできる環境の構築、教育という題目に関する理解の促進と、ライティング、スピーキングの課題を達成する事でした。

分かりやすい指導として、パワーポイントを利用しリスニングが苦手な学生でも学習内容が理解できるよう努め、重要点は何度も復唱し、授業後パワーポイントをWebClassに載せることで学生が授業内容を復習できるよう工夫しました。

英語でのコミュニケーションは発言しやすい雰囲気を作るよう、完璧を目指しすぎないことや失敗から学ぶことの大切さ、又授業中英語を話すことの重要性について話をしました。

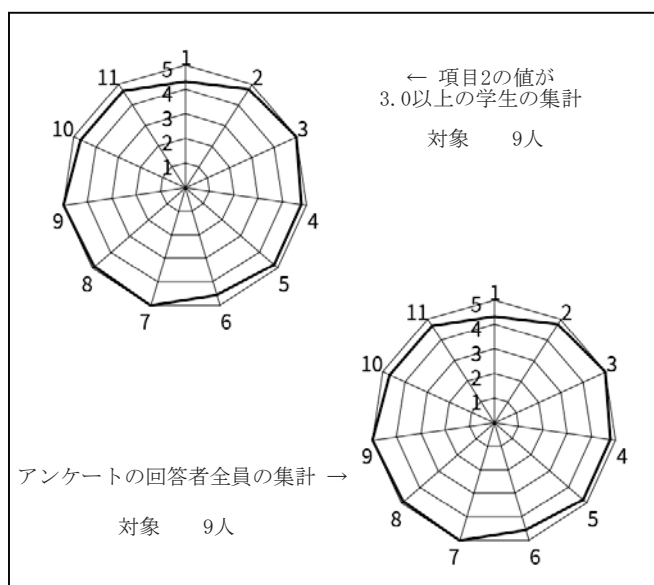
課題の達成はライティングは教科書の内容や自分で作成した論文の例を使用して構成について説明し、ゴールを明確にするよう努めました。スピーキングの課題は学生達にとって初めてのパネルディスカッションの課題だったので、進行方向と説明を工夫して流れを確認してから行うようにしました。

②時間配分や説明が分かりづらくなかったか等自分の中で反省点が多かったのですが、評価では分かりやすかった、発言しやすい雰囲気が作れていて発言に対する自信がついた、等、肯定的なコメントがあり、目標はある程度達成できていたと思います。来学期は学生のやる気をより引き出せるよう努力したいです。

③項目8と10の点数が低かったので、学生がより積極的に自分の意見を皆の前で発表できる環境作りと、学生自身が自分の成果に自信を持てるような指導に努めたいです。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society B
授業コード	31C02-001
教員名	MELUSKY, Benjamin Francis
教員コード	105217
登録人数	35
回答数	9
回答率	25.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

ナンゼン大学における第3クォーターの授業では、アメリカの政治制度に関する基礎的理解を育成するとともに、英語による読解・記述・発話といった実践的な言語運用能力を強化することを主な教育目標とした。授業を通じて、学生はアメリカの政治制度、憲法原理、政策決定過程に関する基本的内容に取り組み、日本の政治制度との比較事例も取り入れることで、馴染みの薄い概念を文脈の中で理解できるよう工夫した。このような比較的視点は、概念理解を深めることを目的としている。授業内容は、指導付きのクラス内ディスカッション、短いリフレクション・ライティング課題、ならびに到達度を測る評価を通じて定着を図った。

課題および試験における学生の成果や、授業内での発言の質を総合的に見ると、これらの学習目標は概ね達成されたと判断できる。また、授業の進行速度や説明の分かりやすさ、教材の難易度に関する学生からのフィードバックを継続的に収集した。それを踏まえ、ディスカッションの形式の調整、理解が難しい概念の再説明、重要用語に対する補足的な支援など、指導方法の改善を随時行った。これらの調整は、学生間の英語運用能力や事前知識の差に配慮し、より効果的な学習環境を整えることを目的としたものである。

次のクォーターに向けては、受講生の特性に応じた指導の工夫を継続し、英語理解を支援するため発話速度の調整を意識するとともに、スライド資料の文字サイズを拡大するなど、視認性の向上にも取り組む予定である。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture A2
授業コード	31C06-002
教員名	TOMKINSON, Fiona Gail
教員コード	104760
登録人数	5
回答数	2
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

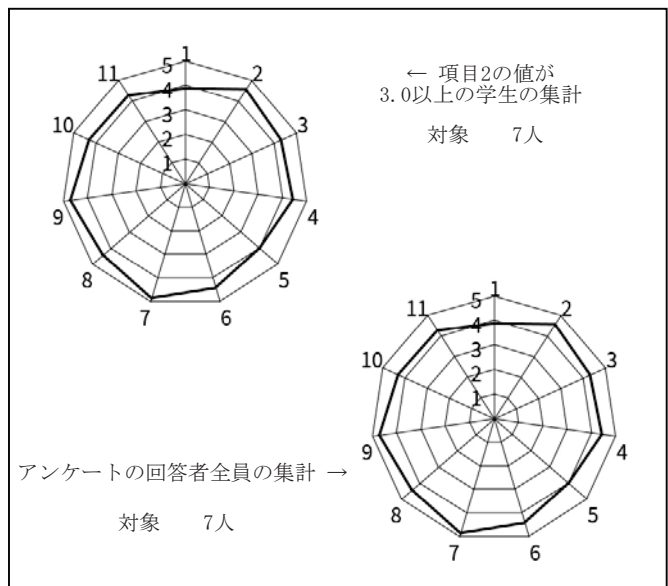
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

I think the course went well and that students achieved a good understanding of the play. The final projects gave quite sophisticated readings of 'Macbeth'. They also enjoyed the film versions.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 イギリスの社会
授業コード 31E07-001
教員名 松波 京子
教員コード 103864
登録人数 37
回答数 7
回答率 18.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

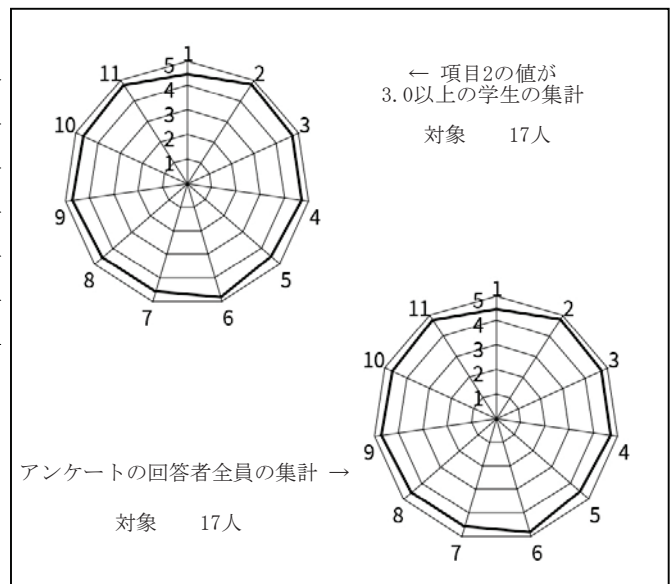
本アンケート以外にも、講義内でみなさんからコメントをいただきました。良かった点として、受講生に質問を投げかけることによって常に考えながら受講できたこと、また本講義では授業中の通信媒体の使用を原則として認めていませんでしたが、これにより「授業にとっても集中できた」と良かった点として複数人が挙げていたことが昨年に引き続きよかった点として複数人の方が挙げられていました。これ以外にも、穴埋め式のレジュメやパワーポイントを使用しての講義、毎回コメントを書いたことで書く力がついたこと、毎回提出したコメントに対する講評、また映像資料も用いながらイギリスの社会問題を扱ったことが挙げられていました。

改善点としては、特になしという方が多かったものの、もう少し質疑に対してのヒントなどが欲しい、授業のペース配分をもう少し検討して欲しい、との意見がありました。質疑応答の時間を増加することに関しては授業時間との兼ね合いでなかなか難しい点ではありますが、今後の検討課題とします。出席の確認の仕方については、全体としては緊張感をもって受講できた等の好意的評価もあったことも添えておきたいと思います。

今後も、学生にとって有意義な講義が少しでも行えるようにしていきたいと考えております。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語翻訳法
授業コード	31E23-001
教員名	豊福 恵
教員コード	105059
登録人数	24
回答数	17
回答率	70.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では「①翻訳例から様々な語彙・表現方法を学び、翻訳する際にその知識を使用、または活用することができるようになる」、「②翻訳の基礎を学び、技法や用語について説明することができるようになる」という2つの目標を設定した。

この目標を達成するにあたり、学生には毎週の宿題と毎回の授業内課題として様々な資料を実際に翻訳してもらった。それに対する解答解説を提示し、模擬解答例から翻訳の基礎や技能を学び、また自分の翻訳と比較することで良い点を活かし改善すべき点を見つけるよう促した。

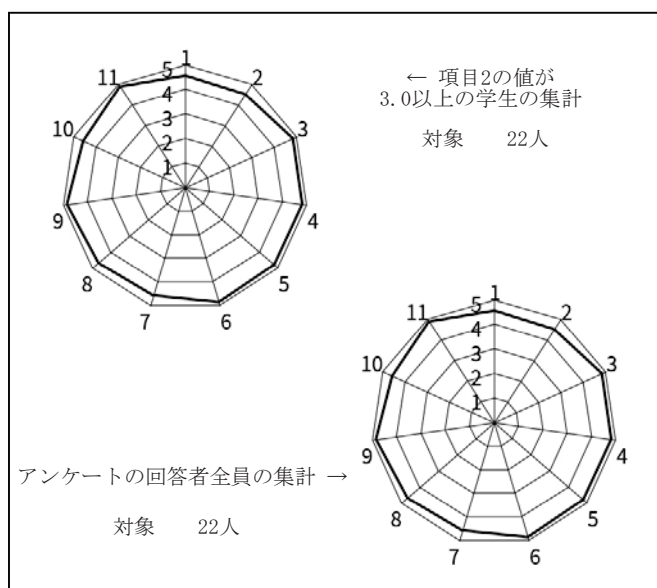
①については毎回のコメントシートの記述から学生が新たな知識を学んだことが見て取れ、また次回以降の宿題・課題に学んだ点を活かす学生もいたという点、②については主に定期試験で達成度を見たが、大半の学生が合格点を得られたという点から、両者ともに概ね達成できたものであると考える。

数値データについてはすべての項目で4.5点以上を得ることができたという点、また自由解答においては「専門的な学問を授業で段階を踏みながら学べた」「受講しなければ考えもしないような翻訳の技法や奥深さを学べた」といった意見から、授業内容が適切で学生の学習意欲や興味を満たすことができたと評価できるものとする。

今後の方針としては、配布資料やフィードバックに対して好意的な意見があったためこの点を活かしながら、今期の授業方法や内容の水準を上回るような授業を行っていきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIA1
授業コード 33A12-001
教員名 NISHINO, Aurelie
教員コード 103640
登録人数 24
回答数 22
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

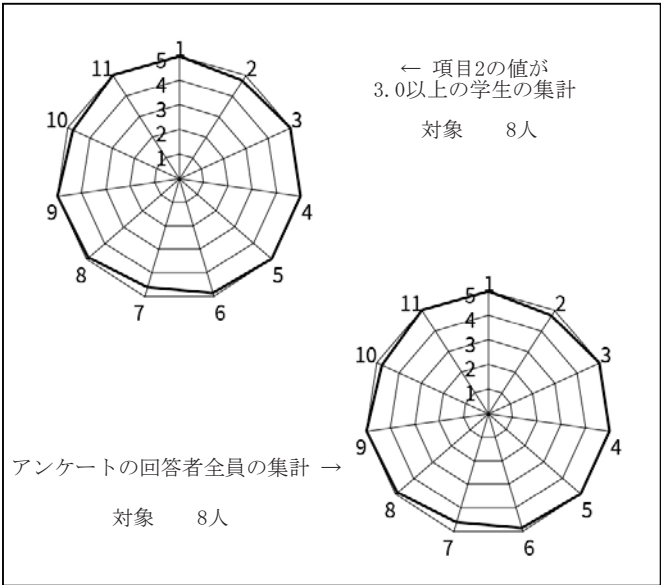


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals at the beginning of the quarter were to bring the students at an intermediate level in French through the method and our active lessons. The method was not easy but the students were really involved in the lesson and did their best to achieve the different goals of each lessons. Even in this particular situation, they were really active and it was lovely to teach to them. I also manage to teach them some cultural points in class which they seems to enjoy.
2. The class did well in the small presentations even if at the beginning it was kind of hard for them, at the end of the quarter, they knez how to do q better presentation.
3. For the next year, I will try my best in order to motivate the students on their journey on learning French. I will use this past year experience and re-use it to make it beneficial for the students and myself.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語IIB1
授業コード	33A15-001
教員名	VURPILLLOT, Xavier
教員コード	104503
登録人数	23
回答数	8
回答率	34.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) At the beginning of the course, the main goals were to develop students' communicative competence in French, reinforce grammar and vocabulary, and encourage active participation. Based on the results, these goals were largely achieved, as students reported clear progress and high satisfaction.
- (2) The numerical data show consistently high evaluations, especially regarding course organization, alignment with the syllabus, clarity of objectives, and overall satisfaction. Students also indicated active engagement and skill development. These results suggest that the teaching methods, materials, and classroom atmosphere were effective. A slightly lower score concerns classroom management, indicating some room for improvement.
- (3) For the next semester, I will maintain the strengths of the course while improving classroom management to ensure a more focused environment. I will also continue to promote active participation and provide guidance for independent study, while refining materials and activities.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	コミュニケーション特論C
授業コード	33C03-001
教員名	PIETERS, Corentin
教員コード	105069
登録人数	5
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、A2からB2レベルのフランス語能力の向上を目的として開講した。授業では、会話活動や映像資料を積極的に取り入れ、実践的な言語運用能力および異文化理解の促進を目指した。履修者数およびアンケート回答数が少ないため、十分な数値的分析は困難であるが、学生の受講態度や授業内での発言、反応などから判断すると、概ね当初の目標は達成されたと考えられる。特に、学生同士の対話活動においては積極的な参加が見られ、相互に学び合う姿勢が確認できた点は大きな成果である。一方で、レベル差への対応には改善の余地があると感じている。今後は、課題設定や活動内容をより工夫し、多様なレベルの学生に対応できる授業設計を行うことで、さらなる学習効果の向上を図りたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	フランス語実践演習A
授業コード	33C05-001
教員名	MORGAN, Simon
教員コード	104854
登録人数	6
回答数	1
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was the third time I was teaching this class and, according to the answers of the student who responded to the evaluation report (unfortunately I received only one answer), it was really satisfying. Though I understand that I should not put too much weight on the words of only one student – which may not be representative of the general appreciation of the class –, I do feel like I succeeded in improving the quality of the class in comparison to last year. The balance between Japanese and French made the class easily understandable even for the students with low listening abilities, while still being challenging for the students with a better level. If there is a point I would like to improve next year, it is the adjustment of the examination system in case of a bigger number of students. I have them doing a lot of presentations and I'm worried it might be difficult if more students join the class.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	フランス社会特殊講義B
授業コード	33C17-001
教員名	長谷川 一年
教員コード	103576
登録人数	46
回答数	4
回答率	8.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

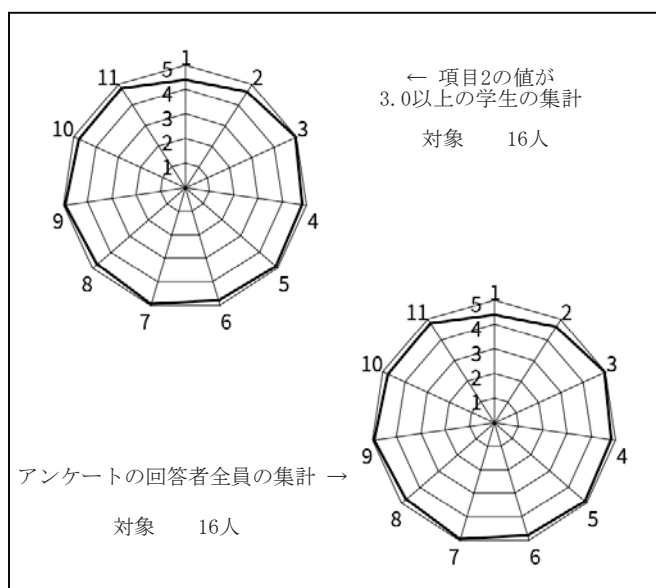
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標は、「近代から現代に至るフランス思想の流れを理解すること」および「思想の営みをその時代の政治・社会状況との関連で理解すること」の二点であった。授業はシラバスにしたがって、近代哲学の始祖デカルトに始まり、20世紀フランスのポストモダン思想まで予定どおり講義することができた。また、絶対王政からフランス革命、19世紀の諸革命、68年革命から冷戦にかけての政治状況についても、思想の展開と合わせて説明することができたので、授業の目標についてはおおむね達成されたものと考えている。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価については、回答母数が多くないため、正確なところは判然としないが、自由記述を参照するかぎりには、おおむね問題なく受講してもらえたものと理解している。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針については、上記②の評価を踏まえると、今年度の授業と同様の方針で進めてよいものと考えている。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 上級ドイツ語講読II
授業コード 34C08-001
教員名 KOCH, Michaela
教員コード 102724
登録人数 20
回答数 16
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は2つの学習目標があります：

- 言語に取り組む：ドイツ語のテキストに取り組むことで、語学力を向上させます。
- テーマに取り組む：テキストを通して、ドイツ、その社会、そして文化についてより深く学びます。

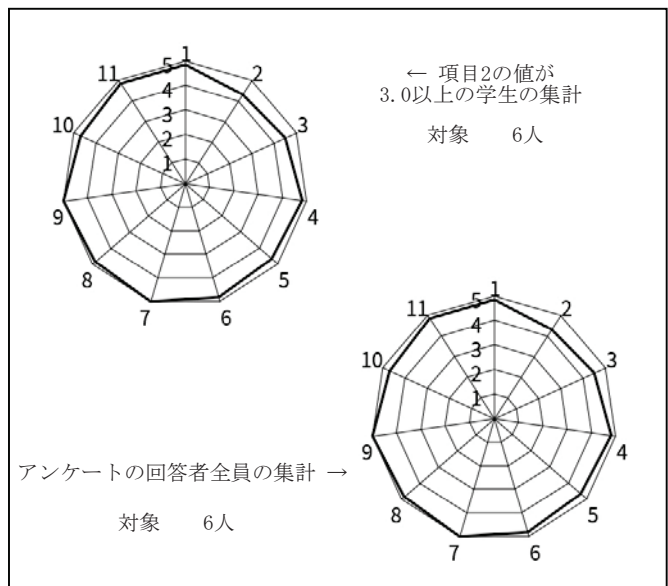
受講者は、ドイツの生活の様々な側面に関するテキストに取り組みます。自宅でこれらのテキストを分析し、一連の質問に答えます。その後、授業でグループに分かれてテキストについて話し合います。最終的に、各グループはそれぞれのテーマに関するテキストを作成します。

そのため、本授業では、ドイツやオーストリアで公的に認定されているドイツ語能力試験(Goethe-Zertifikat Deutsch / ö SD Zertifikat)の読解の課題を中心に、文章全体の構成や適切な表現を学び、多角的な視点から文章を考え、まとめる練習を行いました。ジャンル別に多様なタイプの文章を読んだり、書き分けることで表現力のレベルアップを目指しました。ヨーロッパ言語共通参照枠B1レベルの課題に取り組みました。

学生一人一人がフィードバックを受ける機会を十分に与えることができたと思います。学生から、授業のやり方や理解度について色々な高い満足度の（ポジティブな）コメントが寄せられ、安心しました。学生のモチベーションが高かったのも、教える側としても非常にやりやすく、やりがいのあるクラスでした。今後もこの授業スタイルを維持していきたいと考えています。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語II会話3
授業コード	35A12-003
教員名	趙 晴
教員コード	100960
登録人数	17
回答数	6
回答率	35.3%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートを見た限りでは講義の目標にほぼ達成したと思います。

専攻の学生なので、明るく真面目に勉強している学生が多く、講義は順調に進むことができます。また毎回小テストを行っていますが、それも毎回頑張っており込んでいました。注意する時も素直にアドバイスをきいてくれて、とてもよかったと思います。講義後自分で講義以外の資料を勉強して質問をしに来る学生もいて、たいへん嬉しく思います。

コメントについて「欠席過多の学生に対する対応が甘すぎると感じるがあった」という意見がありました。これに関しては本当に難しい問題です。体調がすぐれない場合は原則的配慮しますが、でもまわりの学生から見れば少しあまいかもしれませんね。何かいい方法があるかを考えてみます。ありがとうございました。

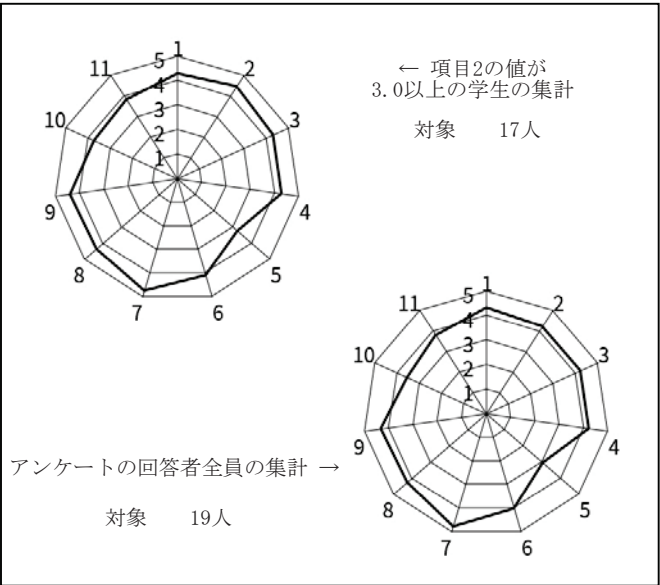
これから分かりやすく楽しく講義をやっていきたいと思います。

学生の皆さん、一緒に頑張りましょう。

学习是一件快乐的事情，大家一起加油吧！

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	タイの言語と社会
授業コード	35D14-001
教員名	加藤 久美子
教員コード	100483
登録人数	35
回答数	19
回答率	54.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	アジア文献講読B
授業コード	35D17-001
教員名	北野 浩章
教員コード	104302
登録人数	7
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、東南アジアを中心とする英語文献を読み、卒業論文などで英語文献を用いることができるようにすることを目標にしている。

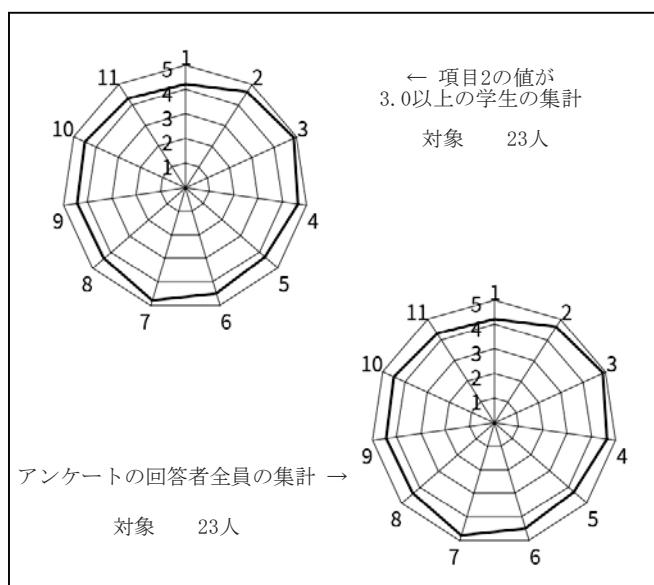
- (1) 東南アジアの歴史や文化などの基本事項を、英語を通じて理解する。
- (2) 今日の東南アジアの最新事情を知り、時事を語るための英語表現を習得するとともに、地域の現状を理解する。
- (3) このような練習を通じて、東南アジアに関する英語の基本文献を読解できるようになる。

今年度は、これまでも使っているテキスト（東南アジア入門 Southeast Asia: A very short introduction）を読むことにした。シラバスには、「授業1回あたり約2時間の授業時間外学修が必要となる。授業で読むテキストをしっかりと予習すること。」と書いたが、現実にはこれはできなかった。予習をしてきている者は非常に稀で、さらに、遅刻が頻発した。受講者に私から質問を投げかけるかたちで進めていったが、予習ができていないため、数十分間、静かに予習をさせてから授業を始める、ということまでした。

- ①については、上に述べたように不満の残る結果となった。
- ②「担当科目に関する総合的な自己点検・評価」については、受講の状況から、不甲斐ない結果になったと感じている。
- ③今年度で担当を終えたため、なし。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A IV6
授業コード 31A04-006
教員名 HOWE, Bradley Guy
教員コード 105148
登録人数 26
回答数 23
回答率 88.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals at the start of the course included:

- to participate in formal and informal discussions in English
- to think critically on the unit topics and acquire academic vocabulary
- to acquire and conduct basic academic research skills
- to create academic papers formatted in APA7

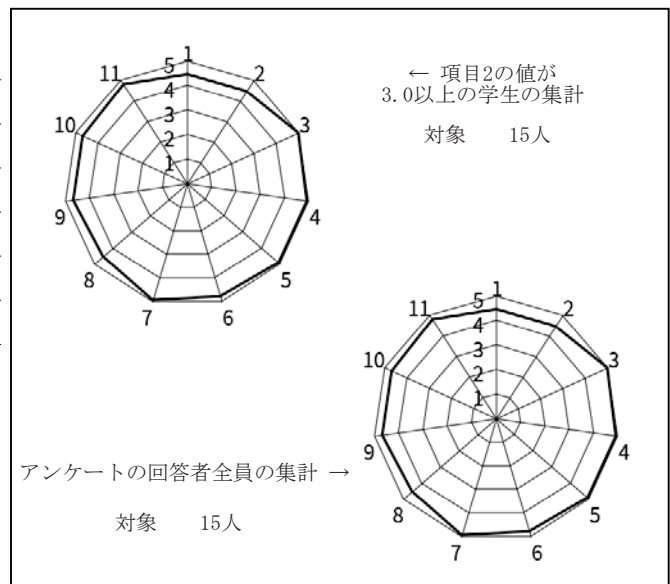
Students demonstrated a solid understanding of these goals and achieved them with high proficiency. Further goals of the class such as conducting all class practices in English as well as applying communication strategies to increase student output and avoid an overreliance on technology were achieved.

In reflection activities, students requested assignments and slides to be posted on WebClass. This was intentionally omitted by the instructor in order to encourage the practice of note-taking skills during the class and increase accountability. When absent, students were required to email the instructor requesting explanations of missed content. This policy also provided further opportunities for practicing academic email writing skills. In future classes, more time will be provided for note-taking during class. In cases short of time, photographs of assignment slides will be permitted.

Additionally, some students reported feeling pressured to answer questions in class. Lessons were carefully designed to create an atmosphere in which learners were required to take responsibility for their own learning rather than opt out and wait for answers to be supplied. No students were specifically targeted in these practices.

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture A<国際科目群>4 (英米学科生用)
授業コード	31C06-907
教員名	今井 達也
教員コード	102469
登録人数	17
回答数	15
回答率	88.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本授業の目的は、異文化適応の理論を理解し、学生自身が将来的に留学や海外赴任の際に、充実した生活を送る準備ができるようにすることである。理論を4つに絞ることで、一つの理論に200分使うことにより、理論の理解→活用までのプロセスを示すことができたと思う。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

全体の平均点は4.79と、自分の他の授業に比べて多少低い印象であった。特に『受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。』という項目は低かった。この授業では予習や復習を要求することが少なく、その点において、今後は理解を深めるために、予習と復習を要求しようと考えている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

自由記述にある通り、多様な学生と、不安なく英語を話せる環境づくりは多少成功したと感じる。学生の英語レベルにばらつきがあるため、アドバンスの学生には、もう少しチャレンジングな環境を用意してあげたいと考えている。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture C<国際科目群> (英米学科生用)
授業コード	31C08-901
教員名	TEE, Ve-Yin
教員コード	101626
登録人数	23
回答数	4
回答率	17.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

One student comment neatly captures what I hoped to achieve in this course: 'Amy Levyの作品から、当時の女性たちやユダヤ人、クィアとしての困難を学ぶことができ、他の授業では得られない知識や学びが身についた'.

My aim was to situate Amy Levy' s work within its historical, social, and intellectual contexts, while encouraging students to apply and deepen the analytical skills developed in previous literature courses.

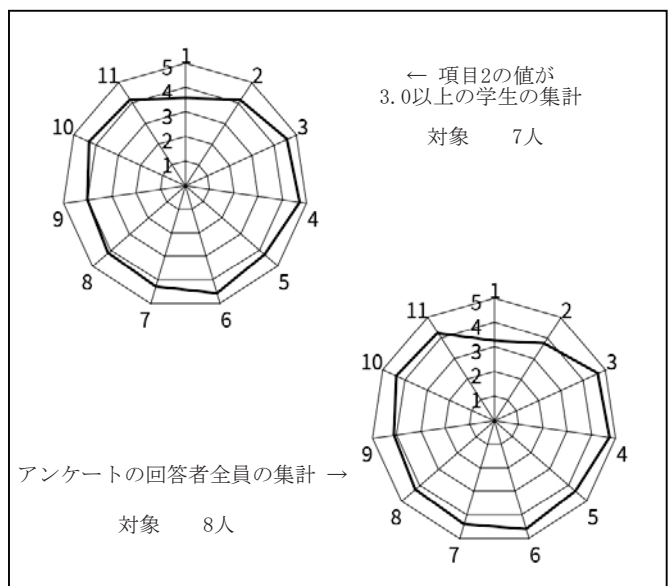
The strongest essays demonstrated sustained close reading, careful engagement with secondary scholarship, and an ability to connect literary form with broader cultural concerns.

Compared with previous years, some of the more senior students displayed notably high levels of linguistic fluency in their written work. As generative AI tools become increasingly integrated into educational practice, it is likely that such technologies are shaping the drafting and revision process. While I do not object to students using digital tools to refine expression, the pedagogical priority remains the development of independent interpretation and critical judgment.

In assessing submitted work, I therefore focused on the quality of close reading, coherence of argument, and the accurate and responsible use of secondary sources. Where interpretation was persuasive and evidence was sound, high grades were awarded accordingly. At present, I judge the work submitted on its scholarly merit, while remaining attentive to evolving questions surrounding authorship and technological mediation.

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 民族問題と人間の尊厳3
授業コード 10D08-003
教員名 額田 有美
教員コード 104774
登録人数 40
回答数 8
回答率 20.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度から開講クォーター・時限を変更せざるを得ず、その影響なのか受講生の数が大幅に減った。とはいえ、これまでと比較すると少人数制の講義となったことが結果としては良い方向に働き、当初に設定していた目標（①）は概ね達成できたと感じる。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価（②）としても、少人数制だからこそその利点を活かした授業運営ができた。特に項目6がまずまずの結果だったことを踏まえると、教員と学生間でのコミュニケーションが一定程度上手く行ったことを確認することができた。

次クォーター・学期以降に向けての改善点および今後の抱負、方針（③）としては、今年度の姿勢を維持しつつ、質問時間を意識的に多めに設ける等の改善に努めたい。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	スペイン史B
授業コード	32C04-001
教員名	永田 智成
教員コード	103900
登録人数	15
回答数	4
回答率	26.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

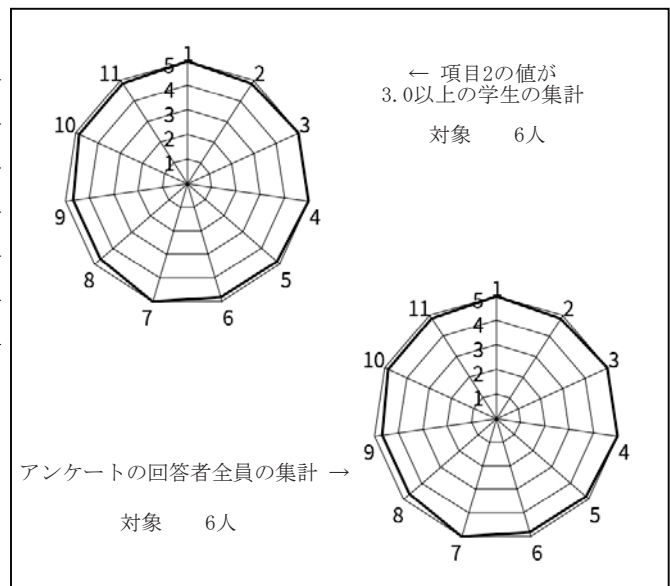
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

激動のスペインの現代史について解説し、そこから日本とは異なる歴史についての知見を得ることを目的として開講した。安定した受講者は望めなかったが、当方としては当初の目的に合致する講義ができたと考えている。数値データや自由記述は得られなかったので、数値的な点検を経ての反省は難しいが、概ね高評価であったと個々の回答を見る限りみなすことができる。講義形式でありながら、リアクションペーパーを用いて、質疑応答の時間を設けたのが良かったかもしれない。今後も引き続き、このような取り組みを行なっていく。本講義は、担当者の専門分野に近いこともあって、毎年内容についての改良を施している。その分、ボリュームが増加し、講義後半の内容を薄くせざるを得なかった。来年度に向けて、もう少し各単元の内容のバランスに留意し、必要な改良を施しながら、思い切って内容の削除もする必要があると考えている。その他については、このままのやり方で来年度以降も実施しようと考えている。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 フランス語VII[FF]2
授業コード 11B07-004
教員名 平田 周
教員コード 103583
登録人数 31
回答数 6
回答率 19.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

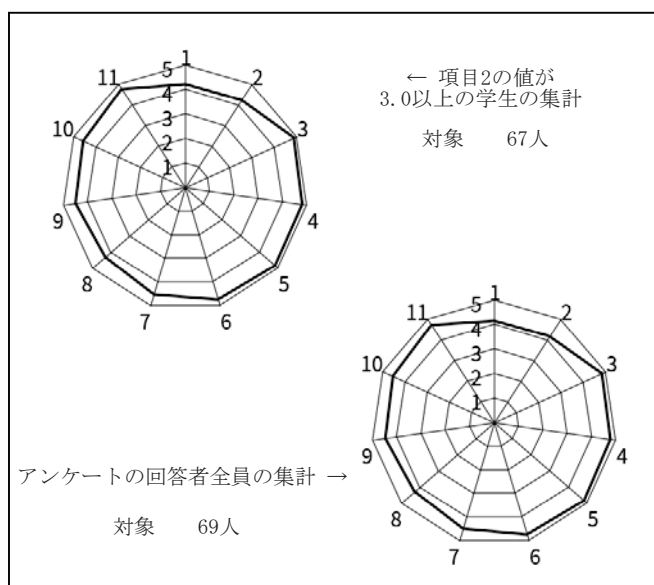


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① フランス語VIIでは、当初予定されていた文法項目および会話文等のテキストに関する解説をすべて無事に終えることができました。教えられる構文や文法が複雑なものになっていったにもかかわらず、毎回の講義で課す小テストおよび期末テストの結果を見た限りでは、多くの学生が持続的かつ意欲的に取り組み、優れた理解を示してくれました。この結果を踏まえれば、当初設定していた目標は十分に達成されたと言えるように思います。
- ② 可能な限り、文法の説明をシンプルかつ体系的に教えることができるように日々努力することを心がけており、その点が一部の学生からの反応に見られることを嬉しく思います。しかし、文法を説明した後の、練習問題やアクティビティの実施に関しては、数値データや自由記述だけではなく、教室の反応をも考慮した限りでは、より私自身に改善の余地があるのではないかと自問します。
- ③ このことは単に学生の反応というだけでなく、テストの結果にも反映される学生の学習に対する動機づけや、それを持続させる力にも関わることです。1回1回の講義で試行錯誤をつづけながら、また同僚の先輩の諸先生方とも成功例や失敗例を共有しながら、より多くの学生に内容理解を促すことができるように励みたいと思います。

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの芸術
授業コード 33A21-001
教員名 真野 倫平
教員コード 100083
登録人数 198
回答数 69
回答率 34.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

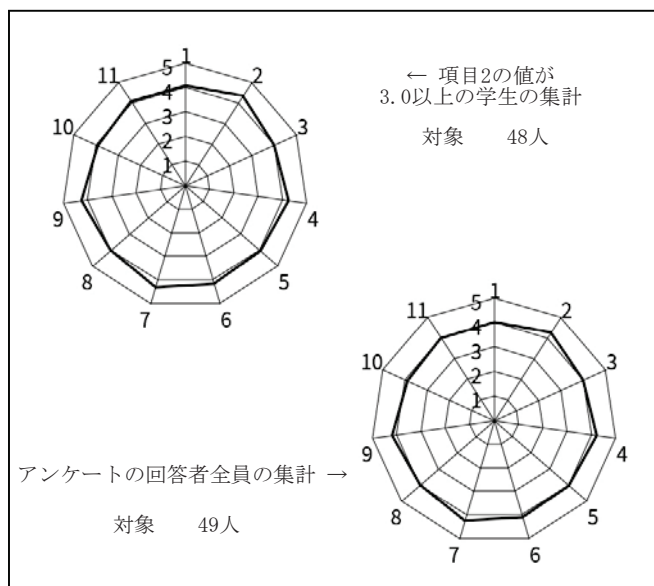


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は2年次生以上を対象とするフランス学科の学科科目であり、同時に外国語学部他学科に開かれた学部共通科目でもある。それゆえに日本語による講義を基本とする。到達目標は、①フランス絵画に関する基礎知識を身につけること、②絵画を鑑賞する上でのリテラシーを習得することの二点である。授業においては、まず西洋絵画一般のジャンルや技法に関する基礎知識を学んだ後、フランス近代絵画史を時代順に概観し、並行して絵画に関する解説や批評を講読した。毎回、授業プラン・参考資料を載せたpdf資料、絵画作品を提示するパワーポイント資料を使用した。さらに、授業中に課題としてwebclass上のいくつかの設問に回答させた。①目標と到達の程度については、予定した内容をほぼ計画どおりに実施することができた。毎回の課題の結果から判断して、上記の目標はある程度達成できたように思われる。②総合的な自己点検・評価については、設問3～14の平均、とりわけ設問11から、学生の満足度が高かったことがうかがわれる。個々の設問については、設問7・8・9が平均よりやや低かった。③今後の改善点としては、上記の設問に関連して、授業中の学生への注意喚起、授業外で行うべき課題の設定、事前・事後授業の実施などが考えられる。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション論
授業コード	34A14-001
教員名	SCHILLING, Anette
教員コード	105073
登録人数	64
回答数	49
回答率	76.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

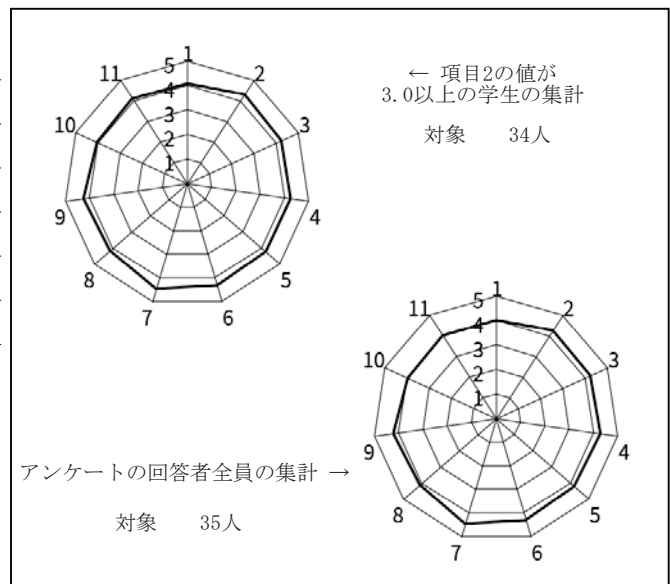
The goal of this course was to enhance students' intercultural communication skills by providing many opportunities for them to plan for a course of communication in specific situations in advance on their own (which vocabulary and expressions would they need) and then practice with partners or in groups. This included written communication and text writing as well. These goals were well achieved. The students worked on how they should prepare for certain tasks or situations and then had enough time to practice. Students were also encouraged to submit their written texts which I checked and commented on.

I realized from the data and comments, that some students think that the course content was not exactly following the description in the syllabus. This is true, since I had to adjust the content according to the very high number of participants and their actual speaking level. The main goal of the course (enhancing communication skills) and content (every day situations in the German speaking world) did not change.

It seems that students valued and enjoyed the opportunity to practice their German. I will continue to use partner work and group discussion as the main class activities. Taking into consideration, that language learning at a university should also comprise academic writing skills I will also provide more time and exercises to further enhance students' academic communication skills.

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 文献講読（ドイツ語圏の文化）
授業コード 34A23-001
教員名 麻生 陽子
教員コード 104628
登録人数 41
回答数 35
回答率 85.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

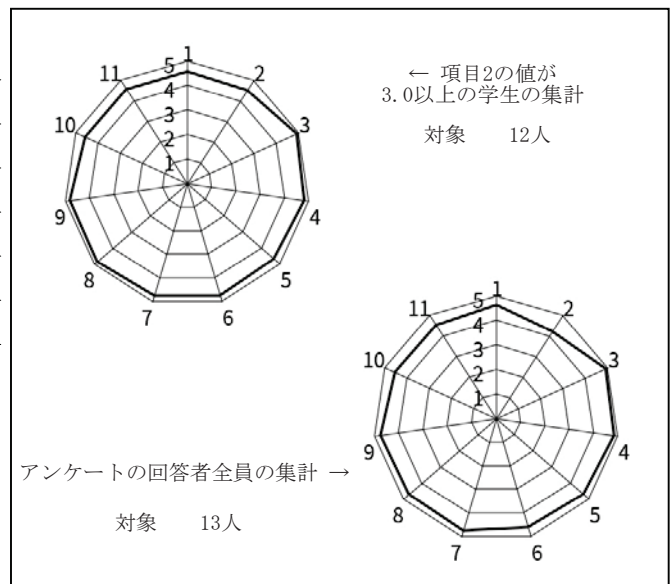


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①計画通りに授業を進めることができた。ドイツ語で書かれた多くの文学に親しむという目標を達成することができたと考えている。
- ②グラフをみると、設問10では唯一ポイントが4を下回っており、学生自身、到達目標に掲げられた力が十分に身についたとは思っていないことがうかがえる。その要因としては、学生の読解力が、テキストの難易度を下回っていたためではないかと思われる。受講生の大半は、ドイツ語で書かれた文学テキストを授業で初めて読んだ。そのため余計に、難しく感じたのではないかと分析する。
他方、自由記述回答を見る限り、一定数の学生は、テキストの読解が難しいとはいえ、やり甲斐も感じていたようである。たとえば、「文献は難しいものが多かったが、しっかり予習すれば、回を重ねるごとに文学作品にあうように自然な訳ができるのを感じられた」という声は、学生自身もまた授業を通して自分の成長を実感できている点を示すものである。
- ③文学テキストの難易度の高さについては、把握している。とはいえ、読解力をつけるためには、難易度の高い文章に挑戦する機会が不可欠である。と同時に、短期間でドイツ語の読解力が飛躍的に向上することは困難であり、それ自体をこの授業では目指していない。学生による肯定的な評価にもあったように、次年度もひきつづき、学生には予習を徹底してもらうことで、ドイツ語を辞書を使って読む、という経験をしてもらう。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II読解1
授業コード 35A10-001
教員名 中 裕史
教員コード 017830
登録人数 14
回答数 13
回答率 92.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では以下の3点を到達目標としている。(1)中国語検定2級程度に対応できる読解力を備えることができるようになる。(2)2000語程度の単語を使いこなすことができるようになる。(3)アジア学科のディプロマポリシーにある、中国語で情報を収集し、自らの立場や意見を明確に述べることができる高度な運用能力を読解および語彙に関して身につけることができるようになる。授業時における受講生の反応と2度のテスト、および期末試験の出来具合に基づいて判断すると、上記到達目標は概ね達成できたといっていると思う。

設問項目に対する評価を見てみると、設問4（授業内容と到達目標の関連づけ）の評価および設問10（到達目標に掲げた力の修得）の評価が高いことが上記の判断を裏付けているだろう。また、自由記述において、授業の中ほどで教材の長文に記された事象に関してより踏み込んだ紹介を行ったり、日本語訳のポイントを丁寧に説明したりしたことも評価されている。ただ、設問2（授業への主体的な参加）の評価が相対的に低めであったことは、学生の予習、復習と授業時の積極的な発言をどう促していくかなどについて、来年度の授業に向けてなお改善を図る余地があることを示しているものと考えている。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A4
授業コード	31B04-004
教員名	ROBINS, Anthony
教員コード	104759
登録人数	19
回答数	4
回答率	21.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

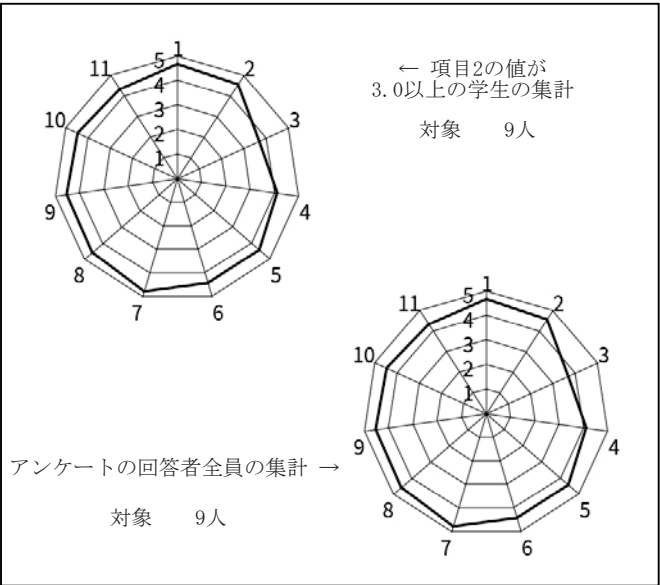
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

I feel that the goals I set at the start of the course were largely achieved. Students could gain insights into five topics related to life in the UK and students were successfully encouraged to draw parallels with the same topics in Japan based on their own experiences. This was particularly successfully achieved in three ways: through exchanging opinions using questionnaires with partners, making presentations with fellow members and written homework assignments including the final reflection report. Obviously, it would have been better if more than four students had responded to the evaluation report. Nevertheless, I was glad to see that their responses were positive, with the majority showing a score of five and the others showing a score of four. In particular, the key question on overall satisfaction (11) saw all responses being five. I was particularly glad to see the comment that I helped a student who had been absent by following up on missed material when they returned to the class. I made an effort to do this, as I recognised that absences were often unavoidable, especially during flu season. Looking ahead to the future, I will aim to slightly reduce the amount of material I try to cover, as I found myself a bit short of time this quarter, especially with the final topic towards the end of the quarter. Quality is obviously a priority over quantity.

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language E1
授業コード	31C15-001
教員名	LEGE, Paul Ranson
教員コード	101992
登録人数	26
回答数	9
回答率	34.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

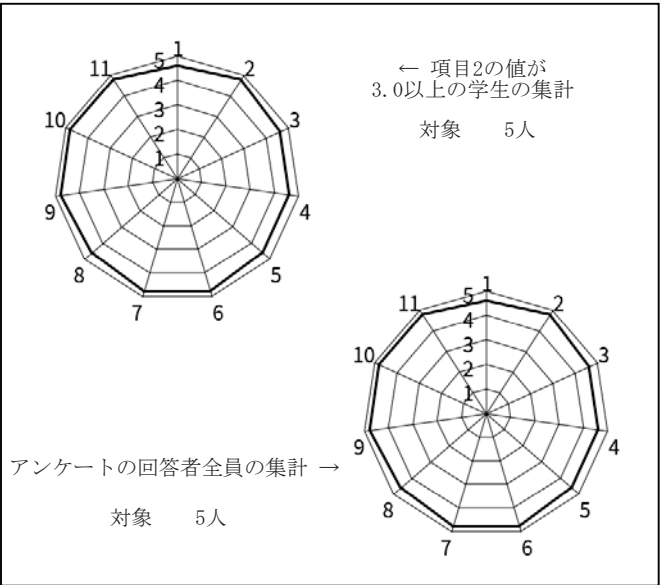


授業評価結果を踏まえた点検・評価

As this was my first time to teach this course, the syllabus did change from the original idea. This primarily had to do with the fact that the book that I had had planned to use was no longer available. After I discovered a different book, I had to change the syllabus but did make an effort to blend both of the syllabi into the actual class. This problem should be reduced in the coming year (2026) as I have a clearer idea as to what textbook to use and the interest of the students. In general, most of the students seemed to enjoy the class despite the adjustment. I wanted students to develop their own topical presentations and was unsure of their skills, so I spent some time in the class on reviewing such skills. In general, most of the students had some good skills on making presentations, so that I will spend less time on such development. Overall, most of the students seemed to enjoy the class and they handled the material and presentations well. One of my concerns was with the size of the classroom which was very tight for 25 plus students. There were just enough desks but little room for movement.

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	上級スペイン語IIA2
授業コード	32A19-002
教員名	HOPKINS Mariella
教員コード	103653
登録人数	26
回答数	5
回答率	19.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was to develop students' communicative competence in Spanish through interactive activities, focusing on speaking, listening, and practical grammar use. Throughout the semester, students were encouraged to actively participate and apply the language in real-life situations. Based on class performance and engagement, most students achieved the intended learning outcomes.

According to the course evaluation, student satisfaction was very high, with average scores between 4.6 and 4.8 out of 5. These results reflect strong engagement, effective classroom management, and appropriate use of teaching materials. Students responded positively to opportunities for participation, feedback, and interaction.

From a teaching perspective, the course was successful in fostering motivation and consistent participation. For future improvement, I plan to incorporate more varied interactive activities and adjust lesson pacing to better accommodate different learning speeds. I will also enhance opportunities for spontaneous communication and student-led tasks.

Overall, the course objectives were successfully achieved and I will continue to improve.

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	ラテンアメリカの政治
授業コード	32C22-001
教員名	中川 智彦
教員コード	102940
登録人数	10
回答数	2
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

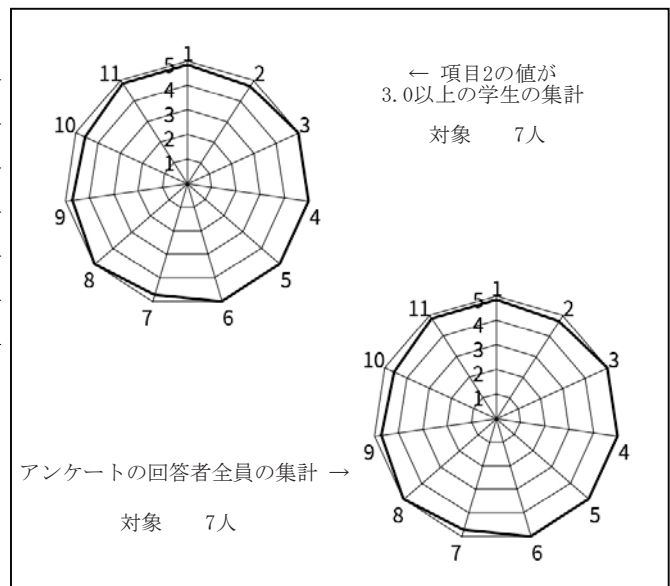
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、比較的に少人数（10名）のクラスとなったこともあり、受講生の理解度が高く、ほぼ毎回実施した小テスト（クイズ）の成績だけでなく、期末試験の結果についても、全体的に高得点となったほか、学期の前半と後半の2回行うグループワークと発表についても、しっかり準備をして、内容の濃い報告をしてくれていたグループが多かったことから、教員としては、十分達成できた年度であったと考えている。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。今回は、回答者が全体の2割（2名）しかおらず、数値データといえるものは実質的に得られなかったが、回答してくれた2名に関しては、全体としては高評価を得られた点と、自由記述でグループ発表の学習効果を高く評価してくれていた点から、概ね、満足のいく授業運営ができたと考えている。
- ③次クォーター・学期以降に向けては、今期のよかった点をしっかり意識して、きめ細かい指導を心がけて行きたいと考えている。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	ポルトガル語圏文化・社会特殊研究A
授業コード	32C33-001
教員名	伊藤 秋仁
教員コード	100662
登録人数	9
回答数	7
回答率	77.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

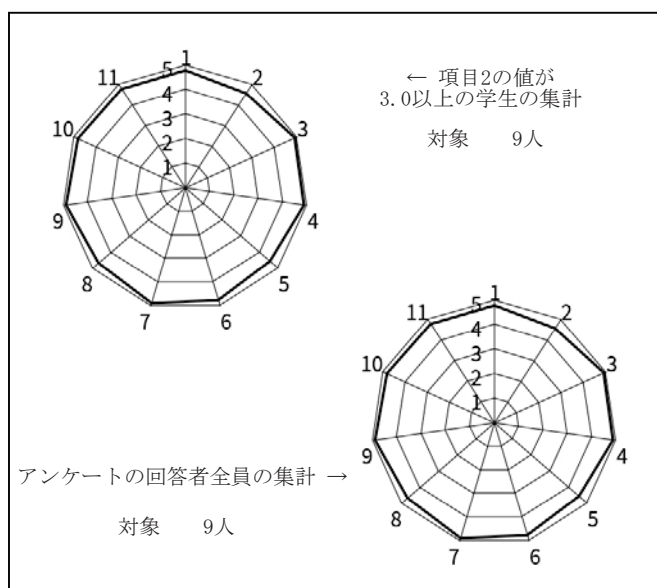


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について 予定していた内容の講義を全14回でほぼ終わることができた。ただ学生のリアクションを見ながら、双方向で理解を深めることができなかったのは残念である。②について ほぼ満点に近い回答ばかりでありあまり参考にならない。自由記述についても（建設的な）批判もなく、こちらの話を素直に聞いてくれ、それなりに納得もしてくれたのかもしれないが、率直に言って物足りない。学生のリアクションを引き出す授業がよい授業だと思うので、その点はこちらの工夫不足だったと思う。③について プレゼンとレポートは、ほぼ全員がAIを使っているという印象を持った。それらに加え、出席回数、授業への参加度（ミニッツペーパーを参照にした）で評価をしたが、プレゼントレポートは学生に発表させることで、授業に変化や活気を生み出すという意味はあるが、評価の対象にはならないと感じた。昔ながらの内容の理解度を問うペーパー試験を復活させたほうがいいかもしれない。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIIB1
授業コード 33A16-001
教員名 HERGOTT, Florian
教員コード 101725
登録人数 21
回答数 9
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

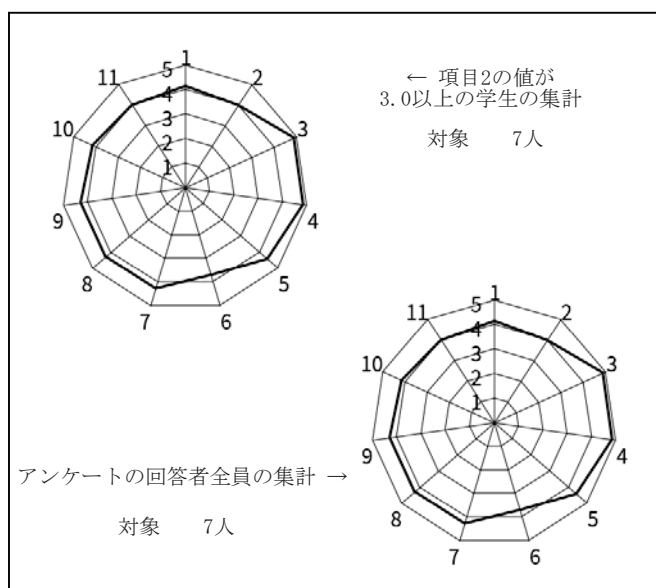
年度当初、本授業の主な目標は、フランス学科2年生の学生に対して、DELTA A2レベルの定着と達成を確実にすることでした。授業では、4技能をバランスよく強化するとともに、自律的な学習姿勢、積極的な授業参加、そして具体的な場面でフランス語を使う力の育成を目指しました。結果として、この目標はおおむね十分に達成されたと考えています。全員が全体としてA2レベルに到達することができました。ごく少数の学生にはなおやや不安定な面も見られますが、一方で、授業外でも努力を重ねた学生の中には、すでにB1レベルに近い力を示した者もありました。

授業評価アンケートからも、授業運営は全体として良好に受け止められていたことがうかがえます。特に、シラバスに沿った授業運営、到達目標との整合性、質問しやすい環境づくり、授業の進め方の適切さについて、肯定的な評価が見られました。自由記述においても、説明のわかりやすさ、授業冒頭の質問時間の有用性、個別のやり取りの充実、そして授業の最初の段階で会話練習ができた点が評価されていました。

今後は、A2レベルがまだ不安定な学生に対して基礎の定着をさらに支援するとともに、より力のある学生にはB1レベルへの橋渡しとなる活動を一層充実させていきたいと考えています。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語実践演習H
授業コード 34D20-001
教員名 BAYERLEIN, Oliver
教員コード 100842
登録人数 18
回答数 7
回答率 38.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The primary objective was to enhance high-level German oral proficiency and bridge intercultural gaps through digital storytelling. Students were tasked with explaining nuanced aspects of Japanese culture in German for a YouTube audience. They were free to choose their subjects inside this frame.

The course received a high satisfaction rating (cf radar chart). The course format was exceptionally popular – some students were lucky enough to take this course twice because of a change of the course number.

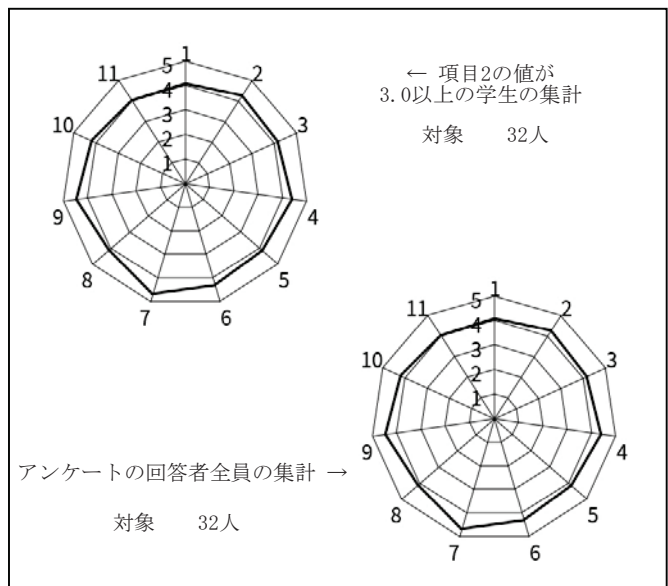
Engagement: Qualitative comments highlighted that the “real-world” application (YouTube) increased motivation compared to traditional presentations.

Peer Learning: The peer-working phase was highly effective, though some students noted the technical video editing took time away from linguistic focus.

Conclusion: The project-based approach is highly effective. IMHO, the German Department should try to establish such a course in the future even when I am not working for the department any more.

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II読解2
授業コード 35A10-002
教員名 張 静萱
教員コード 048047
登録人数 36
回答数 32
回答率 88.9%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



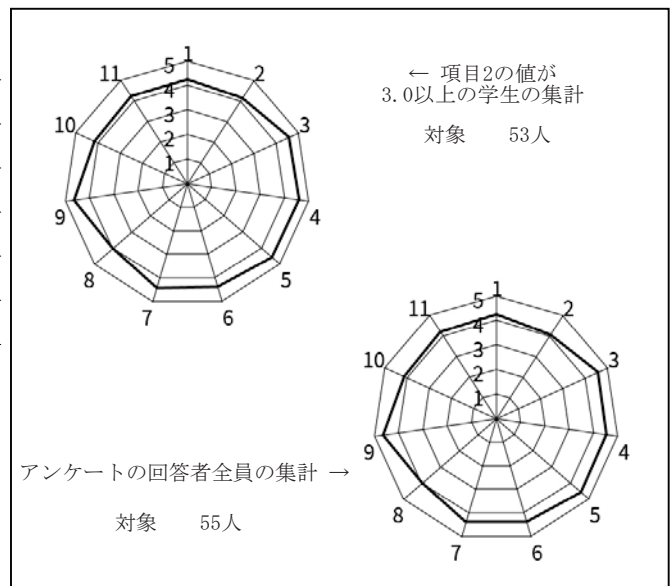
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、中級中国語読解という科目で、学生諸君の中国語の読解力をはじめ、中国語の総合的な力を高めるのを目指し、シラバス通りに進めてきました。アンケートの集計、また「この授業のよかった点、評価できることは？」という自由記述項目に「一つずつ確認しながら進めていく点。素早く日本語に翻訳する力がつくところ。発音する時間がきちんと設けられているところ。先生が優しくて面白いし授業のペースもちょうどいい。」との評価をいただき、開講当初に設定していた授業の目標に達したと思われます。

外国語の授業では、人数的にやや多いですが、すべての学生が授業へ積極的に参加するように工夫しました。課題や予習、小テスト、訳文の提出はいうまでもなく、毎回、教科書の内容と関連のもの、細かい表現などについて質問したり、答えてもらったり、きちんと厳しく進めてきた結果、評価されたと思われます。今後も引き続き充実した、受講生の満足度の高い授業運営を努力していきたいと思います。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経済学A2
授業コード 12C08-002
教員名 實多 康弘
教員コード 100751
登録人数 71
回答数 55
回答率 77.5%
休講回数 5 回
補講回数 5 回

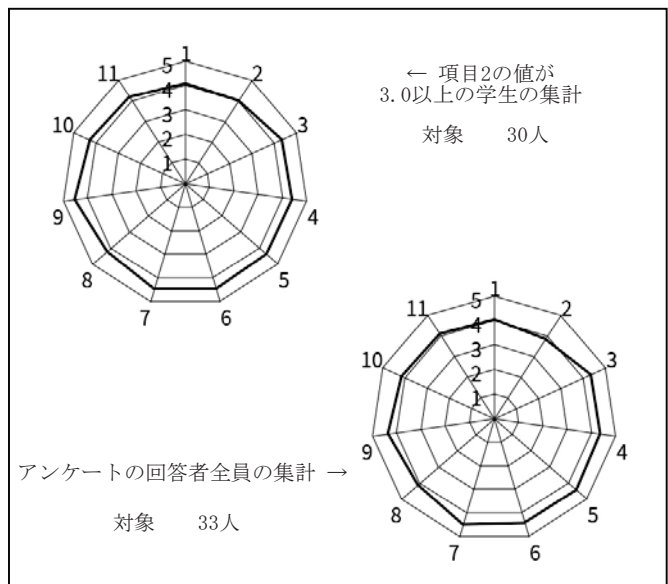


授業評価結果を踏まえた点検・評価

長年にわたって毎年担当している経済学入門の共通科目（全学部履修可能な教養科目）の講義で、今回で9回目の担当となる。評判のよい『ミクロ経済学をつかむ』（有斐閣）を参照してもらい、講義を行った。対面での講義が定着した2年前に授業内容を一新しており、さらに改善した。世界の経済活動がコロナ後に平常化した、国際的な経済情勢が不透明となり、講義で扱える経済に関する時事問題を多く取り上げることができるようで難しい点もあった。新聞記事など講義内容と関連する話題を提供して、学生自身に考える題材を提供した。その結果、自由記述の欄に、興味がわいた、分かりやすいといった高い評価のコメントが多数あった。また、初学者や経済学部以外の学部の受講生も多いことから、ミクロ経済学で扱う内容を適切に絞り込み、丁寧に説明することを心がけた。開講当初に設定していた目標はおおむね達成できた。理解度の確認のためのレポートを課して提出を求め、提出後、授業中に解説を行った。また、今回の新たな試みとして、テキストの確認問題を時間の許す限り解説した。分かりやすいと高い評価を得た。全体的に非常に高い評価を得たので、今回の授業を引き続き次に生かしていきたい。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

2025年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	計量経済学A
授業コード	40D11-001
教員名	大鐘 雄太
教員コード	103641
登録人数	70
回答数	33
回答率	47.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、「正しいデータ分析の初歩的・基礎的な考え方について理解できること」を目標とした。授業の到達目標に掲げられた力がついてきていると感じるかどうかに関する設問（設問10）が4.15にとどまっていること、定期試験の結果があまり良好ではなかったことから、目標には及ばなかったと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

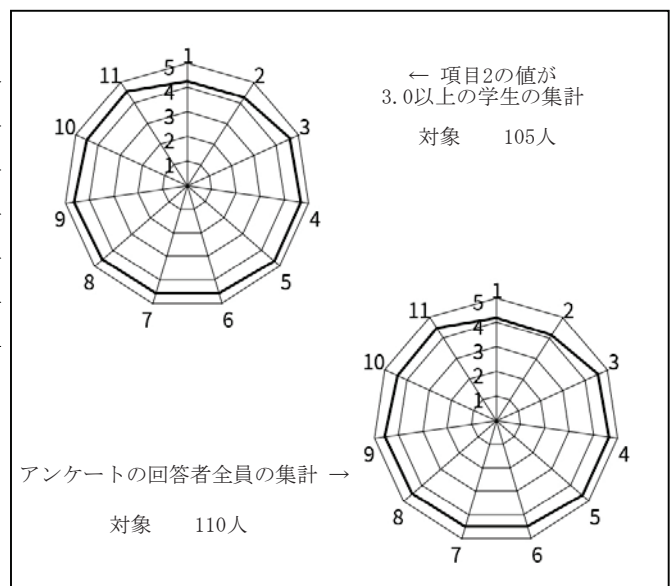
前回開講時と比べて、(1)設問3から設問11までの9項目のうち4.5以上の項目が1つのみであること、(2)全体の満足度に関する設問（設問11）が4.30から4.09に低下したこと、(3)設問3から設問11の平均が4.49から4.31に低下したことから、今回は前回よりも改善点の多い授業であったと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

先述のとおり、今回は定期試験の結果があまり良好ではなかったため、次回開講時には履修生の理解度を高めることにより、全体的な満足度の向上を図る予定である。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報経済学B
授業コード	40D18-001
教員名	小林 佳世子
教員コード	100487
登録人数	267
回答数	110
回答率	41.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

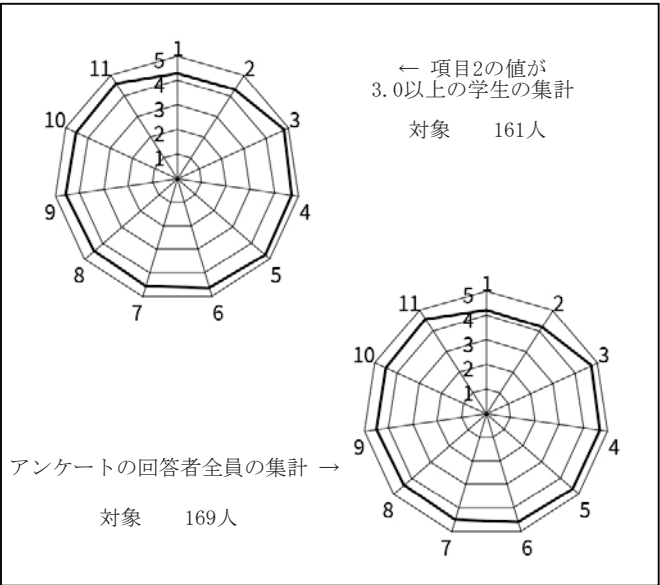
この科目は、2年次生以上に向けた専門科目です。300人近い履修者がいる大人数クラスで、これだけの高い評価となったことを、まずは素直に嬉しく思っています。

心がけたことは、（１）理論的と現実とのつながりが考えられるようになること、（２）わからないをなくしつつ、自分で考える楽しさを知ってもらうこと、（３）学生参加を促すことの3点です。そのために、学生さんが興味を持てるような具体例を多数あげたり、毎時間復習から始めるなどといった分かりやすさは最大限配慮したうえで、レベルの高い課題を折々に問いかけることで、自分で考え、さらには、それをみんなの前で発表するといったことを取り入れています。

「具体例をたくさんあげており、分かりやすい説明だった」「板書が見やすかった」「面白く集中できた」「問題について考える時間があるのがよかった」「質問の時間や考える時間が考慮されていた」「クイズが面白かった」「毎回復習から入るので、新しい内容もスムーズに頭に入った」といった自由記述の声からみても、こうした点が評価されているようでほっとしています。また、原則スマホ禁止とした、恐らく珍しいクラスでしたが、「スマホがないだけでこれほど集中できることがわかってよかった」といった好意的な声がほとんどでしたので、学生さんの意見も聞きながら、今後も続けていこうと考えています。

2025年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

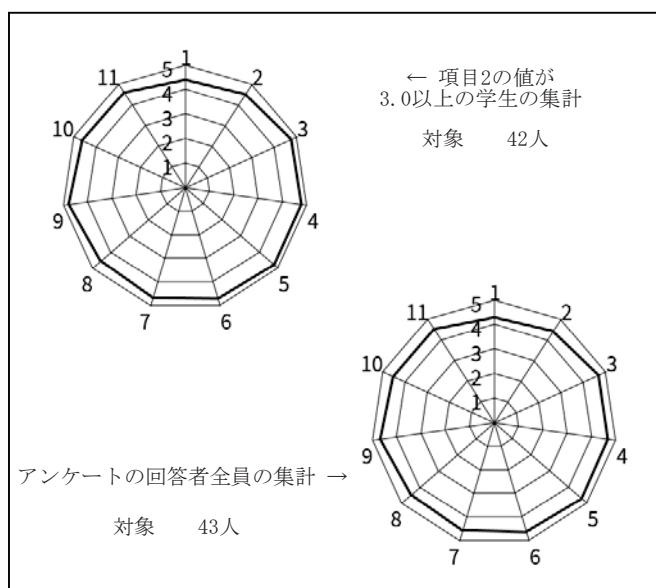
科目名	金融論A
授業コード	40D28-001
教員名	都築 栄司
教員コード	103265
登録人数	434
回答数	169
回答率	38.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	地域経済学A
授業コード	40D40-001
教員名	相浦 洋志
教員コード	103642
登録人数	81
回答数	43
回答率	53.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

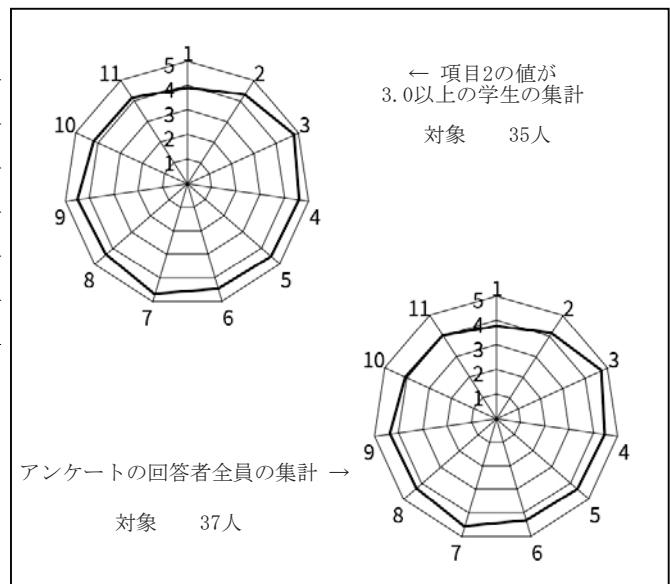


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、経済的な繋がりを持つ地域がどのように形成するかを明らかにしたうえで、ケーススタディとして商店街の活性化の施策についてグループワークを通じて調査してもらうという構成をとった。グループワークという主体的な活動を授業の中で取り入れることで、学びに対する学生の関心は比較的高かったと感じた。事実、アンケート全11項目の内、10項目で所属学部の平均値を上回った。また、アンケートの自由記載欄でも「グループワークで自身で考えるように工夫されているところ。」など、グループワークを評価する回答が10件弱あった。さらに、アンケートの自由記載欄において、「地域経済の理論だけでなく、現実とのつながりや応用例、具体例を挙げて説明がされたので非常に関心を持ちやすく設計がされていると感じた。更に関連して不動産の知識等の将来役立つ事柄を取り上げていたのも良かった点だと思う。」と本授業を高く評価した学生もいた。ただ、授業最終回のグループワークの口頭発表においては課題点がいくつか見付き、それらの点を次回の授業において改善していきたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際経済学A
授業コード 40D44-001
教員名 太田代 幸雄
教員コード 100347
登録人数 126
回答数 37
回答率 29.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】

この科目は、経済学科2年次生以上向けの選択科目であり、基本的な国際経済学の理論を習得することを目的として開講されている。今回の講義においては、過去の講義ノートを修正して学生に判りやすく説明すること、課題として出題した問題をより分かりやすく解説するという点に力点を置いて講義を行った。数値データで見ると、全設問の平均値4.29（設問3ー設問11の平均値4.36）ということで、学科科目の平均値を下回っており、どのような要因でこのような結果がもたらされたのか考えているところである。

【数値および自由記述等を踏まえての総合的な自己点検・評価】

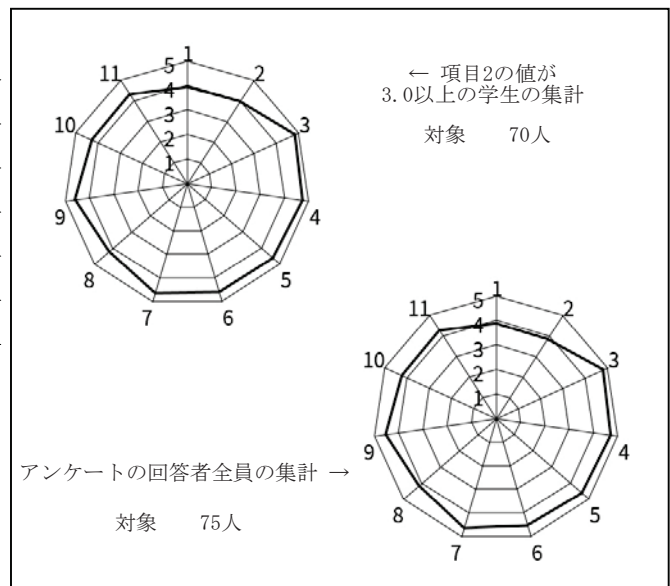
データとしては、回収率が全受講生中約29%とここ数年の中でも特に低い値であった。どのような理由で回答者が（出席者も）少なかったか今回の結果を見ると、直ぐに気づいたことが有る。設問1の結果が3.78とすこぶる悪いのである。このことは、そもそもこの科目に全く興味もなくなただ単位欲しさに登録してきた学生が多かったと解釈するよりない。また、他の項目も、基本的に4は超えているのであるが、学部平均を下回っている。自由記述欄を見ても、目をつぶりたくなるような回答が返ってきた。このようなことは初めてのことで、大変驚いている。近年、学生は体系立った学問について理解したいのではなく、日常で用いる知識をなるべく気軽に得たいと考えていると感じることが多い。講義中の態度にも問題が有り、講義のあり方を考え直したいと考えている。

【次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など】

今回の自由記述欄で気になった回答として、授業中のスマホ利用の注意に関して文句を言う学生が目についた。そのようなコメントは、そもそも大学生が大学で何を学びたいのか、またどのような望みを持っているのかを考える上で非常にこたえるものであった。今後、学生には、大学で学ぶことの意味を考えながら学生生活を送ってもらうよう、更なる修正を試みたいと考えている。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	西洋経済史A
授業コード	40D60-001
教員名	梅垣 宏嗣
教員コード	102397
登録人数	158
回答数	75
回答率	47.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

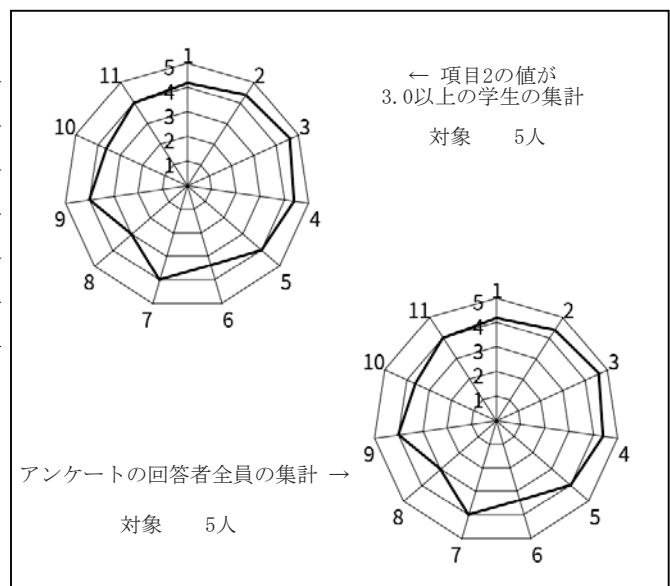
西洋経済史研究における様々な論争や、人口、環境、ジェンダーといった特定の論点をめぐる西洋経済史の諸研究を議論し、説明できるようになることが、本科目の目標である。そして、この目標の到達度は、残念ながら、昨年度と比較して低かった。その主な原因は、昨年度は成績評価の対象としていた確認テスト（毎回、授業の最後に出題し、次の回の授業の冒頭で解説）を、今年度は成績評価の対象外としたことにあるものと考えられる。なお、成績評価の対象外としたのは、採点の負担が極めて過酷なものとなるからである。

授業評価アンケートの数値データに関しては、特に問題となることはなかったものと考えられるが、確認テストを成績評価の対象から外したことで、受講生の授業への集中力は、明らかに昨年度よりも下がっている。中には、毎回授業の冒頭で行う確認テストの解説だけを聞いて、解説のスライドをスマホで撮影し、すぐに教室を出ていく受講生も、少数ではあるが存在した。

以上のことから、少なくとも本科目に関しては、確認テストを成績評価の対象とすることにより、学習効果が高まるものと考えられるが、先述の通り、採点に膨大な時間がかかるため、他の業務への悪影響を考えると望ましくない。よって、受講生の授業への集中力を少しでも高めるため、これまでは授業の最後に1問だけ出題していた確認テストを分割し、授業全体の中で小刻みに行うという形を採ることとする。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経済学A6<国際科目群>
授業コード 12C08-901
教員名 岸 智子
教員コード 100346
登録人数 8
回答数 5
回答率 62.5%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

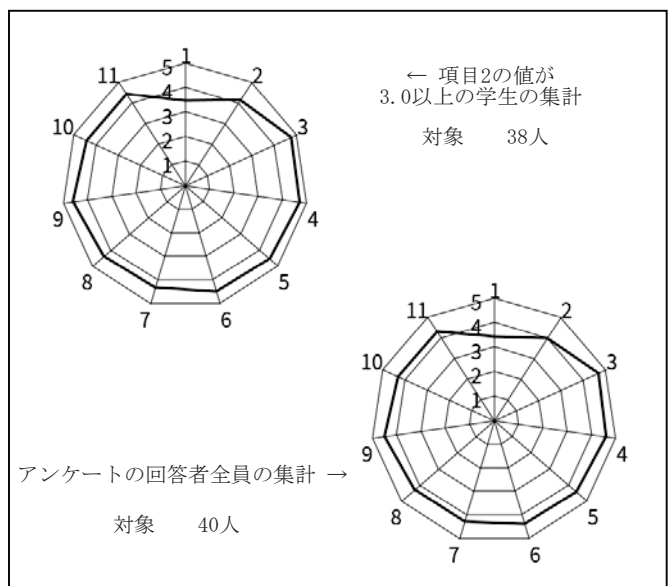


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①まず、初回から少しずつ欠席者が増えたことと、練習問題に時間がかかることから、開講当初に設定していた目標を下げざるを得なかった。低くした目標も到達できていない。
- ②設問項目のうち「学生の理解度・・・」に関する6番と、「意欲を引き出し・・・」に関する8番の評点が特に低かった。学生の理解度は、練習問題で確かめているつもりであったが、もっと直接的に聞いてみればよかった。また、学生の意欲を引き出すような、楽しい内容にならなかったことを反省している。評点は、昨年より下がってしまった。
- テキストとして、Mankiw&Taylor, Economics, 6th Edition のいくつかの章をコピーして利用したが、難しすぎだったのかもしれない。手作りの教材のほうがよかったと思う。ちなみに、留学生別科では手づくりの教材を使っている。それを利用してよかったが、留学生別科の教材のほうは日本歴史や日本の制度の説明などを含んでいるので、そのまま利用することができなかった。教材については、後悔が残る。
- ②に関連し、学生の自由記述がなかったことは残念であった。
- ③残念ながら、自分は年度末に退職することになっており、来年度以降はこの科目を担当することはできない。次の担当者との引継ぎをしっかりと行うつもりであり、この評価についても率直に話をしておこうと思う。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門4
授業コード	40B03-004
教員名	宮崎 浩伸
教員コード	101892
登録人数	58
回答数	40
回答率	69.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



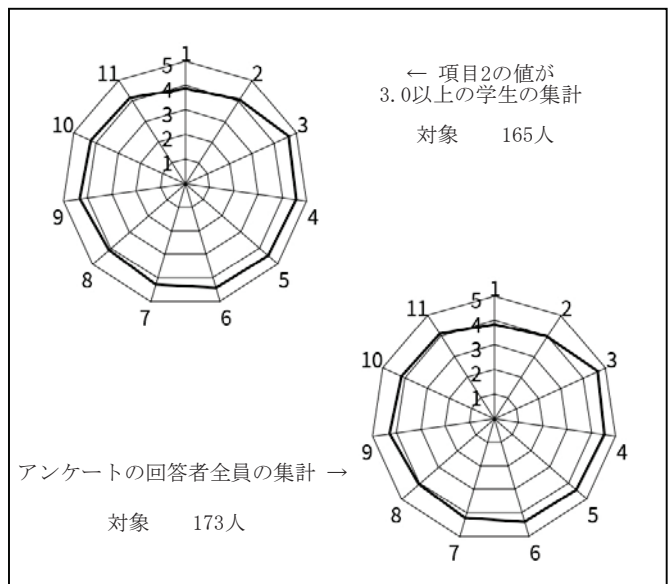
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価結果は、設問1～14の平均値が4.28、設問3～14の平均値は4.41であり、例年と同じぐらいであり、開講当初に設定していた目標と到達の程度から判断しても、まずまずの結果であると思う。評価の低い質問項目は7, 8, 10であり、この授業の到達目標の理解、これに向けて力がついてきていることへの実感、学生の学習意欲への働きかけ等が今後の課題といえる。具体的には、課題レポートを実施する中で、授業で学んだことにより、以前より知識やスキルが上がっていることを感じてもらえるようにしていきたい。また、7については、教室の雰囲気を考えて、私語への注意をあまり積極的に行わなかったことが原因だと思う。この点は反省し、今後は注意していきたいと考えている。

自由記述欄では、「先生がわからないところを丁寧に教えてくれた」、「先生が生徒の理解度に合わせてゆっくり丁寧に説明して下さったこと。」、「学生に寄り添った授業が行われていた。」等の肯定的な意見をたくさんもらうことができ、今後もこのようなスタンスで、きめ細かな授業を心掛けたいと思う。一方、改善点として、課題レポートの説明がわかりにくいとの指摘があったので、この点は今後、見直していきたいと考えている。

2025年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本経済史入門
授業コード	40D03-001
教員名	林 順子
教員コード	101007
登録人数	413
回答数	173
回答率	41.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎回の講義内容の理解度を確認するため小テスト（成績対象外）を実施し同時に講義への質問、要望も尋ねた。要望の中で小テストをゆっくりおこないたいとの希望が多く、例年より少し長めにとるよう心がけたことについて、評価が高かった。同じく要望の中には、講義内容に関わる表やグラフの提示を求める声があり、昨年度よりもその量を増やすように心がけたものの、準備時間が足りず十分ではなかった回もあったのが反省点である。

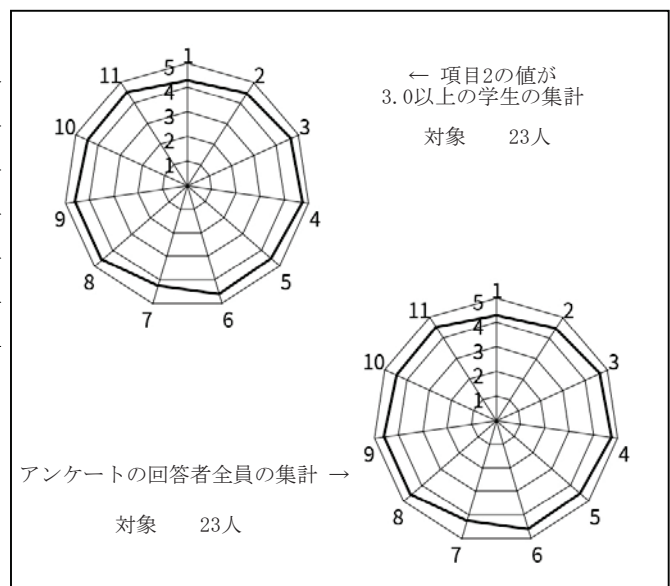
評価の質問項目の中で問1履修前における授業内容への興味が低いのは、現在を扱うことが多い経済学部の学生にとっては歴史への関心が薄いこともあるからだろう。特に高校で日本史を履修した者（関心がある者）と未履修の者（関心が薄い者）が混在する中、なるべく両者に配慮しながら講義を進めたが、今回の評価の自由記述では、講義スピードが早い・遅いの意見が完全に二分化した。

なお、本講の到達目標は「江戸時代以降の、国内の多様な仕組みとそれを生み出した人々の考え方の理解」と「現在の日本経済の問題について、歴史的な観点から分析・検討・議論できる能力の獲得」であるが、試験結果からみると例年になく目標到達者が多かった一方、未到達者もまた多かった。

本科目は入門科目であるため、こうした二極化は避けたいところである。講義を進める中で随時理解度確かめるようにしたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 理論経済学A
授業コード 40D15-001
教員名 井上 知子
教員コード 019166
登録人数 44
回答数 23
回答率 52.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

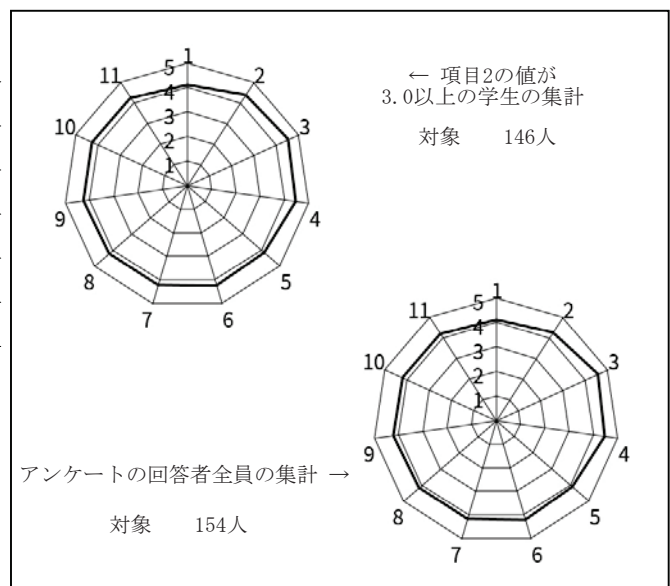


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①授業をする側としては、シラバス通りの内容、ペースで授業をおこなうことができ、目標が達成されたと感じている。項目3が4.65, 項目4が4.74であったので、受講者側も、授業がシラバスに沿っておこなわれ、授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていたと感じていたのだと思う。
- ②毎回の授業中に問題を解かせてウェブクラスで答えを回収し、多少の加点をした。この取り組みが授業参加者にとって内容理解につながり、やる気を起こさせたようである。授業後の課題の提出期間が短い、ウェブテストの時間制限がきついという記述もあった。これらについては、そういった意見が授業期間に複数届いたため、時間制限を昨年度の同授業の倍に設定し直し、課題の提出期間も授業後すぐからに変更した。Q2はじめの頃は昨年度の同授業と同じ設定であったため、そのときのことを言っているのかもしれない。
- ③授業の妨げになる行為に対して適切な対処がされていたかを尋ねる項目7は4.26であり、低いというほどではないが、個別の数字を見ると2名が2を付けていた。広い教室で少人数で授業をしているためかもしれないが、遅刻者はいたと思うが、私語は全くなかったという認識でおり、「妨げとなる行為」に気づけなかった。Q3の授業では、授業中に問題を解かせる時間などに、教室の中を適宜巡回して受講者の様子を確認したいと思う。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	データ解析A
授業コード	40D19-001
教員名	吉根 勝美
教員コード	018358
登録人数	381
回答数	154
回答率	40.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

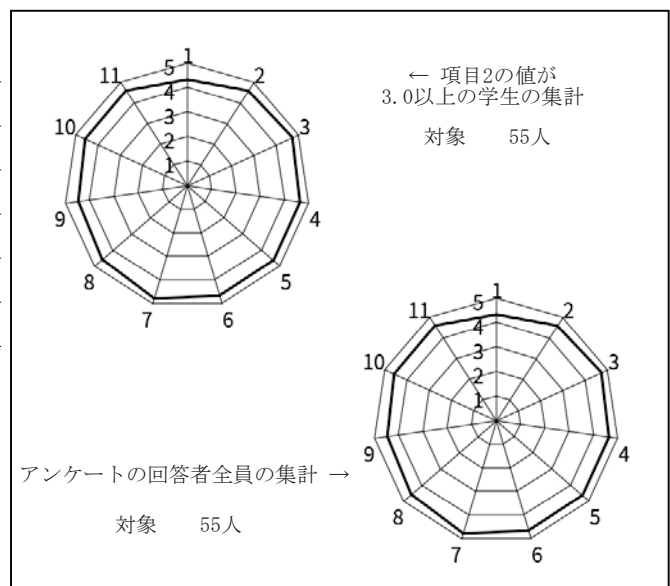
本授業では、表計算ソフトの各種スキルやe-S t a tのような統計データベースの利用スキルを身につけ、データ分析のプロセスがデータの読み込み→整形→加工→可視化→伝達のような一連のステップからなることを理解した上で、コンピュータスキルを適切に活用できるようになることを目標とした。毎回の授業では、まずタスクを提示し、追って解説を加えたりコンピュータ操作を実演したりすることで、タスクへの取り組みを促した。定期試験レポートでは授業で提示したタスクをほぼそのまま出題したが、目標に到達した様子がかがわれるレポートは一部に過ぎなかった。

数値データは、全体平均よりもやや低めではあるが、大きな問題はないと思われるが、自由記述には、授業のスピードの適切さや実演の繰り返しをよかった点として挙げた一方で、授業が速い、難しいという声も多く挙げた。さらに、ノートがとれない、口頭の説明が資料として残らないという指摘もあったが、特に「何をして欲しいのか明確化されないまま授業が進む」という回答は、この授業の問題点を的確に指摘している。

今後は、個別のスキル獲得よりも、データ分析プロセスへの理解を重視したい。そこで、授業ごとに取り上げるスキルは精選し、スキル獲得のためのタスクも新たに考案する。また、定期試験レポートは、ステップ毎の個別の課題ではなく、一つの問題を一連のステップを踏まえて解決するような課題を出題する。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	財政学A
授業コード	40D26-001
教員名	西森 晃
教員コード	100624
登録人数	166
回答数	55
回答率	33.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の平均値，問11の平均値いずれも4.60ということで概ね高い評価をしても
らえたと理解している。自由記述欄のコメントも「わかりやすかった」「100
分が短く感じた」など好意的なものが多かった。そういう意味ではアンケート
結果に対して満足しているし，回答してくれた受講生には大いに感謝している
。

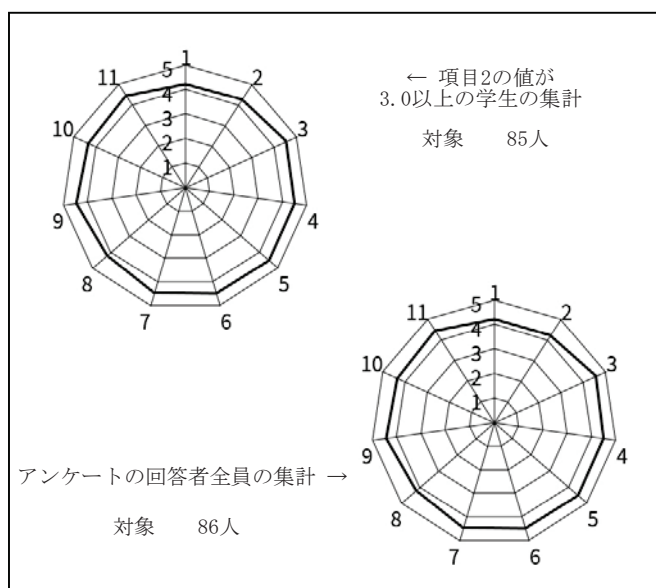
一方で，今回のアンケートでは受講者166名に対して回答数が55でしかなか
った。コロナ以降回答率が徐々に下がっているが，今回とうとう1/3になってし
まった。

これには2つの理由が考えられる。1つは出席率そのものが下がっていること
である。コロナ以降，出席できなかった学生のために講義スライドを公開してい
るが，その結果，出席する学生が激減した。講義スライドを見れば授業の内容
が理解できると勘違いしているのだろう（勘違いでしかないのだが）。学生の
ために手厚い措置を執るとかえって出席率が下がるというジレンマが発生して
しまっている。

もう1つはいわゆる評価疲れであろう。今回，授業評価アンケートのアナウン
スをしたところ，出席者の半分ほどがそのまま荷物を片付けて帰ってしまった
。授業評価以外にも様々なアンケートがあり，さらにアセスメントテストにも
取り組まねばならず，学生がうんざりする気持ちはよくわかる。今後もアンケ
ートを実施することに異論はないのだが，そろそろこのやり方は限界に来てい
るのではないかということを感じざるを得ない結果であった。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	公共経済学B
授業コード	40D33-001
教員名	前林 紀孝
教員コード	104801
登録人数	231
回答数	86
回答率	37.2%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



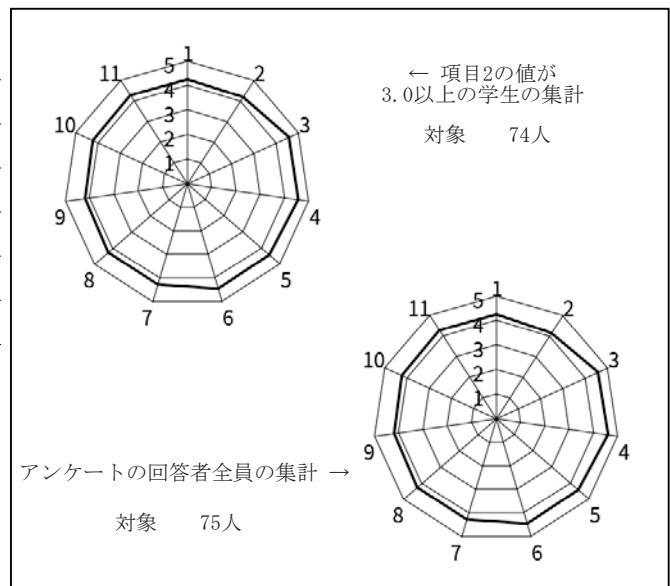
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケート結果および試験の結果から、以下の達成目標3点についておおむね達成できていると感じました。Ⅰ 財政政策の効果について正しく理解できるようになる。Ⅱ 短期と長期のマクロ経済政策について理解できるようになる。Ⅲ 政府債務の問題や公的年金制度の問題について理解できるようになる。ただし、内容がある程度難しいために十分な理解にはまだ課題があります。しかし、大半の意見では資料と説明がわかりやすく意義深かったという意見でした。一方で難しすぎるという意見が1名からありました。他にもそのように思われている方もおられるかもしれません。しかし授業の資料に事細かく説明しておりますので、まずは読んで理解する努力をしてください。それでもわからない点がある場合には質問をする機会があるので自主的に参加してください。すべてが聞いているだけでわかりやすく教えてもらえる（塾や予備校での授業）とは思わないでほしい点を申し伝えたく存じます。専門的に研究している分野だからこそ教員ですら実態の理解には程遠いと感じている点もあり（だから研究の余地がある）、説明もいたらない点があることをどうぞご理解くださいますようお願いいたします。そういった点は聞いている皆様自身で感じながら皆さん自身でも自主的に考えてみてください。これが大学の授業の醍醐味のように思います。到達目標である試験範囲の内容はレジュメに事細かく詳細に説明していますし、授業でも式や図の導出を含めて丁寧に説明しているつもりです。実際に試験では100点やそれに近い方々が幾人いらっしゃいます。

2点目の課題としては、就職活動で忙しく参加できない人がいるものですから、授業の途中でも適宜、到達目標のどのあたりまで進んでいて、どこまでの説明が終わったのかもアナウンスするようにしたい。以上です。ありがとうございました。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	租税論A
授業コード	40D34-001
教員名	岸野 悦朗
教員コード	103035
登録人数	149
回答数	75
回答率	50.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業は、日本の租税制度全般、所得税、相続税といった個人を対象とした税の基本的な知識を身につけ、税に対する考え方を深め、思考能力を育成することを目標としている。

授業に際しては、初学者にも理解しやすいようにパワーポイントの資料を見直し、評価方法については今年度から定期試験に加え毎回授業中にWeb Classでの小テストを行いその成績をも評価の対象とした。小テストの結果は全体的に良好であったが、定期試験の結果は思ったほどでもなく、授業に参加している学生とそうでない学生に階差が見られた。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

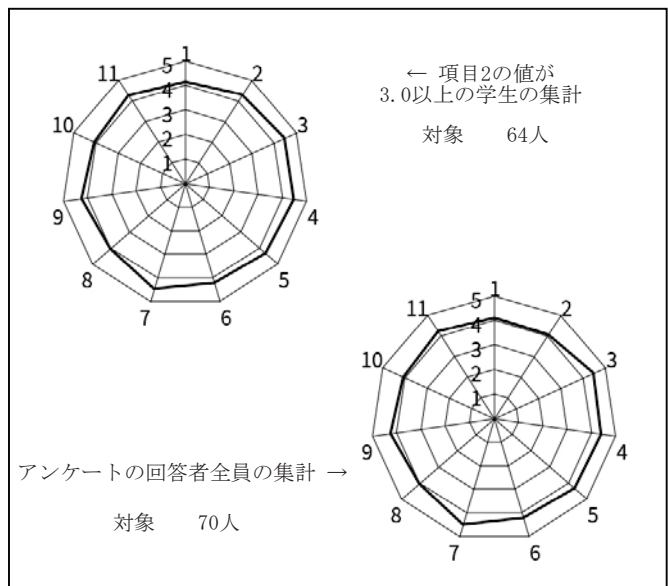
全体的な評価は開講主体平均とほぼ同様であったが、個別評価において資料の作成や授業の冒頭に行っている新聞記事の紹介、小テストについて評価する声もあり、誠実に授業に参画している学生にとってはまずまずの評価ではなかったかと考える。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今後とも資料内容を充実するとともに、小テストについても学生が関心を有する内容に努め、学生が授業に積極的に参画するよう工夫して参りたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	産業組織論B
授業コード	40D37-001
教員名	上田 薫
教員コード	016832
登録人数	274
回答数	70
回答率	25.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



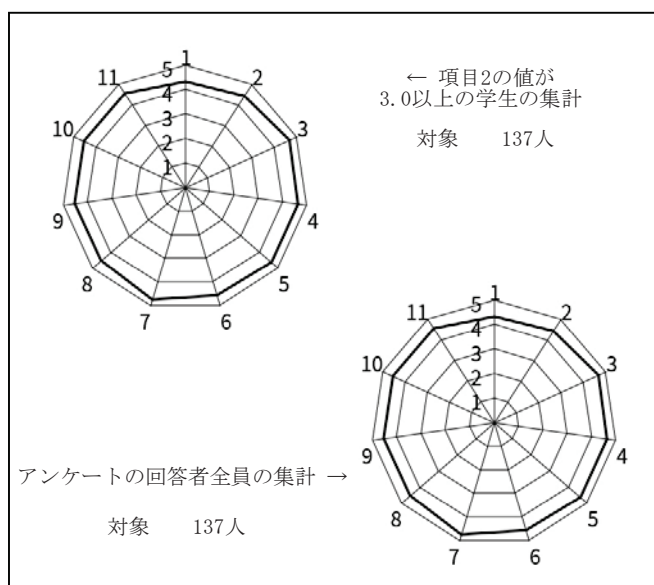
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は価格戦略・品質戦略とその仕組みについて基本的な論点を理解し、現実の事例に適用できるようになることを学修目標としている。情報通信技術の発達によって企業による消費者の特定化と購買履歴の利用が著しく進展する中で、複雑化する価格戦略の特徴を理解することの重要性は増しており、講義内容に関しても幾つかの大きな改定を行ったうえで授業に臨んだ。

設問3、4、7、9の平均値のいずれも4.2を超えていることから、授業の行い方について概ね問題はなかったと考える。設問10の平均値が4.0を、また設問11の平均値が4.2を上回っていることから学生の満足度も低くなかったものと推測する。平均値が最も低かったのは設問8であるが、これは授業で扱う価格戦略のロジックが学生にとって馴染のないものであり、その理解を促すための工夫にまだ改善の余地があることを示しているのだと考える。期末試験の結果を見ても、最も時間をかけたメニュープライシングに関する理解が不十分な学生が相当程度見受けられ、今後の課題だと認識している。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際金融論A
授業コード 40D48-001
教員名 稲垣 一之
教員コード 104110
登録人数 309
回答数 137
回答率 44.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

- ・ 為替レートの決定要因を理解している
- ・ 自国と外国の経済政策が、自国通貨の為替レートに与える影響を理解している
- ・ 為替レートに関連したデータの変動を読み解き、経済の状況を論理的に説明できる

という目標を掲げました。理論分析に加えて、ほぼ毎時間データも紹介し、現実経済を論理的に分析するためのテクニックを解説しました。また、到達目標は、講義中に何度も学生に伝えました。アンケート結果（項目10）から判断して、目標を十分に達成できたと判断されます。

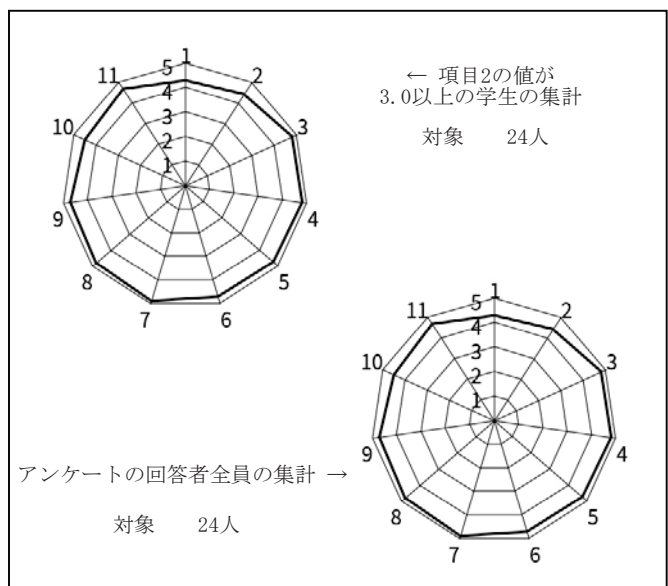
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

アンケート各項目の値は経済学部の平均値よりも高くなっており、大人数講義ではありますが私語などありませんでした。また、アンケートからは「分かりやすい」という回答が大半を占めており、上記①で述べた通り、講義内容を適切に伝えることが出来ました。以上より、特に問題なく講義を進めることが出来たと判断されます。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今回の調子を維持できるようにします。

2025年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済政策論B
授業コード 40D51-001
教員名 蔡 大鵬
教員コード 103260
登録人数 47
回答数 24
回答率 51.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

〔1〕授業目標および達成度

本講義は、（１）国境を越えた資金に関する様々な問題を経済学の観点から理解できるようになること、また（２）為替レートの決定、通貨危機や通貨統合など、国際経済に関わる様々な問題に対する関心を深めることを目標としています。講義では、上記の目標をほぼ達成できたと考えられます。

〔2〕点検・評価

授業評価の結果、項目1から11の平均値および項目3から11の平均値、さらに各項目の平均値がいずれも学部平均を上回っており、一定の満足を得られているものと理解しています。

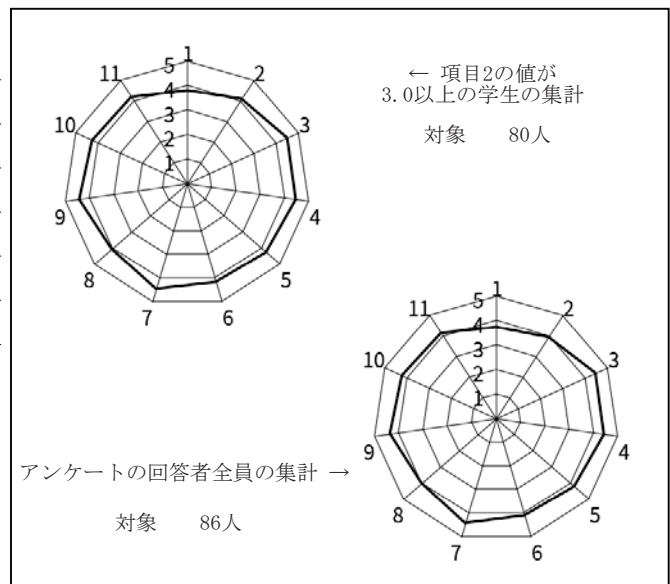
〔3〕次クォーター・学期以後に向けての改善点等

まず、授業内容に関連する新聞記事を取り上げ、学習している理論や知識が実際にどのように使われているかを毎回確認していますが、これは学生からも評価されているようですので、今後も継続していきたいと考えています。

また、講義内容が広範であるため、定期試験の対策がしにくいという意見がありました。今後は、専門用語やメカニズムについてより詳しく解説するとともに、復習の機会を複数回設けることで、知識の定着を図っていききたいと思います。

2025年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジア経済論B
授業コード 40D55-001
教員名 林 尚志
教員コード 017897
登録人数 189
回答数 86
回答率 45.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

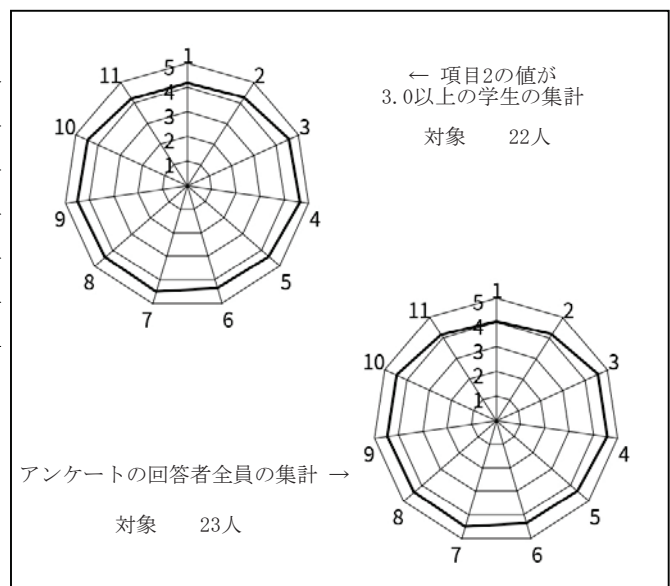
この授業では、「近年IT・デジタル分野を中心に急速な技術変化が進む中、“日本企業の従来の強み”はどう変化しつつあるのか」、「その中で、台湾・中国等の国々や企業は、近年、これらの分野でどのように産業を発展させ、競争力を高めてきたのか」等の疑問に注目しながら、日本とアジア各国との間の“新たな分業関係”のあり方への理解や関心を深めることを目標とした。また、「さぐるべき一連の疑問」を列挙した“教材プリント”および“関連資料”を事前に配布した上で、授業では“板書レジメ”を作成しながら、これら疑問に対する解答を探った。

この目標の到達度については、「板書によって理解すべきところが明確であった」「資料や事例を用いてわかりやすく説明していた」等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問（5）と（6）に関連し、「説明がていねいだった」、「内容がわかりやすかった」等のコメントがある一方、「書くべき量が多すぎる」、「板書のタイミングが速すぎてついて行けない」等のコメントもみられたため、「講義内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、レジメ内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、設問（11）と関連し、「関連文献や資料等の紹介」でも工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心がけたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	消費社会論A
授業コード	40D68-001
教員名	阪本 俊生
教員コード	017020
登録人数	57
回答数	23
回答率	40.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



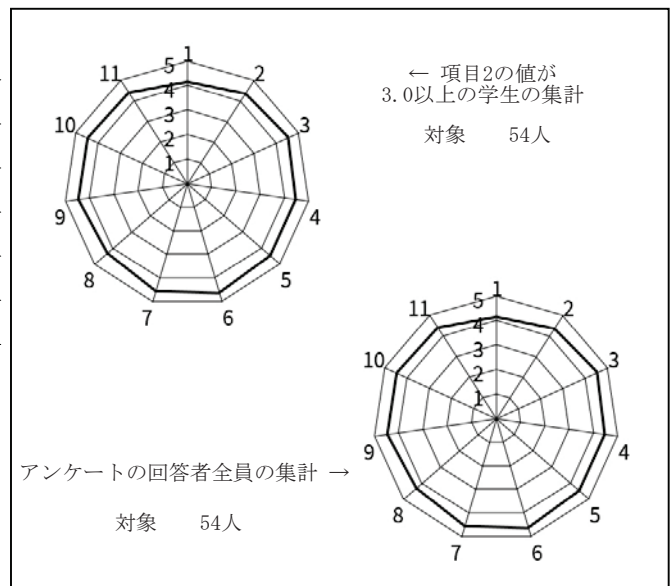
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の平均値は4.37、項目3から11の平均値は4.43と、ほぼいつもとあまり変わらない結果であった。昨年度からアクティブラーニングを取り入れ、1回の講義、家庭学習のオンデマンド講義、つぎの講義でオンデマンド講義を用いたアクティブラーニングとして、レポート、討論、発表をするという形態でおこなっている。この形態による負担感からか、昨年から受講生は大幅に減少傾向にある。また、この形式でおこなった場合でも、講義の出席者は次第に減り、アクティブラーニングの回の出席率も最初は高かったものの次第に低下し、ここまでしても出席しないのかと残念であった。またアクティブラーニングでも、オンデマンド講義を聞いていない、という学生も一定数おり、単に出席しているだけであったり、レポート提出の加点はあるものの、授業内提出だったが、ウェブクラスによるオンラインを介した提出のため、教室に来ずにオンラインで提出する学生が次第に増えた。こうしたことを反映してか、定期試験における成績評価はすこぶる低かった。ただし、レポートの加点等で救われていた。そのため、アクティブラーニングというやり方に疑問をいただく結果であった。

ただ、自由記述欄を見ると、アクティブラーニングを評価する声もあり、また、「最初は全然興味なかったけど、講義を受けてめちゃくちゃ面白くてびっくりした。」として、「レポート書くとある程度自主的に内容整理できて勉強になったし、先生の講義もわかりやすかった。」とあったので、中には触発される学生がいるのだと救われた。ただし、アクティブラーニングや授業外学習を強調する授業形態で受講生を減らすより、ふつうの講義形態をおこなう方が理にかなっていると感じている。アクティブラーニングの実験をしたものの、少なくとも、成績評価の結果や受講状況を見る限り、アカデミックな内容の私の講義では、アクティブラーニングでない方がよいと考えるにいたった。

2025年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	特別テーマ講義(歴史と思想)A
授業コード	40D70-001
教員名	荒井 智行
教員コード	104493
登録人数	119
回答数	54
回答率	45.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

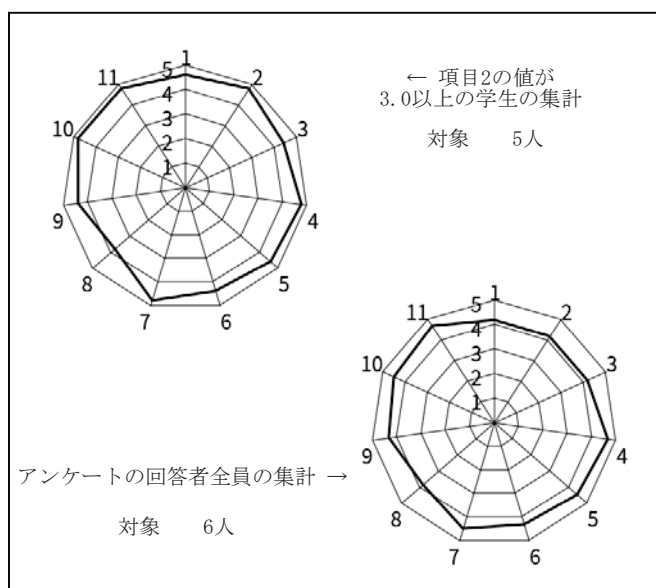
①については、概ね達成できた。受講生の反応に応じて、授業速度や内容を若干変えるところもあったが、シラバス記載通りの内容で講義を進めることができた。②については、この科目の授業内容を刷新したことで、開講前は受講生の反応を気にしていたが、経済学部の授業評価の平均よりも上回り、概ね満足している。授業アンケートの自由記述において、教室にいない受講生の出席をできなくさせるようにしてほしいという回答があった。オンラインで出席を取る際に、自宅から出席で送信してくる受講生がいるためである。この点は重く考え、今後はWeb Classで出欠を取る際に、教室にいない受講生の出席を取ることができなくさせるように、Web Classのシステム設定を変えるなりして、厳格な対応を取ることにしたい。

③については、受講生は、私語もひとつもなく、熱心に受講していた。受講生がこの授業の達成度につながるよう、予習、復習用の配布資料を多用し、授業内容についても、さらに理解が深められるように工夫したい。

授業の改善については、毎年度、努めているが、特に今回の結果を見て、概ね好評だったと思う。だが、4.5を超えることができるように、さらにいっそう授業準備に努めたい。そして、本学のディプロマポリシーに応じた授業ができるよう、授業準備にも精進する所存である。

2025年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 市場の経済学A
授業コード 40D72-001
教員名 赤星 立
教員コード 103866
登録人数 13
回答数 6
回答率 46.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義で学生に理解を求めた具体的な目標は次の4点である。

- (1) 複数財の消費問題を理解し、需要曲線が合理的な消費者の行動の帰結として導かれることについて説明できる。
- (2) 複数の生産要素が用いられる生産の問題を理解し、供給曲線が合理的な企業の行動の帰結として導かれることについて説明できる。
- (3) 「消費者の理論の応用」として扱われる複数のトピックスについて（何も見ずに）講義できる。
- (4) （エッジワースボックスにおいて）厚生経済学の基本定理について説明できる。

授業は、上記の目標達成のために忠実に遂行された。試験結果を見る限り、学生は十分な理解に達することができたと言える。ゆえに設定した目標は達成されたといえる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

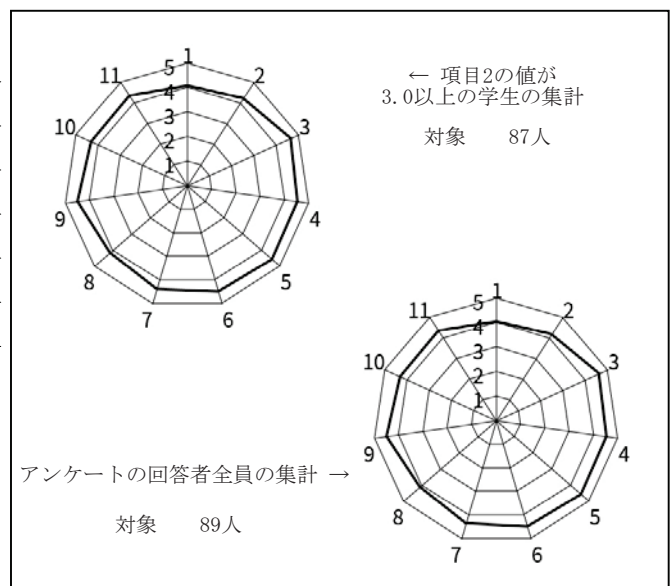
履修登録者のうち6名がアンケート回答に協力してくれている。実際の講義参加者は毎回1桁だったので、出席者のほとんどがアンケート回答に協力してくれた。評価については記述回答も含め、十分に満足している。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

昨年度よりも基礎を重視した。記述アンケート回答を見ると、それが効果的だったように感じられる。次年度以降も継続したい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本経済論A
授業コード 40D74-001
教員名 丸山 雅章
教員コード 104492
登録人数 261
回答数 89
回答率 34.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講当初の目標（日本経済に関する主要なデータや日本経済の現状・課題を総合的に把握することを通じ、日本経済の諸問題を分析するための基礎的な力を修得できるようになる）の正確な到達度はわからないが、項目4、10の回答の平均値、期末試験の解答成績から見ると、7割程度の受講生において達成されているのではないかと推測される。

② 数値データ及び自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

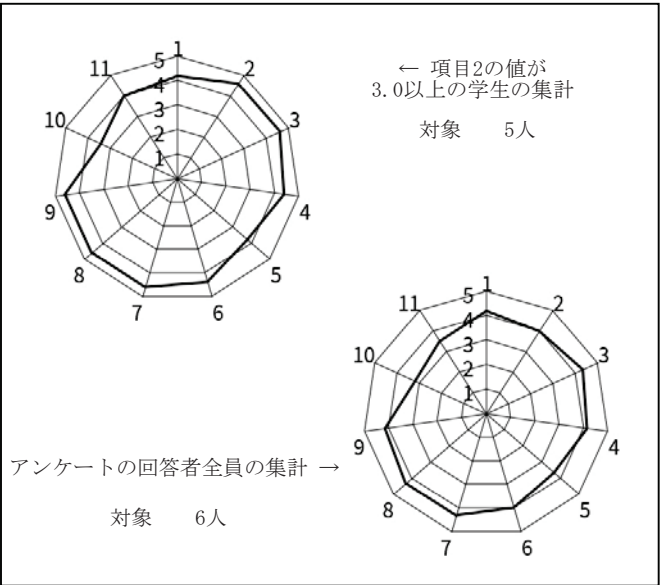
過去の授業評価で「スライドの文字量が多く、ポイントがわかりにくい」等の回答が見られたので、スライドの文字量を減らす、表現をわかりやすくする、ポイントを強調する等の工夫を行ったが、12の自由記述をみると「スライドがわかりやすい」旨の回答が多く寄せられており、これらの工夫が評価されたものと思われる。また、スライドの重要な語句を事前に空欄にしておき、授業の際にそれを穴埋めして提示する手法も、「勉強しやすい」と好評である。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今後の授業では、さらに見やすくわかりやすいスライドづくりに努めるとともに、関連するニュースや新聞記事の紹介を増やすこと等により授業への関心・学習意欲を高める工夫を行っていきたい。また、13、14の自由記述で「DB1教室の冷房が強く寒かった」旨の回答が複数見られたので、教室の温度にも気を配るようところがけたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Business Topics in English II2
授業コード	42G29-002
教員名	WOOD, Joseph
教員コード	103072
登録人数	12
回答数	6
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

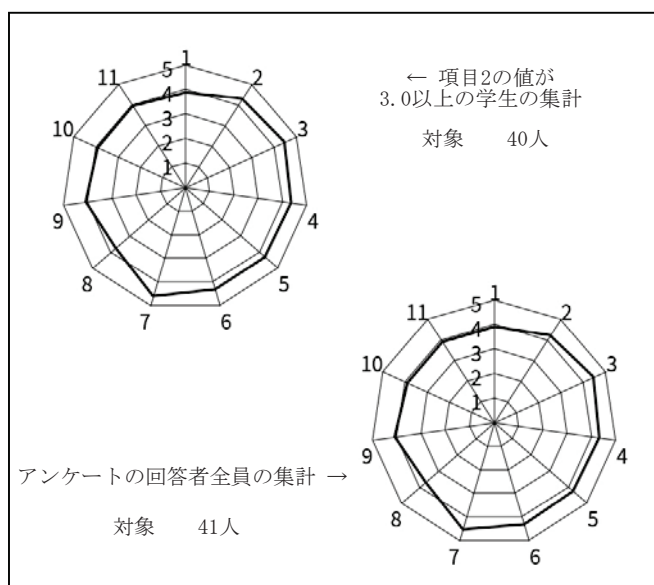


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am happy to learn that students in the class believe that they increased their English vocabulary and found that working with and speaking with their partners useful. Overall, it seems students enjoyed the style of teaching and using apps such as Quizlet to help them learn better. Some students reported that the content was too difficult. I am not the coordinator for the Business English program and was assigned the textbook to use in class. I agree with some of the students though that the content is difficult. I have met with the program coordinator, and he has decided to make the content easier for students from quarters three and four. We both hope that this will help students better understand the readings in the textbook and to better enjoy the class. The only issue with the class has been the reading level in the textbook, so once this is fixed, it should really improve the class and students' feelings about it. Other than the textbook used for quarters three and four featuring easier to understand readings for students, the rest of the class will be taught similarly to quarters one and two where students read and discuss with their partners.

2025年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学A / Economics A
授業コード	48C28-001
教員名	神野 真敏
教員コード	103880
登録人数	96
回答数	41
回答率	42.7%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

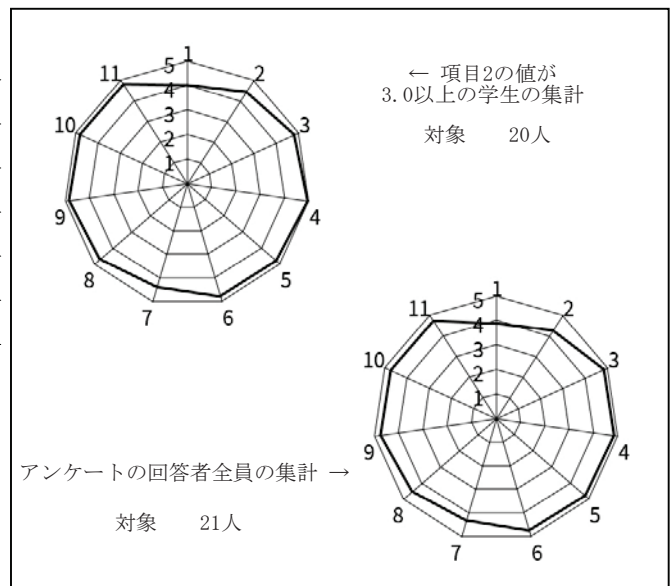
本科目は、以下の目的、経済学的な考え方、経済指標、そして経済関連の記事を理解できるようになることを目標として、ミクロ経済学、マクロ経済学、データ分析、国際経済など、経済学の基礎から応用まで扱う範囲は多岐にわたるものの、講義レベルは入門レベルで講義することを掲げて、講義を行ってきた。

アンケート結果を見ると、設問1、この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたかにおいて、3.90（開講主体別平均：4.15。以下同じ）とあり、相対的に低い期待であったことがうかがえる。ただ、その期待を良い意味で裏切れるほどの良い講義ができていたかといえ、項目3から11の平均は4.16（4.55）とやはり低く、さらに相対的に低下している結果となっている。この点については、更なる改善が必要であると思われる。特に、自由記述欄における「授業が難しかったです。初心者には向かないと思いました。」とあるように、私が入門レベルと考えていた水準というよりは、少し難しすぎる傾向があったかもしれない。扱う内容、あるいはシラバスでの最初からの説明など工夫を重ねていきたいと思う。

ただ、その一方で、評価できることとして、「スライドと説明がわかりやすかった。」「先生が一から丁寧に説明してくださったこと。」など、評価されている部分もあり、「分かりやすさ」と「丁寧」を意識して、このような評価を増やしていきたいと考えている。

2025年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門5
授業コード	40B03-005
教員名	西 一夫
教員コード	103655
登録人数	58
回答数	21
回答率	36.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

データ処理入門の到達目標として下記の点を掲げた。

『ワードとエクセルの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける。』

この目標に対しては、授業評価項目番号4（授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか。）は4.86、10（この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか。）において4.71の評価となっているため、概ね達成できたと思われる。

項目13番の（授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったことがあれば具体的に・・・）において、「たまによくわからない」という指摘があるが、WORDやEXCELのスキルは個人個人でかなり違いがあるため、全体的に満足が行く授業速度では行えないが、今後自ら積極的に質問しづらさそうな学生に対しても、こちらから声かけをして学生一人一人へのサポートを深めていきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	農業経済論A
授業コード	40D52-001
教員名	園田 正
教員コード	102233
登録人数	17
回答数	4
回答率	23.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

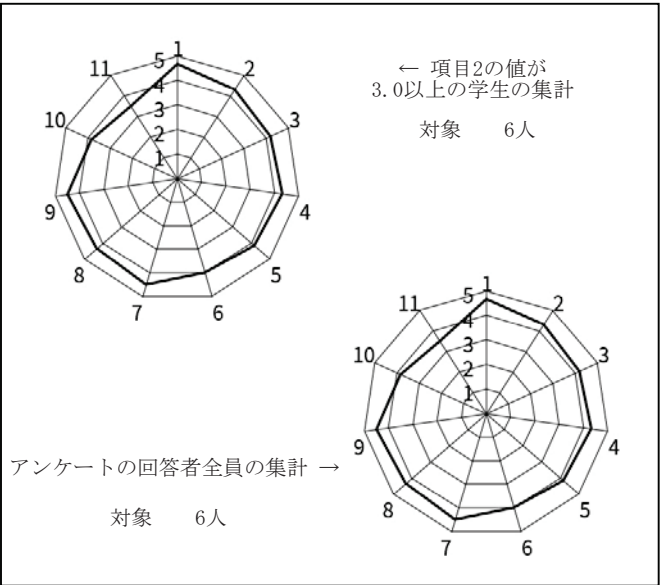
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、①日本の農業を取り巻く問題の変遷を、経済発展と関連づけて理解できるようにする、②これまでに採用されてきた農業政策を経済学的観点から理解できるようにする、③日本の農業について、自分なりの考えをもつことができるようにする、というものであった。①と②については、開発途上国と先進国（日本も含む）では農業生産や農産物に関連して異なる目標をもつために、異なる農業政策が実施されてきたことを経済モデルに基づいて学び、試験の成績から、相応の理解が得られたものとする。③については、講義での質問や試験の解答などから、各学生が日本の農業に関心をもつようになり、自分なりの考えをもつようになったのではないかと考える。授業評価集計結果から、全体としてこの講義に満足したかどうかは4.00であることから、おおむね良好な評価が得られていると考えられる。今後注意する必要がある点もいくつかあるかもしれないが、基本的には現在の講義方法を継続していけばよいと考える。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語A2
授業コード	40E04-002
教員名	MOORE, Jonathan
教員コード	101410
登録人数	31
回答数	6
回答率	19.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

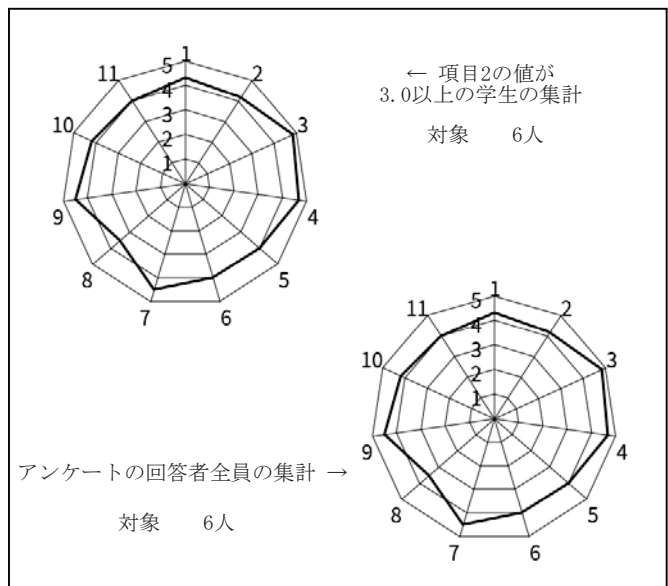


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The overall scoring of the set of questions has been examined and it was very positive. Students were engaged in the lessons. Most students were self-motivated to prepare for classes and projects, do assignments and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. A syllabus was uploaded along with other materials for students. PowerPoint lectures were uploaded for students. The class was adjusted to the student's needs and level. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students seemed very interested in acquiring communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques, and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	時事英語A2
授業コード	40E06-002
教員名	森川 信子
教員コード	100136
登録人数	10
回答数	6
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

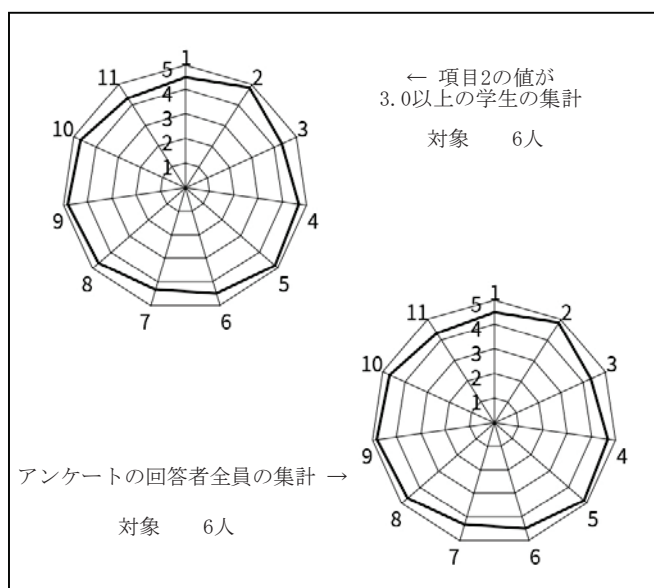


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、The Japan News、CNN.com、VOANews.com、Reuters.comなどの英字新聞やウェブニュースから採られた記事を読みました。具体的には、各章ともメインの記事の購読を中心に、リスニング（記事の一部の書き取り）、分野ごとの語彙増強を行いました。扱った記事のカテゴリーは、経済・ビジネス、文化・社会、裁判・法令、地球環境・気象、エネルギー・資源、人口問題、科学・技術などでしたが、特に環境や日本の社会問題の分野に関心が強い印象でした。このクラスでの学びが今後の英語メディアへの継続的な関わりにつながっていくことを願っています。試験結果を見ても、設定していた到達目標は概ね達成できたのではないかと受け止めています。今学期使用したテキストは、記事の選択や問題の構成の点で以前のバージョンよりも取り組みやすくなっており、充実した注釈もあり、クラスにちょうど良かったと感じました。アンケートの自由記述回答からは、余裕があった受講生もあったようですので、次の機会にはこちらで解説する部分を減らし、取り組む課題を増やしてみてもよいかと考えています。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 時事英語A4
授業コード 40E06-004
教員名 NORTH Cameron
教員コード 100400
登録人数 20
回答数 6
回答率 30.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

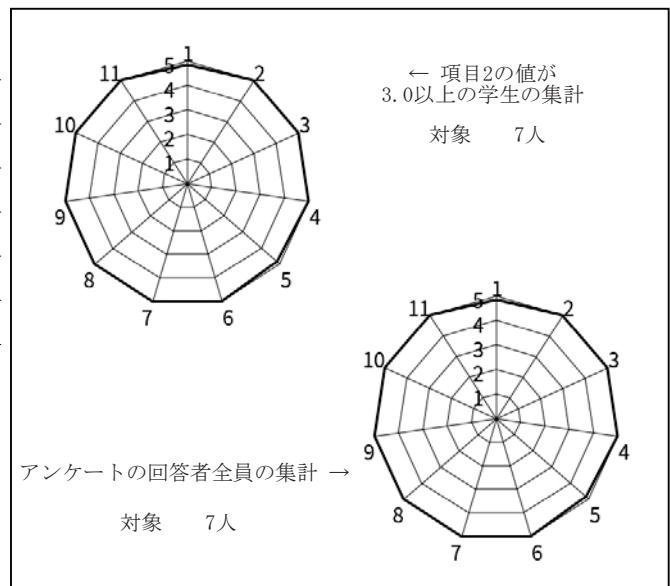
The basic goals of the class are for the students to improve their English communication skills. Additionally, the students should improve their understanding of subject studied. Overall, the goals of the class were achieved.

It seems to me that the class was a success. Students participated eagerly. In addition, almost all students did their homework. It can also be said that the students seemed to enjoy their time inside the classroom.

In the future, it is always important to try to achieve a successful classroom. To help in achieving such aspirations, it is important to always be prepared, listen carefully to the students and try to help the students reach their own personal goals,

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経営学総論B
授業コード 40F02-001
教員名 太田 幸治
教員コード 103267
登録人数 9
回答数 7
回答率 77.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

受講生が少人数であったため、学生の関心に合わせて講義をすることを心がけた。ゆえに当初設定していた目標とは異なる方向に話が進んだが、良い講義ができたと自負している

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

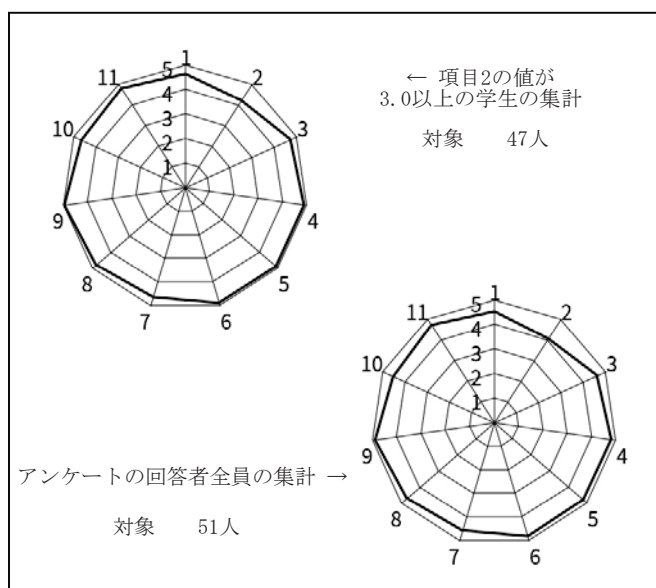
両者ともに高いスコアをいただいた。講義というものは、学生と教員で作るものである。この高い評価は、受講生が素晴らしかったことの証である。受講生が前向きに講義に参加してくれたおかげで、私自身も2コマ連続の講義を楽しく展開することができた。受講生諸君に感謝したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

100分2コマ連続の講義ゆえに、学生を引き付ける講義を展開するには工夫がいるように思われる。近年、当該科目は受講生が大変少なく、学生も協力的であるゆえ臨機応変な講義を展開できているが、これが受講生が増えた場合、どのように展開するのかについて検討せねばならないだろう。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経済学A1
授業コード 12C08-001
教員名 相浦 洋志
教員コード 103642
登録人数 71
回答数 51
回答率 71.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

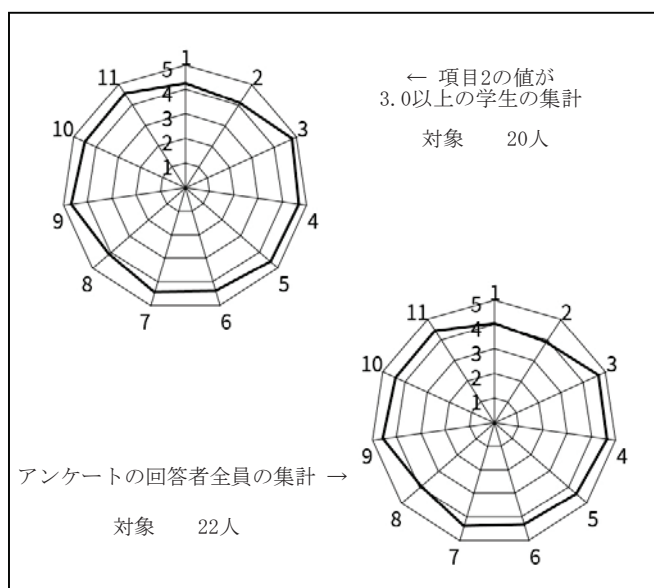


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回アンケート対象となった科目は基盤科目であることから、様々な学部からなる受講生を想定した上で、共通教育DPIおよびDPIIで求めている多様性を前提とした人間の尊厳を尊重する姿勢の重要性を経済学の視点から読み解くことを意識して授業を行った。その結果、授業評価アンケートでは、項目番号4以降の項目については基盤科目の平均値よりも高い評価となった。また、自由記述欄において、「身近な事柄から導入して経済学につながるまでの流れが非常にスムーズで、経済学と縁がない自分でもすごく理解できた。」、「はじめは経済学に全く興味がなく、登録の時に名前をみただけで履修はやめようと思っていましたが、シラバスを読み興味がわいたので受けてみたところ日常の事柄と結びつけて説明して下さったためとても楽しく学ぶことができ、今までと比べて経済学に対する苦手意識がかなり減ったこと。」、「基盤・学際科目で、受講者が経済学部生徒だけではないということもあり、生徒に寄り添った授業の進め方だったこと。」など、私の意図した授業内容を反映するコメントもあった。これらのことから、開講当初に設定したとおりの講義が実践できたと感じている。今後はさらにブラッシュアップをして授業に臨みたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	データサイエンス入門5
授業コード	13E12-005
教員名	神野 真敏
教員コード	103880
登録人数	37
回答数	22
回答率	59.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



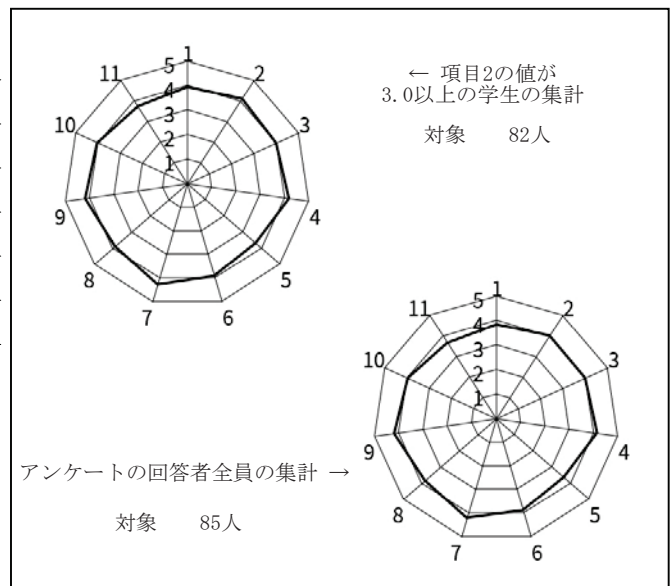
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、共通シラバスのもと、各教員が、データ・AIの基本特性（可能性と限界、留意点）を正しく理解したうえで、実際にデータを活用するための基本的な技能を学生に習得してもらえるように授業を行っている。到達目標としては、主に、「社会変化とデータ・AI利活用の最新動向について把握できるようになる」こと、「データ・AI利活用の活用領域、その方法、留意点について説明できるようになる」こと、そして、「外部データの収集、検証仮説の設定、データ分析、資料作成、分析結果のプレゼンといった一連の分析手法を習得できるようになる」ことでした。

この目標に到達すべく、また全学部に対して開講していることなども考慮すると、ともすれば、一人でPCとのにらめっことなりやすい科目であるため、当初よりグループを作成し、そのグループ内での作業を行うことを増やすことでわからないことを聞きあえるような空間づくりを心掛けたつもりであった。このため、グループ行動について好意的な自由記述が多く、ある程度は成功したと思われる。とはいえ、その一方で、「学生同士の関わり合いを促進させる働きかけがもっとあると、グループワークがやり易かった」、あるいは、「グループが少しむずかしかった」という意見もあり、グループ活動のすべてがうまく行ったわけではない点は、今後の課題として考えていきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学1
授業コード 40B01-001
教員名 實多 康弘
教員コード 100751
登録人数 183
回答数 85
回答率 46.4%
休講回数 6 回
補講回数 6 回

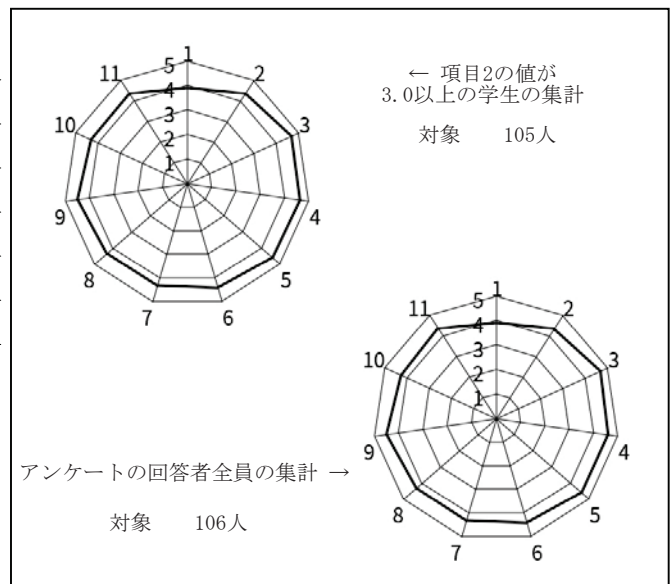


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、ミクロ経済学の数理的な分析手法を理解して、市場による資源配分の効率性や市場の失敗について理解することを目標としている。また、基本的な理論モデルを用いた経済分析を行う能力を養うことも目指している。この科目の授業評価は3回目である。第一に、目標はおおむね達成できた。本年度は主に公務などで休講をせざるを得ず、補講もあり、一部の学生にとっては授業日程が変則的で対応が困難だったようである。その代わりに補講では、練習問題を解説し、授業内容についての質問に対して丁寧に回答した。さらに、授業内容に関連する動画をアップロードして、学生に視聴できるように便宜を図った。学生にとっては復習になり、自由記述では、説明が分かりやすく、よく理解できたとの高評価であった。また、レポートを課してその内容を通常の授業中に解説することで、学生の勉学意欲を高め、理解度を確認しながら授業を進行することができた。第二に、今回は数式を用いた分析を最小限にしたため、多くの学生にとってよく理解できたとの評価があった。第三に、今後の改善点や抱負については、学ぶ目標や今後の学びにどのようにつながるかをより一層丁寧に説明して、数理的な分析手法に関心のある学生の能力をもっと高められるようにする。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学2
授業コード 40B01-002
教員名 赤星 立
教員コード 103866
登録人数 182
回答数 106
回答率 58.2%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義で学生に理解を求めた具体的な目標は次の3点である。(1) 需要関数，供給関数を導出し，その特徴を理解する。(2) 余剰の概念を用いて市場の効率性を理解する。(3) 2財モデルにおいて，所得や価格の変化が財の消費量にどのような影響を与えるかを理解する。

授業は，上記の目標達成のために忠実に遂行された。試験結果を見る限り，学生は十分な理解に達することができたと言える。ゆえに設定した目標は達成された。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

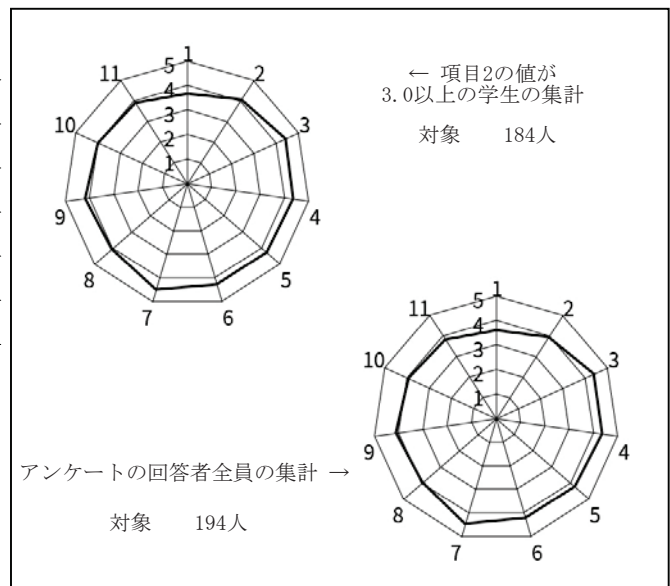
履修登録者数約180名のうち106名がアンケート回答に協力してくれている。昨年度も同科目がアンケート対象であったが，回答者数に大きな変化はない。概ね実際の講義出席者と一致している。評価についてはそれなりに満足している。昨年度を下回る評価項目は存在していない。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

昨年度の結果を踏まえて授業の進め方や試験問題のレベルを変えた。しばらくはこのまま継続したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	経済思想入門
授業コード	40D04-001
教員名	荒井 智行
教員コード	104493
登録人数	344
回答数	194
回答率	56.4%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



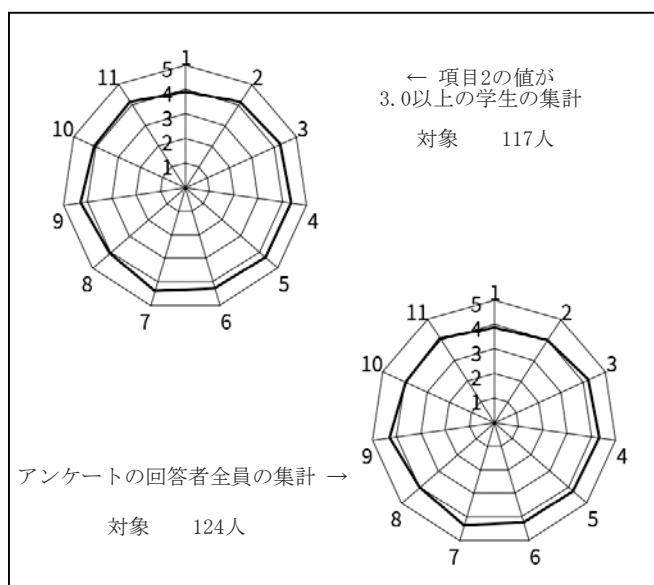
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①については、概ね達成できた。受講生の反応に応じて、授業速度や内容を若干変えることにより、シラバス記載通りの内容で講義を進めることができた。②については、受講生がこの授業の達成度につながるよう、予習、復習用の配布資料を可能な限り多く用いた。授業では、学生の前向きな参加を促した。補講を1回行いその際に出席を取ったが、それに対する不満の声が多かった。前任校では、補講の1ヵ月前に補講日を告知した場合は、受講生は出席することが当然とされていた。本学において、補講で出席を取らないということが慣例化あるいは当然とされているのであれば、あらかじめ事前に知っておきたかったというのが本音である。それにより、アンケート結果においても相当に悪く響いたように思われる。

昨年度の同じ授業のアンケート結果では、たしか4.5ぐらいだった。アンケート結果を悪く影響してまでも無理して出席を取る教員はおそらく誰一人もないので、補講では出席を取らないよう告知を徹底してほしかった。補講日に出席をとったことに根をもった受講生かどうか分からないが、自由記述欄の改善点の中で、ありもしない意見が複数見られたことは大変残念である。昨年度の同じ授業のアンケートではそのような記述がなかっただけに、もし補講日の出席が関係しているのであれば、特にそう思われる。③については、受講生は、私語もひとつもなく、熱心に受講していた。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	経済成長論A
授業コード	40D09-001
教員名	前林 紀孝
教員コード	104801
登録人数	363
回答数	124
回答率	34.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

以下シラバスに書いた目標であるが5段階中4以上に評価だったので、おおむね達成できたと思われる。試験の平均点も70点台後半と内容の難しさのわりに高得点だった。分布はものすごく高得点の集団が固まっており（100点が11人）、一方で低得点も一様に分布している結果となった。数式が追えている集団と全く数学がわからないという集団とでどうしても大きな差につながってしまうことになった。後者の人にとっては苦痛だったと思うので申し訳ない。経済成長論という応用科目なのである程度数学が必要で、悩みどころである。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

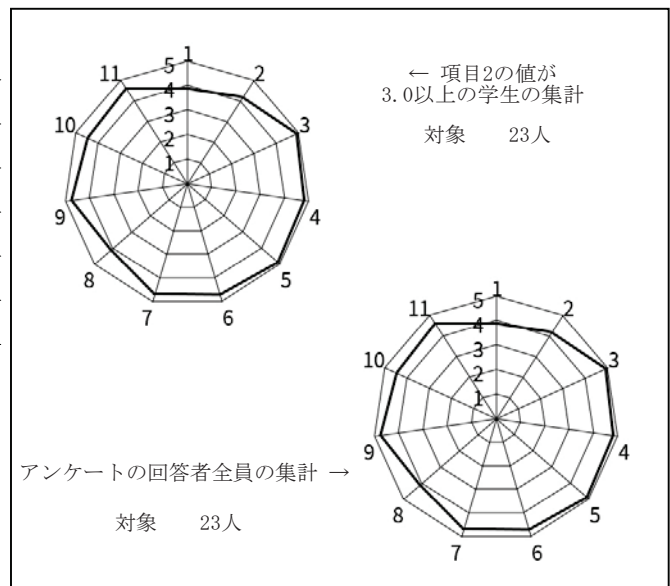
レジュメと説明が丁寧でわかりやすかったという好印象のコメントと、いかにも苦痛だったのだなという悪印象のものに大きく分かれた。板書の文字が小さい、書くときにホワイトボードから離れてほしいなど、確かにあまり意識していなかった点のコメントがあり、改善していきたいと思う。後者のコメントについては100分間、必死で板書を書いているので、ある程度寛容にコメントいただけると嬉しい。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

私の授業はすべて必要なことは（試験に出る）、すべてレジュメにまとめているので、きちんと読めば理解できるようにはなっている。少し内容が難しいのは必要悪である。容易なことをやるのが勉強ではないのだから。「板書の文字が小さい」の部分は1パネルのボードに3行という最低限の大きさには書いているので、ある程度承知願いたい。前の方に座ってください。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	計量経済学B
授業コード	40D12-001
教員名	大鐘 雄太
教員コード	103641
登録人数	63
回答数	23
回答率	36.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、「計量経済学の分析手法について理解できること」を目標とした。授業の到達目標に掲げられた力がついてきていると感じるかどうかに関する設問（設問10）は4.43とまずまずであったが、定期試験の結果はあまり良好ではなかったことから、目標には及ばなかったと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

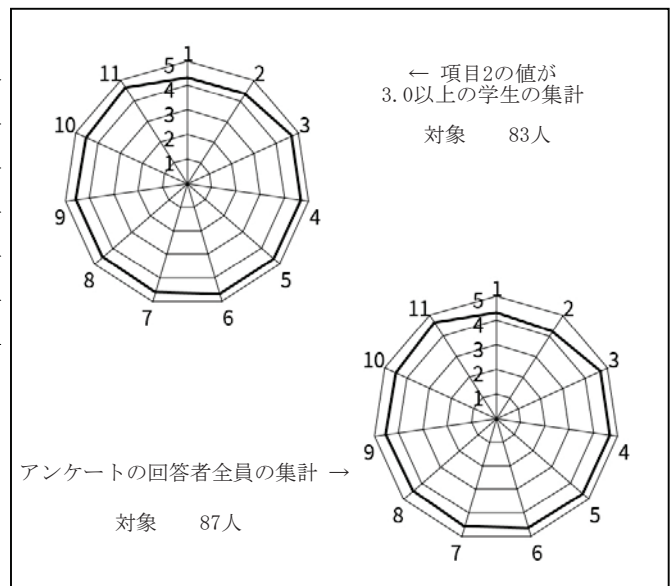
定期試験の結果にみられる理解度という点では課題が残ったが、(1)設問3から設問11までの9項目のうち4.5以上の項目が7項目あったこと、(2)全体の満足度に関する設問（設問11）が4.61であったこと、(3)設問3から設問11の平均が4.66であったことから、総合的には悪くなかったと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

先述のとおり、今回は定期試験の結果があまり良好ではなかったため、次回開講時には履修生の理解度を高めることにより、全体的な満足度の向上を図る予定である。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	経済統計論A
授業コード	40D13-001
教員名	宮崎 浩伸
教員コード	101892
登録人数	266
回答数	87
回答率	32.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

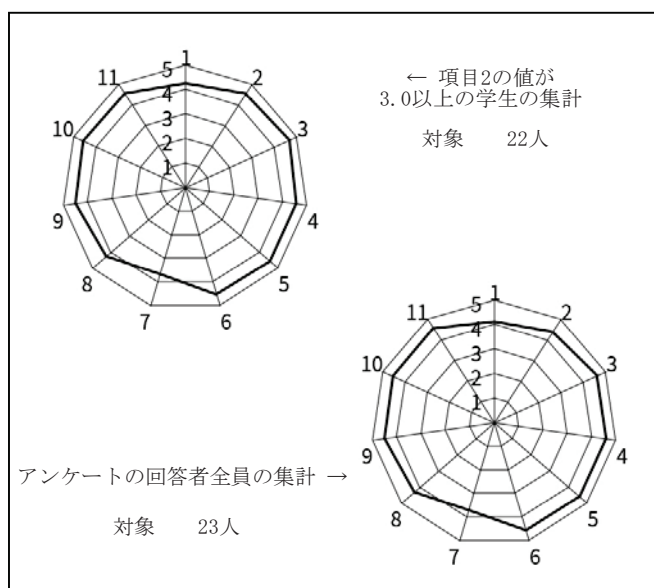
開講当初に設定していた目標に対する到達度としては、かなりよかったと思う。数字で見ても、今回の授業評価結果は、設問3～14の平均値が4.60、設問1～14の平均値が4.54であった。毎回の授業で、参加学生の態度が非常によく、真剣に取り組んでいる学生が多い印象を持った。私語や遅刻等もなく、授業の運営もうまくできて結果だと思う。やはり、授業は教員側だけでなく、学生と協力して運営していくものであることを実感した。

今後の課題としては、自由記述欄にあったように、授業スライドが一部見にくかったとの意見があったので、この点は今後改善していきたいと考えている。

自由記述欄では、「日々のニュースや新聞を見たときに見かける指標の解釈の仕方を具体的な数値を使って解説していて、イメージが掴みやすかった。」「わかるまで教えてくださり、とても理解できました。具体例を用いてくださったため、理解が深まりました。」「先生の解説が丁寧であること。」等の肯定的な意見を多くもらったので、引き続き、これまでのような授業運営で進めていきたいと考えている。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	理論経済学B
授業コード	40D16-001
教員名	井上 知子
教員コード	019166
登録人数	34
回答数	23
回答率	67.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

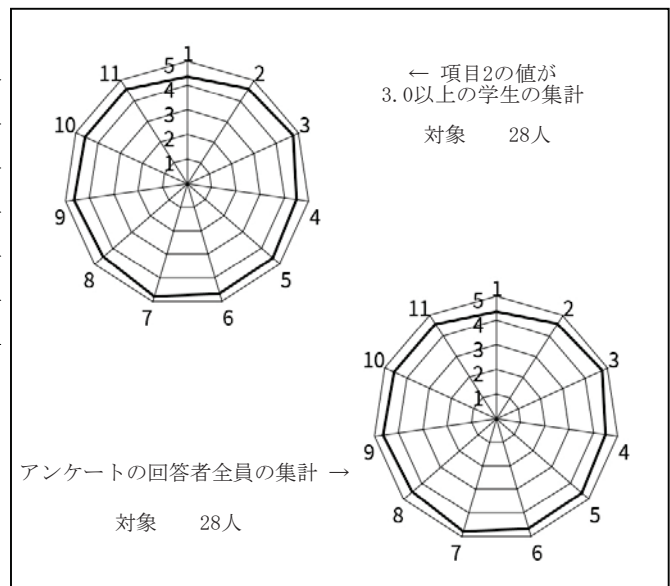
授業内容に対する事前の興味を問う項目1は4.13であった。他方、事後の理解度を問う項目10が4.52、事後の満足度を問う項目11が4.57であった。授業を通して、受講生の理解度、満足度を上げることができたのではと思う。

自由記述欄をみると、評価できることについては、①課題の解説が丁寧、②授業中の小テストで自分の理解度を確認できた、と書いた学生が各々複数いた。改善すべき点については、③スクリーンに映した板書を拡大縮小するのが見づらかった、④授業とは関係のない話をする学生がおり、集中できなかった、といった意見があった。

③について、確かに細かい数式を記述する際、画面を拡大しないと文字を書き込めず、画面を拡大して書き込んだ後に縮小して表示をした。確かに、拡大縮小の動作が早いとそれを見ると頭が痛くなると思うので、今後は気を付けたいと思う。また④については、大教室(R49)の後方の学生の話声に気づき、何度か注意したと記憶している。しかし、授業を進める中で後方の座席まで私が行くことがあまりなく、放置された状態があったのだと思う。問題を解かせる時間に教室を巡回したいと思う。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	財政学B
授業コード	40D27-001
教員名	西森 晃
教員コード	100624
登録人数	84
回答数	28
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の平均点が4.60で、問11（授業内容に満足したか）が4.57なので概ね高い評価をしてもらったと感じている。項目別に見ても特段低い点数はなく、自由記述欄も好意的な意見が多かった。

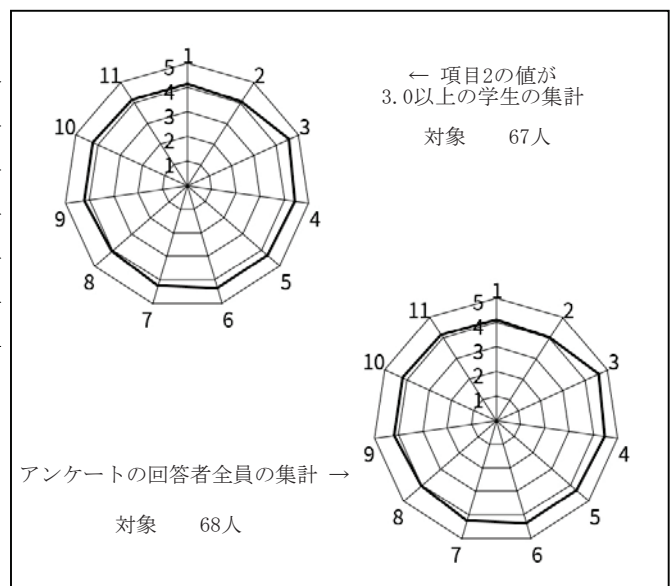
一方でコロナ以降、毎回同じことを書いているのだが、回答率が異様に低いことは問題と言える。今回は84名の受講生に対して28名しか回答してくれなかった。これが私のやり方の問題なのか、最近の学生の傾向なのかはよくわからないが、アンケートの評価が高いとしても、回答者が3分の1しかいないようでは、その結果を鵜呑みにするわけはいかないだろう。できれば回答しなかった学生が私の授業にどのような評価をしているのか聞いてみたい。

回答率以前に、学生の出席率もコロナ以降低下している。スライドを配布するなど、出席できなかった学生に便宜を与えるような対応をすると、それが原因で出席しない学生が増える。このトレードオフに対応する手段が見つからず、近年は苦慮している。

授業の進行としては概ね目標は達成できた。次年度以降も今回の方針を継続していく予定ではあるが、出席率やアンケートの回答率を上げる方法があるのなら試してみたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	租税論B
授業コード	40D35-001
教員名	岸野 悦朗
教員コード	103035
登録人数	190
回答数	68
回答率	35.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業は、法人税法及び消費税法といった法人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について、今後社会人として各種職業活動を行う上において、有益な知識を身につけるとともに、税に関する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。

授業に当たっては、日頃から法人税法等になじみのない受講生に対して分かりやすく説明する観点から、パワーポイント資料を見直す等改善に努めた。また、これまでと同様に税に関する時事的な新聞記事を毎回授業時に照会することにより、より関心を引き起こすよう配慮した。さらに、本年度より授業期間中において毎回授業内容を復習し、正しい知識を習得してもらうことを目的に行っているweb classによる小テストを評価対象とした。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

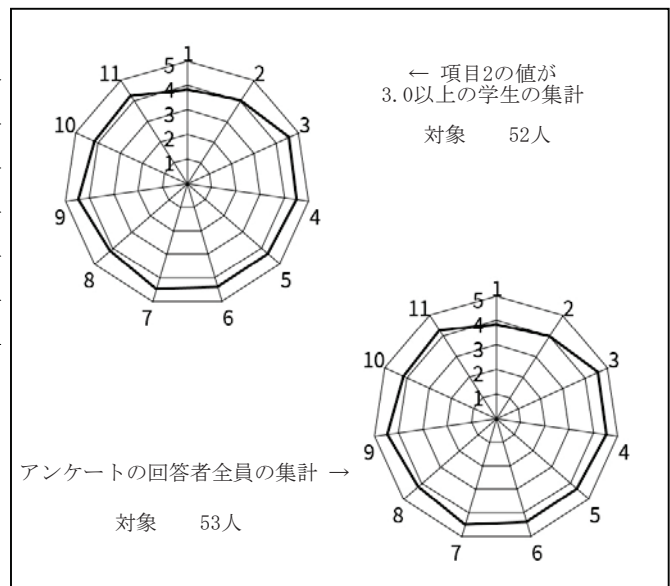
全体的な評価は、4以上であり、まずまずの評価であった。ただし、教室が縦長で、当初前席への着席を促したが、後ろの席で聞いている者が多く、また、小テスト後に退席する者も見受けられた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次年度が最後の授業となるので、これまでの取組を総括し、授業の進め方をより工夫する等充実した内容となるように取り組んで参りたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	開発経済学B
授業コード	40D47-001
教員名	林 尚志
教員コード	017897
登録人数	100
回答数	53
回答率	53.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

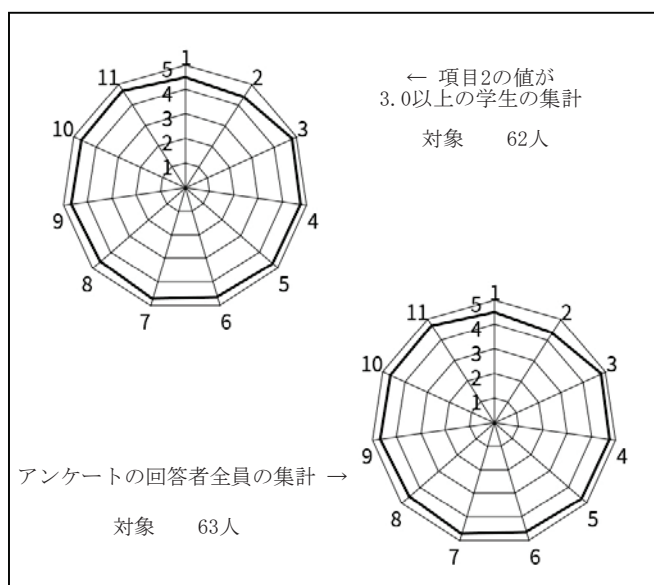
この授業では、経済発展を順調に進めてきた東アジア諸国とその他の国々との“開発戦略の進め方の違い”を考察しながら、途上国の“有効な産業育成のあり方”に対する理解や関心を深めることを目標とした。また、授業中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布し、これらの疑問に対する解答を探るという形で授業を進めた。

この目標の到達度については、「面白い内容だった」、「具体的なデータを参照しながら講義が進められていた」、「自分のやる気で細かいことまで知識をつけることができる」等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、「ノートがみやすかった」、「グラフや表を使ってわかりやすく説明していた」等のコメントがある一方で、「板書を見やすく書いてほしかった」、「資料を行き来するため、今どこの板書箇所なのかがわかりづらかった」等のコメントも見られたため、「考察内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、板書の内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、設問（8）と関連し、「授業中の学生への問いかけ」や「参考文献や資料等の紹介」でも工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心掛けたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際金融論B
授業コード	40D49-001
教員名	稲垣 一之
教員コード	104110
登録人数	141
回答数	63
回答率	44.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

アンケート結果を確認する限り、教員の説明が分かりやすいという意見が大半を占めており、講義内容を問題なく適切に解説できたと判断されます。講義中に解説した経済理論に合わせて多くの実際のデータを紹介しましたが、この方法も受講者の理解を促すうえで有効であったと考えられます。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

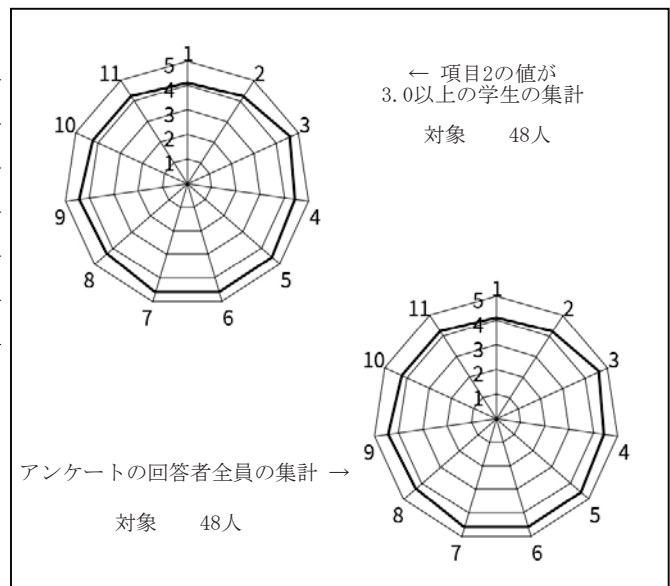
項目番号10や11などの総合評価が開講主体別平均値を大きく上回っており、数値からも講義を問題なく実施できたことが分かりました。また、自由記述についてもポジティブなコメントしかなく、講義内容や進め方は現状維持で問題ないと考えられます。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

専門的な解析テクニックを講義に取り入れましたが、上述した通り受講生は分析内容を正確に理解できたと判断されます。そのため、より高難度な分析テクニックを講義に取り入れても良いかもしれないと感じました。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	日本経済史A
授業コード	40D62-001
教員名	林 順子
教員コード	101007
登録人数	264
回答数	48
回答率	18.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

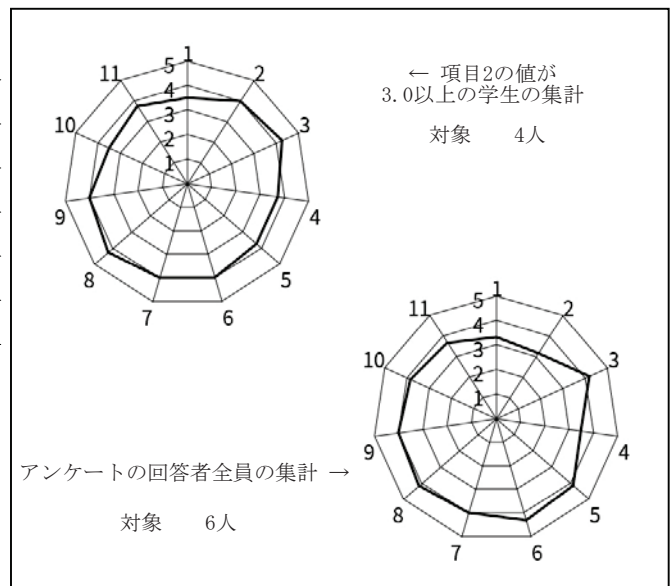
当所設定していた到達目標—愛知の「ものづくり」のルーツとなる江戸時代の産業の発達とそれを実現したこの地域の政治・経済的な特徴を理解する—の達成度について、学習意欲の高い学生とそうでない学生の間で差が大きかったように思う。今回授業評価は講義時間内に実施したが回答率が低いことから上記の前者にあたる学生が多かったと言える。結果、授業評価の結果自体は例年以上に全般に高い数値を記録した。

自由記述では、復習問題とともに講義への質問や授業進行への要望を毎回訊く習得度チェック（リアクションペーパー）を評価する内容が多かった。今回から復習問題の解答をその日の内に公開するようにしたためか、講義時間外の学習の評価が上昇した。自宅での学習（復習）も容易になったのではないかなと思う。

自由記述では猛暑が続く中で教室の冷暖房の環境にも注意を払った点にも良い評価がされたが、講義のリズムが狂うという指摘もあった。同じく、ペーパーについてよりきめ細かく対応をしてもらえると嬉しいといった内容もあったが、準備時間の確保や講義の進行とのバランスが難しく、今後の課題である。成績評価は試験100%だが、ペーパーの記述の中には復習問題の出来を成績に反映させてほしいとの意見もあり「日本経済史B」から対策を試行している。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	経済統計入門1
授業コード	40D05-001
教員名	塚本 高浩
教員コード	104478
登録人数	39
回答数	6
回答率	15.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、対面での講義も適宜行うものの、基本的には統計学に関する知識は動画で獲得し、対面授業では演習を行い知識の定着を図る反転授業形式で実施している。よって毎回の対面授業前における動画での予習をするかどうかは本授業を効果的に学修する上でのカギとなる。体感的にはおおよそ半数の受講生は動画を見ていない状態で対面授業に臨んでいるようであるため、次年度以降は改善を図りたい。アンケートの回答者はわずか6名であるために評価が難しいが、大きな問題は生じていないと考えられる。また、日本統計学会公式認定「統計検定2級」試験に合格する受講生もいたため、少なくともやる気のある学生にとっては本授業は有意義なものになったと評価している。

なお、統計学は、実際のデータ（標本）を分析して、データの特徴を整理・要約したり、データが生成された元々の集団（母集団）について推測したりする方法を学ぶ学問であり、計量経済学の基礎となる内容である。実際にこの授業も1年次配当科目である。しかしながら、他の1年生向け授業との時間割の重複もあり、2年生以上の受講となってしまう点はカリキュラムとして問題がある状態である。次年度は開講曜日を変更することから、その点は改善されることが期待される。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語B1
授業コード	40E05-001
教員名	MOORE, Jonathan
教員コード	101410
登録人数	13
回答数	4
回答率	30.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The overall scoring of the set of questions was very positive. Students put a lot of effort in the lessons. Students were self-motivated to prepare for classes and projects, do assignments and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. A syllabus was uploaded along with other materials for students. PowerPoint lectures were given for students. The class was adjusted to the student's needs and level. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students seemed very interested in acquiring communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	時事英語B1
授業コード	40E07-001
教員名	森川 信子
教員コード	100136
登録人数	7
回答数	4
回答率	57.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

このクラスでは、The Japan Timesなど日本の新聞社が発行する英字新聞や通信社等の記事を収録したテキストを使用し、社会問題や環境、科学技術、文化など身近なトピックの記事のリーディングを中心に、英文記事に慣れながら読解力と語彙力を養うことを目的として、授業を行いました。今学期は非常に人数の少ないクラスでしたが、そのことにより、1人1人にとって密度の濃い学習ができたのではないかと考えています。どの受講生も熱心に授業に参加していたと思います。毎回順調にテキストの範囲を終えて、その後に付加的に別の記事を読む時間を取ることもでき、学期終了後の自主的な学習や関心の継続へとつなげられたのではないかと考えています。以上のことから、当初に設定していた到達目標は概ね達成できたと考えています。自由記述回答では、文法面や語句に関して丁寧に解説した点が良かったと評価されましたが、一方で多少丁寧過ぎた部分もあったかもしれないので、もう少しメリハリをつけることも必要と感じました。今後も、受講者の学習意欲を引きだし、学習効果を高めるにはどのような教材・やり方がよいのか、引き続き考えつつ授業を工夫していきたいと思っています。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	時事英語B3
授業コード	40E07-003
教員名	NORTH Cameron
教員コード	100400
登録人数	7
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

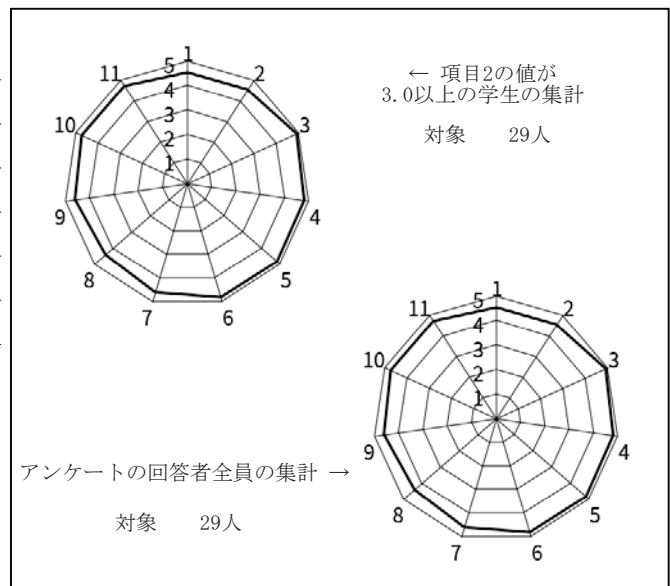
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, the class went quite well. Students had the opportunity to practice speaking English in pairs in class. They were able to study independently. And, they were able to improve their English. As usual, the more interest the students had in English, the harder they tried in this class. Unfortunately, there were few enquetes from the students. Also,, it is very good if students can make actual written comments about the class. This type of feedback is the best for the teacher.

In the future, I hope to encourage students to respond more to the enquete and to write actual comments in the enquete. In the class, I will always strive to create participation in the class and encourage students to study independently.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	民法A
授業コード	40F04-001
教員名	照井 遥瑛
教員コード	104799
登録人数	176
回答数	29
回答率	16.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

民法は国民にとってもっとも身近な法律であるにもかかわらず、抽象的な条文を多く扱うため、専門用語はできる限り平易な表現に改めて、「この条文や制度はどのような場面で誰をどのような理由で保護するのか?」、「この条文・制度が用いられることでどのような結果が生まれるのか」といった基本に比較的多くの時間を割き、具体例をできるだけ多く使用して履修者の理解を促すことで、履修者の知的関心を維持しようと努めた。アンケートの設問のほとんどにおいて平均値が4.5を超えていることや、自由記述回答においても好意的なコメントをいただいていることから、講義の到達目標を概ね達成することができたのではないかと考えている。

ただし、講義では土地や建物といった不動産の取引を念頭に置く場面が多く、履修者にとってはなかなか取っつきにくい内容であったと思う。内容が複雑な領域であることは確かであるが、民法は市民のための学問であり、知らないと損をする制度も多いため、興味関心をより強く抱いていただけるような授業を展開していけるよう、授業運営に努めていきたい。また、授業の時間配分を誤り、早口で説明してしまったり、板書が見えにくくなってしまった場面が何度かあったことは反省している。この点も次年度以降十分に注意して授業構成を再検討したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	商法A
授業コード	40F06-001
教員名	村上 康司
教員コード	103658
登録人数	13
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

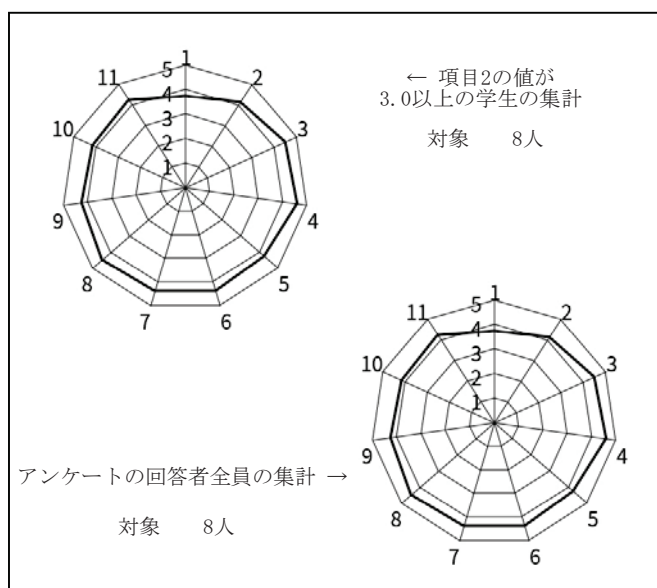
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①当初の予定した講義内容について、変更なく終了している。また、定期試験についても、少なくとも、基本的にほぼ講義出席がみられる学生は、相応に単位を取得できていることから、想定している程度の理解を習得できたものと思われる。
- ②それらを前提に学生からの評価や記述を参考としたいところではあるが、残念ながら、回答数が0であった。そのため、学生の意向を把握することができない。とりたてて声をあげたい（批判したい）点がなかったということで、おおむね満足を得られたのだろうと肯定的にとらえておくこととする。
- ③本年度において、講義担当を終了する。経済学における法学の講義ということで、前提となる法律の知識がない学生に、社会の経済活動の観点からいかに法的思考を意識してもらいつつ、会社法という法律学の中でも難易度のある科目に臨んでもらえるかというところみであった。この間、得られた知見を今後の別の機会に役立てていきたいと思う。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経済学B1
授業コード 12C09-001
教員名 岸 智子
教員コード 100346
登録人数 20
回答数 8
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

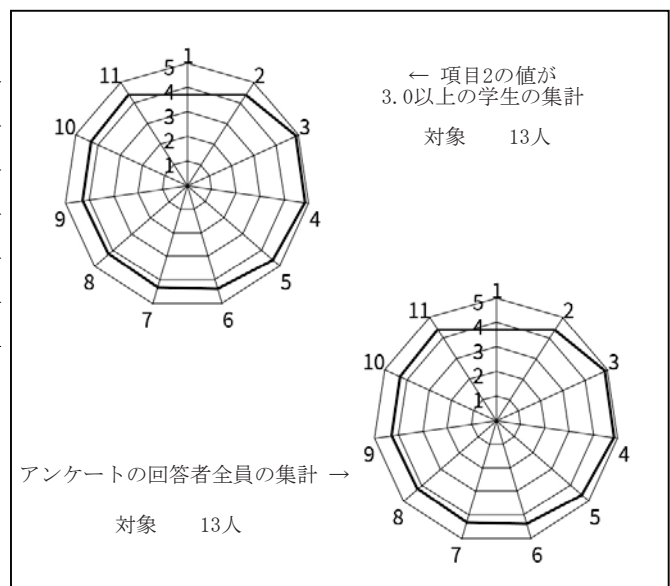


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 経済学Bは、南山大学において自分が担当する最後の授業である。授業の進め方には、これまで以上に気を配ったつもりである。設定していた目標は、8割くらいは達成できたと思う。
- ② 評点は総合的に見て、昨年より上がっていた。
- ③ それでも、自由記述の中に「難しかった」という意見が見られた。経済の理論を説明するときには、どうしても数式が出てきてしまう。もっとわかりやすい説明はなかったのだろうか、と考えることがある。しかし、私がこの科目を担当することは、もう無い。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相4
授業コード	13C06-004
教員名	梅垣 宏嗣
教員コード	102397
登録人数	34
回答数	13
回答率	38.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

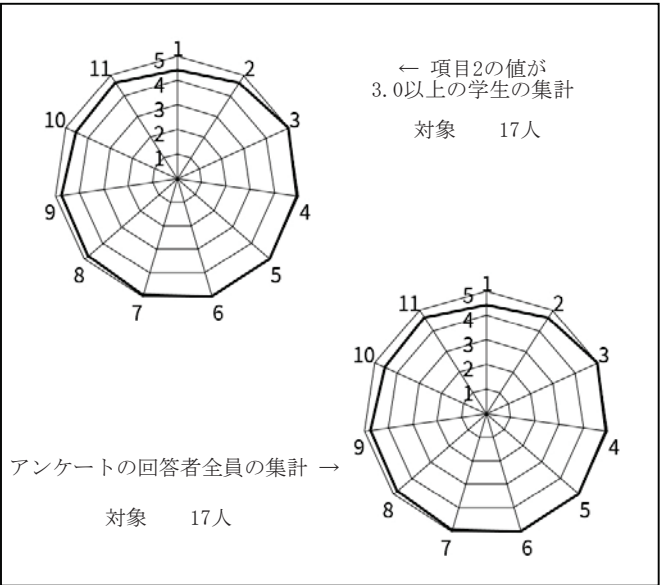
授業に出席し、定期試験を受けた受講者に関しては、定期試験の成績から見て、おおむね当初目標に到達したと言える。しかし、本科目を履修登録しながら、授業に（初回も含めて）まったく出席せずに、履修取り消しもせずに、定期試験も欠席した受講者が10名程度と多く、その点が懸念される（なお、4年生については、定期試験を欠席したのは1名のみ）。

授業評価アンケートに関しては、数値データも含め、特に大きな問題になる点はないものと考えられるが、上記の通り、初回から最終回まで授業に出席しない学生が少なくないことから、その点を考えると大きな課題を残していると言える。しかし、初回から授業に出席しない学生については、授業内容でアピールして出席を促すのは不可能であり、また、当該学生らは履修取り消しをしていないことから、GPAが下がることを問題視していない可能性もあり、抜本的な対策は難しい。

この問題について、本科目、あるいは、本科目担当教員の担当する科目全般について、「（いわゆる）楽単なので、授業には出席しなくても、過去問だけやっておけば何とかなる」といった考えで履修登録し、試験前になり、実際にはそんなに甘くないことが分かり、結果として試験を欠席したといったことも考えられるので、科目や担当教員に対するイメージが、安易な方向に流れるようなものにならないよう、授業の内外でアピールを続けていきたい。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	経済英語2
授業コード	40C01-002
教員名	WOOD, Joseph
教員コード	103072
登録人数	45
回答数	17
回答率	37.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

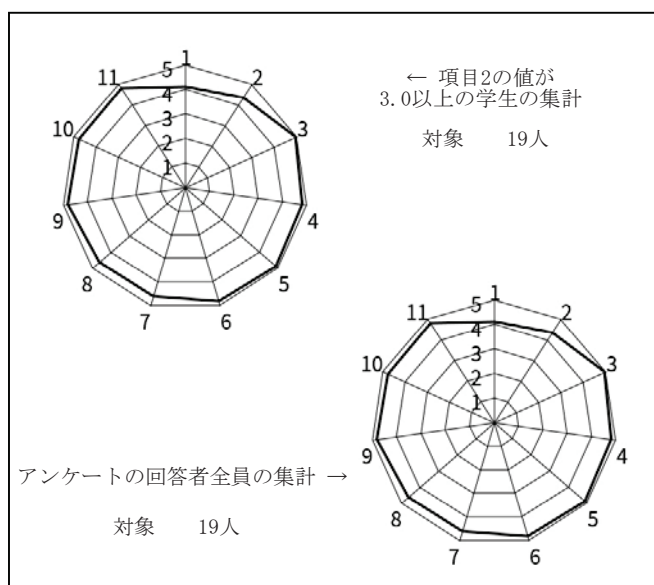


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am happy to learn that students enjoyed my English for economics class. It is good to know that students found the class interesting and easy to understand. Students also reported that they liked that they had time to speak English in class and to work together with their partners. Students also wrote that they liked the textbook and style of the class. I will continue to teach the class next year in a similar style and continue to have students work together in class with their classmates. Next year I will include more listening activities though and give students time to improve their listening skills in English as well. Overall, it seems that students were happy with the course though and the content, so no major changes will be made. I hope students continue to enjoy my class and continue to write positive feedback on the course surveys.

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読(政策)A
授業コード	40C04-001
教員名	蔡 大鵬
教員コード	103260
登録人数	44
回答数	19
回答率	43.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

〔1〕授業目標および達成度

本授業は、学科DP II-1（資料調査、文献読解、文書作成を行う基礎的アカデミック・スキル）の修得に特に関連し、学科DP IV-1（現実の社会経済問題を、経済学を中心に据えつつ柔軟で幅広い視点から分析・検討できる独自の思考力）の修得にも関連する科目です。授業では、世界銀行公刊の World Development Report 2019: The Changing Nature of Work を輪読し、仕事や企業についての理解を深めることを目的としました。また、補足として、日本経済に関する最新の報告書や、米国の最新の求人情報を分析した論文も紹介しました。

目標として、①英文の専門レポートを読み、その内容を理解できるようになること、②近年における仕事や企業の変容についての理解を深めること、の2点を設定しました。

〔2〕点検・評価

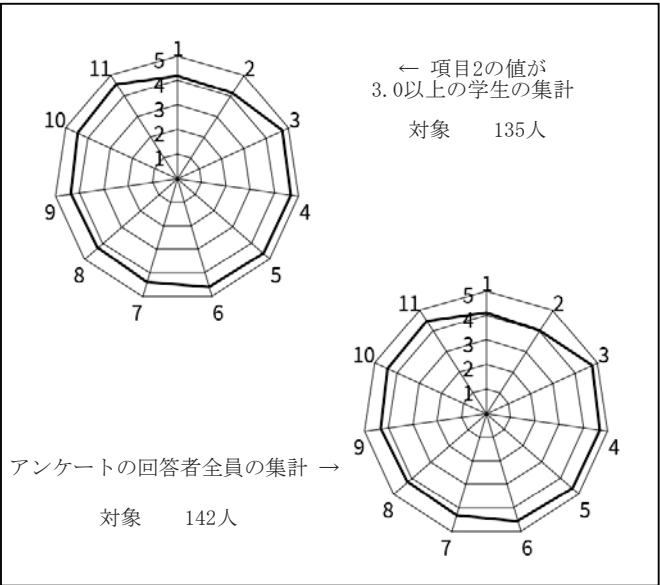
授業評価の結果として、設問1から14の平均値は「4.69」、設問3から14の平均値は「4.80」となっており、いずれも全体平均を上回っています。これらの結果から、上記の目標は概ね達成できたと考えられます。

〔3〕今後の抱負

英語で最新の学術論文や報告書に触れることへのニーズが高いことを、改めて確認することができました。今後は、学生の関心の高いテーマを踏まえて論文や報告書を選定することで、より効果的な授業編成を行っていきたいと考えています。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

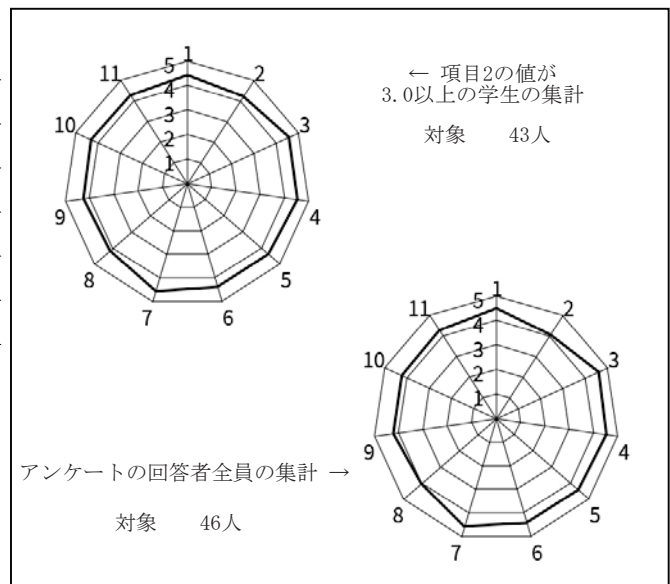
科目名	現代経済入門
授業コード	40D01-001
教員名	都築 栄司
教員コード	103265
登録人数	416
回答数	142
回答率	34.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	ゲーム理論A
授業コード	40D07-001
教員名	上田 薫
教員コード	016832
登録人数	252
回答数	46
回答率	18.3%
休講回数	2 回
補講回数	1 回



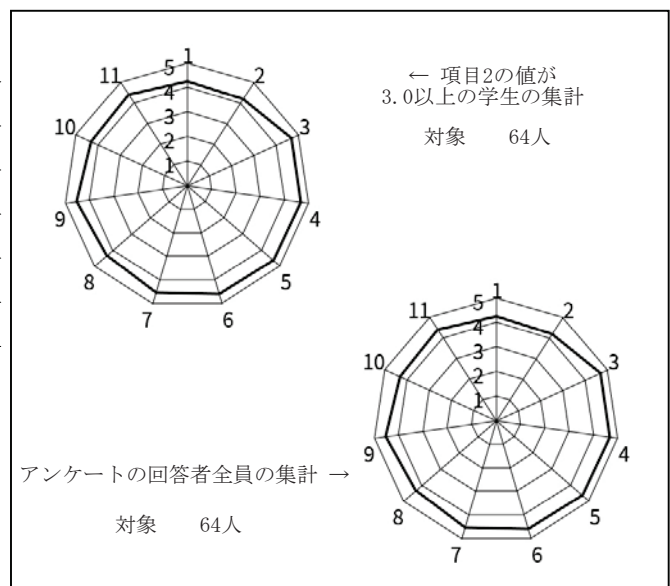
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はゲーム理論の基本的な考え方の理解を学修目標とし、特にゲーム理論の基本にあるゼロ和ゲームに関する理論を中心にしている。完全情報ゲームに関する記述を整理し、不偏組み合わせゲームの一般的性質や石取りゲームの必勝法に関する数学的証明などの本質的部分の説明を前倒ししたこと、ミニマックス定理に関する説明を見直しより分かりやすいものにする試みを行ったことなどが、前回授業と比べての変更点である。

設問8から設問11までの平均値がいずれも4.0を上回っており、学生にとって概ね満足のいく授業となっていたと考えられる。特に設問11の平均値4.28は、授業に満足してくれた学生が相当に多かったことを示しており、うれしく思う。この授業は経済学部の他の授業では扱っていない知識を提供することを目標の一つとしており、それに対する満足度が高いということは、学部教育に一定の貢献ができたかもしれないとの手応えを感じる。設問4、5、6、7の平均値のいずれも4.4を超えていることから、プレゼンテーションに関しても問題はないようである。平均値が最低だったのは設問8であり、4.04という数字だった。昨年度の授業評価を踏まえ、講義ノートで扱う数学的内容の一部は直感的な説明にとどめ簡略化するなどしたのだが、その効果はまだ十分ではないようだ。次回は証明のステップ等について、さらに工夫を重ねることにしたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 特別テーマ講義(政策)B
授業コード 40D43-001
教員名 丸山 雅章
教員コード 104492
登録人数 242
回答数 64
回答率 26.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講当初の目標（日本の財政、金融、社会保障の基本的なしくみについて理解できるようになる、日本の経済政策の役割、背景、方法を理解する等）の正確な到達度はわからないが、項目10の回答の平均値、定期試験の成績から見ると、7割以上の履修生において達成されているのではないかと推測される。

② 数値データ及び自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

過去の授業評価で「説明が単調で眠くなる」等の回答があったので、キーワードを穴あきにしたスライドを事前に「講義資料」に掲載しておき、授業の際にそれをカラー文字で穴埋めして表示する、最近決定された政策（ガソリン税の暫定税率廃止等）を題材に取り上げ、背景・ねらいをわかりやすく説明する等の工夫を行った。

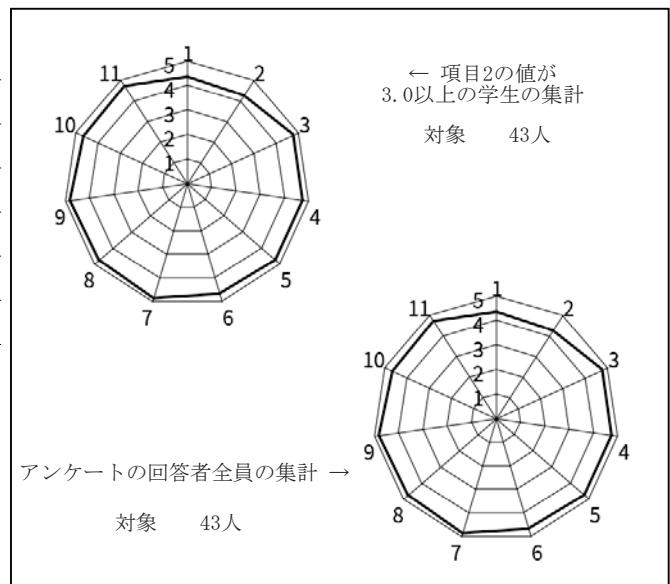
今回は、自由記述において、「空欄補充」、「現在の経済政策を取り上げていること」、「解説がわかりやすいこと、スライドが見やすいこと」等を評価する回答があるので、上述の工夫は一定の成果をあげることができたと考えている。一方、「1回の授業の資料の内容がやや多すぎる」との回答もあるので、1回の授業で説明する内容の分量には改善の余地があると考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今後の授業では、1回の授業で説明する内容の分量を見直し、より丁寧に説明するよう心がけたい。また、スライドを一層見やすく作成するとともに、政策に関するタイムリーな題材をよりわかりやすく説明し、授業への関心を高めるようにしていきたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	法と経済学
授業コード	42E08-001
教員名	小林 佳世子
教員コード	100487
登録人数	95
回答数	43
回答率	45.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、法、経営、経済の3学部にもたがる専門科目で、基礎的な分析手法の背景知識に大きな差があるという意味で、難しさのある科目です。それにもかかわらず、これだけの高い評価となったことを、素直にうれしく思っています。

講義では、まず基礎的な分析手法について解説し、その後、内容に入っていました。数学の使用は最低限として、グラフを使った視覚的な説明を心掛けました。法学部の学生さんからは丁寧でわかりやすかったという声、経済や経営の学生さんにとっては、ちょうどよい復習になった、こんなふうに応用できることを知って面白かったという声が多く、こちらもほっとしています。

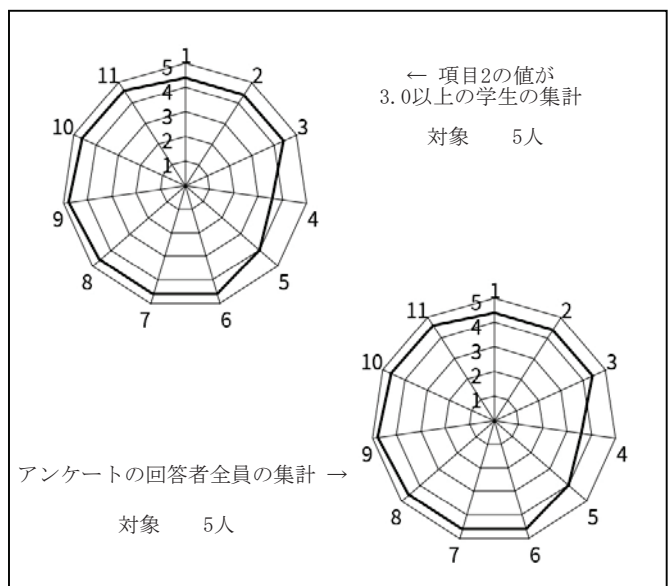
また授業では、研究の知見を受けて、スマホやノートPCの使用を原則禁止としています。反発も心配してはいるのですが、自由記述等を見ると、最初は驚きもあったけれど、やってみるとはるかに集中できることが分かった、頭に入りやすい、他の授業でもやってみようと思った等、ポジティブな評価がほとんどでした。原則として、引き続きこの方向性は続けていこうと思っています。

リアクションペーパーを見ている、この科目が何をやるのか当初は全くイメージが湧かなかったようですが、時間を重ねるうちに、経済学の視点で法を見るということの意味や意義を、かなりしっかりと理解してもらったことがよくわかりました。法学部の学生さんからは、学部では全く扱わない、とても新鮮な視点が本当に面白かった、とても大切な科目だと思うといった声が多数でした。経済・経営の学生さんからは、よく使っているはずの手法で、こんなテーマまで鮮やかに分析できることがとても新鮮だったという声が多かったです。

法と経済学が何をやろうとしているのかという点を、しっかりと受け取ってもらえたことを、本当にうれしく思っています。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際経済入門
授業コード 40D06-001
教員名 斎藤 佑樹
教員コード 105208
登録人数 77
回答数 5
回答率 6.5%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①

開講当初に設定していた授業計画をすべて終えることができなかった。その原因としては、学生の理解を深めるために実施した授業内演習およびその解説に、当初の予定よりも多くの時間を割いたことが挙げられる。その結果、授業の進度に影響が生じたが、演習とその解説は学生の理解を深めるうえで不可欠であったと考えている。

②

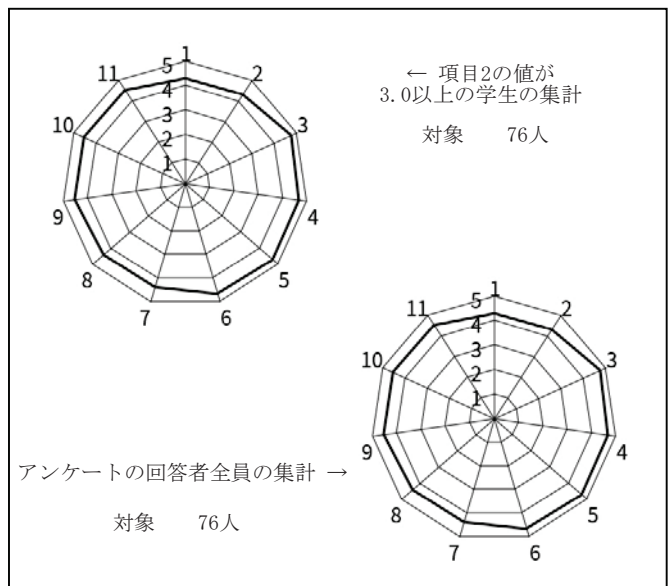
授業内で授業評価アンケート実施の指示を失念したため、回答数が非常に少なくなってしまった。そのため、アンケート結果が学生の評価を十分に反映しているとは言い難いが、結果に基づいて授業の点検・評価を行う。ほぼすべての項目で平均値は4以上であったが、設問4（授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか。）のみ平均値が4を下回った。これは、授業内で学習内容と到達目標の関連について十分に説明しなかったことが一因であると考えられる。どの授業内容の理解がどの到達目標の達成につながるのかを、より明確に説明する必要があったと考えている。

③

①および②を踏まえ、次年度は授業内演習およびその解説の時間が増えることを考慮した授業計画を策定したい。また、授業内で学習内容と到達目標の関連についてテーマごとに説明し、両者の関連性に対する理解を向上させるよう努めたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 アメリカ経済論A
授業コード 40D56-001
教員名 西尾 圭一郎
教員コード 104651
登録人数 367
回答数 76
回答率 20.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

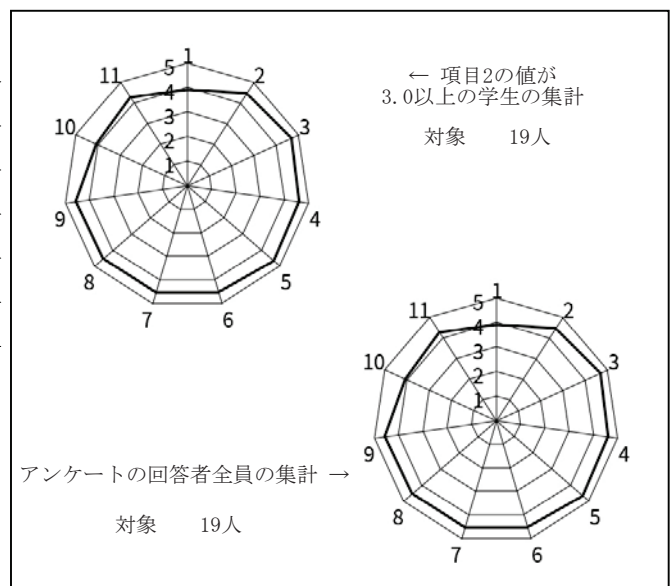
目標に対しては到達ができていた。数値については、他の授業との比較が無いのでわからないが良かったと思うので、このまま続けていく。自由記述を見ると、映像を使うことで理解が深まったように思えたので、今後も映像を適宜更新しつつ、講義と視角の両面で理解が深まるようにしていく。（ここまで130字程度）

当初は上記の分量までの記述であった。そうするとエラーが出た。増やして書き直せと。

はっきり言えば、こうしたアンケートに対する改善案を高々非常勤講師に書かせること自体が傲慢であり、腹立たしい。非常勤講師で来ている人間にそこまで労力を割かせないで欲しいし、割かせるのであればそちらが全体平均、上下の四分位の数字、傾向など、もっとデータを開示すべきである。比較対象もないまま400字も書かせること自体、無茶だし、失礼だと思う。何なら次年度の非常勤講師自体、もうやめてもいいと思うので、気に入らないのであればそのように言っていただきたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	法学概論
授業コード	40F08-001
教員名	滝谷 英幸
教員コード	104298
登録人数	41
回答数	19
回答率	46.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

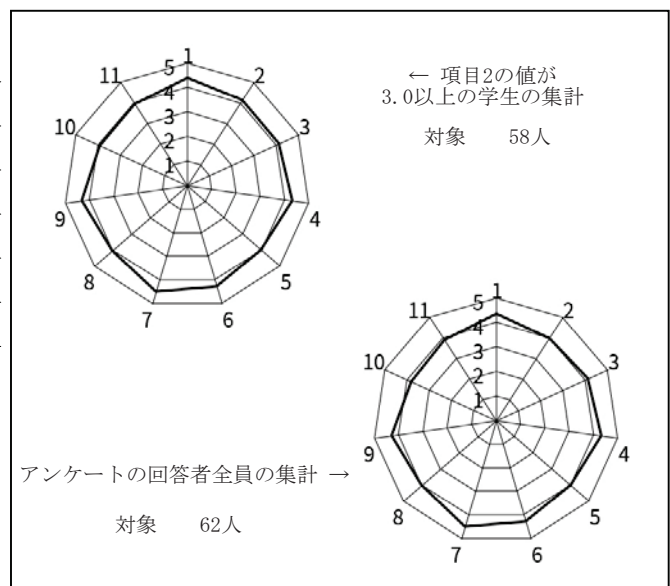


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①授業後の課題に対する解答や試験の答案、また、アンケートの自由記述をみると、法学を素材に「『正解』のない問い」について熟慮する、さらに、その過程で、「考える」という作業について考える、という目的は、ある程度達成できたのではないかと思います。
- ②この授業を担当するようになって6年目ですが、項目10や11に関する評価は年によってかなり変動するようです。授業の基本コンセプトや方法は概ね変わっておらず、扱うトピックや説明の仕方を履修者の反応を見ながらブラッシュアップしている（少なくとも教員はそのつもりでいる）ため、この変動の理由は、主として、その年の履修者の個性、特に、「最終的な『正解』はない。自分で責任をもって考えなさい」というスタンスをどう受け止めるか、という点に求められるように思います。今年の場合は、自由記述欄にあったように、「あきらかじゃなくてもヒントみたいな答えが欲しい」と感じた履修者が比較的多かったのかもしれませんが。（なお、「暖かくて眠くなるので換気をしてほしい」とか「自分の解答にフィードバックをしてほしい」とかいった記述については、「黙って座っていさえすれば、教員がすべてやってくれるのが当然」という「ご主人様」状態になっていないか、省みてほしいところです。）
- ③「主体的に考える、社会の一員としての自覚をもった学生」を念頭に置いて、基本的には現在の授業方針を続けていくつもりです。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 知識の探求2
授業コード 13E03-002
教員名 山下 忠康
教員コード 101152
登録人数 104
回答数 62
回答率 59.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度

・シラバスにおいて設定した到達目標は以下の5項目である。

1. 資本市場の仕組みと金融インフラを理解できる。
2. 資産運用の基本的な概念を理解できる。
3. 企業の財務面の特徴を把握できる。
4. ポートフォリオ理論と資本資産評価モデルの基礎を理解できる。
5. 株式、債券、外国証券、投資信託などの金融商品の概要を把握できる。

到達の程度は、授業の参加度（出席率）と筆記試験の相関関係をみる限り、ほぼ達成できたと自己評価している。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

・数値データが平均よりも低かった点は教員側の責任で、学生による評価は妥当だと考えている。教員としては、初めて実施する科目で講義資料作成等がゼロベースで、重要項目の絞り込みができず、学生に膨大な範囲の知識を詰め込んでしまった。その結果、学生が消化不良を起こしてしまったのではないかと反省している。

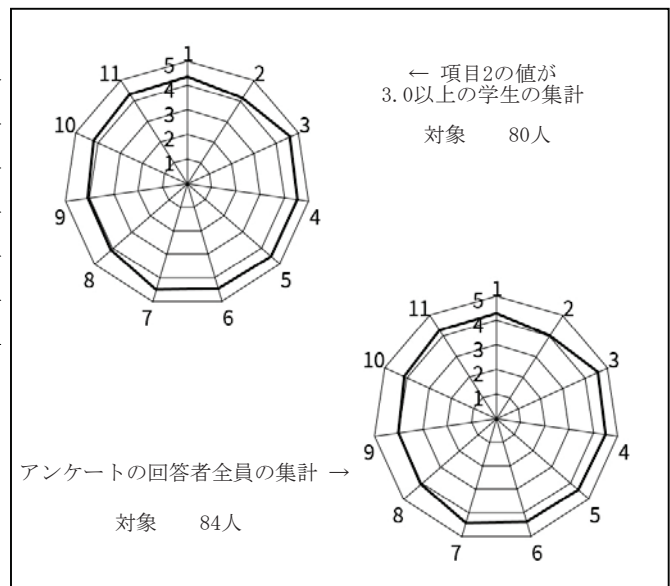
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

・本科目は、日本証券アナリスト協会が実施する『資産形成コンサルタント』の試験範囲に準拠させている。そのため、範囲が広く、やや専門性の高い項目も含まれている。この点は、当初から懸念していたことだが、今後はシラバスの一部をさらにカットし、重要箇所を焦点を当てた授業にすべきか、あるいは学生の資格取得を奨励するために、現状通り全ての範囲をカバーすべきかは、今後十分に検討したいと思う。来年度に関しては、今年度の講義資料があることを前提にすれば、もう少し要領の良い講義ができるものと考えている。以上

。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	経営史A
授業コード	42C15-001
教員名	中島 裕喜
教員コード	103065
登録人数	165
回答数	84
回答率	50.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

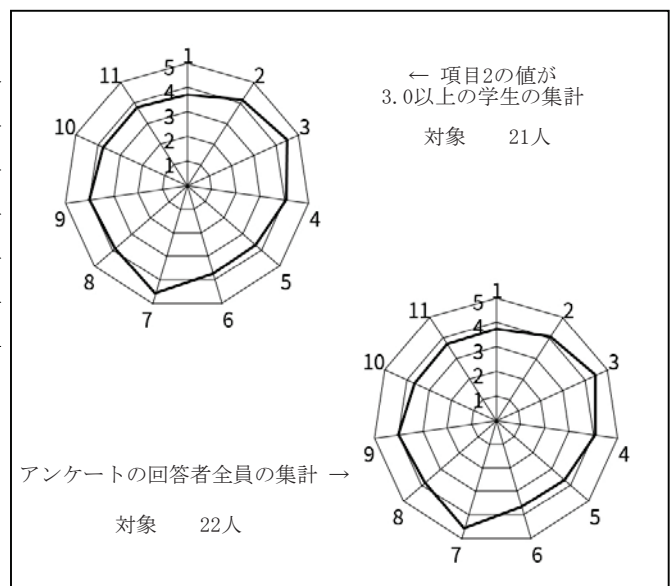


授業評価結果を踏まえた点検・評価

質問項目1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」と質問項目11「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」が同じ4.29であり、また諮問事項4「授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか」が4.52となっており、学生の期待を大きく損なうことなく講義ができたものと考えている。本講義では資料を多く提示しており、それを学生と読みつつ解説していくスタイルで進めているが、自由記述として「社史について詳しく学べた」「日本を代表する企業の企業経営や理念について本を中心に学ぶことができた」といった点を評価してくれる学生がいたことは、講義の狙いを理解してくれているため嬉しいことであった。一方、質問事項9「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか」が4.02と他の項目に比べると低く、教員側からの一方的な流れになっていたのかもしれないので、学生の声に耳を傾ける努力が必要と感じた。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 投資論(証券投資)
授業コード 42C30-001
教員名 赤壁 弘康
教員コード 100788
登録人数 47
回答数 22
回答率 46.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

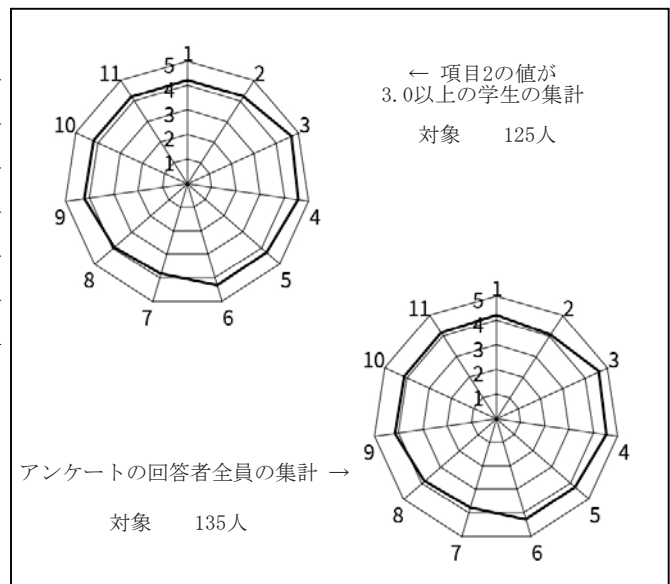


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた講義委目標はほぼ達成できた。積極的授業参加度を計るリアクションペーパー（13回実施実施）と任意提出の宿題（3回実施）、最終課題レポートで評価した結果、履修者47名中A+とA評価を与えた受講生は24名であり、全体の半数を超えた。この結果を見る限り、平均的な受講生の到達度も満足できるレベルに達したといえてよいと考える。しかし、7回すべて欠席した受講者を含め、履修中止することなく欠席過多となった受講生が12%いた。履修中止せず履修継続した今年度の他学部受講生は4名全員が理工学部であったが、欠席過多の1名を除いて優秀な成績であった。
- ② 毎度のことであるが、授業のスピードが速いという自由記述が多かった。リアクションペーパーで練習問題（公認会計士試験などの過去問）を解いてもらうための時間を確保する必要上、各回の授業は若干急いだかもしれない。しかし、WebClassで講義資料を公開してあったが、「初見で限られた時間内に練習問題を解くのは難しい」という自由記述が示すように、講義資料を予習・復習して授業に臨んでいるようには思えない受講生が少なからずいるのが残念である。また、授業時間中に十分なアンケート回答時間を設けたが、受講者47人中21名しか回答していなかった。
- ③ 次年度は受講生に予習・復習の時間をとるように促したい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会計学入門I2
授業コード 42C50-002
教員名 安田 忍
教員コード 101561
登録人数 173
回答数 135
回答率 78.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

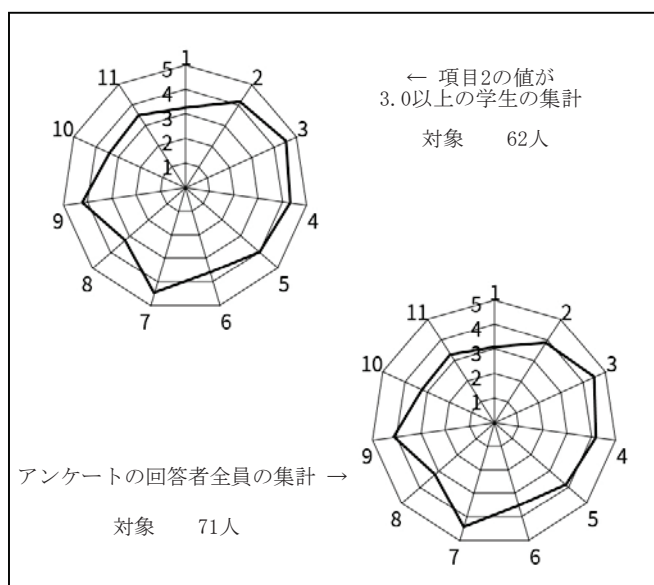


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、1. 会計の意義と役割について説明できるようになる、2. 複式簿記の仕組みについて説明できるようになる、3. 財務諸表の作成プロセスおよび財務諸表の見方についての基本的な理解ができるようになる、の3つである。会計学入門Iでは、決算修正事項に関する決算処理を除いて、取引の簿記を用いた記録から、財務諸表の作成に至るプロセスの学習を通じて、上記3つの目標を達成する。定期試験はよくできており、学生の評価でも設問4が4.54、設問10が4.11となっていることから、期待された到達水準に至っていると思われる。自由記述では、よかった点として分かりやすいとの記述が多くあったが、改善したほうが良い点として授業のスピードを上げてほしいという意見とゆっくりしてほしいという意見があった。受講者全体の理解度を上げるためには丁寧な説明も必要となるので、学生の様子を見ながら進めていくしかないと考える。なお、大教室であるため、ホワイトボードのインクが見にくいとの意見も多かった。ペン先が痛んでいたたり、インクがかすれるペンが多い教室があったりして、ホワイトボードはあまり得意でないが、より理解を深めてもらうには板書の利用が欠かせないので、ホワイトボードも見やすくなるよう工夫したい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経営学のための数学I1
授業コード 42C54-001
教員名 池田 亮一
教員コード 101880
登録人数 165
回答数 71
回答率 43.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

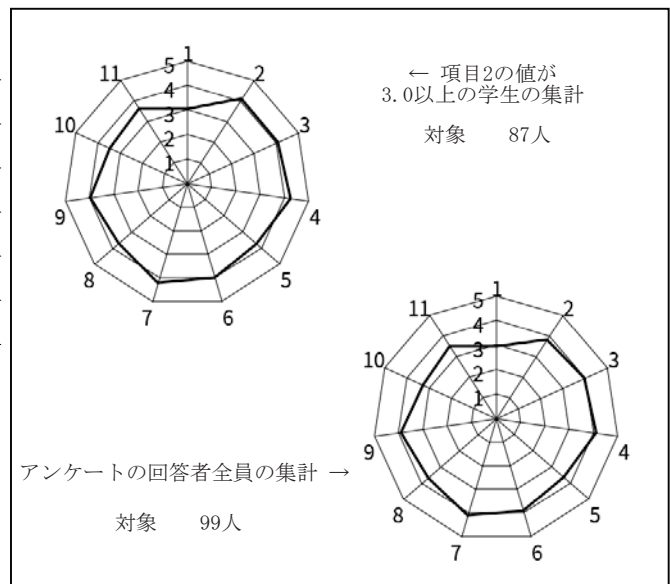


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、微分・積分・行列といった基本的な数学的手法を、経営学に必要な素養として丁寧に扱うことを目指しました。アンケート結果からは、シラバスに沿った授業の構成や教材面、講義の進行、質問対応に関しておおむね肯定的な評価が得られ、授業設計そのものについては一定の成果があったと感じています。一方で、受講前の関心度や、学習意欲の喚起といった点ではやや伸びしろがあると認識しています。特に「演習問題の分量が物足りない」といった声や、「応用例や実践的な視点があるとよかった」といった意見は、今後の改善に向けた重要な示唆となりました。これらを踏まえ、来年度以降は、実生活やビジネスに結びつけやすい導入や例題を意識的に取り入れ、数学に対する心理的なハードルを少しでも下げる工夫を講じていきたいと思っています。全体としては計画通りの進行ができ、到達目標もおおむね達成できたと考えていますが、今後も学生の反応をもとに改善を重ねていきます。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経営学のための数学I2
授業コード 42C54-002
教員名 宮元 忠敏
教員コード 017293
登録人数 163
回答数 99
回答率 60.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 目標と到達の程度：次の3項目を目的とし、すべて達成できた。1変数関数の微積分、2変数関数の偏微分、行列の導入

(2) 自己点検・評価：数値の大きいものと小さいものを2項目、それぞれリストしてみる。

1. 4.13 授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか。

2. 4.11 私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対応がされていきましたか。

3. 3.28 この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか。

4. 2.93 この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。

シラバスは複数回、授業中に参照した。自由記述が多く寄せられており、この授業に対する賛否両論が見いだされる。多様な背景をもつ履修生を前に、どのように納得できるような授業となせるかは、非常に難しい課題である。演習問題は、各回20分前後で、復習用に利用した。

(3) 改善点、今後の抱負：これまで、数学の担当を賜りありがとうございました。退職につき、一応の終止符でございます。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	経営統計学
授業コード	42D05-001
教員名	松井 宗也
教員コード	102275
登録人数	9
回答数	4
回答率	44.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

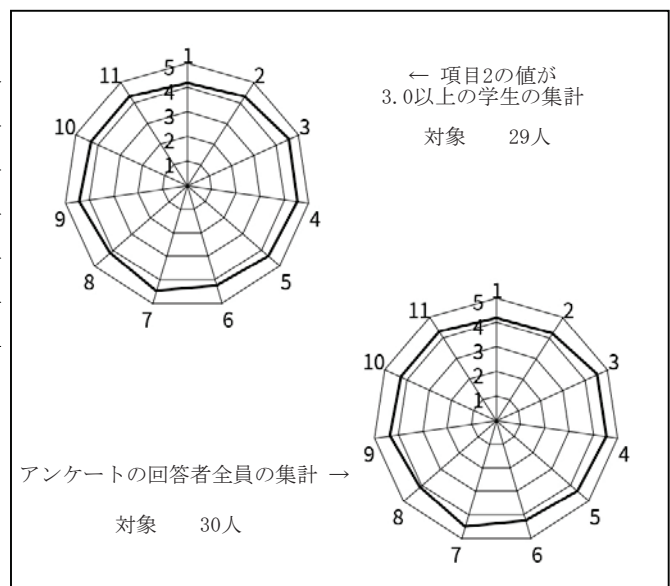
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生8名（1名は欠席過多）のうち授業評価アンケートを提出したのは4名以下であった。従って授業評価の集計はされず、本報告は自由記述回答のみを踏まえての評価報告となる。開講当初に設定していた目標は2点である。1. データ解析の基本的な考え方を理解できる。2. PCを用いて、実際にデータ解析を行える。1. に関しては、統計学の復習から始め、1年時に経営学部の「統計学」の授業を履修していない学生でも理解できるように工夫をした。そのかいもあり、授業時間に学生のプログラミングの様子を見回った感じからは、データ解析の基本は習得できていると判断できた。自由記述欄にも「丁寧に授業を行っていたこと」と評価されていた。2. に関しては提出されたレポートをもとに到達の程度を判断する。ソフトウェアを用いた実データの解析はどのレポートもある程度の基準はクリアしていた。解析に基づいた考察もきちんと書かれていた。受講生9名のうち最終レポートを提出したのは7名であったことを考えると、2. に関しても到達目標は達成できたと考える。ただし、反省すべきは授業アンケートの提出割合である。授業終わりに回答を再三促したにも関わらず、提出者が4名以下というのは反省すべきである。次年度は授業時間中に時間を設けるなどして、回答率の向上に努めたい。以上である。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング・リサーチ
授業コード 42D08-001
教員名 石垣 智徳
教員コード 101889
登録人数 59
回答数 30
回答率 50.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の設定した目標は、マーケティング・リサーチのプロセスを実行することができる能力を養成と習得した技術を応用するかたちで、消費者や競争市場に関する情報を収集、分析、解釈することを通じて、マーケティング意思決定を支援できるようになることである。最終レポートから判断すると全員が到達目標に達しているとは言えないが、6割程度の学生が、目標を達成できて言えると判断している。しかし、アンケート調査の結果、「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか(4.17)」「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や授業時間外の自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。(4.13)」という設問が、4.1点台であり、もう少し丁寧に本科目の目標や情報提供をすべきであったと反省している。その他、全項目については、4点以上であり、全体評価(設問14)は4.30であるのである程度は評価されていると認識できた。次期以降に向けての改善点については、授業中にExcelやRを使用したのだが、演習する際の例題の理解が乏しい学生が散見されたため、さらに演習を増やしていきたい。

2025年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	データ解析B
授業コード	42D10-001
教員名	竹澤 直哉
教員コード	101191
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

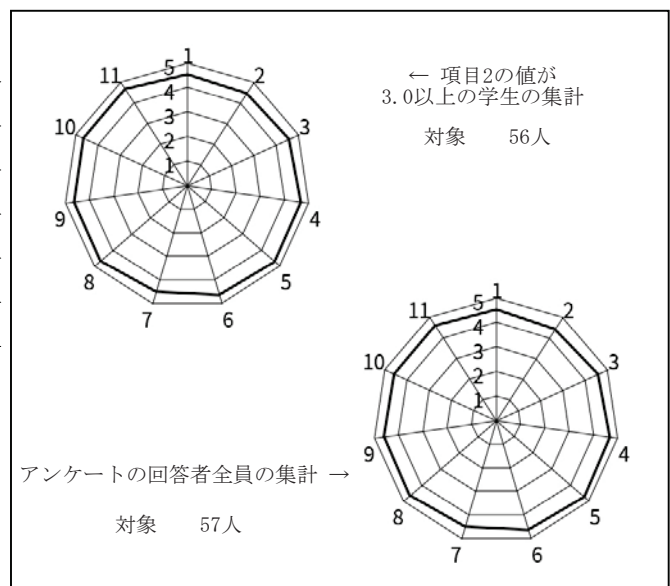
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生の理解度に合わせて、授業中に質疑応答の時間を十分に確保することを主な目標とした。回答の数値データはほとんどが5または4であり、学生が理解していることを自覚できるレベルの内容であったことが読み取れる。また、自由記述欄の記述からもわかるように、十分な時間を質疑応答に充てることができたことがわかる。PCスキルを積極的に使用する科目であるため、コンセントが机にある教室での開講が望ましいことが自由記述欄の記載からもわかった。こうしたコメントを踏まえ、開講する教室にも配慮し、引き続き、学生の理解度を高められるように質疑応答の時間を十分に確保することが今後の抱負である。以上から授業の目標を概ね到達できたと評価する。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	経営戦略論A
授業コード	42E13-001
教員名	上野 正樹
教員コード	101365
登録人数	76
回答数	57
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

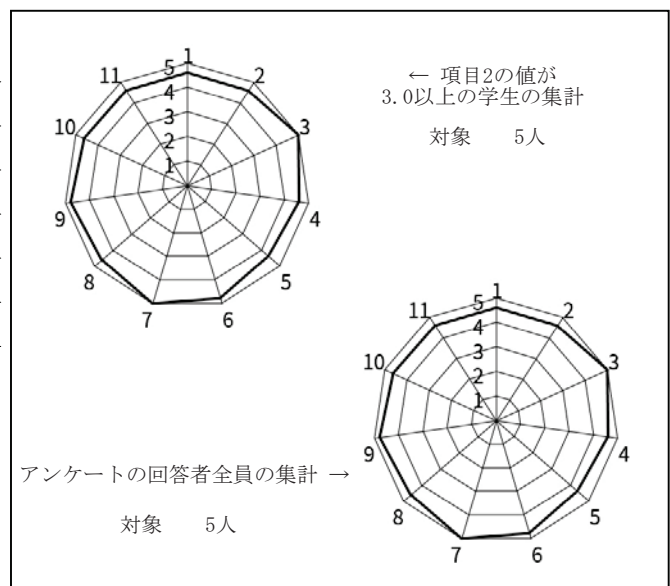
履修者は76人、回答者は57人、回答率は75%であった。項目1から11の平均は4.59、項目3から11の平均は4.62であった。項目10「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか」の平均は4.56で、回答者の61%が5点満点をつけている。このことから6割の学生は目標に到達したと考えられる。

自由記述の項目12「この授業の良かった点、評価できることは何ですか」に対して38人からの回答が寄せられた。予習、討論、発表という反転学習を評価する意見がほとんどであった。項目13「授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったことがあればできるだけ具体的に書いてください」に対して21人からの回答が寄せられた。総合的な自己点検として、改善点もふくめて自由記述の多さをもとにすると反転学習の試みは成功したと考えている。

なお項目13で、履修者数を制限して発言しやすい環境にして欲しいという要望が5件あった。マイクの音量が大きすぎるという苦情が2件あった。その他は授業運営に関する個別アイデアであった。改善策として、50人以上でも質疑応答がしやすい環境をグループワークなどで作る。また音響を適時調整する。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	職業指導
授業コード	42F09-001
教員名	高田 一樹
教員コード	102887
登録人数	24
回答数	5
回答率	20.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

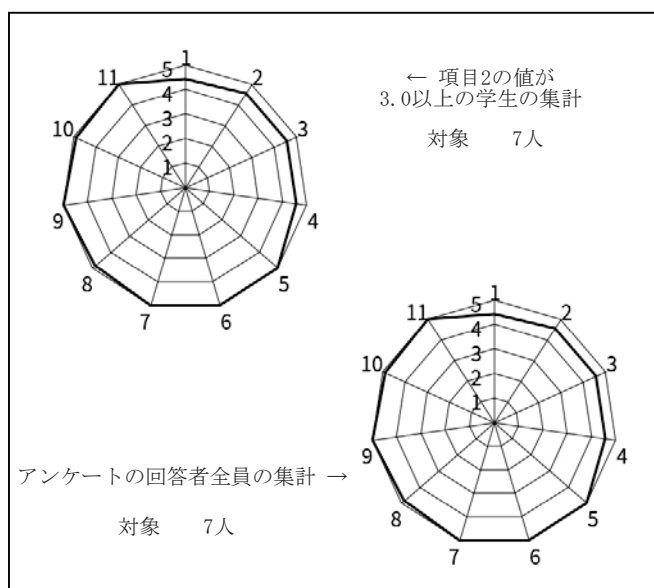


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 高等学校商業科の教職科目として、教員志望者がキャリア教育を担当するための基礎知識を修得できるように講義計画を立てた。ただし例年、教職課程の履修者が限られるため、民間企業への就職を希望する受講者が自身の人生設計を構想する参考となる内容も盛り込んでいる。この授業では受講者が多様なキャリア観を理解し、口頭や文章で自身のキャリア観を表現することを到達目標に掲げる。本年度の受講者数は24名だったが、出席者が安定しなかった。最終回に10分間で本アンケートへの回答を促したものの、回答数が5名にとどまった。
- ② アンケートに回答した受講者による授業評価は4.69と比較的高かった。だが未回答の受講者が大半を占めたことを考え合わせると、授業の習熟度を判定することが難しい。例年、自由記述欄には肯定的な記述がみられるものの、今期は記述そのものがなかった。授業内での回答時間を確保したものの、未回答だったことは残念である。受講前の授業への関心（設問1：4.33）と主体的な取り組み（設問2：4.17）は例年、数値が低い傾向があり、今期もその傾向がみられた。
- ③ 本科目は3年次以上配当の学科選択科目であり、就職活動を終えた受講生には興味を持ちづらいかもしれない。キャリアに関する多様な観点を習得できるよう引き続き授業準備に努めたい。講義計画の基本を堅持しつつ、視聴覚教材や配布資料の拡充に励みたいと考えている。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	International Management A<国際科目群>
授業コード	42G17-901
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	8
回答数	7
回答率	87.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

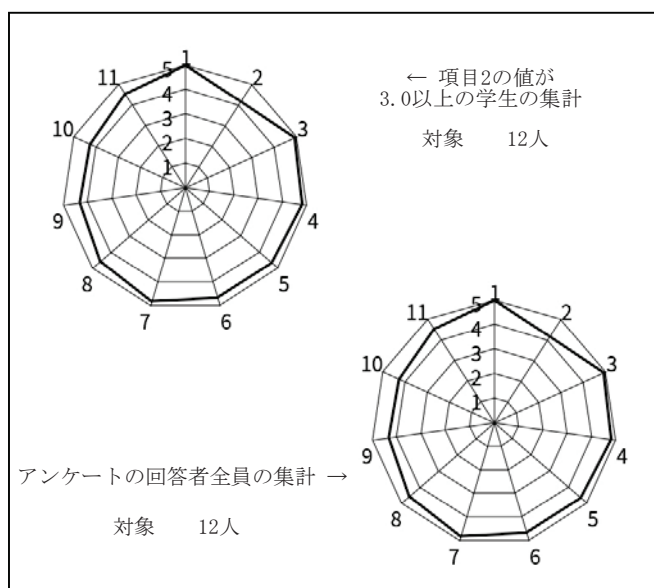


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course, among others, is to help students understand a range of complex factors that underlie operation and management in multinational corporations. As planned, I took fourteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. The number of students' registration was ten, two withdrew, and the remaining eight attended the classes. On the day of the course evaluation, seven students were present. I would like to address the following aspects in the course evaluation materials. Regarding "participation in the class" (Q1 to Q2), compared with the scores of 3.89 and 4.09 for all courses in the band of 42A10-001~42H04-999 (経営学科), the scores of this course were 4.43 and 4.57. Regarding "the course in general" (Q3 to Q5), compared with scores of 4.50, 4.43, and 4.20, for all courses, the scores for this course were 4.57, 4.57, and 5.00. Regarding "the class management" (Q6 to Q9), compared with scores of 4.20, 4.26, 3.95, and 4.21 for all courses, the scores of this course were 5.00, 5.00, 4.86, and 5.00. Regarding "overall evaluation" (Q10 to Q11), compared with scores 3.94 and 4.03 for all courses, the scores of this course were 4.86 and 5.00. All these scores are mostly above the averages. As to "overall impression of the course" (Q12 to Q14), the students gave the following comments, which I find profoundly encouraging: 「英語の発音を学べた」、「先生の実体験の話がとても有意義だった」、「教科書や資料をプリントにして配ってくれた」。At this moment, I think that the course content, study material, and class delivering style are sound.

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Business Topics in English I1
授業コード	42G28-001
教員名	BIERI, Thomas
教員コード	102517
登録人数	13
回答数	12
回答率	92.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe students largely gained the basic knowledge as set out in the course goals, and increased both vocabulary and reading skills.

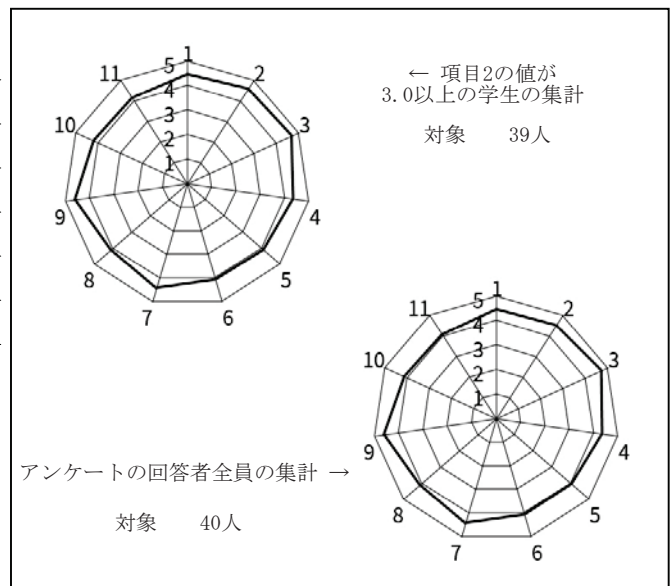
Most of the numerical data responses put my course above other averages, or at least very close to them, and only 6.5% of all responses were 3 (there were no 2 or 1 responses). Comments indicated that class activities motivated the students, particularly with respect to learning vocabulary.

In an effort to save paper and not have too big of a textbook for students to carry, printing was done in a rather small font, which one student complained about – the only complaint or concern mentioned in this evaluation. However, I also think the reading materials were sometimes overly difficult and I didn't always have enough time to deal with all individual questions or giving better explanations to the full satisfaction of all students.

In the future I plan to make materials with more simplified English, and printed in a bigger font. I also hope to be able to include more time for peer-based comprehension and topic discussion activities as I think this will both add more motivation and increase comprehension and consolidation of studied information.

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 商業簿記中級I
授業コード 42H01-001
教員名 野口 晃弘
教員コード 104773
登録人数 52
回答数 40
回答率 76.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

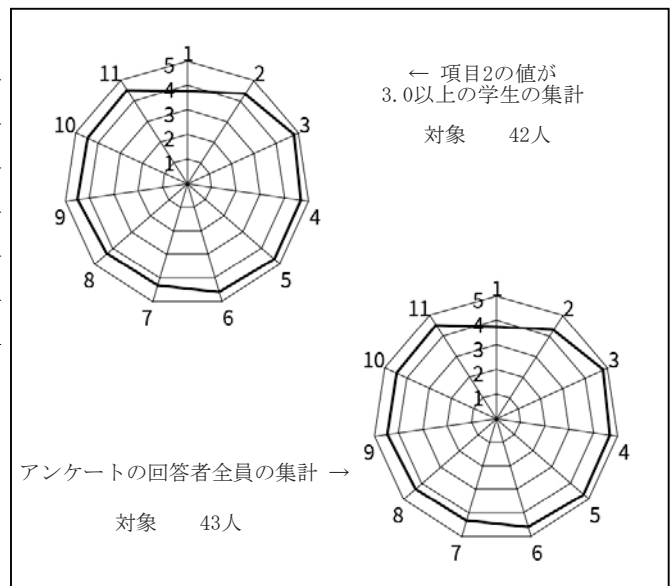


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 簿記という科目の性格上、漢字や英単語の学習と同様に、繰り返し手を動かして知識を習得する必要があるため、小テスト10回に加え、中間テスト・期末テストを実施し、復習を促すように講義を進めました。多くの学生が合格点となる水準に達したことから、ある程度の学習効果は得られたものと思われます。
 - ② 昨年度と同様、総合的に見て、大きな問題はなかったものと判断しております。今年度から、毎回講義のちょうど真ん中の時間帯に、質疑応答のための時間を10分間ほど設けました。このことは、自由記述回答において、この授業の良かった点、評価できることとして挙げられていましたので、今後も続けていきたいと考えております。
- 使用している教科書に関連して、自由記述回答で、賛否それぞれ寄せられたため、再検討しました。その上で、定評のある教科書・ワークブックであり、内容と価格の両面で最適と判断し、現在のを継続することにしました。
- ③ Q3に商業簿記中級Ⅱを担当しておりますが、この科目での学生による評価で特に大きな問題を把握できなかったことから、その講義においても、今まで通りの方法を踏襲したいと考えております。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(電子・電機産業論)1
授業コード 42F03-001
教員名 金丸 義弘
教員コード 104609
登録人数 81
回答数 43
回答率 53.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

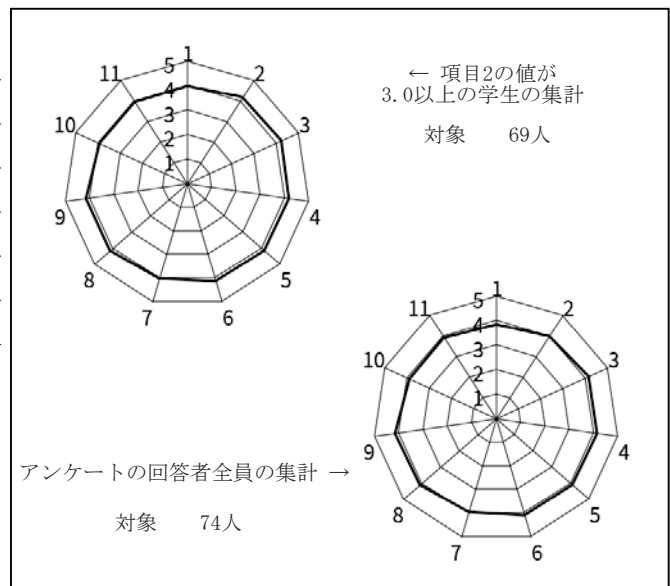


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標を達成できた。オリエンテーション時から出席については厳しめに取り組むことを説明して、実際にリアクションペーパーにこちらで日付印を押したものを配布し、3時限と4時限でペーパーを別にするなどの工夫をした結果、定員の100人ではなく80名の受講となったが、単に単位を取得する目的の学生の受講が減り、講義に興味のある学生が比較的多く受講されたと感じる。出席率も良く、講義中も緊張感を持って聞いている学生が増えたのではないと思う。また成功事例も失敗事例も含めて、できるだけ体験談を折り込むように、また臨場感のある話し方、直近の政治経済情勢もからめて話を進めた結果、アンケート結果では例年よりもポジティブな内容が多かったように思える。3Qで最後の講義になるが、1Qと同じ方法で、かつさらに臨場感をもって取り組みたい。また就職活動と大学の講義の関係はどうにかならないものかといつも思う。企業の一括採用も今後は減ってくると思うが、勉学に打ち込むべき重要な4年間で、就職活動に取られてしまう現実を変えなければならないのではないだろうか？面接時期を夏休みにしたり卒業後でなければ就職活動ができないなど政治的に決めなければならないと思うのだが、相も変わらず学生に勉学以外の負担を強いているのが現状であると思う。大学側から経団連等にも話をすればどうか？

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	流通論A
授業コード	42C21-001
教員名	南川 和充
教員コード	100478
登録人数	231
回答数	74
回答率	32.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

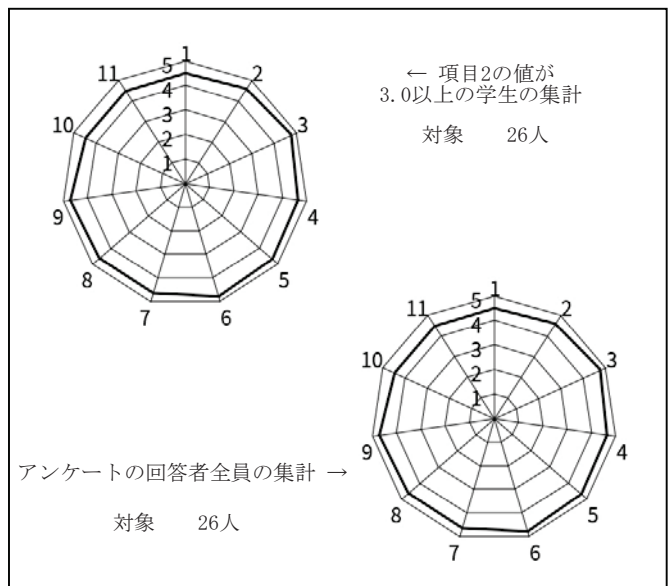


授業評価結果を踏まえた点検・評価

全項目が経営学科科目での平均値を下回っており、毎回のごとく反省している。また、今回はとくに授業内で回答時間を確保しなかったため回答率が低下してしまった。到達目標は(1)(2)（シラバスを参照のこと）を設定した。これを達成するために例年同様に中間試験および数回の課題を課した。目標(1)について肯定的評価の自由記述（課題を通して実際の流通を感じることができた点。授業内に何度か課題があって理解を深めることができた。）があった。目標(2)についてはデータ分析の課題および中間試験（筆答）の出来が良好であったことから、達成されたと判断できる。今回も中間試験結果の返却を実施できなかった。ただ、いくつかの課題について全員に対して全体講評をフィードバックしたり、試験の模範解答を開示しているので、それらを確認している受講生については力が身についていることを各自で実感させることができたと思う。次学期は中間試験結果や提出課題の返却を実施したい。自由記述欄「改善すべき点」には、これまでは一度もなかったが今回は「試験範囲には関係しないと授業で言っていた箇所が試験に出た」という指摘が2件あった。それは事実ではなく一部の受講生の思い違いと思われるが、次回以降はこうした誤解をさせないように授業内での発言には注意したい。「学習意欲のある人に向けた追加情報があり、面白かった。」との評価があった。受講生のこうした主体的な学習態度が促進されるような取り組みを工夫することに次学期も努めたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	組織心理学A
授業コード	42C25-001
教員名	中尾 陽子
教員コード	064188
登録人数	51
回答数	26
回答率	51.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

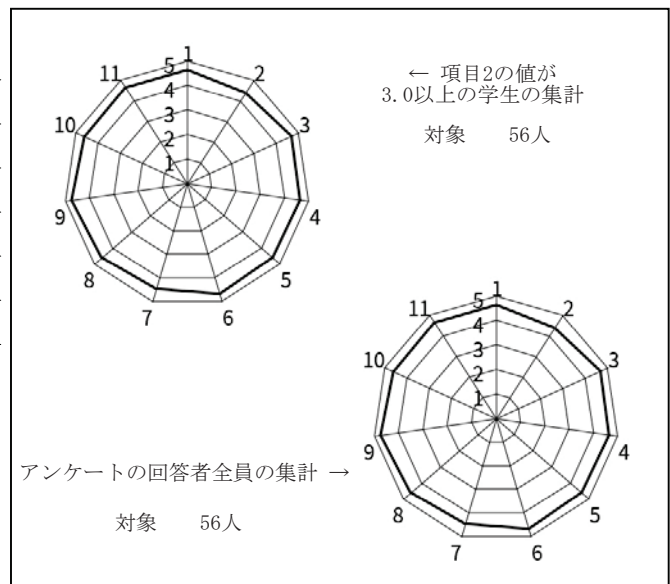
この授業は、到達目標を「『組織』『集団』を対象とした組織心理学の研究領域に関して、各分野の概要を理解している/基礎的な事項について説明できる/生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができる」と設定し、進めてきました。14回の授業と時間外課題を通して、受講生のみなさんが徐々に理解を深め、大半の方がこの目標を達成してくださったものと考えています。

ただ、例年に比べて授業への満足度が低かったことが気になっています。自由記述欄の記載からは、グループワークを中心としたアクティブラーニングに意味を感じてくださっている様子がうかがわれます。一方で、グループメンバーの欠席によってやりにくさが生じていたこと、欠席に対するより厳しい対処を求める声も寄せられました。また、「もっと学術的な知識を身につけたかった」「グループメンバーだけでなく、教員の考えも聞きたかった」というような声も寄せられました。今回の受講生は、経営学部生が約3分の2、心理人間学科生が約3分の1、更に他学部の学生さんも参加してくださいました。心理学の前提知識が異なる上に、授業参加への意識やグループワークのスキルにも差があるメンバー構成だったため、授業に対して求めることにも違いが生まれていたものと感じています。この辺りのバランスをとりながら授業を展開していくことはとても難しいことではありますが、授業を決してルーティンワーク化することなく、お互いのその時々の気持ちや考えをわかちあいながら進んでいくことが重要だろうと考えます。

これからも今回のように、受講生の方々と協力しながら授業を創っていきたいと考えていますので、引き続きみなさまのご協力をお願いいたします。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング・コミュニケーション
	A
授業コード	42C36-001
教員名	川北 眞紀子
教員コード	102879
登録人数	160
回答数	56
回答率	35.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

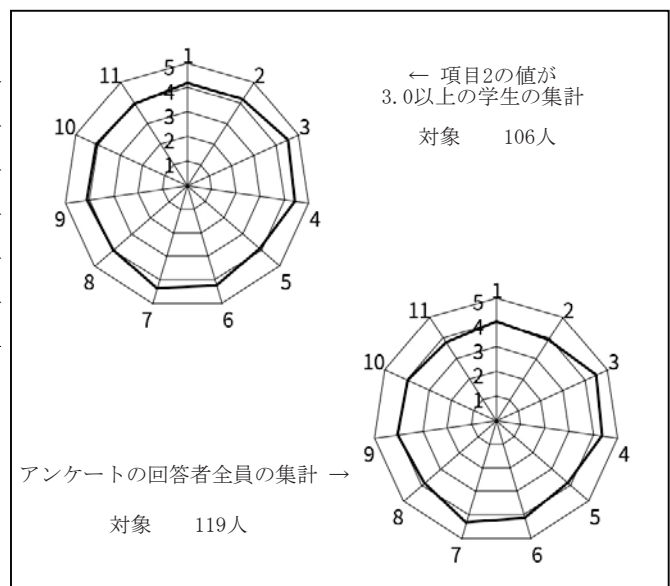


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標は「広告や広報など企業のマーケティング・コミュニケーションについて体系的な知識を持つ」であった。振り返りの小テスト、期末テストの成績によるとほぼ合格しており、体系的な知識がついていると感られる。また、「簡単にコミュニケーション計画が立てられる」については、授業中のチャットや発言の中には、筋の通った提案も見られるため、一部の学生の力はあると思われる。②「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」は4.66であり、経営学部平均の4.25と比較して高い。100名を超える授業にしては健闘している。また、学生の声には「自分の意見を出す場面が多く、主体的に授業に参加することを促している点良かった」「毎回の講義で多様な事例を用いて用語や考え方を紹介してくれていて、他学部履修でも内容を理解しやすかった」「おもしろかった」「毎回課題があり振り返りができる点」と良かった点が多くあげられていた。改善すべき点はほとんど記述がなく、アップロードしたPDFの更新したページについてだけであった。③事例を毎年、アップデートし、学生との相互作用を工夫しているため、かなり工夫されている授業となっている。学生の評価も高い。かなり手間がかかっているため、これをどうやって省力化すべきかを考えたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 会計学入門III1
授業コード 42C51-001
教員名 窪田 祐一
教員コード 102901
登録人数 183
回答数 119
回答率 65.0%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

到達目標は、「1. 決算整理手続きについて説明できるようになる。2. 貸借対照表、損益計算書の構造について説明できるようになる。3. ビジネスにおける会計の重要性と必要性について理解できるようになる。」であった。しかし、期末試験の結果をみると、大半の学生は到達目標に達成できていたものと思われるが、会計学入門Ⅰの知識が十分に定着していなかった学生にとっては、難易度が高かったようである。積み上げ科目であるため、予習・復習ができなかった学生には、残念ながら、単位取得が難しかったように思われる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

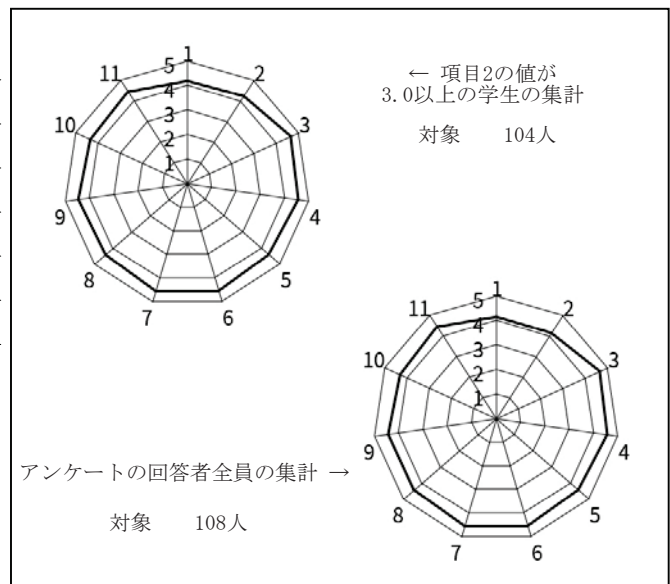
まず、語学と同じ程度の予習・復習が必要にもかかわらず、設問2の努力の学生の評価が、3.92と低いことがあげられる。このことは、最終的な設問10の力がついたと感じますか、に直結する。この評価も3.95と低い。教員が学生の予習・復習の確認をとる時間は限られるため、大人数講義としての限界を感じる。他に評価が低い点は、設問8の私語や遅刻に対する評価である(3.86)。私語については、何度か注意したが、例年よりやる気のない学生が紛れ込んだことが大きかったと感じる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

また、出欠はWebclassでとっているが、ごまかしている学生がいるとの報告もあり、見直したい。休講し、その分を補講をしたが、補講に対する評判がよくなかったので、補講のあり方も見直したい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 人的資源管理論A
授業コード 42C56-001
教員名 余合 淳
教員コード 103585
登録人数 236
回答数 108
回答率 45.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

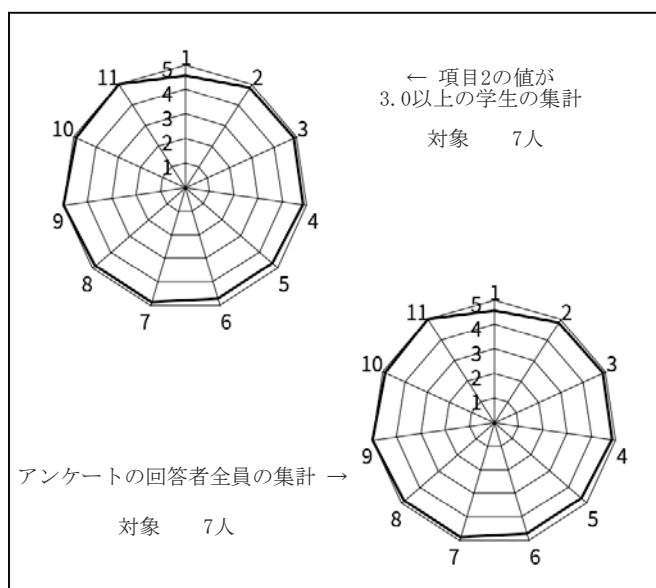


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：本講義の目標は、企業に代表される組織と人のかかわり方、特に組織側の視点に立ち、組織内の人々をどのようにマネジメントするべきかについて、体系的に理解することにあった。講義では、通常消費者、あるいは労働者として接する機会の多い企業におけるマネジメントについて、特に人材マネジメントについて、企業の経営者及び人事部門からの視点を重視した。レポート及び期末試験の結果からは、概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：数値データの平均値は、経営学科平均値よりもすべて高いものであった。特に適切な授業進行、様々なツールを使用しての講義の実施、私語への対処等の授業の円滑な実施についての環境整備については一定の評価がある。学修意欲に改善点ある学生に対しての指導も行っており、妨げとなる行為にも注意している。満足度を問う問11に関しても、平均値より高く良好である。特に項目7については高く、私語や遅刻対応等については適切に運用できている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：経営学科平均と比較して数値の低いものは特段なかった。講義内では、学生の積極的な参加を促すための取り組みとして、チャットツールを採用しており、学生からも好評である。また、9に関して、講義参加者向けのレポートを課すことで、自由な意見や自主的な学習を促す工夫をしているため、講義不参加の学生が自由記述欄で不満を述べている場合がある。今後はとりわけ積極的な参加をする学生がより有利になるよう評価上の工夫が必要になる。履修者数が多いことにも起因すると考えられ、履修者数に合わせた工夫が必要になると考えられる。最後に、EB1教室への不満はかなり多く、熱い、暗い、マイクが響きやすい等、改善が必要に思われる。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	意識調査法
授業コード	42D06-001
教員名	安藤 史江
教員コード	019554
登録人数	49
回答数	7
回答率	14.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

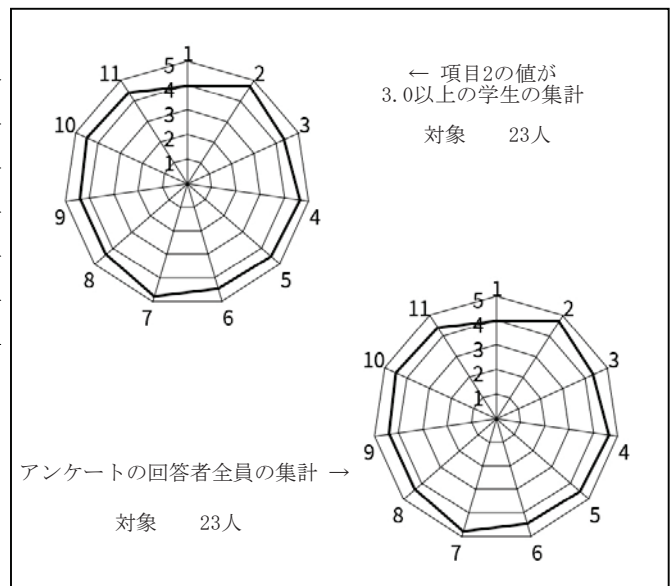


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業が開講当初に設定していた目標は、質問票調査を実施し、そのデータを用いて分析・解釈する、というすべてのプロセスを一通りできるようになることであった。加えて、本授業では統計ソフトとしてフリーウェアのRを用いたため、Rを使いこなせるようにすることも含んでいた。授業を終え、期末レポートでその内容を判断するに、毎回授業に出席して熱心に質問していた学生に対しては、その目標を到達しえたと考えている。
- ②回答者は少なかったが、最終的な満足度は、5点、という結果であり、担当者の上記①を裏付ける結果であったと考えられる。全体に高い評価で、問1の当初の興味、以外の項目はすべて、4.7を超えていた。特に評価されて満点であったのは、満足度とともに、問9の質問機会は十分に設けられていたか、であった。また、担当者として嬉しく思ったのは、問10の到達目標で掲げられている力がついたか、という問いには4.86という得点が得られた。実際、ほぼゼロの状態から立派な期末レポートをまとめられるまでに成長した学生が複数確認できた。
- ③ただし、履修者の登録数は49のところ、毎回の授業に出席していたのは、3分の1程度であった。先にレジュメを配布しており、それを読めば、一切授業に出なくてもレポートが作成できる（と学生が思い込んでしまう）点にあると考えられる。しかし、ほとんど出席しなかった学生は、期末レポートでも求められる基準を満たしていないことが大半であり、今後は出席しなければ期末レポートが作成できないような工夫をするか、毎回出席をとる必要があるのではないかと、授業デザインの見直しを考えたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	オペレーションズ・リサーチA
授業コード	42E15-001
教員名	姜 秉国
教員コード	019547
登録人数	44
回答数	23
回答率	52.3%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



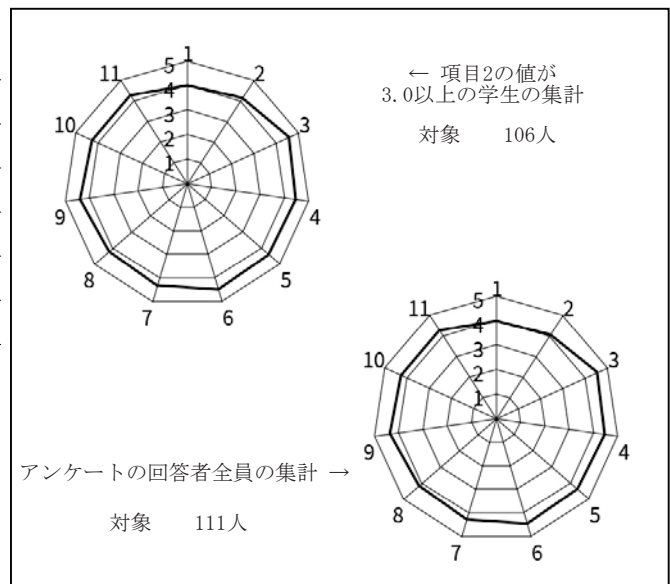
授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価項目全般にわたり良い評価を得ている。出来るだけ数式を使わずに平易な言葉で説明したこと、定型的な問題の解答方法よりORのモノの考え方を理解してもらうよう努力したこと、また身近な応用問題を多く取り入れたことへの評価と受けとめている。特記すべきことは、今年はExcelに不慣れな生徒が多かったため、その基本的な使い方から説明する必要があった。そのため、できるだけ学生の理解度に合わせて進めること、また授業内容を授業時間内に理解し、自分で確認できるよう授業中に練習の時間を多く与えること、そして教室内で巡回しながら質問等に答えることなど、いろいろ工夫をした。その結果、授業目標は十分達成されたものと判断している。自由記述式回答（評価できる点）には、以下のような回答があった。

- ・生徒の進捗に合わせた授業が行われた
- ・質問がしやすい環境にあったと思う。
- ・エクセルの式などを画面で映してくれたおかげで理解がしやすかった。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス経済学A
授業コード 42E18-001
教員名 後藤 剛史
教員コード 100374
登録人数 295
回答数 111
回答率 37.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① シラバスに掲げている「学生の到達目標」は、「様々な経営戦略について、そのメリットとデメリット、あるいはそれら戦略の狙いを、経済学的に考えることができるようになること」である。この目標の達成度を期末試験の点数で測るなら、かなり物足りない。今度の試験問題を難しくしすぎたのかもしれないが、それでも、どの問題も授業中に取り上げた事柄に関するものである。全体として、何らかの改善が必要である。
- ② 設問11（総合的な満足度）の平均値は4.28で、経営科目の平均値を上回ったものの、受講者数241名以上科目の平均値を下回った。また、この科目の過年度の数値と比べた際の緩やかな低下傾向を食い止められなかった。以上のことから、その原因を考察したうえでの、何らかの改善が必要である。
- ③ 昨年度より、書き込み済みのレジュメの配布を取り止め、出席率を上げようとしているのであるが、この方法では出席率を上げることはできないようである。今年度は試験100%の評価にしたにも関わらず、である。また、昨年度にも見られた傾向であるが、一部の学生には「話を聞きながらメモを取る」という作業のハードルが高く、そのことが理解度や総合的な満足度の低下を引き起こしたのだと思われる。なお、教室サイズが大きかったためにスクリーンでの板書が見づかったとのコメントが数件あるが、教室の前の方の席には空きがあった。2年続けて行なってみて、この方法にはメリットよりもデメリットのほうが大きいことがわかったので、「書き込み済みのレジュメの配布」を復活させるか、もしくは、ホワイトボードでの板書に切り替えるか、いずれかを試してみたい（ホワイトボードにした場合には、「ホワイトボードに書かれたものをレジュメのどこに写したらいいのかわからない」という声が出そうではあるが）。

2025年度Q 2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Corporate Finance B<国際科目群>
授業コード	42G16-901
教員名	伊藤 彰敏
教員コード	104839
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

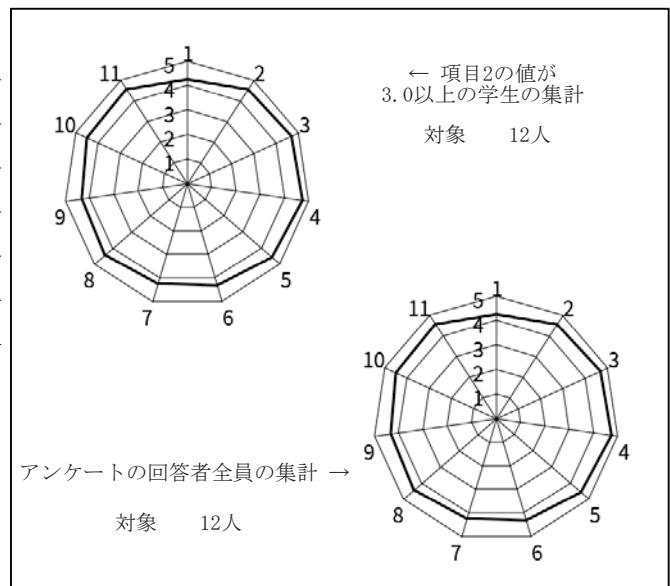
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①目標については、学生のレポートと授業中の討論の様子から伺える限り、かなり達成できていると感じた。
- ②普段、金融は自分の日常とは遠い存在と感じていた学生が、金融への関心を高めたようなので、今後の自主的な学習にもつながる授業になったのではないかと考えている。特に金融取引がなぜ成立するのか、そこにどんなサービスが関わり、だれがどのようなメリットを受けているのかについて、ケースを用いた学習から具体的に理解できているようです。
- ③授業資料には、金融の複雑な概念を解りやすくするためのさらなる工夫が必要である。また討論授業の際には、学生が積極的に参加しやすいように、問いかけやスクリーンに投影する教材について少し工夫の余地がある。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語で学ぶ経営学(マーケティング)
授業コード 42G22-001
教員名 湯本 祐司
教員コード 017533
登録人数 49
回答数 12
回答率 24.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

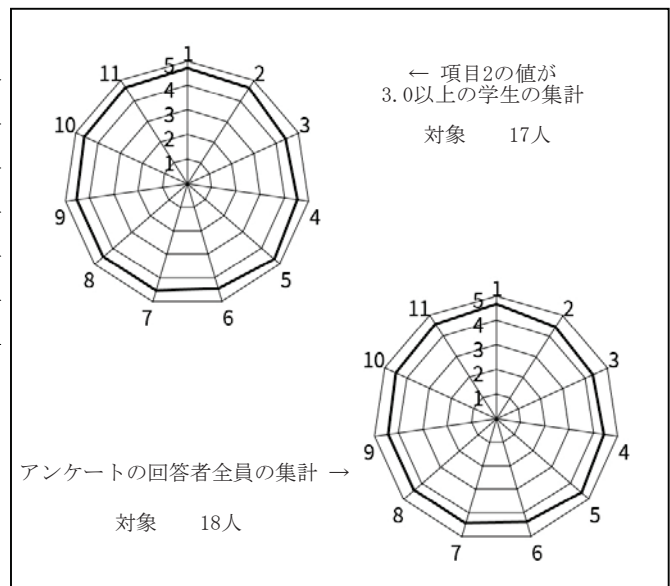


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は(1)英語でプライシングの基本的な理論と考え方をできるようにすること、および(2)事例とプライシングの理論の関連が理解できるようになることを到達目標としている。経営学部の選択科目であり、49名の学生が履修した。授業毎の課題および期末レポートをみるかぎり、きちんと出席して課題を提出した学生は目標を達成している。授業評価では履修登録者49名のうち12名が回答し、項目1から11の平均と項目3から11の平均はそれぞれ4.48と4.49である。自由記述欄には、良かった点・評価できる点として「授業が面白かった」、「要約能力ついた」とあった。改善した方が良かった点としては「教科書が高すぎる、ほとんど使わないのに5000円ぐらいした。また、学校では購入できず、Amazonでしか買うことができなかった。普段Amazonは使わないため、わざわざ友達に頼んで買ってもらった。ちゃんと学校で買えるようにして欲しい」とあった。授業では毎回15ページほどの内容を学生に報告してもらい解説している。この学生がテキストをほとんど使わなかったのは予習復習しなかったからであり、とても残念である。また洋書で何部売れるかわからないということもあり、大学の書店で安価に用意してもらうことは難しい。このあたりのことは初回・二回目の授業で説明しているつもりだったが、より丁寧に履修者に説明することを次回の改善課題のひとつとしたい。加えて、毎回の課題の改善および解答解説をさらに丁寧にやりたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会計原理B
授業コード 40F17-001
教員名 小沢 浩
教員コード 104770
登録人数 68
回答数 18
回答率 26.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

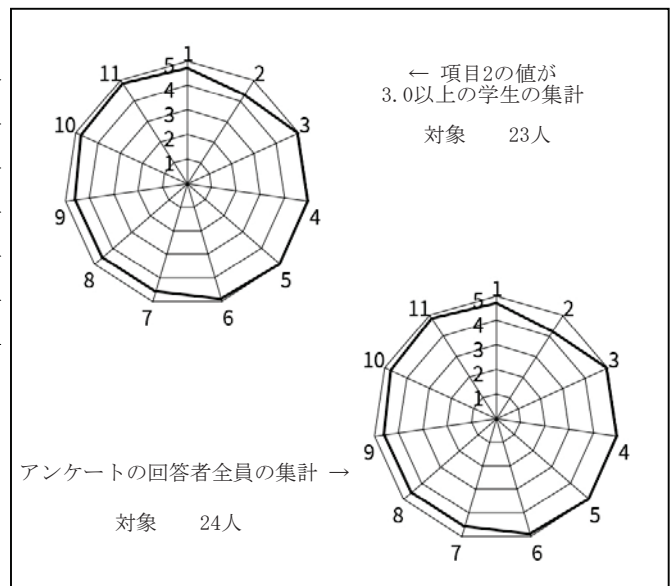


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①丁寧な説明と分かりやすさを心がけていたが、その点は学生にも評価されているようで良かった。シラバスに沿って進めており、それは客観的にも明らかであるのに、評価がやや低いのは理由が分からない。
- ②平均値では、特に評価が悪い項目はなかった。自由記述も前向きなコメントをもらった。引き続き努力したい。ただし、個別に見ると、2以下の回答がある質問項目がある。理由が分からないので対応できないが、低い評価もあることを心に留めて戒めとしたい。
- ③アンケートにはないが、4・5限という遅い開講時間帯が学生の負担になっているようで、途中退室が多い気がした。私自身の都合で決めたことが学生に負担を強いていたのではないかと反省している。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 アドバンスト会計B
授業コード 42C18-001
教員名 加藤 裕志
教員コード 104935
登録人数 33
回答数 24
回答率 72.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「管理会計の主なテーマ（ex. 費目別計算や原価の部門別計算など）について、会計的処理方法を理解している」を到達目標としていましたが、多くの学生がその目標に到達できたのではないかと感じております。それは、毎講義への参加・出席、その受講態度を通じて、その成果が定期テストに現れたものと考えます。

なるべくシラバスに沿いながら講義は進め、適宜、講義内ではプリントを活用しながら学生の理解に努めました。さらに、復習用問題を指定する等、事後学習への配慮も行いました。

ただ、会計処理面を身に付ける要素が強く、学習した内容がどのように実際の業務へ活用されているか等、なかなか上手に伝えることができず、その点においては反省すべきものと考えます。

次年度におきましては、上記反省点を踏まえ、また、学習する内容を今一度見直し、より、学生にとって有意義な講義となるよう、さらなる努力を重ねていきたいと思っております。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	内部監査論
授業コード	42C38-001
教員名	岡田 昌也
教員コード	101623
登録人数	13
回答数	3
回答率	23.1%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、現在の内部統制の標準モデルであるCOSOモデルの理解とそれを利用した内部監査制度の理解である。もともと内部監査というのは一般的には馴染みがなく、ましてや学生にとっては全く縁のないものであるため、まずは「監査」の意味を理解し、監査の基本的な手法について説明した。

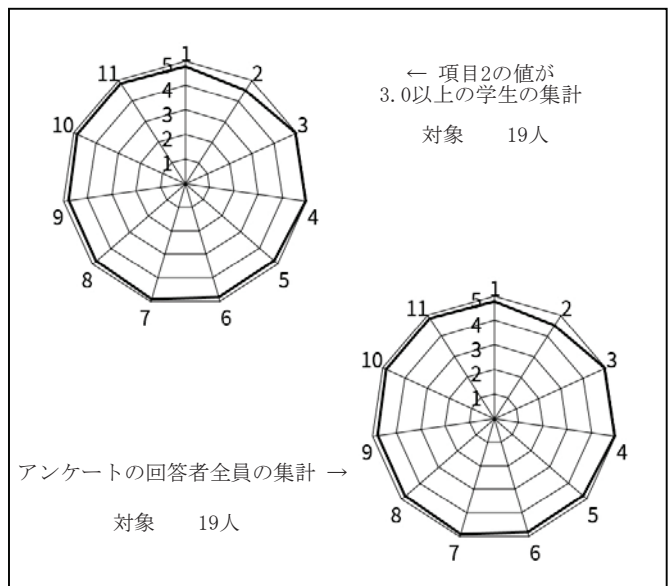
受講生の中に、卒業後の仕事として内部監査部門の仕事に興味がある学生がおり、非常に積極的に授業に参加していた。クラス全体の履修者も少人数でもあり、学生の理解度に応じた講義が出来たものと思っている。

授業評価としては、回答者が3名のみであったため、統計値は取れなかった。期末試験は筆記試験であったが、回答を見る限りでは、内部監査を理解することができた学生が幾人かいたため、授業目標は概ね達成できたものを考える。

次年度以降についてであるが、2年前よりLINEのオープンチャットを利用した双方向の意見交換をしているが、あまり効果的とは感じない。近時の学生は嫌がるかもしれないが、少人数科目でもあるので、積極的に受講生に意見を求めるやり方にしたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報基礎2
授業コード	42D01-002
教員名	小澤 和弘
教員コード	103586
登録人数	48
回答数	19
回答率	39.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

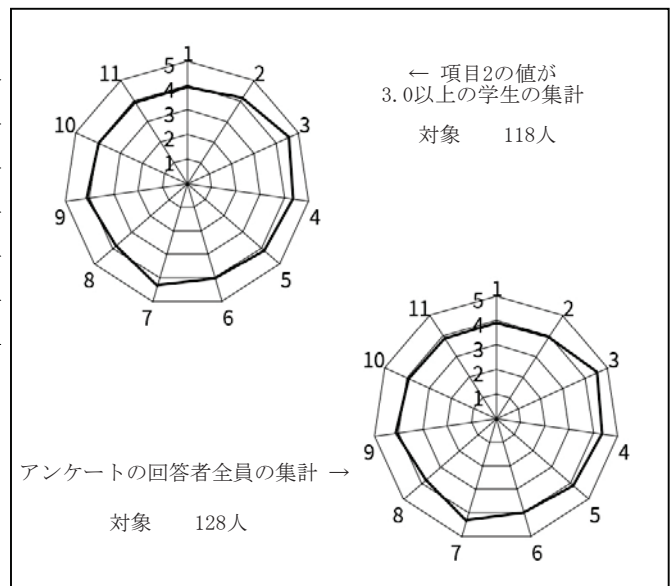
本授業は、情報処理機器の基本的な操作方法、文書作成、表計算処理の基本技術の修得、ビジネス文書におけるマナーやルールの理解、各種データに対する基礎的な統計処理方法の修得、生成AIの使い方と留意点の理解を主な目標とし、Microsoft WordおよびExcelによる演習を中心に授業を実施した。

学生による授業評価は概ね高評価であり、授業目標も達成されたと考えられる。自由記述には、「定期的に見回って、追いついていない学生にも優しい授業だった」「苦手な学生のため、時間に余裕を持って進めていた。資料も配布され、いつでも見返して復習できる状態だった」「内容に沿って分かりやすく丁寧に教えてくれた。先生が質問に真摯に対応してくださった」等のコメントが見られ、授業の内容や進め方ともに概ね良好であったと考えられる。

次年度においても、本年度の授業内容を踏襲しつつ、学生が主体的にコンピュータ操作の特性や利点をより深く理解し、社会生活を見据えた実用的かつ効率的な技術を身につけられるよう、引き続き授業改善に努めていきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	現代産業論(現代銀行論)
授業コード	42F02-001
教員名	筒井 肇
教員コード	104939
登録人数	363
回答数	128
回答率	35.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

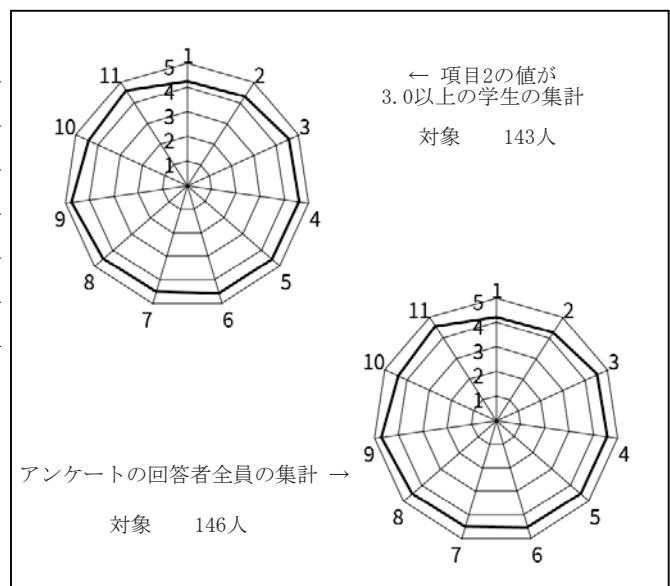
今年度、本科目は370名の受講登録を受け、講義を開始したが、とりあえず受講登録した学生も相応に含まれると推測していた。予想していたとおり、毎回、WebClassの出席登録を終えると途中退席する学生が相当数いた。このような事態が常態化することは、真摯に本科目を学習しようと取組んでいる学生だけでなく、きちんと講義準備を整えて臨んでいる教員にとってもモチベーションを含めて好ましい授業環境とは言い難い状況にあった。本科目が次年度開講されるとするならば、受講登録数の上限を設けるなどして、真に勉学意欲のある学生が受講できるよう環境整備を行うことが必須であると思料する。

また、授業評価アンケートについて言えば、自由記載欄に一部の学生において理解・見識の欠如や稚拙な考えによる教員に対するハラスメントとも受け取れる記載が散見された。加えて、事実誤認した事柄を好き勝手に解釈する一方的なコメントもみられた。記載者が匿名化されている仕組みも記載振りをエスカレートさせる要因になっていると思われる。

こうした現状を鑑みて、現行の授業評価制度の有効性や匿名記載の是非などを再検証するとともに、本制度を継続するのであれば、学生に対して教員の人格、尊厳を尊重する姿勢を徹底し、記載の内容によってはハラスメントになりうることも含めて、節度、品位ある記載とするよう改めて厳に指導されたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(先輩実務家と語る)3
授業コード 42F08-003
教員名 近藤 智也
教員コード 104806
登録人数 357
回答数 146
回答率 40.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①設定目標と到達

本学での講義は3年目となり学生のレベルもおおよそ把握できるようになり、シラバスにおいて示した目標に対し、学生にとって企業という未経験な世界を、公開・非公開のデータ資料を提供することで、リアリティを一段とくわえたことにより、期末レポートなどでは例年以上に履修生は目標に到達していたと自己評価している。

②数値データ

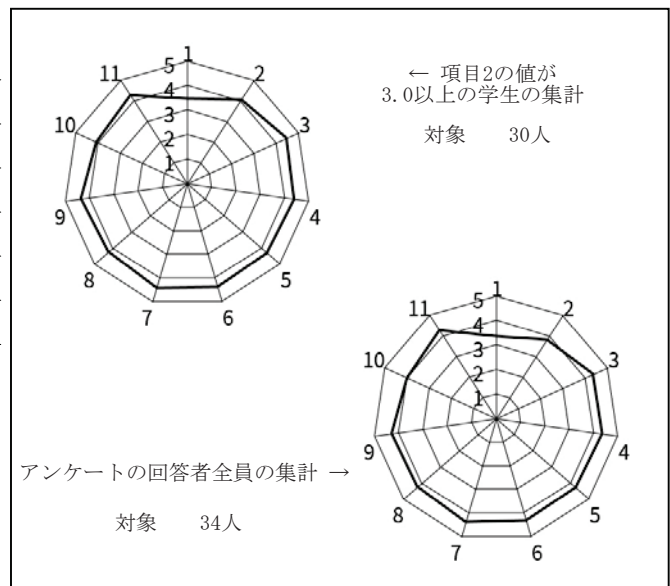
項目における平均値が4.5を下回ったのはQ1とQ2である。Q1については授業の内容に興味を持てるようなシラバスの表記の検討が必要かと思われた。また一般的な学術的テーマ名が講義名になっていないため、イメージがわからないと思われるため、第1回講義ではその大半の時間を使い、また第2回講義においても一定の時間を使い、本講義における具体的テーマについては説明した。Q2については大教室という性質上課題を毎回設定をしていないため、あえて予習復習を求めなかったが、理解と面白みを感じた学生が徐々に前の方に着席し講義への貢献を行ってくれており、全員とは言えないまでも一定の学生に予習復習を自主的に行う傾向が見られたと思う。

③次期

講義を担当させていただけるのであれば、様々な学部の履修生がいる特殊な状況により対応できる工夫を行い（今でも極力コミュニケーションを以て解消を図っているが）、学術と実務の適切な融合を目指した講義を行っていくつもりである。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	数学B
授業コード	12E02-001
教員名	宮元 忠敏
教員コード	017293
登録人数	128
回答数	34
回答率	26.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

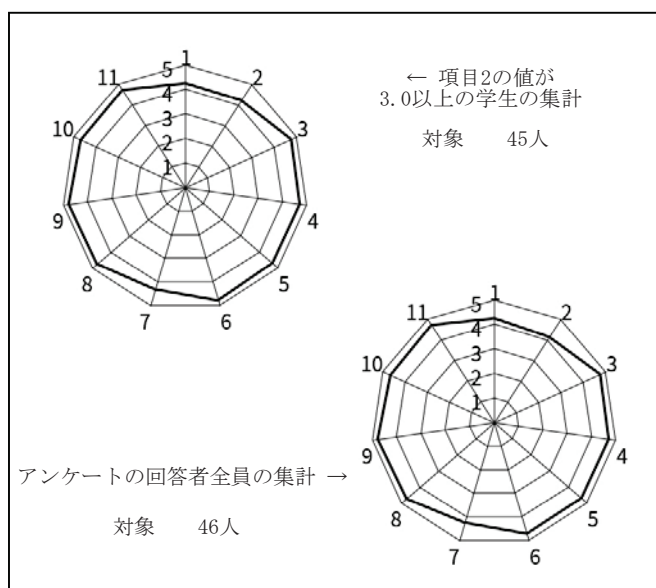
目標と到達の程度：フェルマーの小定理を一般化する。1つはオイラーに向かい、もう1つはカーマイケルに向かう。次に、ディリクレの算術級数定理とミラー・ラビンによる「合成数」テストにふれる。最後に、実数のアルキメデス的であることをスタートとし、十進、「九九九」、連分数展開にふれる。ディリクレ、リュービル、ロスによる結果について数値例で解説をおこなう。全体を通して、Mathematica(教員)、および、Googleの提供するColab環境でのGemini+Pythonによる計算力(教員、履修生)を活用した。後半は急ぎ足となったが、おおむね網羅できた。

数値データ：高い方で、4.41(私語、携帯電話関連)、4.35(シラバス関連)であり、低い方で、3.35(履修前興味)、3.82(主体性関連)であった。
また、コメントととして、課題の解説、証明の在り方等について「良し」とする声がある一方、早口として「難」とする声があった。

改善点等：多様な履修生(所属学部、学年)を前に、全学共通科目としては、意味をなしているが、それゆえの困難な点が存在する。
ここでは、発展するAIの活用を積極的に取り入れる次世代型の授業に活路を見出したい。なぜならば、AIは適当な仮定のもとに、当該の結論を、うまく論証できる。これを利用しない手はないからである。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相1
授業コード 13C06-001
教員名 川北 眞紀子
教員コード 102879
登録人数 147
回答数 46
回答率 31.3%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

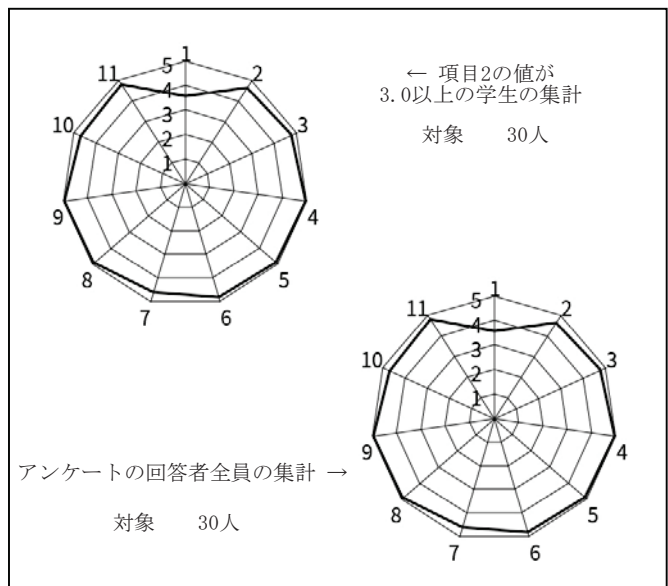


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標にしていた「アートについて語れるようになる」については、授業内で対話型鑑賞やチャット発言などを行ったことにより、ある程度は到達できている。②設問11の全体満足が4.72と高い。設問9の質問や相談の機会については4.78と非常に高くなっている。コメントができる機会をつくり、その次の回には改善できるように心が得ている点がよかったようである。自由記述では、「興味のある内容だったので楽しかったです。このような授業をたくさん受けたいなと思いました。」など興味関心を持ってもらえる機会となっているようである。好意的なコメントが多く貰えていると思う。③次回はこの授業をもたないため、残念ながら、次回への抱負はない。ただ、このようなフィードバックの仕組みは引き続き他の授業でも取り入れていく予定である。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相13
授業コード 13C06-013
教員名 上野 正樹
教員コード 101365
登録人数 32
回答数 30
回答率 93.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

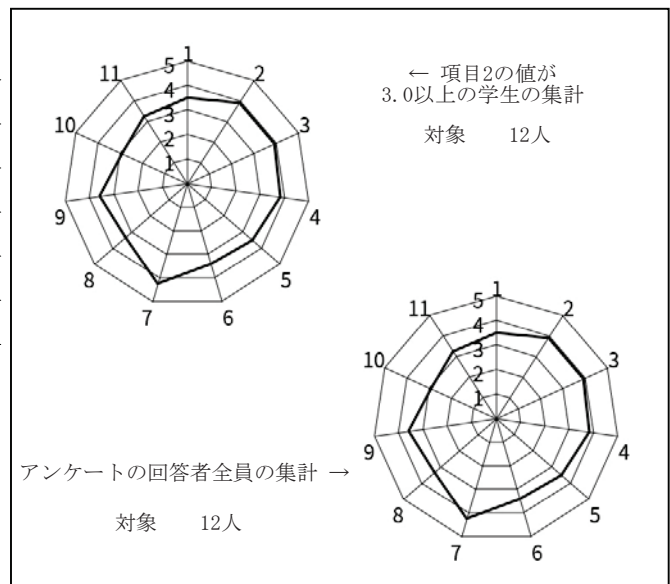
履修者32名、回答者30名、回答率93.8%であった。項目1-11の平均4.70、項目3-11の平均4.83であった。授業目標の到達度は項目10によると5点が70%、4点が27%であり、3点が3%であったことから7割の受講生は到達を感じている。なお授業内容とシラバスの関連づけは項目5によると5点が90%、学習意欲を引き出す工夫は項目8によると5点が93%、授業の満足度は項目11によると5点が83%であった。

自由記述は30名中25名が回答してくれている。それによるとアクティブラーニング、学生主体、ディスカッション形式が評価されている。授業では頻繁にシラバスを参照するようにした。発言を評価するようにし、適宜グループワークやグループ発表を取り入れた。総合的な自己点検・評価として、ここ2年間ほどの取り組みが一定の成功をもたらした。

次年度はアクティブラーニング、学生主体、ディスカッション形式を引き継ぎつつ、授業目標の到達度を向上させる。具体的には授業目標の粒度を高めて、何をどこまで到達できたのかを定期的にチェックしてもらうようにする。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ファイナンスB
授業コード 42C08-002
教員名 赤壁 弘康
教員コード 100788
登録人数 34
回答数 12
回答率 35.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

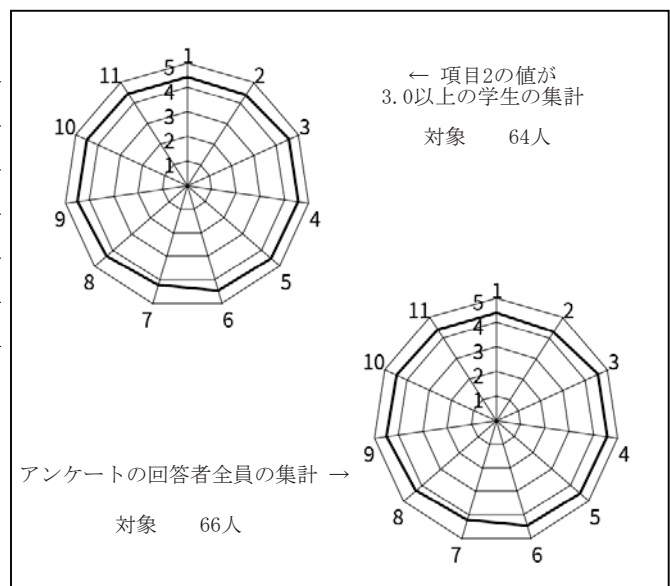


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① Mertonの信用リスクモデルを除き当初予定していた講義内容（ファイナンスAの講義内容復習を含む）はほぼ講義できたため、当初の目標と到達度は十分に達成できたといえる。多くの受講生は公認会計士試験や証券アナリスト試験にも十分対応できるようになったと思われる。
- ② 授業内容の確認と定着を図るため、公認会計士試験問題過去問を改題した練習問題を單元ごとにほぼ毎回授業中にリアクションペーパーとして解答させることで、積極的授業参加度を測る指標とした。欠席過多となった受講生もいるが、8割程度の受講生は積極的に授業参加していた。WebClassで配布した自習することもできる講義資料に基づき、計算過程と練習問題を含め丁寧に講義できた。講義内容を網羅した最終課題レポートの採点結果は最高点95/100点、平均点77.40/100となって、大多数の受講生の理解度は担当者が予想した水準よりも高かった。
- ③ 履修変更・履修中止する受講生が毎年少なくない。また、履修中止することなく1度も授業参加しない受講生もいる。特に、相乗り科目である経済学科用科目40F19-001の受講生にその傾向が強く、定着度が低いように思われる（2025年度は最終的に単位認定された経済学科受講生は1名のみで、他は履修中止、S、Xであった）。経営学科のファイナンスAだけでなく、将来的には経済学科の金融論との関連・接続を担当者間で協議する必要があるかもしれない。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング論B1
授業コード 42C10-001
教員名 南川 和充
教員コード 100478
登録人数 124
回答数 66
回答率 53.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

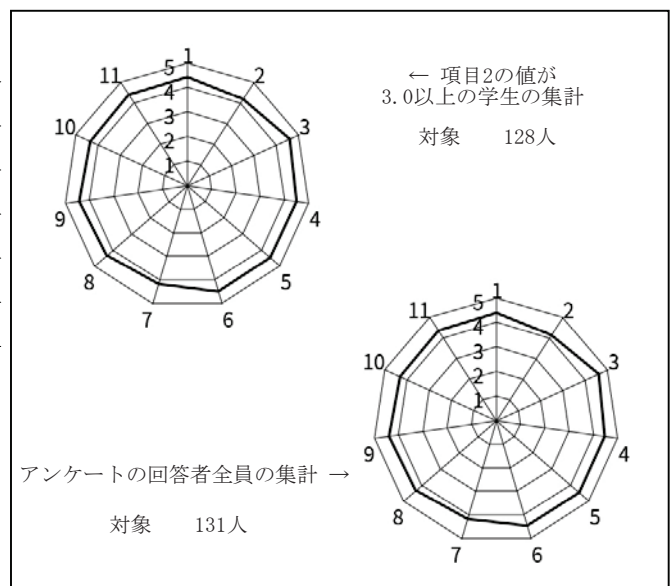


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①. 設定した到達目標(1)～(4)（シラバスを参照のこと）を達成するために例年同様に中間試験および数回の課題を課した。目標(1)(2)について肯定的評価の自由記述には「課題を行うことにより、より授業の理解度が深まるような内容だった点。」「テスト100%で評価されないこと。」があった。また、目標(3)(4)については「課題が実践的でありながら、しっかりと手順をみちいでくれるものだったこと。」といった自由記述があったし、応用力や実践力の養成を狙った課題および中間試験の出来が良好であったことから、達成されたと判断できる。今回も中間試験結果の返却や提出課題のフィードバックを実施できなかったが課題の模範例を開示しているので、それを確認している受講生については力が身につけていることを実感させることができたと思う。
- ②. 例年はほぼ全ての項目が経営学科科目での開講主体別平均値を下回っており毎度反省していたが、今回は本科目の授業評価結果は項目3と項目7を除く全項目で経営学科科目平均値を上回ったことはひとまず安堵している。ただし、これは私個人のこれまでの授業改善の取り組みがようやく実を結んで授業評価結果につながったものと評価したいところであるが、例年に比べて回答率が低かったといった、他の理由による一時的な現象かもしれない。
- ③. 今年度も実施できなかったフィードバック（中間試験や提出課題の結果返却）を次年度は実施したい。課題を多くさせていること自体は評価を得ているが、所詮は受講生はそれら与えられたものに対して解答をしているだけであり、今のところはあくまでも受動的な受講態度にとどまっているように思える。次回以降は、学修に能動的な姿勢を持っていない受講生には何とかそれを持たせるように、授業内での参加を伴った課題の実施や主体的な学習態度を醸成できるような工夫を試みたい（たとえば反転学習などを伴って）。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング論B2
授業コード	42C10-002
教員名	石垣 智徳
教員コード	101889
登録人数	243
回答数	131
回答率	53.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

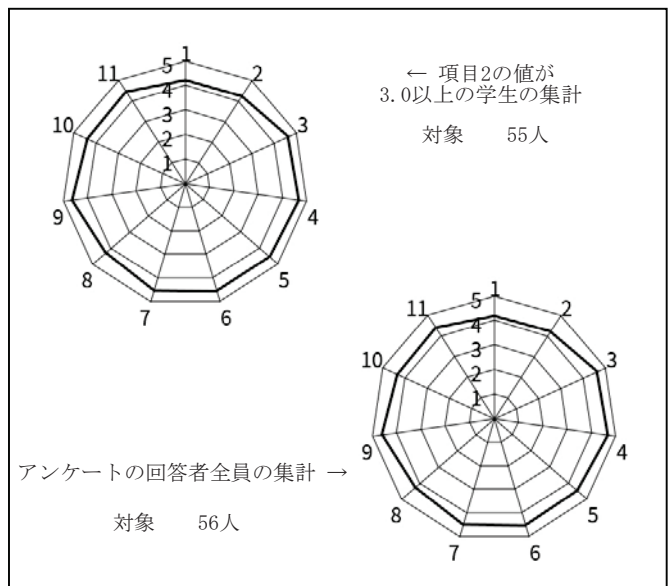
設定した目標については、「マーケティングの基礎的な理論や考え方を習得する」「事例とマーケティング理論の関連が理解できる」であり、理論や考え方については充分時間をかけて説明した。また、到達の程度については事例をできるだけ多く提示することも心掛けたので目標は達成できたと考えている。

担当科目に関する総合的な自己点検・評価は、対面授業になってから授業中の私語は以前に比べて少なく皆授業に集中しているように思っていた。11項目から構成される学生アンケートの数値結果はすべて4.1点以上（項目最低平均4.14）であった。学生からも一定の評価があったと考えている。記述回答のところで、「レジュメの内容にそった説明をして丁寧に説明されていたこと」「具体的な事例と理論を交えながらの説明が良かったです」というコメントがあったが、「レポートの提出期間が短すぎる」「（署名用名簿を授業中に回しているので）出席だけ書きに来る、書いて帰る」「復習の時間が長い」というコメントもあり、昨年度も一定数あったため、レポートの〆切に関する検討と署名のみに来る学生の識別できる何かが必要であることや復習時間の再検討を認識した。また、前年度にあった対応を考えるべき点として「過去の資料を消されていて困った」などについては対応を行った。

今後に向けての改善点、今後の抱負、方針などについては、学生たちが集中して授業を受けられ、不平・不公平感がない出欠確認ができるような準備を行いたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	財務会計論B
授業コード	42C12-001
教員名	安田 忍
教員コード	101561
登録人数	175
回答数	56
回答率	32.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

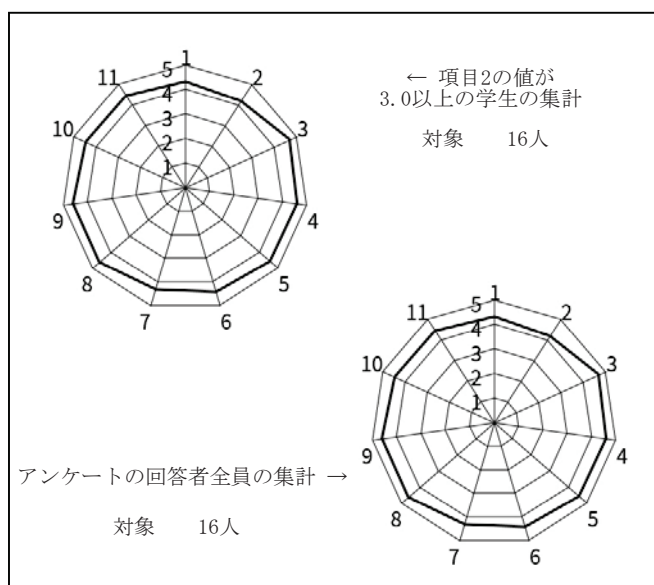
この授業の到達目標は、1. 財務報告制度に関する知識を習得することができるようになる、2. 会計基準の内容と考え方と会計処理との関係を理解することができるようになる、3. 財務諸表の表示内容と財務情報の意味を理解することができるようになる、の3つである。財務会計Bは、貸借対照表を講義の対象とし、貸借対照表の作成原則と表示内容、貸借対照表項目の会計基準及び関係法令に基づく会計処理とその理論、おおよそ達成されているものと判断する。アンケートの評価も1から11平均4.44、3から11平均4.50、満足11は少し低くなっているが4.39と、まずまずの結果となっていることから、授業目標は達成できている考える。

自由記述では、レジュメを使った授業が分かりやすかった、授業ごとの課題提出によって授業内容の理解や復習になったなど、こちらが目的として行っていることを学生に受け入れられていることが分かり、励みとなる。

今後の改善点としては、授業の性質上、どうしても講義形式で一方的になりがちなので、より多くの学生が会計に興味を持って主体的に取り組むことができる授業方法を工夫していきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	経営組織論B1
授業コード	42C14-001
教員名	安藤 史江
教員コード	019554
登録人数	62
回答数	16
回答率	25.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

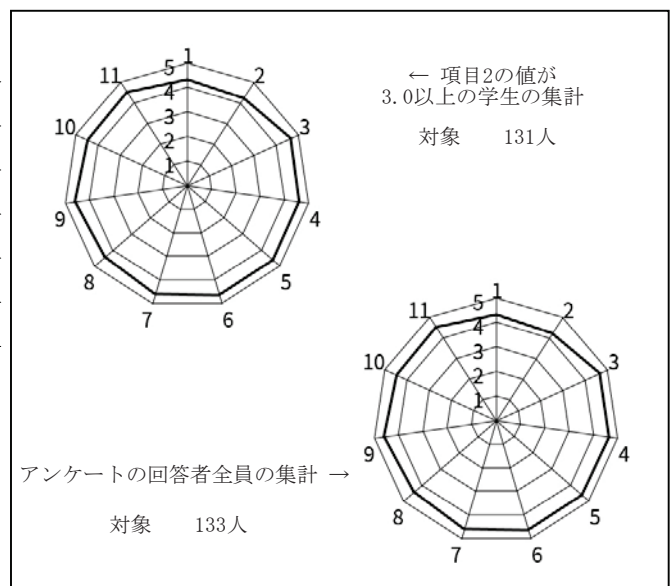
本授業では、経営組織論の中の組織学習という分野についての基礎的な知識を獲得し、それを学生が日常の場面でも活用できることを目指した。その到達度としては、学生からの授業評価の内容をみると、一定程度は達成できたと言える。

たとえば、項目10の「力がついた」という問いについては、学部平均よりも高い4.44という数値であり、同様に項目11の満足度に関する問いにも、学部平均よりも高い4.44という数値が得られている。また、授業内容をより理解してもらう目的で行っている簡単なワークがあるが、それについても、わかりやすかったとの評価が自由記述欄から得られている。取り上げるトピックスによっては、ショートビデオも流すなどして教材にも工夫を行ったが、それについては学部平均よりもやや低く、しかし4.44という値であった。もっとも学部平均と比べて高く差がついていたのは、項目8の「情報提供」であり、こちらは学部平均が4.2のところ、4.63という値であった。次点は、項目9の「事後の相談ができる」という点であり、学部平均が4.37のところ、4.63であった。

次年度に向けては、課題の提出場所についての要望があったため、明確にアナウンスするか、提出場所の再検討を行いたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経営組織論B2
授業コード 42C14-002
教員名 余合 淳
教員コード 103585
登録人数 270
回答数 133
回答率 49.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

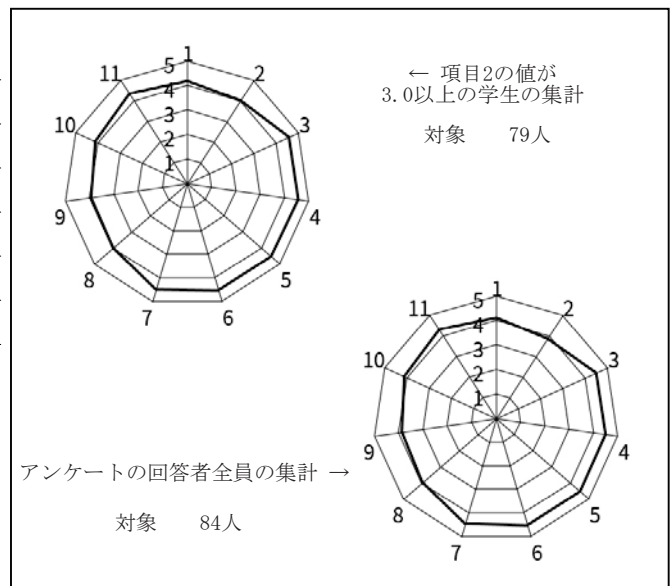
本講義の目標は、企業をはじめとする組織に関する理論を体系的に理解することを目指し、「ミクロ組織論」を中心に、企業での実例を踏まえながら検討し、レポート及び期末試験の結果からは、概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。数値データの平均値は、経営学科平均値よりもすべて高いものであった。特に音声や適切な授業進行、私語への対処等の授業の円滑な実施についての環境整備については一定の評価がある。学修意欲に改善点のある学生に対しての注意・指導も行っており、妨げとなる行為にも注意していて、満足度も高い水準を維持できている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など経営学科平均と比較して数値の低いものは特段なかった。ただし、2については、他項目に比較すると高いとはいえない部分もある。講義内では、学生の積極的な参加を促すための取り組みとして、チャットツールを採用しており、学生からも好評である。また、11に関して、講義参加者向けのレポートに課すことで、自由な意見や自主的な学習を促す工夫をしているが、講義不参加の欠席者が回答する場合は散見される等、学習意欲の低い学生が、講義の円滑な進行や学習意欲の高い学生の自主的な学習を妨げるような状況（フリーライダー）が見られている点は改善点である。特に、質問時間等をとっても低調であることも多いため、今後はより質問しやすい環境づくりや、とりわけ積極的な参加をする学生がより有利になるように評価上の工夫が必要になる。履修者数が多いことにも起因すると考えられ、履修者数に合わせた工夫が必要になると考えられる。尚、欠席者や私語等の対応に関して厳しいというネガティブなコメントが1件あったが、これはむしろ意図通りである。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営史B
授業コード 42C16-001
教員名 中島 裕喜
教員コード 103065
登録人数 184
回答数 84
回答率 45.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

質問項目1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」が4.11となっている。経営学部のなかで歴史の科目に興味を持ってもらうことは簡単ではないと感じている。シラバスの書き方や第1回目の講義で行うガイダンスを工夫したい。質問項目3「この授業はシラバス（講義概要）に沿って行われましたか。」と質問項目4「授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか。」はそれぞれ4.48と4.52となっており、概ね予定通りに講義を進められたと考えている。質問項目6「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」は4.54でそれなりに評価されたのではないかと、講義のなかでは動画や写真をかなり多く取り上げたと考えている。また講義も教科書をなぞるのではなく、歴史資料である「社史」を受講生と共に読む方法を取り入れた。一方で、質問項目9「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」は3.88と振るわなかった。教員側としては質問にはいつでも回答する用意があったが、それを促す努力が不足していたかもしれない。今後改善したいと思う。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	投資論(実物投資)
授業コード	42C29-001
教員名	竹澤 直哉
教員コード	101191
登録人数	6
回答数	2
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目標は投資機会を貨幣価値に換算する伝統的評価方法及び、これらの方法を資本政策問題や現代ファイナンス理論の基礎となるリスクと収益率について学び、これを考慮した投資決定を行うDCF法・リアルオプションやプロジェクトファイナンスに関する理解を深めることであつた。授業では、十。基礎的な内容の理解を目標としてきたが、より高度な内容や事例の議論を加えることで新しい知識を得たと学生が感じられるように改善することを目指す。また、前回の改善点を踏まえ、十分な時間をかけて学生の発言や質問を交えながら、この内容について議論し、授業での発言などから一定の理解が得られたことが自由記述欄から読み取れる。今後は、基礎的理解を踏まえた高度な議論を継続的行える工夫を行うことを検討する。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際財務論A<国際科目群>
授業コード	42C31-901
教員名	伊藤 彰敏
教員コード	104839
登録人数	12
回答数	1
回答率	8.3%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

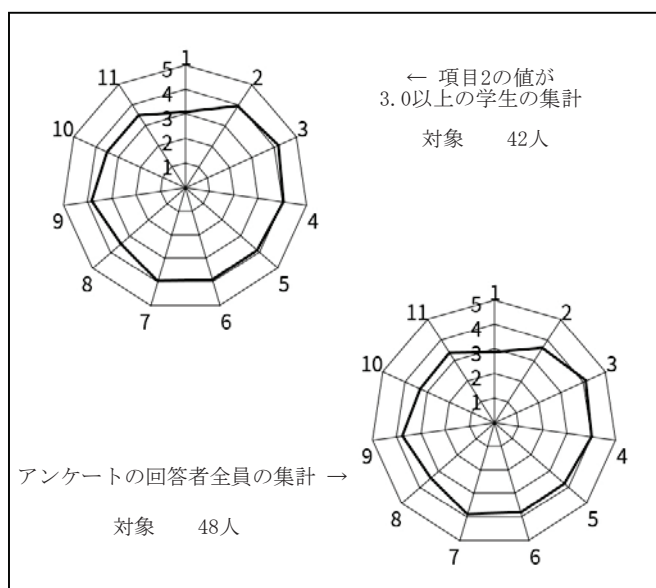
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、為替市場と為替リスクに関する知見を深め、国際的な文脈でのコーポレートファイナンスを学習することを目的とする。この目的に照らすと、国際的な文脈でのリスクのあり方と企業としての対応方法について、学生の側にかなり明確な理解をもたらすことができたと判断している。まず中間課題から、学生が、為替リスクとそのヘッジ方法についてきちんと理解できていることが確認できた。また履修者が12人と比較的少人数であったため、個別の学生の理解の程度を確認しながら授業を進めることができた。最後に実施したケース討論では、学生にとって未知の問題について主体的に考える機会を提供できた。今後の改善点としては、授業中やケース討論で学生の意見を引き出す方法についてもう少し工夫が必要であろうと思われる。また学生の動機付けや授業で得た知識の確認という点では、レポートに加えて試験の実施も効果的であるとおもわれる。来年度は評価方法についてよく検討したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経営学のための統計学I2
授業コード 42C52-002
教員名 松井 宗也
教員コード 102275
登録人数 159
回答数 48
回答率 30.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



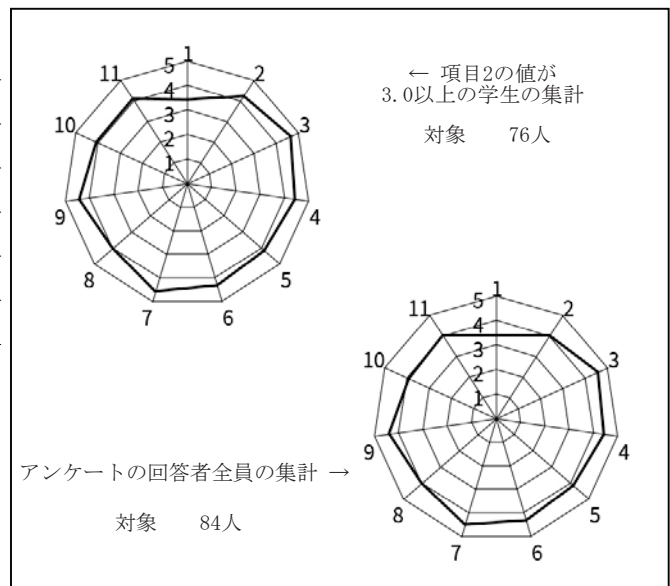
授業評価結果を踏まえた点検・評価

留学前と同様に「経営学を学ぶ上で将来必要となる統計的な考え方を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は標準的な教科書に沿ったもので、数学的に高度な内容をやや噛み砕いた初等的なものである。他大学（南山大学と同程度かやや上の難易度）と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。定期試験の結果から判断すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難いが、授業目標の6割から7割程度は達成できたと感じている。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってあげれば良い。

以下では授業評価集計を踏まえ反省点を述べる。設問2～7の平均値は3点台後半であり評価基準を十分にクリアーした。次年度も学生の反応を観察しつつ更に良い評価が得られるよう努めたい。平均値が低いのは設問8と10と11である。何れも3点台前半である。設問8に関しては、ほぼ毎週のレポート課題以外は、自主的な学習や積極的な授業参加を促すような指導はそこまでできなかった。授業ノートを全てwebに公開しているという影響もあると考えられる。経営学で使われて役に立つという事をより強く訴えたい。設問10に関しては、経営学で使う統計を全て学ぶという到達目標がそもそも高いので、学生に6割から7割程度の理解で良いという事を周知徹底したい。学生に「使える技術的な知識」を身に付けたという満足感を与えられれば、設問11の「満足度」も自ずと上がると思われる。以上である。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	ミクロ経済学2
授業コード	42C55-002
教員名	後藤 剛史
教員コード	100374
登録人数	171
回答数	84
回答率	49.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

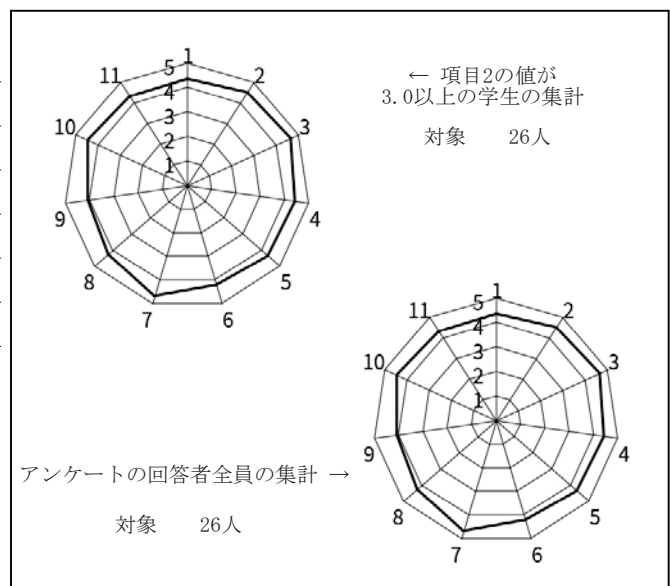


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①「なるべく多くの学生がシラバス上の【到達目標】に到達する」ことを、開講当初に目標として設定した。期末試験の結果等から、この教員側の目標に、ある程度到達したと判断する。
- ②前年度では、総合的な満足度を示す項目の平均値が3.90であった。これを踏まえ、「授業で取り扱う項目を減らし、説明の分量を多くするとともに進行速度を緩める」という改善策を採った結果、総合的な満足度は4.01となり、総合的な満足度が高まった。一方で、「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」という設問についての平均値は、昨年同様に3.40前後である。この数値の低さは、総合的な満足度の上昇に関して、ある種の天井となるだろう。この背景には、数学的要素の少ない科目を強制的に履修させられることに対する経営学部生の不満があり、数学や統計学などの科目についても同様の傾向がある。学部のCP・DPを踏まえると、「数学的な科目を避けても卒業できる」ようなカリキュラムに組み替える手段を採ることは難しい。自由記述については、説明のわかりやすさや私語への注意の仕方に対するポジティブな評価が、今年度も十数件寄せられた。
- ③上記②を踏まえて、次年度は以下の方針の下に授業を運営する。1) 経営学部生がミクロ経済学を学ぶ意義について、引き続き、丁寧に説明する。2) 学生に「数学をやらされているだけ」という感覚を持たせないような説明を心がける。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報処理A
授業コード 42D02-001
教員名 姜 秉国
教員コード 019547
登録人数 30
回答数 26
回答率 86.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



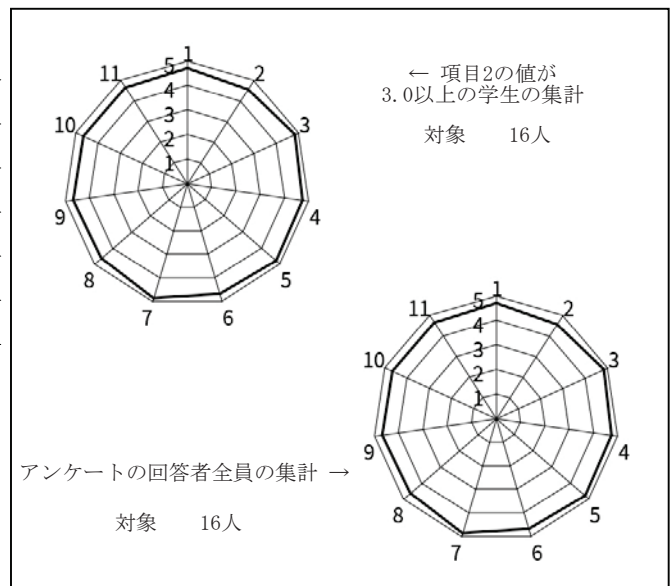
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、「ビジネス情報の基本的な加工・分析ができるようにする」ことであった。この目標は、学生の出席、またレポートと発表内容から、十分達成されたものと判断している。しかし、表計算ソフトの使い方に関する生徒の習熟度にはバラツキが大きい問題がある。そのため、今回は生徒の習熟度のバラツキを測る小テストを実施し、学生のレベルに合わせた内容と進め方を取った。教員一人で習熟度の違う生徒の理解度の合わせた個別指導には限界があるが、後半に入るとついて来れるよう心掛けていた。自由記述式設問（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）の回答には、以下のようなコメントがあった。

- ・ 純粹にこのクォーターの中で1番学びの多い授業だった。面白かった。
- ・ 実践的なスキルが身についた
- ・ Excelをあまり使うことができない状態で受講したが、数値を出すことや、数値が何を示しているかを学ぶことができ、よかった。
- ・ 説明が細かくされていて、初めて学習する分野でもついていけました。
- ・ 全体のレベルに合わせたスピード感と学習内容の柔軟な変更がよかった。
- ・ 基本的な技術だけでなく、今後必要となる能力を学べる点もよかった点であると思います。
- ・ excelのさらに細かい使い方について学習することができた。統計学の内容にも少し触れて、統計の重要性を再確認した。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経営分析論B
授業コード 42C41-001
教員名 篠田 朝也
教員コード 104787
登録人数 106
回答数 16
回答率 15.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

学生達には、毎回の講義内容に沿った分析課題を課したが、その内容を評価する限りにおいて、多くの学生が講義の目標としていた財務データに基づく経営分析力を身に付けられたと評価している。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

学生のアンケート結果を見る限り、どの項目も4.8-4.6程度であり、少なくとも回答者からはおおむね満足しているという評価を得られたと考えている。総合的にも、大きな問題はないものと捉えて、次年度以降も同様の方針で授業に臨みたい。

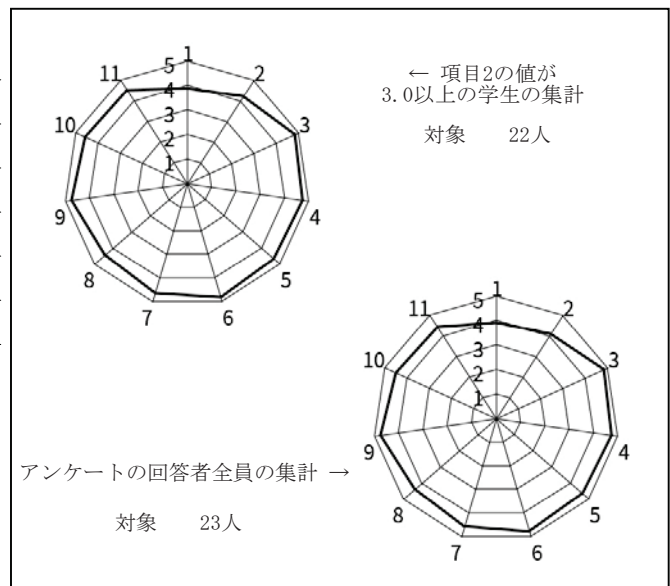
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

学外非常勤ということもあり、アンケートの声掛けはしたものの、うまく伝えられなかったのか、回答数が少なかつたため、次年度は十分な時間を取って声掛けをしたい。

課題が多く感じたという意見をくれた学生が1名いた。とはいえ、課題の狙い、多数の学生の提出課題の内容、実際の受講態度などを見る限り、難度は適正な水準であると考え。次年度は、経営分析や会計学に馴染みがない学生が履修している場合でも、本年度以上に丁寧に声掛けをするように心掛けたい。また、寒かったという意見をくれた学生がいた。確かに、暖房が自動的に切れてしまう時などもあり、どうすればよいのか分からない部分もあるが、気に掛けることとしたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(電子・電機産業論)2
授業コード 42F03-002
教員名 金丸 義弘
教員コード 104609
登録人数 51
回答数 23
回答率 45.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

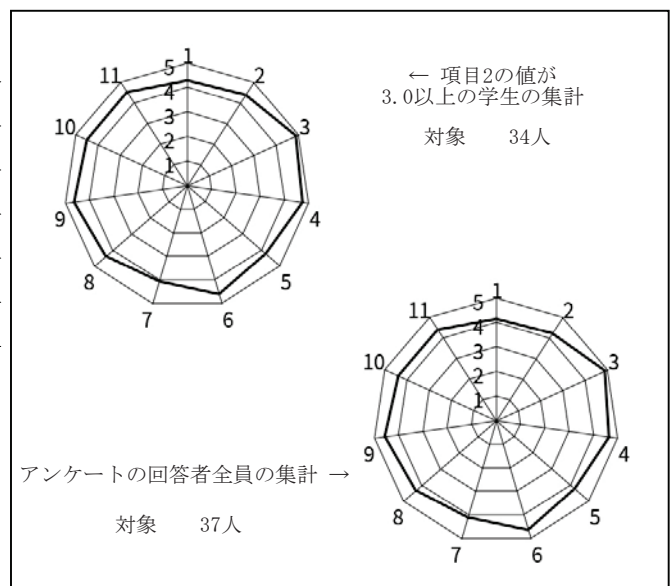


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回で最後の講義となります。4年間ありがとうございました。講義内容についてはわかりやすい、実体験に基づいているというコメントがこれまでも多く、できるだけ自分の経験を話をして学生諸君の将来の役に立つ話をしようと心掛けてきました。おかげさまで講義の出席度も良く、最後の定期試験の結果もこれまで以上に優秀な答案が多々みかけられ、みなさんの理解しやすい講義ができたと思っております。一方、優秀な学生とそうでない学生の格差が大きいと毎年感じています。講義に真面目に取り組まない学生については、単位を与えない、卒業させないなど全般的にもう少し厳しく指導をして自覚を促していく方がよろしいのではないかと思います。特に社会科学系の学部の学生でそういう傾向がみられるのではないかと思います。一定以上の水準を満たさないまま社会に出ても、ビジネスの世界では通用しないことは明白です。日本を取り巻く政治経済環境はこれまで以上に厳しくなっていますので優秀な人財を教育する大学教育の役目は大きいと思います。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	現代産業論(自動車産業論)1
授業コード	42F04-001
教員名	飯島 修
教員コード	104485
登録人数	100
回答数	37
回答率	37.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

- ・前年と質問内容が変わっていない下記2項目の向上を目標としていたが、項目11は回答者の9割が4以上の評価となった。

項目10：「到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか」
平均値4.29から4.38へ向上

項目11：「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」
平均値4.29から4.41へ向上

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

- ・持ち込みPCの講義資料がプロジェクタースクリーンに映らなかったことが初期段階の授業で1回あった。

視聴覚センターの方に連絡し調べていただいたお陰でスクリーンに映すことができたが、授業開始が15分ほど遅れ、受講者の皆さんに迷惑をかけ申し訳なかった。

この回の未消化部分を取り戻そうと、以降の資料をまとめ直し、進行の軌道修正を図ったが、授業時間終盤が駆け足になる回が増えた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

- ・最新の業界動向を反映し講義資料を毎回見直しているが、「詳しすぎて処理できない」と指摘いただいた箇所を含め、資料全体の文字情報を減らしていく。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	工業簿記I
授業コード	42H03-001
教員名	小沢 浩
教員コード	104770
登録人数	7
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

授業は予定通りに進捗し、定期試験で判断する限り、履修者は十分に理解していると思われます。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

アンケートの回答が0件であるため、アンケートを踏まえた回答はできません。

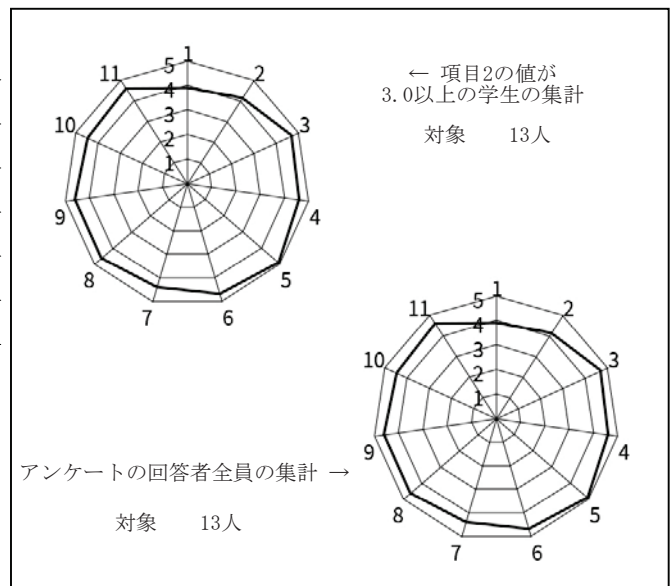
履修者の出席状況はよくありませんでした。出席者に限れば、熱心に授業を聞いてくれていたと思います。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

開講時限が遅いことが、履修者が少ないこと、出席者が少ないことの原因と思います。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済と人間の尊厳5
授業コード 10D04-005
教員名 高田 一樹
教員コード 102887
登録人数 22
回答数 13
回答率 59.1%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

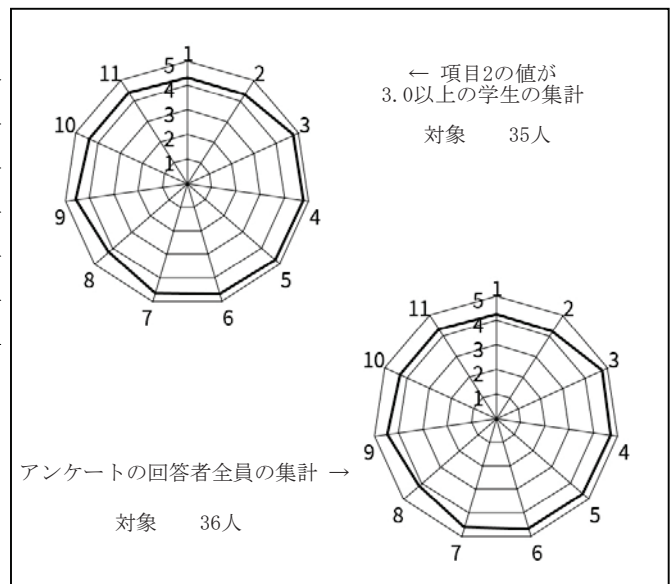


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) 被験者保護政策の歴史と研究倫理の制度化を講義テーマに掲げ、調査や実験に伴い人間の尊厳が冒涇されること、またその尊厳を守ることへの理解を深めることを講義目標とした。8回の課題ほか、期末レポートで研究倫理に関するケースを創作させ、受講者がまとめた文章で自身の意見を論じる機会を複数回設けた。今年度は「新たな科学技術の開発と社会実装に伴う倫理的、法的、社会的課題（ELSI）」に関する話題も加えた。各種課題と期末レポートの回答から当初の授業計画をほぼ達成できたと考える。
- (2) 例年、設問1（当初の関心）の評価が低迷している（昨年度3.8、本年度3.92）。他方、設問3-14は平均4.62（昨年度4.63）であり、設問14（授業満足度）も4.62（昨年度4.6）と、おおむね肯定的な評価を受けた。自由記述にも「研究倫理に関して問題となった事例をもとにした映画や動画を見ることで理解しやすくなった」や「課題がやっていてとても楽しかった」など前向きな評価が散見された。
- (3) アンケートへの回答率が例年低迷しているものの、今年度は受講者の過半数が回答に応じた。受講者が履修の適否を判断するために、初回授業で講義概要を詳しく説明し、設問1の向上に努めたい。テレビや映画の一部など視聴覚教材を積極利用したことが肯定的な評価を受けた。次年度に向けて教材研究や講義内容を深化させたいと考えている。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	流通論B
授業コード	42C22-001
教員名	湯本 祐司
教員コード	017533
登録人数	127
回答数	36
回答率	28.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

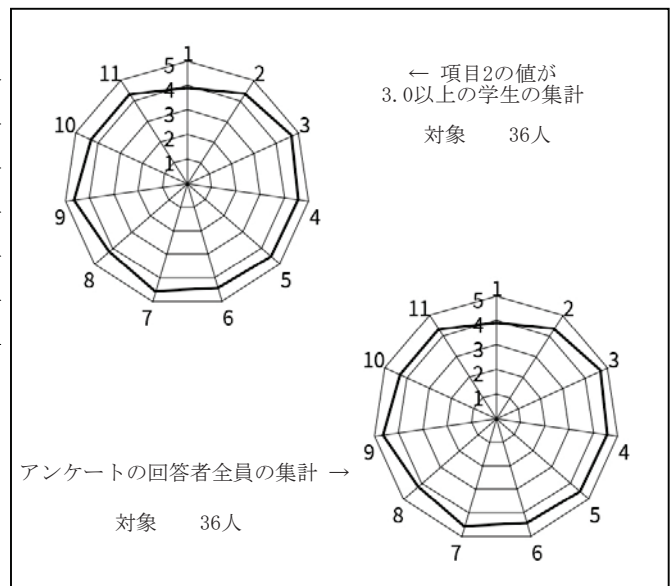


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は小売業者と卸売業者の行動の特徴および小売各業態の革新性とその変容を理解できるようになることを主な到達目標としている。経営学部の選択科目(応用コア科目)であり、履修者127名のほとんどは経営学部の2・3年次生である。宿題レポートおよび定期試験の解答をみるかぎり、およそ8割の学生は目標を達成している。授業評価には36名が回答し、項目1から11の平均と項目3から11の平均はそれぞれ4.46と4.52で前回の授業評価(2022年度)と比較して約0.1ポイント上昇している。学生の評価の高かった設問は、3「この授業はシラバス(講義概要)に沿って行われましたか」(4.75)、4「授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか」(4.72)である。一方、8「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や授業時間外の自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」が4.17であった。授業の良かった点として「スライドがわかりやすい」「事例をあげながらの説明で興味がもてた」「実際に現地に行く課題があり、普段と違う視点でスーパーを体験できた」などのコメントがあった。次年度の改善点としては、授業内容のより深い理解と授業時間外の学習を促すために、毎授業後にWebClassを使った小テストを導入したいと考えている。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	国際会計論B
授業コード	42C24-001
教員名	野口 晃弘
教員コード	104773
登録人数	124
回答数	36
回答率	29.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 項目10 「この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか。」という設問の回答が4.28となっており、少なくとも一定の水準は保たれていると想定される。なお、比較的正確しやすい形でテストを実施しており、よくできる学生には、物足りない印象を与えたかもしれない。

② 項目1 「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」の回答が3.89と低く、少なくとも受講前においては、あまり期待されていなかったことがわかった。

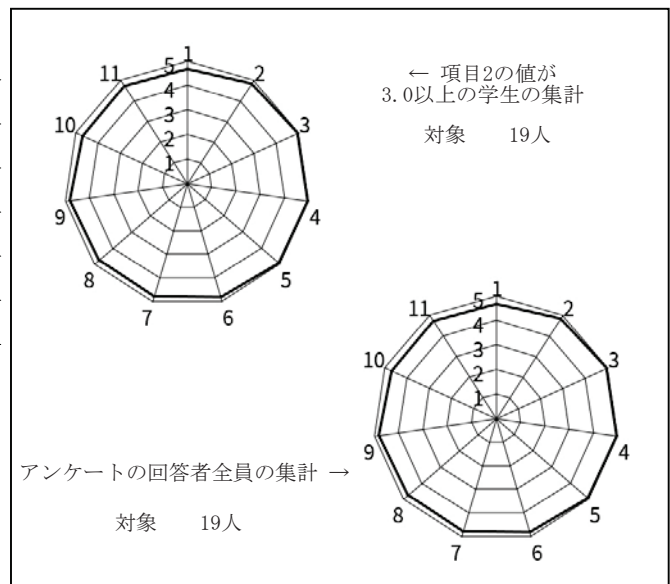
自由記述に「パスワードがわかりにくい。最初からホワイトボードに書いて欲しい」というものがあった。出席確認用のパスワードには、有名なミュージカルに関連するものを用いており、ヒントだけでパスワードにたどりつけるかどうか、ということを通じて、学生に、ビジネス以外のものにも一定の興味を持つようにしてほしいという意図に基づくものである。この点については、なぜ、そのようなパスワードをあえて用いているのかということについても、十分に伝えるようにしたい。

また、「部屋が寒い」という回答もあった。この点については、教学企画課に連絡した。

③ 項目1 の課題への対応としては、科目の重要性和面白さが伝わるようなシラバスの書き方を工夫したい。2026年度は非開講であるため、次回までにこの点を改善するための時間を十分にとることができる。

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織心理学B
授業コード 42C26-001
教員名 中尾 陽子
教員コード 064188
登録人数 88
回答数 19
回答率 21.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

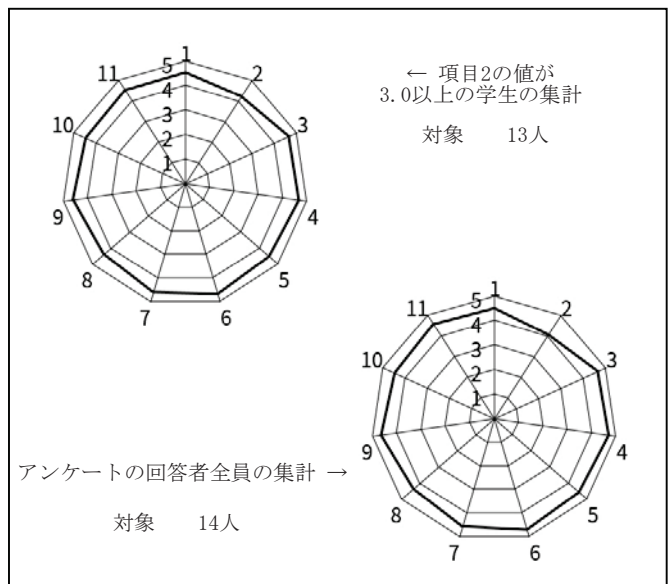
この授業は、到達目標を「組織における『個人』を対象とした組織心理学の研究領域に関して、各分野の概要を理解している/基礎的な事項について説明できる/生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができる」と設定し、進めてきました。14回の授業と時間外課題を通して、受講生のみなさんが徐々に理解を深め、到達度にはもちろん違いがありながら、それぞれなりにこの目標を達成してくださったものと考えています。

今回の受講生は、経営学部生と心理人間学科生が半分ずつ、その中に若干名、他学部の学生さんと他大学の学生さんも参加してくださいました。心理学の前提知識やグループワークのスキルも異なるため、毎回の授業でも学生さんたちの気づきや学びを教えてくださいました。その際にも、違いあるメンバー構成だったからこそ気づきや学びが広がったという意見を多くいただき、グループで学び合うことの意味を感じることができました。一方、グループへの参加度に関するご意見も複数届きました。授業の度、しつこい程の説明を心がけましたが、グループのメンバーと共に学びあうことへの意欲と覚悟をもって授業に参加されていない方も見受けられ、特に最後のプレゼンテーション含むグループ活動には支障も生じた様子を残念に思います。『休まざるを得ない時』にどのようなコミュニケーションと行動をするのか、今後社会の中でも常に大切になることですから、今後もみなさんと取り組んでいきたいと思っています。

これからも、受講生の方々と協力しながら授業を創っていきたいと思っています。引き続きみなさまのご協力をお願いいたします。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 管理会計論
授業コード 42C44-001
教員名 窪田 祐一
教員コード 102901
登録人数 23
回答数 14
回答率 60.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

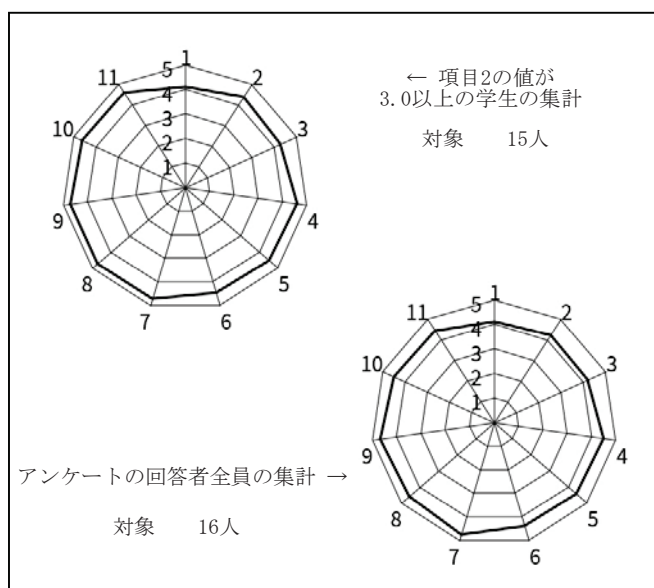


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初は、「管理会計の意義と管理会計で用いられる基礎概念について説明できること」「予算管理、原価管理、経営計画の各内容とそれぞれの結びつきが説明できること」「活動基準原価計算、バランススコアカード、原価企画など代表的な管理会計実践について説明できること」の3点を授業の到達目標とした。半数以上の学生は、十分に到達したと思われる。
- ②経営学部3年生以上を対象とした授業であり、設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」の点数が4.5と高かった。興味のある学生が受講しており、その点は望ましい。この設問1の点数が低い学生は、その後の質問である「授業の進行速度」や「学生の理解度に配慮していたか」も低い傾向にある。設問11「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」は、平均的であったが、受講生の期待には適う内容であったと思われる。
- ③受講生の人数が減っている点は、本科目を履修する前の基礎科目（工業簿記や原価計算論）の受講生の減少とも関係があるように思われる。この科目の講義方法の改善では限界があり、抜本的な対策についても考えていきたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	グローバル・ビジネス論B
授業コード	42E12-001
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	34
回答数	16
回答率	47.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、ビジネスのグローバル化が進む中、アジア諸国における人的資源管理の国際比較学習である。履修者は、アジアにおける人的資源管理の基礎と実用的方法を学び、人的資源を活用するための必要な手法、戦略や視野を身に付け、日本の人的資源管理と比較学習・研究を出来るようになる。授業は、講義レジュメ・関連資料などを配布し、休講や補講なしで、シラバスを終了した。シラバスの目的を全面的に達成したと思っている。

設問1から設問2「授業への参加について」に関しては、2025年度第4クォーター全科目と経営学部の42A01-001～42H04-999番台科目群とを比較すると、高い評価を受けている。設問3から設問5「授業全体について」の平均値4.74、4.70、4.68 に対して、本科目の評価は、4.19、4.50、4.44となっている。設問6から設問9「授業の運営について」では平均値4.62、4.59、4.48、4.69 に対して、本科目は4.38、4.75、4.56、4.69 となっている。設問10から設問11「全体的な評価」では平均値4.44、4.53 に対して、本科目は4.50、4.44となっている。昨年と比較すると全ての設問の平均値が同じか高いである。

また、設問12から14「自由記述」では、「様々な国の人的資源管理が学べる。シラバスが分かりやすくよく作られていた、板書したものを私たちは写す必要がある中、わざわざプリントにして配布してくれていること、授業資料がとても丁寧に書かれていた、教授が資料をまとめてくれて、それに沿った授業を行った点」、などあった。本学期の経験を生かして、今後もより高い水準をめざして様々な改善を試みたい。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(ビジネスとICT)
授業コード	42G27-001
教員名	BIERI, Thomas
教員コード	102517
登録人数	8
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

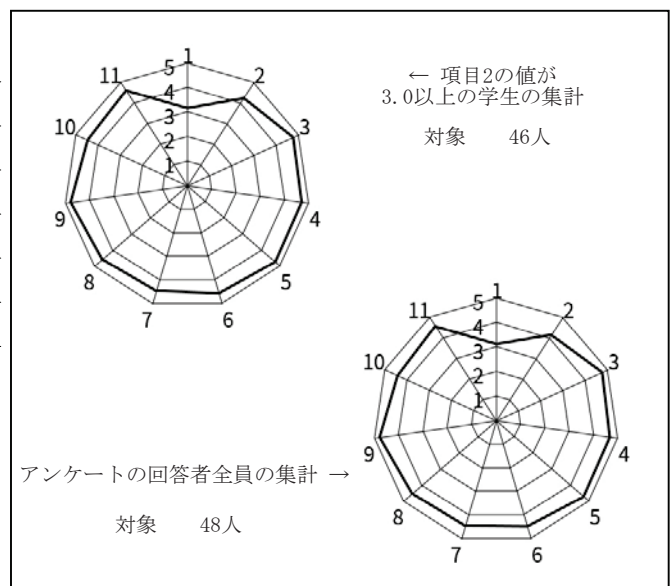
Almost every student was frequently absent, often for job-hunting related activities, and I often had to try to do reviews of previous lectures in advance of new lectures. It was difficult to maintain a good flow and the cooperative atmosphere that I had hoped to have between the learners.

I gave students time in class to respond to this questionnaire. All of them took out their devices and did something with them for several minutes. I don't know what they did instead when I thought they were answering the questionnaire, but no one responded. It is not possible to evaluate based on upon the numerical data and the comments, etc. because there are no numerical data and the comments, etc.

I expect to completely revamp the course to include new aspects of how businesses are using machine translation, large language model AI, etc. by the time I teach it again.

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経営学のための統計学II1
授業コード 42C53-001
教員名 武内 幸生
教員コード 104717
登録人数 166
回答数 48
回答率 28.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について

開講当初予定していた目標と到達に関し、予定通り「回帰分析」まで解説を行えた。教科書のページを示し、教科書に沿って説明を行った。
授業の目的や統計学が設定されている理由を初回授業で説明し、これは好評だった。
Webクラスを活用した課題だけではなく、類題9問と総合問題6問の解説も行い、補足を行えた。

②について

受講者166名中48名からアンケート結果が得られ、質問1～11の平均が4.42、質問3～11の平均が4.60となった。昨年度3Q開講時と同様の傾向であり、質問3～11の平均点は少し上昇した。

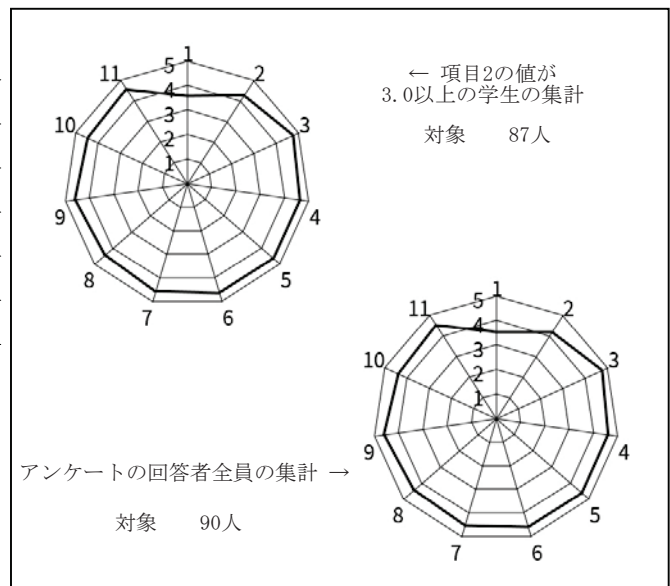
自由記述欄は高評価なコメントであり、特に大きな問題は無いと感じた。授業中の質問でも「他に担当している科目があるのか？」や「来年度の担当予定の科目は何か？」と聞かれ、とてもありがたく感じた。

③について

2026年度は統計学から科目変更になり、2コマ連続の演習を交えた授業となるため、アンケート自由記述にあった様に授業資料を充実させて丁寧な解説を心がけるようにしたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代産業論(電子・電機産業論)3
授業コード	42F03-003
教員名	石田 晃三
教員コード	104906
登録人数	171
回答数	90
回答率	52.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

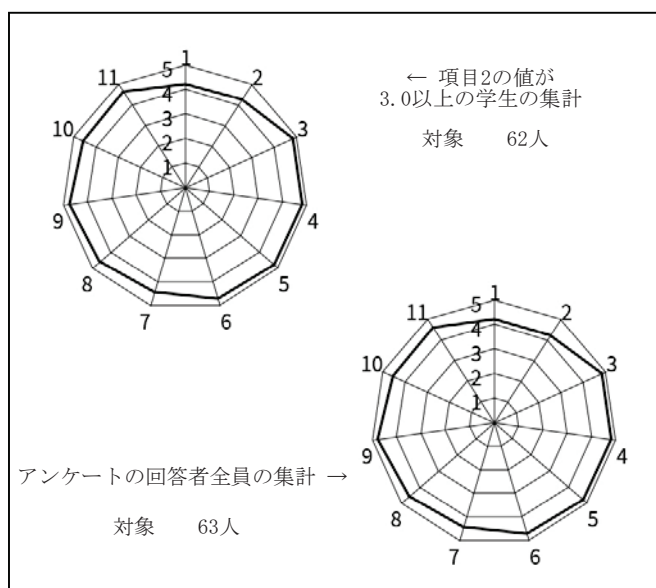
近年の電子・電機産業が直面している環境問題や社会情勢の変化といった複雑な社会課題を踏まえ、企業組織がどのように変遷してきたのかを理解するとともに、サステナブル経営やイノベーション経営など、企業経営の高度化の動向を学ぶことを目標としている。また、投資家との情報の非対称性の解消を目的としたガバナンスの重要性についても理解を深めることを重視している。

授業では、統合報告書、生成AI、特許データベースなどを活用した多面的な企業分析の実習を行い、今後の職業生活に役立つ知識や調査ノウハウの習得を促してきた。提出された課題レポートの内容からは、学生の理解度の向上が確認できた。電子・電機産業を技術面のみならず、経営学的視点から総合的に理解することの重要性について、一定の理解が得られたものと考えている。

一方で、授業の難易度や進度に関する指摘も見られたため、必要な内容を損なわない範囲で説明方法の工夫や進行の改善を図り、次年度の授業運営に反映していきたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(起業論)
授業コード 42F05-001
教員名 藤榮 幸人
教員コード 103879
登録人数 98
回答数 63
回答率 64.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講当初に設定していた、目標は1. 日本における起業のダイナミズムの必要性理解、2. 起業家やフリーランスとして働く意義やリスクを知っている、3. 企業の成長ステージ毎にそれぞれ取り組むべきこと、陥りやすい事象を理解することができる、であったが、授業での解説やディスカッションを通じて学生が自分固有の意見を持つように促すことができた。それは、最終レポートにも現れている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

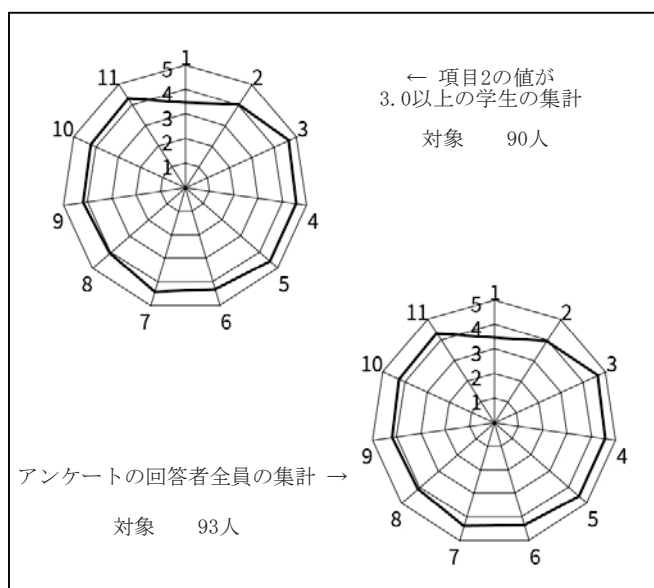
ケースメソッド授業を2回取り入れることで、学生同士のコミュニケーションを促進したり、他者の考えから学ぶということにつながっていると実感しており、学生のコメントからもそれが読み取れる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

授業に積極参加してもらうように、実社会での出来事や、企業活動における課題など生の情報を届けながら関心が持てる授業を心がけたい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済と人間の尊厳4
授業コード 10D04-004
教員名 MERE, Winibaldus Stefanus
教員コード 101180
登録人数 187
回答数 93
回答率 49.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

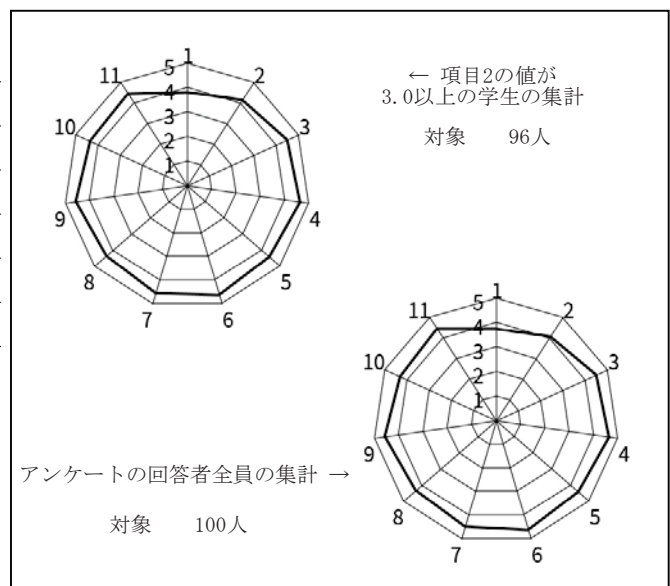


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) In general the direction and the content of the course followed the syllabus and it can be said that the goals to help students understand concrete economic and political issues from the perspective of human dignity had been achieved.
- 2) In most part I strongly agree with students evaluation which basically confirm my own evaluation as lecturer. Their comment and evaluation as appeared in numerical data are genuine assessment of the course. The structure of the power point that helps students to organize their thoughts logically concerning concrete economic and political issue in the context of basic principle of human dignity not only helpful for me as lecture to deliver the knowledge on the subject, but also help students to broaden their view on every issues raised in the course.
- 3) While there has been efforts to increase students participation during the lecture, various new approach need to be considered to ensure a dialogic and interactive learning during the class.

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	法と人間の尊厳6
授業コード	10D05-006
教員名	豊島 明子
教員コード	101192
登録人数	128
回答数	100
回答率	78.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



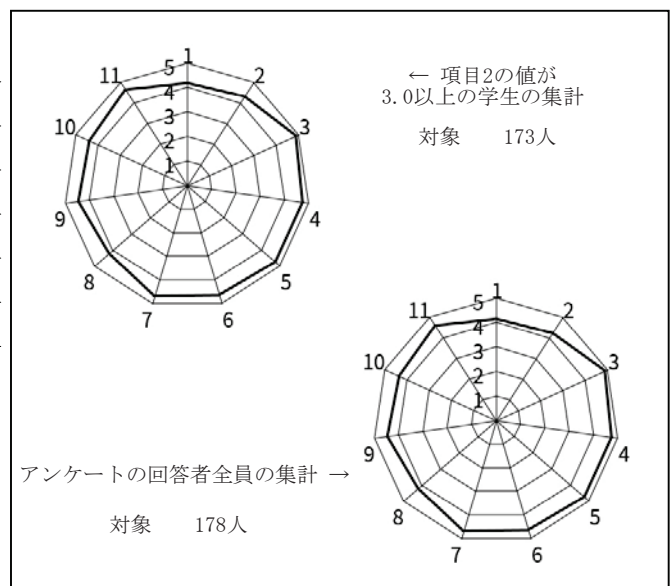
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、生存権（憲法25条）の視点から、人間の尊厳に関する日本の現状を理解し、その課題を主体的に考える力を修得することを目標としていた。以下に述べる授業評価結果から、この目標は、おおむね達成できたのではないかと考えている。

まず、授業全体の満足度（設問11）は4.44であり、人間の尊厳科目の全体値である4.54には届かなかったが、「質問・相談の機会が十分に設けられていたか」等をたずねる（設問9）は4.58で、全体値の4.49を上回った。この点に関連して、自由記述では、「リアクションペーパーへの返答が丁寧で、授業内容の説明もわかりやすかった」「リアクションペーパーに書いたことにちゃんと答えてくれる」「毎回のリアクションペーパーについて、質問などをすぐに解決してくれる姿はとてもいいと思いました」「毎回のフィードバックも面白い、他学生の意見が聞けて良かった」といった好意的なコメントが見られた。この授業では、学生の理解度を確かなものにするのと同時に、各回の授業の連続性を重視し、回を重ねるごとに学生の認識や考えが深められることを意図して、授業冒頭には必ず前回のリアクションペーパーへの応答を繰り返した。この授業運営は効果的であったと思うので、次年度も続けていきたい。ただし、他方で、「最初のフィードバックの時間が長すぎる」との意見も見られたので、両者のバランスを上手くとりながら、教員と学生との双方向なやりとりを通じて学びを深められるよう、ひき続き努力したい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 政治学B2
授業コード 12C05-002
教員名 西村 邦行
教員コード 104090
登録人数 216
回答数 178
回答率 82.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

抽象的な話もいわず政治学の考え方を伝えるところに重点を置いている。全体の満足度も高く、問題なく達成できたと考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

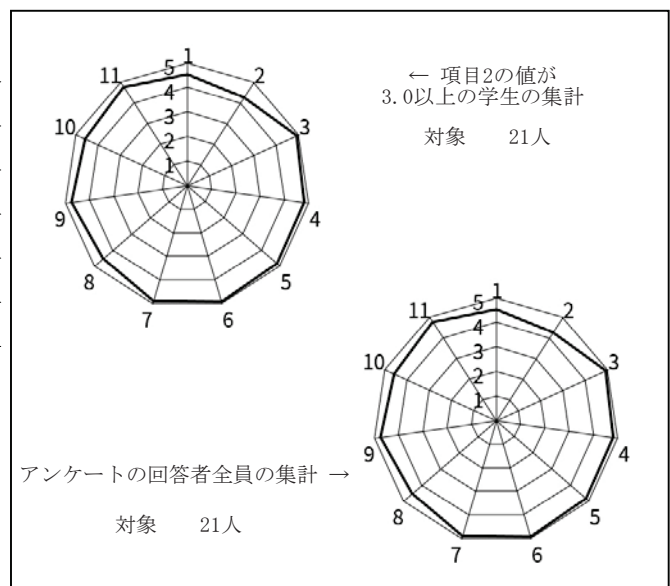
総合評価は全体平均・基盤科目平均を上回った。当初の関心が1や2の学生が総合評価で5をつけているケースも複数あった。自由記述欄もほとんどが「分かりやすい」「面白い」などであり、引き続き現在の方法に準拠して授業を行いたい。他方、「ときどき早口」とのコメントが数件あった。自覚もあるので注意したい。また、自主的な学習を促す工夫については、ポイントがやや低めであった。リアクションペーパーへのフィードバックで参考文献を追加紹介するなどしていたが、授業内で調べものを要する作業を採り入れるといったことも検討したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

最も多かった不満は教室の広さと空調であり、大学に何とかしてもらいたい。なお、例年どの科目でも到達目標に関わる項目のポイントが低かったが、初回に説明した到達目標を学生側が忘れていた可能性に思い至り、今回はアンケート時にスライドで再掲した。結果、目覚ましく改善した。意味のない評価項目であることが分かったので、次回以降は省みないことを心がける。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 刑事政策
授業コード 44B12-001
教員名 水留 正流
教員コード 101566
登録人数 58
回答数 21
回答率 36.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



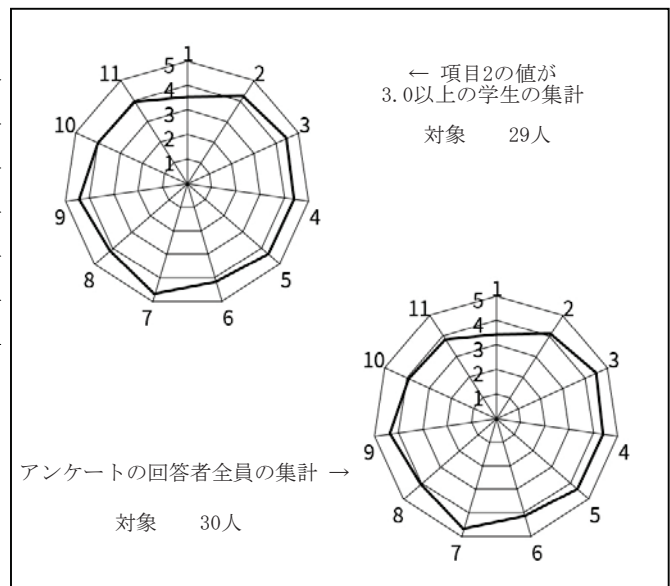
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 広義の刑事政策のうち、犯罪者処遇のシステムとその実態について、犯罪白書等のデータをもとにその課題を探ることがこの授業の目的であった。
2. 授業評価では、全項目の平均が4.71と極めて高い評価を得た。授業に出席し、授業評価を書いてくれた学生にとっては満足度が高かったのだろうと思われ、この点には手応えを感じている。
3. しかし、回収率が約36%に留まり、昨年度と比較してさらに5ポイント低下した点は大きな課題である。設問1（授業履修前の段階での関心度）が4.52ということは、換言すれば、この授業で新たに刑事政策分野に興味を持つに至った学生の掘り起こしという点には失敗していることを意味しているのかもしれない。また、学部4年生の受講が多かったことがこれに影響しているのかもしれない。

犯罪者処遇には市民の関心が高いが、他方で基礎的な知識・前提を欠いた不当なコメントがSNSに多く流れているのも実態である。こうした潮流に与しない学生の養成は本学に課されたミッションでもあろうが、定期試験の結果をみても目標の達成には遠かった。次の機会には、学生たちの出席意欲を喚起し、上述のミッション達成に近づけるよう努力したい。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 西洋法史A
授業コード 44B35-001
教員名 田中 実
教員コード 017038
登録人数 109
回答数 30
回答率 27.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

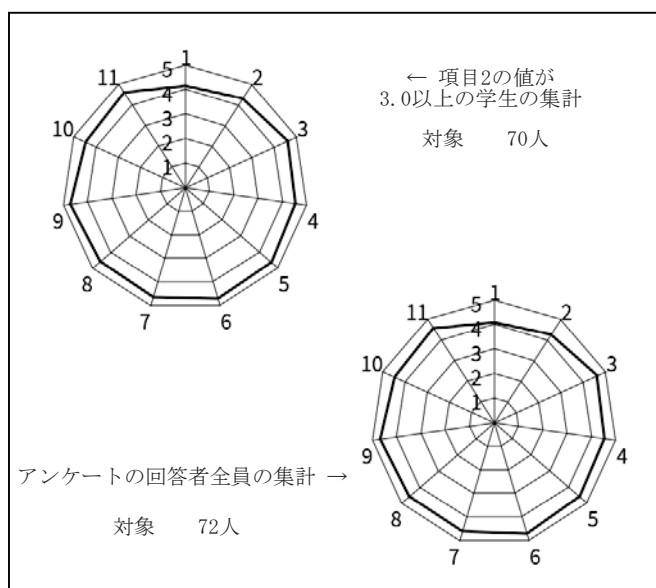


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1については、従来よりもかなり数値が低い評価である。本来、法学あるいは法学部教育の中で、特殊な分野でもあり、決して高い評価を得てきたわけではないが、年に1度1年次生対象の導入的な講義が廃止されたことも原因かと思われる。いずれにせよ、初回に、どのような目的と内容の講義であるかにつき、より時間かけて話す必要を感じている。もっとも、到達目標との関係では、講義に出席している学生の顔つきや講義態度から、興味をもってくれたとの印象をいただいているが、項目10および項目11について、数値は決して高くはなく、よりよい講義を行うようにしたい。項目2や項目9が従来に比べて評価があがっている。予め読むべき教科書や配布資料の箇所をより意識して明示したことによると思われるが、より明確な指示を心掛けたい。大学の講義という意味では、分野に対する担当教員の真摯な取組みを問う項目がなくなり残念ではある。記述の回答での肯定的な評価を受け、担当者としては励みになる。否定的な解答につき聞き取りにくい箇所がないよう、心掛けたいと思う。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	債権法総論
授業コード	44C12-001
教員名	大原 寛史
教員コード	104297
登録人数	311
回答数	72
回答率	23.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



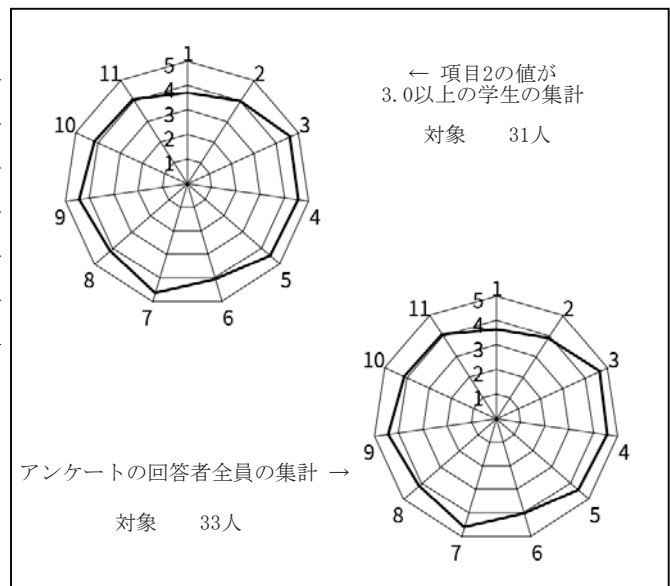
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートに協力してくれた受講生に心より御礼申し上げたい。

- ①おおむね達成することができたと考えている。
- ②学習内容の重要なポイントについて、到達目標との関係性を意識して説明に時間をかけるように工夫したこともあり、項目3～5が一定程度の値となったと分析している。もっとも、課題も多い。①やや細かいと考えられる学習内容については簡単な説明にとどめざるを得なかった。②毎年、講義後に理解度確認のための小テストやアンケートを実施し、解答や解説のフィードバックを詳細に行い、受講生の復習を促してはいるが、項目8、10の値が相対的に低い。③特に項目10の値が低いことは担当者として反省しなければならない。
- ③①については、講義中の解説の時間配分を再検討する。②については、項目6、9の値はそこまで低くはなっていないことからすると、受講生の認識の差によるものであるようにも感じられるが、そもそも受講生が満足をしていれば各項目の値に差は出ないはずである。担当者による各取組みの意図および到達目標との関係性について、講義中により丁寧に説明することを試みる。③については、講義内容のレベルを下げるのではなく、①および②の試みを通じ、講義資料および講義中の説明をより工夫することで対処する。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 会社法（設立・株式）
授業コード 44F07-001
教員名 佐藤 勤
教員コード 101599
登録人数 116
回答数 33
回答率 28.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

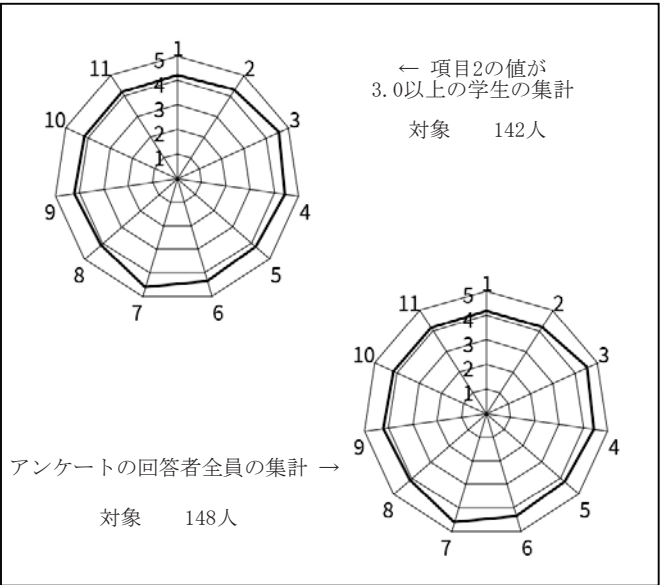
項目番号3、4、7、9は、いずれも開講主体別の平均点を上回っている。これらの項目は、授業の進め方に関する設問である。これらの評点から、開講当初に設定した目標は達成したと考える。これに対し、授業の進め方に関する事項である項目番号6が、開講主体別の平均点を0.4下回っている。この項目は、「学生の理解度に配慮し、・・・適切に授業を進めましたか」という設問である。授業では、学生から評価されている（自由記述欄）資料および事後教材を配布していることや、項目番号3等の評価を鑑みれば、授業の進め方については、大きな課題はないものとする。

他の授業評価の項目では、学生の主体的な学習に関する項目番号である、1および2が、開講主体別平均点を0.3下回っている。学生の主体的な学習、事前の関心に低さがうかがわれる。特に、項目番号1の履修前の興味が3.64と、全体平均を0.43、開講主体別の平均点を0.35下回っている。これらの評点結果が、項目番号10、11に反映している。

以上の分析から、次回以降の課題としては、以下に授業内容に興味を持たせ、学習させるかが、大きな課題であると認識し、次回授業開始までに対応策を考えることとする。

2025年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

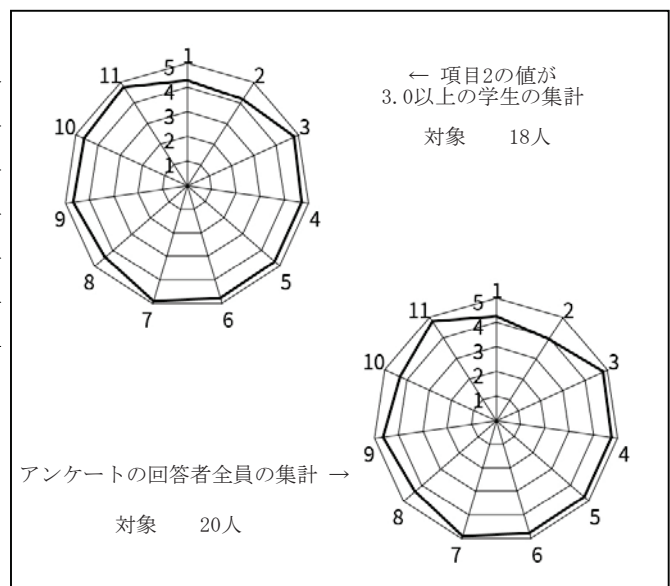
科目名	不法行為法
授業コード	44B19-001
教員名	野口 大作
教員コード	105120
登録人数	294
回答数	148
回答率	50.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際法各論A
授業コード 44C09-001
教員名 尋木 真也
教員コード 104091
登録人数 100
回答数 20
回答率 20.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標の到達度

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。国際人道法の体系的理解については、予定通り基本原則、敵対行為規制、戦争犠牲者保護、履行確保のすべてを講義したため、一応達成できたと考えています。現実の戦争についての法的評価能力については、定期試験の記述内容を見る限り、多くの受講生が涵養してくれたものと思っています。

②自己点検・評価

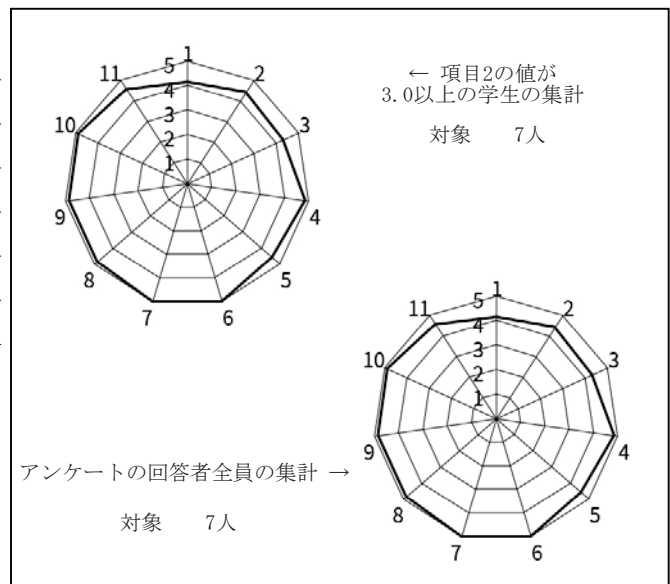
アンケート項目のうち、予復習を含む主体的学修の項目のみ、やや評価が低かったように思います。従来の文献講読やインターネットによる情報収集に加え、現在は生成AIとプロンプトを重ねることによる自主学習も有効に思います。自由回答では、時事等をからめた内容がわかりやすい、スライドが見やすいなどのコメントをいただきました。淡々と授業を進めているつもりでしたが、楽しそうに授業をしているとの評価をいただけたことは、うれしく思います。

③今後の授業

授業にとどまらない広がりのある学修環境を提供できるよう、授業中に生成AIの実践を体験してもらうなど、興味をもてる授業づくりを検討していきます。主体的な学習意欲の向上につながる取組みを模索します。内容・形式は、毎年アップデートしていますが、歴史を通じて現在の諸問題の解決策を探れるような、一貫性やストーリー性のある授業を心がけていきます。

2025年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際経済組織法
授業コード 44C11-001
教員名 石川 義道
教員コード 105093
登録人数 36
回答数 7
回答率 19.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標や到達の程度について

本授業では、世界貿易機関（WTO）の役割・構造・機能を理解し、それらが国際経済秩序に与える影響を批判的に考察できるようになることを目標に設定していた。特に、WTO紛争解決制度に注目し、制度設計と政策判断の相互関係を理解する力を養うことを重視した。全体として、多くの学生がWTOを中心とする国際通商問題に関心を持ち、判例や条文の理解・分析にも意欲的に取り組んでいたと思う。到達度としては概ね良好であり、特にグループディスカッションにおいては、複数の視点から制度の課題を考察する力が育まれていたと感じる。

② 数値データおよび自由記述を参考に、当該科目に関する総合的な自己点検・評価

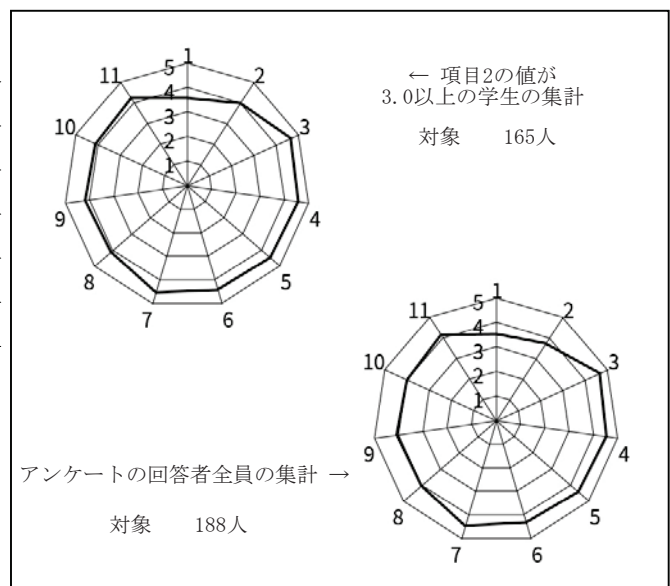
学生からは、法学部では珍しいグループワーク形式が理解の深化につながったと高く評価された。報告回数やグループ構成の工夫も負担軽減に寄与した。講義自体に対しても非常に好意的な声が多く寄せられた。一方で内容の難しさを指摘する意見もあり、今後は導入や資料の工夫により分かりやすさを高めたい。

③ 学期内に設定してあった改善点、反省点等を踏まえての総合的な自己点検・評価

今期は、グループワークを中心とした授業を行った。学生を3-4名のグループに分けて、最終的には報告の形をとらせた。授業中に準備を共に進める中で、学生が理解している点、理解できていない点を把握することができた。ただし、最後の報告会では思ったよりも各グループによる報告の時間が長くなってしまった。今後の検討課題である。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本国憲法1
授業コード 12C03-001
教員名 菅原 真
教員コード 102064
登録人数 267
回答数 188
回答率 70.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

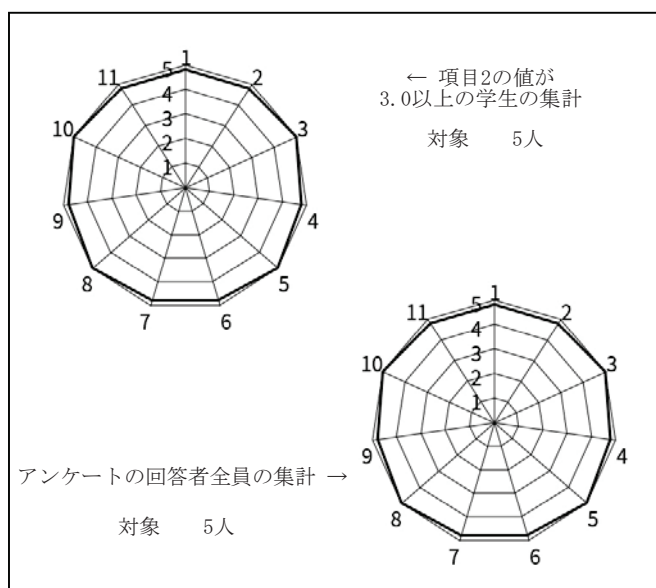


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①授業評価及び定期試験の結果を見ると、開講当初に設定していた目標到達は概ね達成したと考える。
- ②本年度は、昨年度を大幅に上回る267名（うち、1年生が201名）が履修した。共通教育科目で、法学部以外の学生が聴講する科目ということもあり、授業内容についても日本の戦後史を踏まえながら憲法の重要論点を扱うという工夫を行ってきた。教材についても、指定教科書の該当部分を読んでくことを前提に、毎回講義前にレジュメ・資料をWebClassを通じて配布し、授業中に映像資料を用い、また論点については学生にマイクを差し向けて意見を求めるなどしてきた結果、自由記述欄に「興味を持てた」という評価のコメントを多く寄せていただくことができた。
- ③自由記述欄をみると、授業の進度や事前配布資料について多くが評価してくれている反面、レジュメ・資料の文字数が多すぎるという意見もわずかではあるものの、ちらほら出始めてきたので、毎年、受講する学生のニーズや知識量を再度検討し、対応していきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較5<国際科目群>
授業コード 13A01-901
教員名 ALVA, Reginald Joaquim
教員コード 102369
登録人数 9
回答数 5
回答率 55.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、「文化の比較5<国際科目群>」の授業をやらせていただきました。このコースは学部・学年を問わず受講可能なため、すべての授業資料をウェブクラスに掲載しました。これにより、学生は事前に資料に目を通し、授業の準備をする機会を得ることができました。また、ディスカッションやグループワークを通して、授業への積極的な参加が促されました。さらに、学生は授業中に質問したり、オンラインで質問したりする機会を設けました。こうした活動は、学生が授業資料を深く理解し、知識を広げるのに大いに役立ったようです。以下は学生からのコメントであり、彼らはこのコースに非常に満足していたことが伺えます。

「The interactive aspect of the class was very good.」

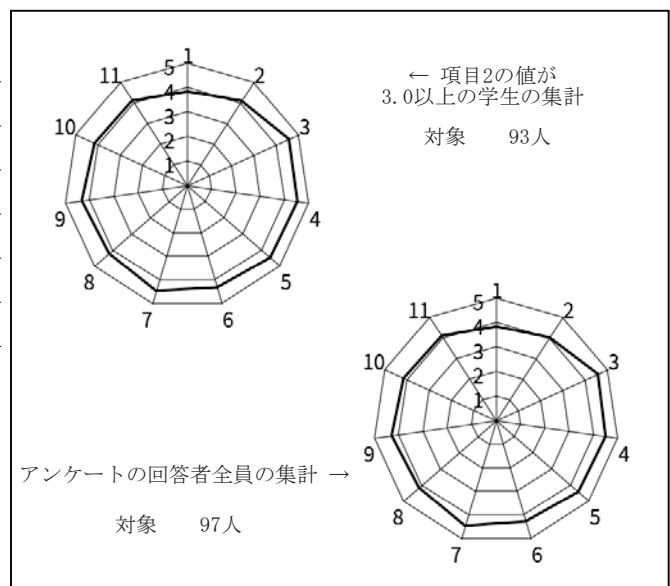
「It was easy to understand.」

「The class talks about contemporary cultures and what we can do」

「We (could have) discussion」

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 人権各論B
授業コード 44A20-001
教員名 河合 正雄
教員コード 104426
登録人数 267
回答数 97
回答率 36.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の平均値より若干下回ったものの、設問1を除いて4点を上回ることができた。

(1) 評価された点

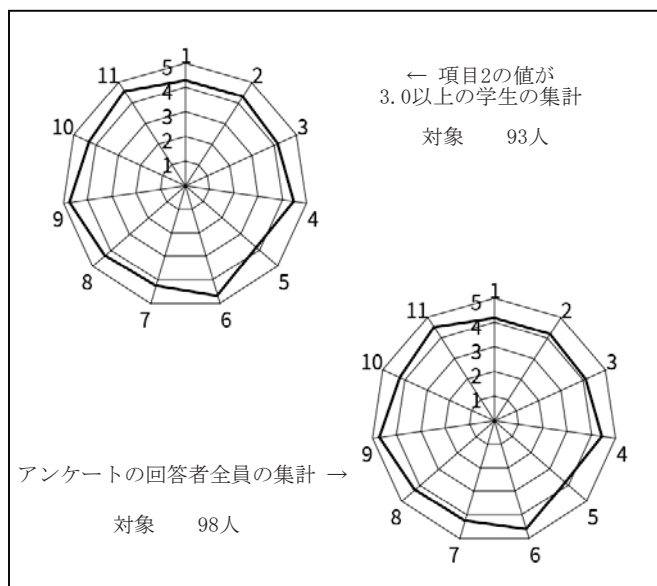
「説明、具体例などが分かりやすく、理解しやすかった」、「レジュメの内容が簡潔で分かりやすく、内容の理解がとてもしやすかった」、「重要な点をしっかり示してくれる」等のコメントをいただくことができた。この点に関して、2024年度Q4「日本国憲法」（共通教育）では厳しいコメントを1通いただいたこともあり、安堵した。また、休憩が多すぎないか懸念していたものの（1・2限の縦コマで3回の休憩）、「メリハリをつけて学ぶことができ、集中力も持続しやすい」等の評価をいただくことができた。

(2) 改善点

板書方法である。ここ数年は、ワードで作成したレジュメに書き込み、スクリーンで映し出す形式を採用している（なお、毎回授業終了直後にWebclassと講義資料サーバーに掲載した点は評価されている）。第1に、教室の設備（B棟3階の縦長の講義室、大型スクリーンがホワイトボード前にのみ設置）が主要因であるとはいえ、スクリーンの文字が小さすぎた。第2に、「板書を書き直す回数が多い」という点について、強く改善を求められた。「板書をあらかじめ用意しておき、それをコピーするなど（受講者の）フラストレーションが蓄積されない方法を模索」せよとの貴重なアドバイスもいただいたが、授業は生き物でもあるため、2026年度は板書形式に戻すことを考えている。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 民法総則
授業コード 44A21-001
教員名 石畝 剛士
教員コード 104908
登録人数 436
回答数 98
回答率 22.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度

定期試験の結果を見ると、少なくとも○×問題の成績は全体的に高く、基礎的な知識の習得は目標到達ができているように思われる。しかし、論述問題では、法的三段論法の基礎を押さえていない答案が圧倒的多数であり、なお課題が残った。最初の法律科目であることからやむを得ない部分もあるが、講義でも触れており、改めてその学修に努められたい。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

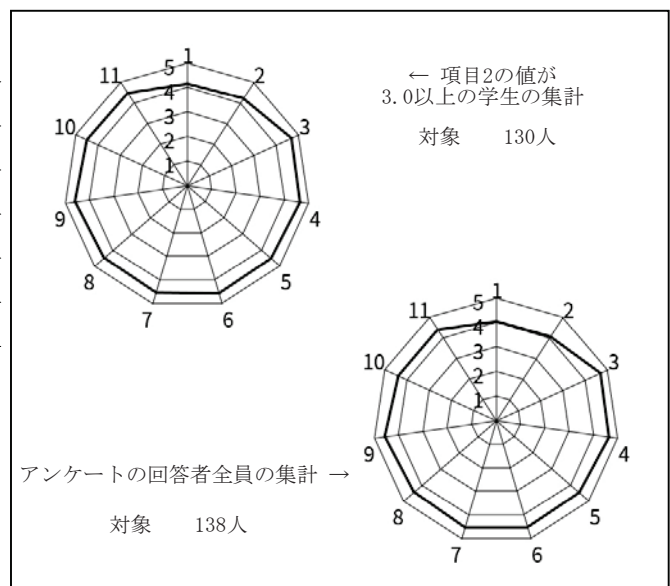
数値データで特筆すべきは、授業構成・進行進度の項目に対する評価が圧倒的に低かった点である。前半部分を比較的丁寧に話し過ぎた結果、最後の方の講義が駆け足となったことへの不満と受け止めている。もっとも、その前半部分も、定期試験を見る限り、内容理解度は十分とは言えない。自由記述欄からも「早い」「遅い」それぞれの評価が見られ、ただスピードを速めればよいわけではない点にこの問題の深刻さが窺われる。現時点では、ゆっくり説明する部分と簡潔な説明にとどめる部分とを見極め、抑揚のとれた授業運営を心掛けたい。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

レジュメが細かいとの意見もあったが、授業で取り扱う部分は限定的であり、それ以外は自習ないし発展学習用であるため、特に変更の必要性はないと考えられる。また、Webclassを用いた質問受付の評価も多かったため、これも継続するが、質問回答のタイミングはなお検討が必要であろう。最後に、私語がうるさかった旨の意見を複数頂戴した。法学部の学生が授業中に私語をし、それを教員が注意しなければならないとは隔世の感があるが、そういうタイムリーな問題こそ、Webclassの質問欄に書き込んで貰いたい。教員の方でも注意を払うが、後ろの席の私語についてまでは気づくのが困難であり、この点は学生の自発的な告発を求めたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 民事訴訟法B
授業コード 44B26-001
教員名 渡邊 泰子
教員コード 101553
登録人数 300
回答数 138
回答率 46.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度「民事訴訟法B」は、「民事訴訟手続の基本構造を理解する」とこと、「民事訴訟法に関する体系的な知識を修得する」とことの二つを授業の到達目標を掲げていた。まず、授業評価アンケートの各設問の平均値を見てみると、設問3は4.68、設問4は4.64、設問10は4.38となっていることから、到達目標は概ね達成できたと思われる。

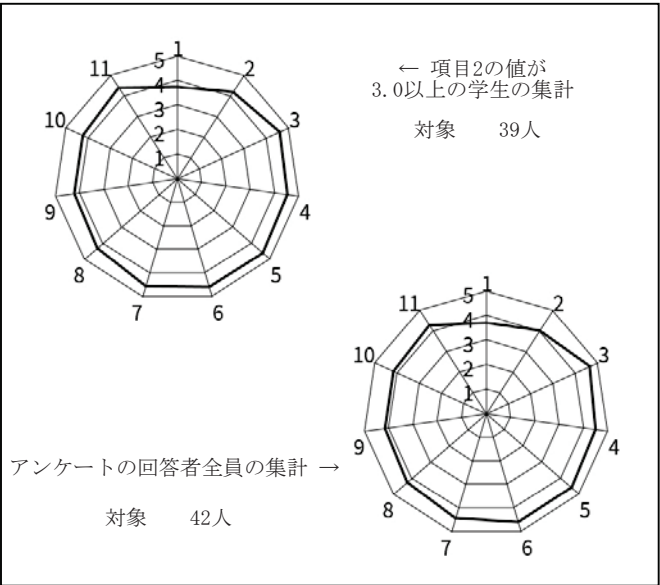
この授業の内容は難しい。しかし、予習の仕方＋授業の聴き方＋復習の仕方を提示して学ぶ環境を整えることが、学生の意欲を高め、わからないことを理解できたという喜びにつながられると考え、丁寧な授業を心がけた。その結果、設問5～9の平均値が4.43以上であること、設問11の満足度が4.38であること、自由記載欄の設問12で、レジュメの配布時期、レジュメの内容や末尾の復習問題、復習問題の解説、授業後の質問への対応などを高く評価するコメントが多く寄せられたことを、非常に嬉しく思っている。

一方、設問13の改善してほしい点として、板書の文字が小さいという点が挙げられていた。確かに、講義資料を映したスクリーンの横のスペースに事案の関係図などの解説を板書することがあり、学生が後からでもゆっくり写せるよう授業終了まで消さない配慮をしていたが、板書が多いときには文字が小さくなり、後ろの席からは見え辛かったかもしれない。次年度はスクリーンに大きく映し出すなど別の方法を検討したい。

今後も、学生の様々な意見に耳を傾け、得られたことを次年度の授業に反映していきたいと考えている。

2025年度Q 2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

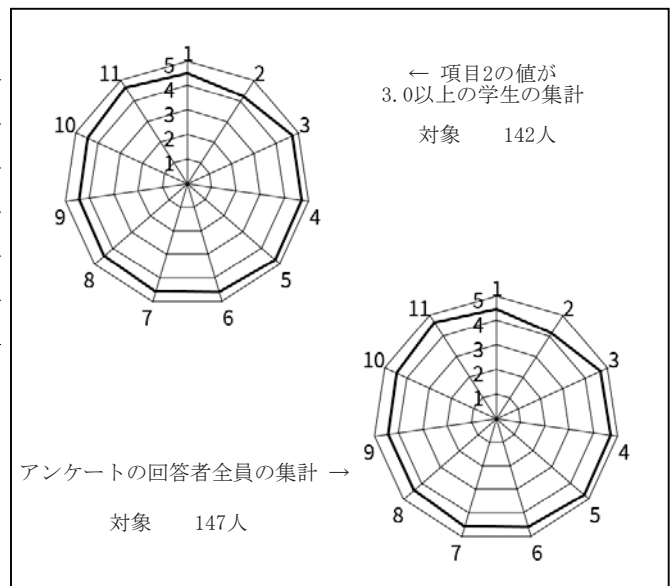
科目名	法哲学A
授業コード	44B31-001
教員名	服部 寛
教員コード	103600
登録人数	239
回答数	42
回答率	17.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	刑法各論A
授業コード	44B90-001
教員名	大山 徹
教員コード	104613
登録人数	264
回答数	147
回答率	55.7%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目的は、刑法各論の「個人的法益に対する罪」の部分に適宜消化し得たかどうかであった。

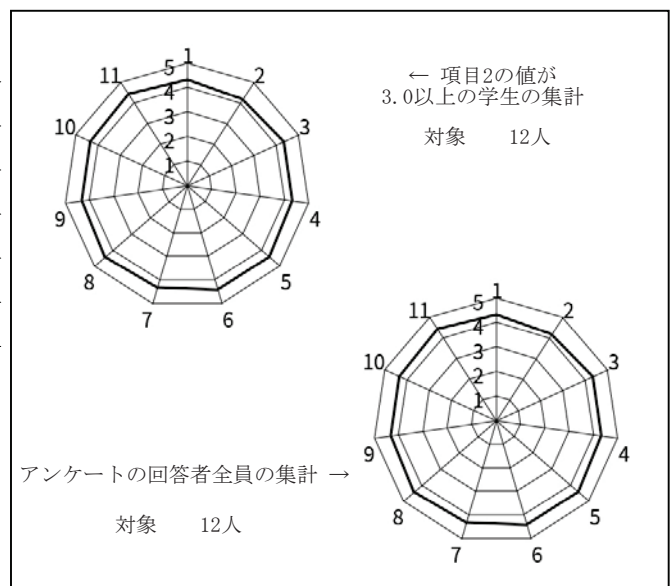
刑法この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」の設問項目の評価は4.62であり、「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」の設問項目の評価は4.75であり、授業評価を見る限り、刑法各論Aで当初掲げていた目的は達成できたように感じている（すべての設問項目の評価とも4を超過していた）。

②ただし、「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」の設問項目の評価は4.14であり相対的に低かったため、アクティブラーニングを意識した授業は十分に展開できなかったようだ。ここは率直に反省すべき点である。また、視覚教材が見やすかったという意見と見にくかったという意見が伯仲しており、原因の究明をしたいと考えている。

③第4クォーターの経済刑法は刑法各論Aの履修を終えた者が履修するため、視聴覚教材のみやすさ等改善して講義に臨みたいと考えている。

2025年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	行政法各論
授業コード	44C04-001
教員名	宮尾 亮甫
教員コード	104945
登録人数	42
回答数	12
回答率	28.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

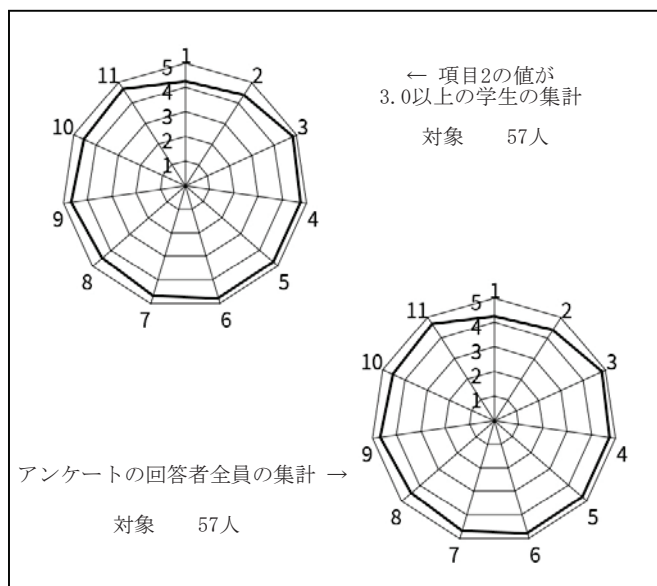


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業アンケートでは学生による誹謗中傷や暴言があった。この点について大変大きな問題だと思うのでこの場で報告と私見について述べる。まず一般的に誹謗中傷や暴言は、刑法では侮辱罪などを構成することもあり、法的にも倫理的にも認められるものではない。次に、誹謗中傷や教員に対する言われのない暴言や過度な注文は、学生が顧客、教員・大学側がサービス提供者である以上カスタマーハラスメントを構成するものとする。そしてカスタマーハラスメントを行った者は、場合によっては不法行為などの民事責任を問われることがある。次に授業評価アンケートの目的は、学生の意見を集約し教員ないし大学がサービス提供の質の向上を図ることが目的である。とすると上記のような誹謗中傷、暴言等は、授業評価の目的から逸脱するものとする。しかしながら現状の授業評価では、誹謗中傷や暴言を書かないようにとの警告もされず、直接授業担当教員に誹謗中傷等が届けられてしまう。過去にも同様の事例が発生しておきながらこの問題を放置しているのは、法的にも学生の教育という観点からも由々しき問題であると思われる。他大学でもこのような問題が発生し得ることを踏まえてさまざまな対策がとられている。例えば武蔵野大学での授業評価では、中傷等を書かないよう警告がなされるほか内容によっては記述した学生に対して指導をすることを記している。また、東京大学においてもSNS等の使用に関する倫理規定を設けており、学生が授業評価において暴言や中傷を書かないよう指導するほか行為を行なった場合への対応を厳格に行なっている。その他にも多くの大学の授業評価において誹謗中傷・暴言対策などが取られている。これらの大学と比べると南山大学は学生のSNS等の使用や授業評価の記入に関する規程や対策が不十分な状況である。したがって授業評価等において学生による誹謗中傷・暴言を書かせない対策、書いた場合の指導の徹底など早急に行うべきである。教育機関として学生に迎合する姿勢ではなく毅然と対応すべきところはするという姿勢を具体的な対策で示していただきたい

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 租税法B
授業コード 44C06-001
教員名 本部 勝大
教員コード 104612
登録人数 143
回答数 57
回答率 39.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートにご協力頂いた受講生に心よりお礼申し上げます。

(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

昨年度から引き続き、「社会に出てから困らないよう、大学生のうちに法人税・消費税・相続税・贈与税について一定の知識を得ること」を授業の目標として設定した。授業中の受講生の様子などからは、これらの税目に対する関心が決して高くはない様子が見受けられたが、定期試験においては多くの受講生が授業内容を一定程度理解した結果を示しており、概ね目標は達成できたと思われる。

(2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

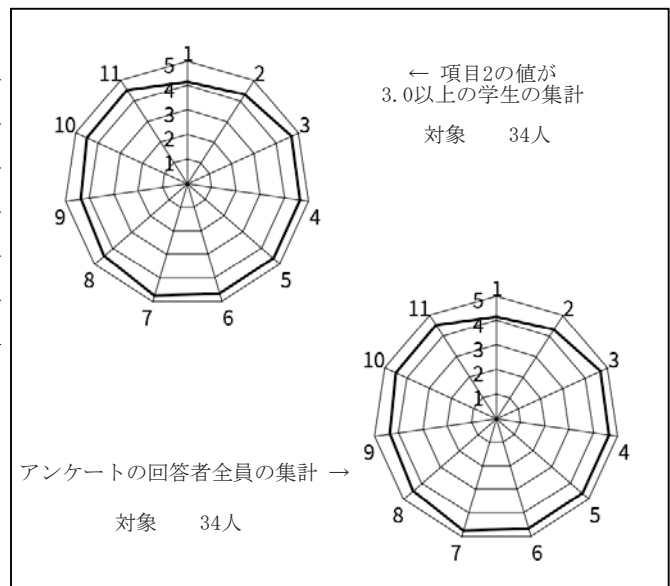
開講主体別平均値と比較した数値データ及び自由記述欄の「良かった点、評価できること」の記述内容からは、講義の分かりやすさに関しては受講生の一定の評価を得られたと考えている。今後も受講生にとって意義のある授業内容を意識していきたい。その一方で、「授業で学ぶ内容が多い」との回答がみられた。毎回のレジュメの量が多いため、学習量が多く感じられる可能性はあるが、100分の授業時間を超過して講義を行うことはしていない以上、他の授業と比較して極端に学習量が多いということはないと思われる。ただ、心理的に負担感があるということは、受講生の学習意欲に影響を及ぼす問題であるので、部分的に双方向の授業を取り入れるなど、一方的に話し続ける講義にならないよう工夫を行っていきたい。

(3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

(2) の課題を踏まえ、授業の双方向化など、次年度もより一層の授業の改善を進めたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	経済法B
授業コード	44C20-001
教員名	齊藤 高広
教員コード	103599
登録人数	85
回答数	34
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

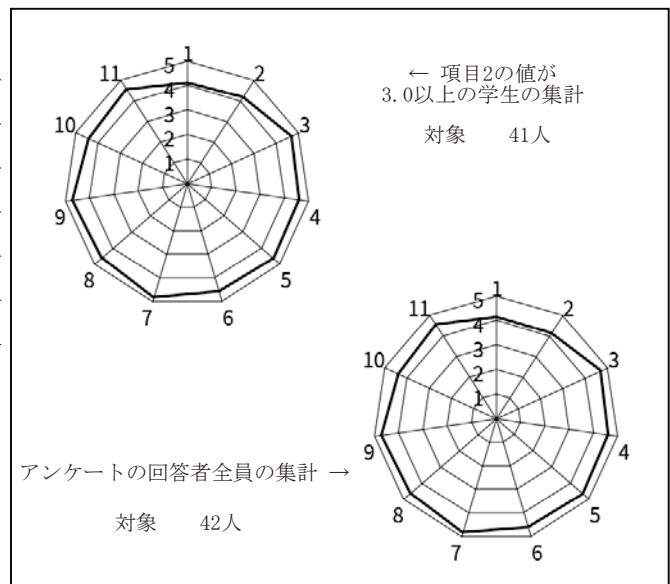


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、市場経済における基本ルールである独占禁止法のうち、主として不公正な取引方法を扱い、学生の到達目標として、①経済活動に対する法的規律を説明することができること、②市場における競争秩序の意義と規整方法を法的に説明することができること、③競争政策の歴史と競争制限行為の規制手法を説明することができることを掲げていた。昨年度まで秋学期に開講していたが、本年度初めて春学期に開講したところ、新カリキュラム施行後の過去数年と比較して一定の受講者数に恵まれた。受講者のうち有効な回答者からのデータによれば、基本事項に関しては、おおむね満足度は高かったようであり、当初あまり関心がないにも拘わらず本講義を履修したと思われる受講者にも科目内容それ自体に対する興味・関心を引き寄せることができたようである。実際、3分の2以上の出席者と思われる定期試験の解答も充実かつ良好であり、おそらく同様の出席率だったと思われる他学部生についてもほぼ同等の結果が得られた。教材配布・提示方法、また、授業進行については、おおよそすべての受講者を満足させることは不可能であるが、現在の方法を踏襲しても甚大な不都合までは生じなさそうである。教材それ自体については、好意的なアンケート内容を受け取る形で、引き続き、内容のアップデートに努めていきたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際取引法
授業コード 44C23-001
教員名 岩本 学
教員コード 104895
登録人数 178
回答数 42
回答率 23.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



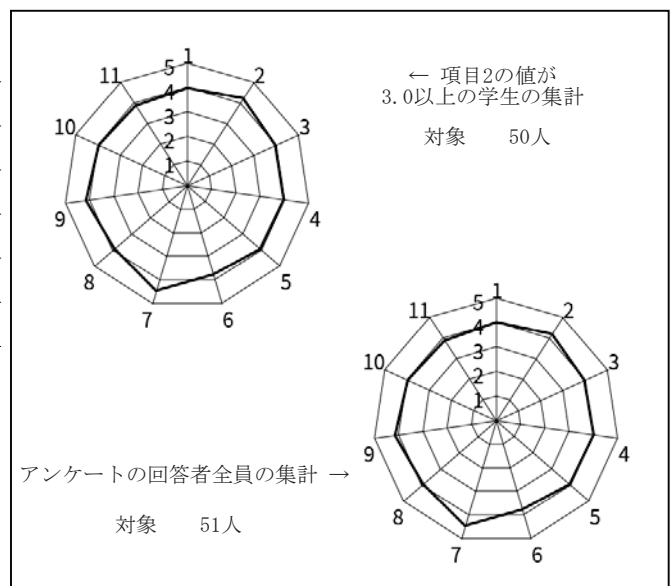
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、①国際取引ではいかなる法が関与しているのか理解する、②国際取引で生じた問題に対して法的観点での対応力を身につける、という2点を主たる到達目標とした。14回を通じてこれらの重要事項についてはすべて教授できた。また学生の理解のため毎週課題提出なども行ったことで本講義の重要なエッセンスは多くの学生が身につけたものと考えている。

授業評価の数値的には学生にとって満足のいく講義であったことが伺える。特に数値7が高評価であることは、学生の授業を受ける環境づくりは適切であったとの評価を受けたといえる。また、12の記述欄では、成績評価の公平性を重視する本講義に対して、好意的な回答があった点が注目される。他方、13で課題とされた早口については、真摯に受け止め解決策を模索したいが、そのような口調は一辺倒では無く、重要なところはゆっくり複数回説明することを心がけており、メリハリを効かせる効果も有している。この点を念頭におきつつ、上記指摘も踏まえより工夫をした講義を心がけたい。

2025年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 応用会社法
授業コード 44C30-001
教員名 家田 崇
教員コード 102459
登録人数 284
回答数 51
回答率 18.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本科目の開講当初、目標として「会社法の基本概念を前提に、実務における応用的課題を論理的に分析し、具体的な解決策を提示できる力を養うこと」を設定した。特に、株主総会の運営、取締役の責任の知識を前提に組織再編に関する事例を素材に、実務上の判断基準を理解することを重視した。結果として、多くの受講生が事例問題に対して適切な法的根拠を示しながら解答する能力を身につけ、当初の目標に対して概ね達成できたと評価している。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての総合的な自己点検・評価

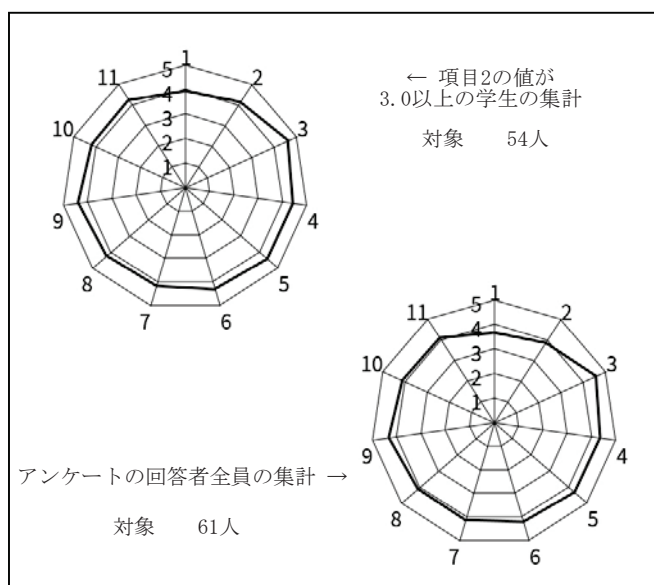
授業内での質疑応答や課題提出状況から、理解度は全体的に高かったと判断できる。特に、課題への取り組みは熱心に実行され、実務との関連が明確で理解が深まった感触を得ている。授業運営においては、発問を通じた双方向性を図ろうとした。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次期以降は、事例分析の精度をさらに高めるため、判例の紹介やディスカッションの時間を増やし、受講生がより積極的に参加できる仕組みを導入する予定である。今後も「理論と実務の架け橋」という科目の特性を活かし、企業法務や実務家を志望する学生にとって実践的かつ有益な授業を提供していきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済と人間の尊厳7
授業コード 10D04-007
教員名 MERE, Winibaldus Stefanus
教員コード 101180
登録人数 187
回答数 61
回答率 32.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

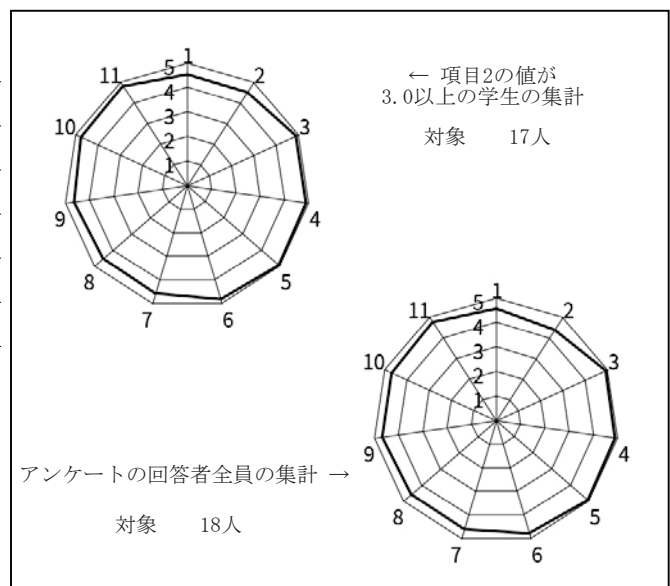


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) The course was carried out as planned based on the topics and contents set up in the syllabus. Overall it can be said that the goals had been achieved.
- 2) I have no objection to the assessment by the students. As revealed in the numerical data, I think students made a fair assessment as I also have similar assessment and self-evaluation about the overall performance of the course. This also can be observed from students' reaction and attitude which showed their eagerness to learn during the class. As most students started the course with very limited knowledge about the topic on economic, politics, and human dignity, the way the course helped them to understand the basic concept about the course related to their daily life may have helped to increase their interest in the course and gave them motivation to learn more about every topic outside the course period as obvious from the reaction paper at the end of every class.
- 3) In the evaluation students made very constructive concerns and suggestions for creating a condition that allows students to express their opinions during the class. There needs more effort on my part to create a condition for this to happen.

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 法と人間の尊厳3
授業コード 10D05-003
教員名 橋本 広大
教員コード 104649
登録人数 29
回答数 18
回答率 62.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

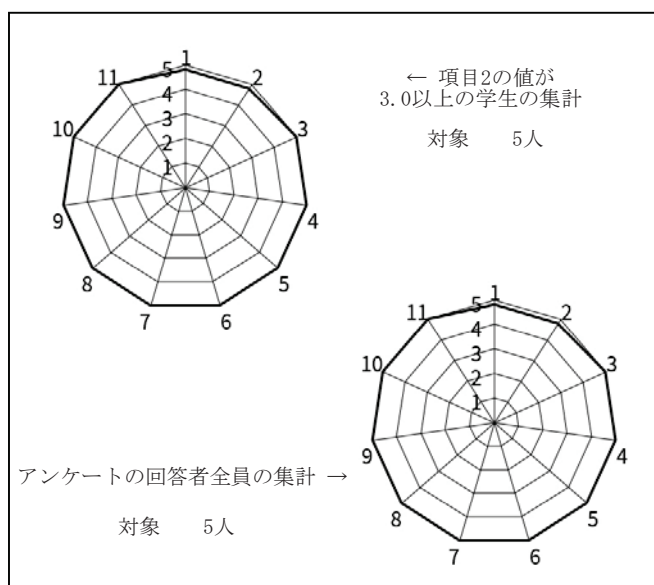


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、「人間の尊厳」と「法」の関わりを刑事法的観点から考察することを目的とし、①尊厳をめぐる法的課題の理解、②法による尊厳保護の仕組みの理解、③生命の法的取扱いの理解を到達目標とした。犯罪概念や刑罰論の基礎から出発し、正当防衛、安楽死、死刑制度、人工妊娠中絶等の具体的論点を扱うことで、理念と制度の関係を体系的に理解できる構成とした。定期試験および小レポートでは、抽象的概念と具体的事例を結び付けて論述できる答案が多く、到達目標は概ね十分に達成されたと評価している。授業評価も総じて良好であったが、講義資料をより早く予習したいというニーズも把握された。法学部以外の学生もそれなりの割合で履修する本科目については、予習よりもむしろ復習に時間を割くよう指導していることとの関係で、講義資料のアップロードは講義前日までに実施することとしていたが、より早めることを検討したい。今後も、「人間の尊厳」と「法」の関わりを刑事法的観点から考察するという基本的姿勢を維持しつつ、現代的課題との接続を強化していきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 文化人類学B2<国際科目群>
授業コード 12B14-901
教員名 ALVA, Reginald Joaquim
教員コード 102369
登録人数 5
回答数 5
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

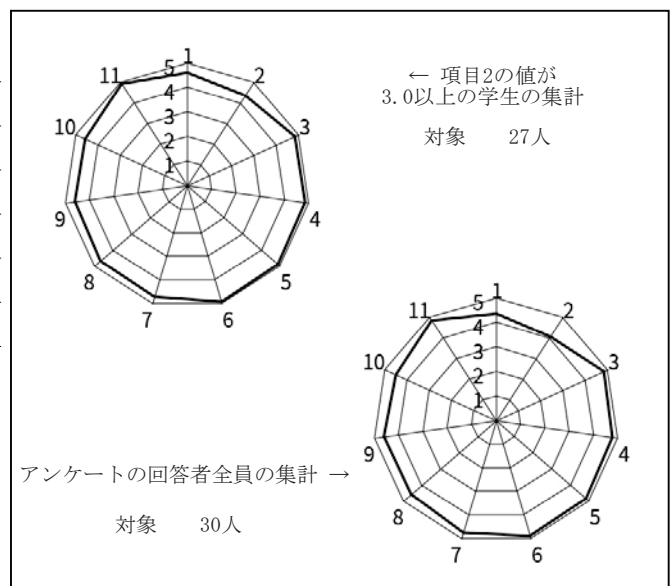


授業評価結果を踏まえた点検・評価

私は、大学の全学部に所属する学生が受講可能な「文化人類学（B）」という授業を担当しました。まず、学生にウェブクラスに掲載されている教材を確認するよう依頼しました。これにより、学生は授業内容と評価方法を理解する機会を得ることができました。また、教材の内容や、この授業を修了するために何が求められているのかなどについて質問する機会も得られました。授業時間中は、ディスカッションや質疑応答に十分な時間を設けました。このコースには多国籍の学生が参加していたため、双方向の議論と共有の質が向上しました。学生は多様な文化を持つ仲間から、異なる文化について学ぶことができました。授業評価の結果を受け、有意義な授業となり、学生にとって多くの学びがあったと確信しています。学生からの以下のコメントも、そのことを裏付けています。「質問の時間が十分に準備されていたこと。」「The interaction aspect of the class was great.」

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	刑事訴訟法B
授業コード	44B10-001
教員名	岡田 悦典
教員コード	100621
登録人数	81
回答数	30
回答率	37.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

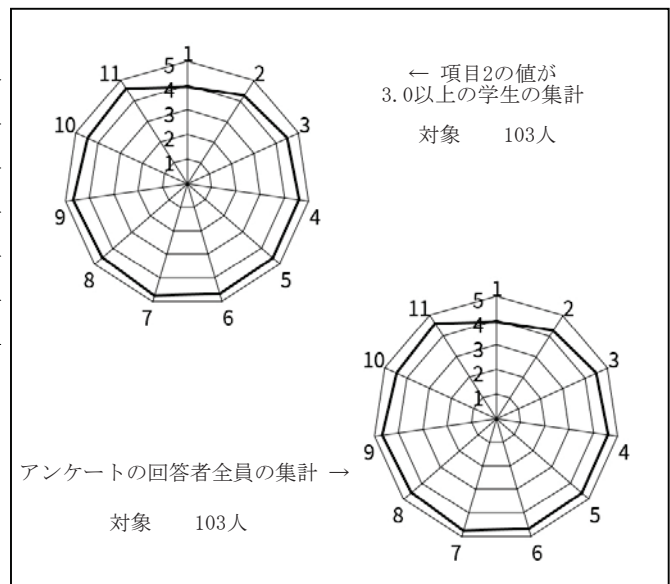


授業評価結果を踏まえた点検・評価

概ね、当初の目標と到達程度を達成できたように思われる。数値データおよび自由記述についても、特に、気になるところは少なかった。ただし、学生の主体的な参加と予習・復習の項目が、相対的に低かったことがあげられる。自由記述では、授業が構成されていて、課題に関する解説などもあって、よかったという記述があったので、授業に熱心に参加できた人は、それなりに、これらの項目もよかったと思われるが、次年度に向けては、これらの項目をさらに引き上げることが目標にしたい。授業内容についても概ねよかったと思われるが、もう少し学生を引きつける内容に変更することも考えたい。訴因、関連性、伝聞のテーマは、やはり難しいようで、必ずしも法曹志望の学生ばかりではないので、法学部生として卒業していく上で必要な「考える力」を社会制度との関連の中で、身につけることができる素材を、もう少し工夫したいと考えている。なお、授業評価は相対的によい評価であったが、例年に比べて、受講生が少なかったことが、気になるところでもある。時間割の変更はないので、次年度の課題として、魅力ある授業構成をまずは工夫したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	契約法A
授業コード	44B17-001
教員名	大原 寛史
教員コード	104297
登録人数	377
回答数	103
回答率	27.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートに協力してくれた受講生に御礼申し上げたい。

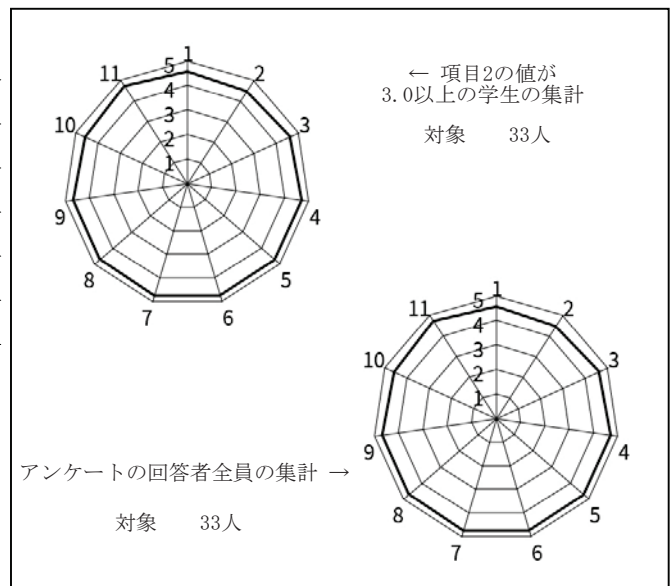
①昨年度同様、今年度もおおむね達成することができた。1年生担当科目として、過去の担当科目において学習した基礎知識・理論との関連性を意識させながら本科目の学習内容を修得するという目標のもと、多少のスケジュール調整はしたものの、予定の学習内容をクリアーすることができた。講義後に理解度確認のための小テストを実施し、受講生の復習を促したこともあり、定期試験における不可の割合は少なかった。

②一定程度受講生に評価されたと考えている。もっとも、②昨年度と同様に、アンケート回収率、⑥今年度、項目3、8および10の数値が他の項目に比べてやや低めであったことが課題である。

③課題⑥の項目8については、定期試験過去問の配布とその解説、定期試験において過去に出題した内容（重要な学習内容）の明示、小テストの実施とフィードバック、質問に対するフィードバックなどの工夫を例年行っているが、今年度だけ数値が低めであった。その原因は不明である。次年度は上記工夫に関する担当者の意図を受講生に今年度以上に明確に伝えたうえで、その内容を充実させることで対処を試みる。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	労働法A
授業コード	44B27-001
教員名	緒方 桂子
教員コード	103261
登録人数	238
回答数	33
回答率	13.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
おおむね達成された。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

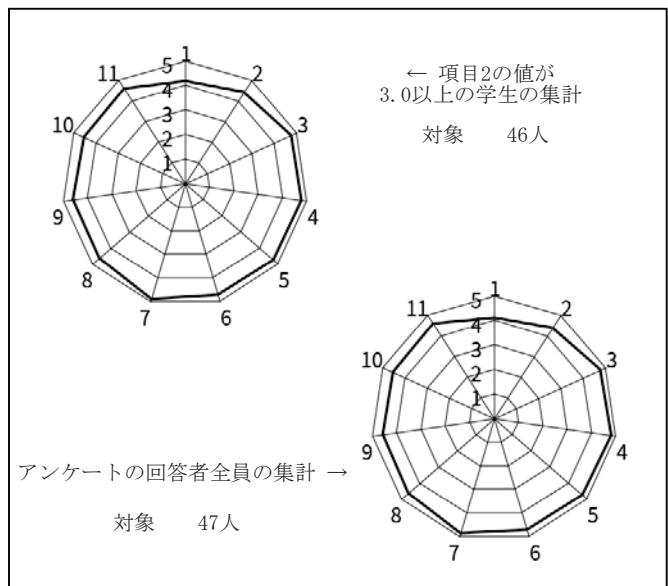
途中途中に1～2分程度、内容を確認するための時間をとっている。「休憩時間」が短い、進みが早いという自由記述があった。もう少しだけ速度を落としてもよいのかもしれないが、間延びするだろうという懸念もあり、悩ましい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

大きなテーマを終了するごとに、確認テストを行っていたがおおむね好評であった。WebClassの機能を有意義に利用することができ、また私としても理解の過不足を把握することができて良いと感じている。ひきつづき、利用していきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	国際私法A
授業コード	44B29-001
教員名	岩本 学
教員コード	104895
登録人数	173
回答数	47
回答率	27.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

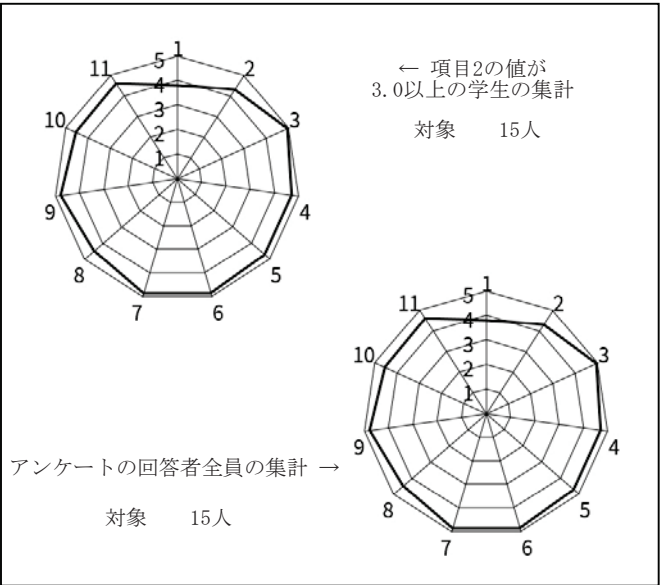


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、日本における外国法適用の意義とプロセスが理解できるようになる、日本法を相対化して見られるようになる、具体的な国際事案が生じた場合に、適切な準拠法選択ができるようになる、との目標を設定した。講義期間中に行った授業参加での回答や期末試験をみると多数の学生がこれを達成できたものとする。数値データは特段問題ないと思われる。自由記述については、改善点としてはレジュメ・資料の送付方法について、印刷を選択しない理由等をガイダンスで伝える重要性を感じた。また、教室の温度の問題が指摘されているが、この点は、階段教室では上側の席と下側の席で温度差が生じるため自身にとって適温の席への誘導を促したい。次年度への方針としては、着任以来3年ほど指定してきた教科書が本学での講義との関係ではレベル差を感じてきたことから、次年度からはより基本的な記述を多く含む、別の教科書を用いることとし、更なる本講義での知識定着を図りたい。

2025年度Q 3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

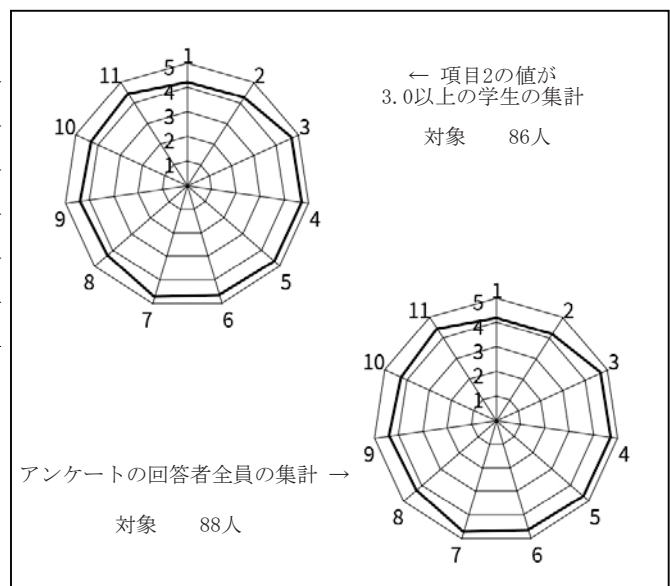
科目名	法哲学B
授業コード	44B32-001
教員名	服部 寛
教員コード	103600
登録人数	79
回答数	15
回答率	19.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	行政法総論（基礎）
授業コード	44F01-001
教員名	豊島 明子
教員コード	101192
登録人数	258
回答数	88
回答率	34.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

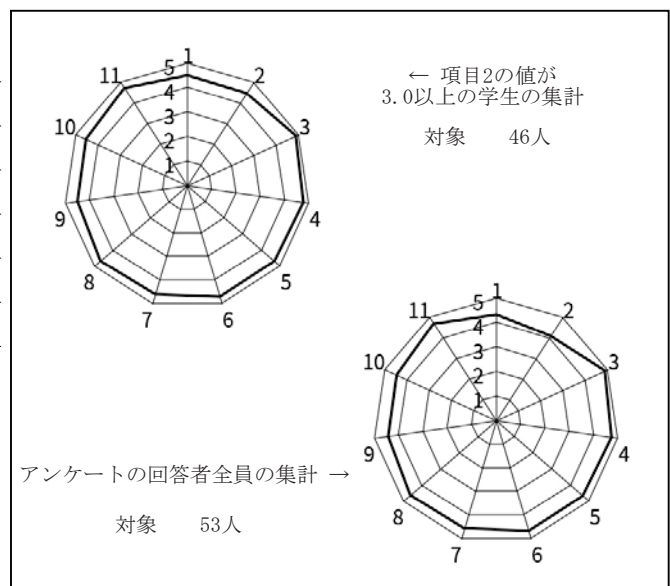
昨年度から2年続けて、この授業を担当している。授業の目標・計画は昨年度と同様だが、昨年度は説明を分かりやすく行うことに注力するあまり授業の進度が遅れ気味だったので、今年度はその点の改善に留意し、説明の分かりやすさと授業のスピードの両立を心がけた。

その結果、学生の自由記述のうち「良かった点、評価できること」として、「丁寧に説明してくれたので、そこが良かった」「内容を詳しく説明してくれる」「説明が分かりやすかった」「解説がとても分かりやすかった」「わかりやすい」「説明を何回もして下さったので、理解が進んだ」「具体的な法令を引用しながら説明されたため、よく理解できた」「説明が端的で明快で聞いて飽きない」「スピードが丁度良かった」「具体的な事例を挙げて解説していた」「レジュメが分かりやすかった」「ホワイトボードに書かれている字が大きく、後ろの席からでも見やすかった」「板書が丁寧」など、説明・レジュメ・板書の分かりやすさを評価するコメントを多数得られた。この点は良かったと思うので、今後も維持できるよう努めたい。これに関連して、設問5（毎回の授業の構成や進行速度は適切だったか）について学部平均が4.57であるのに対して4.69、設問6（教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料……を効果的に使って授業を進めましたか）について学部平均が4.55であるのに対して4.66が得られた点も良かった。

しかし他方で、設問9・10について、いずれも法学部平均を下回ったので、この点は次年度には改善できるよう、工夫したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 家族法（親族）
授業コード 44F03-001
教員名 生駒 俊英
教員コード 105116
登録人数 162
回答数 53
回答率 32.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

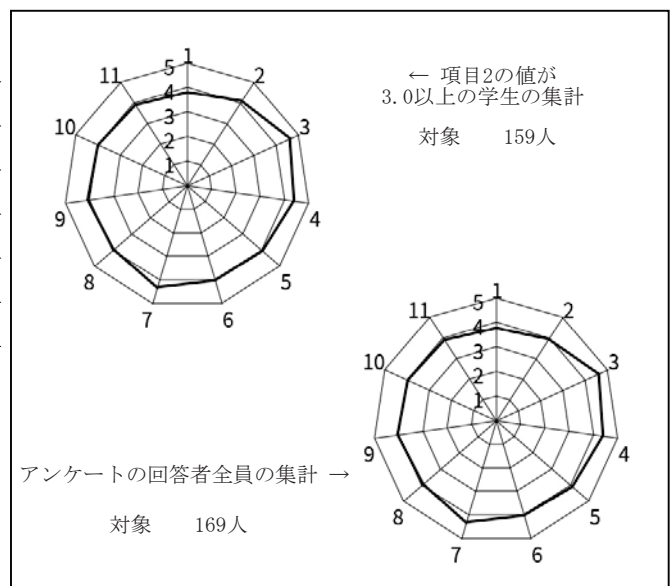


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本科目では、「一般生活における身近な事柄と法との関りを理解できる」、「婚姻や離婚といった家族に関する制度について広く理解できる」を目標として掲げ、そのための授業計画を作成した。授業は、全14回で予定通り進めることができたため、当初の目標は達成できたものとする。
- ②本科目の数値データを法学部における平均的数値と比較すると、「授業の妨げになる行為に対する適切な対処」、「質問・相談の機会、事前・事後指導が十分であったか」の2項目において、平均より低かった。自由記述については、肯定的な評価が多かった。肯定的評価として、授業のテンポが良かったとの意見が多く見られる一方で、否定的な意見として授業が少し早いといったものもあった。
- ③次クォータ以降の改善点としては、まずは②の数値データが学部平均を下回った点を改善することとする。「質問・相談の機会、事前・事後指導が十分であったか」については、質問・相談の機会を講義4～5回に1回の割合で設定したいと考えている。事前・事後指導については、授業に時間的余裕がある場合には、復習問題や練習問題を実施したいと思う。「授業の妨げになる行為に対する適切な対処」については、授業をされていて妨げになるような行為はみあたらなかったが（むしろ出席率も高く、非常に真面目に受講して頂いた印象があった）、さらに気をつけたいと考えている。その他、自由記述に授業で使ったパワーポイントの掲載を当日の復習で利用したいので、当日中に掲載してほしいとの記載があった。この点は、早速改善するようにした。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	憲法入門
授業コード	44H01-001
教員名	菅原 真
教員コード	102064
登録人数	381
回答数	169
回答率	44.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

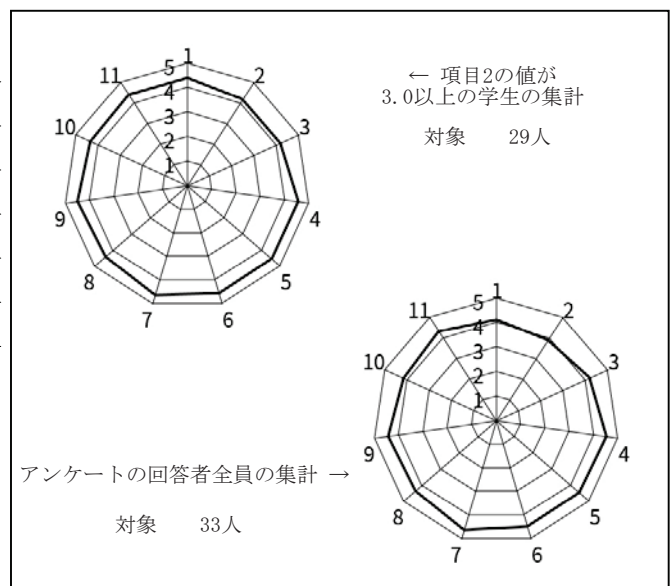


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①報告書対象科目である「憲法入門」は本年度初めて担当する科目であったが、開講当初に設定していた目標は、定期試験の結果等も踏まえると、ほぼ到達したと考える。②受講者の約半数から回答を得たが、数値データは項目1から11の平均4.09、項目3から11の平均4.14と、それほど高くはなかったが、まずまずの結果であると思う。自由記述欄を見ると、多くの学生から「講義が分かりやすかった」「レジュメ・資料の内容が充実していた」「授業中に学生に適宜質問をしていた点良かった」「学生に答えてもらうことで、学生が主体的に学ぶことができていた」「授業スピードが適切であった」「授業中に設定される論点や『本日の設問』を通して、自身でより内容の理解を深めることができた」等の意見をいただいた一方、「事前配布資料が見つらなかった。判決文に論点ごとの着色等を施してほしい。」「少し授業スピードが速いと感じる部分があった」「授業中の質問で当てられたくない」「前の人だけが当たるのは不平等」「後ろの人も当てて欲しい」といった意見もあった。授業中に前方にいる学生（毎回異なる学生にあてている）にマイクで条文を読んでもらうことから始まり、授業の最後の方では「論点」について受講者に自己の見解を簡単に述べてもらったりしたが、大教室で後ろの席まで行くのは難しいし、前の席に座っている学生に質問するのは、個人的には妥当であると考えているため、この点を修正することは考えていない。授業の初回の方でそのことは告知する。また、資料についても、カラフルな参考書のようなものをつくることは考えていないが、受講生が1年生であるとしても、それほど長いわけではない判例を読んでもらうための努力はしていきたいと考える。③今後も事前に資料を配布し、教科書をよく読んで授業にのぞむ必要があることを訴えるとともに、何が論点かを最初に明確に提示しているので、判例・学説でどのような違いがあり、受講者各自が説得的な説明をするためにどのように考えていくべきかについては、講義の中で引き続き教授していきたいと考える。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 知的財産法A
授業コード 44J01-001
教員名 鈴木 敬史
教員コード 105115
登録人数 113
回答数 33
回答率 29.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本科目は、「(1) 知的財産法の意義や特許法による保護のあり方について説明できるようになる。(2) 日常生活の中に生じ得る知的財産法に係る問題を自発的に認識し、適切に対応できるようになる。」を到達目標として、開講した。この点につき、定期試験の回答を見るに、多くの学生については両目標を達成できたと考える。しかし、その一方で、到達目標(1)についても不十分な答案がまま見られた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

本年度が開講初年度ということもあり、シラバスで指摘した授業計画通りに進行しないことがあった。この点については、次年度以降、シラバス作成の時点で、本年度の結果を踏まえた修正が必要となる。

一方で、自由記述でも一定の評価をいただいたように、上記(2)の到達目標に向けて、各論点に仮想事例を設定して説明した部分に関しては、相応の意義があったように思われる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

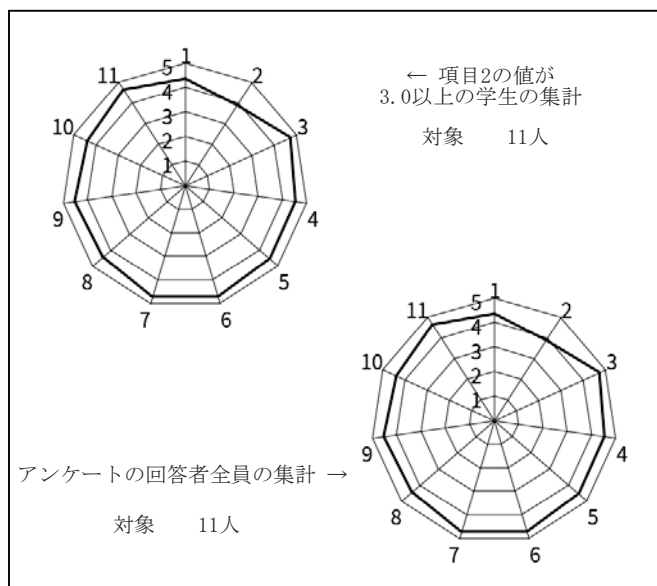
上述したように、次年度においては、シラバス作成の段階で、より正確な授業計画を定める必要がある。

また、授業スライドにおける冗長な記述を省いて、より(枝葉末節を省いた)理解の助けになる講義資料とするようにしたい。

その他、授業の進行速度(口述速度)にも留意する。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	日本法史
授業コード	44B34-001
教員名	代田 清嗣
教員コード	104266
登録人数	30
回答数	11
回答率	36.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

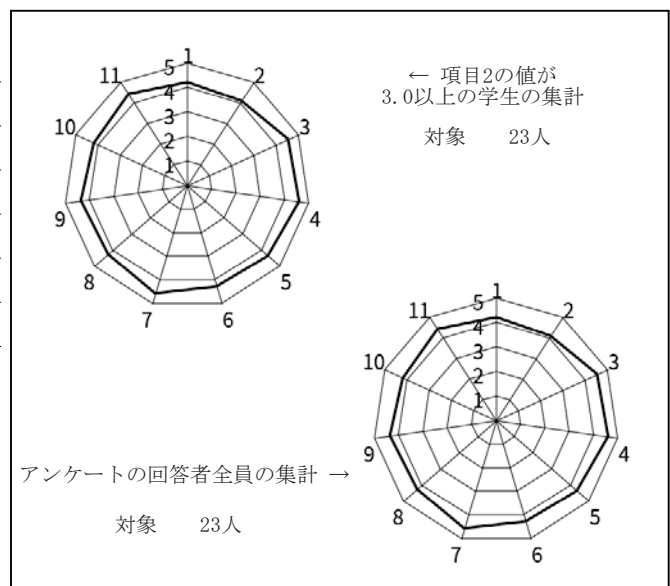


授業評価結果を踏まえた点検・評価

前年度までの講義計画を大幅に見直したこともあり、本年度は近代法史についても十分な説明時間を設けることができ、積年の課題であった近世と近代の連続性を講ずる時間を一定程度設けることができた。また定期試験の結果等を踏まえても、多くの学生が各時代の法の特徴を論理的に説明することができており、開講当初設定していた目標は、おおむね達成することができたと考えている。数値データを学科平均値と比較すると、理解度への配慮や効果的な授業といった項目について高い評価がなされており、授業に対する満足度は高い。これは一面において、そもそも受講者数が少なく、学生の反応を伺いながら講義を展開できたこと、また他面において、例年以上に動画や史料画像の供覧機会を増やしたことが原因と考えられる。こうした工夫は、次年度以降も継続し、発展させてゆきたい。他方で、授業時間外学習を行っている学生が相対的に少なく、またそうした学習に関する指導や情報提供が少ないと感じている学生の多いことが窺われる。こうした課題に対応するため次年度には、予習用の問題をWebClassに挙げる、Web上で閲覧可能な論文や史料データ等を示し復習に活用してもらうなど、より予習復習のしやすい講義準備を行うこととしたい。また、そもそもアンケートへの回答数が11と少ない点も課題であり、以後はアンケートへの回答依頼をより強化したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治学原論A
授業コード 44B40-001
教員名 加藤 哲理
教員コード 104771
登録人数 122
回答数 23
回答率 18.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

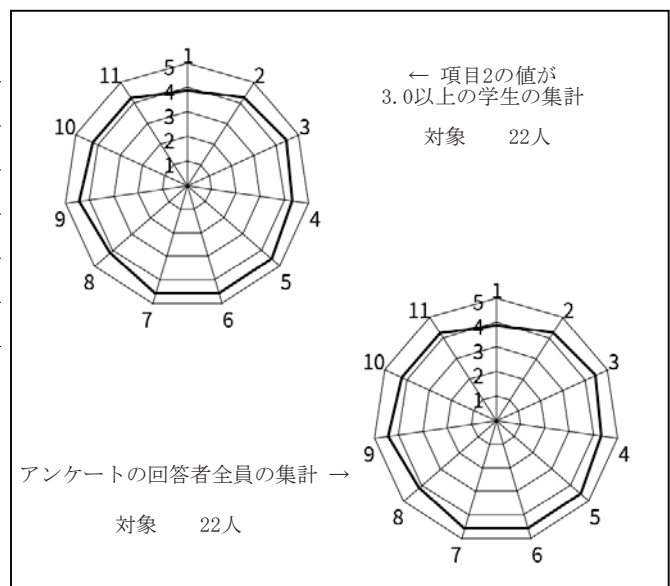


授業評価結果を踏まえた点検・評価

自由や平等や民主主義など西洋における政治理論の根本諸概念について、学生がただ知識や情報としてそれを覚えるだけではなく、それらを自らの自家薬籠中の物として思考する力をつけさせることが本講義の目的であった。数回の感想用紙の提出と最終的に学生の理解度を問う試験を実施したが、その際における学生の記述をは見ているかぎり、その目的は十分に達成されたものと考えている。これは毎年度のことであるが授業の進度の関係で、シラバス上に記載されているすべての概念を扱うことができないことが唯一の課題であるが、次年度もまた密度を落とすことなくスピードもあげられるように工夫を重ねていきたい。また大人数での講義という性質上、どうしても座学的な性質が強くなり、なかなか個々の学生と双方向的に交流をする機会が少なくなってしまうことも改善すべき課題である。この点も、感想用紙の提出の機会を増やすなどしながら、改善を図っていくことにしたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	行政学A
授業コード	44B42-001
教員名	高 東柱
教員コード	104267
登録人数	99
回答数	22
回答率	22.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

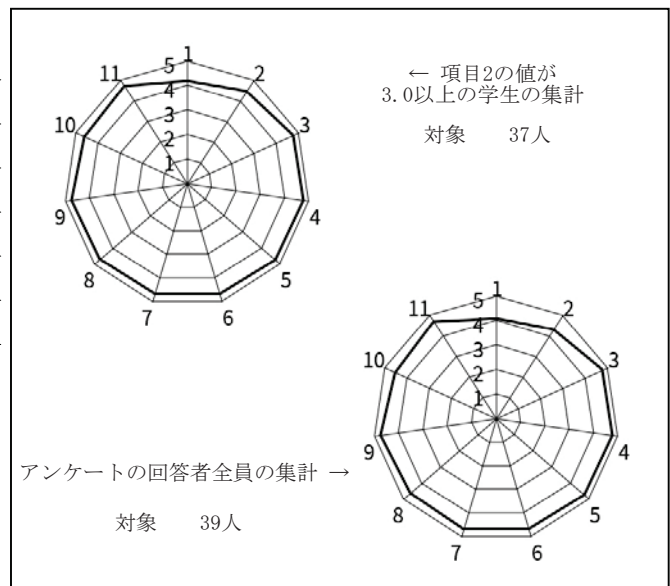
まず、設問項目10の平均値が4.23であることから、開講当初に設定した目標には概ね到達できたと考えられる。

次に、設問項目1の平均値が3.86であることを考えると、学生が履修前に本講義の内容に興味を持っている程度が高かったとは言えないが、設問項目10、11の平均値がどちらも4.23であるから、学生から一定の評価が得られたと考える。特に、設問項目12には「定期試験一発勝負にならないところがよかった」「講義内容について、学生に内容を理解してもらうための工夫がみられる」「中間試験では外周下内容の理解を前提にして、より発展的に応用される課題が用意されており、学習の強い助けになった」との回答があり、講義内容、評価方法について、教員側の意図が学生に理解され、評価されたと考える。

最後に、設問項目13にコメントペーパーの提出方法について学生からの提案があり、第4Qの行政学Bからは、提出方法を変更した。特に問題がなければ、今後も継続していきたい。そして、本講義の設問項目10、11の平均値が法律学科の平均値を若干下回っていることから、学生がより満足できる講義になるよう工夫していきたい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済原論A
授業コード	44B52-001
教員名	川地 啓介
教員コード	103289
登録人数	73
回答数	39
回答率	53.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

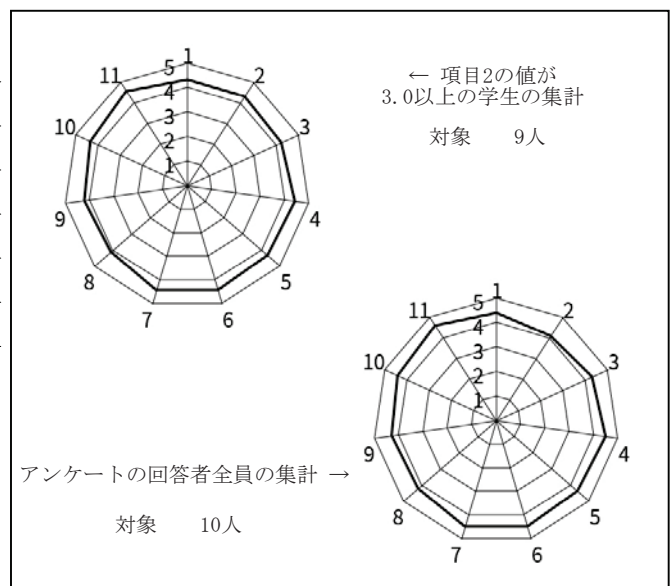


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標として、消費者と生産者の行動原理に加え、資源配分における市場の役割について理解できるようになることを設定し、授業期間内に授業目標に関する内容を講義することができた。授業評価の到達目標に関する項目からは、受講生の理解度はおおむね良好だったと判断される。受講生の疲れのない1時間目から開講させていただき、受講生の受講姿勢が良かったことが、全体としておおむね良好な授業評価につながったと推察される。一方、設問の中では、事前の授業への興味と予習復習を含めた主体的な参加についての授業評価が相対的に低く、特に後者については、自由記述で練習問題の配布を望む声があることと関連している可能性がある。しかし、配布された練習問題のみしか勉強しなくなることが懸念されるため、授業内で問題集に取り組むことを推奨したい。また、今年度も各到達目標に関連する授業内容が終わる度に各回の授業内容が各到達目標とどのように関連しているのかを説明する時間を確保したところ、授業評価の結果の改善につながったため、来年度も継続したい。

2025年度Q3 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際法各論B
授業コード 44C10-001
教員名 尋木 真也
教員コード 104091
登録人数 54
回答数 10
回答率 18.5%
休講回数 2 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

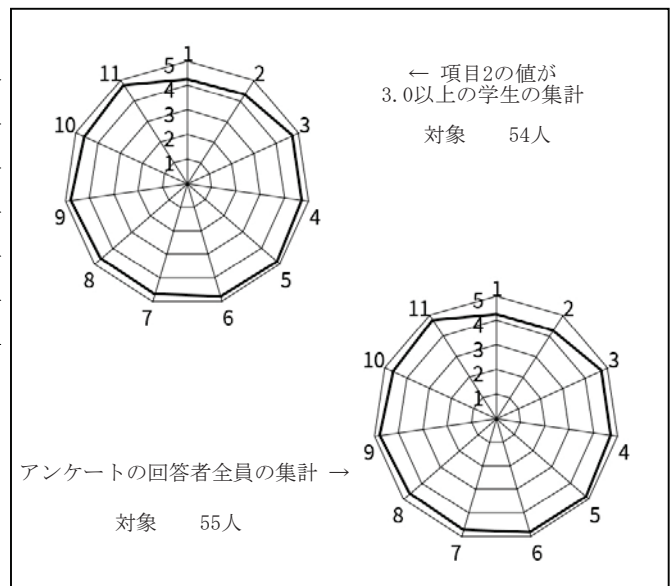
授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。この授業では、実践的な観点から国際法を理解できることと、日本の社会問題を国際法の観点から評価できることを到達目標としています。この授業を数年担当していますが、実践的な思考能力涵養のため、極力タイムリーな社会問題を取り扱うようアップデートしており、今年度は宇宙法分野の外交や企業実践を新たに導入しました。期末試験の答案を見ても、こうした明確な答えのない時事問題等を国際法の観点から評価できている様子が見え、一定の目標は果たせたものと考えています。

アンケート結果は、おおむね好意的な回答をいただきました。予復習の項目が4.1、時間外学習の指導の項目が4.2とやや低かったですが、改善等の要求はありませんでした。自由回答でも、わかりやすく聞きやすかったとのコメントをいただきました。

今後は、引き続きアップデートを重ねつつ、SNSや生成AIも活用し、現在の学生にあった教育内容と学修環境を提供していきたいと考えています。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 法と人間の尊厳4
授業コード 10D05-004
教員名 沢登 文治
教員コード 017863
登録人数 187
回答数 55
回答率 29.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度

項目4「到達目標の関連付け」4.73および項目10「到達目標の力がついてきているか」は4.60を見ると、「到達目標」について今回は、ある程度達成できたと考える。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

数値的には項目1「興味」、2「主体的参加・努力」以外は4.50を超えているが項目8「学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」は4.65で、さらに工夫の余地がある。授業途中で短い課題を出すなど考えたい。

自由記述について、項目12「良かった点、評価できること」について、例えば「人間と尊厳の観点から現行の法律と照らし合わせた講義をしていた印象があり、毎回のテストを用いたフィードバックも可能で、学習の観点から見ても適切であった」など、当方の意図したことが、授業方法に関連しつつ好意的に捉えてもらったので、継続したい。

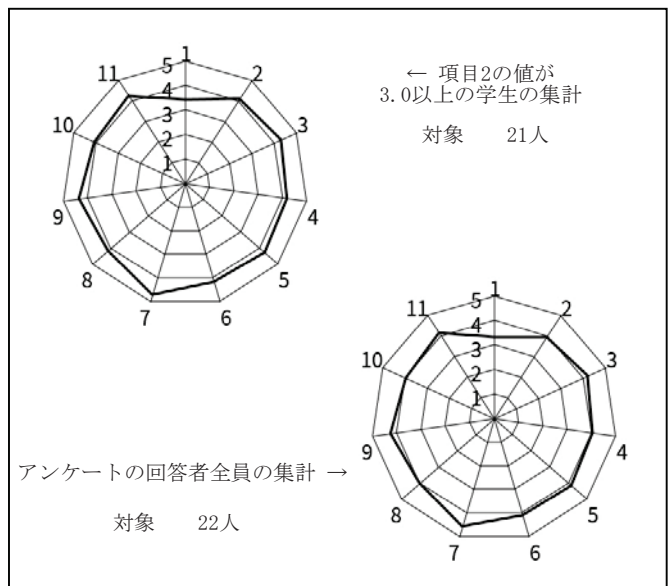
他方、項目13の改善点について、「出席人数が少なく感じたので、来ている人と来ていない人の評価の差別化をできればしてほしい」という意見があったので、ウェブクラスの出欠機能を利用するなど検討したい。

③ 今回以降の改善点、抱負、方針

ディスカッション形式など取入れて、さらに理解度増進や積極的授業参加促進を心がけたい。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 法学B2
授業コード 12C02-002
教員名 田中 実
教員コード 017038
登録人数 63
回答数 22
回答率 34.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

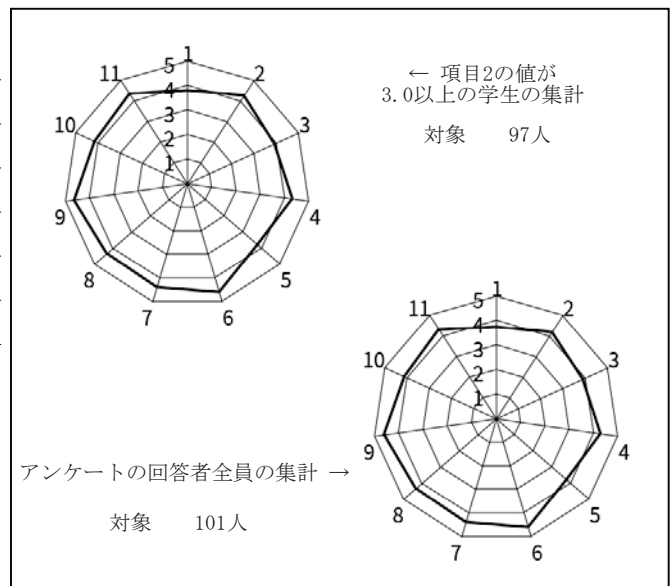


授業評価結果を踏まえた点検・評価

自由記述欄で、これまでになかった新しい思考方法を得た、法学について身近な具体的な例でわかりやすい説明であったなど、設定目標にそったコメントを得た。このことは、興味をもって受講をはじめたかという設問の第一項目の数値が相当に低かっただけに、担当者としてもよかったと思っている。このことはまた、定期試験の多くの答案にも反映されていた。数値データとして、比較的高い数値を得た項目として、上述の内容に対応するもの以外では、配布教材が充実していたという項目と、説明が丁寧であったとの項目である。前者については、配布資料が、判例原文や学説の立ち入った説明、比較法の資料なども含まれ、今日の学生が慣れ親しんでいるチャート式の整理のゆきとどいた分かりやすいものではないだけに、むしろ担当者としては受講者にめぐまれていたと思う。もっとも、全体としての数値は決して高いものではなく、また、受講生の学科による傾向の違いも見受けられ、共通教育科目としての法学の難しさを感じ、一層努力してゆきたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 物権法
授業コード 44A18-001
教員名 石畝 剛士
教員コード 104908
登録人数 391
回答数 101
回答率 25.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

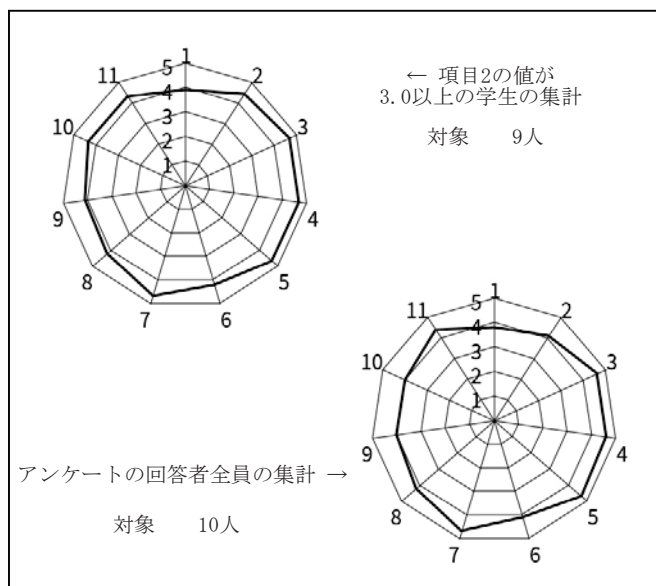


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 民法総則同様、定期試験結果からは、○×問題の成績は非常に良く基礎的知識の習得は目標到達できている一方、論述問題はなお一層の努力を要する答案が目立った。もっとも、法的三段論法の基礎は以前よりも意識された記述が多く、この点に改善が見られたのは喜ばしい。しかし、例えば二重譲渡につき、177条の条文を写し、事例に当てはめ、結論を書いて終わるだけの答案が多く、なぜ当該事案でそもそも177条が適用可能か（対抗問題、第三者とは何を意味するのか）を検討しないものが圧倒的多数であり、ここに課題があろう。
- ② 授業構成・進行進度の項目の評価が変わらず低かった。もっとも、定期試験の結果では、丁寧に話した部分でさえその内容理解度は不十分であり、ここでスピード重視に舵を切ることにはなお躊躇される。この問題の深刻な点は、学修意欲の高い学生（予習・復習をそれなりに行う）と授業だけ聞いて全部分かろうとする学生との間に、大きな乖離があることにも起因する。要は標準設定の問題であり、今後はもう少し講義レベルを上げ、前者の学生に配慮する姿勢で取り組みたい。結果、進度が早くなり、自学自習部分が増えることが予想されるが、先の評価への対応としてやむを得ない。
- ③ Webclassを用いた質問の評価は概ね肯定的であったが、中には授業中の回答をやめれば進度が早くなるとの建設的な意見も見られた。全員に（しかもリアルタイムで）伝えるべき質問項目と、個別対応に相応しい質問項目との見極めが肝要だとの意味で理解でき、その方向を模索したい。また、学説が多くレジュメが細かすぎるとの指摘もあったが、大学は予備校とは異なり学問を伝える場であり、正解のない学問としての法学を扱う以上、一定の細かさは避けられない。考え方の多様性を疎かにしない限度で、講義内容にできる限り抑揚をつけることで、そのような評価への解答としたい。最後に、私語については民法総則よりもかなり少なかったように思われる。この点に対する学生への協力（常識ではあるが）に記して感謝する。

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治史
授業コード	44B46-001
教員名	西村 邦行
教員コード	104090
登録人数	72
回答数	10
回答率	13.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

説明の速度とスライドの見やすさに特に注意しました。設問5（進行速度）の平均値は4.70となっており、法律学科科目の平均値4.38を上回っています。適切な速度で説明を行うという目標は達成できたと言えます。一方で、設問6（視覚教材等の効果的使用）の評価は4.10にとどまり、学科平均の4.55を下回りました。スライド資料の構成や分かりやすさに関しては、改善の余地があることが示されました。

②数値データおよび自由記述等を踏まえた考察

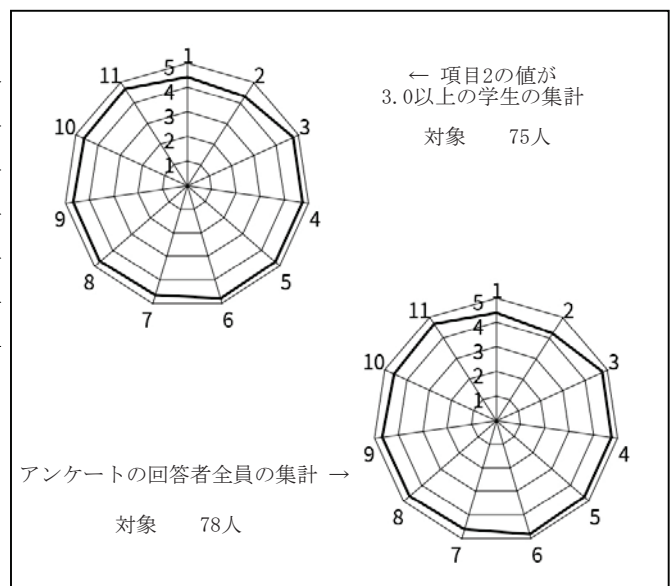
設問1（履修前の興味）は3.80と、学科平均の4.41に対してかなり低い傾向にあります。自身の関心とは別に時間割上の利便性等から履修した学生が多いためと推測されます。しかし、最終的な授業満足度（設問11）は4.40と学科平均に近い評価を得ており、授業を通じて学生の関心を高めることができたと言えます。一方で、到達目標に向けた力の向上（設問10）は4.00となっており、学科平均の4.47を下回っています。教材の提示方法や内容の難易度調整が、知識の定着に結びつきにくい側面があったと考えられます。

③次学期以降に向けた抱負

スライド資料を見直し、視覚的に理解を助ける教材へと刷新を図ります。また、事前の知識レベルに差がある受講生全員が「力がついた」と実感できるように、専門用語の解説を強化し、双方向的な確認の場を設けることで理解の定着に努めます。

2025年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境法
授業コード	44C07-001
教員名	宮尾 亮甫
教員コード	104945
登録人数	263
回答数	78
回答率	29.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

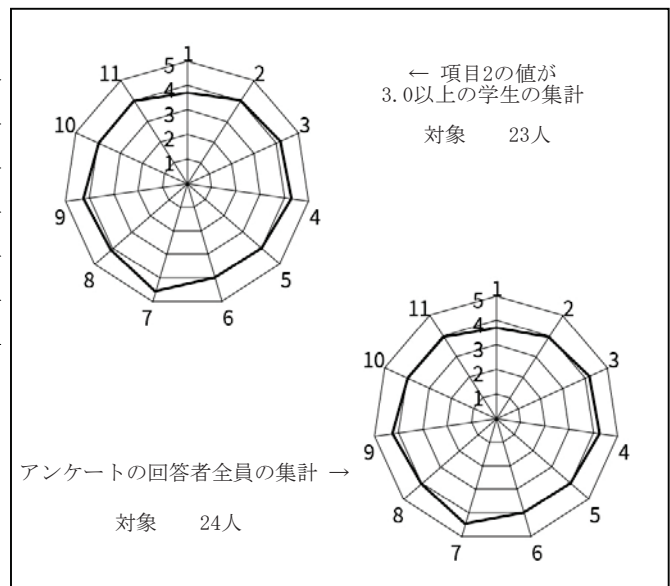
本授業では、環境法の基本原則の理解、個別法令の規制構造や環境行政の仕組みへの理解、さらに環境行政に関わる紛争と論点の把握という三点を目標として設定した。授業では、具体的事例や実験、映像資料、ニュースで取り上げられる社会的事象を積極的に取り入れることで、抽象的になりがちな環境法を身近な問題として捉えられるよう工夫した。その結果、到達目標については概ね達成できたと考えている。

数値評価を見ると、全項目の平均値はいずれも4.2以上と高く、特に授業内容の構成、進行、教材の活用、理解への配慮に関する項目では4.7前後の評価を得ている。自由記述欄においても、「分かりやすい」「実験や映像資料が印象的」「環境法を身近に感じられた」といった肯定的意見が多く、授業方法が学習意欲の喚起や理解促進に一定の効果を上げていたことが確認できる。一方で、改善点としては教室が狭いとの指摘が一部に見られた。

今後は、受講者数に応じた教室配置について関係部署と連携を図るとともに、引き続き実験や具体的事例を取り入れた授業運営を維持・発展させたい。加えて、環境行政における最新動向や判例をより多く紹介し、理論と実務の接続を一層意識した授業を展開していく方針である。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 会社法（ガバナンス）
授業コード 44F05-001
教員名 佐藤 勤
教員コード 101599
登録人数 65
回答数 24
回答率 36.9%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎年度の課題ではあるが、項目番号1（この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか）という設問の平均値が3.71で、かつ評点2以下を付けた学生が12%以上いることが最大の課題である。本授業は、学生には馴染みのない、かつ興味の薄いであろう株式会社制度の基礎を学ぶものである。株式会社は、現代社会において非常に重要な機能を果たしており、また卒業以降には、就職先が官民であるかを問わず非常に身近な問題として接する問題であり、学問領域である。この点については、来年度のシラバスにおいて記すことにより、その重要性を説くが、興味を持ってもらうことは大変困難である。

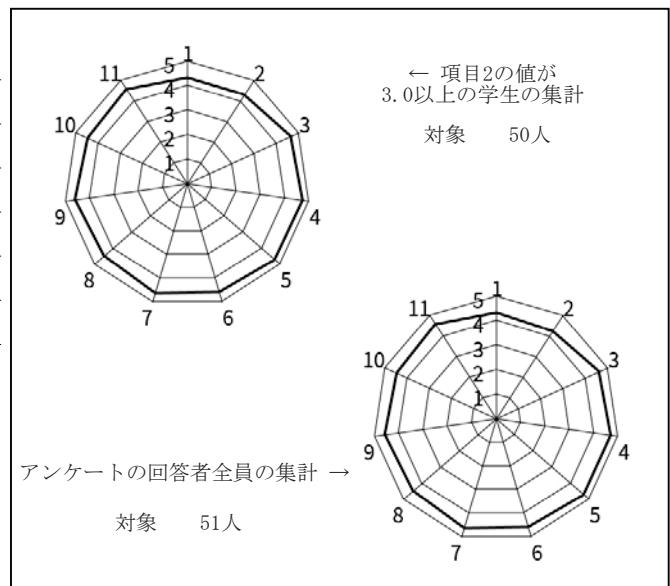
授業内容自体ではあるが、自由意見等から、提供しているレジュメも授業の効果をあげていると思われる。また、自習用に提示している課題についても、授業で学んだことの確認として、有益であったとの意見もあり、来年度も継続していきたい。

本授業評価の評点や自由意見、および定期試験の結果から、本授業での方法（レジュメ、教材等）を含め、当初設定した目標は達成したと考える。

なお、スケジュール管理の不手際から、休講とした授業が2回（連続のため）生じたことがあり、来年度には、このような不手際のないよう、スケジュール管理を徹底していきたい。

2025年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 経済刑法
授業コード 44P01-001
教員名 大山 徹
教員コード 104613
登録人数 214
回答数 51
回答率 23.8%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2025年度第4クオーターの「経済刑法」であるが、「設問項目の1・2」がそれぞれ「4.31、4.25」であった以外、すべて「4.5」を超過しており、教員としては満足に値する学生評価であったように思う。設問項目1は「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」という項目であるが、シラバスで興味を持ってもらえる内容に記載するなど工夫が必要だと感じた。設問項目2は「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」という項目であるが、こちらについても、反省が必要で、授業終了時に質問に来ることを促すなど改善が必要だと肝に銘じた。反面、「設問項目の4・5」はそれぞれ「4.73」という高い評価を頂いた。設問項目4は「授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか」であった。シラバスに従って、授業を展開できたように思うが、そこがプラスに働いたものと考えている。設問項目5は「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」であった。学生の学習進捗度を踏まえて授業展開できたことは良かったように思う。自由記述欄ではパワーポイント資料がカラフルでみにくいという意見、逆にみやすいという意見を頂いた。教室の照明の状況を調整して次年度は鋭意授業改善をしていきたいと考えている。補講を前もって告知して欲しいという意見を頂いた。学生はアルバイトやダブルスクールで多忙で補講日は1か月以上前に告知して欲しいという意見であった。こちらも鋭意改善していきたいと考えている。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	法律学概論
授業コード	44A13-001
教員名	波多江 悟史
教員コード	104941
登録人数	8
回答数	4
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

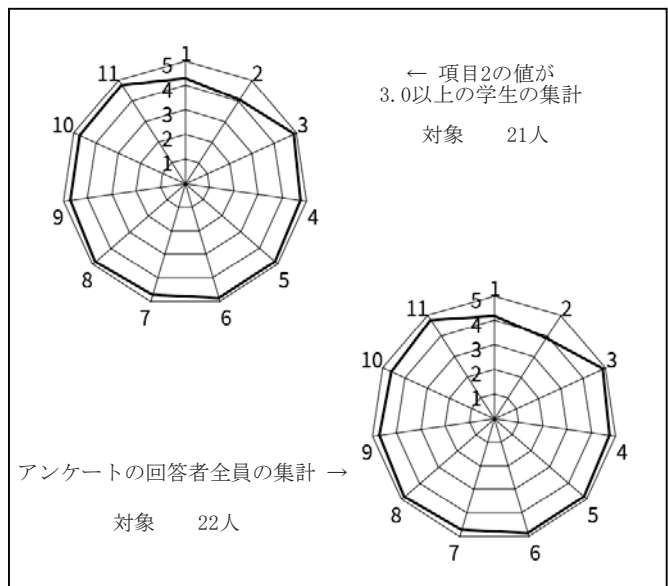
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

一部の学生を除き、出席率も受講態度も極めて悪かった。学生には授業を受講する目的を再確認していただき、大学にも授業を設置する意義を再検討していただきたい。

2025年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	法社会学
授業コード	44B33-001
教員名	久米 一世
教員コード	104942
登録人数	48
回答数	22
回答率	45.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生からの講義評価結果の限りにおいて、本講義は、開講当初に設定していた「法と社会の連動を歴史的な視点から理解できるようになる」という目標を、一定程度達成したものと考えられる。ほぼ全ての評価が4～5の間であった。また自由記述欄には、講義中における文献紹介、担当者の研究内容の説明、学生からの質問に対するフィードバック等について肯定的な回答が得られた。次クォーターへの抱負としては、自由記述欄にあった「メモを取りたいので、もう少しゆっくり話してほしい」という意見を参照に、特に講義のポイントとなるところについては、今まで以上に話すペースを遅くするよう意識したいと考えている。これらの諸点を総合して、概ね当初予定していた通りの講義運営ができたと自己点検・評価している。